群馬県勢多郡富士見村

小原目遺跡

富士見研修団地造成工事に伴う
埋蔵文化財発掘調査報告書

1998

群馬県企業局
富士見研修団地埋蔵文化財発掘調査団
富士見村遺跡調査会
富士見村教育委員会

赤城山遠景（手前、縄文②調査区）

縄文①調査区北西部

縄文①調査区南部

小原目遺跡出土縄文土器

5 号古墳出土直刀

5 号古墳出土鉄鏃・鍔

序

富士見村は古くから養蚕やホウレンソウなどの野菜作り、あるいは酪農を主幹産業とする農業の村で、現在でも農業を中心に村づくりを行っていることに変わりはありません。しかし、すでに養蚕を行っている農家はほとんどなく、水田耕作、畑耕作も土地改良事業等によって、合理化が図られ、農業構造自体が大きく変革しているといえます。近年では特に南寄りの地域においては前橋市のベッドタウンとして宅地開発が活発に行われ、大規模な店舗などの開発も進んでいます。

このような情勢の中、地域の活性化や生活環境の向上を目指して富士見研修団地が計画されました。

富士見研修団地は、約24ヘクタールにも及ぶ広大な区域を対象に計画されました。発掘調査では、この広大な区域に旧石器時代から近世にわたる、様々な時代·性格の遺跡群が検出され、本村の歴史を考える上で欠かすことのできない貴重な成果をあげることができました。旧石器時代の遺跡の本格的な調査は初めてのことであり、縄文時代の集落や古墳群、あるいは平安時代の集落も、これまで富士見村で行った調査の中では最も高標高の区域での調査例となりました。

発掘調査、整理作業を実施するにあたっては、群馬県企業局、群馬県教育委員会文化財保護課をはじめとする様々な機関や関係者の皆様から多大な御指導、御協力をいただきました。また、猛暑、酷寒の中、発掘調査に従事された調査員、作業員の皆様にはたいへんご苦労様でした。心より感謝申しあげます。

最後に、本報告書が多くの方々に活用され、歴史の解明に資することを願って序といたします。

平成１０年　９月

富士見村教育委員会

教育長　　**浅井多津男**

例　言

1．本書は、群馬県勢多郡富士見村大字漆窪(うるくぼ)字北小原目(きたおばらめ)411番地他、大字石井(いしい)中小原目80-1番地他、大字市之木場(いちのきば)字下小原目14-2番地他に所在する富士見研修団地造成工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書である。

2．発掘調査は、群馬県企業局の委託を受けて、群馬県教育委員会文化財保護課·富士見村教育委員会の指導の下、㈱シン技術コンサルが行った。

3．発掘面積は、一次調査が97.883㎡、二次調査が2.517㎡である。

4．発掘調査は、一次調査を平成５年9月16日～平成6年8月1日、同年10月1日～11月7日まで、二次調査を平成9年11月10日～同年12月26日まで実施した。

整理作業は、平成7年4月1日～平成10年3月末日まで実施した。

5．発掘調査の組織は以下の通りである。

事務局　　富士見村教育委員会

調査主任

一次調査　㈱シン技術コンサル　豊原　熙司(平成6年3月退職)

平田　貴正(平成6年4月入職)

二次調査　㈱シン技術コンサル　笠原　仁史

調査員

一次調査　㈱シン技術コンサル　阿部福治·鈴木久裕·松本欣士·渡辺勇吉·山際哲章

宮塚義人·長町章弘·柳　慶一·小林豊和·水出重行

二次調査　㈱シン技術コンサル　鈴木久裕·岡部貴史·小林豊和

6．本書の編集は平田·笠原が行い、執筆分担は以下の通りである。

Ⅰ.　　羽鳥政彦(富士見村教育委員会)

Ⅱ·Ⅲ·Ⅵ.　平田貴正

Ⅲ附編.　　早田勉(古環境研究所)

Ⅳ.　　阿部福治·鈴木久裕

Ⅴ.　**一次調査**　(2)－2·(4)－3は、小山智恵子(㈱シン技術コンサル)

(3)－2は、石川　学　(㈱シン技術コンサル)

他は、平田貴正

二次調査　笠原仁史

一·二次調査の石器観察は、福嶋正史(㈱シン技術コンサル)が担当した。

なお、石器·石製品の石材鑑定は、飯島静男氏にお願いした。

7．発掘調査に従事された方々は、下記の通りである。(順不同、敬称略)

一次調査　茂木ワカ　下田正子　下田あい子　下田真弓　安斉あさ　斉藤ふみ子　八ツ田もと　石田ゆき子　永田玉子　木暮美津江　木暮智代子　木暮美恵子　本山ヤス江　樺澤誠子　樺澤雅江　下田ハルヲ　岡田たね　下田イソ子　中島まさみ　都丸テル子　狩野郁代　石田康枝　塩谷みつ江　塩谷きよ子　林二千子　川田鯛蔵　持田丑夫　樺澤和子　羽鳥節江　中島房雄　田中一郎　羽鳥すみ　高橋公　小山たき江　岡本つる　田島なみ　樺澤せつ子　樺澤あさえ　関口まつ枝　石川よね　木村安一　木村茂子　吉田玉枝　遠藤久子　岡部久美子　佐口奉祭　川西節子　石川つね　片山カツ　栗原弘　古屋道子　柳りん　須永百合江　小暮きく　松島弘　亀井とよ子　福島芳三　小堀一太郎　角田春江

狩野絹子 角田ふじ子 角田はる江 川端登美枝 阿久戸きみ 兵藤フサ子 斉田正美 大森英男
都丸しげ子 狩野シズエ 狩野友子 狩野あさ子 城田里ん子 兵藤カネ子 小暮券太 狩野とし
水科瀬太郎 保坂あき子 糸井キミ子 大野喜久夫 小林とき夫 大福地タイ 吉村敏 浅見喜蔵
小野里百合子 坂尾欣二 栗原理平 清水丈子 毛呂宮子 阿部松三 小此木貞雄 大見山よし
杉山定子 高井良金 田中三郎 中里早夜子 萩原イネ子 茂木和子 関口すみ子 笠原よし子
大熊久子 森宣子 小此木ふじ 遠藤たけ子 中里かつじ 樺澤美枝子

二次調査 荒井春夫 小林勝 長島昭夫 今井要蔵 中島房雄 柴草宮子 須永容子 佐藤悦子 書上いずみ
大野京子 室橋美智子 織間芳江

8．整理作業に従事された方々は、下記の通りである。(順不同、敬称略)
竹本実希子·石井幸子·竹内巳代子·永田せつ子·本多美和子·高橋孝子·堀込智喜·堤由美子·中美志穂子
柴草宮子·須永容子·佐藤悦子·書上いずみ·柴幸代·木嶋裕子·秋元経子·池成花·鈴木澄江·引田有美
桃原園·杉村武明·杉山優子·堀内明子·田口富美子·吉田香織·小田中千津代

9．本書で使用した遺構写真は鈴木·松本·渡辺·岡部·小林·水出·平田が担当した。遺物写真はデジタルカメラを使用して撮影し、鹿内三義(フォト·エージェンシー)がコンピューターにて画像処理、編集した。

10．発掘調査の実施から報告書刊行まで、地元をはじめとし多くの機関·諸氏にお世話になりました。記して、御礼申し上げます。(順不同、敬称略)
群馬県企業局 群馬県教育委員会 富士見村教育委員会 須賀建設 古環境研究所 コクド航測 日測設計
加藤空撮 羽鳥政彦

11．出土遺物(パン箱55箱)、及び資料類は富士見村教育委員会にて保管している。

凡　例

1．本書で使用した調査区番号は、未買地等の問題により、調査時に付したものを変更して使用している。また縄文時代以前、歴史時代以降の調査ごとに調査区番号を付したが、重複を避けるため、縄文時代の調査区のみ頭に「縄文」と付した。

2．本書で使用した遺構番号は、一部を除き発掘調査時に付したものをそのまま使用している。この為、整理作業の時点で欠番が生じた遺構もある。また調査区と同様に、縄文時代に属す遺構には、番号の頭に「縄文」、あるいは「縄」、「J」と付した。

3．一次調査と二次調査で、仕様が多少異なるが、発掘·整理作業の都合によるものである。

4．遺構図の方位は、座標北である。

5．本書中の遺構の縮尺は1/40·1/80·1/100を基本としている。それ以外は、個別に表示した。

6．本書中の遺物の縮尺は1/4を基本としている。それ以外は、個別に表示した。

7．遺構図中の出土遺物·遺物ドットの番号は、掲載遺物の番号と同一である。

8．遺構·遺物図中の貼付スクリーントーンは次の通りである。
粘土範囲 焼土範囲 施釉範囲 油煙範囲

9．遺物観察表の法量は三段組とし、口·底の(　)は口径·底径の復元値、器の(　)は器高遺存値を表す。

10．遺物図版中の遺物縮尺は、1/2·1/3·1/4を基本としている。それ以外については、個別に縮尺を表示した。

目　　次

巻首図版
序
例言·凡例
目次
Ⅰ．発掘調査に至る経緯 …… 1
Ⅱ．遺跡の立地と環境 …… 3
Ⅲ．基本層序(含附編) …… 5
一次調査
Ⅳ．調査の方法と経過 …… 15
Ⅴ．検出された遺構と遺物 …… 19
(1)．旧石器時代 …… 19
(2)．縄文時代 …… 32
1．住居跡 …… 32
2．土　坑 …… 57
3．遺構外の出土遺物 …… 121
(3)．古墳時代 …… 145
1．住居跡 …… 145
2．古　墳 …… 146
(4)．歴史時代 …… 156
1．住居跡 …… 156
2．小鍛冶 …… 183
3．土　坑 …… 186
4．井戸跡 …… 197
5．炭　窯 …… 197
6．溝　跡 …… 205
7．石　垣 …… 222
8．遺構外の出土遺物 …… 224
二次調査
Ⅳ．調査の方法と経過 …… 229
Ⅴ．検出された遺構と遺物 …… 231
(1)．概　要 …… 231
(2)．縄文時代 …… 233
1．土　坑 …… 233
2．ピット …… 233
(3)．歴史時代以降 …… 234
1．住居跡 …… 234
2．炭　窯 …… 243
3．井戸跡 …… 244
4．ピット …… 248
5．溝　跡 …… 250
(4)．遺構外の出土遺物 …… 258
Ⅵ．まとめ …… 261
写真図版

挿　図　目　次

付図 1　小原目遺跡全体図(1/1000)
付図 2　縄文①調査区全体図(1/200)

第 1図　遺跡の位置と周辺の遺跡 …… 2
第 2図　小原目遺跡基本層序 …… 4
第 3図　基本土層柱状図 …… 7
第 4図　テフラ組成ダイヤグラム …… 9

一次調査
第 5図　グリッド網図 ……15
第 6図　小原目遺跡
試掘トレンチ設定図、本調査範囲 ……16
第 7図　旧石器試掘トレンチ設定図、
旧石器出土位置 ……20
第 8図　旧石器出土状況・接合状況図 ……21
第 9図　旧石器時代の石器(1) ……23
第 10図　旧石器時代の石器(2) ……24
第 11図　旧石器時代の石器(3) ……25
第 12図　旧石器時代の石器(4) ……26
第 13図　旧石器時代の石器(5) ……27
第 14図　旧石器時代の石器(6) ……28
第 15図　旧石器時代の石器(7) ……29
第 16図　縄文時代遺構検出状況図 ……30
第 17図　縄文②・⑤調査区遺構検出状況 ……31
第 18図　縄文1・2号住居跡 ……33
第 19図　縄文3・4号住居跡 ……35
第 20図　縄文5号住居 ……36
第 21図　縄文6・7号住居跡 ……38
第 22図　縄文2・4・5号住居跡出土土器 ……42
第 23図　縄文5・6号住居跡出土土器 ……43
第 24図　縄文6号住居跡出土土器 ……45
第 25図　縄文6号住居跡出土土器 ……46
第 26図　縄文6号住居跡出土土器 ……49
第 27図　縄文2・3・4号住居跡出土石器 ……51
第 28図　縄文3・5・6号住居跡出土石器 ……52
第 29図　縄文4・5号住居跡出土石器 ……53
第 30図　縄文5号住居跡出土石器 ……54
第 31図　縄文5・6号住居跡出土石器 ……55
第 32図　縄文6号住居跡出土石器 ……56
第 33図　縄文1～25号土坑 ……58
第 34図　縄文26～50号土坑 ……59
第 35図　縄文51～73・108号土坑 ……60
第 36図　縄文74～100号土坑 ……61
第 37図　縄文101～107・109～128号土坑 ……62
第 38図　縄文129～154号土坑 ……63
第 39図　縄文155～181号土坑 ……64
第 40図　縄文182～208号土坑 ……65
第 41図　縄文209～238号土坑 ……66
第 42図　縄文239～266号土坑 ……67
第 43図　縄文267～295号土坑 ……68
第 44図　縄文296～325号土坑 ……69
第 45図　縄文326～352号土坑 ……70
第 46図　縄文353～381号土坑 ……71
第 47図　縄文382～408号土坑 ……72
第 48図　縄文409～436号土坑 ……73
第 49図　縄文437～465号土坑 ……74
第 50図　縄文466～499号土坑 ……75
第 51図　縄文500～531号土坑 ……76
第 52図　縄文532～551・553・554号土坑 ……77
第 53図　縄文1・7・8・10・11号土坑出土土器 ……107
第 54図　縄文13・15号土坑出土土器 ……109
第 55図　縄文20・26・49・60号土坑出土土器 ……110
第 56図　縄文61・63・92・100・173・186号
土坑出土土器 ……113
第 57図　縄文203・226・242・258・405号
土坑出土土器 ……114
第 58図　縄文437・455・480・483・524号
土坑出土土器 ……116
第 59図　縄文1・100・138・195・207・315・437・
478・480・487号土坑出土石器 ……119
第 60図　縄文464・481号土坑出土石器 ……120
第 61図　遺構外出土縄文土器(1) ……123
第 62図　遺構外出土縄文土器(2) ……124
第 63図　遺構外出土縄文石器(1) ……128
第 64図　遺構外出土縄文石器(2) ……129
第 65図　遺構外出土縄文石器(3) ……130
第 66図　遺構外出土縄文石器(4) ……131
第 67図　遺構外出土縄文石器(5) ……132
第 68図　遺構外出土縄文石器(6) ……133
第 69図　遺構外出土縄文石器(7) ……134
第 70図　遺構外出土縄文石器(8) ……135
第 71図　遺構外出土縄文石器(9) ……136
第 72図　遺構外出土縄文石器(10) ……137
第 73図　遺構外出土縄文石器(11) ……138
第 74図　9号住居跡 ……145
第 75図　1号古墳 ……147
第 76図　2号古墳 ……148
第 77図　3号古墳 ……150
第 78図　4号古墳 ……151
第 79図　5号古墳 ……152
第 80図　2・5号古墳出土遺物 ……155
第 81図　1・2号住居跡 ……157
第 82図　3・4号住居跡 ……158
第 83図　5・6号住居跡 ……160
第 84図　8号住居跡 ……162
第 85図　10号住居跡 ……163
第 86図　11・12号住居跡 ……165
第 87図　13号住居跡 ……167
第 88図　14号住居跡 ……169
第 89図　1・3・4号住居跡出土土器 ……171
第 90図　4・5号住居跡出土土器 ……172
第 91図　5・6・8・10号住居跡出土土器 ……173
第 92図　10号住居跡出土土器 ……174
第 93図　10・11号住居跡出土土器 ……175
第 94図　11号住居跡出土土器 ……176
第 95図　12・13・14号住居跡出土土器 ……177
第 96図　4・8・10・11・13号住居跡出土鉄製品、
13号住居跡出土石製品 ……178
第 97図　1号小鍛冶 ……183
第 98図　1号小鍛冶出土遺物(1) ……184
第 99図　1号小鍛冶出土遺物(2) ……185
第100図　1～13・17～22・24～27号土坑 ……186
第101図　28～52号土坑 ……187
第102図　53～83号土坑 ……188
第103図　85～113号土坑 ……189
第104図　114～145号土坑、1号井戸跡 ……190
第105図　1・2・6・7号炭窯 ……198
第106図　3・4・8号炭窯 ……199
第107図　9・10号炭窯 ……201
第108図　11・12・13号炭窯 ……202
第109図　10号炭窯出土遺物 ……203
第110図　1号溝跡 ……207
第111図　3号溝跡 ……209
第112図　2・4・5・13・15～18号溝跡 ……211

第113図　6～12·19·20号溝跡　……213
第114図　1号溝跡出土遺物(1)　……217
第115図　1号溝跡出土遺物(2)　……218
第116図　3号溝跡出土土器　……219
第117図　3·12号溝跡出土土器　……220
第118図　石垣　……222·223
第119図　遺構外の出土遺物　……224
二次調査
第120図　トレンチ·遺構(旧石器·縄文)配置図　……230
第121図　トレンチ各セクション図　……231
第122図　縄文時代の遺構(土坑·ピット)　……232
第123図　歴史時代の遺構配置図　……235
第124図　1号住居跡(1)　……236
第125図　1号住居跡(2)/出土遺物　……237
第126図　1号住居跡出土遺物(2)　……238
第127図　2号住居跡　……240
第128図　2号住居跡出土遺物　……241
第129図　1号炭窯　……244
第130図　1·2号井戸跡　……245
第131図　1·2号井戸跡出土遺物　……246
第132図　ピット　……249
第133図　溝跡(1)　……251
第134図　溝跡(2)　……252
第135図　溝跡(3)　……255
第136図　溝跡(4)　……256
第137図　溝跡(5)/出土遺物　……257
第138図　遺構外出土遺物分布図　……259
第139図　遺構外出土遺物　……260

Ⅵ.まとめ
第140図　縄文土坑形態別分布図　……262
第141図　古墳石室形態図　……268

表　目　次

第　1表　富士見研修団地遺跡埋蔵文化財
発掘調査団組織表
平成9年度富士見村遺跡調査会組織表　……1
第　2表　基本土層断面の火山ガラス比分析結果　……11
第　3表　基本土層断面の重鉱物組成分析結果　……12
第　4表　屈折率測定結果　……12

一次調査
第　5表　旧石器一覧表　……19
第　6表　縄文5号住居跡柱穴一覧表　……39
第　7表　縄文5号住居跡床下土坑一覧表　……39
第　8表　縄文6号住居跡柱穴一覧表　……39
第　9表　縄文土坑一覧表(1)　……95
第　10表　縄文土坑一覧表(2)　……96
第　11表　縄文土坑一覧表(3)　……97
第　12表　縄文土坑一覧表(4)　……98
第　13表　縄文土坑一覧表(5)　……99
第　14表　縄文土坑一覧表(6)　……100
第　15表　縄文土坑一覧表(7)　……101
第　16表　縄文土坑一覧表(8)　……102
第　17表　縄文土坑一覧表(9)　……103
第　18表　縄文土坑一覧表(10)　……104
第　19表　縄文土坑一覧表(11)　……105
第　20表　縄文土坑一覧表(12)　……106
第　21表　遺構外出土縄文土器一覧表(1)　……121
第　22表　遺構外出土縄文土器一覧表(2)　……122
第　23表　遺構外出土縄文石器一覧表(1)　……139
第　24表　遺構外出土縄文石器一覧表(2)　……140
第　25表　遺構外出土縄文石器一覧表(3)　……141
第　26表　遺構外出土縄文石器一覧表(4)　……142
第　27表　遺構外出土縄文石器一覧表(5)　……143
第　28表　遺構外出土縄文石器一覧表(6)　……144
第　29表　2号古墳出土土器観察表　……153
第　30表　住居跡出土土器観察表(1)　……179
第　31表　住居跡出土土器観察表(2)　……180
第　32表　住居跡出土土器観察表(3)　……181
第　33表　住居跡出土土器観察表(4)　……182
第　34表　1号小鍛冶出土土器観察表　……185
第　35表　土坑一覧表(1)　……194
第　36表　土坑一覧表(2)　……195
第　37表　土坑一覧表(3)　……196
第　38表　溝跡出土土器観察表　……221
第　39表　遺構外の出土土器観察表　……225

二次調査
第　40表　作業経過表　……229
第　41表　ピット(縄文)一覧表　……234
第　42表　1号住居跡出土遺物観察表　……239
第　43表　2号住居跡出土遺物観察表　……242
第　44表　1·2号井戸跡出土遺物観察表　……247
第　45表　ピット一覧表　……248
第　46表　溝跡出土遺物観察表　……257
第　47表　遺構外出土遺物観察表　……260

図　版　目　次

巻首図版

図版1.　赤城山遠景（手前、縄文②調査区）
図版2.　縄文①調査区北西部·南部
図版3.　小原目遺跡出土縄文土器
　　5号古墳出土遺物

一次調査

PL 1.　小原目遺跡調査前全景
PL 2.　基本層序、旧石器試掘トレンチ
　　旧石器検出状況
PL 3.　旧石器検出状況
PL 4.　縄文①調査区全景
PL 5.　縄文①·④調査区
PL 6.　縄文1～5号住居跡
PL 7.　縄文5～7号住居跡
PL 8.　縄文1～10号土坑
PL 9.　縄文11～19号土坑
PL 10.　縄文20～36号土坑
PL 11.　縄文42～59号土坑
PL 12.　縄文60～75号土坑
PL 13.　縄文79～92号土坑
PL 14.　縄文94～109号土坑
PL 15.　縄文114～137号土坑
PL 16.　縄文138～153号土坑
PL 17.　縄文154～178号土坑
PL 18.　縄文183～195号土坑
PL 19.　縄文197～218号土坑
PL 20.　縄文226～242号土坑
PL 21.　縄文243～255号土坑
PL 22.　縄文258～274号土坑
PL 23.　縄文276～297号土坑
PL 24.　縄文300～317号土坑
PL 25.　縄文323～340号土坑
PL 26.　縄文345～363号土坑
PL 27.　縄文367～384号土坑
PL 28.　縄文384～405号土坑
PL 29.　縄文406～422号土坑
PL 30.　縄文424～437号土坑
PL 31.　縄文438～456号土坑
PL 32.　縄文457～474号土坑
PL 33.　縄文478～486号土坑
PL 34.　縄文488～504号土坑
PL 35.　縄文504～521号土坑
PL 36.　縄文522～545号土坑
PL 37.　調査区北東部全景
PL 38.　1号古墳
PL 39.　2号古墳
PL 40.　3号古墳
PL 41.　4号古墳
PL 42.　5号古墳
PL 43.　1～4号住居跡
PL 44.　5·6·8号住居跡
PL 45.　8～11号住居跡
PL 46.　12～14号住居跡
PL 47.　14号住居跡、1号小鍛冶
PL 48.　1·6·16～21号土坑
PL 49.　28～32·35·37·41号土坑
PL 50.　42·43·49·51·52·54·56～59·62号土坑
PL 51.　64·65·68～70·72·74·80·83号土坑
PL 52.　86～91·93·94号土坑
PL 53.　97·98·100·101·103·104·106·110号土坑
PL 54.　111·113～117·119·120号土坑
PL 55.　121·124·126·140～143号土坑、1号井戸跡
PL 56.　1·3～7号炭窯
PL 57.　8～10号炭窯
PL 58.　1～6号溝跡
PL 59.　7～19号溝跡、スナップ
PL 60.　旧石器(1)
PL 61.　旧石器(2)
PL 62.　縄文2·4·5·6号住居跡出土土器
PL 63.　縄文6号住居跡出土土器
PL 64.　縄文2·3·4号住居跡出土石器
PL 65.　縄文3·5·6号住居跡出土石器
PL 66.　縄文5号住居跡出土石器
PL 67.　縄文5·6号住居跡出土石器
PL 68.　縄文1·7·8·10·11·20·26号土坑出土土器
PL 69.　縄文7·8·13·15·20·26号土坑出土土器
PL 70.　縄文49·63·100·173·186·203·226·
　　242·258号土坑出土土器
PL 71.　縄文405·437·455·480·483·
　　524号土坑出土土器
PL 72.　縄文1·138·195·207·315·437·480·
　　487号土坑出土石器
PL 73.　遺構外出土縄文土器
PL 74.　遺構外出土縄文石器(1)
PL 75.　遺構外出土縄文石器(2)
PL 76.　遺構外出土縄文石器(3)
PL 77.　遺構外出土縄文石器(4)
PL 78.　遺構外出土縄文石器(5)
PL 79.　遺構外出土縄文石器(6)
PL 80.　遺構外出土縄文石器(7)
PL 81.　遺構外出土縄文石器(8)
PL 82.　2号古墳出土土器、5号古墳出土鉄製品
PL 83.　1·3～7号住居跡出土土器
PL 84.　8·10·11号住居跡出土土器
PL 85.　12·13号住居跡出土土器、8·13号住居跡
　　出土鉄製品、13号住居跡出土石製品
PL 86.　1号小鍛冶出土遺物
PL 87.　7号炭窯出土土器、10号炭窯出土遺物、
　　1号溝跡出土石製品
PL 88.　3·12号溝跡出土土器、遺構外の出土遺物

二次調査

PL 89.　二次調査区全景
PL 90.　2·5号トレンチ、1·3号土坑、32号ピット
PL 91.　1号住居跡
PL 92.　2号住居跡、1·2号井戸跡
PL 93.　1号炭窯、1～4·8·9·11号溝跡、
　　6·15·25号ピット
PL 94.　作業風景
PL 95.　1号住居跡出土土器
PL 96.　2号住居跡出土遺物
PL 97.　1号井戸跡出土石器、2号井戸跡出土土器
PL 98.　2号井戸跡出土遺物、9·13号溝跡出土土器、
　　遺構外の出土遺物

Ⅰ．発掘調査に至る経緯

富士見村は農業を基幹産業として発展してきたが、近年の社会情勢の変化と都市化の進展により、農業を中心とした産業構造に対して新たな対応策に迫られている。このような状況の中、農･工･住の調和のとれた計画的な土地利用を進め、教育の向上、地域の活性化、生活環境の向上等を計ることを目的として優良企業の研修所を誘致することが計画された。

平成4年2月、富士見村役場総務課企画係より、大字石井字中小原目その他において、群馬県企業局との間で研修団地を誘致する開発計画が進行中である旨通知があり、開発予定地内の埋蔵文化財の所在についての問い合わせがあった。これに対し、村教育委員会では開発予定地内に周知の遺跡が存在しており、埋蔵文化財の保護に関しての調整が必要であると回答した。

平成4年9月、群馬県教育委員会文化財保護課の指導のもとに群馬県企業局、村総務課企画係、村教育委員会の三者で埋蔵文化財への対応を協議した結果、遺跡の範囲や密度、性格を把握するため早急に試掘調査を行うことで合意した。平成5年4月～6月、村教育委員会で一部の未買収区域を除くほぼ全域を対象に試掘調査を行った結果、縄文時代や平安時代の集落、さらには開発予定地を縦･横断する溝や点在する古墳･炭窯跡等を検出した。試掘調査の結果を受け、遺跡の保護について改めて協議を重ねたが、開発計画の変更は困難であると判断されたため、やむを得ず記録保存の措置を講ずることとなった。

本調査は、富士見村教育委員会で独自の調査体制を組むことができないため、調査団を組織して行うこととなった。平成5年8月、群馬県企業局･富士見村役場･㈱シン技術コンサルにより富士見研修団地埋蔵文化財発掘調査団(第1表)を組織し、9月より発掘調査を開始した。**(第１次調査)**

第１次調査の時点で未買収であった区域の取扱いについては、買収後に試掘調査を行い、改めて対応を協議することで合意していた。平成9年10月、村教育委員会で試掘調査を行い、竪穴住居跡･炭窯跡･溝跡等を検出した。同年11月、群馬県教育委員会文化財保護課の指導の下、群馬県企業局と村教育委員会で協議を行った結果、**(第２次調査)**は富士見村遺跡調査会を調査主体として行うこととなり、同月着手した。

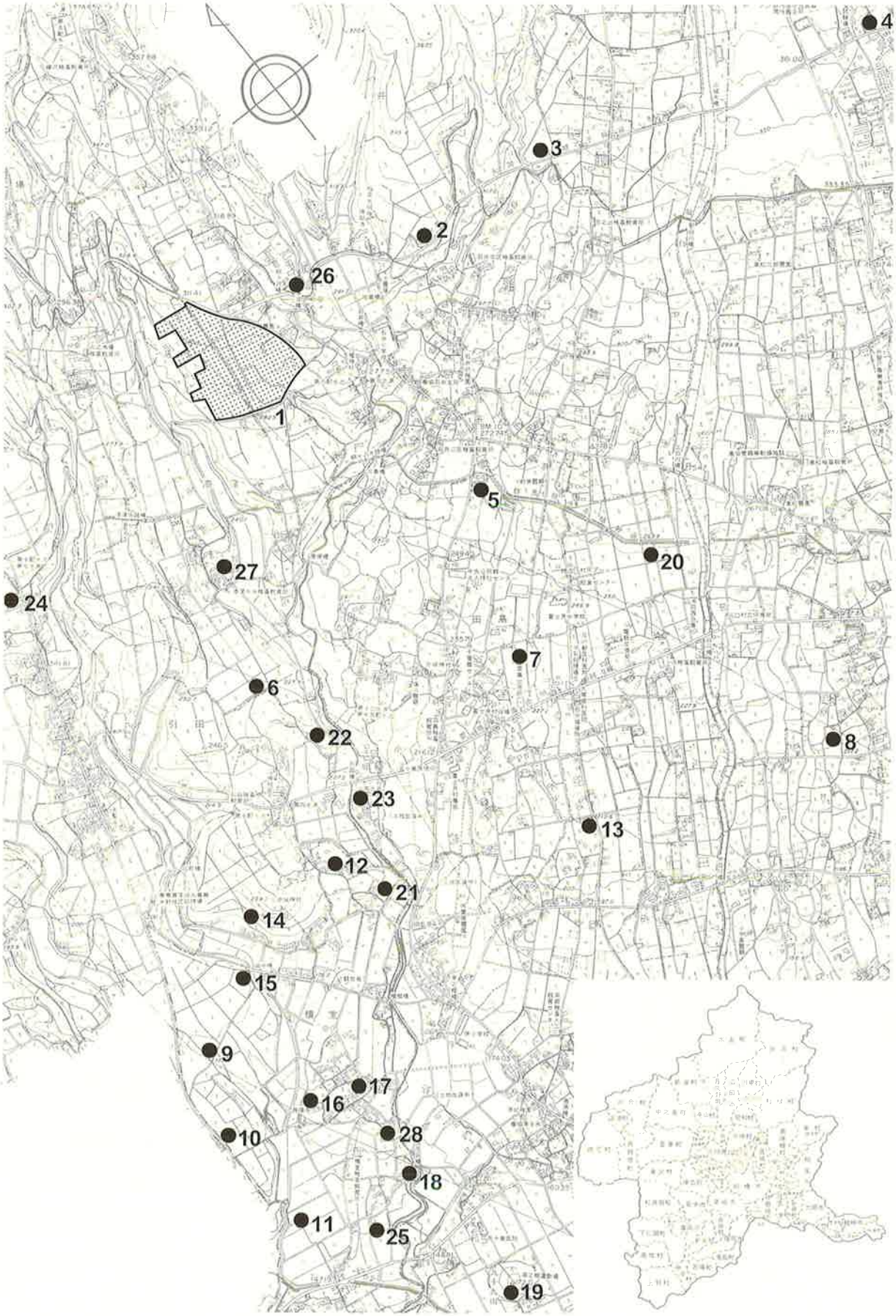
第1表

富士見研修団地埋蔵文化財発掘調査団組織表

団　長	富士見村助役	奈良好太郎
副団長	群馬県企業局長	荻野友三郎
	富士見村教育委員会 教育長	鈴木　清茂
理　事	富士見村教育委員会 社会教育課長	青木　鶴男
	富士見村教育委員会 社会教育係長	椛沢　幹夫
	富士見村教育委員会 文化財担当職員	羽鳥　政彦
	群馬県企業局開発課長	下田　義雄
	群馬県西毛建設総合 事務所長	長井　恒夫
	㈱シン技術コンサル 東京支店長	宮塚　義人
	㈱シン技術コンサル 文化財調査担当	豊原　照司
監　事	勢多中央土地開発公社 富士見事業所職員	大木　茂喜
	群馬県企業局 開発課用地対策室長	大崎　旭

平成9年度　富士見村遺跡調査会組織表

会　長	富士見村教育委員会 教育長	浅井多津男
副会長	富士見村教育委員会 社会教育課長	品川　良治
理　事	富士見村教育委員委員長	船津　月江
監　事	富士見村文化財調査委員 代　表	柳井　久雄
	富士見村教育委員会 社会教育係長	椛沢　幹夫
	富士見村文化財調査委員	狩野　直人
	富士見村教育委員会 学校教育課長	青木　鶴男
事務局員	富士見村教育委員会 社会教育課主査	羽鳥　政彦



第1図　遺跡の位置と周辺の遺跡

Ⅱ．遺跡の立地と環境(第1図)

富士見村は、県庁所在地である前橋市の北、上毛三山の一つ赤城山の南西麓に位置している。赤城山は群馬県のちょうど中央部に屹立する複式死火山で、最高峰の黒檜山(くろびさん)は標高1.828ｍを測る。火口原湖の大沼や火口湖の小沼を有するこの赤城山山頂を含む狭長な村域の富士見村は、標高450ｍ前後の傾斜変換点を境にして、北東部の山岳部と南西部の丘陵性台地とに大きく二分される。山岳部から丘陵部にかけては、赤城白川、あるいは細ヶ沢川･法華沢川等の浸食により谷が形成されており、下流域には沖積地が開けている。**1.小原目遺跡**(以下、**1**)は、この丘陵性台地上に立地しており、標高282～311ｍ程に位置している。

近年、富士見村での発掘調査は増加傾向にあるが、全容を面的に捉えるまでには至っていない。最近の調査事例を含めて概観したい。

旧石器時代の明瞭な足跡はこれまで確認されていなかった。**1**が初の検出となったが、この他にも多くの遺跡が存在するであろうことは、赤城山南麓に位置する近隣市町村の調査事例からも明らかである。

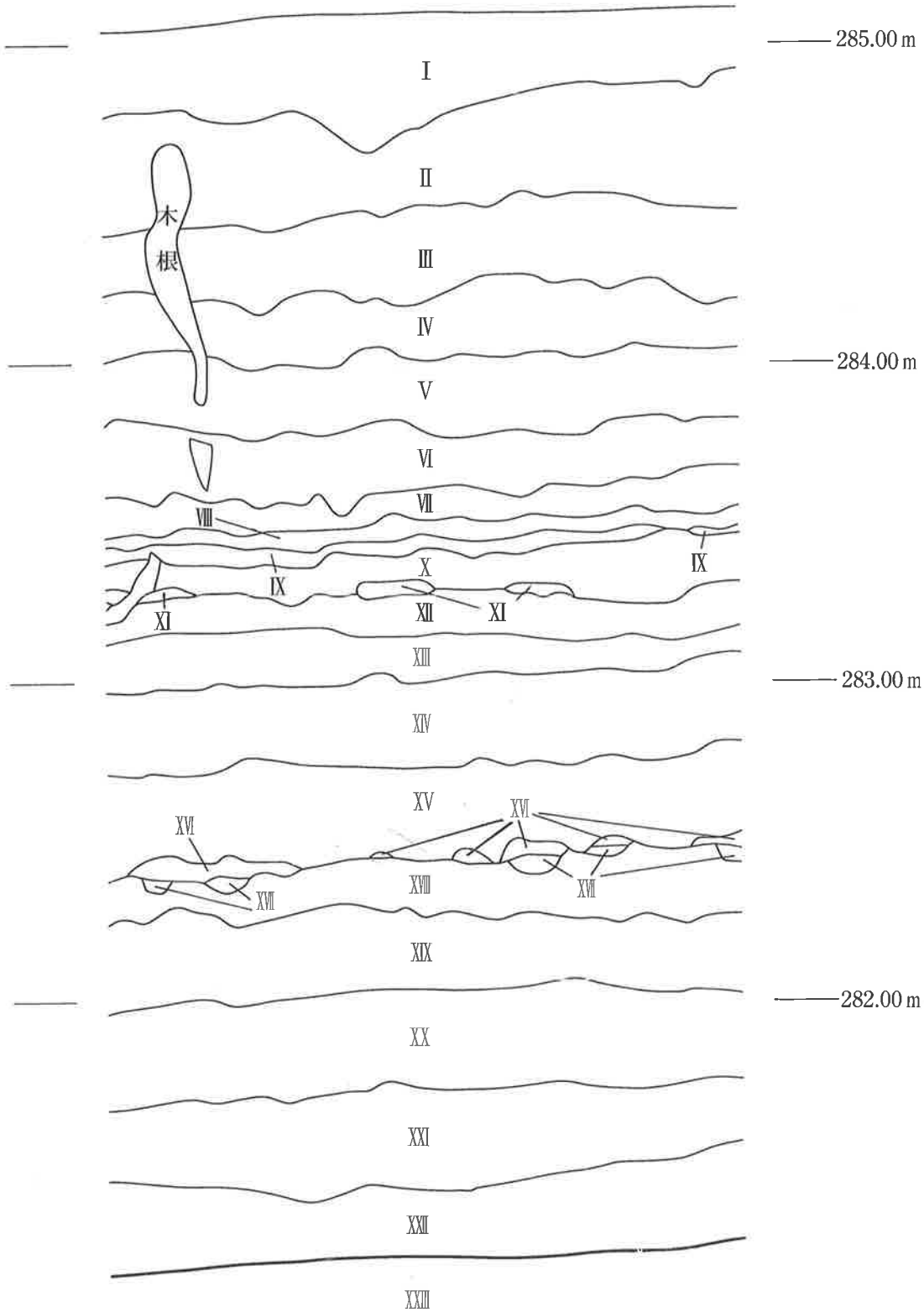
縄文時代の遺跡は、富士見村誌によると60遺跡程を数える。この内、高標高地での発掘調査例として、今回の**1**の他、**2.坂上遺跡･3.石井柴山遺跡･4.小暮東新地遺跡**等がある。各遺跡の調査範囲はさほど広くなく詳細不明であるが、縄文時代の住居跡は確認されておらず、主として同時代の陥し穴が多数検出されている。このことから、標高330～500ｍ付近にかけてが縄文時代の「狩猟域」であったものと推測される。これは、隣接している北橘村や前橋市、さらに宮城村でも同様な様相と言える。**1～4**の高標高域で確認された縄文時代の遺跡の他に、**5.切蓋遺跡･6.宿原遺跡･7.十二遺跡･8.甚太夫遺跡･9.庄司原遺跡･10.陣場遺跡･11.田中田遺跡**等が包蔵地として捉えられている。これらは標高150～250ｍ程に位置しており、「狩猟域」に対して往時の「生活域」であったと考えられる。遺物は早期から晩期に至るまで検出されているが、前･中期が圧倒的である。この遺物に比例するように、確認された遺構は、前･中期に属すもののみである。

1を含めて、本村では弥生時代の遺構は確認されていない。ただ、**11**にて中･後期の遺物が検出されており、遺構の存する可能性が示唆される。

古墳時代の集落と共に、当地における古墳の調査例は少ない。村誌では90基程が報告されているが、耕作等の影響により削平･消失したものが多い。**12.森山古墳(上毛古墳総覧7号、以下総覧番号のみ)･13.鎌塚古墳(総覧15号)･14.初室古墳(総覧7号)･15.庄司原古墳(総覧9号)･16.陣場古墳(総覧12号)･17.横室古墳(総覧13号)･18.荒井古墳(総覧14号)･19.九十九古墳(総覧16号)･20.八幡古墳･21.道上古墳**等は確認されているが、**14**の円墳や**19**の前方後円墳が群馬大学により調査されているのみである。他は未調査の円墳である。**1**では円墳5基を検出しているが、その所属時期は古墳時代終末期に位置付けられる。当地で確認されている古墳の大半が標高150～250ｍ付近に集中している中で、**1**の古墳群は290～300ｍ付近と高標高に位置している。前述した古墳との比高差がそのまま時期差を表している可能性もある。

村内の古墳時代から歴史時代にかけての集落、あるいは包蔵地として**22.三反田遺跡･23.高橋遺跡･24.見眼遺跡･25.岩之下遺跡**等があげられる。いずれも標高150～250ｍ程に位置しており、縄文時代の主たる遺跡と同様の選地と言える。

中世以降では、**26.岡城跡･27.漆窪城跡･28.寄居遺跡**等の城館跡等が確認されている。



第2図　小原目遺跡基本層序

Ⅲ．基本層序(第2図)

本遺跡は赤城山の南麓の緩斜面に位置しており、現況は畑地であった。特に桑の栽培が盛んで、その根は遺構確認面下まで到達しており、調査に大きな支障をきたした。調査区では、桑根や他の農作物による攪乱が顕著であったが、攪乱の比較的少なかった③調査区北西部にて基本土層観察を行い、後述するテフラ分析も依頼実施した。

Ⅰ．	黒褐色土	浅間Ａ軽石(As-A)･浅間Ｂ軽石(As-B)を若干、浅間Ｃ軽石(As-C)･榛名二ツ岳渋川テフラ(Hr-FA)を含む表土層。
Ⅱ．	褐色土	ローム漸移層。
Ⅲ．	明褐色土	浅間－大窪沢第１軽石(As-OP1)、浅間－板鼻黄色軽石(As-YP)小ブロックを含むローム層。
Ⅳ．	黄褐色土	浅間－白糸軽石(As-Sr)を含むローム層。
Ⅴ．	暗黄褐色土	浅間－萩生軽石(As-Hg)を含むローム層。
Ⅵ．	白黄褐色土	ローム層、浅間ＢＰ(As-BP)グループ。
Ⅶ．	淡橙褐色土	ローム層、浅間ＢＰグループ。
Ⅷ．	暗茶褐色土	ローム層、浅間ＢＰグループ。
Ⅸ．	明茶褐色土	ローム層、浅間ＢＰグループ。
Ⅹ．	明茶褐色土	ローム層、浅間ＢＰグループ。
ⅩⅠ．	茶褐色土	ローム層、浅間ＢＰグループ。
ⅩⅡ．	暗黄褐色土	ローム層、浅間ＢＰグループ。浅間－室田軽石(As-MP)含む。
ⅩⅢ．	明茶褐色土	ローム層、浅間ＢＰグループ。下部にガラス片(AT)含む。
ⅩⅣ．	暗茶褐色土	暗色帯（上位にてプレ出土）。
ⅩⅤ．	灰茶褐色土	暗色帯。
ⅩⅥ．	灰層	榛名－八崎火山灰(Hr-HA)層。6層程に細分可能。
ⅩⅦ．	茶褐色土	φ10㎜程の黄色軽石を密に含む。
ⅩⅧ．	明茶褐色土	φ1～3㎜程の灰色岩粒、φ10㎜程の橙色岩粒含む。
ⅩⅨ．	茶褐色土	灰色岩粒含む。
ⅩⅩ．	茶褐色土	φ5～10㎜程の橙色スコリアを疎、灰色岩粒を疎に含む。
ⅩⅩⅠ．	茶褐色土	φ5～10㎜程の橙褐色軽石を疎に含む。
ⅩⅩⅡ．	茶褐色土	青灰色岩粒を疎に含む。
ⅩⅩⅢ．	黄色軽石層	榛名－八崎軽石(Hr-Hp)層。

Ⅲ附編．小原目遺跡の火山灰分析

株式会社　古環境研究所　早田　勉

1．はじめに

小原目遺跡の発掘調査では、良好な火山灰土の断面が認められた。そこで地質調査、テフラ組成分析さらに屈折率測定を合わせて行って、示標テフラの層序を明らかにすることを試みた。調査分析の対象となった地点は、「縄文①調査区基本層序」土層断面(第2図)である。

2．地質層序

（1）調査区基本土層断面

小原目遺跡の基本的な土層が認められた本地点の層序を、柱状図にして第3図に示す。ここでは、黄色軽石層（層厚19cm以上，軽石の最大径37mm，石質岩片の最大径18mm：仮にFk-1と呼ぶ）の上位に、下位より褐色土（層厚51cm)、橙褐色軽石混じり褐色土（層厚31cm，軽石の最大径6mm：Fk-2)、褐色土（層厚23cm)、成層したテフラ層（Fk-3)、灰色石質岩片混じりの灰色がかった暗褐色土（層厚46cm，石質岩片の最大径12mm）が認められる。これらの土層のうち、Fk-3は下位より黄白色細粒火山灰層（層厚４cm)、白色粗粒軽石混じり黄白色細粒軽石層（層厚１cm，軽石の最大径56mm，石質岩片の最大径２mm)、桃色細粒火山灰層（層厚0.4cm)、灰色粗粒火山灰層（層厚２cm）の連続から構成されている。なお最上位の土層は、いわゆる暗色帯とよばれる土層である。

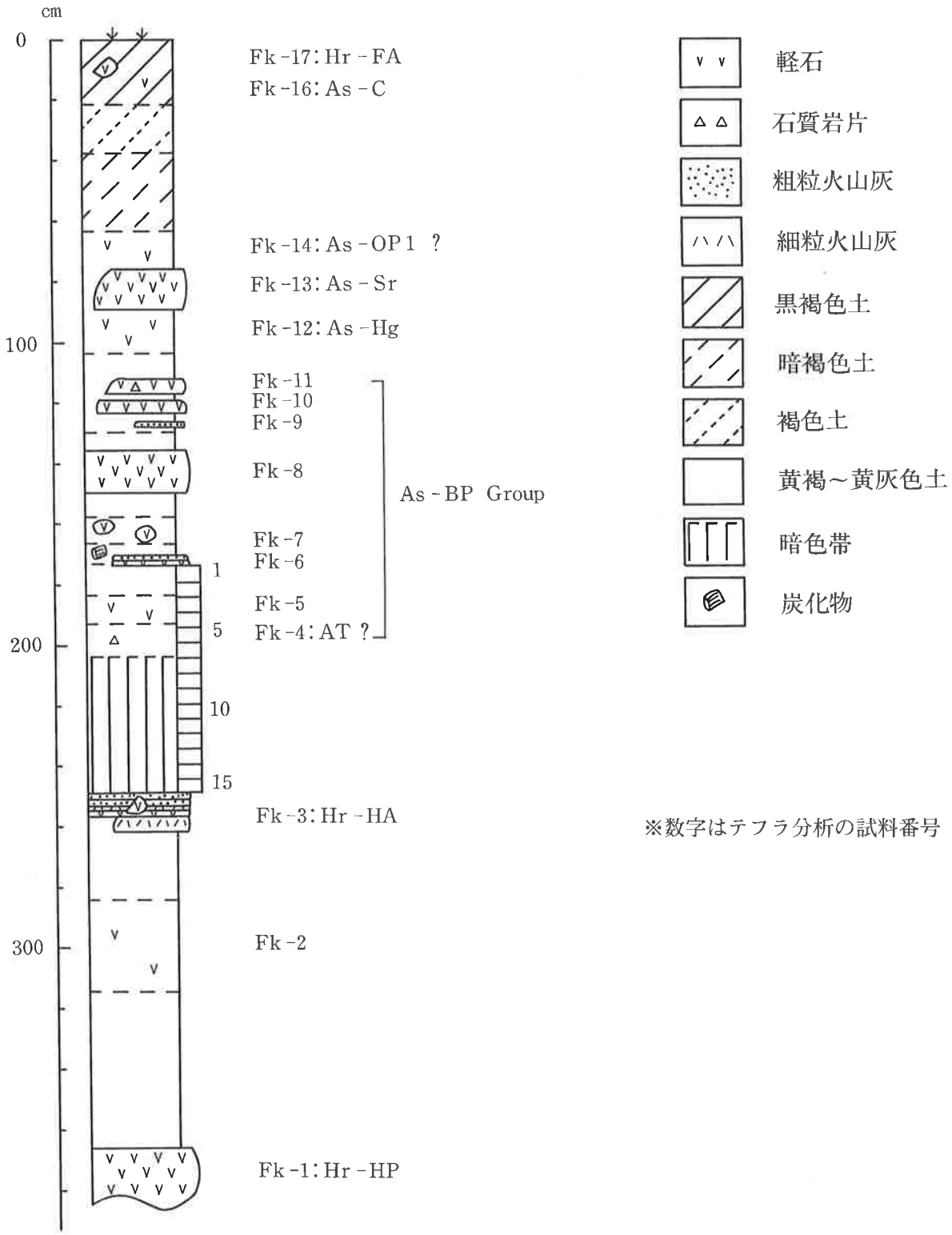
この暗色帯の上位には、灰色石質岩片を少し含む灰褐色土（層厚11cm，後述するように，この層準にFk-4が含まれている)、黄褐色軽石混じり褐色土（層厚9cm，軽石の最大径7mm，Fk-5)、褐色土（層厚10cm)、成層したテフラ層（Fk-6)、炭化物混じり暗灰色土（層厚4cm)、黄色粗粒軽石混じり褐色土（層厚9cm，軽石の最大径16mm：Fk-7)、褐色土（層厚8cm)、暗灰色石質岩片混じり橙色軽石層（層厚14cm，軽石の最大径11mm，石質岩片の最大径3mm：Fk-8)、橙色軽石混じり褐色土（層厚6cm)、褐色土（層厚2cm)、淘汰のよい黄灰色粗粒火山灰層（層厚1cm：Fk-9)、褐色土（層厚0.7cm)、橙色細粒軽石層（層厚5cm，軽石の最大径3mm，石質岩片の最大径2mm：Fk-10)、褐色土（層厚2cm)、暗灰色石質岩片を多く含む橙色軽石層（層厚5cm，軽石の最大径3mm，石質岩片の最大径2mm：Fk-11)、褐色土（層厚9cm)、黄白色軽石混じり褐色土（層厚14cm，軽石の最大径4mm：Fk-12)、黄色軽石層（層厚13cm，軽石の最大径7mm，石質岩片の最大径2mm：Fk-13)、黄色軽石（Fk-14）混じり黄色土（層厚13cm）の連続が認められる。これらのうち成層したFk-6は、下部の黄橙色軽石層（層厚2cm，軽石の最大径7mm，石質岩片の最大径2mm）と上部の黄色細粒軽石層（層厚1cm，軽石の最大径3mm）から構成されている。

さらにその上位にはいわゆる黒ボク土が形成されている。黒ボク土は、下位より暗褐色土（層厚26cm)、褐色土（層厚16cm)、発泡のよい黄色軽石（最大径6mm：Fk-16）と発泡のよくない白色軽石（最大径62mm：Fk-17）混じり黒褐色土から構成されている。

3．テフラ組成

（1）分析試料と分析方法

従来の研究では、関東地方北西部のローム層上部のいわゆる暗色帯中には、南九州の姶良カルデラから約2.2-2.5万年前に噴出した姶良Tn火山灰（AT，町田･新井1976･1992）の降灰層準のあることが知られている


cm
0
100
200
300
Fk-17: Hr-FA
Fk-16: As-C
Fk-14: As-OP1 ?
Fk-13: As-Sr
Fk-12: As-Hg
Fk-11
Fk-10
Fk-9
Fk-8
Fk-7
Fk-6
Fk-5
Fk-4: AT ?
As-BP Group
1
5
10
15
Fk-3: Hr-HA
Fk-2
Fk-1: Hr-HP
軽石
石質岩片
粗粒火山灰
細粒火山灰
黒褐色土
暗褐色土
褐色土
黄褐～黄灰色土
暗色帯
炭化物
※数字はテフラ分析の試料番号

第3図　基本土層柱状図

(たとえば町田·新井1976)。そこで小原目遺跡においても、いわゆる暗色帯について火山ガラス比と重鉱物組成分析を合わせたテフラ組成分析を行い、その降灰層準を求めることにした。分析の手順は次の通りである。

1）試料20gを秤量。

2）超音波洗浄装置により泥分を除去。

3）80°Cで恒温乾燥。

4）分析篩により1/4-1/8mmの粒子を篩別。

5）偏光顕微鏡下で250粒子を観察し、火山ガラスの形態別比率を求める（火山ガラス比分析)。

6）偏光顕微鏡下で重鉱物250粒子を観察し、重鉱物組成を求める（重鉱物組成分析)。

（2）分析結果

テフラ組成分析の結果をダイヤグラムにして第4図に、火山ガラス比分析と重鉱物組成分析の内訳を第2表と第3表に各々示す。火山ガラスでは、試料番号14、12、10に細かい気泡に富む軽石型ガラスが比較的多く認められる。この火山ガラスは、層位や岩相などから、下位のFk-3に由来するものと思われる。また試料番号6には、透明で平板状のいわゆるバブル型ガラスの出現ピーク（26.4%）が認められた。この火山ガラスをFk-4とする。一方重鉱物組成では、試料番号14、12、10、8に角閃石が多く含まれている傾向にある。そして試料番号6より上位で斜方輝石および単斜輝石のいわゆる両輝石の割合が増加する傾向が認められる。試料番号2に含まれる斜方輝石と単斜輝石の割合は、各々56.8%および18.8%である。このことはこれらの層準に浅間火山起源のテフラ粒子の混在していることを示唆する。

4．屈折率測定

（1）測定試料と測定方法

調査区基本土層断面のFk-3（試料番号16）およびFk-4（試料番号6）の2試料について、示標テフラとの同定の精度を向上させるために、位相差法（新井1972）により屈折率の測定を行った。

（2）測定結果

測定結果を第4表に示す。基本土層断面のFk-3（試料番号16）に含まれる斜方輝石の屈折率（γ）は1.709-1.712、角閃石の屈折率（n2）は1.670-1.677である。さらにFk-4の火山ガラスの屈折率（n）は1.498-1.501である。

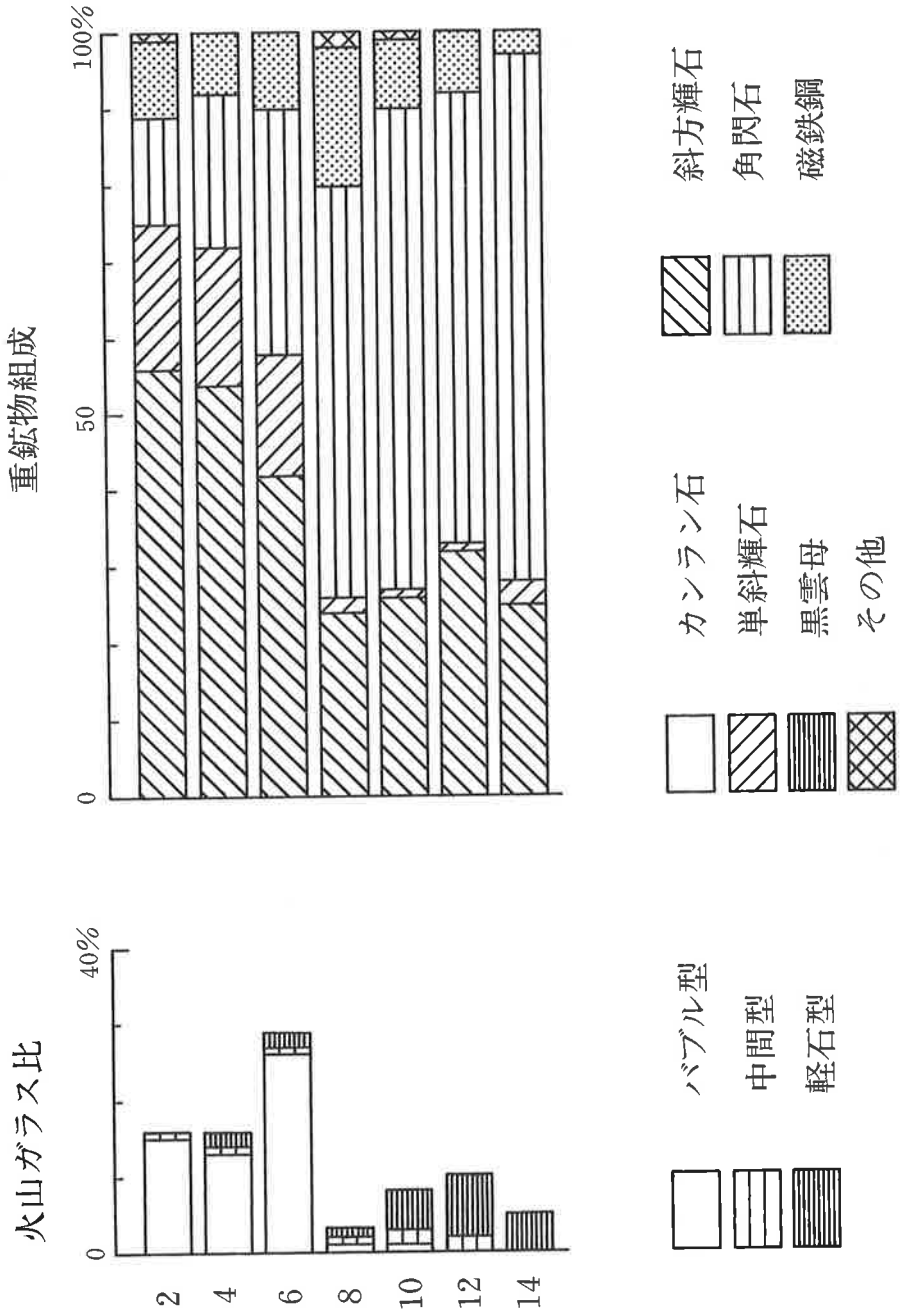
5．考察

地質調査とテフラ組成分析さらに屈折率測定を行った結果、火山灰土中に17層ものテフラ層を検出することができた。

Fk-1　：層相から約4.1-4.4万年前に榛名火山から噴出した榛名ー八崎軽石（Hr-HP，新井1962，鈴木1976，大島1985）に同定される。

Fk-2　：このテフラ層については不明な点が多いが、浅間火山の西方を中心とする地域でよく認められることから、浅間火山を給源とする可能性がある。

Fk-3　：層相および斜方輝石と角閃石の屈折率などから、約3万年前に榛名火山から噴出した榛名ー八崎火山灰（Hr-HA，早田1990）に同定される。このテフラについてはまだ放射年代測定が行われたことはないが、Hr-HPとATとの層位関係からおおよそ3万年前と推定されている（早田1990)。



第4図　テフラ組成ダイヤグラム

Fk-4 ：テフラ組成分析により検出されたテフラである。透明なバブル型ガラスで特徴づけられること、火山ガラスの屈折率などから、ATに由来すると考えられる。

Fk-5 ：層位や岩相などから約1.8-2.1万年前に浅間火山から噴出した浅間－板鼻褐色軽石群（As-BPGroup，新井1962，早田1994）のうちの最下部の室田軽石（As-MP，早田1990）に同定される可能性が大きい。

Fk-6 ：層位や層相などからAs-BPGroupのうちの１層に同定される。

Fk-7 ：層位や層相などからAs-BPGroupのうちの１層に同定される。

Fk-8 ：層位や軽石の岩相などからAs-BPGroupのうちの１層に同定される。

Fk-9 ：層位や層相などからAs-BPGroupのうちの１層に同定される。

Fk-10 ：層位や層相などからAs-BPGroupのうちの１層に同定される。

Fk-11 ：層位や層相などからAs-BPGroupのうちの１層に同定される。

Fk-12 ：あまり発泡のよくない黄白色軽石軽石からなること、浅間－白糸軽石（後述）の直下にあることなどから、このテフラは、浅間－萩生軽石（As-Hg，早田1994）に同定される。この軽石は、雲場火砕流堆積物と一連の噴火で噴出した可能性が考えられる。

Fk-13 ：スポンジ状に細かくよく発泡した軽石からなること、さらに軽石が比較的円い特徴、さらに石質岩片をほとんど含まないこと、火山ガラスと斜方輝石の屈折率などから、このテフラ層は約1.8万年前に浅間火山から噴出した浅間－白糸軽石（As-Sr，町田ほか1984，町田·新井1992，早田1994）に同定される。

Fk-14 ：軽石の岩相、As-Srと浅間－板鼻黄色軽石（後述）の間に層位のあること、さらにテフラの分布などから、この軽石は約1.7万年前に浅間火山から噴出した浅間－大窪沢第１軽石（As-OP1，中沢ほか1984，早田1994）に由来するものと思われる。

Fk-15 ：ローム層最上部付近にあること。不規則によく発泡した黄色軽石からなることなどから、約1.3-1.4万年前に浅間火山から噴出した浅間－板鼻黄色軽石（As-YP，新井1962，町田·新井1992）に同定される。

Fk-16 ：発泡のよい黄色軽石で、斑晶に斜方輝石が認められることなどから４世紀中葉に浅間火山から噴出した浅間Ｃ軽石（As-C，新井1979）に同定される。

Fk-17 ：発泡のよくない白色軽石で、斑晶に角閃石が認められる。このことからこの軽石は、６世紀初頭に榛名火山から噴出した榛名二ツ岳渋川テフラ（Hr-FA，新井1979，坂口1986，早田1989，町田·新井1992)、または６世紀中葉に榛名火山から噴出した榛名二ツ岳伊香保テフラ（Hr-FP，新井1962，坂口1986，早田1989，町田·新井1992）に由来するもの考えられる。とくに発泡のよくないことから、前者の可能性がより大きいと考えられる。

６．まとめ

小原目遺跡において、地質調査とテフラ組成分析さらに屈折率測定を行った結果、いわゆるローム層中に15層、その上位の黒ボク土中に２層の合計17層ものテフラ層を検出することができた。これらのテフラを時間指標として用いることにより、詳細な編年学的な研究を行うことが可能である。

文献）
新井房夫（1962）関東盆地北西部地域の第四紀編年．群馬大学紀要自然科学編10，p.1-79.
新井房夫（1972）斜方輝石·角閃石の屈折率によるテフラの同定ーテフロクロノロジーの基礎的研究．第四紀研究11，p.254-269.
新井房夫（1979）関東地方北西部の縄文時代以降の示標テフラ層．考古学ジャーナルno.157，p.41-52.
町田　洋·新井房夫（1976）広域に分布する火山灰ー姶良Tn火山灰の発見とその意義．科学46，p.339-347.
町田　洋·新井房夫（1992）火山灰アトラス．東京大学出版会，276p.
大島　治（1985）榛名火山．日本の地質「関東地方」編集委員会編「関東地方」，p.221-224.
坂口　一（1986）榛名二ツ岳起源FA·FP層下の土師器と須恵器．群馬県教育委員会編「荒砥北原遺跡·今井神社古墳群·荒砥青柳遺跡」，p.103-119.
早田　勉（1989）6世紀における榛名火山の2回の噴火とその災害．第四紀研究27，p.297-312.
早田　勉（1990）群馬県の自然と風土．群馬県史通史編1，p.39-129.
早田　勉（1994）群馬の示標テフラと自然環境．笠懸野岩宿文化資料館·岩宿フォーラム実行委員会編「群馬の岩宿時代の変遷と特色」，p.20-24.
鈴木正男（1976）過去をさぐる科学．講談社．234p.

第2表　基本土層断面の火山ガラス比分析結果

試料	bw	md	pm	その他	合計
2	37	2	1	210	250
4	33	3	4	210	250
6	66	3	8	173	250
8	2	3	3	242	250
10	2	5	12	231	250
12	0	4	20	226	250
14	0	1	12	237	250

数字は粒子数．bw：バブル型，md：軽石型，pm：中間型．

第3表　基本土層断面の重鉱物組成分析結果

試料	ol	opx	cpx	ho	bi	mt	その他	合計
2	0	142	47	34	0	25	2	250
4	0	135	44	50	0	21	0	250
6	0	106	41	81	0	22	0	250
8	0	61	5	136	0	45	3	250
10	0	66	3	157	0	22	2	250
12	0	81	2	148	0	19	0	250
14	0	63	7	173	0	7	0	250

数字は粒子数．ol：カンラン石，opx：斜方輝石，cpx：単斜輝石，ho：角閃石，bi：黒雲母，mt：磁鉄鉱．

第4表　屈折率測定結果

地点	試料	火山ガラス（n）	斜方輝石（γ）	角閃石（n2）
基本土層	6	1.498-1.501	—	—
	16	—	1.709-1.712	1.670-1.677

測定は、位相差法（新井，1972）による．

一 次 調 査

Ⅳ．調査の方法と経過(第5·6図)

調査区は、富士見村教育委員会が平成５年に実施した試掘調査の結果に基づいて設定された。調査範囲内においては、可能な限り遺構·遺物についての調査を実施することとした。表土除去作業には重機を使用し、調査区中央を南北に走る現道は対象外とした。また、縄文包含層はマス掘りにより確認調査を実施した。旧石器試掘トレンチは、幅2ｍにて10ｍごとに設定した。遺構の作図作業には、図化用ケーブル撮影·ラジヘリによる空撮を多用した。また調査区全域には、国家座標Ⅸ系に基づく25m四方の大グリッドを設定した。同グリッドは東西ラインをアルファベット、南北ラインを算用数字とし、東から西へA·B·C･･･Uまで、南から北へ0·1·2･･･32とした。更に、大グリッドは5m四方の小グリッドで25分割した。この小グリッドは、基準杭の北西部を呼称することとした。

発掘調査時に付した調査区割は、未買収地の存在等で煩雑であった為、整理作業の段階で古墳時代以降を①調査区～⑤調査区、その後の試掘調査に基づく縄文時代以前を①調査区～⑤調査区と修正した。

検出された遺構は、縄文時代·古墳時代·歴史時代に大別されるが、遺構番号の重複を避ける為、縄文時代に属す遺構についてのみ、番号の頭に「縄文」、あるいは「Ｊ」を付した。

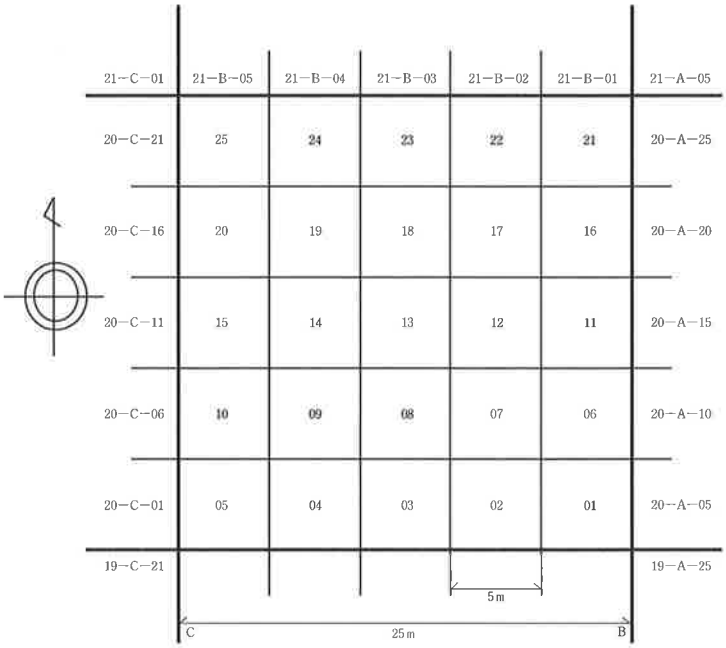
日誌抄

平成5年

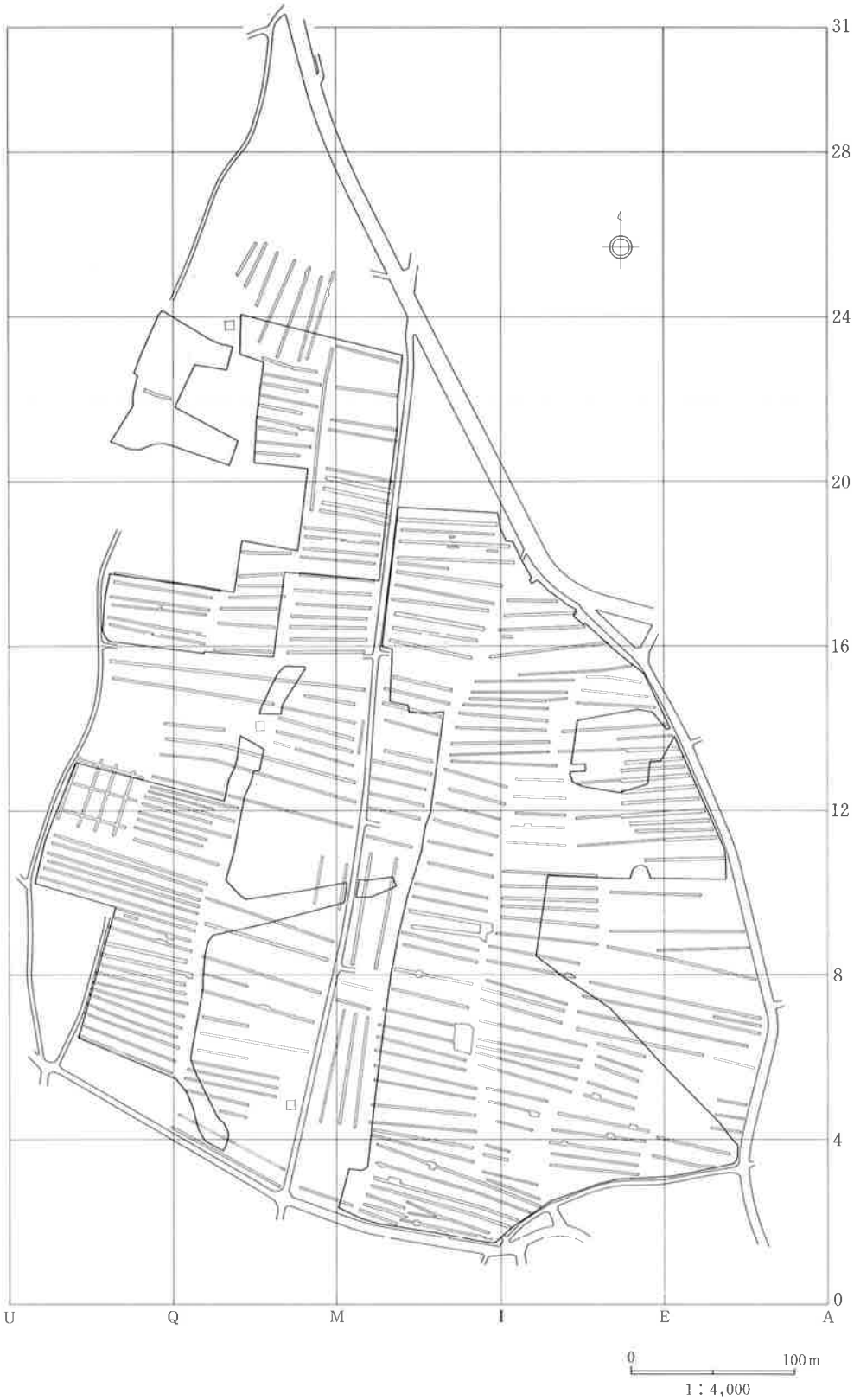
9月中旬　プレハブ設置、電気·電話·水道工事、機材搬入等の準備作業を行う。
16日より、①調査区中央部から重機を使用して表土除去作業を開始する。

9月下旬　表土除去作業を継続。表土除去終了部分より、作業員の参入を得て遺構検出作業を開始する。
①調査区北部にて歴史時代に属す住居跡数軒と溝跡、古墳を検出する。

10月上旬　表土除去·遺構検出作業を継続する。①調査区内の基準点設置作業を行う。①調査区の1～4号住居跡と2·3号溝跡の調査を開始する。



第5図　グリッド網図



第6図　小原目遺跡試掘トレンチ設定図、本調査範囲図

10月中旬　表土除去作業、遺構調査·精査を継続する。グリッド杭設置作業を行う。5·6号住居跡、1·4·5号溝跡の調査を開始する。1～15号土坑·3号住居跡の調査を終了した。

10月下旬　①調査区の表土除去作業を終了した。1号溝跡の延び確認の為、南側に拡張して表土除去作業を継続する。1号古墳の調査を開始。16～22号土坑調査。2～5号溝跡の調査を終了した。
21日、富士見村立石井小学校の生徒約40名が現場を見学。

11月上旬　①調査区南部の表土除去作業、同北部の遺構調査·精査を継続する。2号古墳、1号井戸跡の調査を開始する。1·4号住居跡の調査を終了した。

11月中旬　①調査区南部全域の表土除去作業を開始する。3号古墳、6～8号溝跡の調査を開始する。15日、セスナによる①調査区全体の空撮を実施。

11月下旬　①調査区の表土除去作業を継続。遺構調査·精査を継続して行う。9·10号住居跡、4·5号古墳、1·3～5号炭窯、1号土坑の調査を開始する。1号井戸跡の調査を終了した。

12月上旬　①調査区の表土除去作業、遺構調査·精査を継続する。5号古墳、9～12号溝跡の調査を開始する。2·5·6号住居跡の調査を終了した。

12月中旬　①調査区の表土除去作業、遺構調査·精査を継続する。①調査区南部のグリッド杭設置作業を行う。10号住居跡、1号炭窯、1号土坑、1·9·10号溝跡の調査を終了した。

12月下旬　①調査区の表土除去作業、遺構調査·精査を継続する。正月休みに入る為、現場内の安全対策、機材整理を行い、23日をもって平成5年の作業を終了した。

平成6年

1月上旬　6日から現場作業を再開する。7日に調査区南の地主さんより砂塵の苦情を受け、関係者間で対策を協議し、砂防ネットを設置する事になった。

1月中旬　10日から遺構調査·精査を再開する。①調査区南東部のグリッド杭設置作業を行う。6·7·8·11·12号溝跡の調査を終了した。

1月下旬　①調査区の表土除去作業を終了し、新たに②調査区の表土除去作業を開始する。13～16号溝跡の調査を開始する。23～55号土坑調査。29日積雪の為、現場作業中止。

2月上旬　②調査区の表土除去作業、①調査区の遺構調査·精査を継続する。17号溝跡の調査を開始する。56～105号土坑の調査。9号住居跡、13～16号溝跡の調査を終了した。

2月中旬　②調査区の表土除去作業、同調査区の遺構調査·精査を開始する。①調査区南部の縄文遺構の確認調査終了。①調査区南東部の縄文遺構の確認調査を開始する。②調査区のグリッド杭設置作業を行う。17号溝跡の調査を終了した。12·14·15日は積雪の為、現場作業を中止。

2月下旬　②調査区の表土除去作業を終了した部分より、遺構検出作業を開始する。①調査区北部にて縄文遺構の確認調査を開始する。106～128号土坑調査。①調査区南東部の縄文遺構調査を終了。22日、強風雪の為現場作業中止となる。

3月上旬　②調査区の表土除去作業を継続する。遺構調査·精査も継続する。2号炭窯の調査を開始する。129～138号土坑調査。②調査区にてグリッド杭設置作業を行う。

3月中旬　②調査区の表土除去作業を終了し、③調査区の表土除去作業を開始する。①調査区·②調査区の遺構調査を継続する。8·11·12号住居跡、6号炭窯の調査を開始する。2号炭窯の調査を終了。

3月下旬　③調査区の表土除去作業、①調査区·②調査区の遺構調査を継続する。139号土坑、6号炭窯の調査を終了した。

4月上旬　調査主任移動。③調査区表土除去作業、遺構調査·精査を継続する。18·19号溝跡の調査を開始する。140～143号土坑調査。③調査区表土除去終了部分から、遺構検出作業を開始する。

4月中旬　③調査区表土除去作業、遺構調査·精査を継続する。③調査区の表土除去終了後、④調査区の表土除去作業を開始する。③調査区東部の3号溝の調査を開始する。1·2·5号古墳の調査を終了。

4月下旬　④調査区の表土除去終了後、継続して縄文①調査区(③調査区と重複)の表土除去作業を北西部から開始する。③調査区の遺構調査·精査を継続する。縄文①調査区グリッド杭設置作業を行う。③調査区3·4号古墳の調査を終了した。

5月上旬　６日から表土除去作業、遺構調査·精査を再開するとともに、④調査区縄文遺構の検出作業を開始する。13～15号住居跡、8号炭窯、20号溝跡の調査を開始する。8·11·12号住居跡の調査終了。

5月中旬　縄文①調査区北西部の縄文遺構の検出作業と調査を開始する。③調査区7～9号炭窯の調査を開始する。縄文1·2号土坑調査。14日に3·18～20号溝跡の図化用のラジヘリ空撮を実施し、②調査区南西部の調査を全て終了した。20日、縄文①調査区基本層序のサンプリングを実施する。

5月下旬　②調査区南部の表土除去終了。引き続き、買収の終了した②調査区北部の表土除去作業を開始する。遺構調査·精査を継続する。縄文1～3号住居跡の調査を開始する。縄文３～72号土坑調査。縄文①調査区のグリッド杭設置。7～9号炭窯の調査を終了し、③調査区東部の調査を全て終了した。28日、富士見村立石井小学校生徒約40名が現場を見学。

6月上旬　②調査区北部の表土除去終了。同調査区の遺構検出作業、調査を開始する。縄文4号住居跡、③調査区10号炭窯の調査を開始する。縄文73～183号土坑調査。

6月中旬　縄文①調査区の遺構検出作業、調査を継続。同調査区のグリッド杭設置作業を行う。縄文7号住居跡の調査を開始する。縄文184～214号土坑調査。

6月下旬　縄文①調査区の遺構調査·精査を継続する。縄文5·6号住居跡の調査を開始する。縄文215～290号土坑調査、③調査区13～15号住居跡·10号炭窯、縄文①調査区縄文1～4号住居跡の調査を終了した。調査終了と共に、③調査区中央部の縄文遺構検出作業を重機を使用して開始する。

7月上旬　縄文①調査区の遺構検出作業と調査·精査を継続する。縄文291～411号土坑の調査。3日にセスナによる図化用空撮を実施。4日から縄文遺構調査終了部よりプレ試掘を開始する。

7月中旬　縄文①調査区の遺構検出作業と同調査·精査、及びプレ試掘を継続する。縄文412～541号土坑の調査を開始する。

7月下旬　縄文①調査区遺構調査·精査、及びプレ試掘を継続する。西部にて旧石器確認。周囲を拡張する。縄文542～545号土坑、縄文5·6号住居跡の調査を終了。22日、同調査区南部の縄文遺構図化用空撮をラジヘリにて実施。縄文時代の遺構調査全て終了。プレ試掘トレンチの埋め戻しを開始。

8月上旬　1日、縄文①調査区のプレ本調査を全て終了した。⑤調査区の未買収地が解決した為、３日から桑根抜根·表土除去作業を開始したが、買収地に新たな問題が生じた為、9日にて作業を中断。

10月上旬　⑤調査区の問題解決に伴い、1日から表土除去作業を再開する。5日から作業員の参入を得て、遺構精査を行い、3号溝跡の延びと炭窯を検出する。3号溝跡の調査を開始する。

10月中旬　3号溝跡の調査を継続する。

10月下旬　3号溝跡、11·12·13号炭窯の調査を継続し、3号溝跡の調査を終了する。

11月上旬　11·12·13号炭窯の調査継続。11月7日に全ての調査を終了した。

(阿部·鈴木)

Ⅴ．検出された遺構と遺物

（1）．旧石器時代(第7～15図、第5表、PL2·3)

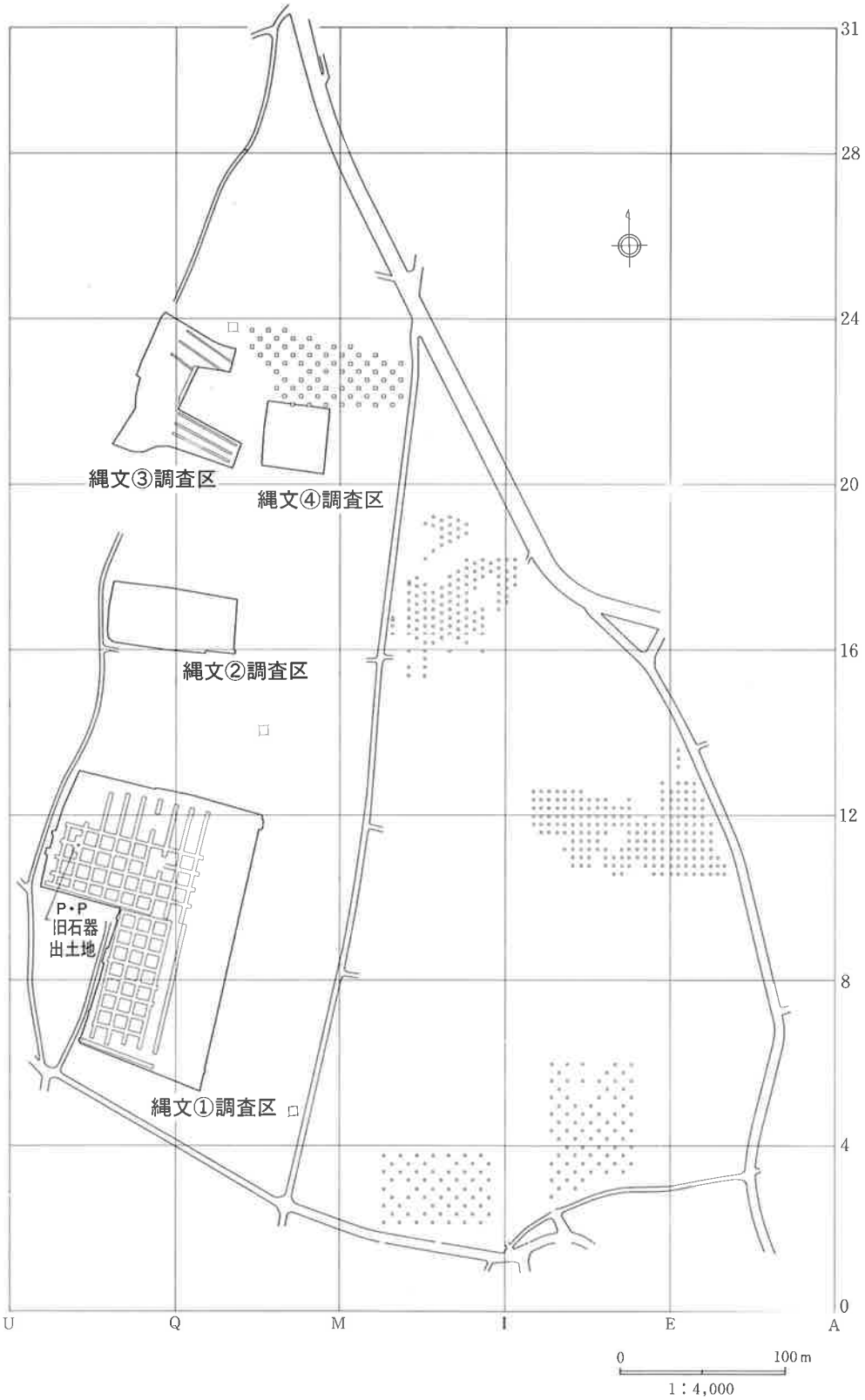
旧石器の試掘調査は、縄文時代の遺構調査終了部分からを開始した。試掘トレンチは、幅2ｍで重機を使用して掘削した。遺物検出部分のみ、人力によりトレンチを拡張して本調査を実施した。遺物の集中は認められたものの、明瞭な遺構は検出されなかった。

旧石器遺物確認のためのトレンチからはコンテナ2箱程度の遺物が出土しているが、図示し得たのは1～44までである。1～44はすべて黒色安山岩を石材とした剥片である。

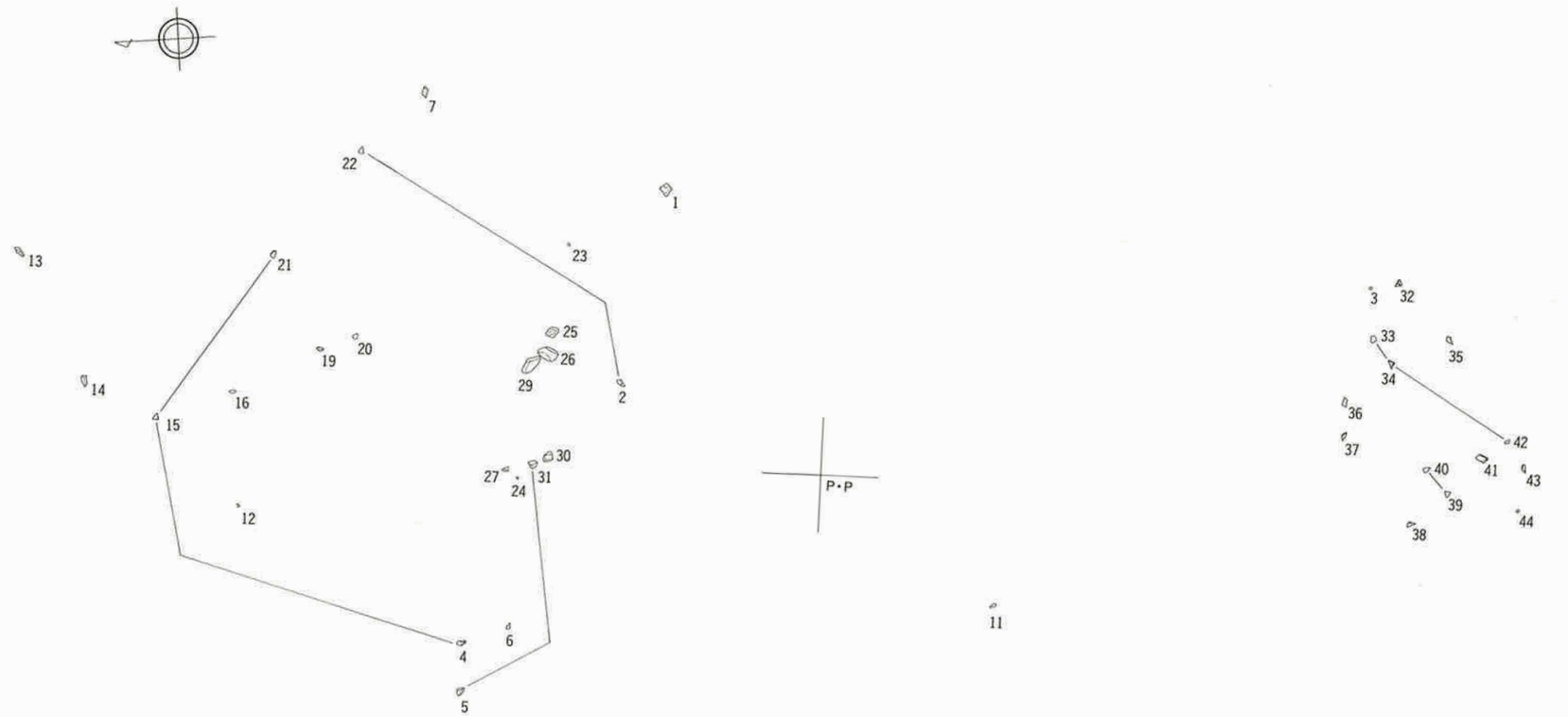
接合資料である(39＋40)～(33＋34＋42)も同じ黒色安山岩である。色調、自然面の荒れ具合、粒子などを肉眼で観察した限りでは、すべて同一母岩から剥離されたものである可能性が高い。使用されたと思われるツールは検出されなかった。9·12·36はその他の石材を使用した剥片である。これらにも使用の痕跡はない。7·25·26·29は安山岩系の礫である。26の一部に被熱した可能性のある変色部が認められるが、全体に加工、または使用された痕跡は不明瞭である。

第5表　旧石器一覧表(単位：cm、ｇ)

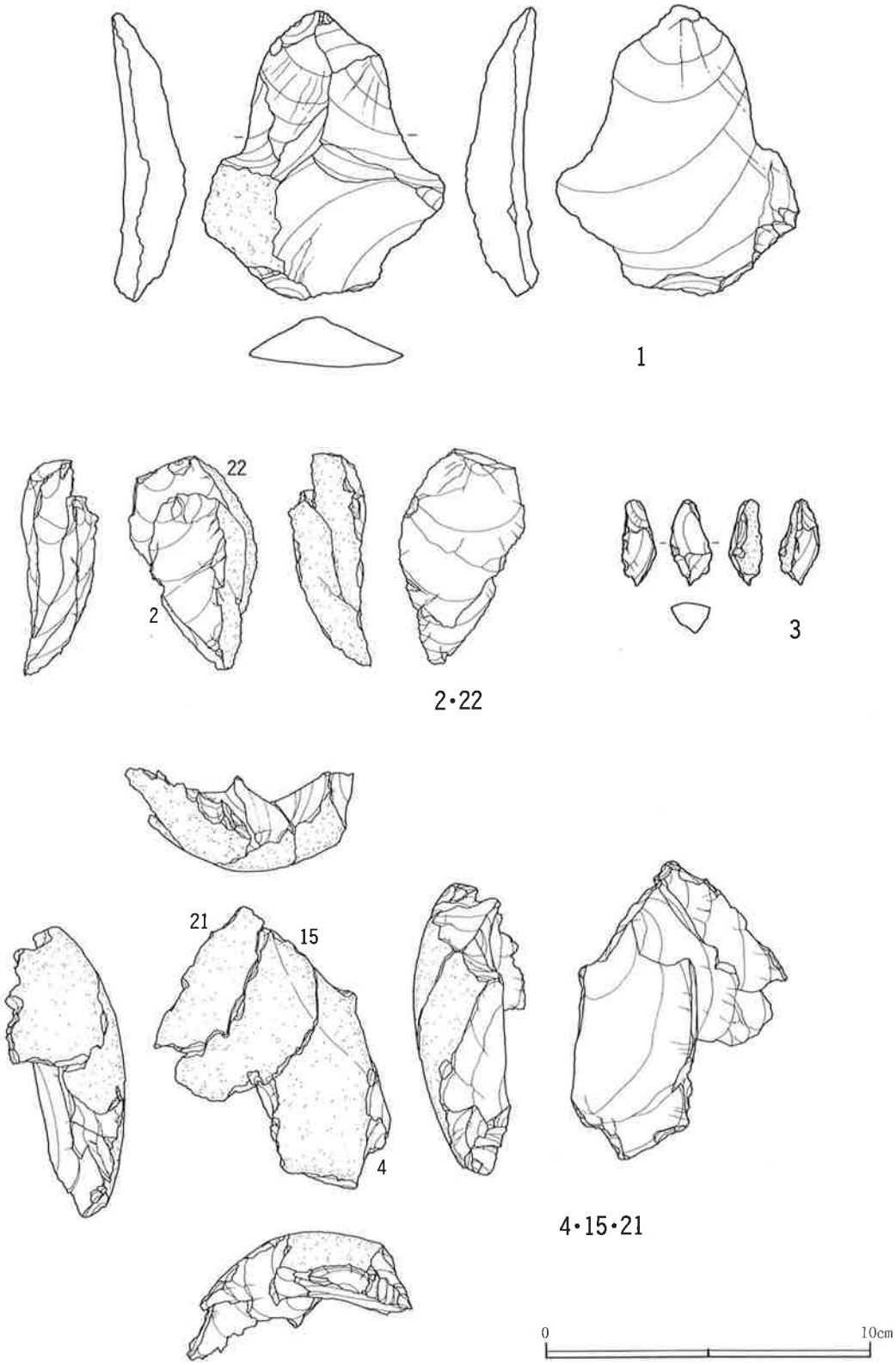
番号	器　種	石　　材	長	幅	厚	重	接　合	番号	器　種	石　　材	長	幅	厚	重	接　合
1	剥片	黒色安山岩	8.8	7.4	1.8	91.4		23	剥片	黒色安山岩	1.9	0.9	0.4	0.5	
2	剥片	黒色安山岩	6.6	3.8	2.3		+22	24	剥片	黒色安山岩	1.9	1.6	0.5	1.6	
3	剥片	黒色安山岩	2.7	1.2	1.0	2.4		25	自然石	粗粒輝石安山岩	7.0	6.2	5.1	253.5	
4	剥片	黒色安山岩	7.2	4.2	2.8		+15+21	26	自然石	粗粒輝石安山岩	12.8	7.5	5.5	415.7	
5	剥片	黒色安山岩	4.6	6.0	1.0		+31	27	剥片	黒色安山岩	3.8	2.6	0.9	8.6	
6	剥片	黒色安山岩	4.1	2.5	1.0	7.9		28	剥片	黒色安山岩	1.1	1.7	0.4	0.3	
7	自然石	粗粒輝石安山岩	5.0	4.5	1.9	57.0		29	自然石	粗粒輝石安山岩	15.5	5.5	6.7	450.1	
8	剥片	黒色安山岩	4.0	2.8	0.9	6.7		30	剥片	黒色安山岩	8.3	4.5	1.3	44.9	
9	剥片	黒色頁岩	13.2	9.7	2.1	222.9		31	剥片	黒色安山岩	7.2	5.3	2.3		+5
10	剥片	黒色安山岩	2.5	2.1	1.8	4.1		32	剥片	黒色安山岩	4.0	4.0	0.9	12.2	
11	剥片	黒色安山岩	3.2	1.0	0.5	1.3		33	剥片	黒色安山岩					+34+42
12	剥片	珪質頁岩	4.9	2.8	1.5	15.5		34	剥片	黒色安山岩					+33+42
13	剥片	黒色安山岩	6.3	4.0	2.0	43.5		35	剥片	黒色安山岩	3.9	3.6	1.6	19.3	
14	剥片	黒色安山岩	6.9	3.5	1.0	23.1		36	剥片	チャート	4.6	2.9	1.1	12.4	
15	剥片	黒色安山岩					+4+21	37	剥片	黒色安山岩	5.8	3.5	0.7	11.7	
16	剥片	黒色安山岩	4.2	2.2	1.0	7.0		38	剥片	黒色安山岩	2.4	2.8	0.4	2.8	
17	剥片	黒色安山岩	3.5	2.6	1.2	9.9		39	剥片	黒色安山岩	5.0	3.5	1.1		+40
18	剥片	黒色安山岩	4.2	2.5	0.9	8.1		40	剥片	黒色安山岩	3.6	5.1	1.2		+39
19	剥片	黒色安山岩	3.2	1.7	0.9			41	剥片	黒色安山岩	4.9	8.8	3.4	141.8	
20	剥片	黒色安山岩	2.8	3.5	1.2	6.1		42	剥片	黒色安山岩					+33+34
21	剥片	黒色安山岩					+4+15	43	剥片	黒色安山岩	4.1	3.1	1.1	16.2	
22	剥片	黒色安山岩					+2	44	剥片	黒色安山岩	2.6	2.0	1.0	5.0	



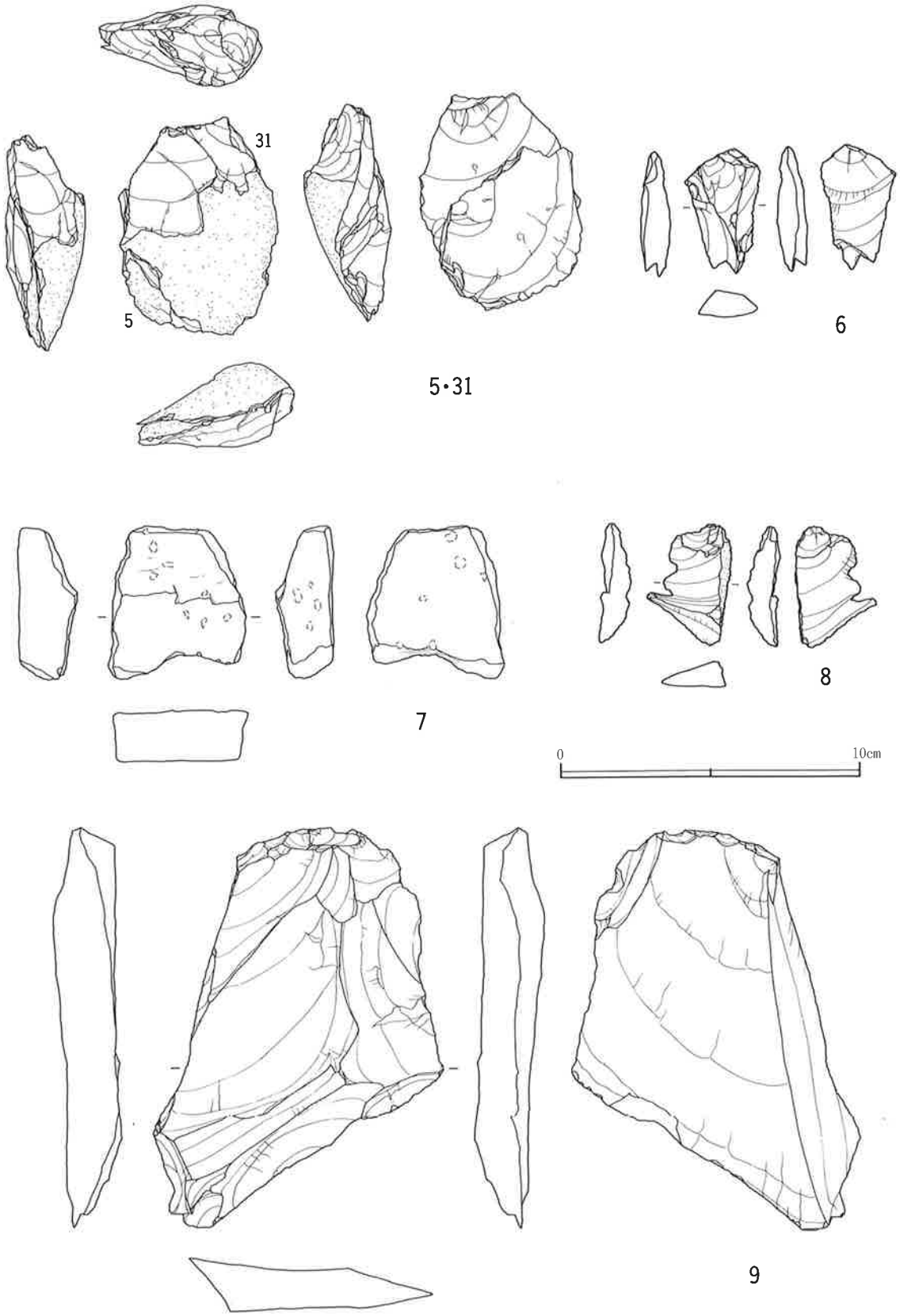
第7図　旧石器試掘トレンチ設定図、旧石器出土位置図



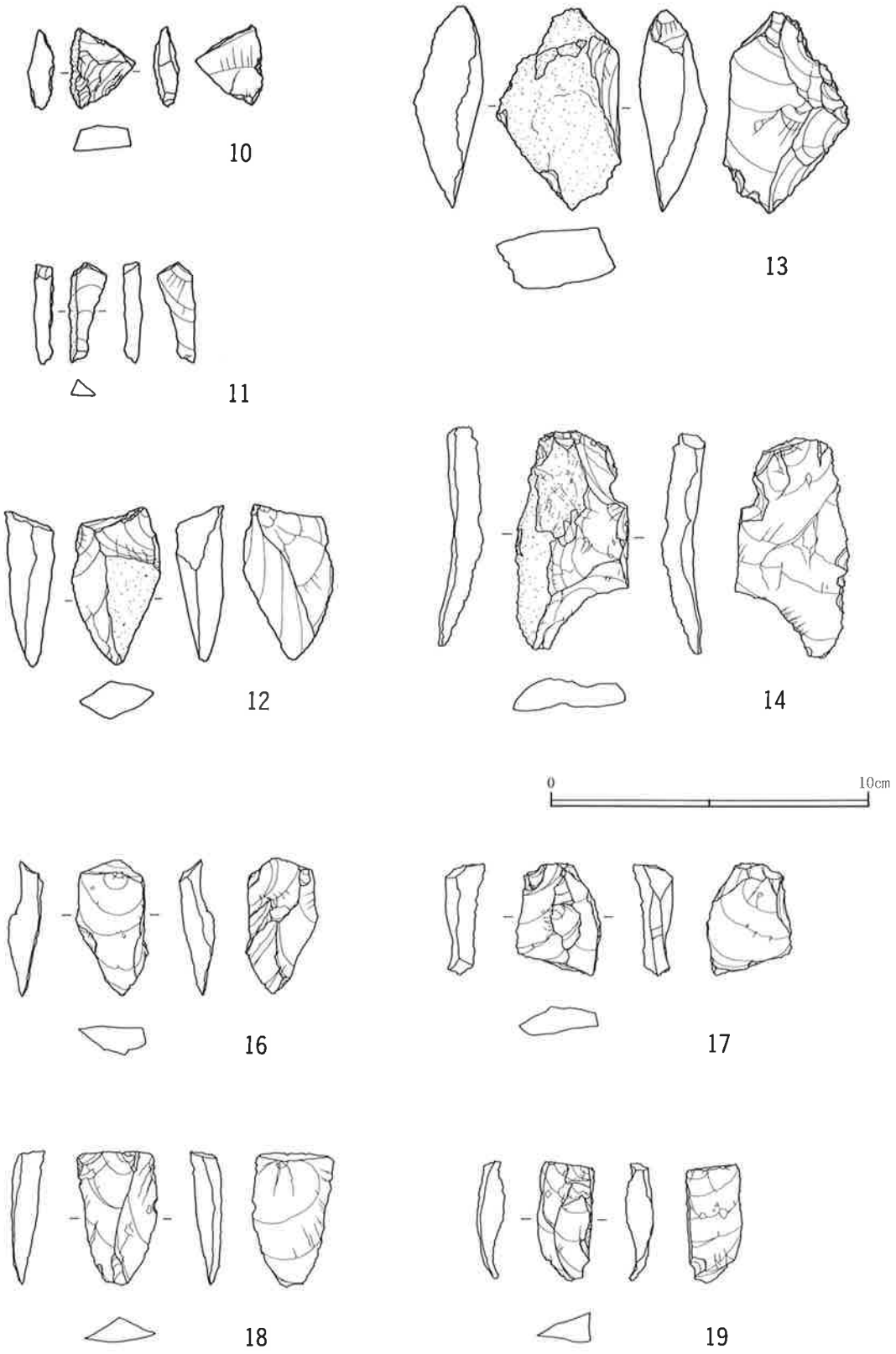
第8図　旧石器出土状況·接合状況図



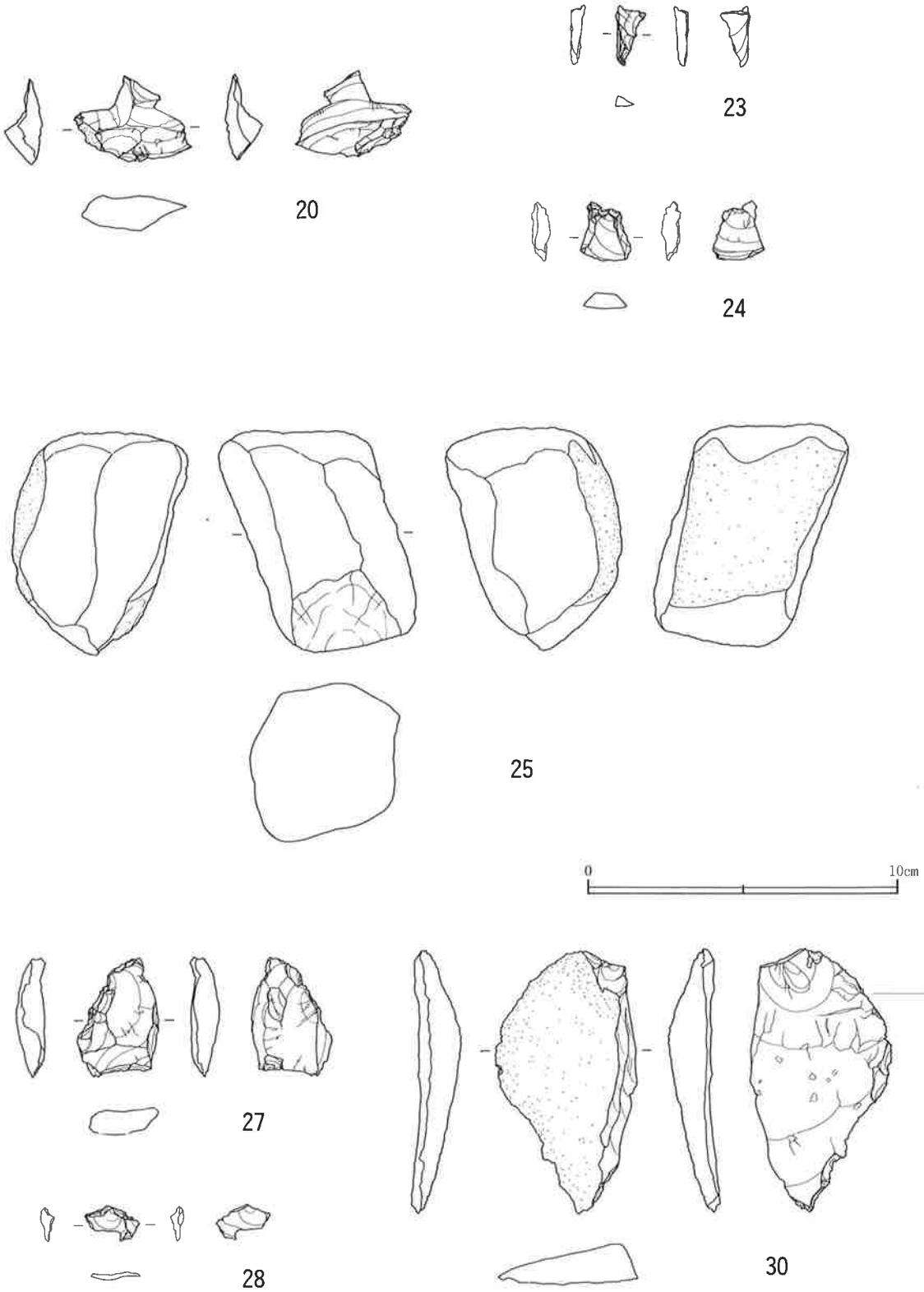
第9図　旧石器時代の石器(1)



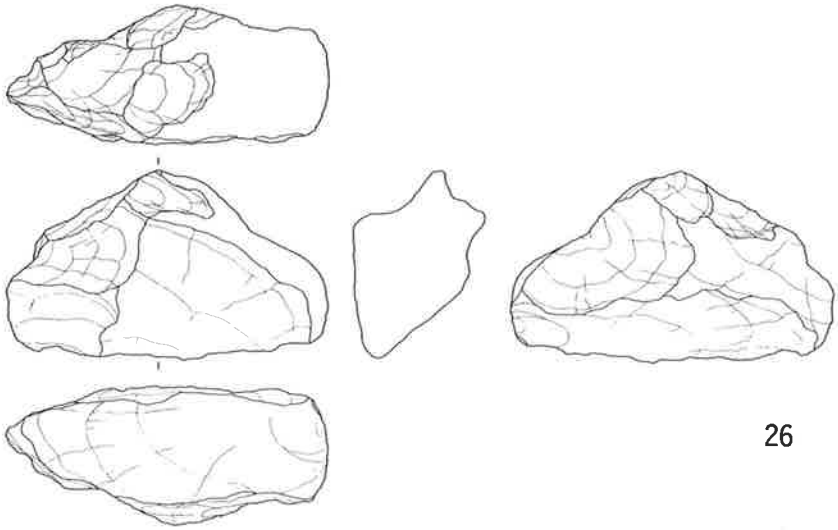
第10図　旧石器時代の石器(2)

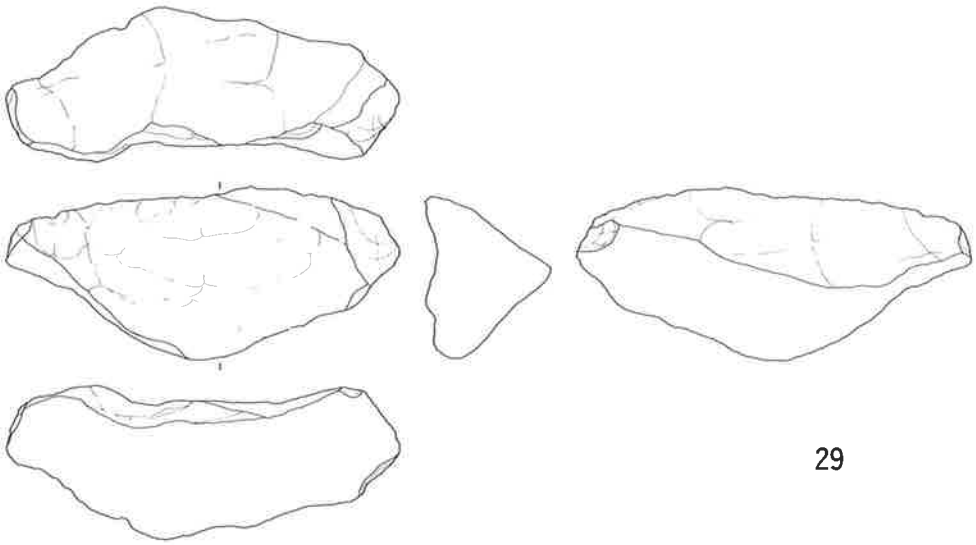


第11図　旧石器時代の石器(3)

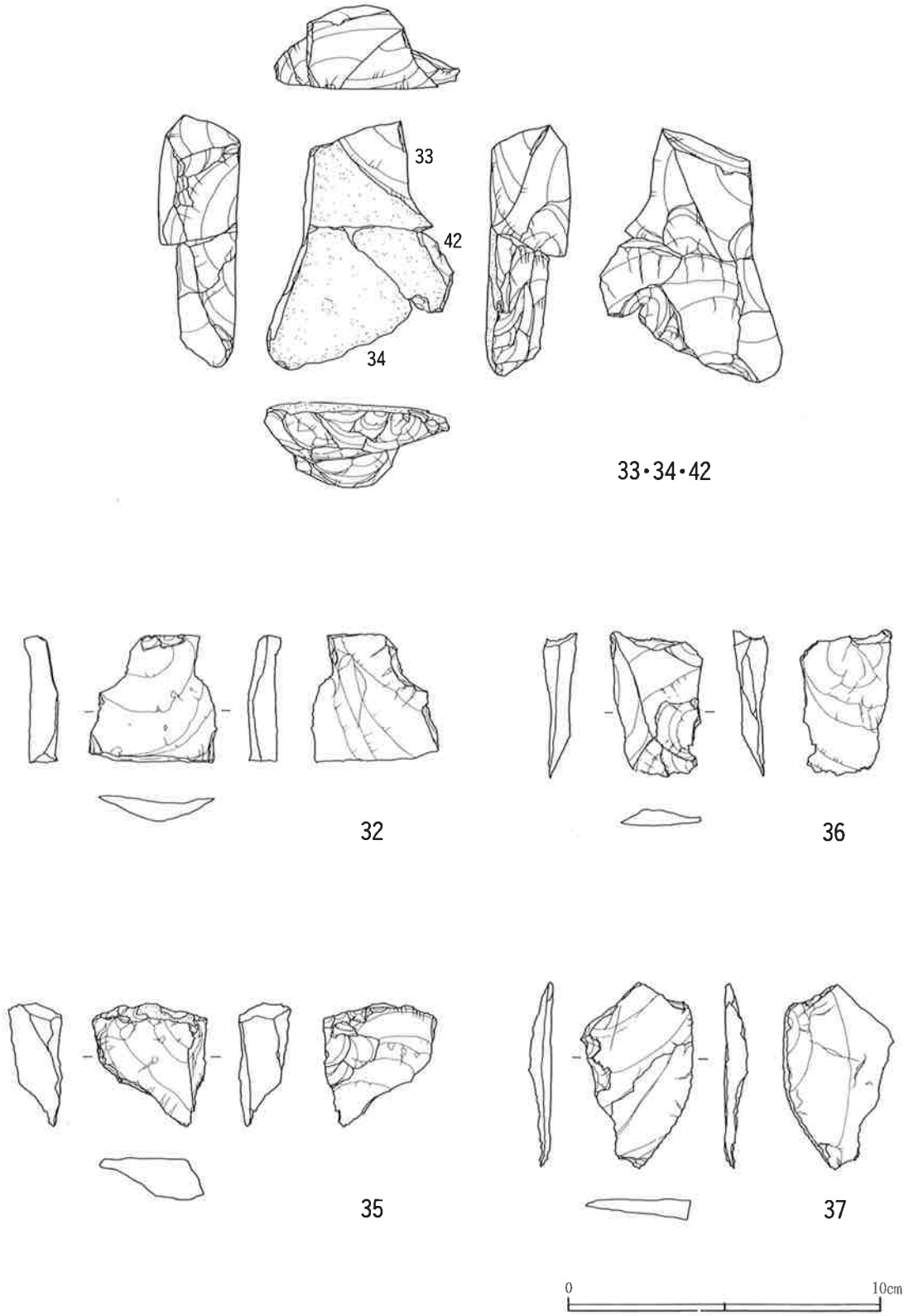


第12図　旧石器時代の石器(4)

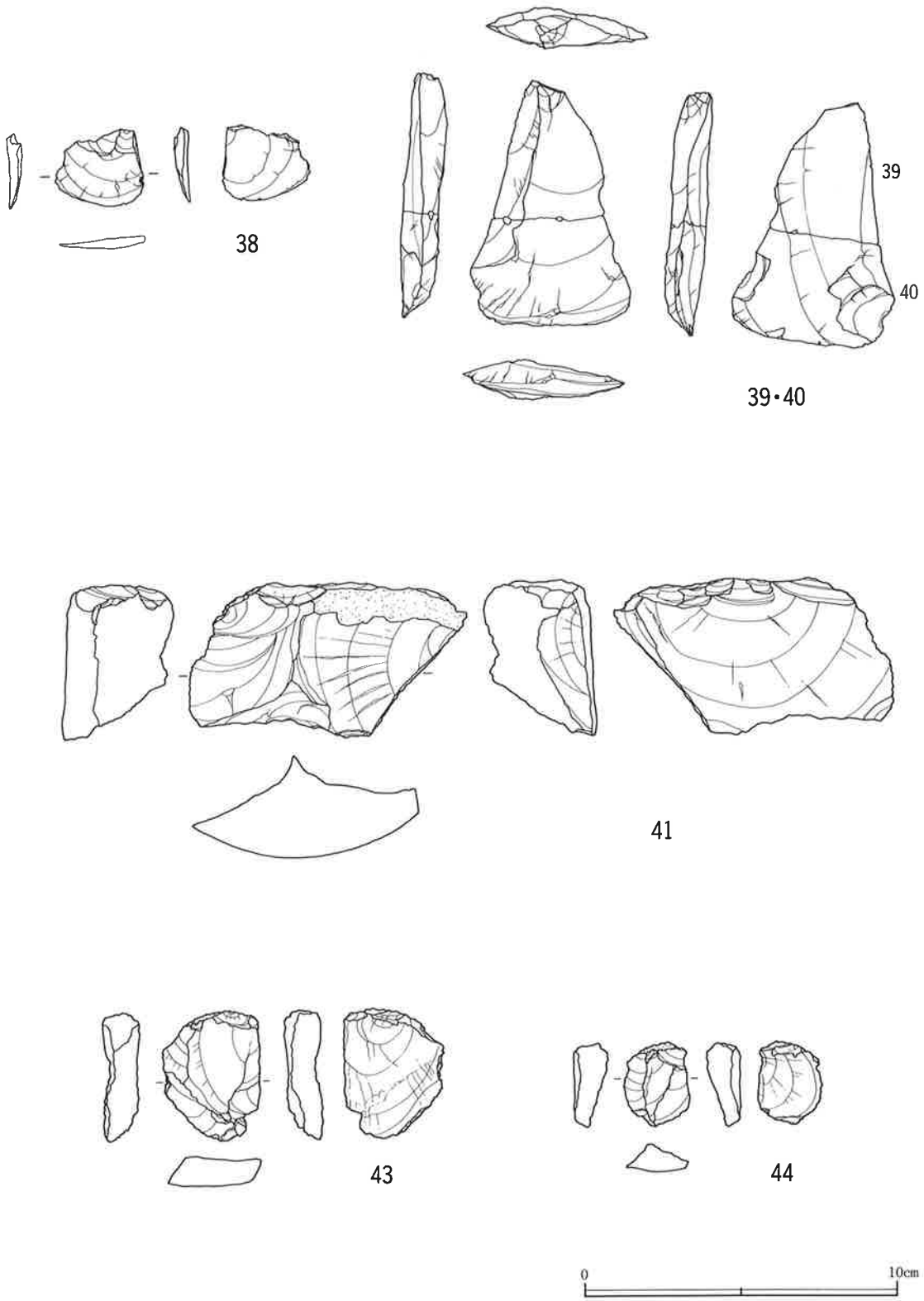




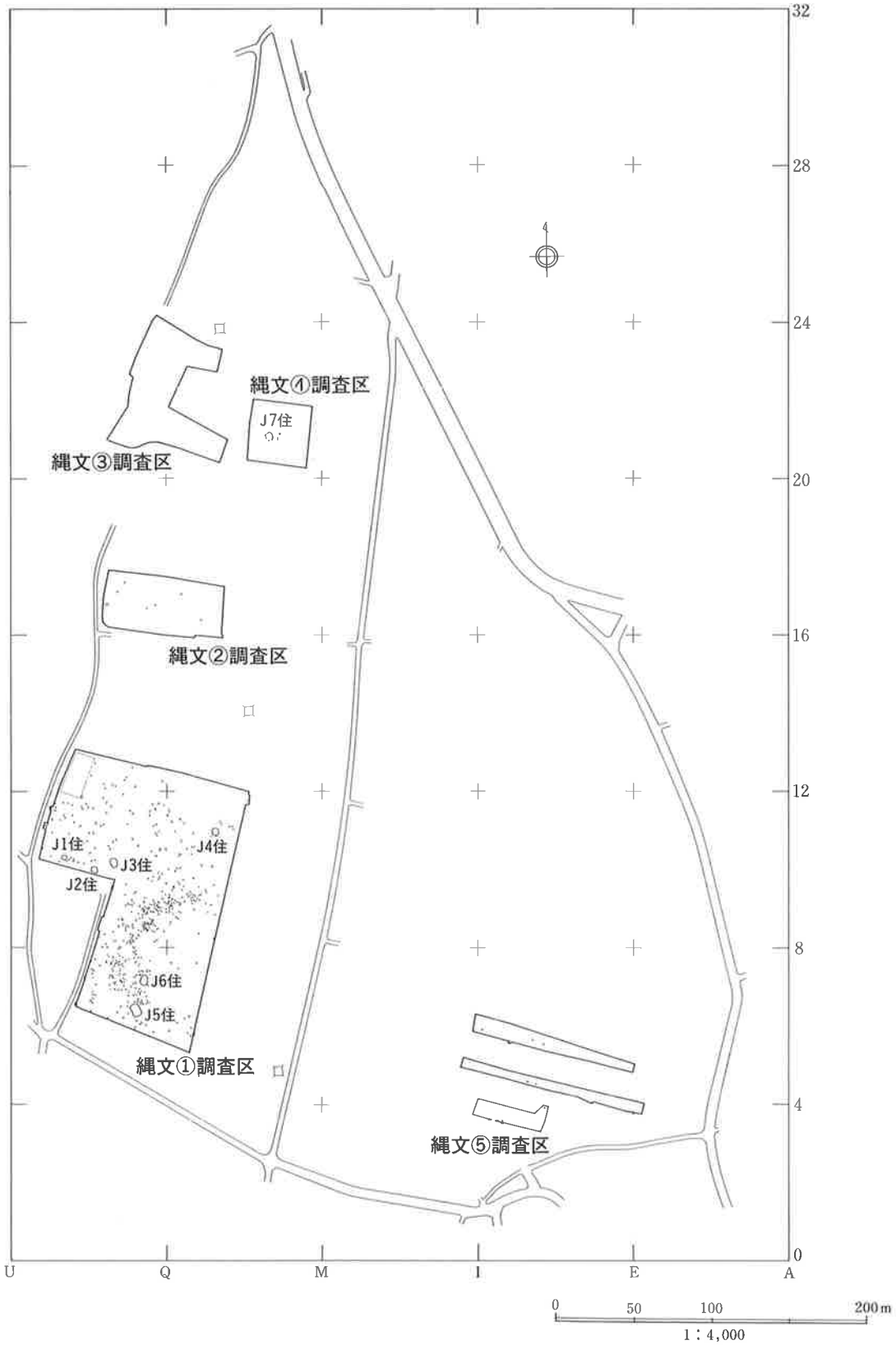
第13図　旧石器時代の石器(5)



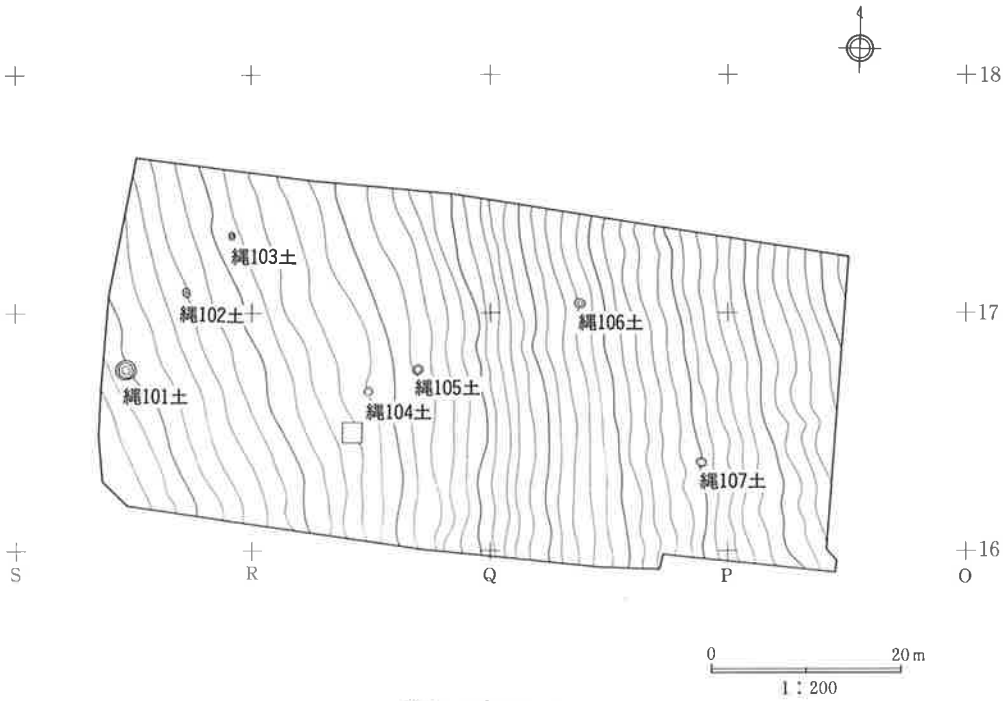
第14図　旧石器時代の石器(6)



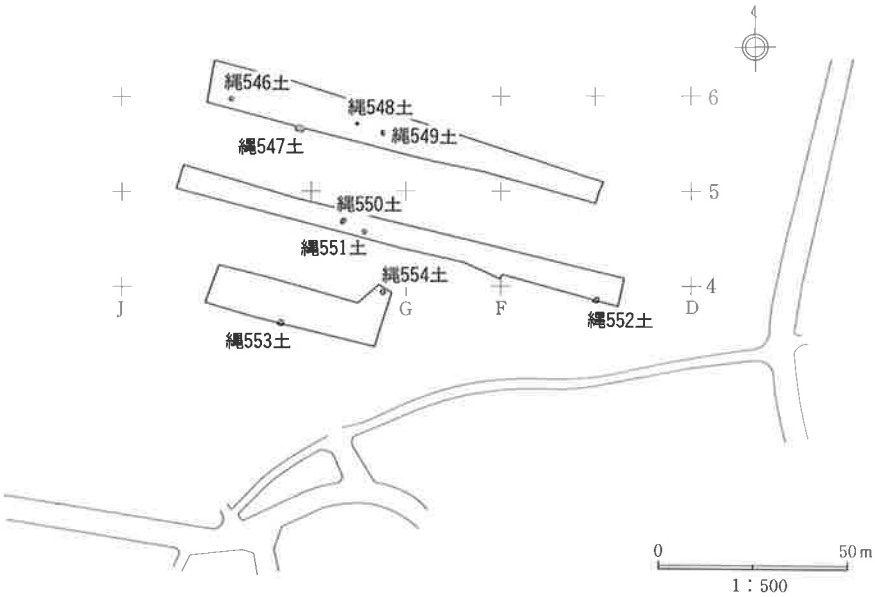
第15図　旧石器時代の石器(7)



第16図　縄文時代遺構検出状況図



縄文②調査区



縄文⑤調査区

第17図　縄文②·⑤調査区遺構検出状況図

（2）縄文時代

1．住居跡

縄文1号住居跡(第18図、PL6)

位置　縄文①調査区西部、北の緩斜面に向かう平坦地上に立地し、10-S-8･9･13･14ｸﾞﾘｯﾄﾞに跨がって検出された。

形状　規模は南北2.85×東西3.05ｍ程を測る平面南辺の長い隅丸台形で、床面は僅かに北東から南西に傾斜しており、踏み固めは強い。壁はほぼ垂直気味に立ち上がり、壁高は10㎝程と浅い。

覆土　ローム粒･ロームブロック･浅間ー白糸軽石(以下、As-Sr)･浅間ー大窪沢第1軽石(以下、As-OP1)を含む暗褐色土を主体としており、自然堆積である。

炉跡　住居中央やや北寄りにて、南北0.75×東西0.45ｍ、深さ10㎝程を測る平面不整楕円形の地床炉が検出された。

ﾋﾟｯﾄ　4本が検出された。P1は住居中央北壁寄りにて検出され、平面不整円形で径0.25×深さ0.40ｍ程を測る。P2はP1の東0.40ｍ程の北壁際に位置し、平面楕円形で長0.25×短0.22×深0.28ｍ程を測る。P3･P4は住居南壁際に位置し、P3は南壁を跨ぐ様に検出された。平面不整楕円形を呈し、長0.48×短0.41×深0.40ｍ程を測る。P4はP3の西0.25ｍ程に位置し、平面楕円形で長0.35×短0.33×深0.25ｍ程を測る。これらのピットは規模等から柱穴の可能性があるものの、その位置が偏在しており、明確にはし得なかった。

貯蔵穴1基検出された。P5は平面楕円形で、住居南東部、炉跡の南東0.5ｍ程に位置する。長0.57×短0.53×深0.40ｍ程を測り、壁は開き気味に立ち上がる。

遺物　細片多く、図示し得なかった。

時期　細片ではあるが黒浜式土器が出土しており、縄文時代前期に属す。

縄文2号住居跡(第18･22･27図、PL6･62･64)

位置　縄文①調査区西部、縄文1号住居跡の東18ｍ程に位置し、9-R-25･10-R-5ｸﾞﾘｯﾄﾞに跨がって検出された。

形状　規模は南北3.75×東西3.70ｍ程を測る平面ほぼ隅丸方形で、ほぼ平坦な床面は踏み固め弱い。壁はやや開き気味に立ち上がり、壁高は20㎝前後を測る。

覆土　自然堆積で、ローム粒･As-Sr･炭化物を含む暗褐色土を主体としている。

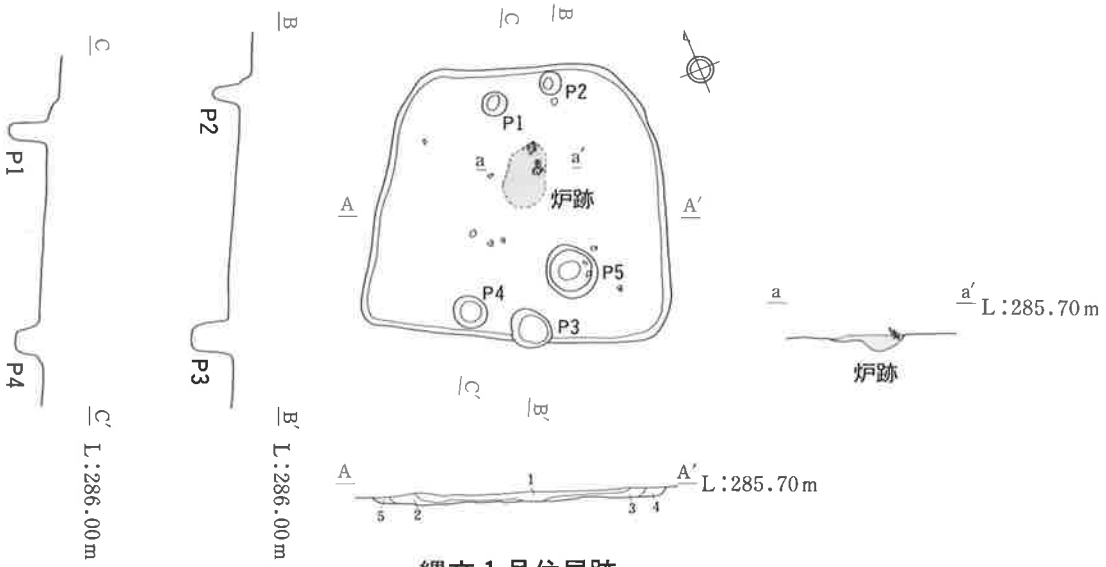
炉跡　住居中央やや北寄りにて埋甕炉が検出された。掘り方は径0.30×深0.13ｍ程の規模で、平面ほぼ円形を呈する。

柱穴　3本検出された。P1は住居中央やや南東寄りにて検出され、平面不整形で長0.56×短0.38×深0.43ｍ程を測る。P2はP1の南西1.80ｍ程の南西隅際に位置し、平面円形で径0.29×深0.36ｍ程を測る。P3は西壁を跨ぐ様に検出された。平面楕円形を呈し、長0.40×短0.35×深0.40ｍ程を測る。

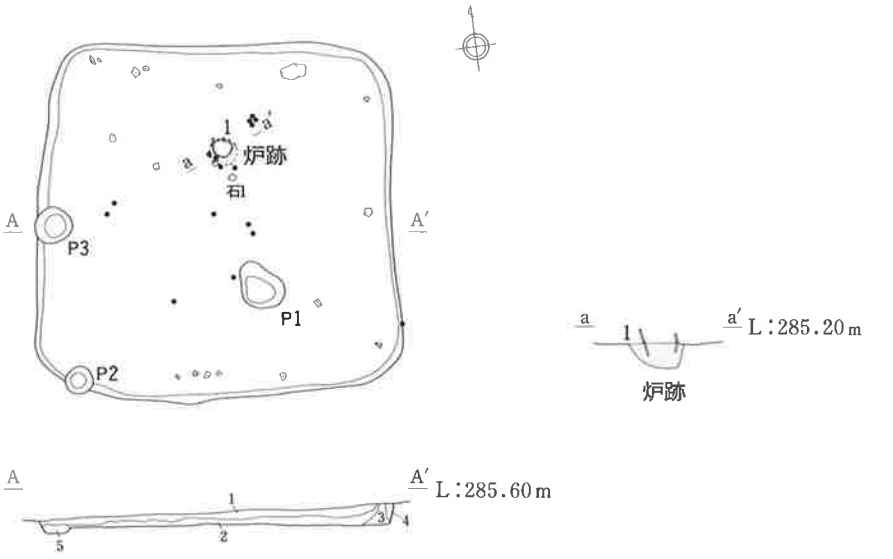
貯蔵穴検出されなかった。

遺物　埋甕の他、土器･石器細片が検出されている。土器･石器各1点を図示した。

時期　黒浜式土器が出土しており、縄文時代前期に属す。



縄文１号住居跡



縄文２号住居跡

第18図　縄文1·2号住居跡

縄文 3 号住居跡(第19·27·28図、PL6·64·65)

位置　縄文①調査区西部、縄文2号住居跡の北東8.5ｍ程に位置し、10-R-2·3·7·8ｸﾞﾘｯﾄﾞに跨がって検出された。

形状　規模は南北5.30×東西4.45ｍ程を測る平面隅丸長方形で、僅かに南に傾斜する床面の踏み固めは住居中央のみ顕著である。壁は開き気味に立ち上がり、壁高は50㎝前後を測る。南壁は攪乱され、不明瞭であった。

覆土　自然堆積で、上層はローム粒·As-Sr·As-OP1を含む暗褐色土を主体としている。下層はしまり強く、炭化物を含む。

炉跡　検出されなかった。

周溝　北西隅から北壁·東壁際を経て、住居南東部にかけて逆Ｌ字型に検出された。幅20～50㎝、深さ20～25㎝程を測る。

柱穴　4本が検出された。P1は住居中央やや北寄りに位置し、平面楕円形で長0.55×短0.45×深0.38ｍ程を測る。P2はP1の北西1.50ｍ程の北西隅に位置する。平面円形に近く径0.40×深0.24ｍ程を測る。P3はP2の北東1.5ｍ程の北壁周溝内に位置し、平面楕円形を呈し長0.35×短0.28×深0.39ｍ程を測る。P4も北東壁際の周溝内に位置する。平面円形で径0.25×深0.27ｍ程を測る。P2·P3·P4は規模等から壁柱穴と考えられたが、対になる壁柱穴や主柱穴が未検出の為、詳細は不明である。

貯蔵穴P5は西壁際中央にて検出され、平面円形に近い楕円形で長0.65×短0.60×深0.35ｍ程を測る。壁はほぼ垂直に立ち上がる。

土坑　1号床下土坑は住居南壁寄りにて検出され、平面不整形で長1.30×短1.00×深0.36ｍ程を測る。壁は緩やかに立ち上がる。

遺物　住居南部や北壁周溝内にやや集中して検出された。土器は図示できず、石器5点のみを図示した。

時期　黒浜式土器が出土しており、縄文時代前期に属す。

縄文 4 号住居跡(第19·22·27·29図、PL6·62·64)

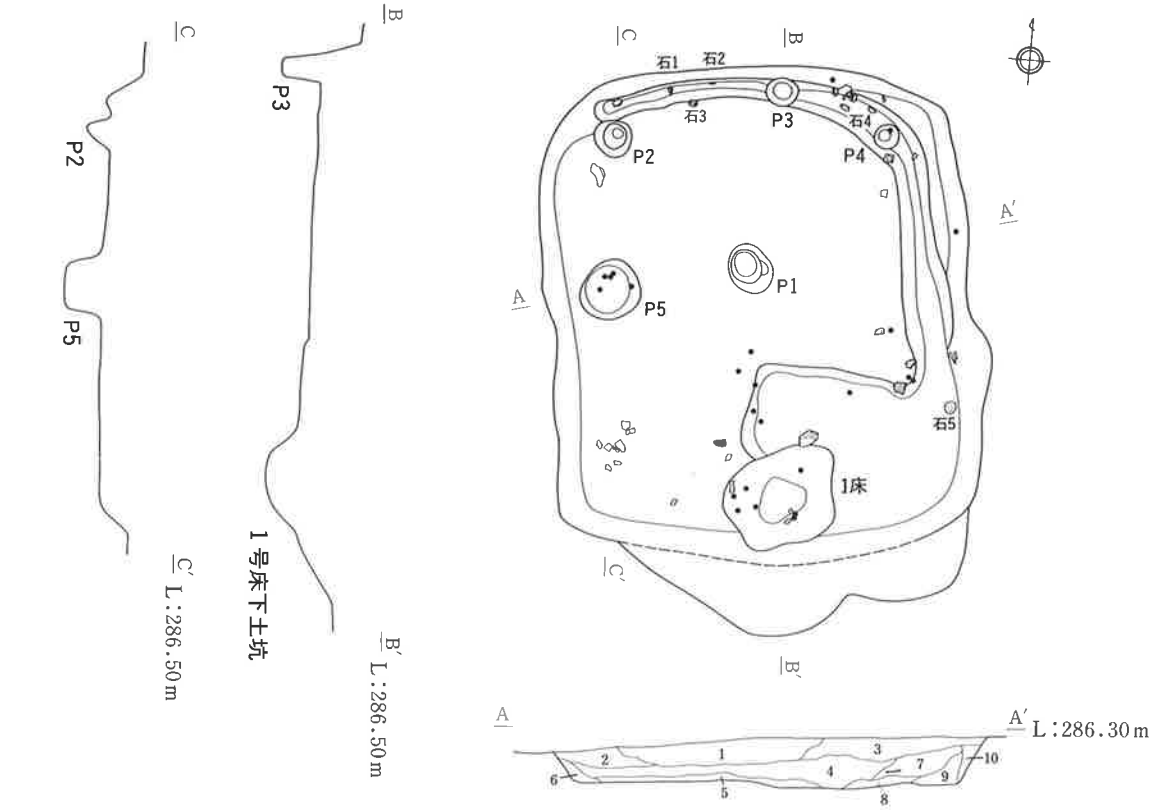
位置　縄文①調査区北東部の傾斜地、縄文3号住居跡の北東62ｍ程に位置する。先述した1～3号住居跡や後述する5·6号住居跡が、西に位置する桑畑を中心とする平坦地を囲むように馬蹄形に構築されているのに対し、その位置を大きく偏在している。10-O-24·25、11-O-3·4ｸﾞﾘｯﾄﾞに跨がって検出された。

形状　規模は南北4.10×東西3.70ｍ程を測る平面不整長方形で、ほぼ平坦な床面は炉跡周辺の踏み固め強い。壁は開き気味に立ち上がり、壁高は25㎝前後を測る。

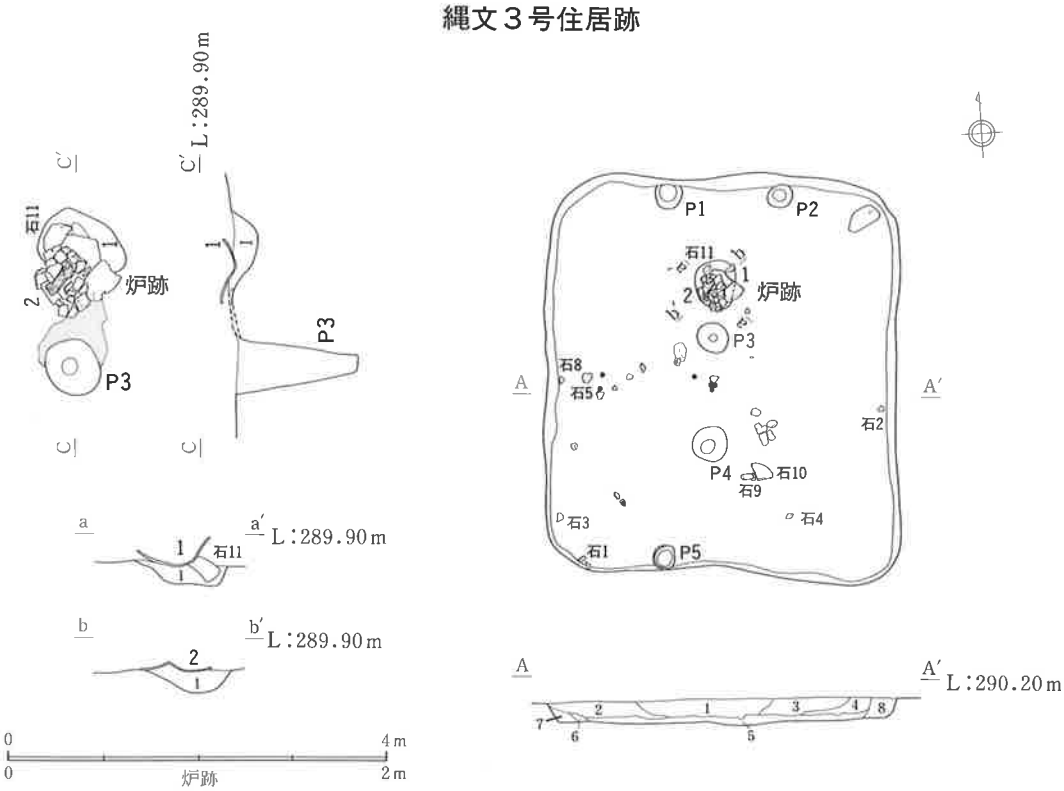
覆土　自然堆積で、ローム粒·As-Sr·As-OP1を含む黒褐色土を主体とし、炭化物や焼土粒を疎に含む。

炉跡　住居中央北寄りにて炉跡が検出された。平面楕円形を呈し、長0.50×短0.43×深0.13ｍ程を測る。被熱痕は炉跡から南に位置するP3にかけてが顕著であった。また土器の集中から埋甕炉の可能性も示唆された。

柱穴　5本検出された。P1は住居北壁際やや西寄りにて検出され、平面不整円形で径0.25×深0.48ｍ程を測る。P2はP1の対にあたる北壁やや東寄りに位置し、平面ほぼ円形の径0.23×深0.24ｍ程を測る。このP1·P2は入り口部か？P3は住居中央、炉跡の南側に位置する。平面円形を呈し、径0.30×深0.65ｍ程を測る。P4はP3の南、住居中央やや南寄りに位置し、平面不整円形で径0.35×深0.55ｍ程を測る。P5は西壁際にて検出された。平面不整円形で径0.25×深0.25ｍ程を測る。

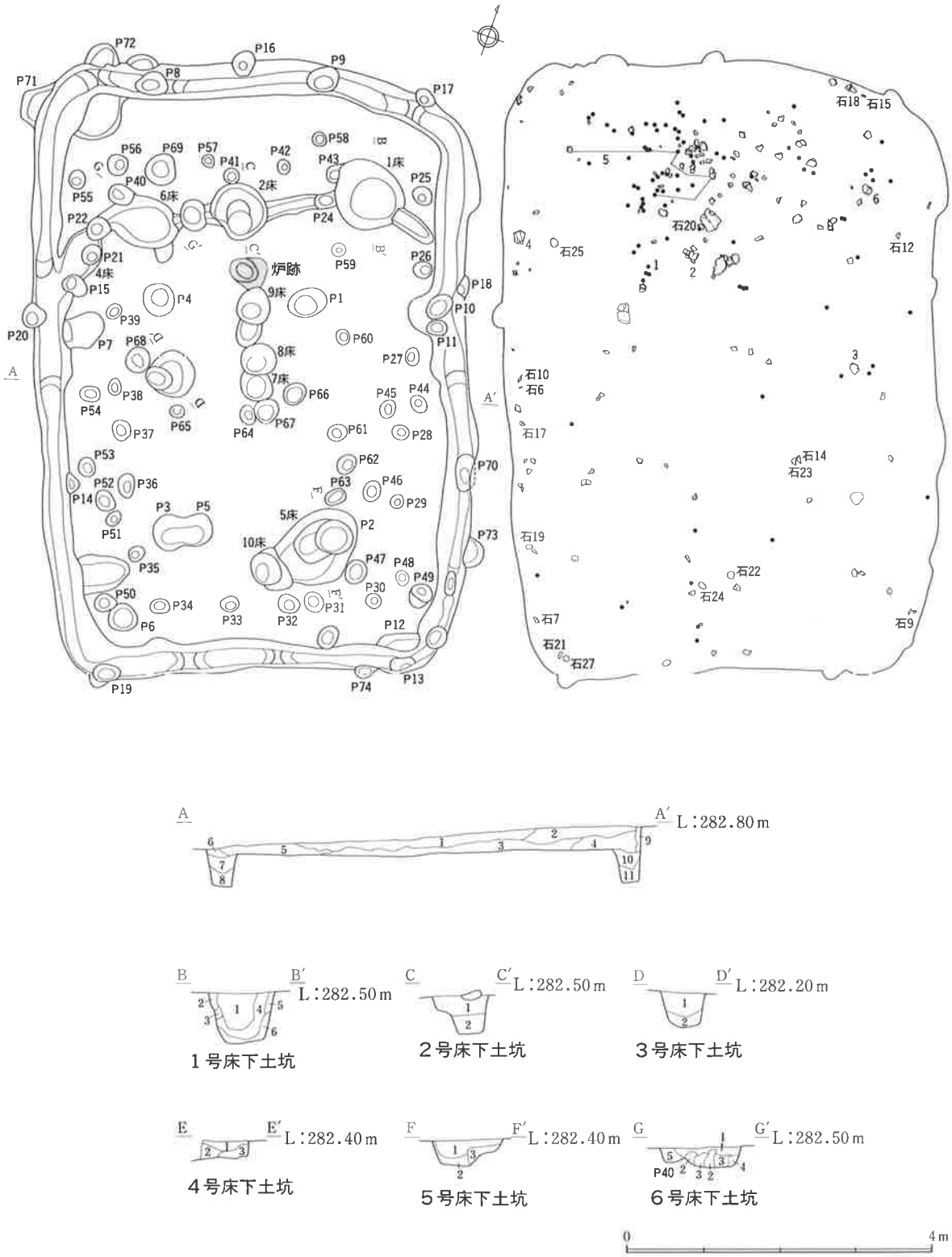


縄文３号住居跡



縄文４号住居跡

第19図　縄文3·4号住居跡



第20図　縄文5号住居跡

貯蔵穴検出されなかった。

遺物　炉跡から住居南西部にかけてややまとまって検出されている。土器2点、石器11点を図示した。

時期　黒浜式土器が出土しており、縄文時代前期に属す。

縄文5号住居跡(第20·22·23·28～31図、第6·7表、PL6·7·62·65～67)

位置　縄文①調査区南部、馬蹄形を呈する集落の南端に位置する。10-R-2·3·7·8ｸﾞﾘｯﾄﾞに跨がって検出された。

形状　二重に巡る周溝と支柱穴の検出状況から、拡張住居と捉えられた。構築時(A期)の規模は南北6.10×東西5.65ｍ程を測り、北への拡張後(B期)の規模は南北7.85×東西5.65ｍ程を測り、平面隅丸長方形を呈する。床面の踏み固めは住居中央部が特に顕著である。壁はほぼ垂直気味に立ち上がり、壁高は30㎝前後を測る。

覆土　自然堆積で、ローム粒·As-Sr·As-OP1·As-Ypを含む黒褐色土を主体としている。炭化物は疎に含む。

炉跡　住居中央北寄りにて地床炉が検出された。平面不整楕円形を呈し、長0.50×短0.45×深0.21ｍ程の規模を測る。被熱痕顕著である。

周溝　A·B期共に全周すると思われたが、A期北東部にて途切れる部分も認められた。幅25～35㎝、深さ25～35㎝程を測る。

柱穴　74本が検出された。P1～P4は主柱穴である。他は補助支柱穴や壁柱穴である。各々の規模等は別表に記した。

貯蔵穴床下土坑としたものの何れかと考えられるが、詳細は不明。

土坑　別表。

遺物　住居全体に散在して検出されたが、特に住居北部に集中している。土器11点、石器28点を図示した。

時期　黒浜式土器が出土しており、縄文時代前期に属す。

縄文6号住居跡(第21·23～26·28·31·32図、第8表、PL7·62·63·65·67)

位置　縄文①調査区南部、縄文5号住居跡の北14ｍ、縄文3号住居跡の南東71ｍ程に位置する。7-Q-3·4·8·9ｸﾞﾘｯﾄﾞに跨がって検出された。

形状　規模は南北6.55×東西4.50ｍ程を測る南辺が北辺より1.50ｍ程長い平面不整台形で、ほぼ平坦な床面は炉跡周辺から住居中央にかけて踏み固めが強い。壁は開き気味に立ち上がり、壁高は40㎝前後を測る。

覆土　自然堆積で、ローム粒·As-Sr·As-OP1·As-Ypを含む黒褐色土を主体としている。炭化物を疎に含む。

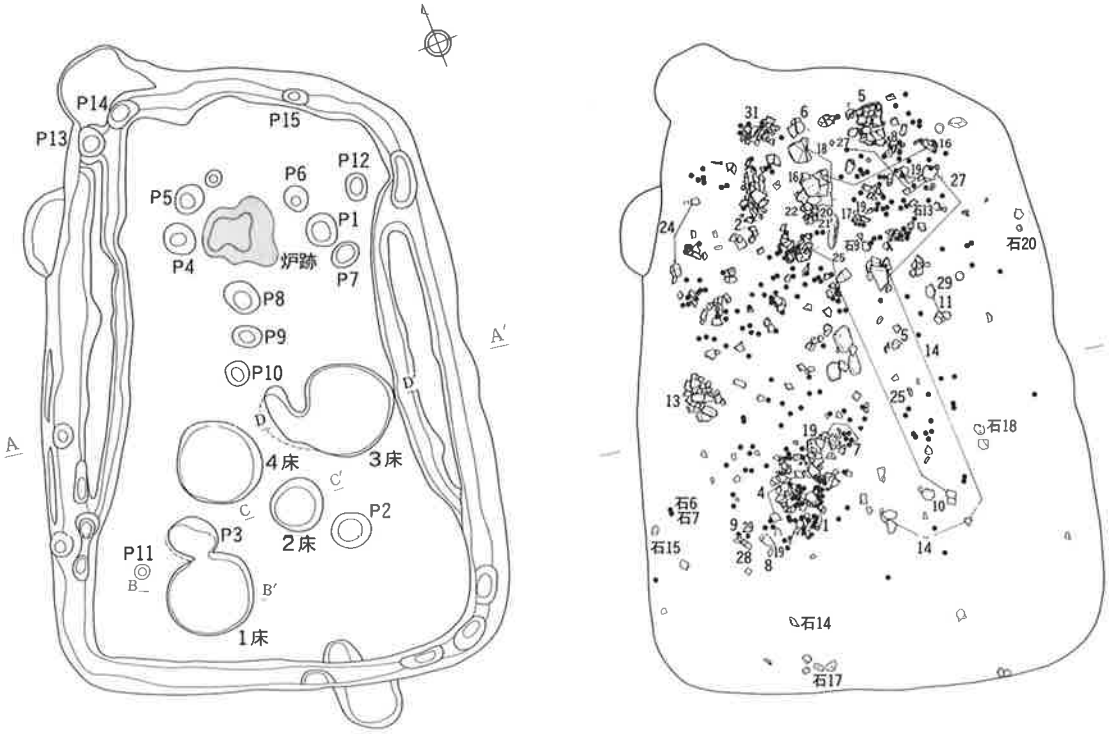
炉跡　住居中央北寄りにて地床炉が検出された。平面不整楕円形を呈し、長0.85×短0.75×深0.18ｍ程の規模を測る。被熱痕は顕著である。

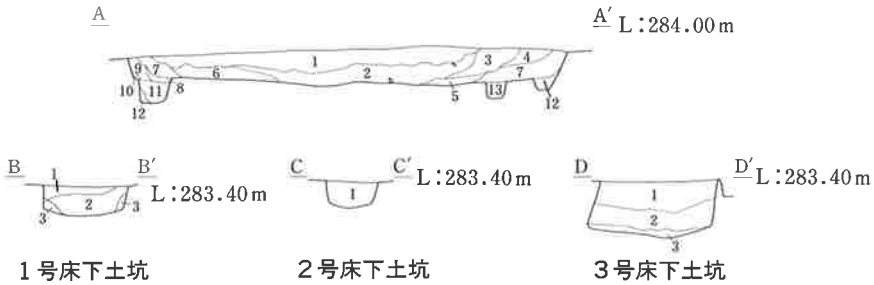
周溝　全周し、幅20～40㎝、深さ10～25㎝程を測る。東西両壁では二重に巡るが、時期差の有無等、詳細は不明である。

柱穴　17本が検出された。P1～P4が主柱穴である。他は補助支柱穴や壁柱穴である。各々の規模等は別表に記した。

貯蔵穴3号床下土坑と考えられるが、詳細は不明である。

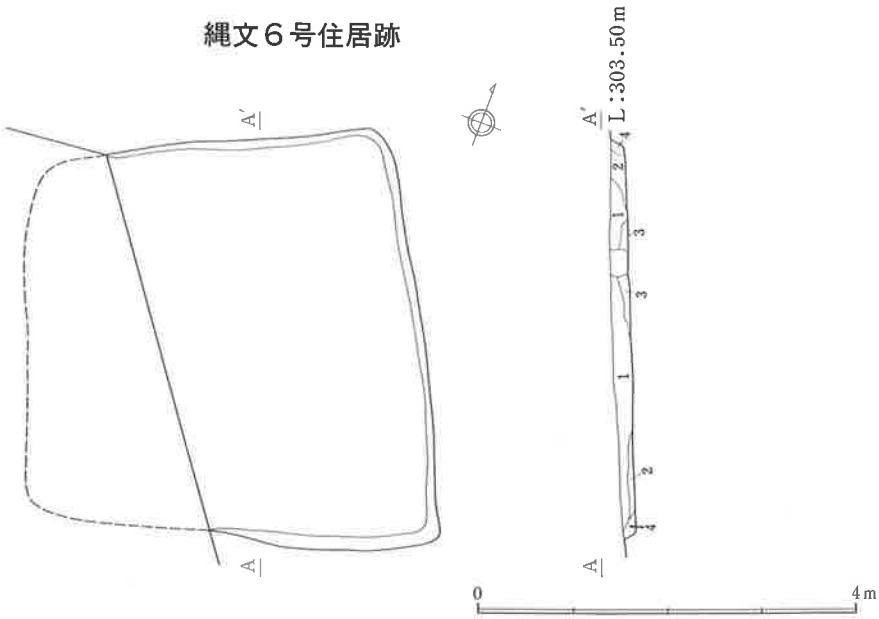
土坑　1号床下土坑は住居南西部、P3に接して検出された。平面円形に近い楕円形で長0.93×短0.80×深0.30ｍ程を測る。2号床下土坑は平面円形で径0.55×深0.26ｍ程を測る。3号床下土坑は平面不整円形を呈





1号床下土坑　　2号床下土坑　　3号床下土坑

縄文６号住居跡



縄文７号住居跡

第21図　縄文6·7号住居跡

第6表　縄文5号住居跡柱穴一覧表

番号	平面形	規　　模	備　　考
P1	楕円形	長0.53×短0.36×深0.68m	主柱穴
P2	楕円形	長0.50×短0.45×深0.68m	主柱穴
P3	楕円形	長0.46×短0.40×深0.69m	主柱穴
P4	楕円形	長0.41×短0.38×深0.44m	主柱穴
P5	楕円形	長0.50×短0.39×深0.70m	P3の建て替え
P6	楕円形	長0.38×短0.33×深0.91m	B支柱穴
P7	楕円形	長0.55×短0.43×深0.77m	壁柱穴
P8	楕円形	長0.41×短0.27×深0.60m	壁柱穴
P9	楕円形	長0.43×短0.31×深0.65m	壁柱穴
P10	楕円形	長0.38×短0.25×深0.58m	壁柱穴
P11	楕円形	長0.27×短0.20×深0.55m	P10建て替え
P12	楕円形	長0.53×短0.22×深0.25m	壁柱穴
P13	不整形	長0.33×短0.16×深0.57m	壁柱穴
P14	不整形	長0.26×短0.16×深0.55m	壁柱穴
P15	不整楕円形	長0.33×短0.21×深0.39m	B支柱穴
P16	楕円形	長0.33×短0.28×深0.63m	壁柱穴
P17	楕円形	長0.28×短0.20×深0.20m	壁柱穴
P18	不整形	長0.28×短0.13×深0.48m	壁柱穴
P19	楕円形	長0.35×短0.22×深0.40m	壁柱穴
P20	楕円形	長0.31×短0.28×深0.28m	壁柱穴
P21	楕円形	長0.28×短0.23×深0.36m	P15建て替え
P22	楕円形	長0.32×短0.25×深0.31m	
P23	楕円形	長0.40×短0.30×深0.44m	
P24	不整楕円形	長0.26×短0.18×深0.17m	P43建て替え
P25	楕円形	長0.26×短0.23×深0.27m	B支柱穴
P26	楕円形	長0.24×短0.20×深0.17m	B支柱穴
P27	楕円形	長0.23×短0.16×深0.09m	B支柱穴
P28	楕円形	長0.23×短0.19×深0.15m	B支柱穴
P29	楕円形	長0.20×短0.16×深0.06m	B支柱穴
P30	円形	径0.20×深0.70m	B支柱穴
P31	楕円形	長0.28×短0.23×深0.16m	B支柱穴
P32	楕円形	長0.28×短0.23×深0.15m	A・B支柱穴
P33	楕円形	長0.24×短0.20×深0.17m	A・B支柱穴
P34	楕円形	長0.25×短0.19×深0.24m	A・B支柱穴
P35	楕円形	長0.23×短0.15×深0.14m	A支柱穴
P36	楕円形	長0.31×短0.20×深0.15m	A支柱穴
P37	楕円形	長0.26×短0.22×深0.12m	A支柱穴
P38	楕円形	長0.22×短0.16×深0.24m	A支柱穴
P39	楕円形	長0.23×短0.16×深0.62m	A支柱穴
P40	楕円形	長0.33×短0.26×深0.35m	A支柱穴
P41	円形	径0.20×深0.17m	A支柱穴
P42	楕円形	長0.20×短0.17×深0.13m	A支柱穴
P43	楕円形	長0.28×短0.23×深0.05m	A支柱穴
P44	楕円形	長0.25×短0.18×深0.18m	
P45	楕円形	長0.24×短0.19×深0.20m	P28建て替え
P46	楕円形	長0.28×短0.23×深0.32m	P29建て替え
P47	楕円形	長0.33×短0.25×深0.28m	A支柱穴
P48	楕円形	長0.19×短0.15×深0.17m	
P49	不整楕円形	長0.29×短0.20×深0.12m	
P50	楕円形	長0.29×短0.24×深0.22m	P14建て替え
P51	楕円形	長0.23×短0.14×深0.18m	P52建て替え
P52	楕円形	長0.40×短0.23×深0.28m	B支柱穴
P53	楕円形	長0.25×短0.21×深0.15m	
P54	楕円形	長0.25×短0.20×深0.19m	B支柱穴
P55	楕円形	長0.24×短0.20×深0.16m	B支柱穴
P56	不整円形	径0.28×深0.17m	B支柱穴
P57	楕円形	長0.18×短0.16×深0.21m	B支柱穴
P58	円形	径0.18×深0.21m	B支柱穴
P59	円形	径0.18×深0.31m	A支柱穴
P60	楕円形	長0.20×短0.16×深0.27m	A支柱穴
P61	楕円形	長0.25×短0.21×深0.19m	A支柱穴
P62	楕円形	長0.28×短0.22×深0.26m	A支柱穴
P63	楕円形	長0.28×短0.20×深0.28m	A支柱穴
P64	楕円形	長0.25×短0.19×深0.19m	
P65	楕円形	長0.19×短0.17×深0.18m	
P66	楕円形	長0.32×短0.26×深0.22m	
P67	円形	径0.30×深0.26m	
P68	円形	径0.32×深0.31m	
P69	楕円形	長0.36×短0.30×深0.21m	
P70	不整形	長0.48×短0.25×深0.08m	壁柱穴
P71	不整形	長0.63×短0.26×深0.56m	壁柱穴
P72	不整形	長0.45×短0.30×深0.36m	壁柱穴
P73	不整形	長0.40×短0.25×深0.15m	壁柱穴
P74	不整形	長0.31×短0.16×深0.17m	壁柱穴

第7表　縄文5号住居跡床下土坑一覧表

番　号	平面形	規　　模	備　　考
1号床下土坑	不整楕円形	長1.00×短0.85×深0.65m	A期周溝を跨いで構築されている。
2号床下土坑	不整楕円形	長0.75×短0.64×深0.50m	A期周溝を跨いで構築されている。壁柱穴の可能性あり。
3号床下土坑	楕円形	長0.65×短0.60×深0.46m	貯蔵穴の可能性あり。
4号床下土坑	楕円形	長0.78×短0.47×深0.21m	A期周溝を跨いで構築されている。壁柱穴の可能性あり。
5号床下土坑	不整楕円形	長1.35×短0.90×深0.33m	
6号床下土坑	不整楕円形	長0.88×短0.64×深0.27m	A期周溝を跨いで構築されている。
7号床下土坑	楕円形	長0.50×短0.40×深0.50m	主柱穴の可能性あり。
8号床下土坑	楕円形	長0.46×短0.39×深0.44m	主柱穴の可能性あり。
9号床下土坑	楕円形	長0.48×短0.42×深0.36m	主柱穴の可能性あり。
10号床下土坑	不整楕円形	長0.58×短0.42×深0.45m	主柱穴の可能性あり。

第8表　縄文6号住居跡柱穴一覧表

番号	平面形	規　　模	備　　考
P1	不整円形	径0.33×深0.45m	主柱穴
P2	楕円形	長0.42×短0.36×深0.67m	主柱穴
P3	楕円形	長0.53×短0.41×深0.31m	主柱穴
P4	不整形	長0.36×短0.31×深0.47m	主柱穴
P5	楕円形	長0.35×短0.27×深0.52m	入り口部
P6	楕円形	長0.28×短0.24×深0.54m	入り口部
P7	楕円形	長0.31×短0.23×深0.15m	
P8	楕円形	長0.40×短0.30×深0.47m	主柱穴？
P9	楕円形	長0.30×短0.23×深0.57m	主柱穴？
P10	不整円形	径0.24×深0.50m	主柱穴？
P11	円形	径0.16×深0.13m	
P12	楕円形	長0.28×短0.21×深0.13m	
P13	楕円形	長0.30×短0.27×深0.31m	壁柱穴
P14	楕円形	長0.37×短0.21×深0.34m	壁柱穴
P15	楕円形	長0.28×短0.16×深0.29m	壁柱穴
P16	楕円形	長0.25×深0.31m	壁柱穴
P17	楕円形	長0.26×短0.22×深0.35m	壁柱穴

し、径0.96×深0.58ｍ程を測る。フラスコ型を呈する事から貯蔵穴と考えられる。4号床下土坑は平面円形で径0.88×深0.35ｍ程を測る。

遺物　多量の遺物が住居中央から北部にかけて検出された。出土量比較的多く、また遺存状況も良かったために土器31点、石器20点を図示し得た。

時期　黒浜式土器が出土しており、縄文時代前期に属す。

縄文７号住居跡(第21図、PL7)

位置　本跡は、集落が馬蹄形に検出された縄文①調査区を臨む北の縄文④調査区、21-N-2･3･7･8ｸﾞﾘｯﾄﾞに跨がって検出された。

形状　耕作に伴う削平により、全容は不明である。確認された平面は床面確認状況から台形に近い方形を呈すると思われ、規模は南北4.25×東西4.15ｍ程を測ると推測された。東辺が西辺より0.90ｍ程長い。床面は削平の為か、西に傾斜しており、踏み固め弱い。壁は開き気味に立ち上がり、壁高は20㎝程を測る。

覆土　自然堆積で、ローム粒･As-Sr･As-OP1･炭化物を疎に含む黒褐色土を主体としている。

炉跡・周溝・柱穴・貯蔵穴・土坑　確認されなかった。

遺物　細片が数点出土している。

時期　詳細不明。

縄文住居跡土層説明

縄文１号住居跡

1. 暗褐色土　ﾛｰﾑ粒･浅間-白糸軽石(以下、As-Sr)･浅間-大窪沢第1軽石(以下、As-OP1)･炭化物を疎に含む。
2. 暗茶褐色土ﾛｰﾑ粒･As-Sr･As-OP1･ﾛｰﾑﾌﾞﾛｯｸをやや密に含む。
3. 黄褐色土　多量のﾛｰﾑ粒とﾛｰﾑﾌﾞﾛｯｸを含み、炭化物･焼土粒を含む。
4. 茶褐色土　ﾛｰﾑ粒･As-Srをやや多く含む。しまりやや弱い。
5. 茶褐色土　ﾛｰﾑ粒をやや疎、ﾛｰﾑﾌﾞﾛｯｸを含む。

炉跡

1. 橙褐色土　焼土粒を密、炭化物をやや疎に含む。

縄文２号住居跡

1. 暗茶褐色土ﾛｰﾑ粒･As-Srをやや密、As-OP1･炭化物を疎に含む。
2. 暗茶褐色土ﾛｰﾑ粒･As-Srを密、炭化物･As-OP1･焼土粒を疎に含む。
3. 茶褐色土　ﾛｰﾑ粒･As-Srをやや密に含む。
4. 暗褐色土　ﾛｰﾑ粒･As-Srをやや密、炭化物を疎に含む。
5. 茶褐色土　ﾛｰﾑ粒･As-Srを密に含む。

縄文３号住居跡

1. 黒褐色土　ﾛｰﾑ粒･As-Sr･As-OP1をやや密、炭化物を疎に含む。
2. 暗褐色土　ﾛｰﾑ粒をやや多く含み、炭化物･As-OP1を疎に含む。
3. 茶褐色土　ﾛｰﾑ粒をやや密、As-Srがﾌﾞﾛｯｸ状に混入。
4. 暗茶褐色土1に近似するが、ﾛｰﾑ等の混入物少なく、逆に炭化物を多く含む。
5. 暗茶褐色土4に比べてしまり強く、炭化物･As-Srを多く含む。
6. 茶褐色土　ﾛｰﾑ粒･As-Sr･As-OP1をやや密に含む。しまり強い。
7. 暗茶褐色土ﾛｰﾑ粒･As-Sr･As-OP1をやや疎に含み、炭化物を含む。
8. 茶褐色土　ﾛｰﾑ粒･As-OP1をやや密に含む。
9. 暗茶褐色土8に比べて、As-OP1をほとんど含まない。
10. 黄褐色土　ﾛｰﾑ粒･As-Sr･ﾛｰﾑﾌﾞﾛｯｸを含む。

縄文４号住居跡

1. 黒褐色土　ﾛｰﾑ粒･As-Sr･As-OP1を含み、炭化物疎に含む。
2. 黒褐色土　1に近似するが、黒味弱く混入物少ない。
3. 暗茶褐色土ﾛｰﾑ粒･As-Sr･As-OP1をやや疎、ﾛｰﾑﾌﾞﾛｯｸ･炭化物を疎に含む。
4. 暗茶褐色土3に近似するが、しまり強く、炭化物を含む。
5. 暗褐色土　ﾛｰﾑ粒･As-Srをやや疎、炭化物･焼土粒をやや密に含む。
6. 暗褐色土　ﾛｰﾑ粒･As-Srをやや疎に含み、しまり強い。
7. 黒褐色土　ﾛｰﾑ粒･As-Srをやや密に含み、しまり強くｶﾞﾁｶﾞﾁ。
8. 茶褐色土　ﾛｰﾑ粒を疎に含み、しまりに欠ける。

炉跡

1. 黒褐色土　ﾛｰﾑ粒･As-Sr･焼土粒を含み、炭化物をやや密に含む。

縄文５号住居跡

1. 黒褐色土　ﾛｰﾑ粒･浅間-板鼻黄色軽石(以下、As-YP)･As-Srをやや疎、As-OP1･炭化物を疎に含む。
2. 暗褐色土　1に近似するが、混入物少ない。As-YP･炭化物を多く含む。
3. 暗褐色土　ﾛｰﾑ粒･As-Srを疎に含む。
4. 暗茶褐色土ﾛｰﾑ粒やや密、As-Srを疎に含む。As-OP1･炭化物はほとんど含まない。
5. 茶褐色土　ﾛｰﾑ粒やや密に含む。
6. 茶褐色土　ﾛｰﾑ粒･As-Srをやや疎、炭化物･As-OP1を疎に含む。
7. 暗茶褐色土ﾛｰﾑ粒･As-Sr･As-YPを疎に含む。
8. 暗褐色土　ﾛｰﾑ粒･As-YP･As-Srを疎に含む。
9. 暗褐色土　ﾛｰﾑ粒･As-Sr･As-OP1をやや密に含む。
10. 暗褐色土　ﾛｰﾑ粒･As-Srを密に含む。
11. 暗褐色土　9に近似するが、As-Srをやや疎に含む。

縄文5号住居跡

1号床下土坑

1.黒褐色土　ﾛｰﾑ粒･As-Sr･炭化物を疎に含む。
2.黒褐色土　ﾛｰﾑ粒･ﾛｰﾑﾌﾞﾛｯｸを含む。
3.黄褐色土　ﾛｰﾑ粒を密に含む。
4.暗茶褐色土ﾛｰﾑ粒やや疎、炭化物をﾎﾟﾂﾎﾟﾂ含む。
5.黄褐色土　ﾛｰﾑ粒を密に含む。
6.茶褐色土　ﾛｰﾑ粒･As-Srを疎に含む。

2号床下土坑

1.暗褐色土　ﾛｰﾑ粒･As-Srをやや疎に含む。
2.茶褐色土　ﾛｰﾑ粒･As-Srやや密、炭化物をﾎﾟﾂﾎﾟﾂ含む。
3.茶褐色土　ﾛｰﾑ粒を疎に含む。

3号床下土坑

1.茶褐色土　暗褐色土ﾌﾞﾛｯｸと茶褐色土ﾌﾞﾛｯｸの混土。
2.1よりも暗褐色土ﾌﾞﾛｯｸ少ない。

4号床下土坑

1.暗褐色土　ﾛｰﾑ粒･As-Srやや密、炭化物をﾎﾟﾂﾎﾟﾂ含む。
2.暗茶褐色土ﾛｰﾑ粒･ﾛｰﾑﾌﾞﾛｯｸ含む。
3.暗茶褐色土ﾛｰﾑ粒･As-Srやや密、ﾛｰﾑﾌﾞﾛｯｸ･As-Srﾌﾞﾛｯｸ含む。

5号床下土坑

1.暗茶褐色土ﾛｰﾑ粒を疎、炭化物･灰色岩粒をﾎﾟﾂﾎﾟﾂ含む。
2.茶褐色土　ﾛｰﾑ粒･As-Srを疎に含む。
3.茶褐色土　ﾛｰﾑ粒･As-Srを密に含む。

6号床下土坑

1.暗褐色土　As-Srを疎、炭化物ﾎﾟﾂﾎﾟﾂ含む。
2.黄褐色土　ﾛｰﾑﾌﾞﾛｯｸ含む。
3.茶褐色土　ﾛｰﾑ粒を密、As-Srやや疎に含む。
4.茶褐色土　ﾛｰﾑ粒を密に含む。
5.暗茶褐色土ﾛｰﾑ粒やや密に含む。

炉跡

1.暗橙褐色土焼土粒･炭化物を含む。

縄文6号住居跡

1.黒色土　ﾛｰﾑ粒･As-YP･As-OP1をやや疎、炭化物･As-Srをﾎﾟﾂﾎﾟﾂ含む。
2.暗褐色土　1より混入物多い。
3.暗褐色土　2よりﾛｰﾑ粒･As-YP･As-Srを多く含む。
4.暗茶褐色土ﾛｰﾑ粒･炭化物を疎に含む。
5.茶褐色土　ﾛｰﾑ粒･As-YP･As-Sr･ﾛｰﾑﾌﾞﾛｯｸを含む。
6.暗褐色土　ﾛｰﾑ粒やや密、As-Sr･炭化物を疎に含む。
7.暗茶褐色土ﾛｰﾑ粒･As-Srを疎、炭化物をﾎﾟﾂﾎﾟﾂ含む。
8.暗黄褐色土ﾛｰﾑ粒をやや密に含む。
9.茶褐色土　ﾛｰﾑ粒･As-Srをやや疎、炭化物･As-OP1･As-YPを疎に含む。
10.茶褐色土　ﾛｰﾑ粒･炭化物を疎に含む。
11.暗褐色土　ﾛｰﾑ粒･As-Srをやや密、炭化物をﾎﾟﾂﾎﾟﾂ含む。
12.暗茶褐色土ﾛｰﾑ粒･As-Srを密に含む。
13.暗茶褐色土12に近似するが、しまり強い。

1号床下土坑

1.茶褐色土　ﾛｰﾑ粒･灰色岩粒･As-Srを疎に含む。
2.黒褐色土　ﾛｰﾑ粒･As-Sr･灰色岩粒･炭化物を疎に含む。
3.暗褐色土　ﾛｰﾑ粒をやや密に含む。
4.暗茶褐色土ﾛｰﾑ粒を密に含む。

2号床下土坑（人為的埋土）

1.明茶褐色土ﾛｰﾑ粒･As-Srやや密に含む。

3号床下土坑（人為的埋土）

1.黒褐色土　ﾛｰﾑ粒･As-Sr･灰色岩粒やや疎、炭化物をﾎﾟﾂﾎﾟﾂ含む。
2.黒褐色土　1に近似するが、やや粘性を持ち、ﾛｰﾑﾌﾞﾛｯｸ含む。
3.暗褐色土　ﾛｰﾑ粒･As-Srやや密に含む。

縄文7号住居跡

1.黒褐色土　ﾛｰﾑ粒･As-Sr･As-OP1･炭化物を疎に含む。
2.暗褐色土　ﾛｰﾑ粒･As-Srを疎に含む。
3.暗茶褐色土ﾛｰﾑ粒をやや密、As-Sr･ﾛｰﾑﾌﾞﾛｯｸ･炭化物･As-OP1を疎に含む。
4.暗茶褐色土ﾛｰﾑ粒･As-Srを疎に含む。

1－1．住居跡出土土器

縄文2号住居跡(第22図、PL62)

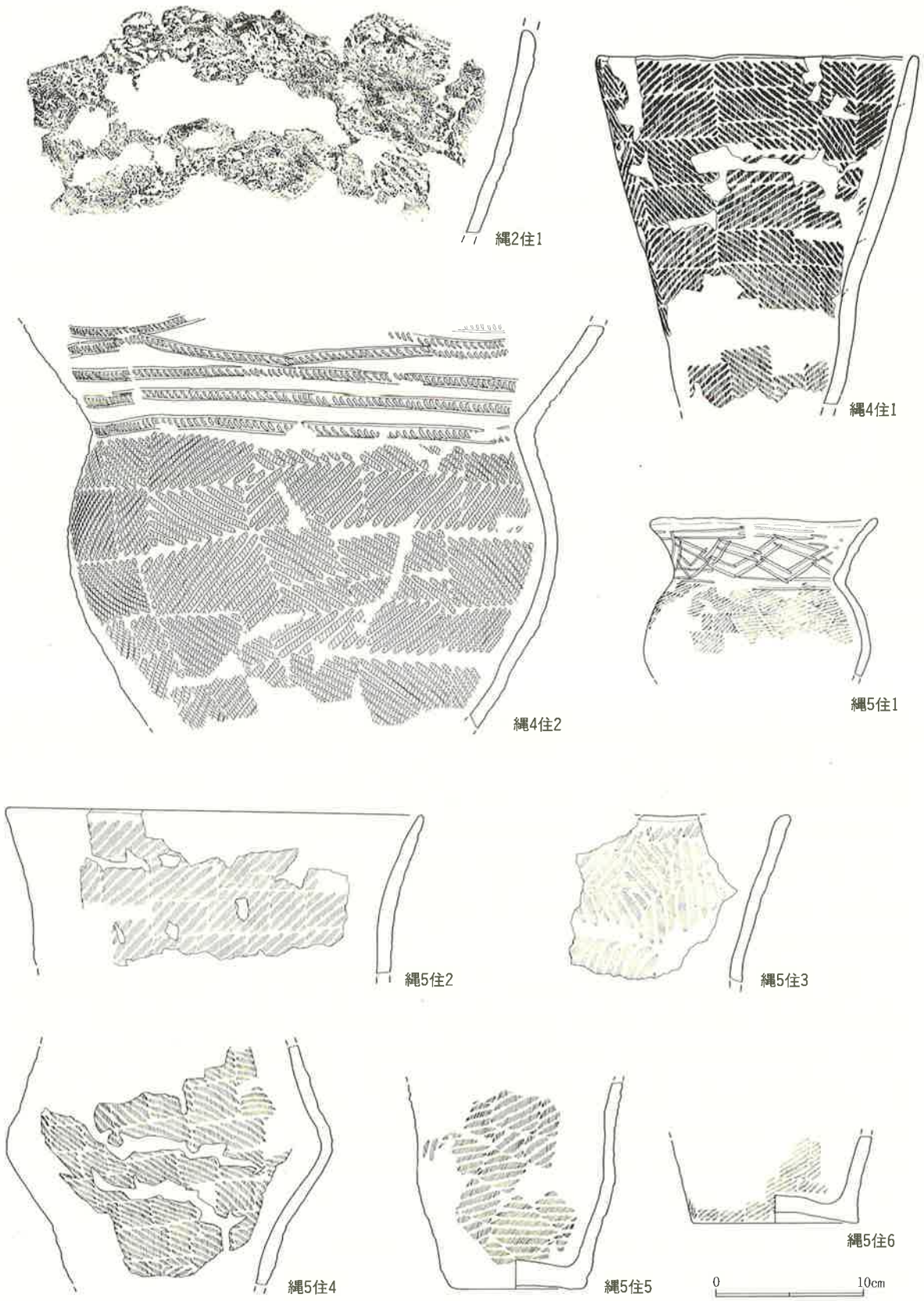
1は甕胴部破片。器壁は僅かに張り、遺存高13.7㎝、器厚1㎝程を測る。外･内面共に赤褐色を呈し、内面に少量の煤付着。焼成は良好で、胎土に多量の繊維と砂礫混入。外面は著しく摩滅しているが、一部には縄文が遺存している。原体は無節R-ℓℓ。内面はやや丁寧に磨かれている。黒浜式。

縄文4号住居跡(第22図、PL62)

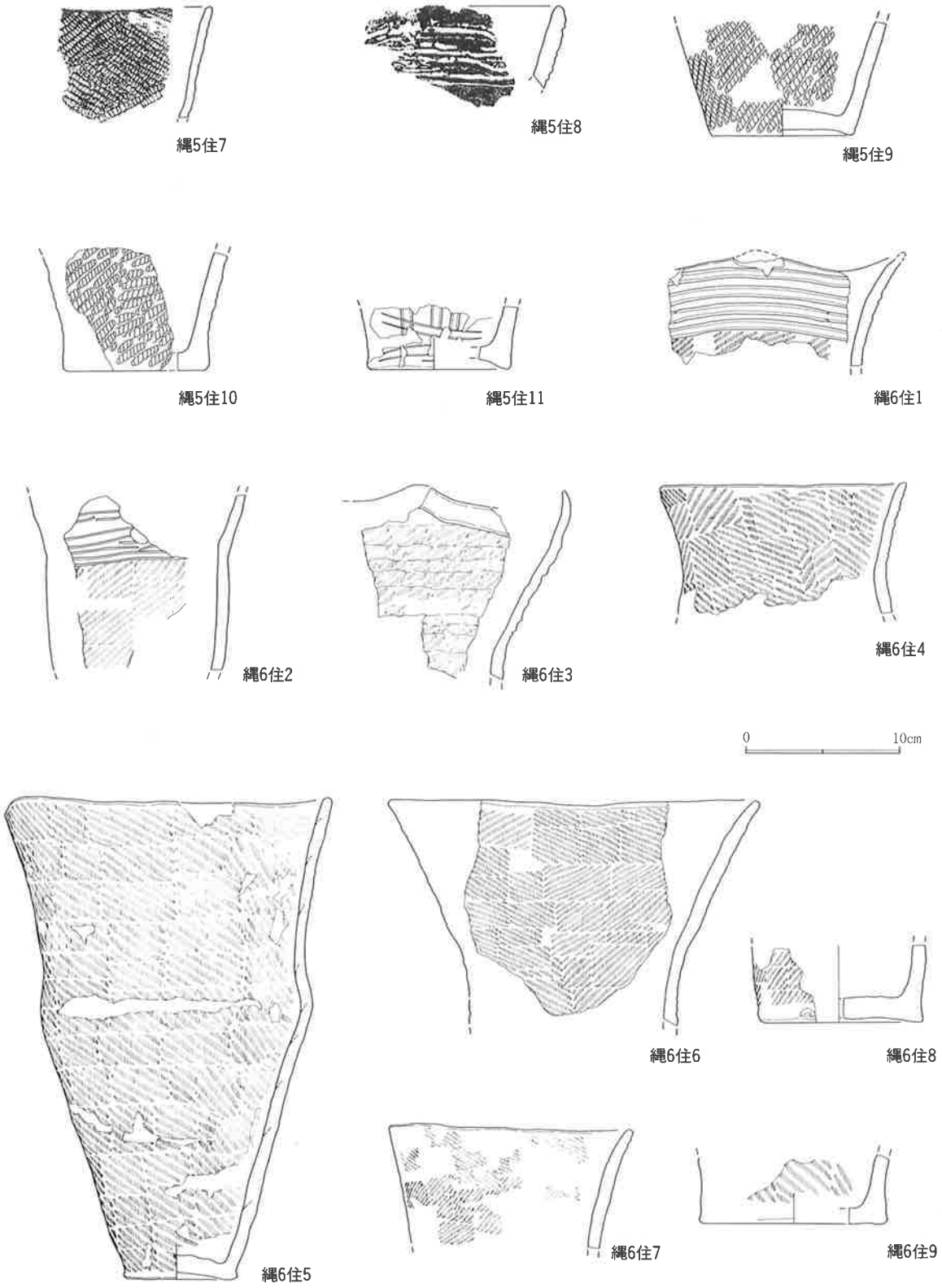
1は深鉢で、底部全損。器壁は直線的に窄まるが、胴部下位が僅かに括れる。口径21㎝、遺存高23.6㎝、器厚1㎝程を測る。外面橙褐色～暗褐色、内面褐色を呈し、胴部上位外面･下位内面に少量の煤付着。焼成悪く脆い。文様は矢羽形羽状縄文で、原体は無節。内面を粗く磨き、口唇部断面は丸く整形されている。**2**は甕で、口唇部･底部を欠損。口縁部は強く外反し、胴部の張り弱い。胴部最大径33㎝、遺存高28㎝、器厚1～1.5㎝程を測る。外面暗褐色～橙褐色を呈し、内面白色がかる赤褐色を呈す。胴部中位外面･下位内面には少量の煤付着。焼成悪くやや脆い。胎土に多量の繊維と少量の砂礫混入。文様は口縁部～頸部に半截竹管による連続爪形文を横位･菱形に配し、胴部に羽状縄文(単節)を菱形を意識して雑然と配す。内面を粗く磨く。**1･2**共に、胎土に多量の繊維と少量の砂礫が混入されている。有尾式。

縄文5号住居跡(第22･23図、PL62)

1は甕で、底部全損。口縁部は強く外反し、胴部は球形を呈す。口径15.5㎝、胴部最大径15㎝、遺存高11㎝程を測る。外面暗褐色～赤褐色を呈し、内面暗褐色を呈す。両面に疎らに煤付着。焼成悪くやや脆い。



第22図　縄文2·4·5号住居跡出土土器

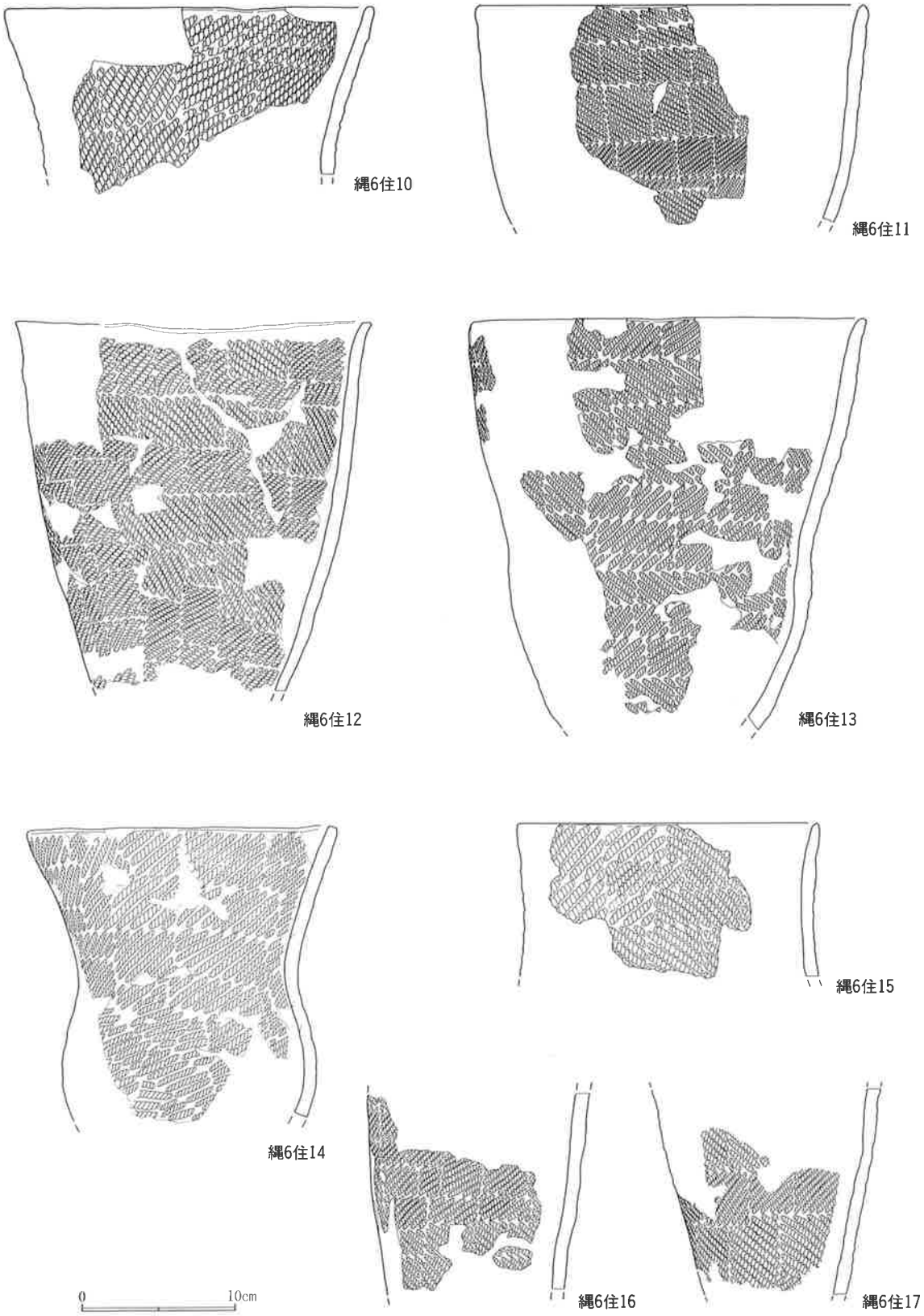


第23図　縄文5·6号住居跡出土土器

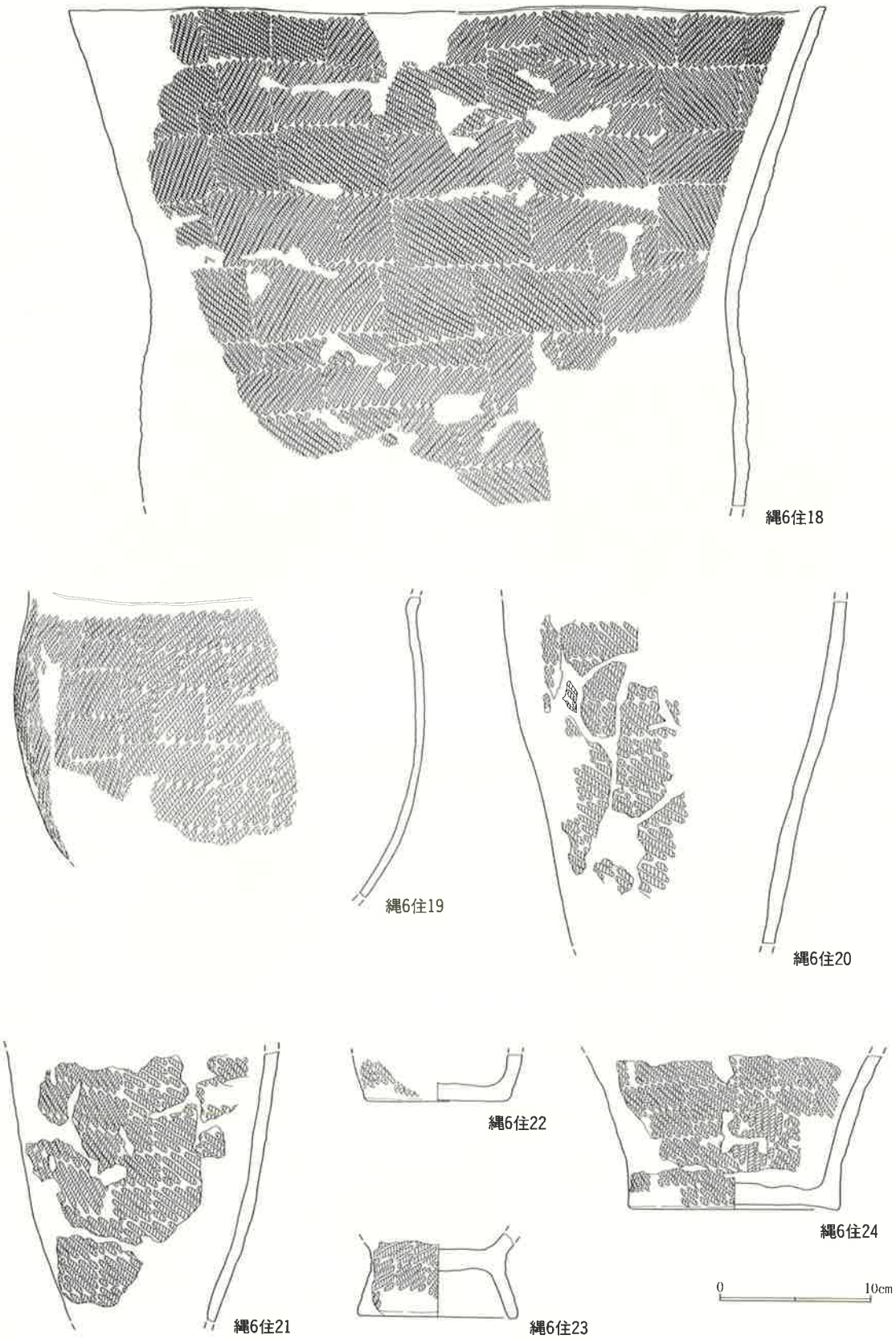
文様は口縁部～頸部に平行沈線を横位·菱形に２条１単位で配し、胴部に無節R-ℓℓ縄文を配す。内面はやや丁寧に磨かれ、口唇部断面を丸く整形。**2**は深鉢で、口縁部弱く外反。口径28㎝、頸部径24.3㎝、遺存高11㎝程を測る。内·外面黄褐色。両面に薄く煤付着。焼成は良好。文様は無節R-ℓℓ 縄文。内面は粗く磨かれ、口唇部断面は丸く整形されている。**3**は口縁部破片。器壁はやや外斜する。遺存高11.5㎝、器厚0.7～0.9㎝程を測る。内·外面共に暗褐色を呈し、口唇部内面に煤が多量に付着。焼成良好でやや堅い。文様は矢羽形羽状縄文で、原体は無節。内面はやや丁寧に磨かれている。**4**は甕胴部。器壁は「く」字状に強く張る。最大径22㎝、遺存高16㎝程を測る。外面やや白色がかる黄褐色、内面やや灰色がかる褐色を呈し、両面には少量の煤付着。焼成悪く脆い。文様は無節R-ℓℓ縄文。内面は指圧で粗く整形されている。**5**は深鉢。器壁は直線的に窄まるが、下位が僅かに張る。最大径14.5㎝、底径9㎝、遺存高14㎝程を測る。やや上げ底気味。外面黄褐色、内面灰褐色を呈し、両面に少量の煤付着。焼成悪くかなり脆い。文様は無節L-rr縄文。内·底面共に粗く磨かれている。**6**は胴部下位～底部破片。器壁は外斜し、やや上げ底気味。底径11.2㎝、遺存高6㎝程を測る。焼成良好でやや堅い。文様は無節L-rr縄文。内面は粗く、底部はやや丁寧に磨かれている。**7**は口縁部破片。器壁はやや外斜し、遺存高7㎝、器厚0.5㎝程を測る。内·外面共に暗褐色を呈し、焼成は悪くかなり脆い。文様は菱形羽状縄文で、原体は単節。内面はやや粗く磨かれ、口唇部断面は丸く整形されている。**8**も口縁部破片。器壁はかなり外斜し、遺存高5.5㎝、器厚0.8～1㎝程を測る。外面褐色、内面赤褐色を呈し、焼成悪く脆い。文様は平行沈線による横位文·複線波状文を雑然と配す。内面はやや粗く磨かれ、口唇部断面は丸く整形されている。**9**は胴部下位～底部破片。器壁は外斜し、やや上げ底気味。底径9㎝、遺存高7.5㎝程を測る。外面赤褐色、内面灰褐色を呈す。焼成良好でやや堅い。文様は単節L-RR縄文。内面粗く、底部はやや丁寧に磨かれている。**10**も胴部下位～底部破片。器壁はやや外反し、平底を呈す。底径9.5㎝、遺存高7.5㎝程を測る。外面橙褐色、内面黒色を呈し、焼成良好でやや堅い。文様は単節L-RR縄文。内·底面共にやや丁寧に磨かれている。**11**も底部破片。底径9㎝、遺存高4㎝程を測る。器壁は外斜し、やや上げ底気味。外面赤褐色、内面黒褐色を呈し、焼成は良好でやや堅い。文様は平行沈線を格子状に配す。内·底面は粗く磨かれている。何れの土器も胎土に多量の繊維を含み、**10·11**は微量の砂礫、**1·2·3·6·7·9**は少量の砂礫、**4·5·8**は微量の細粒砂を混入する。何れも黒浜式に属すが、**1·8**は中部地方に分布する有尾式土器の系譜上に位置付けられる。

縄文６号住居跡(第23～26図、PL62·63)

1は甕口縁部。器壁は強く外反し、口唇部はキャリパー形を呈す。遺存高7㎝、器厚0.6～0.9㎝程を測る。外面暗褐色、内面橙褐色を呈し、両面に少量の煤付着。焼成悪く脆い。文様は上位に平行沈線を横位に配し、下位に縄文(無節L-rr原体)を配す。内面は粗く磨かれ、口唇部断面は丸く整形されている。**2**は深鉢胴部。器壁は上位がやや括れる。最大径14㎝、最小径11.7㎝、遺存高11.3㎝、器厚0.7㎝程を測る。外面橙褐色、内面暗褐色を呈し、外面に少量の煤付着。焼成良好。文様は口縁部～頸部に平行沈線による横位文、胴部に縄文(無節L-rr原体)を配す。内面は粗く磨かれている。**3**は甕口縁部。器壁は弱く外反し、口唇部はキャリパー形を呈し直立する。遺存高13㎝、器厚0.5～0.8㎝程を測る。内·外面共に暗褐色を呈し、焼成悪くやや脆い。文様は縄文を断面階段状を成す外面の平坦部に配し、原体は無節L-rr。内面は粗く磨かれ、口唇部断面は丸く整形されている。**4**は甕口縁部～頸部。口縁部は弱く外反。口径16㎝、頸部径13㎝、遺存高8.5㎝、器厚0.5～0.8㎝程を測る。外·内面共に暗褐色を呈し、焼成良好でやや堅い。文様は羽状縄文で、原体は無節。内面はやや丁寧に磨かれ、口唇部断面は平坦に整形されている。**5**は深鉢で、完形に近い。口縁部やや外反し、胴部中位は僅かに張る。やや上げ底。口径21㎝、胴部中位径17.5㎝、底径7.5㎝、器高30.6㎝、器厚0.8～1.0㎝



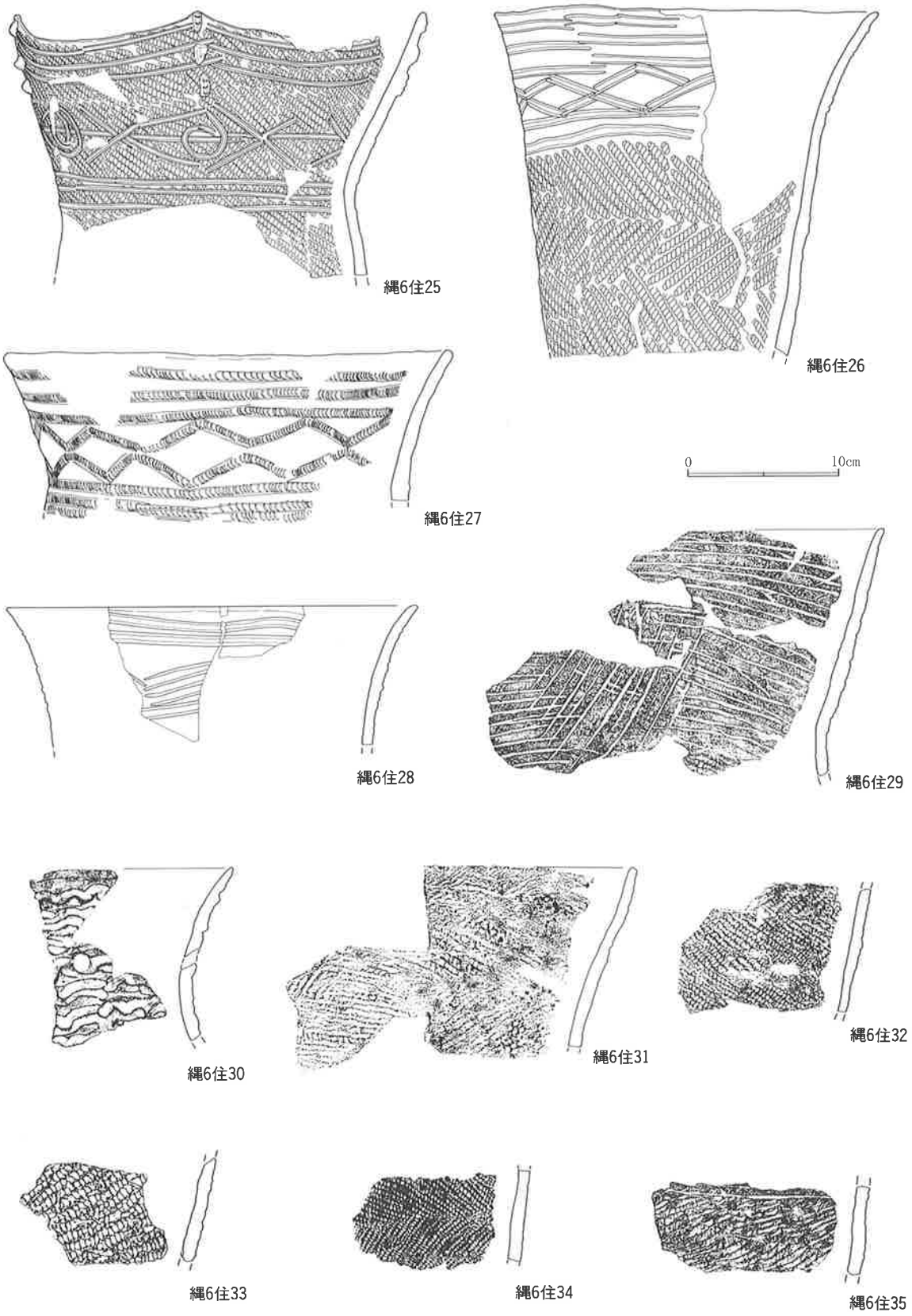
第24図　縄文6号住居跡出土土器



第25図　縄文6号住居跡出土土器

程を測る。外面暗褐色～橙褐色、内面橙褐色を呈し、口縁部両面と底部内面に少量の煤付着。焼成悪く脆い。文様は無節R-ℓℓ縄文。内面は粗く、底部はやや丁寧に磨かれている。口唇部断面は丸く整形されている。**6**は深鉢の口縁部～胴部上位である。口縁部はやや外反し、胴部は直立する。口径24㎝、胴部最小径13.5㎝、遺存高14.5㎝、器厚0.6～0.9㎝程を測る。内·外面共に暗褐色を呈し、焼成悪くやや脆い。文様は菱形羽状縄文で、原体は単節。内面をやや丁寧に磨く。口唇部断面は平坦に整形されている。**7**も深鉢の口縁部。器壁はやや外反する。口径15.7㎝、最小径12.1㎝、遺存高7.5㎝程を測る。内·外面共に褐色を呈し、焼成悪くやや脆い。文様は矢羽形羽状縄文で、無節。内面は粗く磨かれ、口唇部断面は平坦に整形されている。**8**は底部破片。やや上げ底を呈し、底径10.5㎝程を測る。内·外面共に橙褐色を呈し、焼成良好でやや堅い。文様は無節L-rr縄文。内面は粗く磨かれ、底部に網代痕を残す。**9**も底部破片。平底を呈し、底径12㎝程を測る。内外面共に橙褐色を呈し、焼成良好でやや堅い。文様は無節R-ℓℓ縄文。内·底面は粗く磨かれている。**10**は深鉢口縁部。口縁部はやや外反する。口径24㎝、最小径19㎝、遺存高11㎝程を測る。内·外面共に暗褐色を呈し、焼成良好で堅い。文様は羽状縄文で、原体は単節L-RR。内面はやや丁寧に磨かれ、口唇部断面は平坦に整形されている。**11**は鉢で、底部欠損。口唇部は僅かに外反し、胴部は下方に湾曲して窄まる。口径25.4㎝、胴部最小径22㎝、遺存高14㎝程を測る。内·外面共に黒褐色を呈し、焼成良好でやや堅い。文様は羽状縄文で、原体は単節R-LLが主体であるが、胴部中位にはL-RRに配す。内面は粗く磨かれ、口唇部断面は丸く整形されている。**12**は深鉢で、底部欠損。口唇部は僅かに外反し、胴部は下方に内湾して窄まる。口径22.2㎝、胴部最小径12.7㎝程を測り、遺存高24㎝程を測る。外面赤褐色、内面黄褐色を呈し、口縁部～胴部上位外面には煤付着。焼成悪くやや脆い。文様は菱形羽状縄文で、原体は単節。内面はやや丁寧に磨かれており、口唇部断面は凹状に整形される。**13**は深鉢で、底部欠損。口唇部は僅かに外反し、胴部中位は僅かに括れる。口径25.5㎝、胴部最小径12.8㎝、遺存高26.7㎝程を測る。内·外面共に赤褐色を呈し、口縁部外面には少量の煤付着。焼成良好で、やや堅い。文様は菱形羽状縄文で、原体は単節。口唇部断面は丸く整形されている。**14**は甕で、胴部下位～底部欠損。口縁部はやや外斜し、胴部は弱く張る。口径20.3㎝、頸部径9.4㎝、胴部最大径15.5㎝、遺存高18.5㎝程を測る。外面に少量の煤付着。焼成良好でやや堅い。文様は単節L-rr縄文。内面はやや丁寧に磨かれ、口唇部断面は平坦に整形されている。**15**は甕口縁部。器壁はほぼ直立する。口径19.8㎝、遺存高10㎝程を測る。内·外面共に暗褐色を呈し、外面に少量の煤付着。焼成良好でやや堅い。文様は単節L-RR縄文。内面はやや粗く磨かれ、口唇部は断面丸く整形されている。**16**は深鉢胴部。器壁は僅かに外斜する。最大径14.5㎝、最小径11.6㎝、遺存高12.7㎝程を測る。内面に少量の煤付着。焼成良好でやや堅い。文様は矢羽形羽状縄文で、原体は単節。内面は粗く磨かれている。**17**は深鉢胴部。器壁はやや外斜する。最大径15㎝、最小径9.2㎝、遺存高13.5㎝程を測る。焼成良好でやや堅い。文様は矢羽形羽状縄文で、原体は単節。内面は粗く磨かれている。**18**は甕口頸部。口縁部は外斜し、頸部は強く屈曲する。口径40.8㎝、頸部径38.8㎝、遺存高31㎝程を測る。口縁部外面に少量の煤付着。焼成良好でやや堅い。文様は菱形羽状縄文で、原体は単節。内面はやや丁寧に磨かれ、口唇部断面は丸く整形されている。**19**は鉢胴部。器壁は弱く張り、最大径26.9㎝、遺存高20㎝程を測る。内·外面共に橙褐色を呈し、外面に疎らに煤付着。焼成悪くやや脆い。文様は単節L-RR縄文。**20**は深鉢胴部。器壁はやや外斜する。最大径22.5㎝、最小径13.4㎝、遺存高22.5㎝程を測る。外面に少量の煤付着。焼成悪く脆い。文様は単節R-LL縄文。内面は粗く磨かれている。**21**は深鉢胴部。器壁は僅かに内湾して窄まり、最大径17.8㎝、最小径9.4㎝、遺存高17.6㎝程を測る。内·外面共に赤褐色を呈す。焼成悪くやや脆い。文様は単節R-LL縄文。内面は粗く磨かれる。**22**は底部破片。平底で、底径9.5㎝程

を測る。外面赤褐色、内面白褐色を呈し、底面に少量の煤付着。焼成悪く脆い。文様は単節R-LL縄文。内·底面ともに粗く磨かれている。**23**は高台部破片。断面台形を呈し、上径6.5㎝、下径10.5㎝、台高5.5㎝程を測る。内·外面共に褐色を呈し、器体内面に煤が多量に付着。焼成良好でやや堅い。文様は単節L-RR縄文。台部内面は粗く磨かれている。**24**は甕の胴部下位～底部。底径14㎝、遺存高10㎝程を測る。器壁はやや強く外反し、やや上げ底気味。内·外面共に橙褐色。焼成良好でやや堅い。文様は単節R-LL縄文。内面粗く、底部はやや丁寧に磨かれ、一部に網代痕を残す。**25**は甕の口頸部。口径27.5㎝、頸部径19.8㎝、遺存高17.5㎝程を測る。口唇部はキャリパー形を呈し、口縁部はやや外斜する。頸部は「く」字状に屈曲する。口縁部外面に少量の煤付着。焼成良好。文様は縄文(単節R-LL原体)を配し、重ねて沈線による横位文·コンパス文·渦巻状文を配す。また口唇部付近には豆粒状の貼付文を縦に配す。内面は粗く磨かれ、口唇部断面は丸く整形されている。**26**は深鉢で底部欠損。口縁部はやや外反し、胴部は直線的に窄まる。口径25.3㎝、胴部最小径15.7㎝、遺存高25.3㎝程を測る。内·外面共に褐色を呈し、胴部中位外面には少量の煤付着。焼成悪くやや脆い。文様は口縁部に平行沈線による横位文·菱形文、胴部に矢羽形羽状縄文(原体単節)を配す。口唇部断面は丸く整形されている。**27**は甕口縁部。器壁は弱く外反し、口径29.8㎝、遺存高10㎝程を測る。外面やや赤色がかる褐色、内面橙褐色を呈し、口縁部外面には疎らに煤付着。焼成良好でやや堅い。文様は半截竹管による爪形文を横位·菱形に配す。内面は粗く磨かれ、口唇部断面は平坦に整形されている。**28**は深鉢口縁部。器壁はやや外反する。口径27.4㎝、遺存高8.3㎝程を測り、器厚は0.5㎝程と薄い。内面に多量の煤付着。焼成良好で堅い。文様は平行沈線を横位·山形に配す。内面は丁寧に磨かれている。**29**は甕口頸部。口縁部はやや外斜し、頸部は弱く括れる。遺存高15.4㎝程を測る。外面に煤付着。焼成悪くやや脆い。文様は矢羽形羽状縄文(原体単節)をやや磨り消し、重ねて平行沈線を横位·斜めに配す。内面は粗く磨かれ、口唇部断面は丸く整形されている。**30**も甕口頸部。口縁部はやや外反し、頸部の括れも弱い。頸部には小孔が穿たれている。遺存高11.5㎝程を測る。外面暗褐色、内面黄褐色を呈し、内面には多量の煤付着。焼成悪く脆い。文様は複線波状文を横位に配す。内面は粗く磨かれ、口唇部断面は丸く整形されている。**31**は深鉢口縁部。口唇部は直立し、器壁はやや外斜する。遺存高12㎝程を測る。外面に煤が多量に付着。焼成良好でやや堅い。文様は矢羽形羽状縄文で、原体は無節。内面は比較的丁寧に磨かれ、口唇部断面は丸く整形されている。**32**は胴部破片。遺存高8㎝、器厚0.6㎝程を測る。焼成悪く脆い。文様は矢羽形羽状縄文で、原体は単節。内面は粗く磨かれている。**33**も胴部破片。遺存高7㎝程を測る。外面橙褐色、内面黄灰褐色を呈し、焼成悪く脆い。文様は単節L-RR縄文。内面は丁寧に磨かれている。**34**も胴部破片で、遺存高6㎝程を測る。外面橙褐色、内面黒褐色を呈し、焼成悪くやや脆い。文様は矢羽形羽状縄文で、原体は単節R-LLと無節L-rrを上から交互に配す。内面は粗く磨かれている。**35**も胴部破片。遺存高6㎝程を測る。焼成悪くやや脆い。文様は矢羽形羽状縄文で、原体は無節L-rr。内面は粗く磨かれている。**4·6·8·9·10·11·13·22·24·26**以外は、胎土に多量の繊維と砂礫を混入する。**30**のみ前期関山式に属す。他は前期黒浜式に属すが、**1·2·28·29**は有尾式。



第26図　縄文6号住居跡出土土器

1－2．住居跡出土石器　（　）は、長さ·幅·厚さ·重さの数値で、単位はcm·gを表す。

縄文2号住居跡(第27図、PL64)

1は黒色頁岩製の石核である(6.4·6.6·2.8·125.1)。

縄文3号住居跡(第27·28図、PL64)

1は黒色頁岩製の石錐。角形のつまみで、つまみ部から錐部までを整形する(3.3·1.6·0.7·3.3)。**2**は黒色頁岩製の不定形スクレイパーである(10.1·7.0·2.2·169.4)。**3**は石英閃緑岩製の平面楕円形を呈する凹み石である。**4·5**は粗粒輝石安山岩製の平面不整円形を呈する凹み石である(**3**-10.3·6.5·4.2·427.6、**4**-10.3·8.1·4.6·564.8、**5**-10.7·8.9·4.3·624.8)。

縄文4号住居跡(第27·29図、PL64)

1～7は不定形のスクレイパーで、剥片を素材とする(**1**-5.2·6.6·1.9·59.3、**2**-6.6·5.3·1.8·45.6、**3**-7.4·5.2·1.8·55.4、**4**-7.4·5.4·1.5·60.9、**5**-8.4·13.7·1.7·174.5、**6**-6.3·5.1·1.0·34.3、**7**-4.6·6.8·1.8·48.6)。**8**は黒色頁岩製の剥片である(7.3·3.3·1.4·32.9)。**9**は変玄武岩製の磨製石斧である(10.6·4.8·2.7·265.1)。**10·11**は粗粒輝石安山岩製の石皿である。両者共、周縁および裏面に小さな窪みを多数もつ。

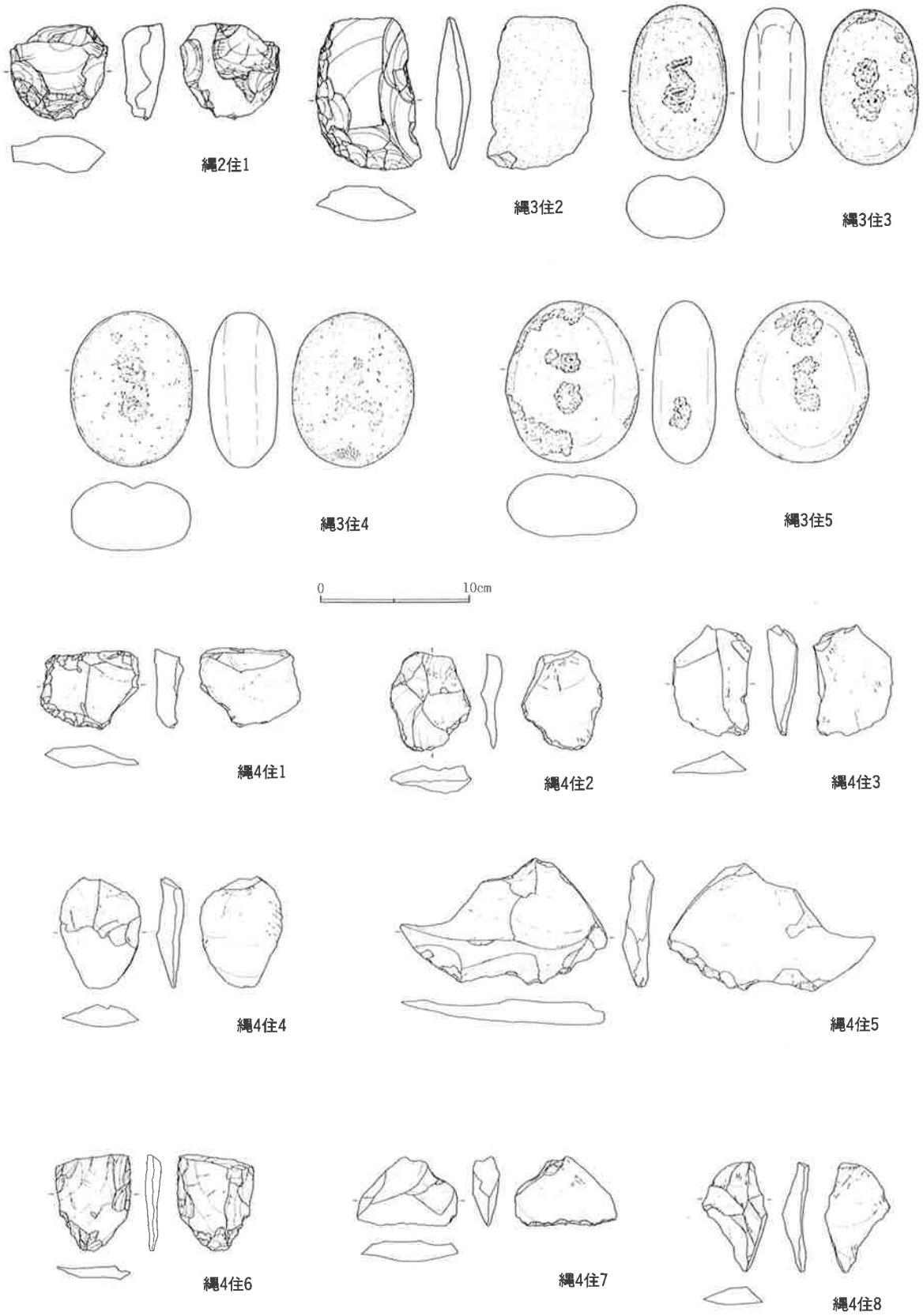
縄文5号住居跡(第28～31図、PL65～67)

1は滑石製の臼玉である。いびつな整形で、表裏両面から穿孔されている(1.2·1.0·0.5·0.8)。**2**は周溝から出土した黒色頁岩製の石槍である。基部を若干欠損するが、ほぼ完形である。両側縁方向から調整を施して槍先形に仕上げているが、やや調整が雑である。表面はかなり摩耗している(7.5·2.3·1.0·19.3)。**3**は黒色頁岩製で石篦に分類されるが、機能からいえば掻器の一種と考えられる(7.7·3.9·1.9·64.0)。**4～15**は黒色頁岩製のスクレイパーである。**5～10**は剥片素材の不定形のスクレイパーである。**11～15**は横長の剥片を素材にしたエンドスクレイパーである。刃部以外の加工痕は少ない(**4**-4.9·5.4·0.6·13.9、**5**-6.8·3.5·0.9·21.4、**6**-5.9·5.3·1.3·38.3、**7**-10.3·4.5·1.8·81.6、**8**-6.9·5.7·1.5·54.9、**9**-8.7·6.1·1.3·89.1、**10**-7.6·9.0·2.9·122.5、**11**-4.0·6.3·1.1·28.4、**12**-5.4·9.6·1.9·85.5、**13**-6.7·10.3·1.8·99.9、**14**-4.9·10.1·1.9·107.8、**15**-4.6·11.6·1.4·56.0)。**16**は大型の剥片を使用した石器であるが、機能·用途は不明。黒色頁岩製。剥片を横長に加工しているが、刃部を作り出さず、プランティングを行っている。また石器上端は平坦な自然面が残っているが、敲打などの使用·加工の痕跡は認められない。下端はやや尖っているものの、刺突などに使用したものではない(14.9·5.6·2.6·233.1)。**17**は変玄武岩製で、小型の定角式磨製石斧である(8.7·2.2·2.9·119.0)。使用痕残る刃部破片である。**18～25**は凹み石である。石材は、**25**のみ石英閃緑岩製で、他は粗粒輝石安山岩製である。平面楕円形を呈する**18**以外は、不整ながらも円形を呈する。何れも全面を擦って整形しているが、石材が粗いため、表面の擦痕を看取できるものは少ない。また8点の内、**25**は器形が変化するほど使用されている(**18**-14.5·8.4·4.6·841.9、**19**-8.8·7.5·3.9·366.8、**20**-9.6·7.7·5.25·36.2、**21**-9.5·7.4·3.7·412.0、**22**-10.0·7.7·3.3·404.7、**23**-10.1·9.0·5.0·729.1、**24**-11.0·8.5·4.6·640.1、**25**-11.4·8.9·4.0·642.3)。**26·27**は粗粒輝石安山岩製で、**28**は石英閃緑岩製の磨石である。**27**は、敲打痕が摩耗している。**28**は縁辺に敲打痕が顕著で、表裏面にはそれほどの使用痕はない(**26**-9.1·6.6·4.7·418.1、**27**-8.6·8.1·4.8·517.5、**28**-11.2·7.5·2.9·402.5)。

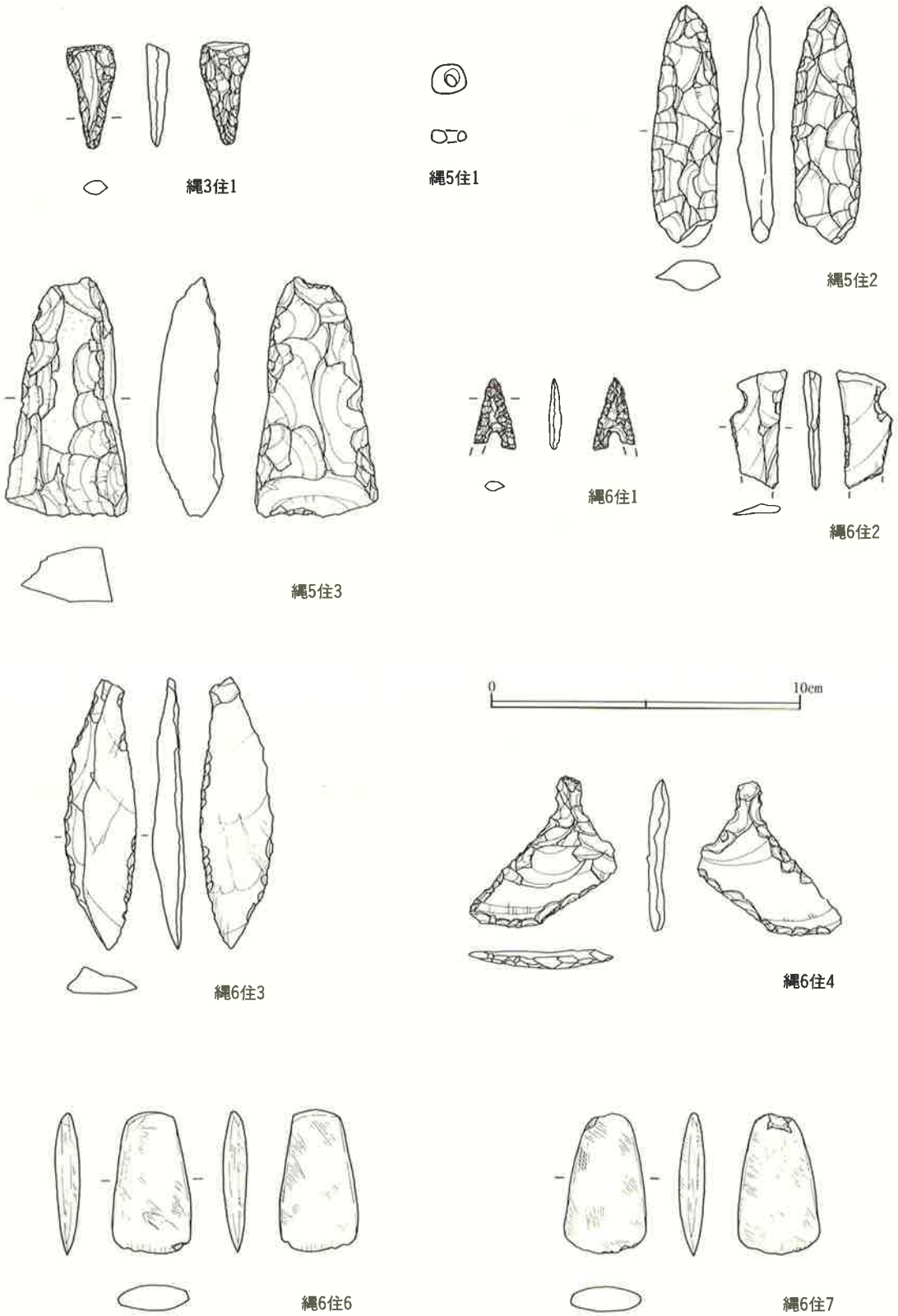
なお、**2·4·5·11·16**は周溝内からの出土である。

縄文6号住居跡(第28·31·32図、PL65·67)

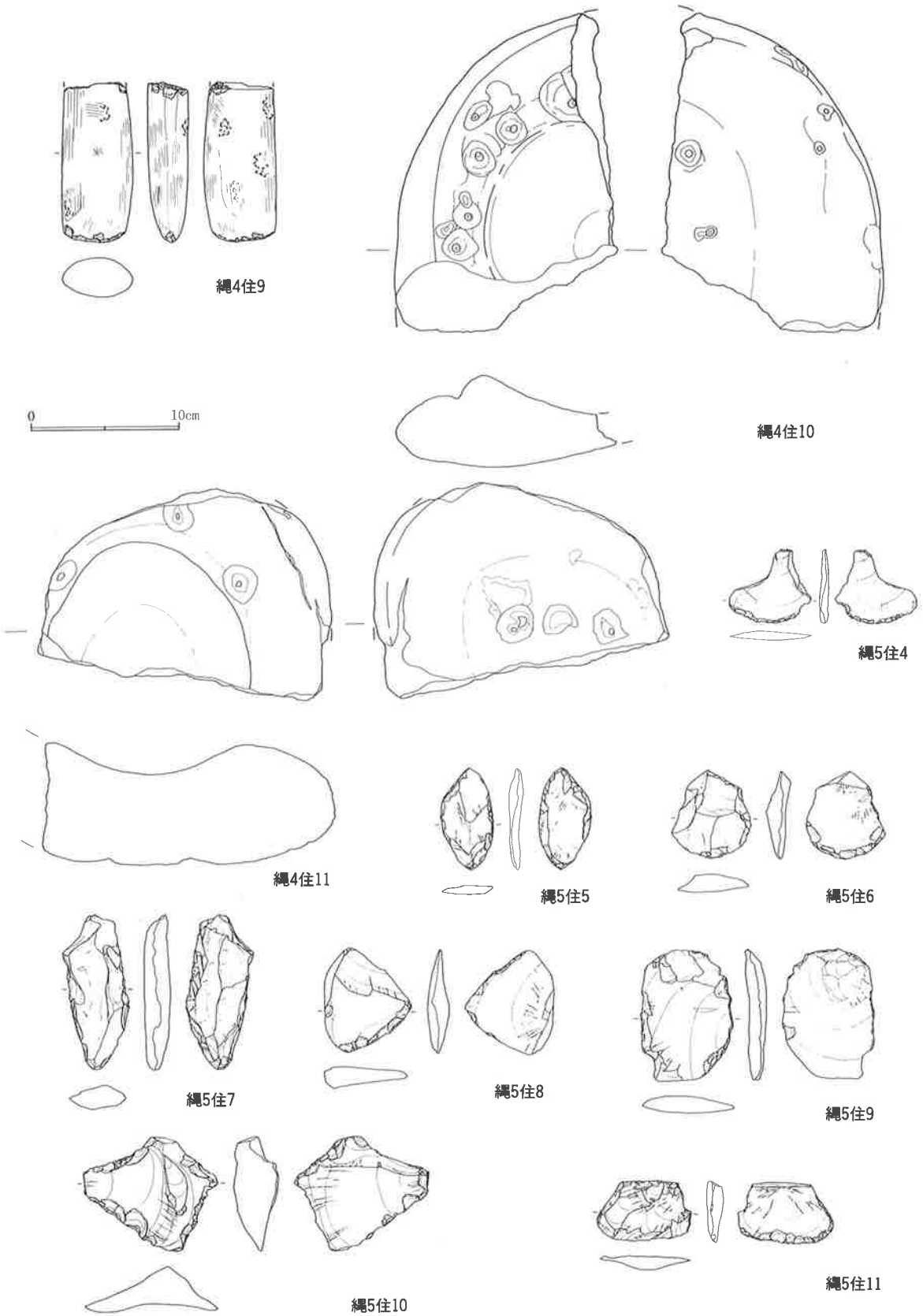
1は硬質頁岩製の石鏃である(2.3·1.3·0.4·0.8)。**2～5**は黒色頁岩製の石匙である。**2·3**は縦型、**4·5**は横型に分類される。何れもつまみ部の作り出しが粗雑で、肩部の抉りもあまり深くない(**2**-3.8·1.8·0.5·2.6、**3**-8.6·2.3



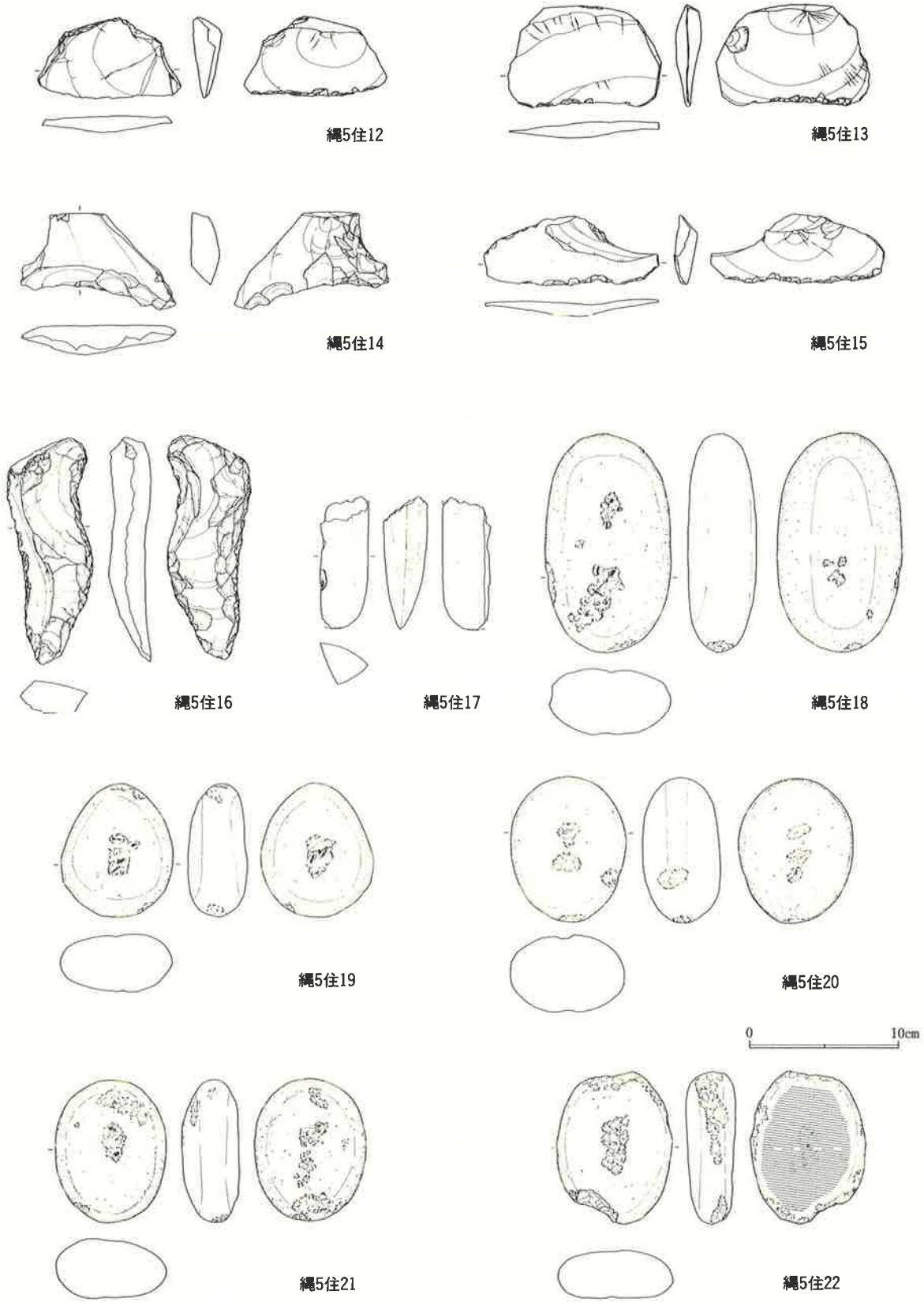
第27図　縄文2·3·4号住居跡出土石器



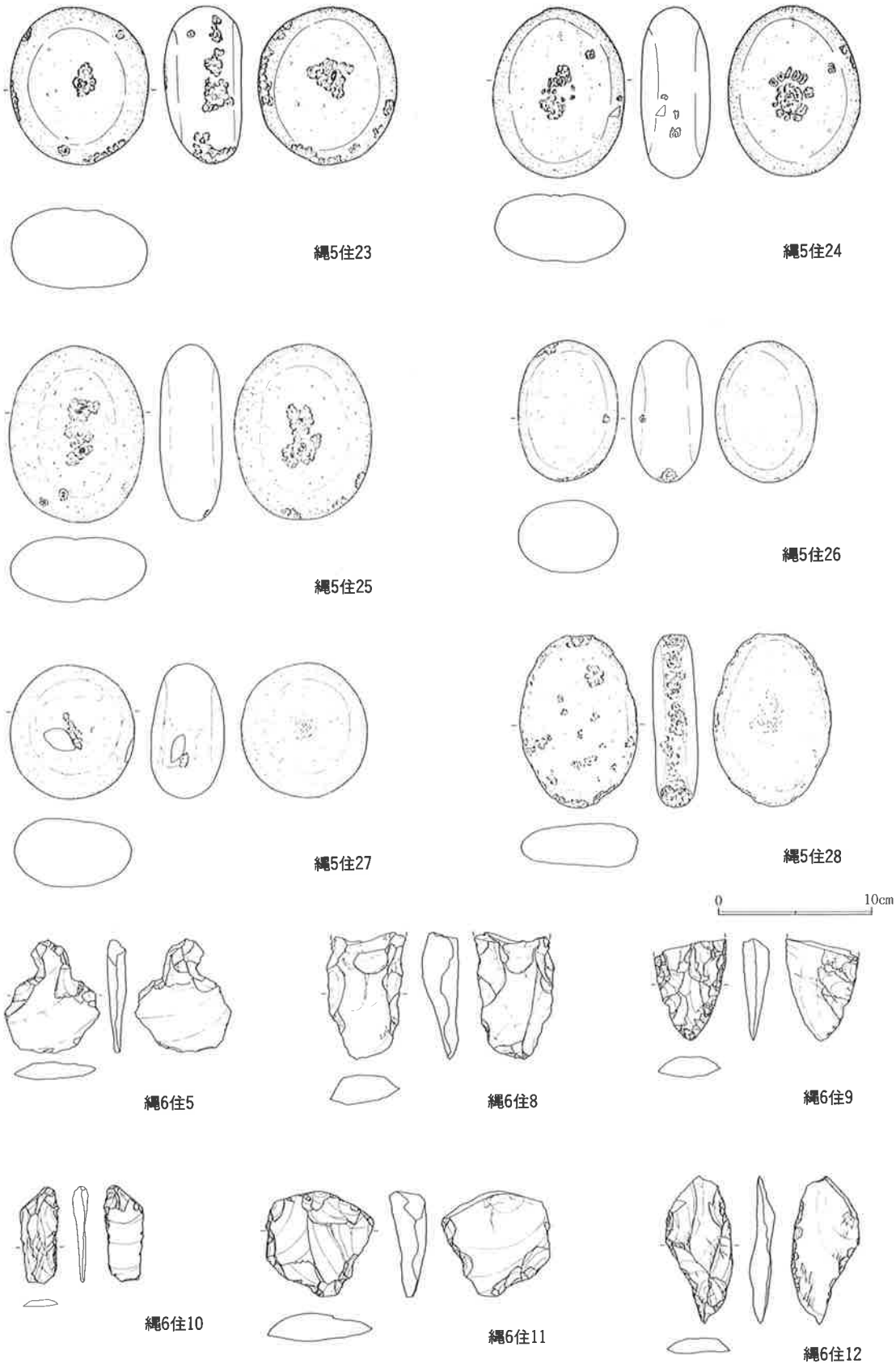
第28図　縄文3·5·6号住居跡出土石器



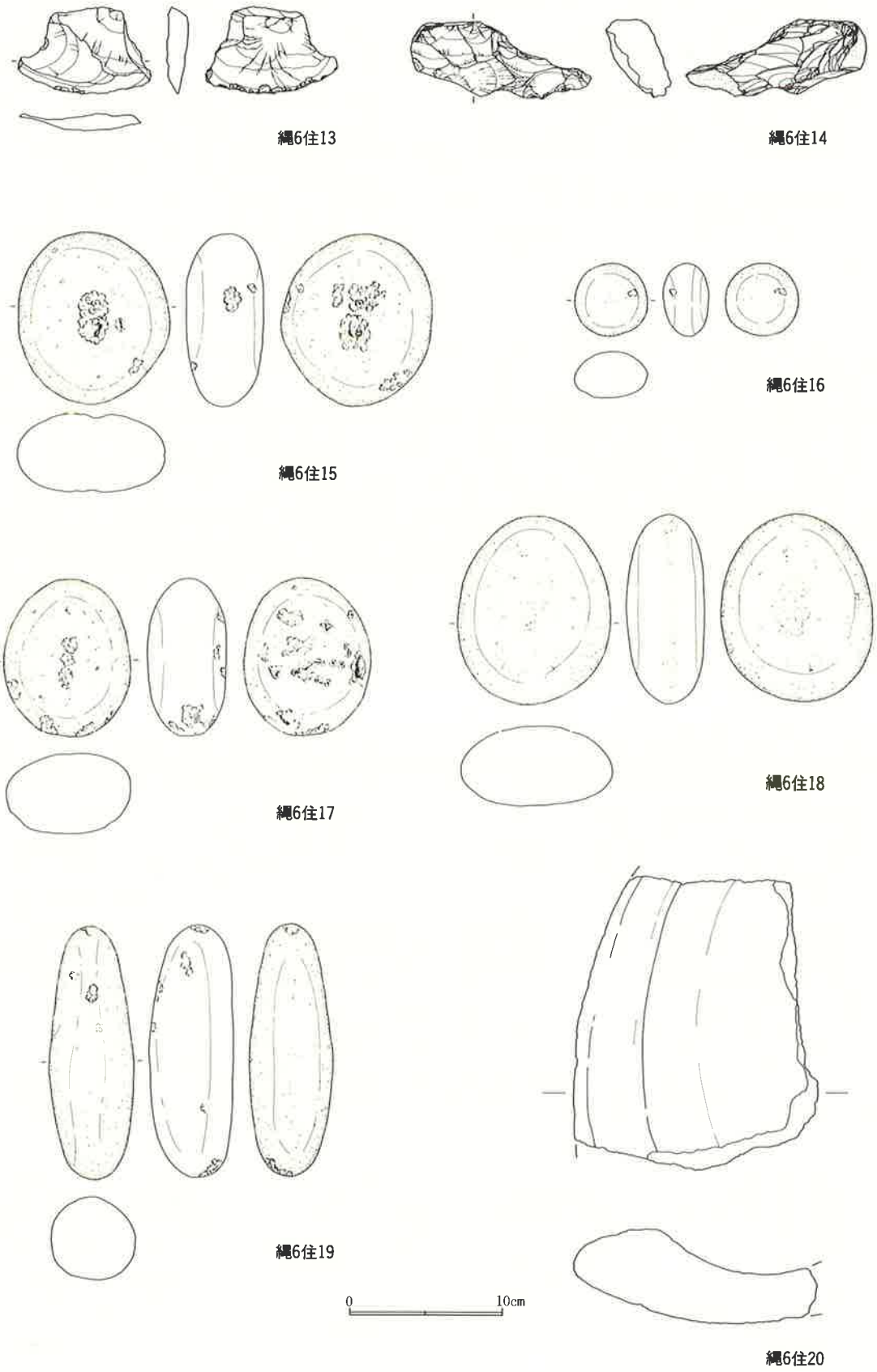
第29図　縄文4·5号住居跡出土石器



第30図　縄文5号住居跡出土石器



第31図　縄文5·6号住居跡出土石器



第32図　縄文6号住居跡出土石器

·0.9·17.6、**4**-4.9·4.6·0.5·8.7、**5**-7.3·6.3·1.1·44.4)。**6**・**7**は蛇文岩製で、小型の定角式磨製石斧である。表面は滑らかに整形されている。刃部に使用痕(**6**-4.5·2.5·0.7·13.3、**7**-4.5·2.6·0.8·14.6)。**8**は黒色頁岩製の打製石斧である(8.3·5.2·2.3·107.2)。**9**〜**13**は黒色頁岩製のスクレイパーである。**9**は整った木葉型の一部にみえるが、主に背面に加工時の剥離が認められ、腹面からの調整は少ない。**10**〜**12**は剥片を素材とする不定形のスクレイパーである(**9**-6.6·4.7·1.7·46.1、**10**-6.3·2.5·1.0·13.0、**11**-6.9·7.0·2.2·102.6、**12**-9.6·4.4·1.4·43.1、**13**-5.5·8.6·1.3·59.0)。**14**は黒色頁岩製の石核である(5.0·11.8·3.1·166.3)。**15**は粗粒輝石安山岩製の凹み石である。不整円形を呈する(11.1·9.9·5.0·723.1)。**16**〜**18**は磨石である。**16**・**18**は粗粒輝石安山岩製、**17**は石英閃緑岩製である(**16**-4.7·4.7·3.0·84.2、**17**-10.1·8.3·5.1·661.0、**18**-12.2·9.9·5.2·975.5)。**19**は粗粒輝石安山岩製の敲石である。一部に使用痕が認められる(16.4·5.4·5.4·716.5)。**20**は粗粒輝石安山岩製の石皿である。

2．土　坑(第33〜60図、第9〜20表、PL8〜36·68〜72)

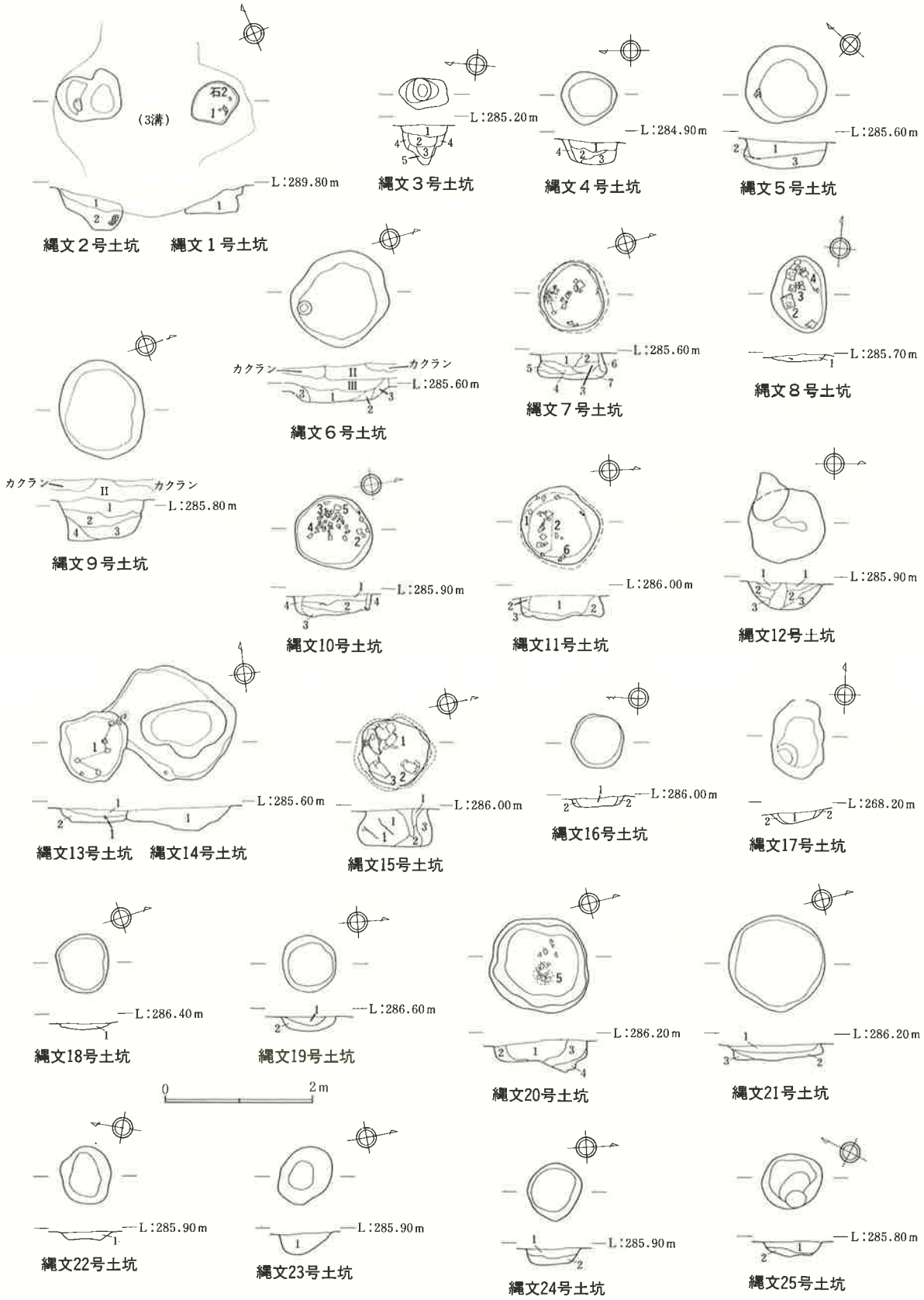
本遺跡からは、縄文時代に属す土坑が553基と、数多く検出されている。土坑の検出状況は、第16·17図に示した通りである。

大半の土坑は、縄文①調査区に集中しており、同区からは該期の竪穴式住居も検出されている。従って、検出された土坑は住居跡群との共伴関係が想定された。

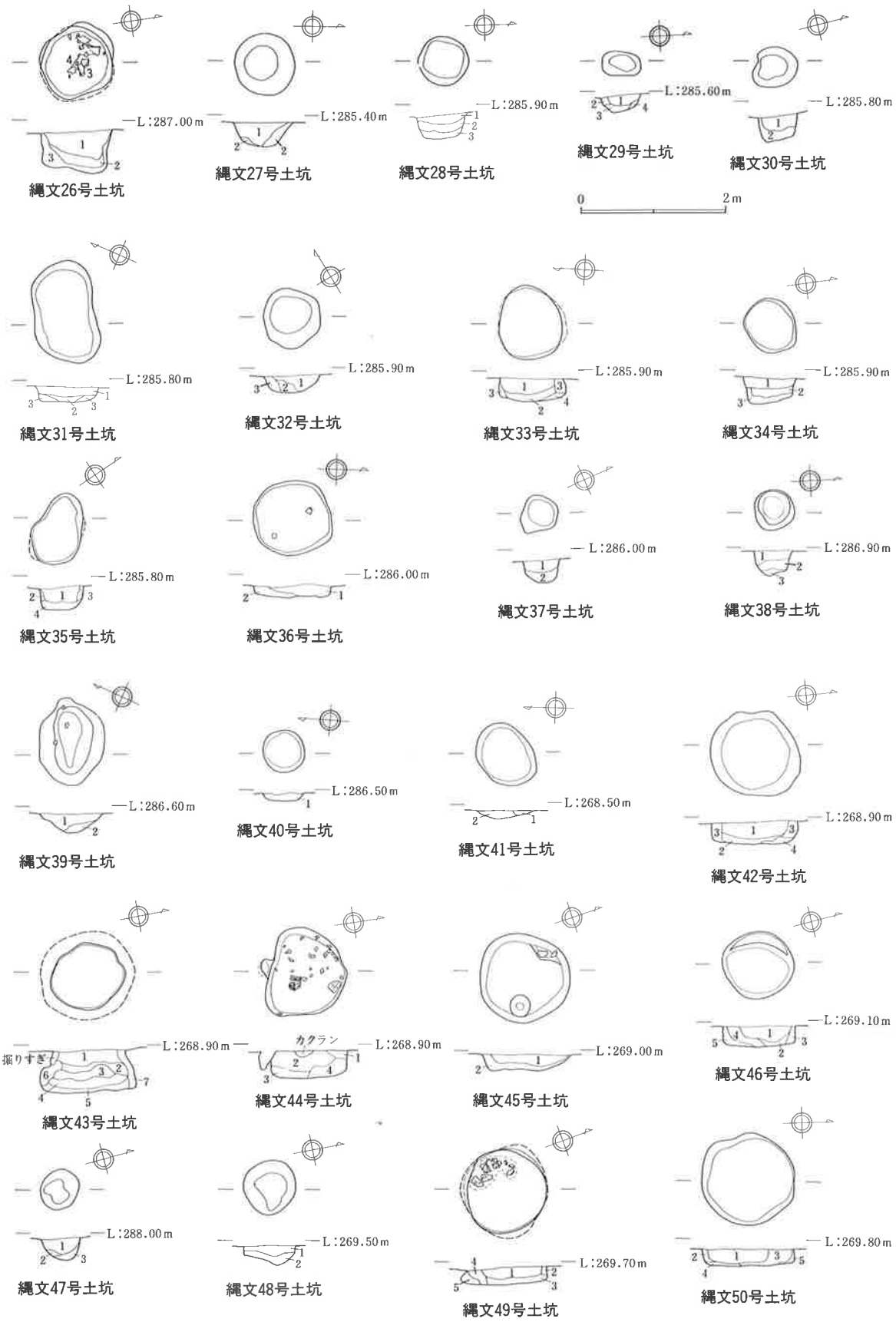
この縄文①調査区は開析台地の南斜面に位置しており、周辺には樹枝状に谷地が発達している。この谷地を西に臨む縄文①調査区は緩やかに南へ傾斜しているが、特に南部ではやや急勾配を呈している。本区西部〜南部には縄文1〜3·5·6号住居跡が弧を描いて立地している。その近辺と調査区西側はやや緩斜面であり、ここが集落の中心部になると考えられる。以上から、縄文①調査区にて検出された住居跡群は、言わゆる馬蹄形·環状集落であると捉えられた。但し、縄文4号住居跡のみ、北東部の高所に住居跡群とやや距離を隔てて位置しており、立地を異にしている。

縄文②調査区は、縄文①調査区の北に位置している。西の谷地に向かうやや急斜面にて、7基の土坑が散在して検出されている。

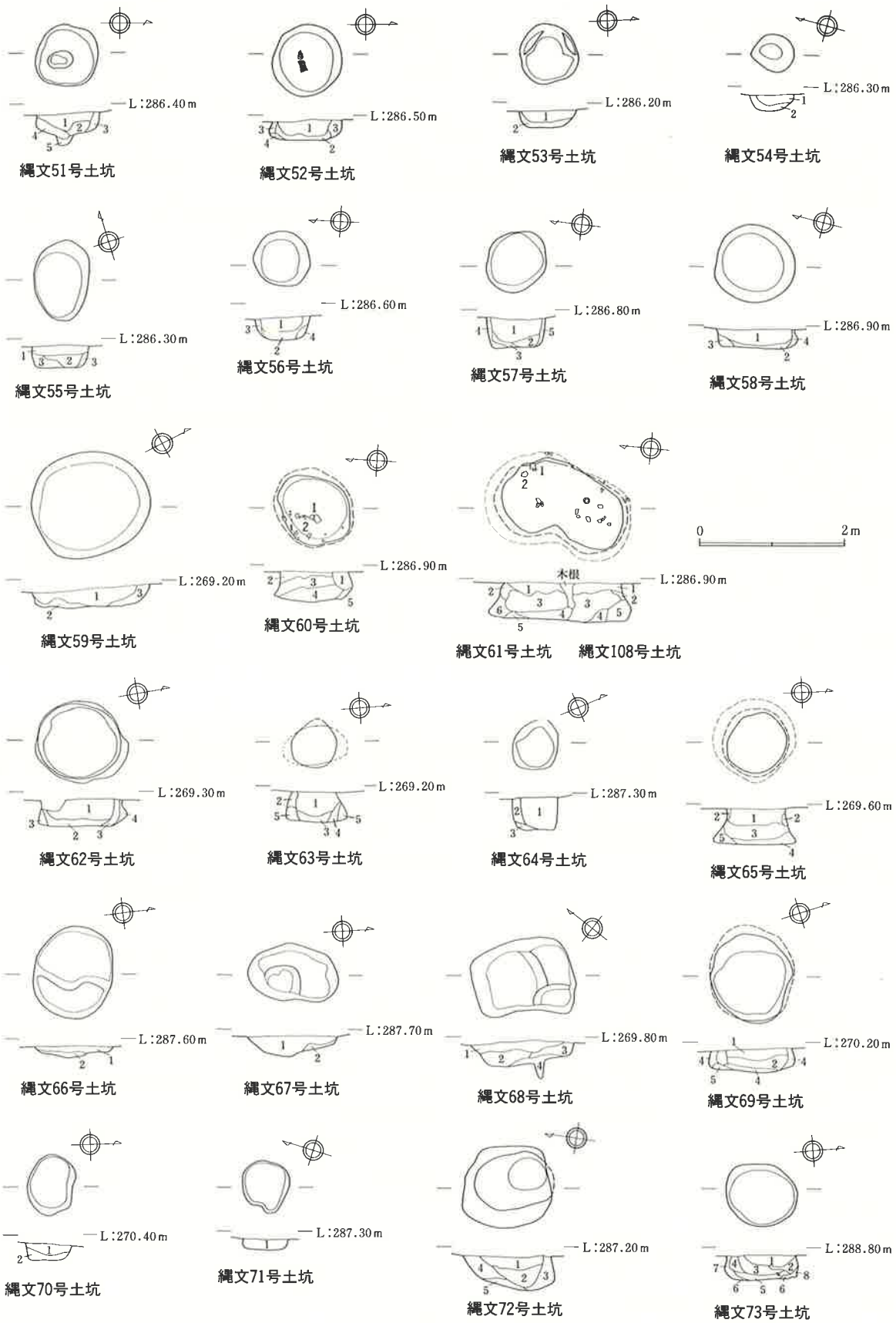
縄文⑤調査区は、縄文①調査区の東に位置している。緩やかな南斜面にて、9基の土坑が検出されている。縄文遺構空白域を挟んで、本調査区は①調査区と180m程を測る距離にあり、その立地から住居跡の存在も懸念されたが、検出されなかった。



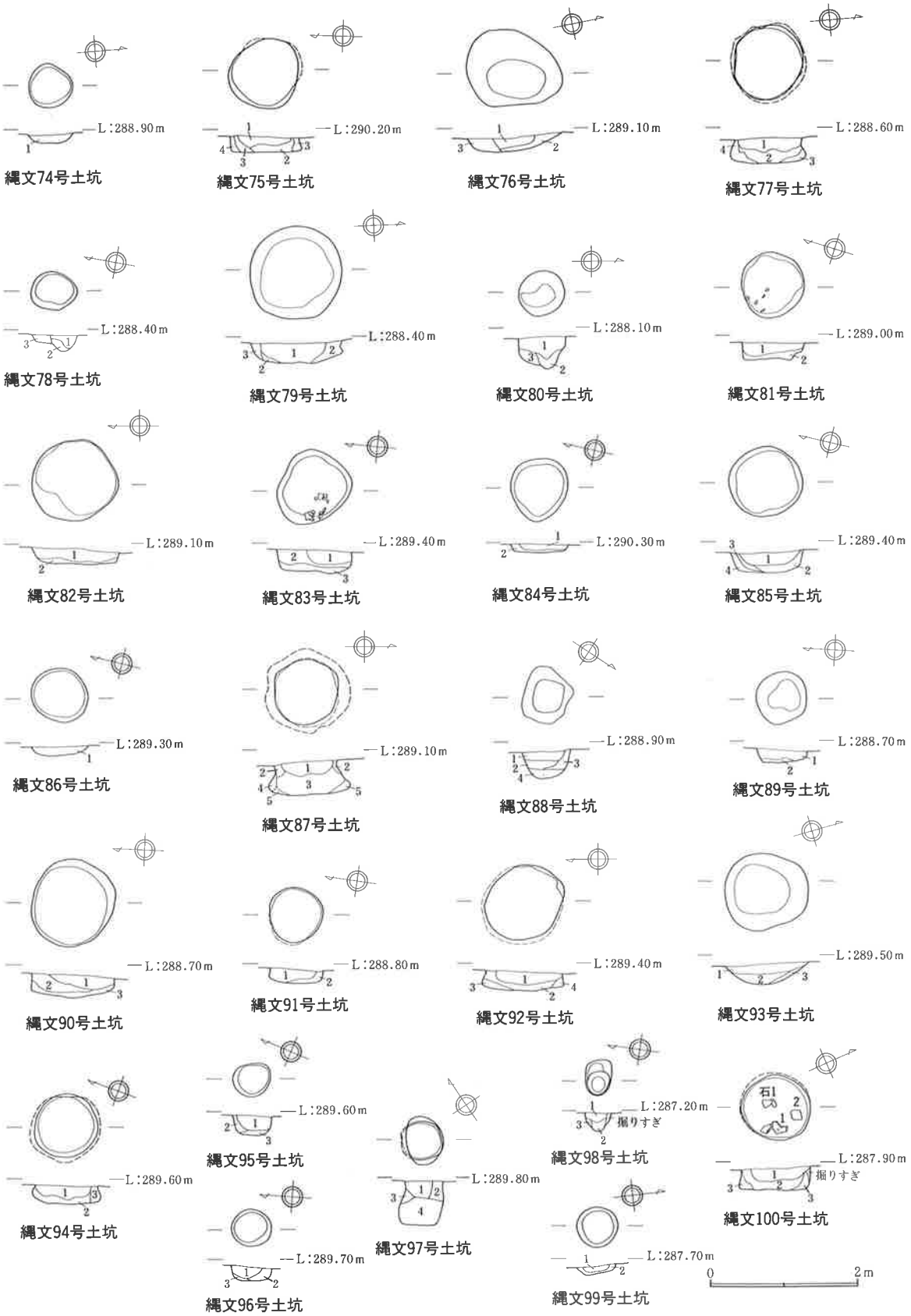
第33図　縄文1～25号土坑



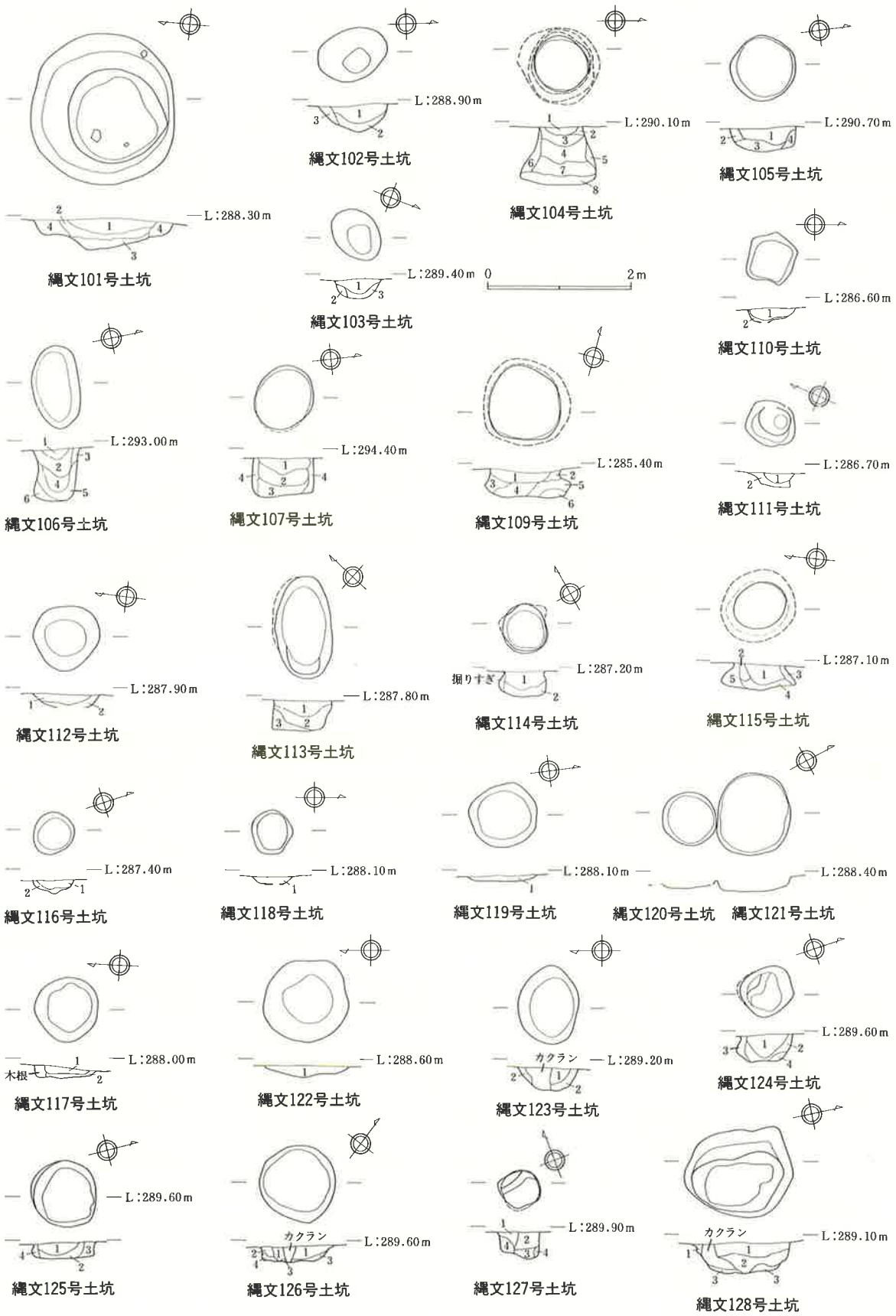
第34図　縄文26～50号土坑



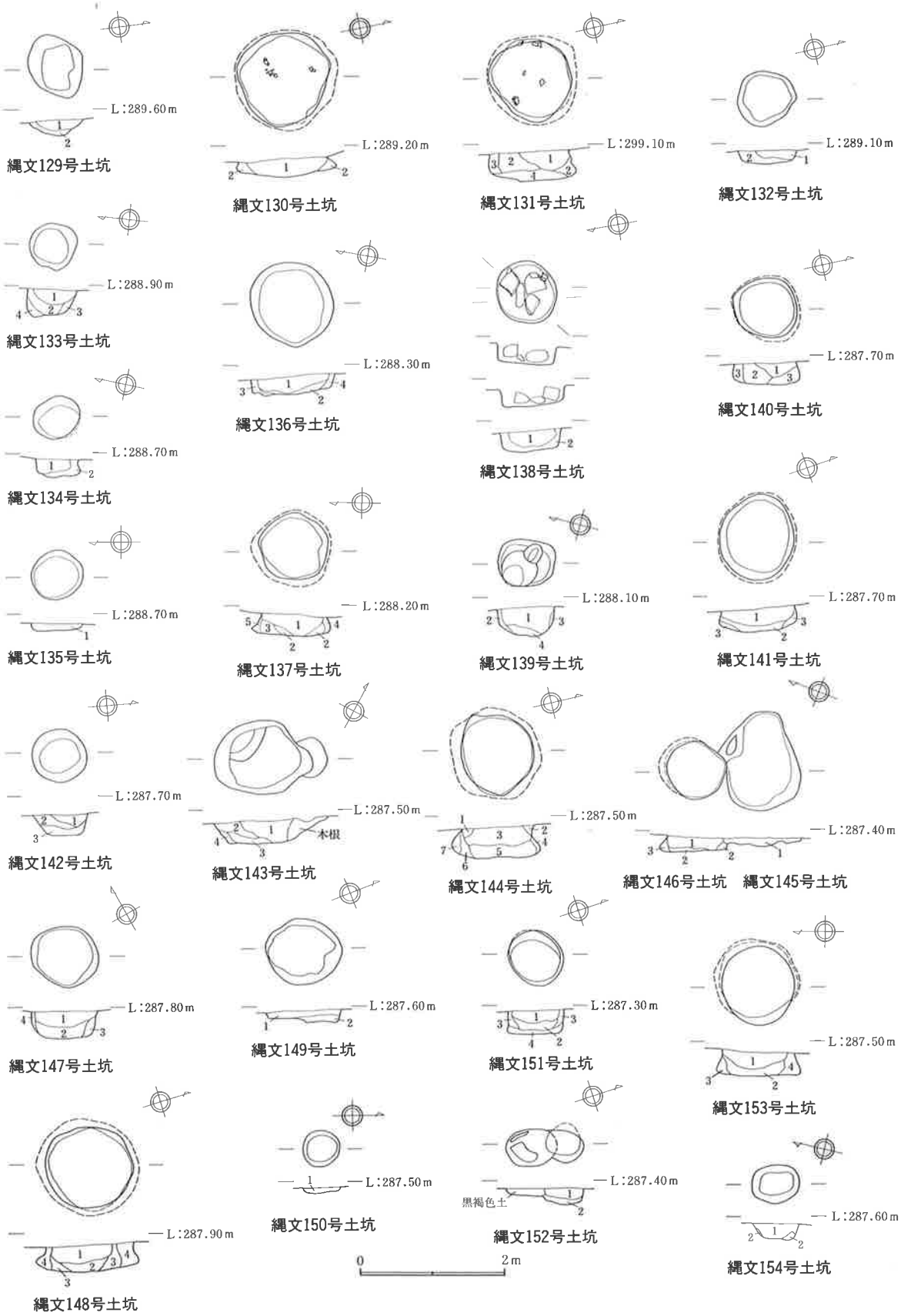
第35図　縄文51～73·108号土坑



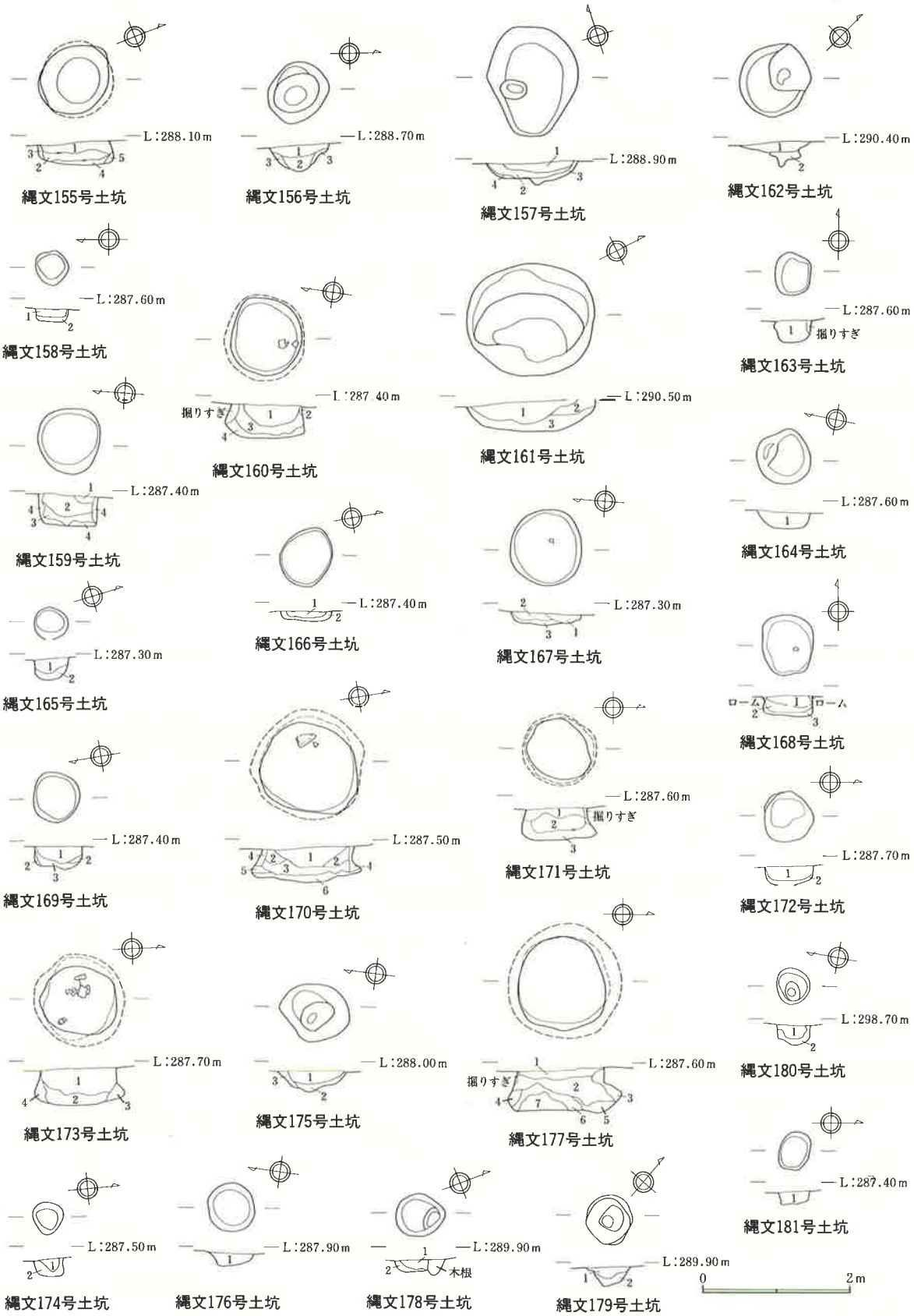
第36図　縄文74～100号土坑



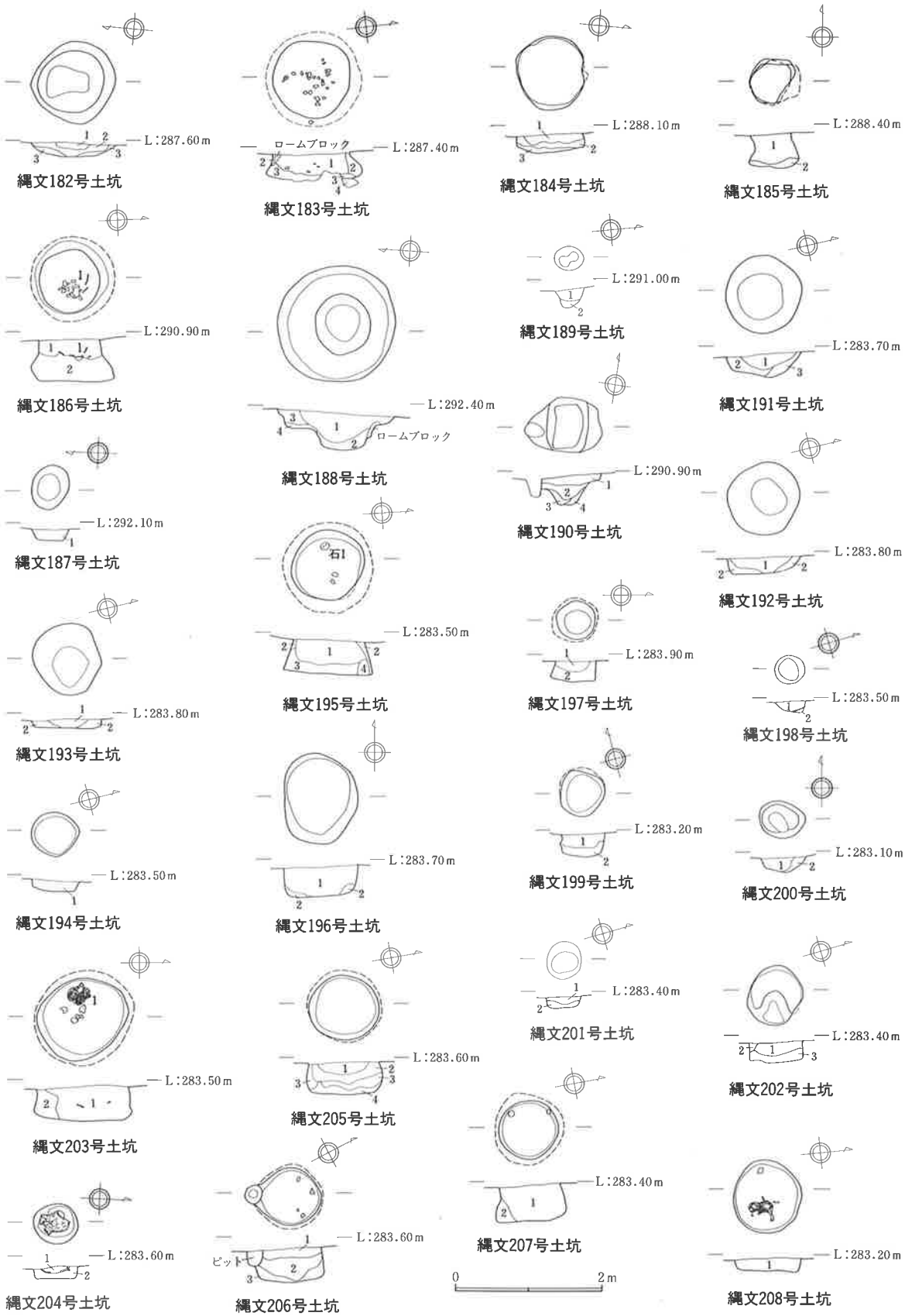
第37図　縄文101～107·109～128号土坑



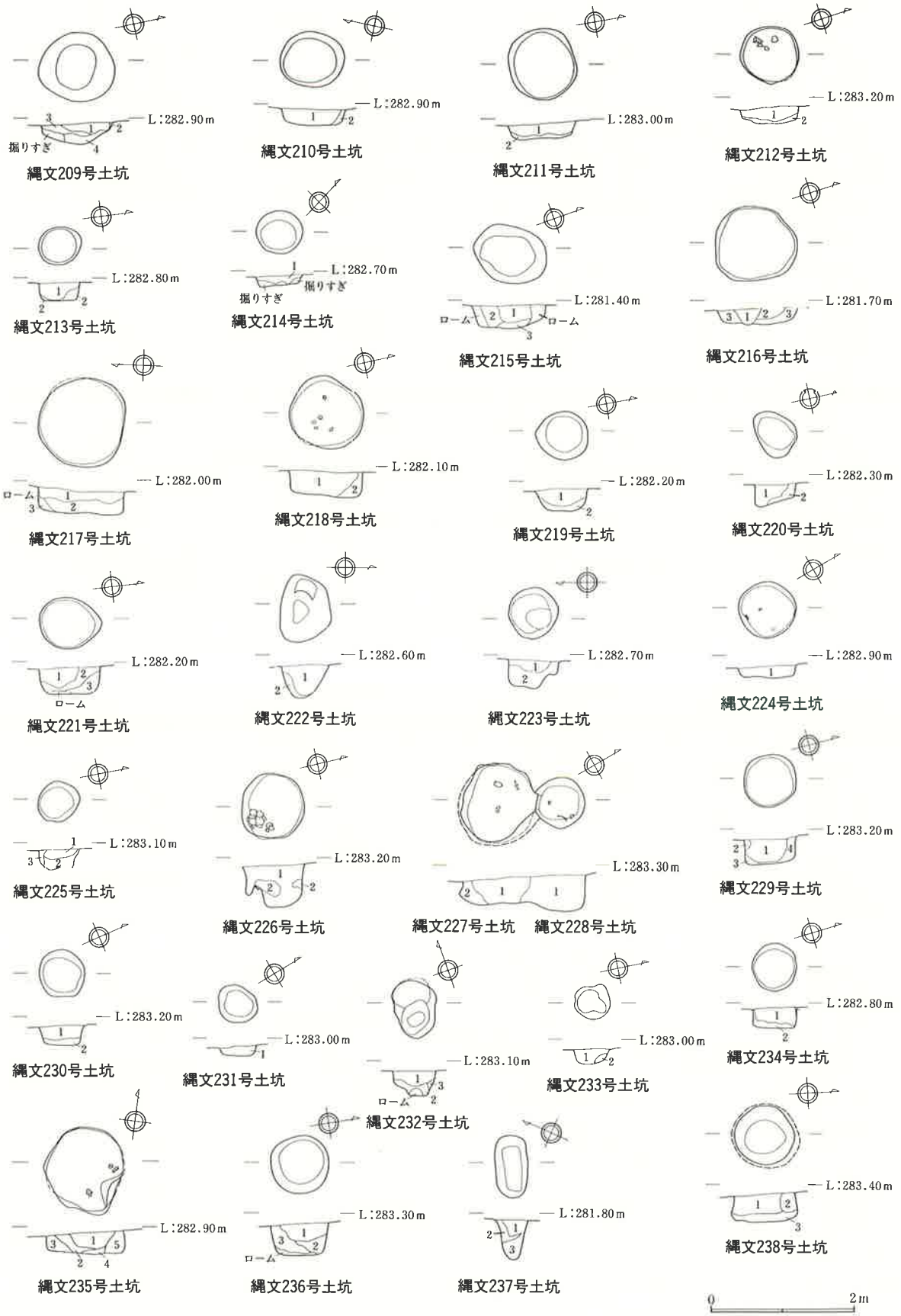
第38図　縄文129～154号土坑



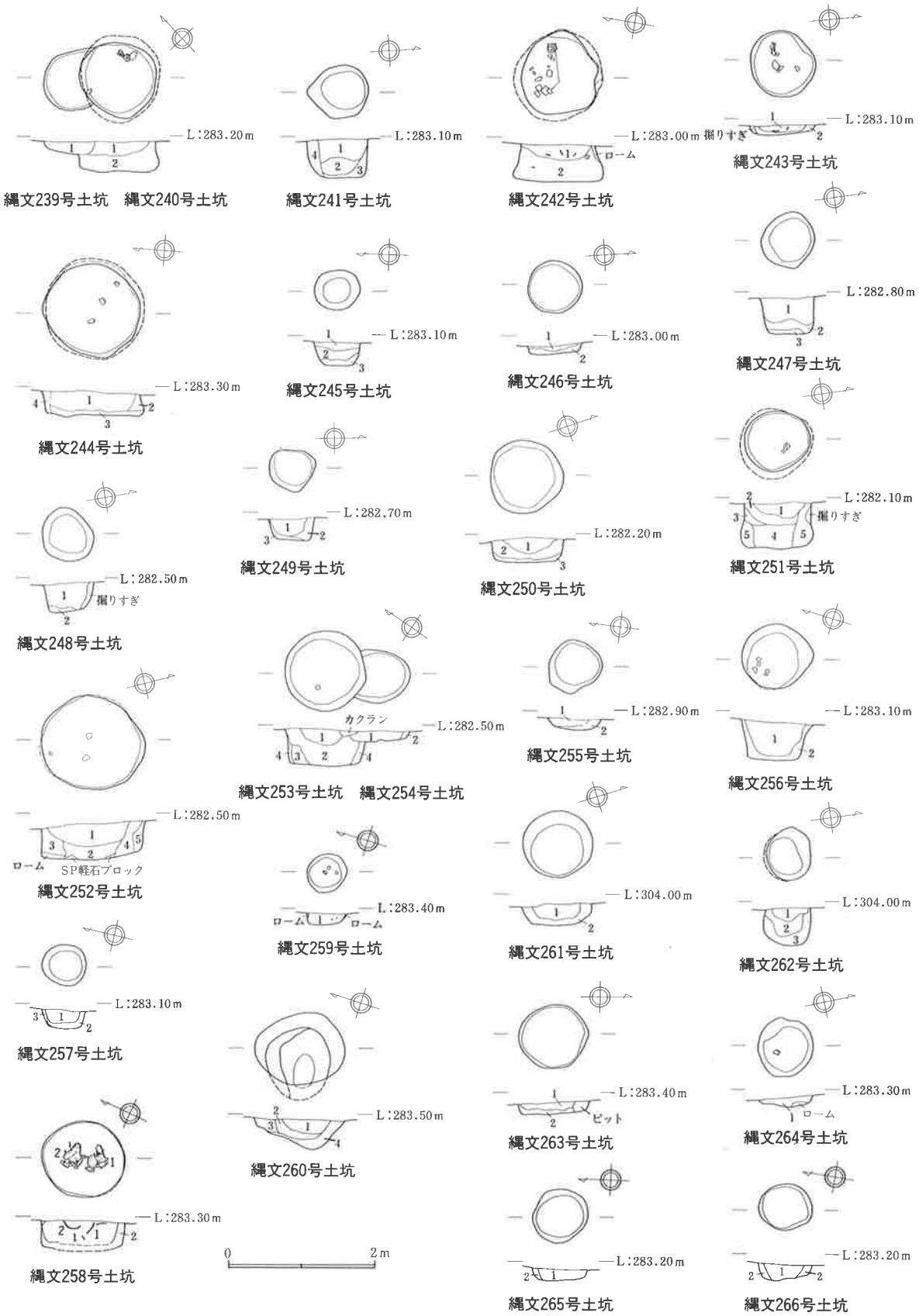
第39図　縄文155～181号土坑



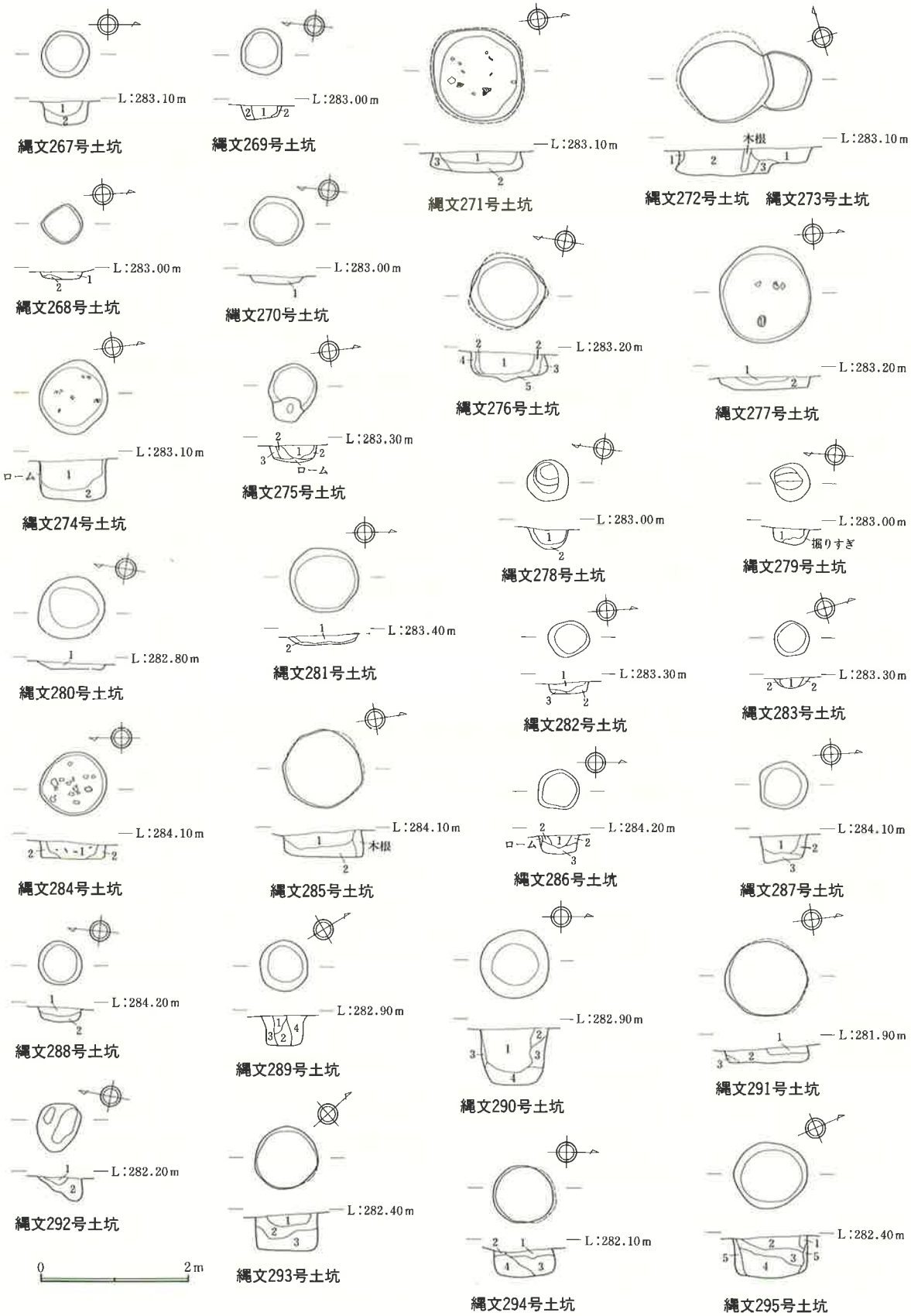
第40図　縄文182～208号土坑



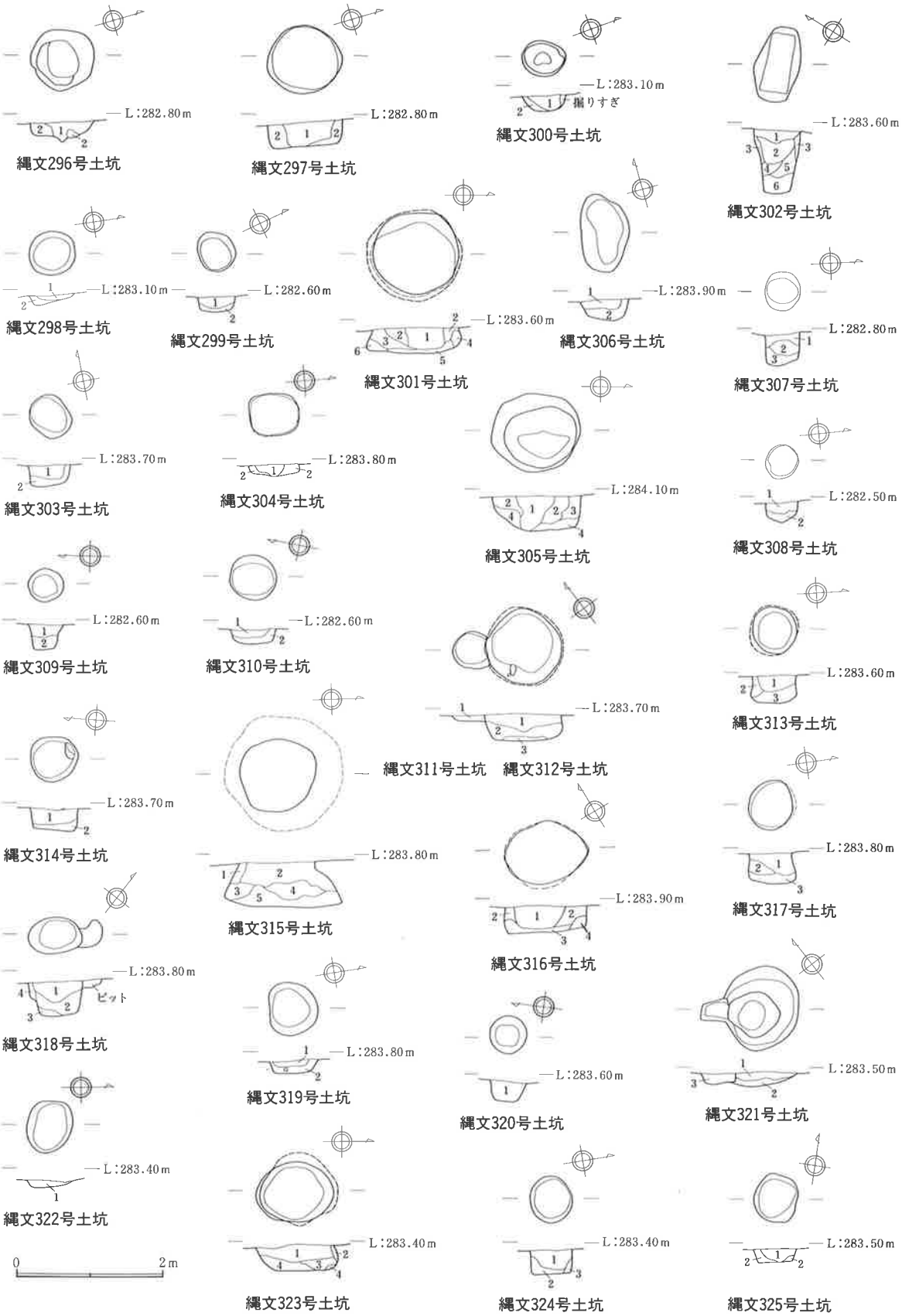
第41図　縄文209～238号土坑



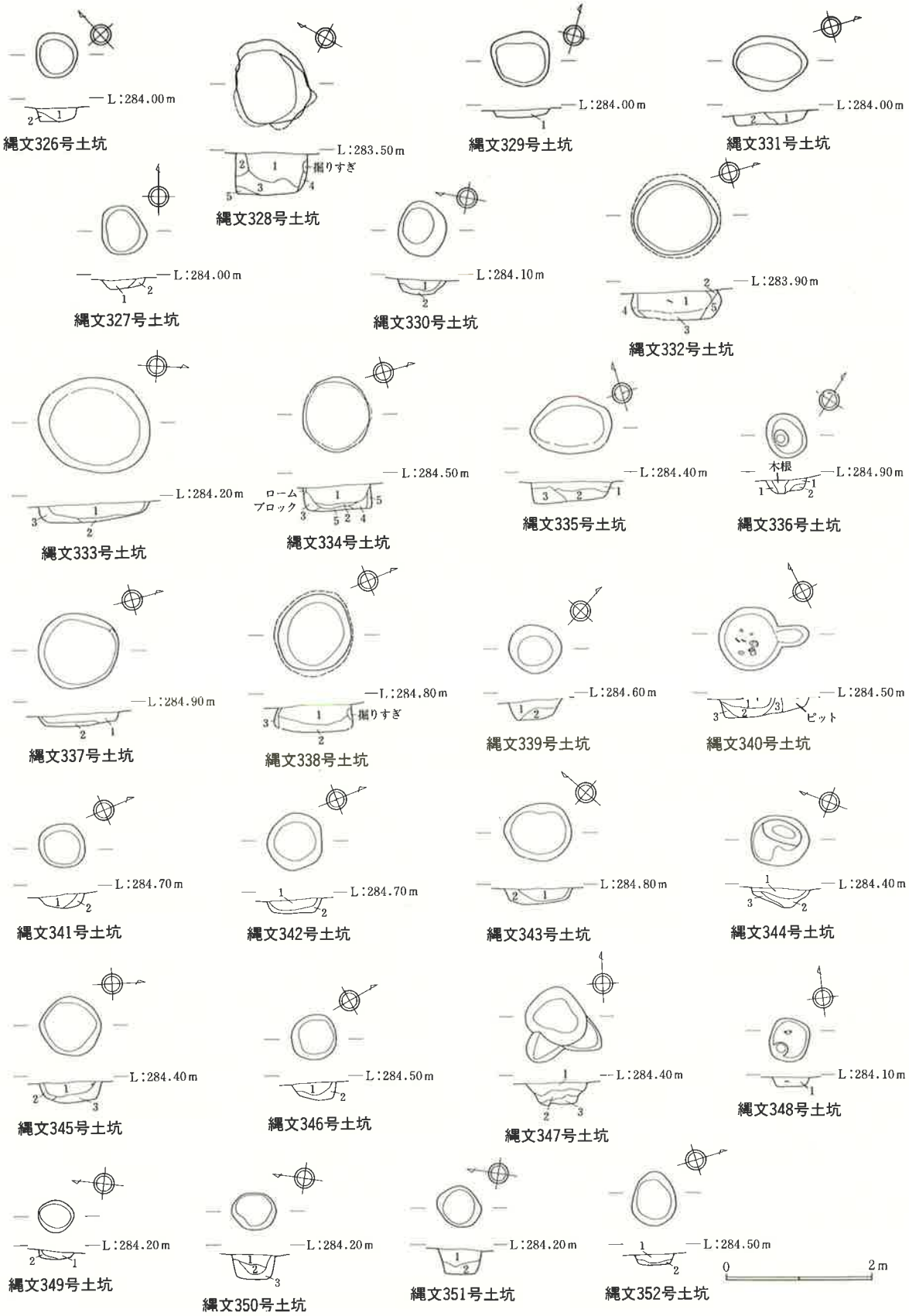
第42図　縄文239～266号土坑



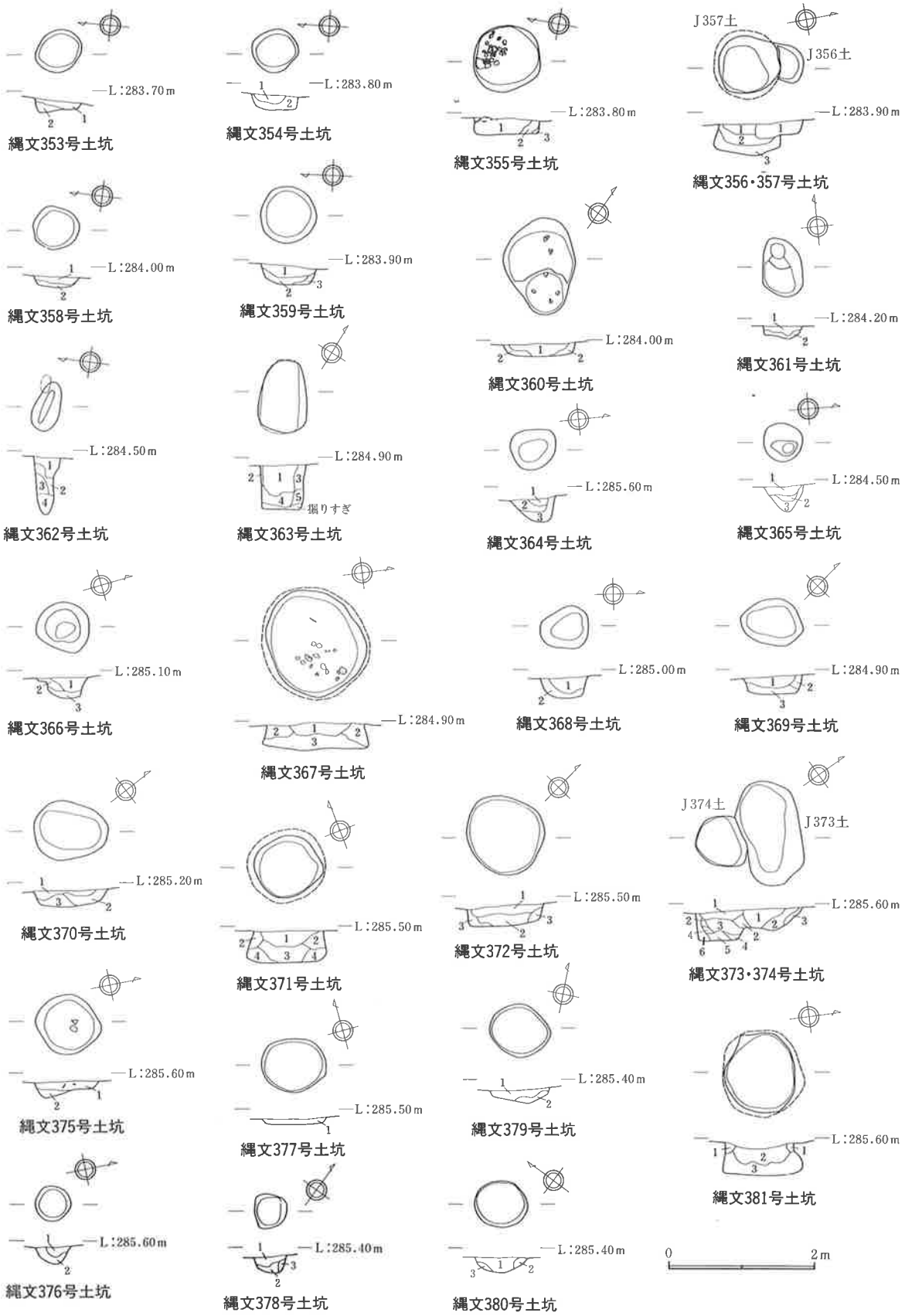
第43図　縄文267～295号土坑



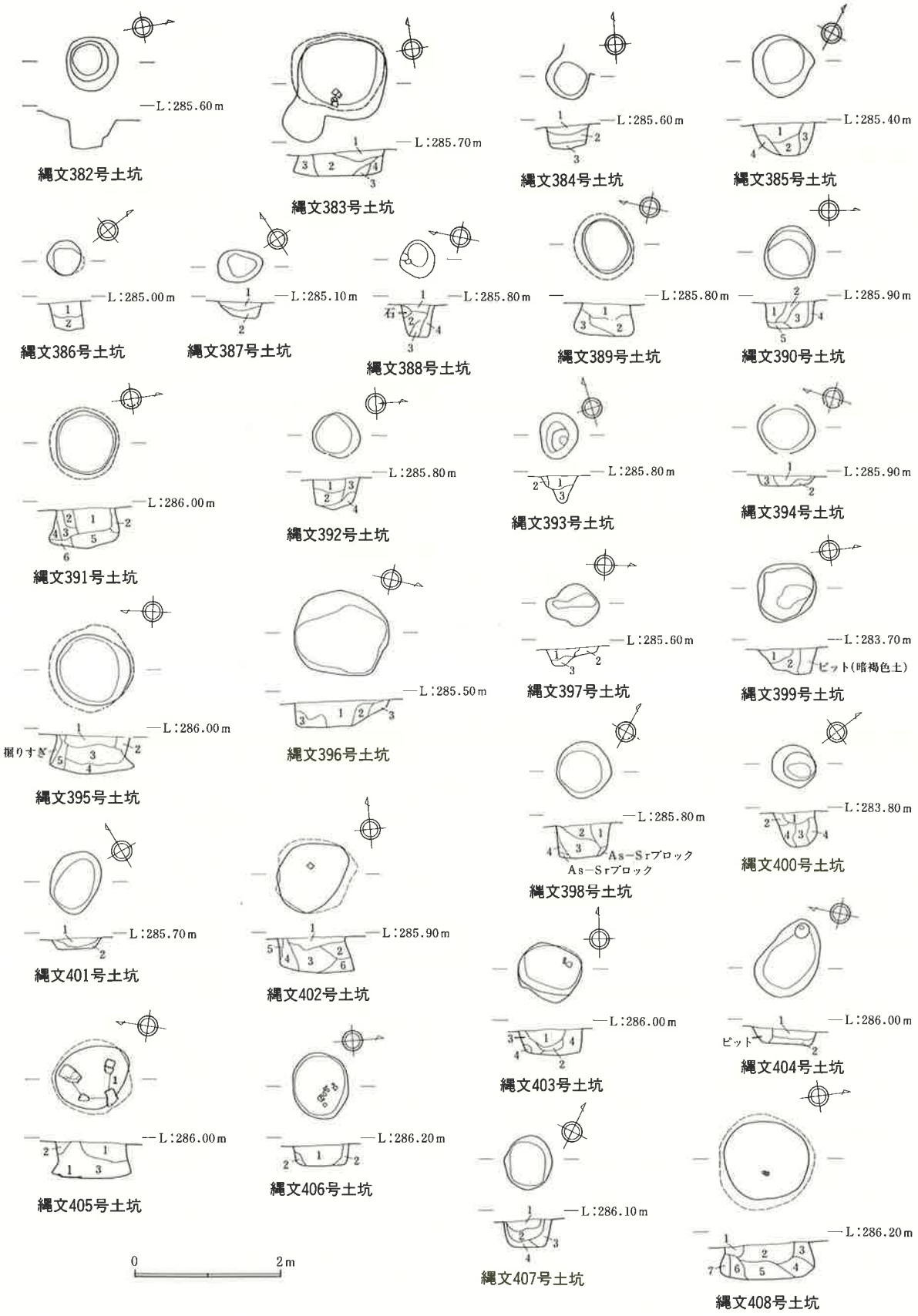
第44図　縄文296～325号土坑



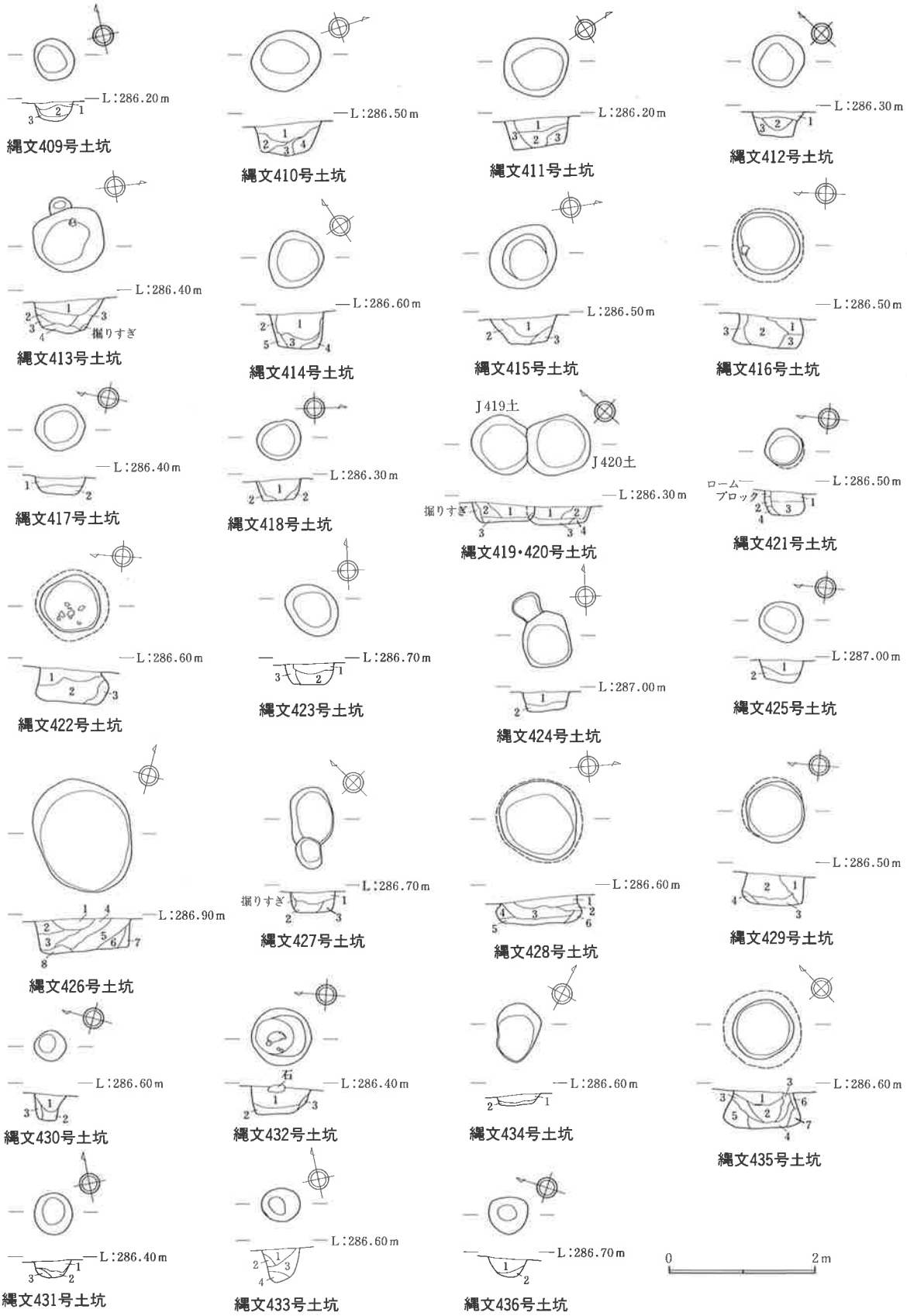
第45図　縄文326～352号土坑



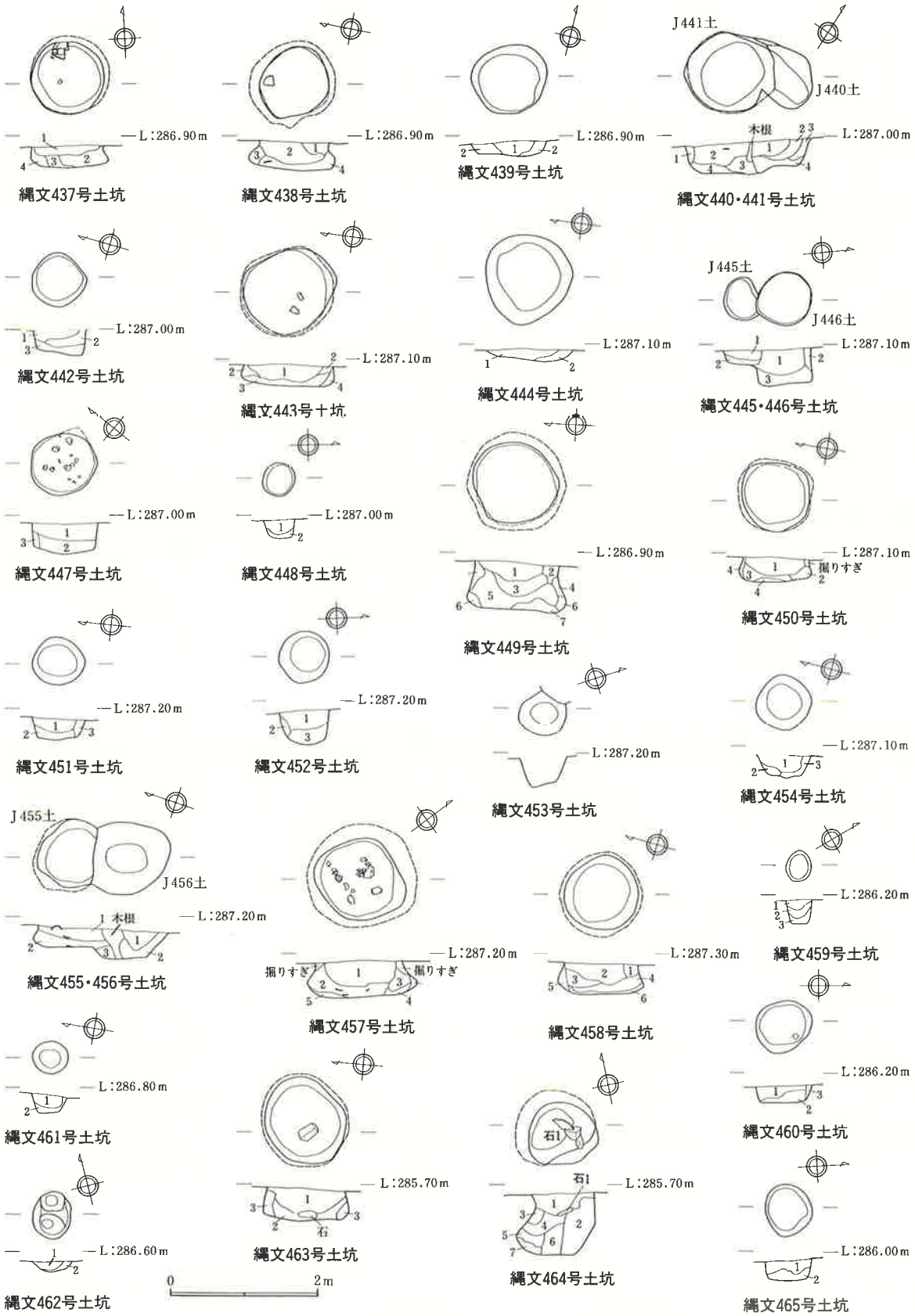
第46図　縄文353～381号土坑



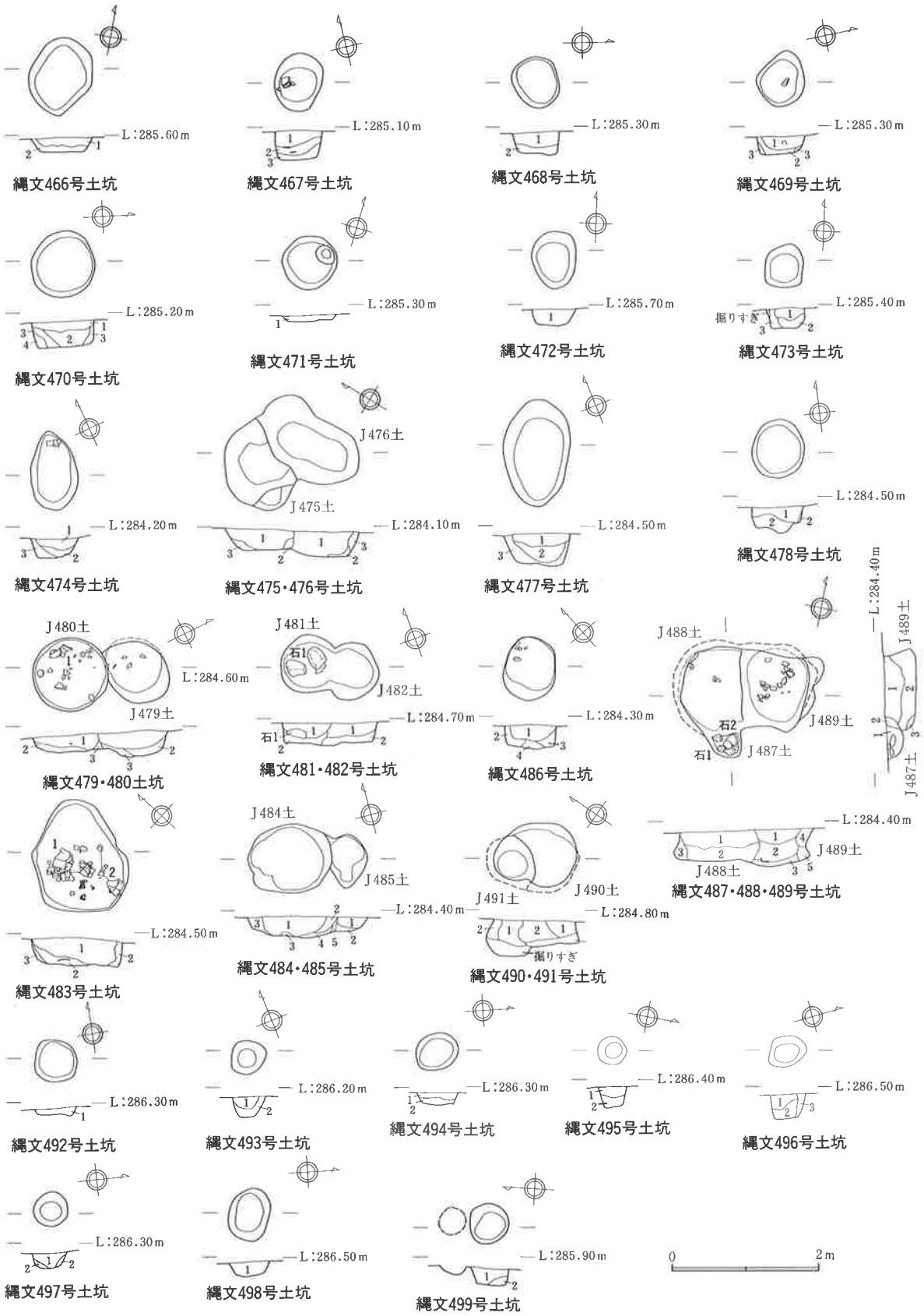
第47図　縄文382～408号土坑



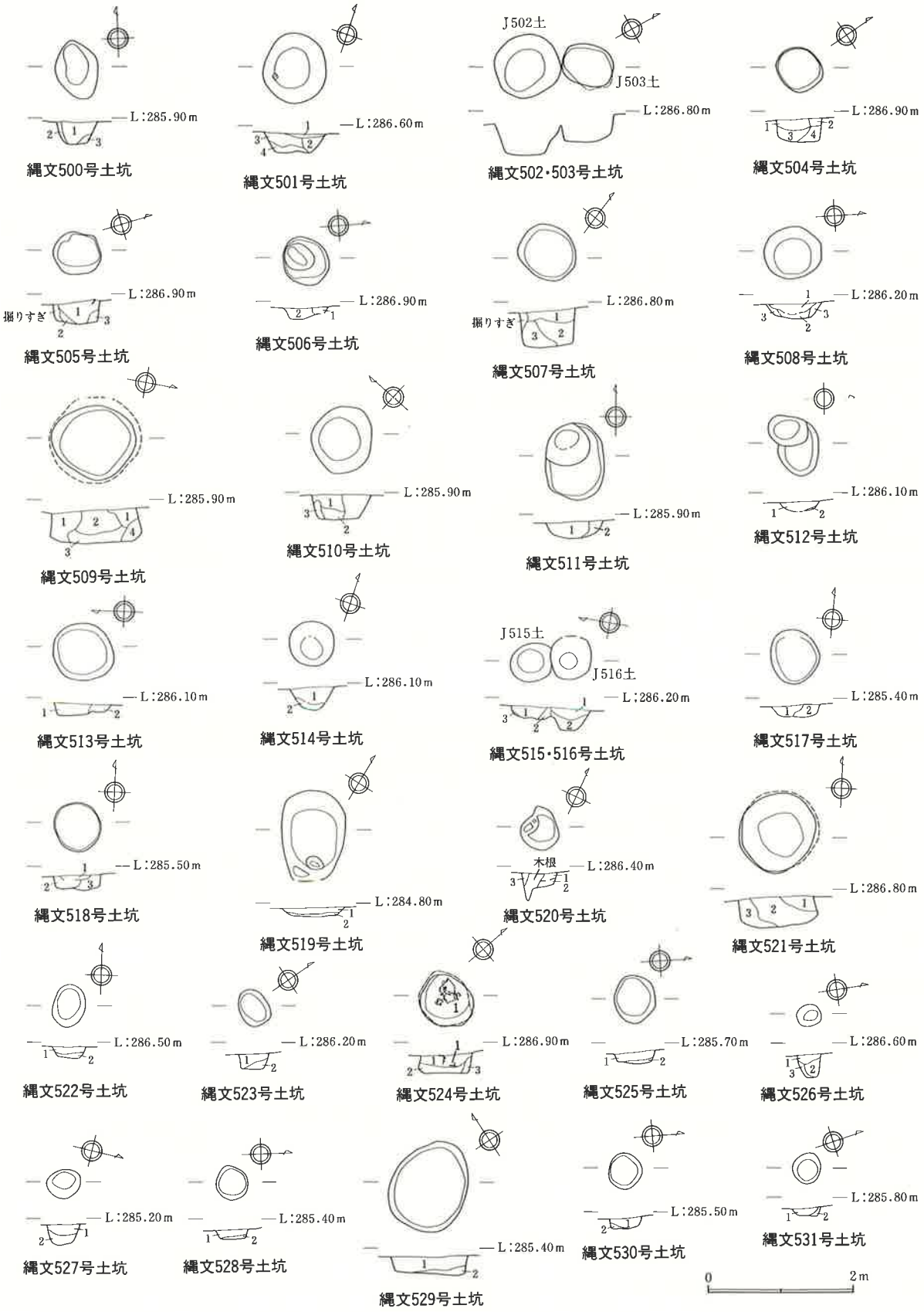
第48図　縄文409～436号土坑



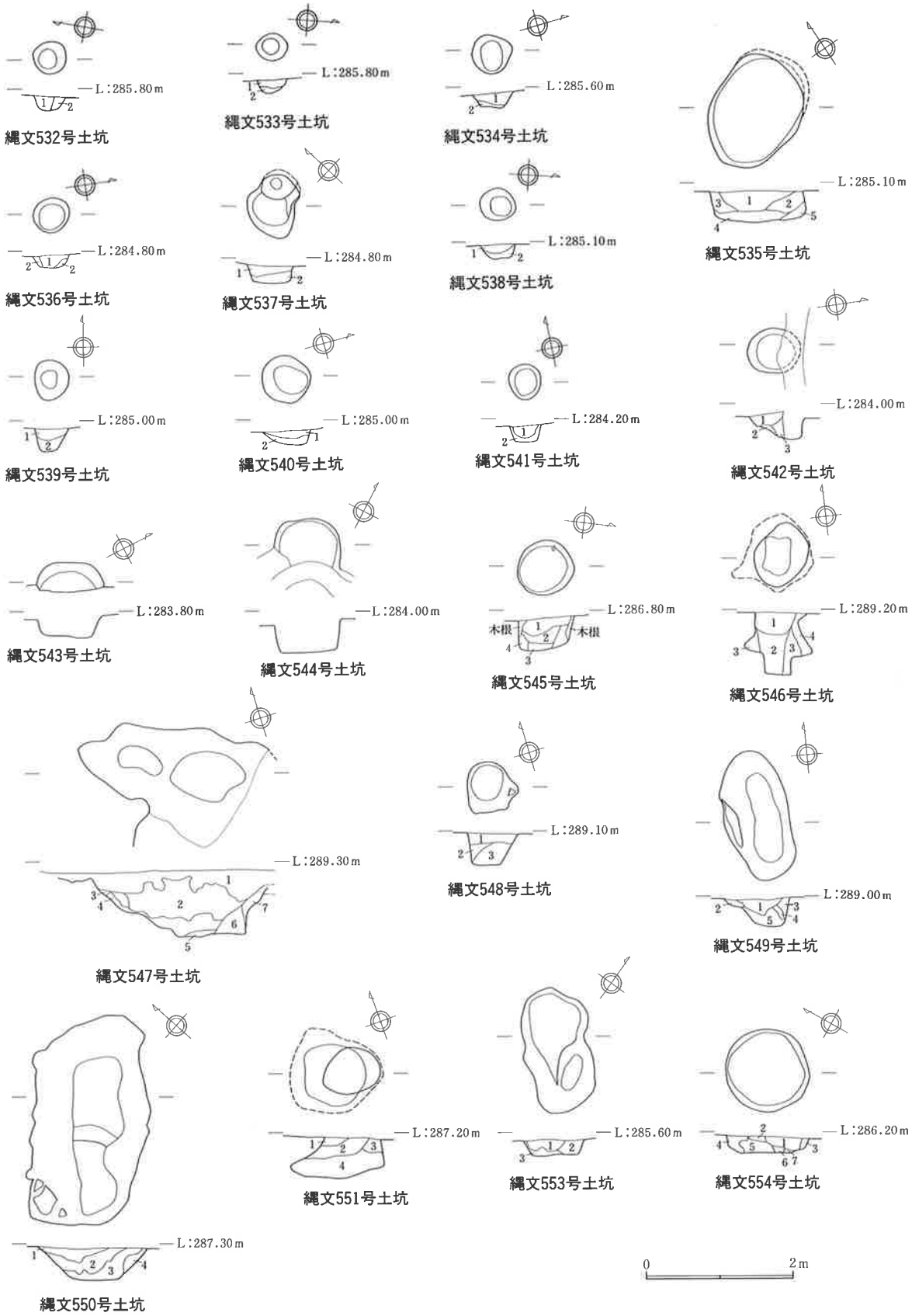
第49図　縄文437～465号土坑



第50図　縄文466～499号土坑



第51図　縄文500～531号土坑



第52図　縄文532～551·553·554号土坑

縄文土坑土層説明

縄文1号土坑
1. 暗褐色土　ﾛｰﾑ粒をやや密に含む。

縄文2号土坑
1. 暗褐色土　ﾛｰﾑ粒を含む。
2. 暗茶褐色土ﾛｰﾑ粒・浅間ー白糸軽石(以下、As-Sr)を含む。

縄文3号土坑
1. 暗褐色土　ﾛｰﾑ粒・炭化物を疎に、浅間ー大窪沢第1軽石(以下、As-OP1)をやや密に含む。
2. 暗茶褐色土ﾛｰﾑ粒やや密に、炭化物を疎に含む。粘性あり。
3. 暗褐色土　ﾛｰﾑ粒・炭化物を疎に含む。粘性強い。
4. 暗茶褐色土ﾛｰﾑ粒やや密に含む。
5. 茶褐色土　ﾛｰﾑ粒やや密に含む。しまり強くｶﾞﾁｶﾞﾁで、粘性あり。

縄文4号土坑
1. 暗褐色土　ﾛｰﾑ粒・φ2㎜前後のAs-OP1をやや密に、炭化物を疎に含む。
2. 暗茶褐色土ﾛｰﾑ粒・φ2㎜前後のAs-OP1をやや密に含む。
3. 茶褐色土　ﾛｰﾑ粒・As-Srをやや密に含む。As-OP1を疎に含む。
4. 茶褐色土　ﾛｰﾑ粒を密に、As-Sr・As-OP1をやや疎に含む。

縄文5号土坑
1. 暗茶褐色土ﾛｰﾑ粒・炭化物を疎に、As-OP1をやや密に含む。
2. 茶褐色土　ﾛｰﾑ粒・As-OP1・ﾛｰﾑﾌﾞﾛｯｸを含む。
3. 茶褐色土　ﾛｰﾑ粒疎に、As-Sr・As-OP1をやや密に含む。

縄文6号土坑
1. 暗褐色土　ﾛｰﾑ粒・炭化物をやや疎に、As-OP1を多く含む。
2. 暗茶褐色土ﾛｰﾑ粒をやや密に、As-OP1・炭化物を疎に含む。
3. 茶褐色土　ﾛｰﾑ粒・As-OP1・ﾛｰﾑﾌﾞﾛｯｸを多く含む。

縄文7号土坑
1. 暗褐色土　ﾛｰﾑ粒・炭化物・焼土粒を疎に、白色粒やや密に含む。
2. 暗茶褐色土ﾛｰﾑ粒を1より多く含み、焼土粒を含まない。
3. 黒褐色土　ﾛｰﾑ粒・炭化物を疎に含む。
4. 茶褐色土　ﾛｰﾑ粒・As-OP1を疎に含む。
5. 暗茶褐色土ﾛｰﾑ粒をやや密に含み、炭化物を含む。
6. 茶褐色土　ﾛｰﾑ粒を密に含む。
7. 暗褐色土　ﾛｰﾑ粒・As-Sr・炭化物を多く含む。しまり強い。

縄文8号土坑
1. 茶褐色土　ﾛｰﾑを主体とし、As-Sr・炭化物を疎に含む。

縄文9号土坑
1. 黄褐色土　ﾛｰﾑ粒やや密に、炭化物を疎に含む。
2. 暗茶褐色土ﾛｰﾑ粒・As-Sr・炭化物を疎に含む。
3. 茶褐色土　ﾛｰﾑ粒・As-Srをやや密に、炭化物を疎に含む。
4. 茶褐色土　ﾛｰﾑ粒・As-Srを疎に含む。

縄文10号土坑
1. 暗茶褐色土ﾛｰﾑ粒・As-Srやや密に、炭化物・As-OP1を疎に含む。
2. 暗褐色土　ﾛｰﾑ粒・As-Sr・炭化物・As-OP1を疎に含み、粘性あり。
3. 茶褐色土　ﾛｰﾑ粒をやや疎に、As-Srを密に含む。
4. 黄褐色土　ﾛｰﾑ粒・As-Srを密に含む。

縄文11号土坑
1. 暗褐色土　ﾛｰﾑ粒・As-Sr・As-OP1を密に、炭化物を疎に含む。やや粘性あり。
2. 暗茶褐色土ﾛｰﾑ粒・As-Sr・As-OP1を1よりやや多く含む。
3. 黄褐色土　ﾛｰﾑ粒・As-Srを多く含む。

縄文12号土坑
1. 茶褐色土　ﾛｰﾑ粒やや密に、炭化物を疎に含む。
2. 茶褐色土　ﾛｰﾑ粒・ﾛｰﾑﾌﾞﾛｯｸ・As-Srを含む。
3. 茶褐色土　ﾛｰﾑ粒をやや疎に、ﾛｰﾑﾌﾞﾛｯｸ・As-Srを多く含む。

縄文13号土坑
1. 茶褐色土　多量のﾛｰﾑ土中に暗褐色土粒をやや密に、炭化物・As-Sr・As-OP1を疎に含む。しまりあり。
2. 黄褐色土　多量のﾛｰﾑ土中に炭化物をやや密に、As-Srも含む。As-OP1は疎に含む。しまりあり。

縄文14号土坑
1. 暗茶褐色土ﾛｰﾑ粒を多量に含み、φ1～2㎜のAs-OP1をやや疎に、As-Srを疎に含み、しまりあり。

縄文15号土坑
1. 暗褐色土　ﾛｰﾑ粒・As-Sr・As-OP1をやや密に、炭化物をやや疎に含む。
2. 暗褐色土　1に近似するが、ﾛｰﾑ粒・As-Sr・As-OP1の混入少ない。
3. 暗茶褐色土1・2に比べて混入物が極めて少ない。

縄文16号土坑
1. 暗黄褐色土ﾛｰﾑ粒・As-Srやや密に含み、炭化物を疎に含む。
2. 黄褐色土　ﾛｰﾑ粒・As-Srを密に含む。しまり強い。

縄文17号土坑
1. 暗褐色土　ﾛｰﾑ粒・As-OP1・炭化物を疎に含む。
2. 黄褐色土　ﾛｰﾑ粒・ﾛｰﾑﾌﾞﾛｯｸを多く含む。

縄文18号土坑
1. 茶褐色土　ﾛｰﾑ粒・As-Srを多く含み、炭化物を疎に含む。

縄文19号土坑
1. 暗茶褐色土ﾛｰﾑ粒を疎に含む。
2. 黄褐色土　ﾛｰﾑ粒をやや密に、As-Srをやや疎に含む。

縄文20号土坑
1. 暗褐色土　ﾛｰﾑ粒やや密に、As-Sr・炭化物・As-OP1を疎に含む。
2. 黄褐色土　ﾛｰﾑ粒・As-Srを密に含む。
3. 暗茶褐色土ﾛｰﾑ粒・As-Srを疎に含む。
4. 暗茶褐色土ﾛｰﾑ粒・As-Srに含む。

縄文21号土坑
1. 暗褐色土　ﾛｰﾑ粒をやや密に、As-Sr・炭化物やや疎に含む。
2. 暗茶褐色土ﾛｰﾑ粒を密に、As-Srやや密に、炭化物を疎に含む。
3. 黄褐色土　ﾛｰﾑ粒・As-Srをやや密に含む。

縄文22号土坑
1. 茶褐色土　ﾛｰﾑ粒をやや疎に、As-Srをやや密に含む。

縄文23号土坑
1. 暗茶褐色土ﾛｰﾑ粒・As-OP1をやや密に含む。

縄文24号土坑
1. 暗茶褐色土ﾛｰﾑ粒・As-Srをやや密に炭化物を疎に含む。
2. 黄褐色土　ﾛｰﾑ粒・As-Srを多量に含む。

縄文25号土坑
1. 暗茶褐色土ﾛｰﾑ粒・As-Sr・As-OP1やや密に、炭化物を疎に含む。
2. 茶褐色土　ﾛｰﾑ粒・As-Srを1より多く含む。

縄文26号土坑
1. 黒褐色土　ﾛｰﾑ粒をやや密に、As-Sr・As-OP1をやや疎に、炭化物を疎に含む。
2. 暗褐色土　1に比べて炭化物を多く含み、しまり・粘性あり。
3. 暗茶褐色土1・2に比べﾛｰﾑ粒・As-Srを多く含み、しまり・粘性共に強い。

縄文27号土坑
1. 暗褐色土　ﾛｰﾑ粒・As-Srを含み、As-OP1・炭化物を疎に含む。
2. 黄褐色土　ﾛｰﾑ粒・As-Srを密に含む。

縄文28号土坑
1. 暗茶褐色土ﾛｰﾑ粒・As-Sr・As-OP1をやや密に、炭化物を疎に含む。
2. 茶褐色土　As-Srを密に、ﾛｰﾑ粒・As-OP1をやや密に、炭化物を1より多く含み、粘性あり。
3. 茶褐色土　ﾛｰﾑ粒・As-Srを含む。

縄文29号土坑
1. 暗褐色土　ﾛｰﾑ粒・As-Sr・As-OP1をやや密に含む。
2. 黄褐色土　ﾛｰﾑﾌﾞﾛｯｸ。
3. 暗茶褐色土ﾛｰﾑ粒・As-Sr・As-OP1を含み、しまり強い。
4. 黄褐色土　ﾛｰﾑ粒を密に、炭化物を数点含む。

縄文30号土坑
1. 暗褐色土　ﾛｰﾑ粒・As-OP1をやや密、炭化物・As-Srを疎に含む。
2. 黄褐色土　ﾛｰﾑ粒・ﾛｰﾑﾌﾞﾛｯｸを多量に含む。

縄文31号土坑
1. 暗褐色土　ﾛｰﾑ粒・As-Sr・As-OP1をやや密に、炭化物を疎に含む。
2. 暗茶褐色土1よりﾛｰﾑ粒・As-Sr・As-OP1を多く含み、しまり強い。
3. 黄褐色土　ﾛｰﾑ粒・As-Srを密に含む。

縄文32号土坑
1. 暗褐色土　ﾛｰﾑ粒をやや密に、As-Sr・炭化物・As-OP1を疎に含む。
2. 暗茶褐色土1よりﾛｰﾑ粒を密に含む。
3. 黄褐色土　ﾛｰﾑ粒・ﾛｰﾑﾌﾞﾛｯｸを多く含む。

縄文33号土坑
1. 黒褐色土　ﾛｰﾑ粒・As-OP1をやや密に、炭化物をやや疎に含む。
2. 黒褐色土　1よりﾛｰﾑ粒をやや多く含み、As-Srを含む。
3. 暗褐色土　ﾛｰﾑ粒を含む。
4. 茶褐色土　ﾛｰﾑ粒・As-Srをやや密に含む。

縄文34号土坑
1. 暗褐色土　ﾛｰﾑ粒・As-OP1をやや密に、ﾛｰﾑﾌﾞﾛｯｸ・炭化物を疎に

含む。
2. 黒褐色土　ﾛｰﾑ粒・As-Srをやや密に、炭化物を疎に含む。
3. 暗黄褐色土ﾛｰﾑ粒・As-Srを含む。

縄文35号土坑
1. 暗茶褐色土ﾛｰﾑ粒・As-Sr・As-OP1をやや疎に、炭化物をﾎﾟﾂﾎﾟﾂ含む。
2. 黄褐色土　ﾛｰﾑ粒・As-Srのﾌﾞﾛｯｸ。
3. 茶褐色土　ﾛｰﾑ粒・As-Srを含む。
4. 暗茶褐色土ﾛｰﾑ粒・As-Srをやや密に、炭化物を疎に含む。

縄文36号土坑
1. 暗茶褐色土ﾛｰﾑ粒・As-Sr・As-OP1をやや密に、炭化物もやや多く含む。
2. 暗褐色土　1よりもAs-Sr・As-OP1が少ない。

縄文37号土坑
1. 黒褐色土　ﾛｰﾑ粒・As-Sr・As-OP1を密に含む。
2. 暗褐色土　ﾛｰﾑ粒・As-Srを1より多く含み、しまり・粘性も強い。

縄文38号土坑
1. 暗褐色土　ﾛｰﾑ粒やや疎に、As-Sr・As-OP1をやや密に、炭化物を疎に含む。
2. 黒褐色土　1に比べて、ﾛｰﾑ粒が少ない。
3. 黄褐色土　ﾛｰﾑ粒・As-Srを多く含む。

縄文39号土坑
1. 暗茶褐色土ﾛｰﾑ粒・As-OP1を疎に含む。
2. 黄褐色土　ﾛｰﾑ粒やや疎に、As-Srを密に含む。

縄文40号土坑
1. 暗茶褐色土ﾛｰﾑ粒・As-OP1をやや疎に、As-Srを密に含む。

縄文41号土坑
1. 暗褐色土　ﾛｰﾑ粒・As-OP1やや密に、As-Srを疎に含む。
2. 暗褐色土　ﾛｰﾑ粒・As-OP1・As-Srﾌﾞﾛｯｸをやや密に、炭化物を疎に含む。

縄文42号土坑
1. 暗褐色土　ﾛｰﾑ粒・As-Srをやや疎に、炭化物・As-OP1を疎に含む。
2. 暗茶褐色土ﾛｰﾑ粒・As-Srをやや密に含む。
3. 暗茶褐色土1・2よりﾛｰﾑ粒・As-Srを多く含み、しまりあり。
4. 茶褐色土　As-Srを多量に含む。

縄文43号土坑
1. 暗褐色土　ﾛｰﾑ粒・As-Srを疎に、As-OP1をやや疎に、炭化物を数点含む。
2. 暗茶褐色土As-Srを1より多く含む。
3. 茶褐色土　ﾛｰﾑ粒・As-Srを2より多く含み、赤色ｽｺﾘｱを多く含む。
4. 黒褐色土　ﾛｰﾑ粒・As-Srを疎に含む。
5. 暗褐色土　ﾛｰﾑ粒・As-Sr・小ﾛｰﾑﾌﾞﾛｯｸを含み、しまりと粘性強い。
6. 暗茶褐色土ﾛｰﾑ粒・小ﾛｰﾑﾌﾞﾛｯｸを多く含む。
7. 暗茶褐色土ﾛｰﾑ粒・As-Srを含む。

縄文44号土坑
1. 茶褐色土　ﾛｰﾑ粒を疎に、ﾛｰﾑﾌﾞﾛｯｸを含む。
2. 黒褐色土　ﾛｰﾑ粒・As-Sr・As-OP1をやや密に、炭化物を疎に含む。しまりあり。
3. 暗褐色土　ﾛｰﾑ粒をやや密に、As-Sr・炭化物を疎に含む。しまり強く粘性あり。
4. 茶褐色土　ﾛｰﾑ粒・As-Srを密に、炭化物を疎に含む。しまり強い。

縄文45号土坑
1. 黒褐色土　ﾛｰﾑ粒・ﾛｰﾑﾌﾞﾛｯｸ・As-Sr・炭化物を含む。
2. 黄褐色土　As-Srを多量に含む。

縄文46号土坑
1. 黒褐色土　ﾛｰﾑﾌﾞﾛｯｸ・As-Srをやや疎に、炭化物を疎に含む。
2. 暗褐色土　ﾛｰﾑ粒を含む。
3. 暗茶褐色土ﾛｰﾑ粒・ﾛｰﾑﾌﾞﾛｯｸ・As-Srを含む。
4. 茶褐色土　ﾛｰﾑ粒をやや疎に、As-Srを多量に含む。
5. 黄褐色土　ﾛｰﾑ粒を密に、As-Srをやや疎に含む。

縄文47号土坑
1. 暗褐色土　ﾛｰﾑ粒・As-Srをやや密に、炭化物・As-OP1を疎に含む。
2. 暗褐色土　ﾛｰﾑ粒・As-Srをやや密に含み、粘性強い。
3. 暗褐色土　ﾛｰﾑ粒やや疎に、As-Srをﾌﾞﾛｯｸ状に含み、しまり・粘性強い。

縄文48号土坑
1. 暗茶褐色土ﾛｰﾑ粒・As-Sr・As-OP1を含む。
2. 暗茶褐色土ﾛｰﾑ粒・As-Srをやや密に、炭化物を疎に含む。

縄文49号土坑
1. 黒褐色土　ﾛｰﾑ粒・As-Sr・炭化物をやや疎に含む。
2. 黒褐色土　ﾛｰﾑ粒・ﾛｰﾑﾌﾞﾛｯｸを多量に含む。
3. 黒褐色土　1と近似するが、As-Srを多量に含む。
4. 暗茶褐色土ﾛｰﾑ粒・As-Sr・炭化物を含む。
5. 暗褐色土　ﾛｰﾑ粒を疎に含む。

縄文50号土坑
1. 暗褐色土　ﾛｰﾑ粒をやや密に、As-OP1・炭化物をやや多く含む。
2. 暗褐色土　1に近似するが、炭化物を含まない。
3. 茶褐色土　ﾛｰﾑ粒・As-Srを多量に、As-OP1・炭化物を疎に含む。
4. 黄褐色土　ﾛｰﾑ粒を密に、炭化物を疎に含む。しまりあり。
5. 茶褐色土　ﾛｰﾑ粒・As-Srを含む。

縄文51号土坑
1. 暗褐色土　ﾛｰﾑ粒・As-Sr・As-OP1をやや疎に、炭化物ﾎﾟﾂﾎﾟﾂ含む。
2. 黒褐色土　ﾛｰﾑ粒・As-Srをやや密に含み、しまり強い。
3. 茶褐色土　ﾛｰﾑ粒・As-Srを密に含む。
4. 黒褐色土　ﾛｰﾑ粒・As-Sr・ﾛｰﾑﾌﾞﾛｯｸを含む。
5. 黄褐色土　ﾛｰﾑ粒を密に含む。

縄文52号土坑
1. 黒褐色土　ﾛｰﾑ粒・As-Sr・As-OP1をやや密に、炭化物を疎に含む。
2. 黒褐色土　混入物は1と同じだが、しまり強く、ｶﾞﾁｶﾞﾁ。
3. 暗褐色土　ﾛｰﾑ粒・As-Sr・As-OP1を含む。
4. 茶褐色土　ﾛｰﾑ粒・As-Srをやや密に含む。

縄文53号土坑
1. 暗褐色土　ﾛｰﾑ粒・As-Sr・As-OP1をやや密に含む。
2. 黄褐色土　ﾛｰﾑ粒・As-Srを密に含む。

縄文54号土坑
1. 暗褐色土　ﾛｰﾑ粒・As-OP1をやや疎に、炭化物をﾎﾟﾂﾎﾟﾂ含む。
2. 黄褐色土　ﾛｰﾑ粒・As-Srを多く含む。

縄文55号土坑
1. 暗褐色土　ﾛｰﾑ粒・As-OP1をやや密に、炭化物を疎に含む。
2. 茶褐色土　ﾛｰﾑ粒を密に、As-Sr・As-OP1をやや疎に含む。
3. 黄褐色土　As-Srを多量に含む。

縄文56号土坑
1. 黒褐色土　ﾛｰﾑ粒・As-Sr・As-OP1多量に、炭化物を疎に含む。
2. 黒褐色土　1よりﾛｰﾑ粒・As-Sr・As-OP1少なく、炭化物が多い。しまり強い。
3. 暗茶褐色土ﾛｰﾑ粒・As-OP1を含む。
4. 茶褐色土　ﾛｰﾑ粒・As-Sr・As-OP1を多く含む。

縄文57号土坑
1. 黒褐色土　ﾛｰﾑ粒・As-Sr・As-OP1をやや密に、炭化物を疎に含む。
2. 暗褐色土　ﾛｰﾑ粒・As-Sr・As-OP1を疎に含み、しまり強い。
3. 暗茶褐色土ﾛｰﾑ粒・As-OP1・As-YPﾌﾞﾛｯｸを含む。
4. 黄褐色土　ﾛｰﾑ粒を密に、As-Srを疎に含む。
5. 黄褐色土　ﾛｰﾑ粒を疎に、As-Srを密に含む。

縄文58号土坑
1. 黒褐色土　ﾛｰﾑ粒・As-OP1をやや密に、炭化物を疎に含む。
2. 黒褐色土　ﾛｰﾑ粒・As-OP1・ﾛｰﾑﾌﾞﾛｯｸを含む。
3. 暗褐色土　ﾛｰﾑ粒を1・2より多く含み、しまり強い。
4. 暗茶褐色土ﾛｰﾑ粒をやや疎に含み、しまりは1～3より弱い。

縄文59号土坑
1. 暗茶褐色土ﾛｰﾑ粒をやや疎に、As-Sr・As-OP1をやや密に含む。
2. 茶褐色土　1に比べてﾛｰﾑ粒・As-Sr・As-OP1を密に含み、しまり強い。
3. 暗茶褐色土1・2に比べてﾛｰﾑ粒・As-Srを疎に含む。

縄文60号土坑
1. 暗褐色土　ﾛｰﾑ粒・As-Srを疎に含む。
2. 暗褐色土　ﾛｰﾑ粒・As-Srを1より多く含み、1よりしまりあり。
3. 暗褐色土　ﾛｰﾑ粒・As-Srを疎に含む。
4. 黒褐色土　ﾛｰﾑ粒・As-Sr・小ﾛｰﾑﾌﾞﾛｯｸ・炭化物を疎に含む。
5. 茶褐色土　ﾛｰﾑﾌﾞﾛｯｸやや密に含む。

縄文61号土坑
1. 暗褐色土　ﾛｰﾑ粒を疎に含む。
2. 暗褐色土　ﾛｰﾑ粒を含まず、粘性もつ。しまり弱い。
3. 黒褐色土　ﾛｰﾑ粒・As-Sr・As-OP1をやや密に、炭化物・ﾛｰﾑﾌﾞﾛｯｸ

を疎に含む。
4. 暗茶褐色土ﾛｰﾑ粒・As-Srをやや密に含み、しまり強い。
5. 黄褐色土　ﾛｰﾑ粒を密に含む。
6. 暗褐色土　ﾛｰﾑ粒・As-Srをやや疎に含む。

縄文62号土坑
1. 暗褐色土　ﾛｰﾑ粒・As-Srをやや密に、炭化物を疎に含む。
2. 暗褐色土　1よりﾛｰﾑ粒・As-Srを疎に、炭化物は含まない。
3. 暗茶褐色土ﾛｰﾑ粒・As-Srを密に、炭化物をﾎﾟｯﾎﾟｯ含む
4. 黄褐色土　As-Srを多量に含み、炭化物を疎に含む。

縄文63号土坑
1. 暗褐色土　ﾛｰﾑ粒・As-Srをやや疎に、小ﾛｰﾑﾌﾞﾛｯｸ・炭化物を疎に含む。
2. 暗茶褐色土ﾛｰﾑ粒・As-Srをやや密に含む。
3. 暗褐色土　1に近似するが、混入物少なく、しまり強くｶﾞﾁｶﾞﾁ。
4. 暗茶褐色土ﾛｰﾑ粒・As-Srを密に含む。
5. 茶褐色土　ﾛｰﾑ粒・As-Srを多量に含む。

縄文64号土坑
1. 黒褐色土　ﾛｰﾑ粒・As-Srを密に、As-OP1やや疎に、炭化物を疎に含む。
2. 暗褐色土　1に近似するが混入物少なく、粘性もつ。
3. 暗褐色土　1・2より含有物少なく、しまり強い。

縄文65号土坑
1. 暗褐色土　ﾛｰﾑ粒・As-Sr・As-OP1を含み、炭化物を疎に含む。
2. 黄褐色土　ﾛｰﾑ粒を密に含む。
3. 黒褐色土　ﾛｰﾑ粒・As-Sr・As-OP1をやや密に、炭化物を疎に含む。
4. 暗茶褐色土ﾛｰﾑ粒をやや疎に、As-Srをやや密に含み、しまり強い。
5. 暗茶褐色土ﾛｰﾑ粒・As-Srをやや疎に含み、粘性あり。

縄文66号土坑
1. 暗褐色土　ﾛｰﾑ粒・As-Srをやや密、As-OP1やや疎に含む。
2. 黄褐色土　ﾛｰﾑ粒・As-Srを密に含む。

縄文67号土坑
1. 暗褐色土　ﾛｰﾑ粒・As-Srをやや密に、小ﾛｰﾑﾌﾞﾛｯｸを多く含む。
2. 黄褐色土　ﾛｰﾑ粒・As-Srを密に含む。

縄文68号土坑
1. 暗茶褐色土ﾛｰﾑ粒・As-Sr・As-OP1やや疎に、炭化物をﾎﾟｯﾎﾟｯ含む。
2. 暗茶褐色土ﾛｰﾑ粒・As-Srをやや疎に、ﾛｰﾑﾌﾞﾛｯｸを数点含む。
3. 茶褐色土　ﾛｰﾑ粒・ﾛｰﾑﾌﾞﾛｯｸを多く含み、As-Sr・As-OP1を疎に含む。
4. 黄褐色土　ﾛｰﾑ粒・ﾛｰﾑﾌﾞﾛｯｸが大半で、As-Srもやや密に含む。

縄文69号土坑
1. 黒褐色土　ﾛｰﾑ粒・As-Sr・As-OP1・炭化物を疎に含む。
2. 黒褐色土　ﾛｰﾑ粒やや疎に、As-Srを密に、炭化物を疎に含む。
3. 暗褐色土　2に近似するが、As-Sr少ない。
4. 黄褐色土　ﾛｰﾑ粒・As-Srを多く含む。
5. 黄褐色土　As-Srを密に含む。

縄文70号土坑
1. 暗褐色土　ﾛｰﾑ粒・ﾛｰﾑﾌﾞﾛｯｸを疎、As-Srやや密に、炭化物を疎に含む。
2. 黄褐色土　ﾛｰﾑ粒・ﾛｰﾑﾌﾞﾛｯｸを密に、As-Sr・暗褐色土をやや疎に含む。

縄文71号土坑
1. 暗褐色土　ﾛｰﾑ粒・As-OP1を含む。

縄文72号土坑
1. 暗褐色土　ﾛｰﾑ粒・As-Sr・As-OP1を含む。
2. 黒褐色土　ﾛｰﾑ粒・As-Sr・ﾛｰﾑﾌﾞﾛｯｸを含み、炭化物を疎に含む。
3. 暗褐色土　ﾛｰﾑ粒・As-Srを含み、ﾛｰﾑﾌﾞﾛｯｸを多く含む。
4. 茶褐色土　ﾛｰﾑ粒・As-Srを多く含む。
5. 黄褐色土　ﾛｰﾑ粒を疎、As-Srを多く含む。

縄文73号土坑
1. 暗褐色土　ﾛｰﾑ粒・As-Sr・As-OP1をやや疎に、炭化物を疎に含む。
2. 暗褐色土　1に近似し、粘性もつ。
3. 黒褐色土　1に近似するが、As-Sr・炭化物が大きく、しまり強い。
4. 黒褐色土　ﾛｰﾑ粒・As-Srを含む。
5. 暗褐色土　ﾛｰﾑ粒・As-Srを多く含む。
6. 茶褐色土　5にﾛｰﾑ・As-Srﾌﾞﾛｯｸを含む。
7. 暗茶褐色土6に近似するが、As-Sr少ない。
8. 黄褐色土　ﾛｰﾑ粒・As-Srを多く含む。

縄文74号土坑
1. 暗褐色土　ﾛｰﾑ粒・As-Srを含み、炭化物をﾎﾟｯﾎﾟｯ含む。

縄文75号土坑
1. 暗褐色土　ﾛｰﾑ粒・As-Srをやや密、As-OP1・炭化物を疎に含む。
2. 暗褐色土　ﾛｰﾑ粒・As-Srを疎に含む。
3. 暗茶褐色土ﾛｰﾑ粒・As-Srをﾎﾟｯﾎﾟｯ含み、赤色ｽｺﾘｱの含有多い。
4. 暗褐色土　ﾛｰﾑ粒疎に含む。しまりなし。

縄文76号土坑
1. 暗褐色土　ﾛｰﾑ粒・As-Srをやや密に含む。
2. 黄褐色土　ﾛｰﾑ粒・As-Srをやや密に含む。
3. 暗褐色土　ﾛｰﾑ粒・As-Srを疎に含み、炭化物をﾎﾟｯﾎﾟｯ含む。

縄文77号土坑
1. 黒褐色土　ﾛｰﾑ粒・As-Srをやや密に、炭化物・As-OP1を疎に含む。
2. 暗褐色土　ﾛｰﾑ粒・As-Srをやや密、炭化物・ﾛｰﾑﾌﾞﾛｯｸを含む。
3. 暗茶褐色土ﾛｰﾑ粒を密に、As-Srをやや疎に含む。
4. 茶褐色土　ﾛｰﾑ粒を密に含む。

縄文78号土坑
1. 暗褐色土　ﾛｰﾑ粒を疎に、炭化物ﾎﾟｯﾎﾟｯ含む。
2. 暗褐色土　ﾛｰﾑ粒・As-Sr・As-OP1を疎に含む。
3. 暗茶褐色土ﾛｰﾑ粒をやや密に含み、しまり強い。

縄文79号土坑
1. 暗褐色土　ﾛｰﾑ粒・As-Srを密に、As-OP1・炭化物を疎に含む。
2. 暗茶褐色土1に近似するが、炭化物を含まない。
3. 暗茶褐色土ﾛｰﾑ粒やや密に含む。

縄文80号土坑
1. 暗茶褐色土ﾛｰﾑ粒・As-Sr多く含み、炭化物・As-OP1を疎に含む。
2. 暗褐色土　1に近似するが、混入物少ない。
3. 茶褐色土　1・2に近似するが、混入物少なく、しまり強くｶﾞﾁｶﾞﾁ。

縄文81号土坑
1. 暗褐色土　ﾛｰﾑ粒・As-Sr・As-OP1・炭化物を疎に含む。
2. 茶褐色土　ﾛｰﾑ粒・As-Srを密に含む。

縄文82号土坑
1. 暗褐色土　ﾛｰﾑ粒・As-Sr・As-OP1をやや疎に、炭化物ﾎﾟｯﾎﾟｯ含む。
2. 茶褐色土　ﾛｰﾑ粒・As-Srをやや密に含み、しまり強くｶﾞﾁｶﾞﾁ。

縄文83号土坑
1. 黒褐色土　ﾛｰﾑ粒・As-Sr・As-OP1を疎に、炭化物ﾎﾟｯﾎﾟｯ含む。
2. 黒褐色土　ﾛｰﾑ粒・As-Srをやや密に、炭化物ﾎﾟｯﾎﾟｯ含む。
3. 茶褐色土　ﾛｰﾑ粒を密に含む。

縄文84号土坑
1. 黒褐色土　ﾛｰﾑ粒・炭化物を疎に含む。
2. 暗茶褐色土ﾛｰﾑ粒やや密に、As-Sr・炭化物を疎に含む。

縄文85号土坑
1. 黒褐色土　ﾛｰﾑ粒・As-Srをやや疎に、炭化物・As-OP1を疎に含む。
2. 黒褐色土　ﾛｰﾑ粒・As-Srを密に、As-OP1・炭化物を疎に含む。しまり強い。
3. 暗褐色土　ﾛｰﾑ粒をやや密に含む。
4. 暗茶褐色土ﾛｰﾑ粒を密に含む。

縄文86号土坑
1. 暗褐色土　ﾛｰﾑ粒・As-Sr・As-OP1を疎に、炭化物ﾎﾟｯﾎﾟｯ含む。

縄文87号土坑
1. 黒褐色土　ﾛｰﾑ粒・炭化物を疎に含む。
2. 黒褐色土　ﾛｰﾑ粒・As-Srを疎に含む。
3. 黒褐色土　ﾛｰﾑ粒・As-Srをやや密に、炭化物を疎に含む。
4. 暗褐色土　ﾛｰﾑ粒・As-Srを疎に含み、しまりに欠ける。
5. 暗茶褐色土ﾛｰﾑ粒をやや疎に、As-Srをやや密に含む。

縄文88号土坑
1. 暗褐色土　ﾛｰﾑ粒・As-Sr・炭化物を疎に含む。
2. 黒褐色土　ﾛｰﾑ粒・As-Srをやや密に含む。
3. 暗褐色土　ﾛｰﾑ粒を1・2より密に含む。
4. 暗茶褐色土ﾛｰﾑ粒を密に含む。

縄文89号土坑
1. 暗褐色土　ﾛｰﾑ粒・As-Srをやや密に含み、炭化物を疎に含む。
2. 黄褐色土　ﾛｰﾑ粒・As-Srを密に含む。

縄文90号土坑
1. 暗褐色土　ﾛｰﾑ粒・As-Sr・As-OP1・炭化物を疎に含む。
2. 黒褐色土　1に近似するが、混入物やや密で、粘性もつ。

3. 茶褐色土　ﾛｰﾑ粒を密に、As-Srやや密に含む。

縄文91号土坑

1. 暗褐色土　ﾛｰﾑ粒・As-Srやや密に、As-OP1・炭化物を疎に含む。
2. 黄褐色土　ﾛｰﾑ粒・As-Srを密に含む。

縄文92号土坑

1. 暗褐色土　ﾛｰﾑ粒・As-Srをやや密に、炭化物・As-OP1を疎に含む。
2. 暗褐色土　ﾛｰﾑ粒・As-Srを密に、As-OP1・炭化物を疎に含む。
3. 暗茶褐色土　ﾛｰﾑ粒・As-Srを疎に含む。
4. 茶褐色土　ﾛｰﾑ粒をやや密に含む。

縄文93号土坑

1. 黒褐色土　ﾛｰﾑ粒・As-Srをやや疎に、炭化物を疎に含む。
2. 暗褐色土　ﾛｰﾑ粒やや密に含む。
3. 茶褐色土　ﾛｰﾑ粒を密に含み、粘性もつ。

縄文94号土坑

1. 黒褐色土　ﾛｰﾑ粒・As-Sr・As-OP1やや密に、炭化物を疎に含む。
2. 茶褐色土　ﾛｰﾑ粒・As-Srを密に含む。
3. 茶褐色土　ﾛｰﾑ粒を密に含む。

縄文95号土坑

1. 暗褐色土　ﾛｰﾑ粒・As-Srやや疎に、As-OP1やや密に、炭化物を疎に含む。
2. 茶褐色土　ﾛｰﾑ粒をやや密に含む。
3. 黄褐色土　ﾛｰﾑ粒を密に、As-Sr疎に含む。

縄文96号土坑

1. 黒褐色土　ﾛｰﾑ粒・As-Sr・As-OP1をやや疎に、炭化物を含む。
2. 暗茶褐色土　ﾛｰﾑ粒・As-Sr・炭化物を疎に含む。
3. 茶褐色土　ﾛｰﾑ粒を密に含む。

縄文97号土坑

1. 暗褐色土　ﾛｰﾑ粒・As-Srをやや密、As-OP1・炭化物を疎に含む。
2. 暗褐色土　ﾛｰﾑ粒・As-Srをやや密に、ﾛｰﾑﾌﾞﾛｯｸを含む。
3. 暗褐色土　ﾛｰﾑ粒を密に含む。
4. 暗褐色土　ﾛｰﾑ粒・As-Srを密に、炭化物を疎に含む。

縄文98号土坑

1. 黒褐色土　ﾛｰﾑ粒・As-Srを疎に含む。
2. 黒褐色土　ﾛｰﾑ粒・As-Srを疎に含み、しまり・粘性強い。
3. 黄褐色土　ﾛｰﾑ粒・As-Srを密に含む。

縄文99号土坑

1. 黒褐色土　ﾛｰﾑ粒。As-Srを疎に、ﾛｰﾑﾌﾞﾛｯｸ・炭化物を含む。
2. 暗褐色土　ﾛｰﾑ粒・As-Srをやや密に、ﾛｰﾑﾌﾞﾛｯｸを多く含む。

縄文100号土坑

1. 黒褐色土　ﾛｰﾑ粒・As-Sr・As-OP1・炭化物を疎に含む。
2. 暗褐色土　ﾛｰﾑ粒やや密に、As-OP1・炭化物を疎に含み、しまり強く、粘性もつ。
3. 暗褐色土　ﾛｰﾑ粒・As-Srやや密に含み、しまり強い。

縄文101号土坑

1. 黒褐色土　ﾛｰﾑ粒・炭化物を疎に含み、粘性あり。
2. 暗茶褐色土　ﾛｰﾑ粒を多く含み、As-Sr・As-OP1を疎に含む。粘性・しまりあり。
3. 茶褐色土　ﾛｰﾑ粒を密に、As-Sr・As-OP1をやや多く含む。粘性・しまりあり。
4. 茶褐色土　ﾛｰﾑ粒をやや多く含み、As-Sr・As-OP1を含む。

縄文102号土坑

1. 暗褐色土　ﾛｰﾑ粒・As-Sr・As-OP1をやや疎に、炭化物を疎に含む。
2. 暗茶褐色土　1よりﾛｰﾑ粒を密に含み、しまり強い。
3. 茶褐色土　2に近似するが、暗褐色土を含まない。

縄文103号土坑

1. 暗褐色土　ﾛｰﾑ粒・As-Sr・As-OP1をやや疎に、炭化物を疎に含む。
2. 茶褐色土　ﾛｰﾑ粒・ﾛｰﾑﾌﾞﾛｯｸを多く含み、粘性・しまりあり。
3. 茶褐色土　2に近似するが、粘性ない。

縄文104号土坑

1. 暗褐色土　ﾛｰﾑ粒・As-OP1を疎に含む。
2. 暗褐色土　1よりﾛｰﾑ粒多く含み、ﾌﾞﾛｯｸ状に固い。
3. 暗褐色土　ﾛｰﾑ粒・As-Sr・As-OP1をやや密に、炭化物をﾎﾟﾂﾎﾟﾂ含む。
4. 黒褐色土　ﾛｰﾑ粒・As-Sr・As-OP1をやや疎に含み、粘性・しまりあり。
5. 黒褐色土　ﾛｰﾑ粒・As-Sr・ﾛｰﾑﾌﾞﾛｯｸを含む。
6. 暗褐色土　5に近似するが、ﾛｰﾑ・As-Srﾌﾞﾛｯｸを含まず、ﾛｰﾑ粒を含む。
7. 黒褐色土　4に近似するが、4よりしまり・粘性強く、炭化物をやや多く含む。
8. 暗褐色土　ﾛｰﾑ粒・ﾛｰﾑﾌﾞﾛｯｸをやや多く含み、しまり強い。

縄文105号土坑

1. 黒褐色土　ﾛｰﾑ粒・As-Sr・As-OP1・炭化物を疎に含む。
2. 暗褐色土　ﾛｰﾑ粒・As-OP1を含む。
3. 黒褐色土　1にﾛｰﾑ・As-Srﾌﾞﾛｯｸを含み、粘性・しまり強い。
4. 暗褐色土　ﾛｰﾑ粒を他に比べて多く含む。

縄文106号土坑

1. 黒褐色土　ﾛｰﾑ粒・As-Sr・As-OP1をやや密に含む。
2. 黒褐色土　ﾛｰﾑ粒・As-Sr・As-OP1をやや疎に含み、炭化物を疎に含む。
3. 暗褐色土　ﾛｰﾑ粒をやや密に含む。
4. 黒褐色土　ﾛｰﾑ粒・As-Sr・As-OP1をやや密に含み、粘性あり。
5. 暗茶褐色土　ﾛｰﾑ粒を密に、As-Srを含む。しまりあり。
6. 黄褐色土　ﾛｰﾑ粒を密に含む。

縄文107号土坑

1. 暗褐色土　ﾛｰﾑ粒・As-Sr・As-OP1をやや密に、炭化物を疎に含む。
2. 黒褐色土　ﾛｰﾑ粒・As-Sr・As-OP1・炭化物を疎に含む。
3. 黒褐色土　2にﾛｰﾑﾌﾞﾛｯｸを多く含む。しまり・粘性強い。
4. 暗褐色土　ﾛｰﾑﾌﾞﾛｯｸ・ﾛｰﾑ粒を多く含む。

縄文108号土坑

1. 暗褐色土　ﾛｰﾑ粒・As-Srを疎に、ﾛｰﾑﾌﾞﾛｯｸを多く含む。
2. 暗褐色土　ﾛｰﾑ粒・As-Srを密に含む。
3. 黒褐色土　ﾛｰﾑ粒・As-Srやや密に、As-OP1・炭化物やや疎に含む。
4. 暗茶褐色土　ﾛｰﾑ粒やや密に、As-Srを疎に含む。
5. 暗褐色土　ﾛｰﾑ粒・As-Srを疎に含む。

縄文109号土坑

1. 黒褐色土　ﾛｰﾑ粒・As-Sr・As-OP1・炭化物を疎に含む。
2. 黒褐色土　ﾛｰﾑ粒・As-Srをﾎﾟﾂﾎﾟﾂ含む。
3. 暗褐色土　ﾛｰﾑ粒・As-Srを密に含む。
4. 暗茶褐色土　ﾛｰﾑ粒やや密に、As-Sr・As-OP1やや疎に含む。しまり強い。
5. 暗褐色土　ﾛｰﾑ粒・As-Srやや疎に含む。しまり強い。
6. 茶褐色土　ﾛｰﾑ粒やや密に含み、As-Srを疎に含む。しまり強い。

縄文110号土坑

1. 暗褐色土　ﾛｰﾑ粒・As-Sr・As-OP1を疎に、炭化物を含む。
2. 茶褐色土　ﾛｰﾑ粒を密に含む。

縄文111号土坑

1. 暗褐色土　ﾛｰﾑ粒・As-Sr・As-OP1・炭化物を疎に含む。
2. 暗茶褐色土　ﾛｰﾑ粒をやや密に含む。

縄文112号土坑

1. 暗褐色土　ﾛｰﾑ粒・As-Srを含み、炭化物を疎に含む。
2. 茶褐色土　ﾛｰﾑ粒・As-Srを疎に含み、しまり強い。

縄文113号土坑

1. 暗褐色土　ﾛｰﾑ粒・As-Srを含む。
2. 暗茶褐色土　ﾛｰﾑ粒・As-Srをやや密に、炭化物を疎に含む。
3. 茶褐色土　ﾛｰﾑ粒を密に、As-Sr疎に含む。

縄文114号土坑

1. 黒褐色土　ﾛｰﾑ粒・As-Sr・As-OP1をやや疎に、炭化物を疎に含む。
2. 黒褐色土　1に近似するが、しまり強くｶﾞﾁｶﾞﾁ。

縄文115号土坑

1. 暗褐色土　ﾛｰﾑ粒・As-Srをやや密、As-OP1・炭化物を疎に含む。
2. 暗茶褐色土　1に近似するが、ﾛｰﾑ粒・As-Sr少ない。
3. 茶褐色土　ﾛｰﾑ粒をやや密に含む。
4. 暗褐色土　1より混入物少なく、しまり・粘性強い。
5. 暗褐色土　ﾛｰﾑ粒・As-Srを含むが、ややしまりに欠ける。

縄文116号土坑

1. 暗褐色土　ﾛｰﾑ粒・As-Sr・As-OP1・炭化物を含む。
2. 黄褐色土　ﾛｰﾑ粒・As-Srを多く含む。

縄文117号土坑

1. 黒褐色土　ﾛｰﾑ粒・As-Sr・As-OP1をやや疎に、炭化物を疎に含む。
2. 黄褐色土　ﾛｰﾑ粒を密に含む。

縄文118号土坑

1. 暗褐色土　ﾛｰﾑ粒・As-Sr・炭化物を疎に含む。

縄文119号土坑

1. 暗褐色土　ﾛｰﾑ粒・As-Sr・As-OP1・炭化物を疎に含む。

縄文122号土坑
1. 黒褐色土　ﾛｰﾑ粒・As-Sr・As-OP1をやや疎に、炭化物を疎に含む。

縄文123号土坑
1. 暗褐色土　ﾛｰﾑ粒を疎に含む。
2. 茶褐色土　ﾛｰﾑ粒・As-Srを密に含む。

縄文124号土坑
1. 暗褐色土　ﾛｰﾑ粒・As-Sr・As-OP1をやや疎に、炭化物を疎に含む。
2. 暗茶褐色土ﾛｰﾑ粒・As-Srを1より密で、しまり強くｶﾞﾁｶﾞﾁ。
3. 暗褐色土　ﾛｰﾑ粒を密に、As-Srを疎に含み、しまり弱い。
4. 黄褐色土　As-Srを密に含む。

縄文125号土坑
1. 暗褐色土　ﾛｰﾑ粒・As-Sr・As-OP1・炭化物を疎に含む。
2. 暗褐色土　1に近似するが、炭化物を含まない。
3. 暗褐色土　黒褐色土に近い。2に近似するが、粘性が強い。
4. 茶褐色土　ﾛｰﾑ粒やや疎に含む。

縄文126号土坑
1. 暗褐色土　ﾛｰﾑ粒・As-OP1・炭化物を疎に含む。
2. 暗褐色土　ﾛｰﾑ粒を疎に含む。
3. 茶褐色土　ﾛｰﾑ粒をやや密に、As-Srを疎に含む。
4. 暗茶褐色土ﾛｰﾑ粒を疎に含む。

縄文127号土坑
1. 茶褐色土　ﾛｰﾑ粒を密に含む。
2. 黒褐色土　ﾛｰﾑ粒・As-Srを疎に含む。
3. 暗褐色土　ﾛｰﾑ粒・As-Srを密に含む。
4. 黄褐色土　ﾛｰﾑ粒を密に、As-Sr疎に含む。

縄文128号土坑
1. 暗褐色土　ﾛｰﾑ粒・As-Srを疎に、As-OP1やや密に含む。
2. 暗褐色土　ﾛｰﾑ粒・As-Srを疎に、ﾛｰﾑﾌﾞﾛｯｸ・炭化物を疎に含む。
3. 黄褐色土　As-Srを密に含む。

縄文129号土坑
1. 暗褐色土　ﾛｰﾑ粒・As-Sr・As-OP1をやや疎に、炭化物を疎に含む。
2. 茶褐色土　ﾛｰﾑ粒を密に含む。

縄文130号土坑
1. 黒褐色土　ﾛｰﾑ粒・As-Sr・As-OP1をやや疎に、炭化物を疎に含む。
2. 暗褐色土　ﾛｰﾑ粒・As-Sr・As-OP1・炭化物を疎に含み、ややしまりに欠ける。

縄文131号土坑
1. 黒褐色土　ﾛｰﾑ粒・As-Sr・As-OP1・炭化物を疎に、ﾛｰﾑﾌﾞﾛｯｸを数点含む。
2. 黒褐色土　ﾛｰﾑ粒・As-Srをやや密に、炭化物を疎に含み、しまりあり。
3. 黒褐色土　ﾛｰﾑ粒・As-Srをやや密に含み、しまりにやや欠ける。
4. 暗褐色土　ﾛｰﾑ粒・As-Srを一部に含み、しまり強く、粘性もつ。

縄文132号土坑
1. 暗褐色土　ﾛｰﾑ粒やや密に、ﾛｰﾑﾌﾞﾛｯｸを疎に含む。
2. 暗茶褐色土ﾛｰﾑ粒・As-Srをやや疎に、ﾛｰﾑﾌﾞﾛｯｸを含む。

縄文133号土坑
1. 暗褐色土　ﾛｰﾑ粒・As-Sr・As-OP1を疎に含む。
2. 暗茶褐色土ﾛｰﾑ粒を1に比べてやや密に、炭化物を疎に含む。
3. 暗褐色土　ﾛｰﾑ粒をやや密に含む。
4. 茶褐色土　ﾛｰﾑ粒・As-Srを密に含む。

縄文134号土坑
1. 暗褐色土　ﾛｰﾑ粒やや密、As-Sr・As-OP1やや疎に、炭化物を疎に含む。
2. 茶褐色土　ﾛｰﾑ粒やや密、As-Sr・As-OP1を疎に含む。

縄文135号土坑
1. 暗褐色土　ﾛｰﾑ粒・As-Srを疎に含む。

縄文136号土坑
1. 黒褐色土　ﾛｰﾑ粒・As-Sr・As-OP1やや疎に、炭化物を疎に含み、しまりあり。
2. 黒褐色土　ﾛｰﾑ粒・As-Sr・As-OP1を疎に、ﾛｰﾑﾌﾞﾛｯｸを含み、しまり強い。
3. 暗褐色土　ﾛｰﾑ粒・As-Srを疎に含む。
4. 茶褐色土　ﾛｰﾑ粒をやや密に含む。

縄文137号土坑
1. 黒褐色土　ﾛｰﾑ粒・As-Srをやや疎に、炭化物・As-OP1を疎に含む。
2. 黒褐色土　ﾛｰﾑ粒・As-Srをやや疎に含み、しまり強い。
3. 暗褐色土　ﾛｰﾑ粒・As-Srをやや密に、炭化物を疎に含む。
4. 暗茶褐色土ﾛｰﾑ粒・As-Srをやや疎に含み、しまり弱い。
5. 茶褐色土　ﾛｰﾑ粒・As-Srをやや疎に、ﾛｰﾑﾌﾞﾛｯｸを含む。

縄文138号土坑
1. 暗褐色土　ﾛｰﾑ粒・As-Sr・As-OP1をやや疎に、炭化物を疎に含む。
2. 暗茶褐色土ﾛｰﾑ粒・As-Srを密に、炭化物を疎に含む。

縄文139号土坑
1. 黒褐色土　ﾛｰﾑ粒・As-Srをやや密に、炭化物・As-OP1を疎に含む。
2. 暗茶褐色土ﾛｰﾑ粒・As-Srを疎に含み、しまりに欠ける。
3. 黄褐色土　ﾛｰﾑ粒・ﾛｰﾑﾌﾞﾛｯｸ含む。
4. 黒褐色土　ﾛｰﾑ粒・As-Srを疎に含み、粘性・しまり強い。

縄文140号土坑
1. 暗褐色土　ﾛｰﾑ粒・As-Sr・炭化物を疎に含む。
2. 暗茶褐色土ﾛｰﾑ粒・As-Srを密に含む。
3. 暗褐色土　ﾛｰﾑ粒・As-Srを疎に含み、やや粘性あり。

縄文141号土坑
1. 暗褐色土　ﾛｰﾑ粒・As-Srをやや密に、ﾛｰﾑﾌﾞﾛｯｸ・炭化物を疎に含む。
2. 黒褐色土　ﾛｰﾑ粒・As-Srをやや疎に含み、しまり強くｶﾞﾁｶﾞﾁ。
3. 暗褐色土　ﾛｰﾑ粒・As-Srを含む。

縄文142号土坑
1. 茶褐色土　ﾛｰﾑ粒・As-Sr・ﾛｰﾑﾌﾞﾛｯｸを疎に含む。
2. 暗茶褐色土ﾛｰﾑ粒を疎に含む。
3. 暗茶褐色土ﾛｰﾑ粒を疎に、炭化物をﾎﾟﾂﾎﾟﾂ含む。

縄文143号土坑
1. 暗褐色土　ﾛｰﾑ粒・As-Sr・As-OP1やや疎に、炭化物を疎に含む。
2. 暗茶褐色土ﾛｰﾑ粒やや密に、As-Sr・ﾛｰﾑﾌﾞﾛｯｸを疎に含む。
3. 茶褐色土　ﾛｰﾑ粒をやや密に含み、しまり強い。
4. 黄褐色土　ﾛｰﾑ粒密に含み、しまり強い。

縄文144号土坑
1. 暗褐色土　ﾛｰﾑ粒をやや密に、As-Srを疎に含む。
2. 暗褐色土　ﾛｰﾑ粒を疎に含む。
3. 黒褐色土　ﾛｰﾑ粒・As-Sr・As-OP1・炭化物を疎に含む。
4. 暗褐色土　ﾛｰﾑ粒をやや疎に含み、しまりに欠ける。
5. 黒褐色土　ﾛｰﾑ粒・As-Sr・小ﾛｰﾑﾌﾞﾛｯｸをやや密に、炭化物を疎に含む。
6. 暗褐色土　ﾛｰﾑ粒・As-Srを疎に含む。
7. 暗褐色土　ﾛｰﾑ粒・As-Srをやや密に含み、しまりに欠ける。

縄文145号土坑
1. 黒褐色土　ﾛｰﾑ粒・As-Srをやや疎に、炭化物を疎に含む。

縄文146号土坑
1. 黒褐色土　ﾛｰﾑ粒・As-Srをやや疎に、炭化物を疎に含む。
2. 暗褐色土　ﾛｰﾑ粒・As-Sr・炭化物を疎に含み、しまりかなり強い。
3. 暗褐色土　ﾛｰﾑ粒をやや密に含む。

縄文147号土坑
1. 暗褐色土　ﾛｰﾑ粒・As-Sr・As-OP1をやや疎、炭化物を疎に含む。
2. 暗茶褐色土ﾛｰﾑ粒・As-Srをやや密に、炭化物を疎に含み、しまりあり。
3. 暗茶褐色土ﾛｰﾑ粒をやや密に、As-Srを疎に含む。
4. 茶褐色土　ﾛｰﾑ粒を密に、As-Srを疎に含む。

縄文148号土坑
1. 黒褐色土　ﾛｰﾑ粒・As-Sr・As-OP1をやや疎、炭化物を疎に含む。
2. 黒褐色土　ﾛｰﾑ粒・As-Srをやや密に含み、炭化物・As-OP1を疎に含む。しまり強い。
3. 暗褐色土　ﾛｰﾑ粒・As-Srを疎に含む。
4. 暗褐色土　ﾛｰﾑ粒をやや密に含み、しまりやや弱い。

縄文149号土坑
1. 暗褐色土　ﾛｰﾑ粒・As-Sr・As-OP1をやや疎、炭化物を疎に含む。
2. 黄褐色土　ﾛｰﾑ粒を密、As-Sr・As-OP1を疎に含む。

縄文150号土坑
1. 暗褐色土　ﾛｰﾑ粒・As-Sr・炭化物を疎に含む。

縄文151号土坑
1. 黒褐色土　ﾛｰﾑ粒・As-Sr・炭化物を疎に含む。
2. 黒褐色土　1よりも混入物少なく、しまり強い。
3. 暗褐色土　ﾛｰﾑ粒・As-Srを密に含む。
4. 黒褐色土　ﾛｰﾑ粒・As-Srを含み、同ﾌﾞﾛｯｸを多く含み、粘性もつ。

縄文152号土坑
1. 黒褐色土　ﾛｰﾑ粒･As-Srを疎に含む。
2. 暗褐色土　ﾛｰﾑ粒･As-Srを疎に含む。

縄文153号土坑
1. 黒褐色土　ﾛｰﾑ粒･As-Sr･As-OP1･炭化物を疎に含む。
2. 暗褐色土　ﾛｰﾑ粒･As-Srをやや密に、ﾛｰﾑﾌﾞﾛｯｸ･As-Srﾌﾞﾛｯｸを含み、しまり･粘性強い。
3. 暗褐色土　ﾛｰﾑ粒･As-Srを疎に含み、しまり弱い。
4. 暗褐色土　ﾛｰﾑ粒･As-Srを密に含む。

縄文154号土坑
1. 黒褐色土　ﾛｰﾑ粒･As-Sr･炭化物を疎に含む。
2. 茶褐色土　ﾛｰﾑ粒をやや密に、As-Sr･小ﾛｰﾑﾌﾞﾛｯｸを疎に含む。

縄文155号土坑
1. 黒褐色土　ﾛｰﾑ粒･As-Sr･As-OP1･炭化物を疎に含む。
2. 黒褐色土　ﾛｰﾑ粒･As-Srをやや疎に含み、しまり･粘性強い。
3. 暗茶褐色土ﾛｰﾑ粒疎に含み、しまり弱い。
4. 暗褐色土　ﾛｰﾑ粒･As-Srをやや密に含み、しまり強くｶﾞﾁｶﾞﾁ。
5. 暗褐色土　ﾛｰﾑ粒をﾎﾟｯﾎﾟｯ含む。

縄文156号土坑
1. 暗褐色土　ﾛｰﾑ粒･As-Srやや密に、As-OP1･炭化物を疎に含む。
2. 暗褐色土　ﾛｰﾑ粒･As-Srを疎に含む。
3. 暗茶褐色土ﾛｰﾑ粒･As-Srをやや密に含み、しまり強い。

縄文157号土坑
1. 黒褐色土　ﾛｰﾑ粒･As-Sr･炭化物を疎に、白色粒をやや密に含む。
2. 黒褐色土　ﾛｰﾑ粒･As-Srをやや密に、ﾛｰﾑﾌﾞﾛｯｸ含む。
3. 黒褐色土　ﾛｰﾑ粒･As-Srをやや密に含み、しまり･粘性強い。
4. 茶褐色土　ﾛｰﾑ粒を密に含む。

縄文158号土坑
1. 暗褐色土　ﾛｰﾑ粒をやや密に、As-Sr･As-OP1を疎に含む。
2. 黄褐色土　ﾛｰﾑ粒を密に含む。

縄文159号土坑
1. 茶褐色土　ﾛｰﾑ粒･ﾛｰﾑﾌﾞﾛｯｸ含む。しまりやや弱い。
2. 暗茶褐色土ﾛｰﾑ粒･As-Sr･As-OP1やや密に、炭化物を疎に含む。
3. 暗褐色土　ﾛｰﾑ粒･As-Sr･ﾛｰﾑﾌﾞﾛｯｸを含む。
4. 黄褐色土　ﾛｰﾑﾌﾞﾛｯｸ･As-Srを多量に含む。

縄文160号土坑
1. 暗褐色土　ﾛｰﾑ粒やや密に、As-Sr･As-OP1を疎に含む。
2. 黄褐色土　ﾛｰﾑ粒を密に含む。
3. 暗褐色土　1に近似するが、ﾛｰﾑ粒･As-Srの混入多く、しまり･粘性強い。
4. 暗褐色土　ﾛｰﾑ粒を密に含み、As-OP1･As-Srを疎に含む。

縄文161号土坑
1. 黒褐色土　ﾛｰﾑ粒･As-Srをやや疎に、炭化物を疎に含み、小ﾛｰﾑﾌﾞﾛｯｸ数点含む。
2. 暗褐色土　ﾛｰﾑ粒･小ﾛｰﾑﾌﾞﾛｯｸを含む。
3. 黄褐色土　ﾛｰﾑ粒･小ﾛｰﾑﾌﾞﾛｯｸを多量に含む。

縄文162号土坑
1. 黒褐色土　ﾛｰﾑ粒･As-Srを疎に含む。
2. 黒褐色土　1に近似しているが、しまり強い。

縄文163号土坑
1. 暗褐色土　ﾛｰﾑ粒･As-Sr軽石･As-OP1やや疎に、炭化物を疎に含む。しまりやや強く、粘性あり。

縄文164号土坑
1. 暗褐色土　ﾛｰﾑ粒･As-Sr軽石･ﾛｰﾑﾌﾞﾛｯｸを多く含む。

縄文165号土坑
1. 暗褐色土　ﾛｰﾑﾌﾞﾛｯｸ･As-Sr･As-OP1･炭化物を疎に含む。
2. 暗褐色土　ﾛｰﾑ粒･As-Srを密に含む。

縄文166号土坑
1. 暗褐色土　ﾛｰﾑ粒･As-OP1を疎に含む。
2. 茶褐色土　ﾛｰﾑ粒･ﾛｰﾑﾌﾞﾛｯｸ含む。

縄文167号土坑
1. 暗褐色土　ﾛｰﾑ粒･As-Srを疎に含む。
2. 黒褐色土　ﾛｰﾑ粒･As-Sr･炭化物を疎に含み、粘性もつ。
3. 茶褐色土　ﾛｰﾑ粒･同ﾌﾞﾛｯｸをやや多く含む。

縄文168号土坑
1. 暗褐色土　ﾛｰﾑ粒･As-Sr･炭化物疎に含む。
2. 暗褐色土　ﾛｰﾑ粒･As-Srやや密に、炭化物を疎に含む。
3. 茶褐色土　ﾛｰﾑ粒･As-Srを密に含む。

縄文169号土坑
1. 暗褐色土　ﾛｰﾑ粒･As-Sr･As-OP1やや疎に、炭化物ﾎﾟｯﾎﾟｯ含む。
2. 暗茶褐色土ﾛｰﾑ粒･As-Sr多く含む。
3. 暗茶褐色土ﾛｰﾑ粒･As-Srをやや密に含み、しまり強くｶﾞﾁｶﾞﾁ。

縄文170号土坑
1. 暗褐色土　ﾛｰﾑ粒･As-Srを疎に、炭化物やや密に含む。
2. 暗茶褐色土1に近似するが、明るい。
3. 暗褐色土　ﾛｰﾑ粒やや疎、As-Sr多く含み、炭化物を疎に含む。
4. 茶褐色土　ﾛｰﾑ粒やや密に含む。
5. 茶褐色土　ﾛｰﾑ粒密に含み、粘性あり。
6. 黄褐色土　ﾛｰﾑ粒･As-Srを多く含む。

縄文171号土坑
1. 暗褐色土　ﾛｰﾑ粒･As-Sr･炭化物を疎に含む。
2. 黒褐色土　ﾛｰﾑ粒･As-Sr･炭化物をやや密に含み、しまり･粘性あり。
3. 黒褐色土　ﾛｰﾑ粒･As-Srをやや密(2より多い)に含み、しまり･粘性強い。

縄文172号土坑
1. 暗褐色土　ﾛｰﾑ粒･As-Sr･As-OP1を疎に、炭化物を数点含む。
2. 茶褐色土　ﾛｰﾑ粒を密に含む。

縄文173号土坑
1. 黒褐色土　ﾛｰﾑ粒･As-Sr･As-OP1をやや密に、炭化物を疎に含む。
2. 暗褐色土　ﾛｰﾑ粒･As-Sr･As-OP1を密に、炭化物を疎に含み、粘性･しまり共にかなり強い。
3. 暗褐色土　ﾛｰﾑ粒を疎に含む。
4. 暗褐色土　ﾛｰﾑ粒密に含み、炭化物を数点含む。

縄文174号土坑
1. 暗褐色土　ﾛｰﾑ粒･As-OP1･炭化物を疎に含む。
2. 茶褐色土　ﾛｰﾑ粒を密に、As-Srも多く含む。

縄文175号土坑
1. 暗褐色土　ﾛｰﾑ粒･As-Srをやや疎に、炭化物を疎に含む。
2. 暗褐色土　ﾛｰﾑ粒･As-Srを疎に含み、しまり強い。
3. 暗茶褐色土ﾛｰﾑ粒やや密に、As-Sr･炭化物を疎に含む。

縄文176号土坑
1. 暗褐色土　ﾛｰﾑ粒･As-Srを疎に、ﾛｰﾑﾌﾞﾛｯｸ含み、炭化物を数点含む。

縄文177号土坑
1. 暗茶褐色土ﾛｰﾑ粒･As-Sr疎に含む。
2. 茶褐色土　ﾛｰﾑ粒･As-Sr密に、As-OP1やや疎に、炭化物を疎に含む。
3. 暗褐色土　ﾛｰﾑ粒･ﾛｰﾑﾌﾞﾛｯｸ含む。
4. 暗茶褐色土ﾛｰﾑ粒･ﾛｰﾑﾌﾞﾛｯｸを密に含む。
5. 暗褐色土　ﾛｰﾑ粒･ﾛｰﾑﾌﾞﾛｯｸ･As-Srを疎に含む。
6. 茶褐色土　ﾛｰﾑ粒･As-Sr･As-OP1やや疎に、炭化物を疎に含む。
7. 暗褐色土　ﾛｰﾑ粒･As-Sr･As-OP1･炭化物を疎に含み、粘性強い。

縄文178号土坑
1. 黒褐色土　ﾛｰﾑ粒･As-Sr･炭化物を疎に含む。
2. 暗褐色土　ﾛｰﾑ粒･As-Srを疎に含み、しまり強い。

縄文179号土坑
1. 暗褐色土　ﾛｰﾑ粒やや疎に含む。
2. 暗茶褐色土ﾛｰﾑ粒やや疎に、ﾛｰﾑﾌﾞﾛｯｸを含む。

縄文180号土坑
1. 暗褐色土　ﾛｰﾑﾌﾞﾛｯｸ･As-Srをやや疎に、炭化物を疎に含む。
2. 暗茶褐色土ﾛｰﾑ粒･As-Srをやや密に含む。

縄文181号土坑
1. 黒褐色土　ﾛｰﾑ粒･As-Sr･炭化物やや疎に含み、しまり強い。

縄文182号土坑
1. 黒褐色土　ﾛｰﾑ粒･炭化物を疎に含む。
2. 黒褐色土　ﾛｰﾑ粒･As-Sr･As-OP1･炭化物を疎に含む。
3. 黄褐色土　黒色土とﾛｰﾑﾌﾞﾛｯｸの混土。

縄文183号土坑
1. 黒色土　ﾛｰﾑ粒･As-Sr･炭化物を疎に含む。
2. 黒褐色土　ﾛｰﾑ粒･As-Sr･炭化物を1より少なく含む。
3. 黒褐色土　ﾛｰﾑ粒･As-Sr含み、炭化物を疎に含む。
4. 暗褐色土　ﾛｰﾑ粒･As-Srを密に含む。

縄文184号土坑
1. 黒褐色土　ﾛｰﾑ粒･As-Srやや疎、炭化物･As-OP1を疎に含む。
2. 黒褐色土　ﾛｰﾑ粒･As-Srを密に含む。
3. 茶褐色土　ﾛｰﾑ粒･ﾛｰﾑﾌﾞﾛｯｸを多く含む。

縄文185号土坑
1. 茶褐色土　ﾛｰﾑﾌﾞﾛｯｸ･As-Srやや疎、炭化物を疎に含む。
2. 橙褐色土　ﾛｰﾑ粒を疎に、As-Sr密に含む。

縄文186号土坑
1. 黒褐色土　ﾛｰﾑ粒・As-Srを疎、炭化物やや密に含み、しまり強い。
2. 黒褐色土　ﾛｰﾑ粒・As-Srやや密に、炭化物を疎に、しまり強い。

縄文187号土坑
1. 黒褐色土　ﾛｰﾑ粒・As-Sr・小ﾛｰﾑﾌﾞﾛｯｸやや疎、炭化物を疎に含む。

縄文188号土坑
1. 黒色土　ﾛｰﾑ粒・As-Sr・As-OP1を疎に、炭化物ﾎﾟｯﾎﾟｯ含む。
2. 黒褐色土　ﾛｰﾑ粒・As-Srやや密に、炭化物を疎に含む。
3. 黒褐色土　ﾛｰﾑ粒・As-Srを疎に含む。
4. 黒褐色土　ﾛｰﾑ粒・As-Srを疎に、ﾛｰﾑﾌﾞﾛｯｸを含む。

縄文189号土坑
1. 暗褐色土　ﾛｰﾑ粒・As-Sr・As-OP1やや疎に含む。
2. 暗茶褐色土ﾛｰﾑ粒・As-Sr・As-OP1やや密に含み、しまり強い。

縄文190号土坑
1. 暗褐色土　ﾛｰﾑ粒・As-Sr・As-OP1・炭化物を疎に含む。
2. 暗茶褐色土ﾛｰﾑ粒・As-Sr疎に含む。
3. 茶褐色土　ﾛｰﾑ粒・ﾛｰﾑﾌﾞﾛｯｸやや密に含む。
4. 暗茶褐色土ﾛｰﾑ粒・As-Sr密に含む。

縄文191号土坑
1. 暗褐色土　黒色土とﾛｰﾑﾌﾞﾛｯｸの混土を含む。
2. 黄褐色土　1に比べて黒色土少ない。
3. 黄褐色土　ﾛｰﾑ粒・ﾛｰﾑﾌﾞﾛｯｸ多く含む。

縄文192号土坑
1. 黒褐色土　ﾛｰﾑ粒・As-Srやや密に、炭化物を疎に含む。
2. 茶褐色土　ﾛｰﾑ粒・As-Srを密に含む。

縄文193号土坑
1. 黒褐色土　ﾛｰﾑ粒・炭化物を含む。
2. 暗茶褐色土ﾛｰﾑ粒を多量に、As-Srを疎に含む。

縄文194号土坑
1. 暗褐色土　ﾛｰﾑ粒・As-Srを密に含む。

縄文195号土坑
1. 暗褐色土　ﾛｰﾑ粒・As-Sr・As-OP1やや密に、炭化物を疎に含む。
2. 黄褐色土　ﾛｰﾑ粒を多量に含む。
3. 暗褐色土　1に近似、ﾛｰﾑ粒・As-Sr少ない。しまり強い。
4. 暗褐色土　3に近似するが、炭化物を含まない。

縄文196号土坑
1. 暗褐色土　ﾛｰﾑ粒・As-Sr・As-OP1・灰色岩粒やや疎、炭化物を疎に含む。
2. 暗褐色土　1に近似するが、ﾛｰﾑﾌﾞﾛｯｸ含み、炭化物を含まない。

縄文197号土坑
1. 暗褐色土　ﾛｰﾑ粒を疎に、炭化物ﾎﾟｯﾎﾟｯ含む。
2. 暗褐色土　ﾛｰﾑ粒・As-Srを密に含む。

縄文198号土坑
1. 黒褐色土　ﾛｰﾑ粒・As-Sr・ﾛｰﾑﾌﾞﾛｯｸを含み、炭化物を疎に含む。
2. 黄褐色土　ﾛｰﾑﾌﾞﾛｯｸを含む。

縄文199号土坑
1. 茶褐色土　ﾛｰﾑﾌﾞﾛｯｸ・As-Sr・灰色岩粒やや疎に含む。
2. 茶褐色土　1に近似するが、炭化物含み、しまり・粘性強い。

縄文200号土坑
1. 暗褐色土　ﾛｰﾑ粒・As-Srやや疎、炭化物を疎に含む。
2. 茶褐色土　ﾛｰﾑ粒・As-Srを密に、炭化物疎に含み、粘性強い。

縄文201号土坑
1. 暗褐色土　ﾛｰﾑ粒・炭化物を疎に含む。
2. 黄褐色土　ﾛｰﾑ粒・As-Sr・ﾛｰﾑﾌﾞﾛｯｸを密に含む。

縄文202号土坑
1. 黒褐色土　ﾛｰﾑ粒・As-Sr・As-OP1やや疎、炭化物を疎に含む。
2. 暗褐色土　ﾛｰﾑ粒やや密に含む。
3. 黒褐色土　1に近似するが、ﾛｰﾑ粒・As-Srを多く含み、しまり・粘性強い。

縄文203号土坑
1. 黒褐色土　ﾛｰﾑ粒・As-Sr・As-OP1やや疎に、炭化物を疎に含む。
2. 暗褐色土　ﾛｰﾑ粒やや密に含み、炭化物は含まない。

縄文204号土坑
1. 暗褐色土　ﾛｰﾑ粒を疎に含む。
2. 暗茶褐色土ﾛｰﾑ粒・ﾛｰﾑﾌﾞﾛｯｸを含む。

縄文205号土坑
1. 黒褐色土　ﾛｰﾑ粒・As-Sr・炭化物疎に含む。
2. 暗褐色土　ﾛｰﾑ粒・As-Srやや疎に、炭化物を疎に含む。
3. 暗褐色土　2に近似するが、ﾛｰﾑ粒を多く含む。
4. 黄褐色土　ﾛｰﾑ粒・As-Srを多く含む。

縄文206号土坑
1. 黒褐色土　ﾛｰﾑ粒・炭化物を疎に含む。
2. 暗褐色土　ﾛｰﾑ粒・As-Srやや密に、ﾛｰﾑﾌﾞﾛｯｸを含む。
3. 暗茶褐色土ﾛｰﾑ粒・As-Srやや疎に、炭化物を疎に含み、粘性強い。

縄文207号土坑
1. 黒色土　ﾛｰﾑ粒・As-Sr・As-OP1やや疎に、炭化物を疎に含む。
2. 黒色土　ﾛｰﾑ粒・As-Srを疎に含む。

縄文208号土坑
1. 黒褐色土　ﾛｰﾑ粒・As-Srを疎に、炭化物・灰色岩粒やや疎に含む。

縄文209号土坑
1. 暗褐色土　ﾛｰﾑ粒・As-Sr・As-OP1を疎に含む。
2. 黄褐色土　ﾛｰﾑﾌﾞﾛｯｸ。
3. 暗褐色土　1に近似するが、黒色土ﾌﾞﾛｯｸを含む。
4. 黄褐色土　黒色土とﾛｰﾑﾌﾞﾛｯｸの混土。

縄文210号土坑
1. 黒褐色土　ﾛｰﾑ粒・As-Sr・As-OP1やや疎に、炭化物を疎に含む。
2. 黄褐色土　ﾛｰﾑ粒を多く含む。

縄文211号土坑
1. 暗褐色土　ﾛｰﾑ粒・As-Srやや疎に、炭化物を疎に含む。
2. 暗茶褐色土ﾛｰﾑ粒・As-Srやや密に含む。

縄文212号土坑
1. 暗褐色土　ﾛｰﾑ粒・As-Srやや疎に、炭化物を疎に含む。
2. 暗褐色土　ﾛｰﾑ粒・As-Srやや密に、ﾛｰﾑﾌﾞﾛｯｸ・As-OP1を含む。

縄文213号土坑
1. 黒褐色土　ﾛｰﾑ粒やや疎に、炭化物・As-OP1ﾎﾟｯﾎﾟｯ含む。
2. 暗褐色土　ﾛｰﾑ粒やや密に含み、粘性強い。

縄文214号土坑
1. 暗褐色土　ﾛｰﾑ粒やや密に、炭化物を疎に含む。

縄文215号土坑
1. 黒褐色土　ﾛｰﾑ粒・As-Srを疎に、炭化物ﾎﾟｯﾎﾟｯ含む。
2. 茶褐色土　ﾛｰﾑ粒やや密に、As-Sr・炭化物ﾎﾟｯﾎﾟｯ含む。
3. 黄褐色土　ﾛｰﾑ粒を密に含む。

縄文216号土坑
1. 暗褐色土　ﾛｰﾑ粒やや疎に含む。
2. 茶褐色土　ﾛｰﾑ粒やや疎に、炭化物を疎に含む。
3. 茶褐色土　ﾛｰﾑ粒・As-Srやや疎に、ﾛｰﾑﾌﾞﾛｯｸを含む。

縄文217号土坑
1. 茶褐色土　ﾛｰﾑ粒・灰色岩粒やや疎に、ﾛｰﾑﾌﾞﾛｯｸを含む。
2. 暗褐色土　ﾛｰﾑ粒・As-Srやや疎に含み、しまり・粘性強い。
3. 暗褐色土　ﾛｰﾑ粒を疎に含み、しまり・粘性強い。

縄文218号土坑
1. 黒褐色土　ﾛｰﾑ粒・As-Sr・As-OP1やや疎に、炭化物を疎に含む。
2. 暗茶褐色土ﾛｰﾑ粒やや密に含む。

縄文219号土坑
1. 暗褐色土　ﾛｰﾑ粒・As-Sr・As-OP1やや疎に、炭化物を疎に含む。
2. 茶褐色土　ﾛｰﾑ粒・As-Srを密に含む。

縄文220号土坑
1. 暗褐色土　ﾛｰﾑ粒・As-Srを疎に含む。
2. 黄褐色土　ﾛｰﾑ粒を密に含む。

縄文221号土坑
1. 黒褐色土　ﾛｰﾑ粒・As-Srを疎に、炭化物を疎に含む。
2. 暗褐色土　ﾛｰﾑ粒・As-Srやや密に、炭化物を疎に含み、しまり強い。
3. 暗褐色土　ﾛｰﾑ粒・As-Srを密に含み、しまり強い。

縄文222号土坑
1. 暗茶褐色土茶褐色土と黒色土の混土。
2. 黒色土　ﾛｰﾑ粒・As-Sr・As-OP1を疎に含み、しまり強くｶﾞﾁｶﾞﾁ。

縄文223号土坑
1. 暗褐色土　ﾛｰﾑ粒・As-Sr・As-OP1を疎に含む。
2. 暗茶褐色土ﾛｰﾑ粒・As-Srやや密に、ﾛｰﾑﾌﾞﾛｯｸを含む。

縄文224号土坑
1. 茶褐色土　ﾛｰﾑ粒・As-Sr・As-OP1・炭化物を疎に含む。

縄文225号土坑
1. 暗褐色土　ﾛｰﾑ粒・As-Sr・As-OP1やや疎に含み、炭化物を疎に含む。
2. 暗茶褐色土ﾛｰﾑ粒・As-Srやや密に含む。
3. 暗褐色土　ﾛｰﾑﾌﾞﾛｯｸを多く含む。

縄文226号土坑
1. 暗褐色土　ﾛｰﾑ粒･As-Sr･As-OP1･炭化物やや密に含む。
2. 茶褐色土　As-Srがﾌﾞﾛｯｸ状に混入。

縄文227号土坑
1. 黒褐色土　ﾛｰﾑ粒･As-Sr･As-OP1をやや疎に含む。
2. 暗褐色土　ﾛｰﾑ粒･As-Srを疎に含む。

縄文228号土坑
1. 暗茶褐色土ﾛｰﾑ粒･As-Srやや疎に、炭化物を疎に含む。

縄文229号土坑
1. 黒褐色土　ﾛｰﾑ粒･As-OP1･炭化物含む。
2. 暗褐色土　ﾛｰﾑ粒を疎に含む。
3. 黄褐色土　ﾛｰﾑ粒･As-Srを密に含む。
4. 暗褐色土　ﾛｰﾑ粒･As-Sr･As-OP1をやや密に含み、炭化物を疎に含む。

縄文230号土坑
1. 暗褐色土　ﾛｰﾑ粒･As-Sr･As-OP1やや疎に含み、炭化物を疎に含む。
2. 暗褐色土　1に近似するが、As-OP1を含まず、しまり強くｶﾞﾁｶﾞﾁ。

縄文231号土坑
1. 暗褐色土　ﾛｰﾑ粒･As-Sr･As-OP1やや疎に含み、炭化物を疎に含む。

縄文232号土坑
1. 暗褐色土　ﾛｰﾑ粒･As-Sr･灰色岩粒をやや疎に、炭化物を数点含む。
2. 暗褐色土　ﾛｰﾑ粒･As-Srを密に含む。
3. 黄褐色土　ﾛｰﾑ粒を密に含む。

縄文233号土坑
1. 暗褐色土　ﾛｰﾑ粒･As-Sr･As-OP1を疎に含み、炭化物をﾎﾟｯﾎﾟｯ含む。
2. 暗褐色土　ﾛｰﾑ粒をやや密に含む。

縄文234号土坑
1. 黒褐色土　ﾛｰﾑ粒･As-Sr･灰色岩粒をやや疎に含み、炭化物を疎に含む。
2. 茶褐色土　ﾛｰﾑ粒･As-Srをやや密に含み、ﾛｰﾑﾌﾞﾛｯｸを含む。

縄文235号土坑
1. 黒褐色土　ﾛｰﾑ粒･As-Sr･灰色岩粒を疎に含み、炭化物をﾎﾟｯﾎﾟｯ含む。
2. 暗褐色土　ﾛｰﾑ粒･As-Srを密に含む。
3. 暗茶褐色土ﾛｰﾑ粒をやや密に含む。
4. 黄褐色土　ﾛｰﾑ粒を多量に含む。
5. 暗茶褐色土ﾛｰﾑ粒･As-Sr･灰色岩粒をやや疎に含む。

縄文236号土坑
1. 茶褐色土　ﾛｰﾑﾌﾞﾛｯｸを多量に含む。
2. 暗茶褐色土ﾛｰﾑ粒･As-Srを疎に含む。
3. 黒褐色土　ﾛｰﾑ粒･As-Sr･灰色岩粒をやや疎に含む。

縄文237号土坑
1. 黒褐色土　ﾛｰﾑ粒を疎に含む。
2. 暗褐色土　ﾛｰﾑ粒･As-Srをやや密に、ﾛｰﾑﾌﾞﾛｯｸを含む。
3. 暗褐色土　ﾛｰﾑ粒を疎に、茶褐色土ﾌﾞﾛｯｸを含む。

縄文238号土坑
1. 黒色土　ﾛｰﾑ粒･炭化物を疎に含む。
2. 暗褐色土　ﾛｰﾑ粒･As-Srやや密に、ﾛｰﾑﾌﾞﾛｯｸを含む。
3. 黄褐色土　ﾛｰﾑ粒を多量に含む。

縄文239号土坑
1. 暗茶褐色土ﾛｰﾑ粒･As-Srやや密に、炭化物を疎に含む。

縄文240号土坑
1. 暗褐色土　ﾛｰﾑ粒･As-Sr･炭化物を疎に含む。
2. 暗茶褐色土ﾛｰﾑ粒･As-Srやや密に、ﾛｰﾑﾌﾞﾛｯｸを多く含む。

縄文241号土坑
1. 暗褐色土　ﾛｰﾑﾌﾞﾛｯｸ･As-Srをやや疎に、炭化物をﾎﾟｯﾎﾟｯ含む。
2. 黒褐色土　ﾛｰﾑ粒･炭化物を疎に含む。
3. 暗茶褐色土ﾛｰﾑ粒やや密に、ﾛｰﾑﾌﾞﾛｯｸ･As-OP1を含む。
4. 暗茶褐色土ﾛｰﾑ粒やや疎に、茶褐色土ﾌﾞﾛｯｸを含む。

縄文242号土坑
1. 黒褐色土　ﾛｰﾑ粒･As-Srやや疎に、炭化物やや密に含む。
2. 暗褐色土　ﾛｰﾑ粒･As-Sr･炭化物をやや密に含む。

縄文243号土坑
1. 黒褐色土　ﾛｰﾑ粒･As-OP1･炭化物を疎に含む。
2. 黄褐色土　ﾛｰﾑﾌﾞﾛｯｸを多く含む。

縄文244号土坑
1. 黒褐色土　ﾛｰﾑ粒･As-Sr･As-OP1やや疎に、炭化物を疎に含む。
2. 暗褐色土　1に比べて、しまり弱い。
3. 茶褐色土　ﾛｰﾑ粒･ﾛｰﾑﾌﾞﾛｯｸを多く含み、しまり強い。
4. 黄褐色土　ﾛｰﾑ粒･ﾛｰﾑﾌﾞﾛｯｸを多く含み、しまり弱い。

縄文245号土坑
1. 暗褐色土　ﾛｰﾑ粒･灰色岩粒やや疎に、炭化物をﾎﾟｯﾎﾟｯ含む。
2. 黒褐色土　ﾛｰﾑ粒･As-OP1･ﾛｰﾑﾌﾞﾛｯｸやや疎に、炭化物を疎に含む。しまり･粘性強い。
3. 茶褐色土　ﾛｰﾑ粒･ﾛｰﾑﾌﾞﾛｯｸを多く含み、しまり･粘性強い。

縄文246号土坑
1. 暗褐色土　ﾛｰﾑ粒･As-OP1やや疎に、炭化物を疎に含む。
2. 茶褐色土　ﾛｰﾑ粒･ﾛｰﾑﾌﾞﾛｯｸを多く含む。

縄文247号土坑
1. 暗褐色土　ﾛｰﾑ粒･As-Sr･As-OP1を密に、ﾛｰﾑﾌﾞﾛｯｸ･炭化物をﾎﾟｯﾎﾟｯ含む。
2. 黒褐色土　1に比べて混入物少なく、しまり･粘性強い。
3. 黄褐色土　ﾛｰﾑﾌﾞﾛｯｸを多く含む。

縄文248号土坑
1. 暗褐色土　ﾛｰﾑ粒･As-OP1やや密に、As-Sr･炭化物を疎に含む。
2. 黄褐色土　ﾛｰﾑﾌﾞﾛｯｸ･As-Srﾌﾞﾛｯｸを多く含む。

縄文249号土坑
1. 黒褐色土　ﾛｰﾑ粒･As-OP1やや疎に、炭化物を疎に含む。
2. 暗褐色土　ﾛｰﾑ粒･As-OP1･As-Srやや密に、しまり強い。
3. 暗褐色土　ﾛｰﾑ粒･ﾛｰﾑﾌﾞﾛｯｸ多く含み、しまり強い。

縄文250号土坑
1. 黒色土　ﾛｰﾑ粒･As-OP1やや疎、炭化物を疎に含む。
2. 暗褐色土　ﾛｰﾑ粒やや密に、茶褐色土ﾌﾞﾛｯｸを含む。
3. 黄褐色土　ﾛｰﾑ粒を密に含む。

縄文251号土坑
1. 黒褐色土　ﾛｰﾑ粒･As-Sr。灰色岩粒･炭化物を疎に含む。
2. 暗褐色土　1に茶褐色土ﾌﾞﾛｯｸを含む。
3. 暗褐色土　ﾛｰﾑ粒･As-Srを密に含む。
4. 黒褐色土　ﾛｰﾑ粒･As-Sr･炭化物を疎に含み、粘性あり。
5. 暗褐色土　ﾛｰﾑ粒を密に、ﾛｰﾑﾌﾞﾛｯｸを含み、粘性あり。

縄文252号土坑
1. 暗褐色土　ﾛｰﾑ粒･As-Sr･灰色岩粒やや疎に、炭化物を疎に含む。
2. 暗褐色土　しまり･粘性強く、ﾛｰﾑ粒･As-Srやや密に、炭化物をﾎﾟｯﾎﾟｯ含む。
3. 暗褐色土　ﾛｰﾑ粒やや密に、As-Srを疎に、ﾛｰﾑﾌﾞﾛｯｸを含む。
4. 暗茶褐色土3に近似するが、ﾛｰﾑ粒を密に含む。
5. 茶褐色土　ﾛｰﾑ粒･ﾛｰﾑﾌﾞﾛｯｸを多く含む。

縄文253号土坑
1. 黒褐色土　ﾛｰﾑ粒･炭化物を疎に含む。
2. 暗褐色土　ﾛｰﾑ粒･As-Sr･As-OP1を疎に、茶褐色土ﾌﾞﾛｯｸを含み、しまりやや弱い。
3. 暗茶褐色土2に近似するが、しまりあり。
4. 茶褐色土　ﾛｰﾑ粒を密に、ﾛｰﾑﾌﾞﾛｯｸを含む。

縄文254号土坑
1. 暗褐色土　ﾛｰﾑ粒･As-Srを疎に、炭化物を数点含む。
2. 茶褐色土　ﾛｰﾑ粒をやや密に含む。

縄文255号土坑
1. 暗褐色土　ﾛｰﾑ粒･As-Srをやや密に、As-OP1･ﾛｰﾑ粒を疎に含み、しまり強い。
2. 黄褐色土　暗褐色土とﾛｰﾑﾌﾞﾛｯｸの混土。しまり強い。

縄文256号土坑
1. 暗褐色土　ﾛｰﾑ粒･As-Sr･灰色岩粒･炭化物を疎に含む。
2. 暗褐色土　ﾛｰﾑ粒･As-Srを密に、炭化物を疎に含み、しまり強い。

縄文257号土坑
1. 暗茶褐色土As-Sr･灰色岩粒を疎に含む。
2. 暗茶褐色土ﾛｰﾑ粒をやや密に、ﾛｰﾑﾌﾞﾛｯｸを含む。
3. 黄褐色土　ﾛｰﾑ粒を密に含む。

縄文258号土坑
1. 暗褐色土　ﾛｰﾑ粒やや疎に、As-Sr･灰色岩粒やや密に、炭化物を疎に含む。
2. 暗褐色土　ﾛｰﾑ粒をやや密に、ﾛｰﾑﾌﾞﾛｯｸを含む。
3. 黄褐色土　ﾛｰﾑ粒を密に含む。

縄文259号土坑
1. 暗褐色土　ﾛｰﾑ粒を密に、As-Sr･灰色岩粒･炭化物疎に含む。

縄文260号土坑
1. 暗褐色土　ﾛｰﾑ粒･As-Sr･灰色岩粒を疎に、炭化物を数点含む。
2. 暗褐色土　1に近似するが、しまり強い。
3. 茶褐色土　ﾛｰﾑ粒･As-Srを密に含む。
4. 暗褐色土　2に近似するが、ﾛｰﾑ粒･As-Srやや密に含み、しまり･粘性強い。

縄文261号土坑
1. 黒褐色土　ﾛｰﾑ粒･As-Sr･白色粒やや疎に、炭化物を疎に含む。
2. 茶褐色土　ﾛｰﾑ粒･As-Srを疎に、ﾛｰﾑﾌﾞﾛｯｸを含む。

縄文262号土坑
1. 黒褐色土　ﾛｰﾑ粒･As-Sr･As-OP1をやや疎に、炭化物を疎に含む。
2. 暗褐色土　ﾛｰﾑ粒･As-Srを密に含む。
3. 暗茶褐色土ﾛｰﾑ粒･As-Sr･小ﾛｰﾑﾌﾞﾛｯｸを多く含む。

縄文263号土坑
1. 暗褐色土　ﾛｰﾑ粒･As-Sr･灰色岩粒をやや密に含む。
2. 黄褐色土　掘りすぎ。

縄文264号土坑
1. 暗褐色土　ﾛｰﾑ粒をやや密に、灰色岩粒･炭化物を疎に含む。

縄文265号土坑
1. 暗褐色土　ﾛｰﾑ粒やや密に、As-Sr･灰色岩粒･炭化物を疎に含む。
2. 暗茶褐色土ﾛｰﾑ粒やや密に含み、しまり強くｶﾞﾁｶﾞﾁ。

縄文266号土坑
1. 暗褐色土　ﾛｰﾑ粒やや密に、As-Sr･炭化物を疎に含む。
2. 暗茶褐色土ﾛｰﾑ粒を密に含む。

縄文267号土坑
1. 暗褐色土　ﾛｰﾑ粒やや密に、As-Sr･灰色岩粒･炭化物を疎に含む。
2. 暗褐色土　ﾛｰﾑ粒･As-Srを密に含む。

縄文268号土坑
1. 暗褐色土　ﾛｰﾑ粒･灰色岩粒を疎に、炭化物を数点含む。
2. 黄褐色土　ﾛｰﾑ粒を密に含む。

縄文269号土坑
1. 暗褐色土　ﾛｰﾑ粒･灰色岩粒を疎に含み、As-Srをﾎﾟﾂﾎﾟﾂ含む。
2. 暗茶褐色土ﾛｰﾑ粒をやや密に含む。

縄文270号土坑
1. 暗褐色土　ﾛｰﾑ粒･灰色岩粒をやや密に、炭化物･As-Srをﾎﾟﾂﾎﾟﾂ含む。

縄文271号土坑
1. 黒褐色土　ﾛｰﾑ粒･灰色岩粒をやや疎に、炭化物を疎に含む。
2. 暗褐色土　ﾛｰﾑ粒･灰色岩粒やや密に、As-Sr･炭化物を疎に含む。
3. 暗茶褐色土ﾛｰﾑ粒を密に含む。

縄文272号土坑
1. 暗褐色土　ﾛｰﾑ粒をやや疎に、炭化物･ﾛｰﾑﾌﾞﾛｯｸを疎に含む。

縄文273号土坑
1. 茶褐色土　ﾛｰﾑ粒をやや密に含む。
2. 黒褐色土　ﾛｰﾑ粒･As-Sr･灰色岩粒をやや密に含み、炭化物を疎に含む。
3. 暗茶褐色土ﾛｰﾑ粒をやや疎に含む。

縄文274号土坑
1. 暗褐色土　ﾛｰﾑ粒を密に、As-Sr･炭化物を疎に、As-OP1･ﾛｰﾑﾌﾞﾛｯｸを含む。
2. 暗褐色土　ﾛｰﾑ粒やや密に、As-Sr･炭化物を疎に含み、しまり･粘性強い。

縄文275号土坑
1. 暗褐色土　ﾛｰﾑ粒･As-Srやや疎に、炭化物を疎に含む。
2. 暗茶褐色土ﾛｰﾑ粒をやや密に、As-Sr･炭化物を疎に含む。
3. 茶褐色土　ﾛｰﾑ粒を密に含む。

縄文276号土坑
1. 黒褐色土　ﾛｰﾑ粒･As-Sr･灰色岩粒を疎に含み、炭化物をﾎﾟﾂﾎﾟﾂ含む。
2. 暗褐色土　ﾛｰﾑ粒をやや密に、As-Sr･灰色岩粒･炭化物を疎に含む。
3. 暗褐色土　ﾛｰﾑ粒をやや密に含む。
4. 茶褐色土　ﾛｰﾑ粒をやや密に、ﾛｰﾑﾌﾞﾛｯｸを含む。
5. 茶褐色土　ﾛｰﾑﾌﾞﾛｯｸ･As-Srﾌﾞﾛｯｸを含む。

縄文277号土坑
1. 暗褐色土　ﾛｰﾑ粒･As-Sr･炭化物を疎に含む。
2. 暗茶褐色土ﾛｰﾑ粒をやや密に、As-Sr･炭化物を疎に含み、しまり強い。

縄文278号土坑
1. 暗褐色土　ﾛｰﾑ粒･灰色岩粒やや密に、As-Srを疎に含む。
2. 黄褐色土　掘りすぎ。

縄文279号土坑
1. 暗褐色土　ﾛｰﾑ粒･As-Srをやや密に、灰色岩粒･炭化物を疎に含む。

縄文280号土坑
1. 暗褐色土　ﾛｰﾑ粒をやや密に、灰色岩粒･As-Sr･炭化物を疎に含む。

縄文281号土坑
1. 暗褐色土　ﾛｰﾑ粒をやや密に、As-Sr･灰色岩粒･炭化物を疎に含む。
2. 茶褐色土　ﾛｰﾑ粒･ﾛｰﾑﾌﾞﾛｯｸを多く含む。

縄文282号土坑
1. 暗褐色土　ﾛｰﾑ粒･灰色岩粒をやや疎に、炭化物を疎に含む。
2. 暗褐色土　ﾛｰﾑ粒･灰色岩粒をやや密に含み、しまり強い。
3. 黄褐色土　ﾛｰﾑ粒･ﾛｰﾑﾌﾞﾛｯｸを多く含む。

縄文283号土坑
1. 暗褐色土　ﾛｰﾑ粒･灰色岩粒･炭化物を疎に含む。
2. 暗茶褐色土ﾛｰﾑ粒をやや密に含む。

縄文284号土坑
1. 暗褐色土　ﾛｰﾑ粒･灰色岩粒やや疎に、炭化物を疎に含む。
2. 暗褐色土　ﾛｰﾑ粒･灰色岩粒やや密に、小ﾛｰﾑﾌﾞﾛｯｸを含む。

縄文285号土坑
1. 暗褐色土　ﾛｰﾑ粒･As-Sr･灰色岩粒を疎に、炭化物をﾎﾟﾂﾎﾟﾂ含む。
2. 暗褐色土　ﾛｰﾑ粒･As-Sr･灰色岩粒を疎に、ﾛｰﾑﾌﾞﾛｯｸ･炭化物を数点含む。

縄文286号土坑
1. 暗褐色土　ﾛｰﾑ粒･As-Sr･灰色岩粒･炭化物を疎に含む。
2. 暗茶褐色土ﾛｰﾑ粒･As-Srをﾎﾟﾂﾎﾟﾂ含む。
3. 暗茶褐色土ﾛｰﾑ粒やや密に含み、ﾛｰﾑﾌﾞﾛｯｸをﾎﾟﾂﾎﾟﾂ含み、炭化物を疎に含む。

縄文287号土坑
1. 暗褐色土　ﾛｰﾑ粒･As-Srをやや疎に含み、灰色岩粒･炭化物を疎に含む。
2. 暗褐色土　ﾛｰﾑ粒･As-Srを疎に含む。
3. 暗褐色土　ﾛｰﾑ粒をやや密に、灰色岩粒を疎に含む。

縄文288号土坑
1. 暗褐色土　ﾛｰﾑ粒･灰色岩粒･炭化物を疎に含む。
2. 暗褐色土　ﾛｰﾑ粒をやや密に含む。

縄文289号土坑
1. 暗褐色土　ﾛｰﾑ粒･As-OP1を疎に含み、しまりに欠ける。
2. 暗褐色土　ﾛｰﾑ粒を疎に含み、しまりに欠ける。
3. 暗褐色土　ﾛｰﾑ粒･As-Srを疎に含み、しまり強い。
4. 暗茶褐色土ﾛｰﾑ粒を疎に、茶褐色土ﾌﾞﾛｯｸを含み、しまり強い。

縄文290号土坑
1. 暗褐色土　ﾛｰﾑ粒･As-Sr･炭化物を疎に含み、粘性あり。
2. 茶褐色土　ﾛｰﾑ粒･灰色岩粒疎に含む。
3. 茶褐色土　小ﾛｰﾑﾌﾞﾛｯｸと暗褐色土ﾌﾞﾛｯｸのつき固め。
4. 茶褐色土　ﾛｰﾑ粒と小ﾛｰﾑﾌﾞﾛｯｸを含み、しまり強い。

縄文291号土坑
1. 茶褐色土　ﾛｰﾑ粒･灰色岩粒を含む。
2. 暗茶褐色土ﾛｰﾑ粒･ﾛｰﾑﾌﾞﾛｯｸを含む。
3. 黄褐色土　ﾛｰﾑ粒を密に含む。

縄文292号土坑
1. 暗褐色土　ﾛｰﾑ粒･As-Sr･炭化物疎に含む。
2. 暗褐色土　ﾛｰﾑ粒･小ﾛｰﾑﾌﾞﾛｯｸを含む。

縄文293号土坑
1. 茶褐色土　ﾛｰﾑ粒･ﾛｰﾑﾌﾞﾛｯｸを多量に含む。
2. 暗褐色土　ﾛｰﾑ粒をやや密に、炭化物･灰色岩粒を疎に、ﾛｰﾑﾌﾞﾛｯｸを含む。
3. 暗褐色土　2に近似するが、ﾛｰﾑﾌﾞﾛｯｸを含まない。

縄文294号土坑
1. 茶褐色土　ﾛｰﾑ粒･小ﾛｰﾑﾌﾞﾛｯｸ･As-Srを含む。
2. 黄褐色土　ﾛｰﾑ粒を密に含む。
3. 暗茶褐色土1に近似するが黒味強い。炭化物を疎に含む。
4. 黒褐色土　ﾛｰﾑ粒･As-Srを疎に含む。

縄文295号土坑
1. 茶褐色土　ﾛｰﾑ粒をやや密に含む。
2. 茶褐色土　ﾛｰﾑ粒･As-Sr･白色粒を疎に含む。
3. 暗褐色土　ﾛｰﾑ粒･As-Sr･炭化物を疎に含む。
4. 黒褐色土　ﾛｰﾑ粒･As-Srやや密に、小ﾛｰﾑﾌﾞﾛｯｸを含み、しまり･粘性強い。
5. 黄褐色土　ﾛｰﾑ粒を密に含む。

縄文296号土坑
1. 暗茶褐色土ﾛｰﾑ粒を疎に、茶褐色土ﾌﾞﾛｯｸを多く含む。
2. 黄褐色土　ﾛｰﾑ粒を密に含む。

縄文297号土坑
1. 暗褐色土　ﾛｰﾑ粒･As-Sr･灰色岩粒･炭化物を疎に含む。
2. 茶褐色土　ﾛｰﾑ粒をやや密に、As-Srを疎に含む。

縄文298号土坑
1. 茶褐色土　ﾛｰﾑ粒を疎に含む。
2. 茶褐色土　小ﾛｰﾑﾌﾞﾛｯｸを含む。

縄文299号土坑
1. 黒褐色土　ﾛｰﾑ粒･As-Srを疎に含む。
2. 暗褐色土　ﾛｰﾑ粒･ﾛｰﾑﾌﾞﾛｯｸを含む。

縄文300号土坑
1. 暗褐色土　ﾛｰﾑ粒･As-Sr･灰色岩粒を含む。
2. 黄褐色土　ﾛｰﾑ粒を密に含む。

縄文301号土坑
1. 黒褐色土　ﾛｰﾑ粒･灰色岩粒･炭化物を疎に含む。
2. 暗褐色土　1に近似するが色合い弱く、しまりにも欠ける。
3. 暗褐色土　ﾛｰﾑ粒･As-Srやや密に、炭化物を疎に含む。
4. 黄褐色土　ﾛｰﾑ粒を密に含む。
5. 暗褐色土　ﾛｰﾑ粒･As-Srを密に含む。
6. 暗褐色土　ﾛｰﾑ粒を疎に、しまり弱い。

縄文302号土坑
1. 暗褐色土　ﾛｰﾑ粒･As-Srを疎に含む。
2. 黒褐色土　ﾛｰﾑ粒･As-Srを疎に含む。
3. 茶褐色土　ﾛｰﾑ粒･As-Srを密に含む。
4. 暗茶褐色土ﾛｰﾑ粒･As-Srを含む。
5. 茶褐色土　ﾛｰﾑ粒･As-Srをやや疎に含む。
6. 黒褐色土　ﾛｰﾑ粒･SP軽石を疎に含み、しまり･粘性強い。

縄文303号土坑
1. 黒褐色土　ﾛｰﾑ粒･As-Srを疎に含む。
2. 黒褐色土　ﾛｰﾑ粒･灰色岩粒を含む。

縄文304号土坑
1. 暗褐色土　ﾛｰﾑ粒を含む。
2. 暗茶褐色土ﾛｰﾑ粒･As-Srを疎に含む。

縄文305号土坑
1. 茶褐色土　ﾛｰﾑ粒･As-Sr･灰色岩粒･黒色土ﾌﾞﾛｯｸをやや疎に含む。
2. 茶褐色土　1に近似するが、黒色土ﾌﾞﾛｯｸを含まない。
3. 茶褐色土　2に比べて、混入物少ない。
4. 茶褐色土　2に近似するが、小ﾛｰﾑﾌﾞﾛｯｸ･黒色土ﾌﾞﾛｯｸを含む。

縄文306号土坑
1. 暗茶褐色土ﾛｰﾑ粒･灰色岩粒を疎に含む。
2. 暗茶褐色土ﾛｰﾑ粒･小ﾛｰﾑﾌﾞﾛｯｸ･As-Srを含む。

縄文307号土坑
1. 茶褐色土　ﾛｰﾑ粒･As-YPをやや疎に、灰色岩粒をやや密に、炭化物をﾎﾟﾂﾎﾟﾂ含む。
2. 暗褐色土　ﾛｰﾑ粒･As-YPをやや疎に、炭化物をﾎﾟﾂﾎﾟﾂ含む。
3. 暗褐色土　ﾛｰﾑ粒をやや疎に含む。

縄文308号土坑
1. 暗褐色土　ﾛｰﾑ粒･As-YPをやや疎に、炭化物をﾎﾟﾂﾎﾟﾂ含む。
2. 暗褐色土　ﾛｰﾑ粒をやや密に、As-Srを含む。

縄文309号土坑
1. 暗茶褐色土ﾛｰﾑ粒･As-Srをやや疎に、ﾛｰﾑﾌﾞﾛｯｸを含む。
2. 暗褐色土　ﾛｰﾑ粒を疎に含む。

縄文310号土坑
1. 暗茶褐色土ﾛｰﾑ粒･As-YPをやや疎に、炭化物を疎に含む。
2. 茶褐色土　ﾛｰﾑ粒･ﾛｰﾑﾌﾞﾛｯｸをやや密に、As-Srを含む。

縄文311号土坑
1. 茶褐色土　ﾛｰﾑ粒･As-Srを密に含む。

縄文312号土坑
1. 暗褐色土　ﾛｰﾑ粒･As-Srをやや疎に、炭化物を疎に、As-OP1をやや密に含む。
2. 暗褐色土　ﾛｰﾑ粒･As-Srやや密に、炭化物を疎に含む。
3. 黄褐色土　ﾛｰﾑ粒･As-Srを密に含む。

縄文313号土坑
1. 暗褐色土　ﾛｰﾑ粒･As-Srを疎に、As-OP1･炭化物をやや疎に含む。
2. 暗褐色土　ﾛｰﾑ粒･As-Srを疎に含む。
3. 暗褐色土　ﾛｰﾑ粒･As-Srをやや密に、炭化物を疎に含む。

縄文314号土坑
1. 暗褐色土　ﾛｰﾑ粒･炭化物をやや疎に、灰色岩粒やや密に含む。
2. 黄褐色土　ﾛｰﾑ粒を密に含む。

縄文315号土坑
1. 茶褐色土　ﾛｰﾑ粒･ﾛｰﾑﾌﾞﾛｯｸを多く含む。
2. 暗褐色土　ﾛｰﾑ粒を疎に、灰色岩粒･炭化物をやや密に含む。
3. 暗褐色土　ﾛｰﾑ粒･炭化物を疎に含み、粘性強い。
4. 茶褐色土　ﾛｰﾑ粒･ﾛｰﾑﾌﾞﾛｯｸをやや密に、As-Sr･炭化物を疎に含む。
5. 暗褐色土　ﾛｰﾑ粒･ﾛｰﾑﾌﾞﾛｯｸ･As-Srを疎に、灰色岩粒をやや密に含む。

縄文316号土坑
1. 暗褐色土　ﾛｰﾑ粒･As-Sr･灰色岩粒をやや疎に、炭化物を疎に含む。
2. 暗褐色土　ﾛｰﾑ粒･As-Srをやや密に、炭化物を疎に含む。
3. 茶褐色土　ﾛｰﾑ粒を密に、As-Sr･灰色岩粒をやや密に含む。
4. 暗茶褐色土ﾛｰﾑ粒･As-Sr･灰色岩粒をやや疎に含む。

縄文317号土坑
1. 暗褐色土　ﾛｰﾑ粒･As-Srを疎に、灰色岩粒やや密に、炭化物ﾎﾟﾂﾎﾟﾂ含む。
2. 暗茶褐色土ﾛｰﾑ粒･As-Srをやや疎に含む。
3. 暗褐色土　ﾛｰﾑ粒･As-Srやや密に、しまり強い。

縄文318号土坑
1. 黒褐色土　ﾛｰﾑ粒･灰色岩粒やや疎に、炭化物をﾎﾟﾂﾎﾟﾂ含む。
2. 黒褐色土　ﾛｰﾑ粒･As-Srを密に含む。
3. 黒褐色土　ﾛｰﾑ粒をやや密に、粘性あり。
4. 茶褐色土　ﾛｰﾑ粒をやや密に含む。

縄文319号土坑
1. 暗茶褐色土ﾛｰﾑ粒･As-Sr･灰色岩粒をやや疎に含む。
2. 暗茶褐色土ﾛｰﾑ粒･As-Sr･灰色岩粒をやや密に、炭化物を疎に含む。

縄文320号土坑
1. 暗茶褐色土ﾛｰﾑ粒･As-Sr･灰色岩粒やや密に、ﾛｰﾑﾌﾞﾛｯｸ･炭化物を疎に含む。

縄文321号土坑
1. 黄褐色土　ﾛｰﾑ粒をやや密に含む。
2. 暗茶褐色土ﾛｰﾑ粒をやや疎に、灰色岩粒やや密に、炭化物をﾎﾟﾂﾎﾟﾂ含む。
3. 茶褐色土　ﾛｰﾑ粒･灰色岩粒やや密に、炭化物をﾎﾟﾂﾎﾟﾂ含む。

縄文322号土坑
1. 暗茶褐色土ﾛｰﾑ粒･ﾛｰﾑﾌﾞﾛｯｸを多く含む。

縄文323号土坑
1. 暗褐色土　ﾛｰﾑ粒･As-Srを疎に、灰色岩粒･炭化物やや密に含む。
2. 暗褐色土　ﾛｰﾑ粒をやや密に含む。
3. 暗褐色土　1に近似するが、1よりﾛｰﾑ粒多く、しまり強い。
4. 暗褐色土　ﾛｰﾑ粒やや密に、炭化物を疎に含む。

縄文324号土坑
1. 暗褐色土　ﾛｰﾑ粒･As-Sr･灰色岩粒を含み、炭化物を疎に含む。
2. 暗茶褐色土ﾛｰﾑ粒･茶褐色土ﾌﾞﾛｯｸを含む。
3. 黄褐色土　ﾛｰﾑ粒をやや密に含む。

縄文325号土坑
1. 暗茶褐色土ﾛｰﾑ粒を疎に、灰色岩粒やや密に含む。
2. 暗茶褐色土ﾛｰﾑ粒･灰色岩粒を含む。
3. 茶褐色土　ﾛｰﾑ粒やや密に含む。

縄文326号土坑
1. 暗褐色土　ﾛｰﾑ粒･As-Srやや密に、灰色岩粒やや疎に含む。
2. 暗茶褐色土ﾛｰﾑ粒･As-Srやや密に含む。

縄文327号土坑
1. 暗茶褐色土ﾛｰﾑ粒をやや疎に含む。
2. 茶褐色土　ﾛｰﾑ粒を密に含む。

縄文328号土坑
1. 暗褐色土　ﾛｰﾑ粒･As-Sr･灰色岩粒やや密に、炭化物を疎に含む。
2. 暗褐色土　ﾛｰﾑ粒･ﾛｰﾑﾌﾞﾛｯｸを多く含む。

3. 暗褐色土　ﾛｰﾑ粒･As-Srは1より少なく、炭化物を含む。
4. 暗褐色土　ﾛｰﾑ粒･As-Srを含む。
5. 黄褐色土　ﾛｰﾑ粒をやや密に含む。

縄文329号土坑
1. 暗褐色土　ﾛｰﾑ粒･As-Sr･灰色岩粒･炭化物を疎に含む。

縄文330号土坑
1. 暗茶褐色土ﾛｰﾑ粒をやや疎に含む。
2. 茶褐色土　ﾛｰﾑ粒･ﾛｰﾑﾌﾞﾛｯｸ含む。

縄文331号土坑
1. 暗褐色土　ﾛｰﾑ粒･As-Srを疎に含む。
2. 暗茶褐色土ﾛｰﾑ粒･As-Srを含む。

縄文332号土坑
1. 黒褐色土　ﾛｰﾑ粒･As-Sr･灰色岩粒を疎に、炭化物をﾎﾟｯﾎﾟｯ含む。
2. 暗茶褐色土ﾛｰﾑ粒を疎に含む。
3. 暗茶褐色土ﾛｰﾑ粒をやや密に含む。
4. 暗褐色土　ﾛｰﾑ粒･As-Srを密に含む。
5. 暗茶褐色土ﾛｰﾑ粒をやや密に含む。

縄文333号土坑
1. 暗褐色土　ﾛｰﾑ粒･As-Srを含み、灰色岩粒やや疎に、炭化物をﾎﾟｯﾎﾟｯ含む。
2. 暗茶褐色土ﾛｰﾑ粒･As-Srを多く含む。
3. 暗茶褐色土ﾛｰﾑ粒･ﾛｰﾑﾌﾞﾛｯｸ･As-Srを含む。

縄文334号土坑
1. 暗褐色土　ﾛｰﾑ粒･As-Srやや密に、炭化物を疎に含む。
2. 暗茶褐色土ﾛｰﾑ粒･As-Srを疎に、ﾛｰﾑﾌﾞﾛｯｸを含む。
3. 暗褐色土　ﾛｰﾑ粒･As-Sr･炭化物を含む。
4. 暗褐色土　ﾛｰﾑ粒･As-Srをやや密に含む。
5. 茶褐色土　ﾛｰﾑ粒･As-Srを含む。

縄文335号土坑
1. 暗茶褐色土ﾛｰﾑ粒を疎に、灰色岩粒をやや密に含む。
2. 茶褐色土　ﾛｰﾑ粒･As-Srをやや密に、灰色岩粒･炭化物を疎に含む。
3. 黄褐色土　ﾛｰﾑﾌﾞﾛｯｸを多く含む。

縄文336号土坑
1. 暗茶褐色土ﾛｰﾑ粒･ﾛｰﾑﾌﾞﾛｯｸを疎に含む。
2. 茶褐色土　ﾛｰﾑ粒を含み、しまり強い。

縄文337号土坑
1. 暗褐色土　ﾛｰﾑ粒を疎に含む。
2. 茶褐色土　ﾛｰﾑ粒をやや密に含む。

縄文338号土坑
1. 暗褐色土　ﾛｰﾑ粒･As-Srを疎に、灰色岩粒やや密に、炭化物を疎に含む。
2. 暗褐色土　1よりもﾛｰﾑ粒･As-Srを多く含む。
3. 黄褐色土　ﾛｰﾑ粒を密に含む。

縄文339号土坑
1. 暗褐色土　ﾛｰﾑ粒･As-Sr･灰色岩粒･炭化物を疎に含む。
2. 暗茶褐色土ﾛｰﾑ粒･As-Srをやや密に含む。

縄文340号土坑
1. 暗茶褐色土ﾛｰﾑ粒を疎に、灰色岩粒･炭化物を疎に含む。
2. 暗茶褐色土ﾛｰﾑ粒をやや密に、灰色岩粒･炭化物を疎に含む。
3. 黄褐色土　ﾛｰﾑ粒を密に含む。

縄文341号土坑
1. 暗褐色土　ﾛｰﾑ粒をやや疎に含む。
2. 茶褐色土　ﾛｰﾑ粒を含む。

縄文342号土坑
1. 暗褐色土　ﾛｰﾑ粒･As-Srを疎に含む。
2. 茶褐色土　ﾛｰﾑ粒をやや密に含む。

縄文343号土坑
1. 暗褐色土　ﾛｰﾑ粒･As-Sr･灰色岩粒やや疎に、炭化物を疎に含む。
2. 暗茶褐色土ﾛｰﾑ粒･As-Sr･灰色岩粒･炭化物を疎に含む。

縄文344号土坑
1. 暗褐色土　ﾛｰﾑ粒･As-Srを疎に、炭化物をﾎﾟｯﾎﾟｯ含む。
2. 暗茶褐色土ﾛｰﾑ粒･As-Srが1より極端に少ない。
3. 黄褐色土　ﾛｰﾑ粒を密に含む。

縄文345号土坑
1. 黒褐色土　ﾛｰﾑ粒･As-Sr･炭化物をやや疎に、灰色岩粒をやや密に含む。
2. 黒褐色土　ﾛｰﾑ粒を疎に含む。
3. 黒褐色土　1に比べて、ﾛｰﾑ粒･As-Srを多く含み、灰色岩粒をほとんど含まない。しまり強い。

縄文346号土坑
1. 暗褐色土　ﾛｰﾑ粒･As-Sr･灰色岩粒･炭化物を疎に含む。
2. 暗茶褐色土ﾛｰﾑ粒を疎に含む。

縄文347号土坑
1. 暗茶褐色土ﾛｰﾑ粒･小ﾛｰﾑﾌﾞﾛｯｸを疎に含む。
2. 暗褐色土　ﾛｰﾑ粒をやや疎に含む。
3. 茶褐色土　ﾛｰﾑ粒を疎に含む。

縄文348号土坑
1. 暗茶褐色土ﾛｰﾑ粒･ﾛｰﾑﾌﾞﾛｯｸを含む。

縄文349号土坑
1. 暗茶褐色土ﾛｰﾑ粒･灰色岩粒を含む。
2. 暗褐色土　ﾛｰﾑ粒を疎に含む。

縄文350号土坑
1. 暗褐色土　ﾛｰﾑ粒･As-Sr･灰色岩粒を含む。
2. 暗褐色土　ﾛｰﾑ粒を疎に含む。
3. 茶褐色土　ﾛｰﾑ粒を密に含む。

縄文351号土坑
1. 暗褐色土　ﾛｰﾑ粒･炭化物を疎に含む。
2. 暗茶褐色土ﾛｰﾑ粒をやや密に、灰色岩粒を疎に含む。

縄文352号土坑
1. 暗茶褐色土ﾛｰﾑ粒･小ﾛｰﾑﾌﾞﾛｯｸを疎に、灰色岩粒をやや密に含む。
2. 暗茶褐色土ﾛｰﾑ粒を疎に含む。

縄文353号土坑
1. 暗褐色土　ﾛｰﾑ粒･小ﾛｰﾑﾌﾞﾛｯｸを含み、灰色岩粒を疎に含む。
2. 暗褐色土　ﾛｰﾑ粒を含み、灰色岩粒を疎に含む。

縄文354号土坑
1. 暗褐色土　ﾛｰﾑ粒を疎に、灰色岩粒を含み、炭化物をﾎﾟｯﾎﾟｯ含む。
2. 暗茶褐色土ﾛｰﾑﾌﾞﾛｯｸ･As-OP1を含み、ﾛｰﾑ粒を疎に含む。

縄文355号土坑
1. 黒褐色土　ﾛｰﾑ粒･As-Sr･灰色岩粒を疎に、炭化物をﾎﾟｯﾎﾟｯ含む。
2. 暗褐色土　ﾛｰﾑ粒･As-Srをやや密に、炭化物をﾎﾟｯﾎﾟｯ含む。
3. 黄褐色土　ﾛｰﾑ粒を多量に含む。

縄文356号土坑
1. 暗褐色土　ﾛｰﾑ粒･As-OP1やや密に、炭化物を含む。

縄文357号土坑
1. 暗褐色土　ﾛｰﾑ粒をやや密に、炭化物を疎に含む。
2. 暗褐色土　ﾛｰﾑ粒･As-Srをやや疎に、炭化物を疎に含む。
3. 黒褐色土　ﾛｰﾑ粒･As-Sr･炭化物を疎に含み、粘性･しまり強い。

縄文358号土坑
1. 暗褐色土　ﾛｰﾑ粒･ﾛｰﾑﾌﾞﾛｯｸ･灰色岩粒を含み、炭化物を疎に含む。
2. 暗褐色土　ﾛｰﾑ粒･ﾛｰﾑﾌﾞﾛｯｸを疎に含み、しまり強い。

縄文359号土坑
1. 暗褐色土　ﾛｰﾑ粒･炭化物を疎に、灰色岩粒やや密に含む。
2. 暗茶褐色土ﾛｰﾑ粒･灰色岩粒を含み、炭化物を疎に含む。
3. 黄褐色土　ﾛｰﾑ粒を密に含む。

縄文360号土坑
1. 暗褐色土　ﾛｰﾑ粒･炭化物を疎に、灰色岩粒を含む。
2. 暗褐色土　ﾛｰﾑ粒をやや密に、灰色岩粒･炭化物を疎に含む。

縄文361号土坑
1. 暗褐色土　ﾛｰﾑ粒･As-Srを疎に含む。
2. 暗褐色土　ﾛｰﾑ粒･As-Srを疎に、ﾛｰﾑﾌﾞﾛｯｸを含み、しまり強い。

縄文362号土坑
1. 暗褐色土　ﾛｰﾑ粒･As-Srを疎に含む。
2. 暗褐色土　ﾛｰﾑ粒･As-Srを疎に含む。
3. 暗褐色土　ﾛｰﾑ粒･As-Sr密に、炭化物を疎に含む。
4. 暗褐色土　ﾛｰﾑ粒･As-Srをﾎﾟｯﾎﾟｯ含む。

縄文363号土坑
1. 黒褐色土　ﾛｰﾑ粒･As-Sr･As-OP1をやや疎に、炭化物を疎に含む。
2. 暗褐色土　ﾛｰﾑ粒をやや密に、炭化物を疎に含む。
3. 暗褐色土　ﾛｰﾑ粒･As-Srを1よりやや密に、炭化物を疎に含む。
4. 暗褐色土　ﾛｰﾑ粒を密に、ﾛｰﾑﾌﾞﾛｯｸ･As-Srﾌﾞﾛｯｸを含む。
5. 茶褐色土　ﾛｰﾑ粒を密に含む。

縄文364号土坑
1. 暗茶褐色土ﾛ ﾑ粒を疎に含む。
2. 茶褐色土　ﾛｰﾑ粒をやや密、ﾛｰﾑﾌﾞﾛｯｸを含む。
3. 茶褐色土　ﾛｰﾑﾌﾞﾛｯｸを多く含む。

縄文365号土坑
1. 暗褐色土　ﾛｰﾑ粒･As-Sr･白色粒を疎、炭化物をﾎﾟﾂﾎﾟﾂ含む。
2. 暗褐色土　ﾛｰﾑ粒･As-Srを疎に含む。
3. 茶褐色土　ﾛｰﾑ粒･As-Srを含み、ﾛｰﾑﾌﾞﾛｯｸを含む。

縄文366号土坑
1. 暗茶褐色土ﾛｰﾑ粒･As-Srを疎に含む。
2. 茶褐色土　ﾛｰﾑ粒をやや密に含む。
3. 黄褐色土　ﾛｰﾑ粒を密に含む。

縄文367号土坑
1. 暗褐色土　ﾛｰﾑ粒･As-Srを疎、灰色岩粒･炭化物をﾎﾟﾂﾎﾟﾂ含む。
2. 茶褐色土　ﾛｰﾑ粒を疎、茶褐色土ﾌﾞﾛｯｸを含む。
3. 茶褐色土　ﾛｰﾑ粒･As-Srを密、灰色岩粒･炭化物をﾎﾟﾂﾎﾟﾂ含む。

縄文368号土坑
1. 暗茶褐色土ﾛｰﾑ粒･As-Sr･灰色岩粒･炭化物を疎に含む。
2. 茶褐色土　ﾛｰﾑ粒･ﾛｰﾑﾌﾞﾛｯｸを多く含む。

縄文369号土坑
1. 暗褐色土　ﾛｰﾑ粒･As-Sr･炭化物を疎に含む。
2. 茶褐色土　ﾛｰﾑ粒やや密に含む。
3. 黄褐色土　As-Srを密、ﾛｰﾑ粒を含む。

縄文370号土坑
1. 暗茶褐色土ﾛｰﾑ粒を疎に含む。
2. 茶褐色土　ﾛｰﾑ粒･As-Sr･炭化物を疎に含む。しまり強い。
3. 黄褐色土　ﾛｰﾑ粒を密に、ﾛｰﾑﾌﾞﾛｯｸを含む。しまり強くｶﾞﾁｶﾞﾁ。

縄文371号土坑
1. 暗褐色土　ﾛｰﾑ粒･As-Srを疎に含む。
2. 暗茶褐色土ﾛｰﾑ粒やや密に含む。
3. 暗褐色土　ﾛｰﾑ粒･As-Sr･灰色岩粒を疎、炭化物をﾎﾟﾂﾎﾟﾂ含む。しまり強い。
4. 暗茶褐色土ﾛｰﾑ粒をやや密に含む。

縄文372号土坑
1. 暗褐色土　ﾛｰﾑ粒を疎に含む。
2. 暗褐色土　ﾛｰﾑ粒･As-Sr･灰色岩粒を疎に含む。
3. 暗茶褐色土ﾛｰﾑ粒をやや密に、炭化物を疎に含む。

縄文373号土坑
1. 暗褐色土　ﾛｰﾑ粒･灰色岩粒を疎に、As-Srをﾎﾟﾂﾎﾟﾂ含む。
2. 茶褐色土　ﾛｰﾑ粒をやや密に含む。
3. 黄褐色土　ﾛｰﾑ粒を密に含む。

縄文374号土坑
1. 暗褐色土　ﾛｰﾑ粒･灰色岩粒を疎に含む。
2. 茶褐色土　ﾛｰﾑ粒やや密に、炭化物を疎に含む。
3. 暗褐色土　ﾛｰﾑ粒･As-Sr･灰色岩粒をやや疎に、炭化物を疎に含む。
4. 茶褐色土　砂粒(?)を多く含む。
5. 茶褐色土　ﾛｰﾑ粒･As-Srを疎に含み、しまり強くｶﾞﾁｶﾞﾁ。
6. 茶褐色土　ﾛｰﾑ粒を密に含む。

縄文375号土坑
1. 暗茶褐色土ﾛｰﾑ粒･As-Sr･炭化物を疎に含む。
2. 暗茶褐色土ﾛｰﾑ粒･ﾛｰﾑﾌﾞﾛｯｸを含む。

縄文376号土坑
1. 茶褐色土　ﾛｰﾑ粒を疎に含む。
2. 暗褐色土　ﾛｰﾑ粒･As-Srをやや疎に含む。

縄文377号土坑
1. 暗褐色土　ﾛｰﾑ粒･As-Srを疎に、ﾛｰﾑﾌﾞﾛｯｸを含む。

縄文378号土坑
1. 暗褐色土　ﾛｰﾑ粒･As-Srやや密に含む。
2. 暗褐色土　ﾛｰﾑ粒を疎に含み、しまり強い。
3. 暗茶褐色土ﾛｰﾑ粒をやや密に含む。

縄文379号土坑
1. 茶褐色土　ﾛｰﾑ粒･As-Sr･灰色岩粒をやや疎に含む。
2. 黄褐色土　As-Srを疎、ﾛｰﾑ粒を密に含む。

縄文380号土坑
1. 茶褐色土　ﾛｰﾑ粒･As-Sr･灰色岩粒･炭化物を疎に含む。
2. 茶褐色土　ﾛｰﾑ粒をやや密に含む。
3. 黄褐色土　ﾛｰﾑ粒を密に含む。

縄文381号土坑
1. 暗茶褐色土ﾛｰﾑ粒を疎に含む。
2. 黒褐色土　ﾛｰﾑ粒･As-Sr･灰色岩粒をやや疎に、炭化物を疎に含む。
3. 暗褐色土　ﾛｰﾑ粒･As-Srをやや密に、灰色岩粒･炭化物を疎に含み、しまり強い。

縄文383号土坑
1. 暗褐色土　ﾛｰﾑ粒･灰色岩粒疎に含む。
2. 黒褐色土　ﾛｰﾑ粒やや密に、As-Sr･灰色岩粒･炭化物を疎に含む。
3. 暗褐色土　ﾛｰﾑ粒をやや密に、小ﾛｰﾑ ﾌﾞﾛｯｸを含み、しまり強い。
4. 暗茶褐色土ﾛｰﾑ粒を密に、As-Sr･炭化物を疎に含む。

縄文384号土坑
1. 暗褐色土　ﾛｰﾑ粒･As-Sr･灰色岩粒を含み、炭化物を疎に含む。
2. 暗茶褐色土ﾛｰﾑ粒･As-Srを密に、灰色岩粒･炭化物を疎に含む。
3. 黄褐色土　ﾛｰﾑ粒･ﾛｰﾑﾌﾞﾛｯｸを多く含む。

縄文385号土坑
1. 暗茶褐色土ﾛｰﾑ粒･As-Sr･灰色岩粒を疎に、炭化物をﾎﾟﾂﾎﾟﾂ含む。
2. 黒褐色土　ﾛｰﾑ粒･As-Sr･灰色岩粒･炭化物をﾎﾟﾂﾎﾟﾂ含み、しまり強くｶﾞﾁｶﾞﾁ。
3. 茶褐色土　ﾛｰﾑ粒をやや密に含む。
4. 茶褐色土　ﾛｰﾑ粒を密に、ﾛｰﾑﾌﾞﾛｯｸを含む。

縄文386号土坑
1. 茶褐色土　ﾛｰﾑ粒･As-Sr･灰色岩粒を含む。
2. 茶褐色土　ﾛｰﾑ粒･As-Sr･灰色岩粒をﾎﾟﾂﾎﾟﾂ含む。

縄文387号土坑
1. 暗褐色土　ﾛｰﾑ粒･ﾛｰﾑﾌﾞﾛｯｸを含む。
2. 茶褐色土　ﾛｰﾑ粒･ﾛｰﾑﾌﾞﾛｯｸを含み、しまり強い。

縄文388号土坑
1. 茶褐色土　ﾛｰﾑ粒･ﾛｰﾑﾌﾞﾛｯｸを含む。
2. 暗褐色土　ﾛｰﾑ粒･As-Srをやや疎に含む。
3. 暗褐色土　ﾛｰﾑ粒･As-Srをやや密に含み、しまり強い。
4. 黄褐色土　ﾛｰﾑ粒･ﾛｰﾑﾌﾞﾛｯｸを多量に含む。

縄文389号土坑
1. 暗褐色土　ﾛｰﾑ粒･灰色岩粒を疎に、炭化物をﾎﾟﾂﾎﾟﾂ含む。
2. 暗褐色土　ﾛｰﾑ粒をやや密に、As-Sr･灰色岩粒を疎に、炭化物をﾎﾟﾂﾎﾟﾂ含む。
3. 暗褐色土　ﾛｰﾑ粒を密に、灰色岩粒･As-Srを疎に含む。

縄文390号土坑
1. 暗茶褐色土ﾛｰﾑ粒を疎に含む。
2. 暗茶褐色土ﾛｰﾑ粒･灰色岩粒･炭化物を疎に含む。
3. 暗茶褐色土ﾛｰﾑ粒をやや密に、As-Sr･灰色岩粒をやや疎に、炭化物を疎に含む。
4. 暗茶褐色土ﾛｰﾑ粒を密に、ﾛｰﾑﾌﾞﾛｯｸを含む。
5. 暗茶褐色土ﾛｰﾑ粒を密に、As-Srを疎に含む。

縄文391号土坑
1. 暗褐色土　ﾛｰﾑ粒･As-Srを疎に、炭化物をやや多く含む。
2. 暗茶褐色土ﾛｰﾑ粒を疎に含む。
3. 暗茶褐色土ﾛｰﾑ粒･ﾛｰﾑﾌﾞﾛｯｸ･炭化物を疎に含む。
4. 暗茶褐色土ﾛｰﾑ粒をやや密に、炭化物を疎に含む。
5. 茶褐色土　ﾛｰﾑ粒をやや密に、As-Sr･ﾛｰﾑﾌﾞﾛｯｸを含む。
6. 黄褐色土　ﾛｰﾑ粒を密に含む。

縄文392号土坑
1. 茶褐色土　ﾛｰﾑ粒･炭化物を疎に含む。
2. 暗茶褐色土ﾛｰﾑ粒･灰色岩粒･炭化物を1より多く含む。
3. 茶褐色土　ﾛｰﾑ粒をやや密に、ﾛｰﾑﾌﾞﾛｯｸを含む。
4. 茶褐色土　ﾛｰﾑ粒･As-Srをやや密に含む。

縄文393号土坑
1. 暗茶褐色土ﾛｰﾑ粒を疎に含む。
2. 茶褐色土　ﾛｰﾑﾌﾞﾛｯｸを多く含む。
3. 暗茶褐色土ﾛｰﾑ粒･As-Srを疎に含む。

縄文394号土坑
1. 暗褐色土　ﾛｰﾑ粒を疎に含む。
2. 暗褐色土　ﾛｰﾑ粒･ﾛｰﾑﾌﾞﾛｯｸ含む。
3. 茶褐色土　ﾛｰﾑ粒･ﾛｰﾑﾌﾞﾛｯｸを多量に含む。

縄文395号土坑
1. 暗褐色土　ﾛｰﾑ粒･As-Sr･炭化物を疎に含む。
2. 暗茶褐色土ﾛｰﾑ粒をやや密に含む。
3. 暗褐色土　ﾛｰﾑ粒･As-Sr･灰色岩粒をやや疎に、炭化物を疎に含む。
4. 暗茶褐色土ﾛｰﾑ粒･As-Sr･灰色岩粒をやや密に、炭化物を疎に含む。
5. 暗茶褐色土ﾛｰﾑ粒を密に含む。

縄文396号土坑
1. 暗茶褐色土ﾛｰﾑ粒･ﾛｰﾑﾌﾞﾛｯｸを含む。
2. 暗茶褐色土ﾛｰﾑ粒をやや密に含む。

3. 黄褐色土　ﾛｰﾑ粒を密に含む。

縄文397号土坑

1. 暗褐色土　ﾛｰﾑ粒・As-Sr・灰色岩粒を疎に、炭化物をﾎﾟﾂﾎﾟﾂ含む。
2. 茶褐色土　ﾛｰﾑ粒・灰色岩粒をやや疎に含む。
3. 茶褐色土　ﾛｰﾑ粒・ﾛｰﾑﾌﾞﾛｯｸ含む。

縄文398号土坑

1. 茶褐色土　ﾛｰﾑ粒・ﾛｰﾑﾌﾞﾛｯｸを多量に含む。
2. 暗茶褐色土ﾛｰﾑ粒・炭化物を疎に含む。
3. 暗褐色土　ﾛｰﾑ粒・As-Srをやや密に、灰色岩粒をやや疎に、炭化物をﾎﾟﾂﾎﾟﾂ含む。
4. 暗褐色土　ﾛｰﾑ粒を疎に含む。

縄文399号土坑

1. 暗茶褐色土ﾛｰﾑ粒・As-Srを含む。
2. 明茶褐色土ﾛｰﾑ粒をやや密に、ﾛｰﾑﾌﾞﾛｯｸ・As-Srを含む。

縄文400号土坑

1. 茶褐色土　ﾛｰﾑ粒・As-Sr・As-YPを疎に含む。
2. 茶褐色土　ﾛｰﾑ粒・ﾛｰﾑﾌﾞﾛｯｸ含む。
3. 暗茶褐色土ﾛｰﾑ粒をやや密に含み、しまり強い。
4. 黄褐色土　ﾛｰﾑ粒を密に含む。

縄文401号土坑

1. 茶褐色土　ﾛｰﾑ粒やや密に、As-Sr・灰色岩粒・炭化物を疎に含む。
2. 暗茶褐色土ﾛｰﾑ粒を密に含む。

縄文402号土坑

1. 暗茶褐色土ﾛｰﾑ粒・炭化物を疎に含む。
2. 暗褐色土　ﾛｰﾑ粒・灰色岩粒・炭化物を疎に含む。
3. 暗褐色土　ﾛｰﾑ粒・As-YPをやや密に、灰色岩粒・炭化物を疎に含む。
4. 暗茶褐色土ﾛｰﾑ粒・As-YPやや疎に、炭化物をﾎﾟﾂﾎﾟﾂ含む。
5. 茶褐色土　ﾛｰﾑ粒をやや密に含む。
6. 暗褐色土　3に近似するが、混入物少なく、しまり強い。

縄文403号土坑

1. 暗褐色土　ﾛｰﾑ粒・As-Srを疎に、炭化物をﾎﾟﾂﾎﾟﾂ含む。
2. 暗茶褐色土ﾛｰﾑ粒・As-Srをやや密に含む。
3. 茶褐色土　ﾛｰﾑ粒をやや密に含む。
4. 黄褐色土　ﾛｰﾑ粒・ﾛｰﾑﾌﾞﾛｯｸを多量に含み、しまり強い。

縄文404号土坑

1. 暗褐色土　ﾛｰﾑ粒・As-Srをやや密に、炭化物をﾎﾟﾂﾎﾟﾂ含む。
2. 黄褐色土　ﾛｰﾑ粒・ﾛｰﾑﾌﾞﾛｯｸを密に含む。

縄文405号土坑

1. 黒褐色土　ﾛｰﾑ粒・As-Sr・灰色岩粒をやや疎に、炭化物を疎に含む。
2. 暗茶褐色土ﾛｰﾑ粒を疎に含む。
3. 暗褐色土　1よりﾛｰﾑ粒・As-Sr・灰色岩粒をやや密に、また炭化物も含む。

縄文406号土坑

1. 暗褐色土　ﾛｰﾑ粒・As-Sr・灰色岩粒を疎に、炭化物をﾎﾟﾂﾎﾟﾂ含む。
2. 暗茶褐色土ﾛｰﾑ粒をやや疎に含み、しまり強い。

縄文407号土坑

1. 暗茶褐色土ﾛｰﾑ粒・炭化物を疎に含む。
2. 茶褐色土　ﾛｰﾑ粒・As-Sr・灰色岩粒・炭化物を含む。
3. 茶褐色土　2に近似するがしまり強く、炭化物を含まない。
4. 茶褐色土　ﾛｰﾑ粒をやや密に含み、しまり強くｶﾞﾁｶﾞﾁ。

縄文408号土坑

1. 茶褐色土　ﾛｰﾑ粒を疎に含む。
2. 黒褐色土　ﾛｰﾑ粒・As-Sr・灰色岩粒・炭化物を疎に含む。
3. 茶褐色土　1と近似するが炭化物を含む。
4. 暗褐色土　ﾛｰﾑ粒・As-Sr・灰色岩粒をやや密に、炭化物を疎に含む。
5. 茶褐色土　ﾛｰﾑ粒・As-Srを密に、灰色岩粒・炭化物を疎に含む。
6. 暗褐色土　ﾛｰﾑ粒を疎に含む。
7. 暗茶褐色土ﾛｰﾑ粒をやや密に含む。

縄文409号土坑

1. 茶褐色土　ﾛｰﾑ粒を疎に含む。
2. 茶褐色土　ﾛｰﾑ粒をやや密に、灰色岩粒・炭化物を疎に含む。
3. 黄褐色土　ﾛｰﾑ粒を密に、炭化物を疎に含む。

縄文410号土坑

1. 暗褐色土　ﾛｰﾑ粒・As-Srをやや疎に、灰色岩粒を疎に、炭化物をﾎﾟﾂﾎﾟﾂ含む。
2. 暗茶褐色土ﾛｰﾑ粒をやや密に、炭化物をﾎﾟﾂﾎﾟﾂ含む。
3. 茶褐色土　ﾛｰﾑ粒・As-Srをやや密に、ﾛｰﾑﾌﾞﾛｯｸを含む。
4. 黄褐色土　ﾛｰﾑﾌﾞﾛｯｸを多量に含む。

縄文411号土坑

1. 暗茶褐色土ﾛｰﾑ粒・As-Sr・灰色岩粒を疎に、炭化物をﾎﾟﾂﾎﾟﾂ含む。
2. 暗茶褐色土ﾛｰﾑ粒を疎に含む。
3. 茶褐色土　ﾛｰﾑ粒を密に、ﾛｰﾑﾌﾞﾛｯｸ・灰色岩粒を含み、炭化物を疎に含む。

縄文412号土坑

1. 暗茶褐色土ﾛｰﾑ粒・灰色岩粒を疎に含む。
2. 暗褐色土　ﾛｰﾑ粒・灰色岩粒・炭化物を疎に含む。
3. 茶褐色土　ﾛｰﾑ粒をやや密に、灰色岩粒を疎に含む。

縄文413号土坑

1. 暗茶褐色土ﾛｰﾑ粒・灰色岩粒を疎に含む。
2. 暗茶褐色土ﾛｰﾑ粒をやや密に、灰色岩粒を疎に含む。
3. 茶褐色土　ﾛｰﾑ粒をやや密に、As-Srを密に含む。
4. 茶褐色土　ﾛｰﾑﾌﾞﾛｯｸを密に含む。

縄文414号土坑

1. 暗褐色土　ﾛｰﾑ粒をやや密に、As-Sr・灰色岩粒を疎に、炭化物をﾎﾟﾂﾎﾟﾂ含む。
2. 黄褐色土　ﾛｰﾑ粒を密に含む。
3. 暗茶褐色土1よりﾛｰﾑ粒・As-Srを多く含む。
4. 黄褐色土　ﾛｰﾑ粒を密に、炭化物を疎に含む。
5. 茶褐色土　3よりAs-Srを疎に含む。

縄文415号土坑

1. 暗褐色土　ﾛｰﾑ粒・As-Sr・灰色岩粒を疎に、炭化物をﾎﾟﾂﾎﾟﾂ含む。
2. 暗茶褐色土ﾛｰﾑ粒をやや密に、As-Srを疎に含む。
3. 茶褐色土　ﾛｰﾑ粒・As-Srを密に含む。

縄文416号土坑

1. 暗茶褐色土ﾛｰﾑ粒・As-Srを疎に含む。
2. 暗褐色土　ﾛｰﾑ粒・As-Sr・灰色岩粒をやや密に、炭化物をﾎﾟﾂﾎﾟﾂ含む。
3. 茶褐色土　ﾛｰﾑ粒・As-Sr・灰色岩粒を密に含む。

縄文417号土坑

1. 暗茶褐色土ﾛｰﾑ粒・As-Sr・灰色岩粒をやや疎に含む。
2. 暗茶褐色土ﾛｰﾑ粒・As-Srをやや密に、炭化物を疎に含む。

縄文418号土坑

1. 暗褐色土　ﾛｰﾑ粒・As-Sr・灰色岩粒をやや密に、炭化物を疎に含む。
2. 黄褐色土　ﾛｰﾑ粒・ﾛｰﾑﾌﾞﾛｯｸを多く含む。

縄文419号土坑

1. 暗茶褐色土ﾛｰﾑ粒・As-Srを含み、灰色岩粒やや疎に、炭化物をﾎﾟﾂﾎﾟﾂ含む。
2. 暗茶褐色土ﾛｰﾑ粒・炭化物を疎に含む。
3. 茶褐色土　ﾛｰﾑ粒・As-Srを疎に含む。

縄文420号土坑

1. 暗茶褐色土ﾛｰﾑ粒・As-Srを疎に、灰色岩粒をやや密に、炭化物をﾎﾟﾂﾎﾟﾂ含む。
2. 暗茶褐色土ﾛｰﾑ粒・灰色岩粒疎に含む。
3. 茶褐色土　ﾛｰﾑ粒をやや密に、As-Srを疎に含む。
4. 黄褐色土　ﾛｰﾑ粒を密に含む。

縄文421号土坑

1. 暗茶褐色土ﾛｰﾑ粒・As-Srを疎に、炭化物を疎に含む。
2. 暗茶褐色土ﾛｰﾑ粒をやや密に含む。
3. 暗茶褐色土ﾛｰﾑ粒・As-Sr・ﾛｰﾑﾌﾞﾛｯｸを含み、炭化物をﾎﾟﾂﾎﾟﾂ含む。
4. 茶褐色土　ﾛｰﾑ粒・As-Srを密に含む。

縄文422号土坑

1. 暗茶褐色土ﾛｰﾑ粒・炭化物を疎に、灰色岩粒をやや密に含む。
2. 暗褐色土　ﾛｰﾑ粒・As-Srを含み、炭化物を疎に含む。
3. 暗茶褐色土ﾛｰﾑ粒を密に含む。

縄文423号土坑

1. 暗茶褐色土ﾛｰﾑ粒・灰色岩粒疎に含む。
2. 暗茶褐色土ﾛｰﾑ粒・As-Srをやや密に、炭化物をﾎﾟﾂﾎﾟﾂ含む。
3. 黄褐色土　ﾛｰﾑ粒・ﾛｰﾑﾌﾞﾛｯｸを密に含む。

縄文424号土坑

1. 暗茶褐色土ﾛｰﾑ粒をやや密に、As-Sr・灰色岩粒をやや疎に含む。
2. 黄褐色土　ﾛｰﾑ粒を密に、As-Srを疎に、灰色岩粒をﾎﾟﾂﾎﾟﾂ含む。

縄文425号土坑
1. 暗褐色土　ﾛｰﾑ粒･As-Srをやや疎に、ﾛｰﾑﾌﾞﾛｯｸを含む。
2. 茶褐色土　ﾛｰﾑ粒をやや密に、As-Srを密に含む。

縄文426号土坑
1. 暗茶褐色土ﾛｰﾑ粒･As-Srを疎に、炭化物をﾎﾟﾂﾎﾟﾂ含む。
2. 茶褐色土　ﾛｰﾑ粒･As-Srを疎に、炭化物をﾎﾟﾂﾎﾟﾂ含む。
3. 茶褐色土　ﾛｰﾑ粒･As-Srをやや疎に、炭化物を疎に含む。
4. 暗茶褐色土ﾛｰﾑ粒･As-Srを含み、炭化物を疎に含む。
5. 暗茶褐色土ﾛｰﾑ粒をやや密に、As-Srを疎に、炭化物をﾎﾟﾂﾎﾟﾂ含む。
6. 茶褐色土　ﾛｰﾑ粒･As-Srをやや密に含む。
7. 黄褐色土　ﾛｰﾑ粒･As-Srを密に含む。
8. 白黄褐色土ﾛｰﾑ粒･As-Sr･褐色粘土を含む。

縄文427号土坑
1. 暗褐色土　ﾛｰﾑ粒･As-Srを疎に含む。
2. 暗茶褐色土ﾛｰﾑ粒をやや密に、As-Sr･灰色岩粒を疎に含む。
3. 茶褐色土　ﾛｰﾑ粒をやや密に含む。

縄文428号土坑
1. 暗茶褐色土ﾛｰﾑ粒･As-Sr･灰色岩粒を疎に含む。
2. 暗褐色土　ﾛｰﾑ粒を疎に含む。
3. 暗褐色土　ﾛｰﾑ粒･As-Srをやや密に、灰色岩粒･炭化物を疎に含む。
4. 暗茶褐色土ﾛｰﾑ粒を疎に含む。
5. 茶褐色土　ﾛｰﾑ粒を密に、As-Srをやや密に含む。しまり強い。
6. 暗茶褐色土ﾛｰﾑ粒を疎に含む。

縄文429号土坑
1. 暗茶褐色土ﾛｰﾑ粒･As-Sr･灰色岩粒をやや疎に、炭化物をﾎﾟﾂﾎﾟﾂ含む。
2. 暗褐色土　1に近似するが、黒味強い。
3. 暗茶褐色土ﾛｰﾑ粒･As-Srをやや密に、炭化物･ﾛｰﾑﾌﾞﾛｯｸ疎に含む。
4. 暗茶褐色土ﾛｰﾑ粒･As-Srをやや密に含む。

縄文430号土坑
1. 暗褐色土　ﾛｰﾑ粒･As-Srを疎に含む。
2. 暗褐色土　ﾛｰﾑ粒･As-Srをﾎﾟﾂﾎﾟﾂ含み、しまり強い。
3. 暗褐色土　ﾛｰﾑ粒をﾎﾟﾂﾎﾟﾂ含む。

縄文431号土坑
1. 茶褐色土　ﾛｰﾑ粒･As-Srを疎に、白色軽石やや密に、炭化物を疎に含む。
2. 暗黄褐色土ﾛｰﾑ粒やや密に、As-Sr･As-OP1を疎に含む。
3. 黄褐色土　ﾛｰﾑ粒･小ﾛｰﾑﾌﾞﾛｯｸをやや密に、As-OP1を疎に含む。

縄文432号土坑
1. 暗茶褐色土ﾛｰﾑ粒･As-Sr･灰色岩粒をやや疎に、炭化物を疎に、茶褐色土ﾌﾞﾛｯｸを多く含む。
2. 暗茶褐色土1に近似するが、ﾛｰﾑ粒以外の混入物少ない。
3. 暗茶褐色土ﾛｰﾑ粒･ﾛｰﾑﾌﾞﾛｯｸを含む。

縄文433号土坑
1. 暗茶褐色土茶褐色土ﾌﾞﾛｯｸを含む。
2. 黄褐色土　ﾛｰﾑ粒を密に含む。
3. 暗褐色土　ﾛｰﾑ粒･As-OP1をやや疎に含む。
4. 暗褐色土　ﾛｰﾑ粒･As-Srを含む。

縄文434号土坑
1. 茶褐色土　ﾛｰﾑ粒･As-OP1をやや密に、炭化物をﾎﾟﾂﾎﾟﾂ含む。
2. 明茶褐色土ﾛｰﾑ粒を密に含む。

縄文435号土坑
1. 暗褐色土　ﾛｰﾑ粒･灰色岩粒やや疎に、炭化物を疎に、ﾛｰﾑﾌﾞﾛｯｸを含む。
2. 黒褐色土　ﾛｰﾑ粒･As-Sr･灰色岩粒･炭化物を疎に含む。
3. 暗褐色土　ﾛｰﾑ粒･As-Sr･炭化物を疎に、茶褐色土ﾌﾞﾛｯｸを含む。
4. 暗褐色土　ﾛｰﾑ粒･As-Srをやや密に、炭化物を疎に含む。
5. 暗茶褐色土ﾛｰﾑ粒･As-Srを密に、灰色岩粒･炭化物を疎に含む。
6. 茶褐色土　ﾛｰﾑﾌﾞﾛｯｸを含む。
7. 暗褐色土　ﾛｰﾑ粒をやや疎に含む。

縄文436号土坑
1. 暗茶褐色土ﾛｰﾑ粒･ﾛｰﾑﾌﾞﾛｯｸをやや疎に、As-OP1をやや密に、炭化物をﾎﾟﾂﾎﾟﾂ含む。
2. 黄褐色土　ﾛｰﾑ粒を密に含む。

縄文437号土坑
1. 暗茶褐色土ﾛｰﾑ粒をやや疎に含む。
2. 暗褐色土　ﾛｰﾑ粒･As-Sr･灰色岩粒･炭化物を疎に含む。
3. 暗褐色土　ﾛｰﾑﾌﾞﾛｯｸを多く含む。
4. 黄褐色土　ﾛｰﾑ粒をやや密に含む。

縄文438号土坑
1. 茶褐色土　ﾛｰﾑ粒･茶褐色土ﾌﾞﾛｯｸ･炭化物を疎に含む。
2. 黒褐色土　ﾛｰﾑ粒･炭化物を疎に、As-OP1をやや密に含む。
3. 茶褐色土　ﾛｰﾑ粒を密に含む。
4. 暗褐色土　ﾛｰﾑ粒･As-Srをやや密に、炭化物を疎に含む。

縄文439号土坑
1. 暗茶褐色土ﾛｰﾑ粒･灰色岩粒をやや疎に含む。
2. 茶褐色土　ﾛｰﾑ粒をやや密に含む。

縄文440号土坑
1. 暗茶褐色土ﾛｰﾑ粒･灰色岩粒をやや疎に、炭化物を疎に含む。
2. 暗茶褐色土1より混入物少ない。
3. 暗褐色土　ﾛｰﾑ粒･ﾛｰﾑﾌﾞﾛｯｸを多く含む。
4. 茶褐色土　ﾛｰﾑ粒･ﾛｰﾑﾌﾞﾛｯｸを密に、As-Srを疎に含む。

縄文441号土坑
1. 暗茶褐色土ﾛｰﾑ粒･As-Srを疎に含む。
2. 暗褐色土　ﾛｰﾑ粒･As-Sr･灰色岩粒を含み、炭化物を疎に含む。
3. 暗褐色土　As-Srを密に含む。
4. 暗褐色土　ﾛｰﾑ粒･As-Sr･ﾛｰﾑﾌﾞﾛｯｸ･As-Srﾌﾞﾛｯｸをやや密に、炭化物をﾎﾟﾂﾎﾟﾂ含む。

縄文442号土坑
1. 暗茶褐色土ﾛｰﾑ粒･As-OP1･炭化物を疎に含む。
2. 暗茶褐色土1より炭化物を密に含む。
3. 茶褐色土　ﾛｰﾑ粒･As-Srをやや密に、灰色岩粒･炭化物を疎に含む。

縄文443号土坑
1. 暗褐色土　ﾛｰﾑ粒をやや密に、灰色岩粒･炭化物を疎に含む。
2. 暗褐色土　ﾛｰﾑ粒･灰色岩粒を疎に含む。
3. 暗褐色土　ﾛｰﾑ粒･As-Srをやや密に、As-Srﾌﾞﾛｯｸを含む。
4. 茶褐色土　ﾛｰﾑ粒･ﾛｰﾑﾌﾞﾛｯｸを多く含む。

縄文444号土坑
1. 暗茶褐色土ﾛｰﾑ粒･As-Srをやや密に、灰色岩粒･炭化物を疎に含む。
2. 黄褐色土　ﾛｰﾑ粒･As-Srを密に含む。

縄文445号土坑
1. 茶褐色土　ﾛｰﾑ粒･As-Srをやや密に、As-OP1を含む。
2. 明茶褐色土ﾛｰﾑ粒を含む。

縄文446号土坑
1. 暗褐色土　ﾛｰﾑ粒･As-Srをやや疎に、炭化物を疎に含む。
2. 茶褐色土　ﾛｰﾑ粒･As-Srを密に含む。
3. 暗褐色土　ﾛｰﾑ粒･As-Sr･As-OP1をやや密に、しまり強い。

縄文447号土坑
1. 暗褐色土　ﾛｰﾑ粒･灰色岩粒をやや疎に、炭化物を疎に含む。
2. 暗茶褐色土ﾛｰﾑ粒･As-Srをやや密に、炭化物を疎に含む。
3. 黄褐色土　ﾛｰﾑ粒を密に含む。

縄文448号土坑
1. 暗茶褐色土ﾛｰﾑ粒･As-Sr･As-OP1･炭化物を疎に含む。
2. 黄褐色土　ﾛｰﾑ粒を密、As-Srを疎に含む。

縄文449号土坑
1. 暗褐色土　ﾛｰﾑ粒･炭化物を疎に、灰色岩粒をやや密に含む。
2. 暗黄褐色土ﾛｰﾑ粒･ﾛｰﾑﾌﾞﾛｯｸを多量に含む。
3. 暗褐色土　1に近似するが、灰色岩粒少なく、炭化物が多い。
4. 黄褐色土　ﾛｰﾑ粒を密に含む。
5. 暗茶褐色土ﾛｰﾑ粒･As-Srを密に、ﾛｰﾑﾌﾞﾛｯｸ･炭化物を疎に含む。
6. 茶褐色土　ﾛｰﾑ粒･As-Srを密に含む。
7. 暗褐色土　ﾛｰﾑ粒･As-Srを疎に含む。

縄文450号土坑
1. 暗褐色土　ﾛｰﾑ粒･As-Srをやや疎に、As-OP1やや密に、炭化物をﾎﾟﾂﾎﾟﾂ含む。
2. 暗茶褐色土ﾛｰﾑ粒･As-Srをやや疎に、炭化物を疎に含む。
3. 暗褐色土　ﾛｰﾑ粒･As-Sr･炭化物を疎に含む。
4. 茶褐色土　ﾛｰﾑ粒･As-Srをやや密に含む。

縄文451号土坑
1. 暗茶褐色土ﾛｰﾑ粒･As-Srを疎に、灰色岩粒をやや密に、炭化物をﾎﾟﾂﾎﾟﾂ含む。
2. 暗茶褐色土ﾛｰﾑ粒･As-Srをやや密に、炭化物をﾎﾟﾂﾎﾟﾂ含む。
3. 黄褐色土　ﾛｰﾑ粒･As-Srを密に含む。

縄文452号土坑
1. 暗褐色土　ﾛｰﾑ粒･As-Sr･ﾛｰﾑﾌﾞﾛｯｸをやや疎に、灰色岩粒やや密に、炭化物をﾎﾟﾂﾎﾟﾂ含む。
2. 暗茶褐色土ﾛｰﾑ粒をやや密に含む。
3. 暗褐色土　1に近似するが、炭化物を含まない。

縄文454号土坑
1. 暗褐色土　ﾛｰﾑ粒･As-Srやや疎に、炭化物をﾎﾟﾂﾎﾟﾂ含む。
2. 暗茶褐色土ﾛｰﾑ粒をやや密に、炭化物をﾎﾟﾂﾎﾟﾂ含む。
3. 暗黄褐色土ﾛｰﾑ粒を密に含む。

縄文455号土坑
1. 暗褐色土　ﾛｰﾑ粒･As-Sr･炭化物を疎に、灰色岩粒をやや密に含む。
2. 暗褐色土　ﾛｰﾑ粒･As-Srをやや疎に、炭化物を疎に含み、しまり強い。

縄文456号土坑
1. 茶褐色土　ﾛｰﾑ粒を疎に含む。
2. 茶褐色土　ﾛｰﾑﾌﾞﾛｯｸを多く含む。
3. 黄褐色土　ﾛｰﾑﾌﾞﾛｯｸを含む。

縄文457号土坑
1. 暗茶褐色土ﾛｰﾑ粒･As-Sr･As-YPやや密に、灰色岩粒やや疎に、炭化物をﾎﾟﾂﾎﾟﾂ含む。
2. 暗茶褐色土ﾛｰﾑ粒･As-Srを疎に、炭化物をﾎﾟﾂﾎﾟﾂ含む。
3. 暗褐色土　ﾛｰﾑ粒･As-Srを疎に含み、しまりに欠ける。
4. 暗茶褐色土ﾛｰﾑ粒をやや密に含む。
5. 茶褐色土　ﾛｰﾑ粒を密に含む。

縄文458号土坑
1. 茶褐色土　ﾛｰﾑﾌﾞﾛｯｸを多く含む。
2. 暗褐色土　ﾛｰﾑ粒･灰色岩粒をやや疎に、炭化物をやや密に含む。
3. 暗褐色土　ﾛｰﾑ粒･灰色岩粒･炭化物を疎に含む。
4. 暗褐色土　ﾛｰﾑ粒･As-Srをやや密に、灰色岩粒･炭化物を疎に含む。
5. 暗茶褐色土ﾛｰﾑ粒をやや疎に含む。
6. 暗黄色土　ﾛｰﾑ粒を密に含む。

縄文459号土坑
1. 暗茶褐色土ﾛｰﾑ粒･ﾛｰﾑﾌﾞﾛｯｸ･炭化物を疎に含む。
2. 暗茶褐色土ﾛｰﾑ粒をやや密に、ﾛｰﾑﾌﾞﾛｯｸを含む。
3. 黄褐色土　ﾛｰﾑ粒を密に含む。

縄文460号土坑
1. 暗茶褐色土ﾛｰﾑ粒をやや疎に、灰色岩粒をやや密に、炭化物をﾎﾟﾂﾎﾟﾂ含む。
2. 暗茶褐色土1に近似するが、ﾛｰﾑﾌﾞﾛｯｸを含む。
3. 黄褐色土　ﾛｰﾑ粒･ﾛｰﾑﾌﾞﾛｯｸを多く含む。

縄文461号土坑
1. 暗茶褐色土ﾛｰﾑ粒を疎に、灰色岩粒やや疎に、炭化物をﾎﾟﾂﾎﾟﾂ含む。
2. 茶褐色土　ﾛｰﾑ粒･ﾛｰﾑﾌﾞﾛｯｸを多量に含む。

縄文462号土坑
1. 暗茶褐色土ﾛｰﾑ粒･灰色岩粒をやや密に、炭化物を疎に含む。
2. 茶褐色土　ﾛｰﾑ粒を密に含む。

縄文463号土坑
1. 暗褐色土　ﾛｰﾑ粒･As-YP･炭化物を疎に、As-Sr･灰色岩粒をやや密に含む。
2. 暗褐色土　ﾛｰﾑ粒･As-Srをやや密に、炭化物を疎に含む。
3. 茶褐色土　ﾛｰﾑ粒を密に、As-Srを疎に含む。
4. 茶褐色土　ﾛｰﾑ粒･ﾛｰﾑﾌﾞﾛｯｸを密に、As-Sr･灰色岩粒を疎に含む。

縄文464号土坑
1. 暗茶褐色土ﾛｰﾑ粒･灰色岩粒をやや疎に含む。
2. 黄褐色土　ﾛｰﾑﾌﾞﾛｯｸを含む。
3. 暗茶褐色土ﾛｰﾑ粒をやや密に含む。
4. 暗茶褐色土ﾛｰﾑ粒･As-Sr･灰色岩粒を疎に、炭化物をﾎﾟﾂﾎﾟﾂ含む。
5. 明茶褐色土ﾛｰﾑ粒をやや密に含む。
6. 暗褐色土　ﾛｰﾑ粒･As-Srを密に、炭化物を疎に含む。
7. 黄褐色土　As-Srを多量に含む。

縄文465号土坑
1. 暗褐色土　ﾛｰﾑ粒･As-Sr･灰色岩粒を疎に、炭化物をﾎﾟﾂﾎﾟﾂ含む。
2. 暗茶褐色土ﾛｰﾑ粒･As-Srをやや密に含む。

縄文466号土坑
1. 暗褐色土　ﾛｰﾑ粒をやや疎に、ﾛｰﾑﾌﾞﾛｯｸを含む。
2. 黄褐色土　ﾛｰﾑ粒を密に含む。

縄文467号土坑
1. 暗褐色土　ﾛｰﾑ粒･灰色岩粒をやや疎に、炭化物をﾎﾟﾂﾎﾟﾂ含む。
2. 暗茶褐色土ﾛｰﾑ粒をやや密に、灰色岩粒･炭化物を疎に含む。
3. 茶褐色土　ﾛｰﾑ粒･As-Srをやや密に含む。

縄文468号土坑
1. 暗茶褐色土ﾛｰﾑ粒･As-YPを疎に、灰色岩粒やや密に、炭化物をﾎﾟﾂﾎﾟﾂ含む。
2. 暗褐色土　ﾛｰﾑ粒･As-YPをやや疎に、As-Srをやや密に、炭化物をﾎﾟﾂﾎﾟﾂ含む。

縄文469号土坑
1. 暗茶褐色土ﾛｰﾑ粒を疎に、As-YP･As-Srをやや密に、炭化物をﾎﾟﾂﾎﾟﾂ含む。
2. 暗茶褐色土ﾛｰﾑ粒をやや密に、As-YP･As-Srを疎に含む。
3. 暗黄褐色土ﾛｰﾑ粒を密に含む。

縄文470号土坑
1. 暗茶褐色土ﾛｰﾑ粒･As-YP･炭化物を疎に、灰色岩粒やや密に含む。
2. 暗茶褐色土ﾛｰﾑ粒･As-YP･As-Srやや密に、炭化物･灰色岩粒やや疎に含み、しまり強い。
3. 暗褐色土　ﾛｰﾑ粒･As-Sr･炭化物を疎に含み、しまり強い。
4. 黄褐色土　ﾛｰﾑﾌﾞﾛｯｸを含み、しまり強くｶﾞﾁｶﾞﾁ。

縄文471号土坑
1. 暗茶褐色土ﾛｰﾑ粒･灰色岩粒･炭化物を疎に含む。

縄文472号土坑
1. 茶褐色土　ﾛｰﾑ粒･ﾛｰﾑﾌﾞﾛｯｸを多量に含み、As-OP1を密に、炭化物を疎に含む。しまり強い。

縄文473号土坑
1. 暗茶褐色土ﾛｰﾑ粒･As-OP1を疎に、炭化物をﾎﾟﾂﾎﾟﾂ含む。
2. 暗茶褐色土ﾛｰﾑ粒をやや密に、As-Sr･As-OP1を疎に、炭化物をﾎﾟﾂﾎﾟﾂ含む。
3. 茶褐色土　ﾛｰﾑ粒を密に含む。

縄文474号土坑
1. 暗茶褐色土ﾛｰﾑ粒を疎に、灰色岩粒を密に含む。
2. 茶褐色土　ﾛｰﾑ粒･灰色岩粒を疎に含む。
3. 茶褐色土　ﾛｰﾑ粒を密に、As-Srを疎に含む。

縄文475号土坑
1. 暗褐色土　ﾛｰﾑ粒をやや密に、灰色岩粒･As-Sr･炭化物を疎に含む。
2. 暗茶褐色土ﾛｰﾑ粒を疎に含む。
3. 黄褐色土　ﾛｰﾑ粒･As-Srを密に含む。

縄文476号土坑
1. 暗茶褐色土ﾛｰﾑ粒･As-Sr･灰色岩粒をやや密に、As-YP･炭化物を疎に、しまり強くｶﾞﾁｶﾞﾁ。
2. 暗茶褐色土ﾛｰﾑ粒･As-Srを疎に含み、しまり強い。
3. 茶褐色土　ﾛｰﾑ粒･As-YPを含み、しまり強い。

縄文477号土坑
1. 暗褐色土　ﾛｰﾑ粒を疎に、灰色岩粒をやや密に、炭化物をﾎﾟﾂﾎﾟﾂ含む。
2. 暗褐色土　ﾛｰﾑ粒･ﾛｰﾑﾌﾞﾛｯｸを含み、炭化物をﾎﾟﾂﾎﾟﾂ含む。
3. 茶褐色土　ﾛｰﾑ粒･ﾛｰﾑﾌﾞﾛｯｸをやや密に含む。

縄文478号土坑
1. 暗褐色土　ﾛｰﾑ粒･As-Srを疎に、灰色岩粒･炭化物をﾎﾟﾂﾎﾟﾂ含む。
2. 茶褐色土　ﾛｰﾑ粒を密に、As-Sr･灰色岩粒を含む。

縄文479号土坑
1. 暗褐色土　ﾛｰﾑ粒･As-Srを疎に含む。
2. 暗茶褐色土ﾛｰﾑ粒･As-Srをやや密に、灰色岩粒･炭化物を疎に含む。
3. 暗茶褐色土ﾛｰﾑ粒を疎に含む。

縄文480号土坑
1. 暗褐色土　ﾛｰﾑ粒･灰色岩粒をやや疎に、炭化物をﾎﾟﾂﾎﾟﾂ含む。
2. 暗茶褐色土ﾛｰﾑ粒をやや密に含む。
3. 茶褐色土　ﾛｰﾑ粒を含む。

縄文481号土坑
1. 暗褐色土　ﾛｰﾑ粒･灰色岩粒･炭化物を疎に含む。
2. 暗褐色土　ﾛｰﾑ粒･As-Srを密に含む。

縄文482号土坑
1. 暗褐色土　ﾛｰﾑ粒･灰色岩粒を疎に、炭化物をﾎﾟﾂﾎﾟﾂ含む。
2. 暗茶褐色土ﾛｰﾑ粒･As-Srをやや密に含む。

縄文483号土坑
1. 暗褐色土　ﾛｰﾑ粒･As-Sr･As-YPをやや疎に、灰色岩粒をやや密に、炭化物を疎に含む。
2. 暗茶褐色土1に近似するが、ﾛｰﾑ粒を多く含む。
3. 茶褐色土　ﾛｰﾑ粒を密に含む。

縄文484号土坑
1. 暗褐色土　ﾛｰﾑ粒･As-Sr･As-YP･炭化物を疎に、灰色岩粒をやや密に含む。
2. 暗茶褐色土1に近似するが、混入物が多い。
3. 暗茶褐色土ﾛｰﾑ粒･As-Srをやや密に含む。
4. 茶褐色土　ﾛｰﾑ粒･As-Srをやや疎に含む。
5. 黄褐色土　ﾛｰﾑ粒を密に含む。

縄文485号土坑
1. 暗茶褐色土ﾛｰﾑ粒･As-Srを疎に、灰色岩粒をやや密に含む。
2. 暗茶褐色土ﾛｰﾑ粒･As-Sr･灰色岩粒を疎に含む。

縄文486号土坑
1. 暗褐色土　ﾛｰﾑ粒･灰色岩粒を疎に、炭化物をﾎﾟｯﾎﾟｯ含む。
2. 暗茶褐色土ﾛｰﾑ粒･小ﾛｰﾑﾌﾞﾛｯｸを含み、灰色岩粒･炭化物を疎に含む。
3. 暗褐色土　ﾛｰﾑ粒をやや疎に含む。
4. 暗茶褐色土ﾛｰﾑ粒･As-Srを密に、炭化物を疎に含む。

縄文487号土坑
1. 暗褐色土　ﾛｰﾑ粒･炭化物を疎に含む。
2. 黄褐色土　ﾛｰﾑ粒･ﾛｰﾑﾌﾞﾛｯｸを密に含む。

縄文488号土坑
1. 暗茶褐色土ﾛｰﾑ粒･As-Sr･灰色岩粒･炭化物をやや密に含む。
2. 暗茶褐色土1に近似するが、As-Srが多い。
3. 暗茶褐色土1･2に近似するが、しまりに欠ける。

縄文489号土坑
1. 暗褐色土　ﾛｰﾑ粒･As-Sr･灰色岩粒･炭化物をやや密に含む。
2. 茶褐色土　ﾛｰﾑ粒･ﾛｰﾑﾌﾞﾛｯｸを多く含む。
3. 暗褐色土　1に近似するが、炭化物を多く含む。
4. 暗茶褐色土ﾛｰﾑ粒･炭化物を疎に、As-Srを多く含む。
5. 暗茶褐色土ﾛｰﾑ粒･As-Sr･炭化物を疎に含む。

縄文490号土坑
1. 暗褐色土　ﾛｰﾑ粒･As-YPを疎に、灰色岩粒やや密に、炭化物をﾎﾟｯﾎﾟｯ含む。
2. 暗茶褐色土ﾛｰﾑ粒･As-YP･As-Srを密に、炭化物を疎に含む。
3. 暗黄褐色土ﾛｰﾑ粒を密に含む。

縄文491号土坑
1. 暗茶褐色土ﾛｰﾑ粒･As-YP･As-Srをやや密に、炭化物を疎に含む。
2. 暗茶褐色土ﾛｰﾑ粒をやや密に含む。

縄文492号土坑
1. 暗褐色土　ﾛｰﾑ粒･As-Sr･炭化物を疎に、ﾛｰﾑﾌﾞﾛｯｸを含む。

縄文493号土坑
1. 暗茶褐色土ﾛｰﾑ粒･As-Srをやや密に含む。
2. 茶褐色土　ﾛｰﾑ粒･ﾛｰﾑﾌﾞﾛｯｸを含む。

縄文494号土坑
1. 暗褐色土　ﾛｰﾑ粒･As-Sr･灰色岩粒をやや疎に、炭化物をﾎﾟｯﾎﾟｯ含む。
2. 黄褐色土　ﾛｰﾑ粒を密に含む。

縄文495号土坑
1. 暗褐色土　ﾛｰﾑ粒をやや密に、As-Sr･灰色岩粒･炭化物を疎に含む。
2. 茶褐色土　ﾛｰﾑ粒･ﾛｰﾑﾌﾞﾛｯｸを密に含む。

縄文496号土坑
1. 茶褐色土　ﾛｰﾑ粒･灰色岩粒をやや疎に、炭化物をﾎﾟｯﾎﾟｯ含む。
2. 茶褐色土　ﾛｰﾑ粒･As-Sr･ﾛｰﾑﾌﾞﾛｯｸを疎に含む。
3. 暗褐色土　ﾛｰﾑ粒･炭化物を疎に含む。

縄文497号土坑
1. 明茶褐色土ﾛｰﾑ粒･ﾛｰﾑﾌﾞﾛｯｸを多く含み、As-Sr･灰色岩粒･炭化物を含む。
2. 黄褐色土　ﾛｰﾑ粒を密に含む。

縄文498号土坑
1. 暗褐色土　ﾛｰﾑ粒･炭化物を疎に、灰色岩粒をやや密に含む。

縄文499号土坑
1. 暗褐色土　ﾛｰﾑ粒･As-Sr･灰色岩粒やや疎に、炭化物をﾎﾟｯﾎﾟｯ含む。
2. 茶褐色土　ﾛｰﾑ粒を密に、灰色岩粒を疎に含む。

縄文500号土坑
1. 茶褐色土　ﾛｰﾑ粒をやや疎に、炭化物をﾎﾟｯﾎﾟｯ含む。
2. 黄褐色土　ﾛｰﾑ粒･ﾛｰﾑﾌﾞﾛｯｸを密に含む。
3. 茶褐色土　ﾛｰﾑ粒･ﾛｰﾑﾌﾞﾛｯｸ含む。

縄文501号土坑
1. 茶褐色土　ﾛｰﾑ粒を疎に含む。
2. 明茶褐色土ﾛｰﾑﾌﾞﾛｯｸを多く含む。(ﾋﾟｯﾄ?)
3. 暗褐色土　ﾛｰﾑ粒･As-Srやや疎に、炭化物を疎に含む。
4. 暗褐色土　ﾛｰﾑ粒･ﾛｰﾑﾌﾞﾛｯｸをやや多く含む。

縄文504号土坑
1. 暗褐色土　ﾛｰﾑ粒･灰色岩粒を疎に含む。
2. 黄褐色土　ﾛｰﾑﾌﾞﾛｯｸを含む。
3. 暗茶褐色土ﾛｰﾑ粒･As-Srを疎に、炭化物をﾎﾟｯﾎﾟｯ含む。
4. 暗黄褐色土ﾛｰﾑ粒を密に含む。

縄文505号土坑
1. 暗褐色土　ﾛｰﾑ粒をやや疎に、灰色岩粒･炭化物を疎に含む。
2. 暗黄褐色土ﾛｰﾑ粒･As-Srをやや密に含む。
3. 暗黄褐色土ﾛｰﾑ粒を密に含む。

縄文506号土坑
1. 黄褐色土　ﾛｰﾑﾌﾞﾛｯｸを含む。
2. 暗茶褐色土ﾛｰﾑ粒･灰色岩粒を疎に、炭化物をﾎﾟｯﾎﾟｯ含む。

縄文507号土坑
1. 暗茶褐色土ﾛｰﾑ粒･炭化物を疎に、茶褐色土ﾌﾞﾛｯｸを含む。
2. 暗褐色土　ﾛｰﾑ粒･As-OP1･灰色岩粒･炭化物･As-Srを疎に含む。
3. 暗褐色土　ﾛｰﾑ粒･ﾛｰﾑﾌﾞﾛｯｸ･As-Sr･灰色岩粒･As-OP1を含む。

縄文508号土坑
1. 暗茶褐色土ﾛｰﾑ粒･As-Sr･灰色岩粒をやや疎に、炭化物･As-OP1をﾎﾟｯﾎﾟｯ含む。
2. 茶褐色土　1に近似するが、灰色岩粒･炭化物少ない。
3. 明茶褐色土ﾛｰﾑ粒を密に含む。

縄文509号土坑
1. 暗茶褐色土ﾛｰﾑ粒･炭化物･灰色岩粒･As-OP1を含む。
2. 暗褐色土　ﾛｰﾑ粒･ﾛｰﾑﾌﾞﾛｯｸ･茶褐色土ﾌﾞﾛｯｸの混土。しまり強い。
3. 暗茶褐色土ﾛｰﾑﾌﾞﾛｯｸ･As-YP･灰色岩粒･As-OP1･As-Srをやや密に含む。
4. 黄褐色土　ﾛｰﾑﾌﾞﾛｯｸを密に含む。

縄文510号土坑
1. 暗茶褐色土ﾛｰﾑ粒を疎に、As-OP1をやや密に含む。
2. 茶褐色土　ﾛｰﾑ粒･As-OP1･As-Srをやや密に含む。
3. 茶褐色土　ﾛｰﾑﾌﾞﾛｯｸを含む。

縄文511号土坑
1. 暗茶褐色土ﾛｰﾑ粒をやや密に、As-YPを密に、炭化物･As-Srを疎に含む。
2. 茶褐色土　ﾛｰﾑ粒を密に含む。

縄文512号土坑
1. 暗茶褐色土ﾛｰﾑ粒を疎に、灰色岩粒やや密に含む。
2. 茶褐色土　ﾛｰﾑ粒をやや密に含む。

縄文513号土坑
1. 暗茶褐色土ﾛｰﾑ粒を疎に、As-OP1をやや密に、炭化物･As-YPをﾎﾟｯﾎﾟｯ含む。
2. 明茶褐色土ﾛｰﾑ粒を密に含む。

縄文514号土坑
1. 明茶褐色土ﾛｰﾑ粒･灰色岩粒をやや密に、炭化物をﾎﾟｯﾎﾟｯ含む。
2. 茶褐色土　1に近似するが、灰色岩粒少なく、炭化物を含まない。

縄文515号土坑
1. 暗茶褐色土ﾛｰﾑ粒･As-OP1やや密に、炭化物をﾎﾟｯﾎﾟｯ含む。
2. 黄褐色土　ﾛｰﾑﾌﾞﾛｯｸを含む。
3. 茶褐色土　ﾛｰﾑ粒を密に含む。

縄文516号土坑
1. 茶褐色土　ﾛｰﾑ粒をやや密に、As-OP1やや疎に、炭化物･As-Srをﾎﾟｯﾎﾟｯ含む。
2. 茶褐色土　1に近似するが、ややﾛｰﾑ粒が多い。

縄文517号土坑
1. 黄褐色土　ﾛｰﾑ粒を密に含む。
2. 暗茶褐色土ﾛｰﾑ粒を疎に、灰色岩粒をやや疎に含む。

縄文518号土坑
1. 暗褐色土　ﾛｰﾑ粒を疎に含む。
2. 明茶褐色土ﾛｰﾑ粒･ﾛｰﾑﾌﾞﾛｯｸを多く含む。
3. 暗茶褐色土ﾛｰﾑ粒･As-Srをやや疎に、灰色岩粒をやや密に含む。

縄文519号土坑
1. 暗褐色土　ﾛｰﾑ粒･炭化物を疎に含み、しまり強い。
2. 黄褐色土　ﾛｰﾑ粒を密に、灰色岩粒を疎に含み、しまり強い。

縄文520号土坑
1. 暗褐色土　ﾛｰﾑ粒･灰色岩粒をやや密に、しまり強い。
2. 黄褐色土　ﾛｰﾑ粒･ﾛｰﾑﾌﾞﾛｯｸを密に含む。
3. 黄褐色土　ﾛｰﾑ掘り過ぎ。

縄文521号土坑
1. 茶褐色土　ﾛｰﾑ粒・炭化物を疎に含む。
2. 暗褐色土　ﾛｰﾑ粒・ﾛｰﾑﾌﾞﾛｯｸを疎に、炭化物をﾎﾟﾂﾎﾟﾂ含む。
3. 暗茶褐色土2に近似するが、ﾛｰﾑ粒を多く含む。

縄文522号土坑
1. 暗褐色土　ﾛｰﾑ粒・灰色岩粒をやや密に、炭化物・As-Srを疎に含む。
2. 黄褐色土　ﾛｰﾑ粒を密に含む。

縄文523号土坑
1. 暗褐色土　ﾛｰﾑ粒を疎に、灰色岩粒をやや密に含む。
2. 黄褐色土　ﾛｰﾑ粒・As-OP1を密に含む。

縄文524号土坑
1. 明茶褐色土ﾛｰﾑ粒をやや密に、灰色岩粒・炭化物・As-Sr・As-OP1を疎に含む。
2. 茶褐色土　ﾛｰﾑ粒やや密に、炭化物・As-Srを疎に含む。
3. 黄褐色土　ﾛｰﾑ粒を密に含む。

縄文525号土坑
1. 茶褐色土　ﾛｰﾑ粒を密に、炭化物・灰色岩粒を疎に含む。
2. 茶褐色土　ﾛｰﾑ粒・灰色岩粒を疎に含む。

縄文526号土坑
1. 暗茶褐色土ﾛｰﾑ粒を疎に、灰色岩粒をやや密に、炭化物をﾎﾟﾂﾎﾟﾂ含む。
2. 暗褐色土　ﾛｰﾑ粒・炭化物をﾎﾟﾂﾎﾟﾂ含み、しまり強い。
3. 茶褐色土　ﾛｰﾑ粒を密に含む。

縄文527号土坑
1. 暗茶褐色土ﾛｰﾑ粒・As-YPを疎に、灰色岩粒・As-Srをやや密に含む。
2. 暗黄褐色土ﾛｰﾑ粒を密に、灰色岩粒・炭化物を疎に含む。

縄文528号土坑
1. 暗褐色土　ﾛｰﾑ粒・As-YPを疎に、灰色岩粒をやや密に含む。
2. 茶褐色土　ﾛｰﾑ粒をやや密に含む。

縄文529号土坑
1. 茶褐色土　ﾛｰﾑ粒・As-YPをやや密に、灰色岩粒をやや疎に、炭化物をﾎﾟﾂﾎﾟﾂ含む。
2. 暗茶褐色土ﾛｰﾑ粒・As-Srを疎に、炭化物・As-YPをﾎﾟﾂﾎﾟﾂ含む。

縄文530号土坑
1. 暗褐色土　ﾛｰﾑ粒・灰色岩粒・炭化物を疎に含む。
2. 茶褐色土　ﾛｰﾑ粒をやや密に含む。

縄文531号土坑
1. 茶褐色土　ﾛｰﾑ粒をやや密に、炭化物・灰色岩粒を疎に含む。
2. 茶褐色土　ﾛｰﾑ粒をやや密に含む。

縄文532号土坑
1. 暗褐色土　ﾛｰﾑ粒・As-Srをやや密に、灰色岩粒・炭化物を疎に含む。
2. 暗茶褐色土ﾛｰﾑ粒をやや疎に、灰色岩粒・炭化物を疎に含む。

縄文533号土坑
1. 暗褐色土　ﾛｰﾑ粒・As-Srを疎に、灰色岩粒・炭化物を疎に含む。
2. 暗茶褐色土ﾛｰﾑ粒・ﾛｰﾑﾌﾞﾛｯｸ・As-Sr・灰色岩粒を疎に含む。

縄文534号土坑
1. 暗褐色土　ﾛｰﾑ粒をやや疎に、灰色岩粒を密に、炭化物をﾎﾟﾂﾎﾟﾂ含む。
2. 黄褐色土　ﾛｰﾑ粒を密に含む。

縄文535号土坑
1. 暗茶褐色土ﾛｰﾑ粒・As-Sr・As-YPをやや疎に、炭化物をﾎﾟﾂﾎﾟﾂ含む。
2. 明茶褐色土ﾛｰﾑ粒・As-Sr・灰色岩粒をやや密に、炭化物をﾎﾟﾂﾎﾟﾂ含む。
3. 黄褐色土　ﾛｰﾑ粒・As-Srを疎に含む。
4. 黄褐色土　ﾛｰﾑ粒を密に含む。
5. 暗茶褐色土ﾛｰﾑ粒を疎に含む。

縄文536号土坑
1. 暗褐色土　ﾛｰﾑ粒をやや疎に、炭化物をﾎﾟﾂﾎﾟﾂ含む。
2. 茶褐色土　ﾛｰﾑ粒を密に含む。

縄文537号土坑
1. 暗褐色土　ﾛｰﾑ粒を疎に、As-OP1やや密に、炭化物をﾎﾟﾂﾎﾟﾂ含む。
2. 暗茶褐色土ﾛｰﾑ粒・As-OP1をやや密に、As-Srを密に、炭化物をﾎﾟﾂﾎﾟﾂ含む。

縄文538号土坑
1. 暗茶褐色土ﾛｰﾑ粒・灰色岩粒疎に含む。
2. 茶褐色土　ﾛｰﾑ粒を密に含む。

縄文539号土坑
1. 暗茶褐色土ﾛｰﾑ粒をやや疎に、灰色岩粒を疎に含む。
2. 茶褐色土　ﾛｰﾑ粒を密に含む。

縄文540号土坑
1. 暗茶褐色土ﾛｰﾑ粒・As-YPを疎に、炭化物をﾎﾟﾂﾎﾟﾂ含む。
2. 茶褐色土　ﾛｰﾑ粒を密に含む。

縄文541号土坑
1. 暗褐色土　ﾛｰﾑ粒・As-Srをやや密に、灰色岩粒を疎に含む。
2. 黄褐色土　ﾛｰﾑ粒を密に含む。

縄文542号土坑
1. 暗褐色土　ﾛｰﾑ粒・As-Srを疎に、炭化物をﾎﾟﾂﾎﾟﾂ含む。
2. 暗茶褐色土ﾛｰﾑ粒をやや密に含む。
3. 黄褐色土　ﾛｰﾑ粒を密に含む。

縄文545号土坑
1. 暗褐色土　ﾛｰﾑ粒・ﾛｰﾑ漸移層ﾌﾞﾛｯｸを含む。
2. 暗茶褐色土ﾛｰﾑ粒・As-YPﾌﾞﾛｯｸをやや多く含む。
3. 暗茶褐色土ﾛｰﾑ粒・ﾛｰﾑﾌﾞﾛｯｸを密に含む。
4. 茶褐色土　ﾛｰﾑﾌﾞﾛｯｸ・As-Srを密に含む。

縄文546号土坑
1. 暗褐色土　As-YP・As-Srを少量含む。
2. 暗褐色土　As-YP・As-Srを少量含み、1よりやや黒色味が強く、堅くしまりあり。
3. 暗褐色土　As-YP・ﾛｰﾑﾌﾞﾛｯｸを含む。
4. 黄褐色土　ﾛｰﾑ粒・ﾛｰﾑﾌﾞﾛｯｸを密に含む。

縄文547号土坑
1. 暗灰褐色土ﾛｰﾑ漸移層ﾌﾞﾛｯｸを含む。
2. 黒色土　As-Srを含み、堅い。
3. 黒褐色土　少量のﾛｰﾑﾌﾞﾛｯｸを含む。
4. 黒褐色土　ﾛｰﾑﾌﾞﾛｯｸを含む。
5. 黒色土　ﾛｰﾑ粒・As-Sr・As-OP1を疎に含む。
6. 黒褐色土　少量の褐色土ﾌﾞﾛｯｸを含む。
7. 暗灰褐色土ﾛｰﾑ粒・褐色土ﾌﾞﾛｯｸを含む。

縄文548号土坑
1. 暗褐色土　As-Sr・As-OP1を含む。
2. 暗褐色土　少量のﾛｰﾑﾌﾞﾛｯｸを含む。
3. 暗黄褐色土大きめのﾛｰﾑﾌﾞﾛｯｸ含む。

縄文549号土坑
1. 黒褐色土　As-Srを少量含む。
2. 暗褐色土　As-Sr・ﾛｰﾑﾌﾞﾛｯｸを含む。
3. 暗黄褐色土As-Srﾌﾞﾛｯｸ。
4. 黒褐色土　軟かい。
5. 暗褐色土　As-Sr・As-YPを含み、堅い。

縄文550号土坑
1. 暗褐色土　褐色土ﾌﾞﾛｯｸ・As-Srを含む。
2. 黒色土　少量のﾛｰﾑﾌﾞﾛｯｸを含み、堅くしまっている。As-Srを含む。
3. 暗褐色土　小ﾛｰﾑﾌﾞﾛｯｸを含む。
4. 黄褐色土　ﾛｰﾑﾌﾞﾛｯｸ。

縄文551号土坑
1. 暗黄褐色土ﾛｰﾑﾌﾞﾛｯｸを多く含む。
2. 暗褐色土　炭化物・As-Srを多く含む。
3. 暗黄褐色土ﾛｰﾑﾌﾞﾛｯｸを多く含み、As-Sr・As-YPを含む。しまり強い。
4. 黒褐色土　3より粘性に富み、黒味がある。

縄文553号土坑
1. 黒褐色土　ﾛｰﾑﾌﾞﾛｯｸ・As-Srを含む。
2. 暗褐色土　As-Sr・As-YPを含む。
3. 暗黄褐色土ﾛｰﾑﾌﾞﾛｯｸ・As-YP含む。

縄文554号土坑
1. 黒色土　As-Sr・As-OP1を含み、堅い。
2. 黒褐色土　As-Sr・As-Srを含む。
3. 暗褐色土　ﾛｰﾑ粒・As-Srを多く含む。
4. 暗褐色土　ﾛｰﾑ粒を多く含む。
5. 黒色土　As-Srを含み、堅い。
6. 暗黄褐色土ﾛｰﾑﾌﾞﾛｯｸ・ﾛｰﾑ粒を多く含む。As-Sr・As-OP1を含む。
7. 黒色土　As-Srを含み、しまり強い。

第9表　縄文土坑一覧表(1)

番号	ｸﾞﾘｯﾄﾞ	平面形	規模(長軸×短軸)m	断面形	深さm	備　　考
1	10-P-16	不整方形	一辺1.10	フラスコ型	0.70	全体に底部から25cm程でオーバーハング。
2	10-P-16	不整形	1.75×1.10	逆台形	1.15	
3	10-T-11	不整長方形	0.65×0.40	V字型	0.55	
4	10-S-10	不整楕円形	0.75×0.65	逆台形	0.30	
5	11-T-01	円　形	径1.10	逆台形	0.36	
6	11-T-01	不整楕円形	1.36×1.18	逆台形	0.22	
7	11-T-01	不整円形	径0.94	フラスコ型	0.35	全体に底部から10cm程でオーバーハング。
8	11-S-16	不整長方形	1.00×0.75	逆台形	0.10	
9	11-S-15	楕円形	1.35×1.15	逆台形	0.58	
10	11-S-15	不整円形	径1.00	逆台形	0.28	
11	11-S-15	不整円形	径1.10	フラスコ型	0.33	北壁から南壁にかけてオーバーハング。
12	11-S-20	方　形	一辺0.95	U字型	0.35	
13	10-S-25	不整方形	一辺0.96	逆台形	0.18	
14	10-S-25	不整長方形	1.62×1.28	U字型	0.30	縄文13号土坑に壊される。
15	10-S-25	不整楕円形	0.95×0.85	フラスコ型	0.50	北壁から東壁にかけてオーバーハング。
16	11-S-20	円　形	径0.70	逆台形	0.12	
17	11-S-19	不整長方形	1.05×0.68	逆台形	0.15	
18	11-S-18	不整楕円形	0.80×0.65	逆台形	0.06	
19	11-S-18	円　形	径0.75	逆台形	0.20	
20	11-S-08	方　形	一辺1.40	U字型	0.45	
21	11-S-08	円　形	径1.25	逆台形	0.20	
22	10-S-23	不整円形	径0.75	逆台形	0.22	
23	10-S-23	不整長方形	0.84×0.65	U字型	0.30	
24	10-S-18	不整円形	径0.70	逆台形	0.20	
25	10-S-19	不整楕円形	0.82×0.74	逆台形	0.20	
26	10-R-13	円　形	径1.00	フラスコ型	0.58	西壁から東壁にかけてオーバーハング。
27	10-S-09	円　形	径0.82	逆台形	0.36	
28	10-S-02	円　形	径0.70	U字型	0.32	
29	10-S-08	長方形	0.50×0.32	逆台形	0.22	
30	10-S-08	不整楕円形	0.65×0.54	U字型	0.20	
31	10-S-07	不整長方形	1.40×0.84	U字型	0.20	
32	10-S-07	不整円形	径0.80	逆台形	0.24	
33	10-S-08	不整楕円形	1.04×0.85	フラスコ型	0.30	北壁から南壁にかけてオーバーハング。
34	10-S-13	不整円形	径0.74	U字型	0.36	
35	10-S-13	不整長方形	1.00×0.60	U字型	0.32	
36	10-S-13	方　形	一辺1.05	U字型	0.16	
37	10-S-01	不整楕円形	0.55×0.45	U字型	0.30	
38	10-R-13	不整円形	径0.54	V字型	0.35	
39	11-S-01	不整楕円形	1.12×0.89	V字型	0.25	
40	11-S-02	円　形	径0.55	逆台形	0.12	
41	11-S-07	不整楕円形	0.90×0.68	V字型	0.14	
42	11-S-11	円　形	径0.95	逆台形	0.30	
43	11-S-11	不整楕円形	1.04×0.85	フラスコ型	0.58	全体に底部から25cm程でオーバーハング。
44	11-S-21	不整楕円形	1.15×1.00	U字型	0.40	
45	12-R-10	不整円形	径1.20	逆台形	0.22	
46	12-S-20	楕円形	1.00×0.90	U字型	0.26	
47	12-R-23	不整円形	径0.50	V字型	0.30	
48	12-R-04	円　形	径0.75	V字型	0.30	
49	12-R-04	円　形	径1.05	U字型	0.25	
50	12-R-03	不整円形	径1.25	U字型	0.25	

第10表　縄文土坑一覧表(2)

番号	ｸﾞﾘｯﾄﾞ	平面形	規模(長軸×短軸) m	断面形	深さ m	備　　考
51	10-S-16	方　形	一辺0.85	V字型	0.44	
52	10-R-20	円　形	径1.00	フラスコ型	0.26	全体に底部から5cm程でオーバーハング。
53	10-R-10	不整円形	径0.75	逆台形	0.22	
54	10-R-10	不整楕円形	0.60×0.40	逆台形	0.22	
55	10-R-15	不整形	1.10×0.75	U字型	0.30	
56	10-R-15	不整方形	一辺0.75	逆台形	0.30	
57	10-S-21	楕円形	0.88×0.78	U字型	0.35	
58	10-R-02	不整円形	径1.05	フラスコ型	0.26	全体に底部から10cm程でオーバーハング。
59	11-R-04	楕円形	1.65×1.40	逆台形	0.25	
60	11-S-16	不整楕円形	1.10×0.85	フラスコ型	0.42	全体に底部から15cm程でオーバーハング。
61	11-S-11	不整楕円形	1.05×0.80	フラスコ型	0.50	縄文108号土坑と重複し、本跡が新しい。
62	11-R-15	楕円形	1.15×1.00	フラスコ型	0.40	全体に底部から20cm程でオーバーハング。
63	11-R-04	不整円形	径0.65	U字型	0.42	北壁から南壁にかけてオーバーハング。
64	11-R-04	不整楕円形	0.68×0.60	U字形	0.45	
65	11-R-13	楕円形	0.82×0.72	フラスコ型	0.50	全体に底部から5cm程でオーバーハング。
66	11-R-19	楕円形	1.25×1.05	逆台形	0.15	東壁中位にテラスを有する。
67	11-R-18	不整長方形	1.25×0.75	逆台形	0.38	
68	11-R-12	不整長方形	1.35×0.94	逆台形	0.34	
69	12-R-02	不整楕円形	1.36×1.10	フラスコ型	0.33	北壁から南壁にかけてオーバーハング。
70	12-R-02	不整楕円形	0.85×0.60	U字型	0.22	
71	11-R-17	不整形	0.70×0.60	U字型	0.15	
72	11-R-17	不整楕円形	1.25×1.10	U字型	0.46	
73	12-R-06	楕円形	0.96×0.84	フラスコ型	0.35	全体に底部から15cm程でオーバーハング。
74	12-R-06	不整円形	径0.60	逆台形	0.12	
75	12-Q-15	不整楕円形	1.00×0.85	U字型	0.22	
76	12-Q-05	不整楕円形	1.32×0.95	逆台形	0.18	
77	12-Q-25	楕円形	1.05×0.90	逆台形	0.20	
78	11-Q-15	不整楕円形	0.60×0.50	U字型	0.45	
79	11-Q-10	円　形	径1.25	逆台形	0.20	
80	10-Q-21	楕円形	0.64×0.55	U字型	0.45	
81	11-Q-08	楕円形	0.90×0.80	逆台形	0.22	
82	11-Q-13	円　形	径1.10	逆台形	0.20	
83	11-Q-17	不整楕円形	1.05×0.85	U字型	0.30	
84	12-Q-06	不整楕円形	0.85×0.75	逆台形	0.10	
85	11-Q-12	楕円形	1.00×0.90	U字型	0.26	
86	11-Q-12	楕円形	0.80×0.70	逆台形	0.10	
87	11-Q-02	不整円形	径0.85	フラスコ型	0.45	全体に底部から5cm程でオーバーハング。
88	11-Q-02	不整楕円形	0.80×0.70	V字型	0.35	
89	10-Q-22	不整方形	一辺0.75	U字型	0.18	
90	10-Q-22	楕円形	1.15×1.00	U字型	0.30	
91	10-Q-17	不整円形	径0.75	U字型	0.18	
92	11-P-05	不整楕円形	1.10×0.90	逆台形	0.25	
93	11-P-10	不整楕円形	1.10×0.95	U字型	0.26	
94	11-P-15	円　形	径0.85	フラスコ型	0.25	全体に底部から10cm程でオーバーハング。
95	11-P-15	不整楕円形	0.50×0.40	U字型	0.25	
96	11-Q-16	円　形	径0.50	U字型	0.10	
97	11-Q-22	不整楕円形	0.64×0.50	U字型	0.60	
98	9-P-15	不整楕円形	0.50×0.35	V字型	0.25	
99	9-P-19	円　形	径0.55	逆台形	0.15	
100	9-O-15	円　形	径0.90	フラスコ型	1.30	北壁から南壁にかけてオーバーハング。

第11表　縄文土坑一覧表(3)

番号	ｸﾞﾘｯﾄﾞ	平面形	規模(長軸×短軸) m	断面形	深さ m	備　　考
101	10-R-18	不整円形	径2.00	逆台形	0.95	
102	17-R-02	不整楕円形	1.00×0.70	V字型	0.35	
103	17-R-06	不整楕円形	0.80×0.60	逆台形	0.25	
104	16-Q-18	円　形	径0.75	フラスコ型	0.75	全体に底部から15cm程でオーバーハング。
105	16-Q-17	円　形	径0.90	U字型	0.30	
106	17-P-04	不整長方形	1.10×0.65	U字型	0.68	
107	16-P-06	不整円形	径0.85	U字型	0.55	
108	11-R-16	不整形	0.70×0.60	フラスコ型	0.54	全体に底部から20cm程でオーバーハング。
109	11-T-01	不整円形	径0.95	U字型	0.36	
110	9-R-21	不整方形	一辺0.62	逆台形	0.36	
111	9-R-21	不整方形	一辺0.65	逆台形	0.20	
112	10-Q-20	不整円形	径0.90	逆台形	0.18	
113	10-Q-14	長方形	1.40×0.75	U字型	0.40	
114	9-Q-18	不整円形	径0.65	U字型	0.35	
115	9-Q-17	楕円形	0.85×0.70	U字型	0.35	
116	9-Q-22	円　形	径0.55	U字型	0.20	
117	10-Q-07	不整円形	径0.85	逆台形	0.15	
118	10-Q-12	不整方形	一辺0.60	逆台形	0.10	
119	10-Q-07	不整方形	径0.90	逆台形	0.08	
120	10-Q-07	円　形	径0.70	逆台形	0.05	
121	10-Q-07	楕円形	1.10×0.95	逆台形	0.16	
122	10-Q-11	円　形	径1.15	逆台形	0.15	
123	10-P-22	不整楕円形	1.05×0.80	逆台形	0.30	
124	11-P-09	方　形	一辺0.65	フラスコ型	0.36	全体に底部から15cm程でオーバーハング。
125	11-P-09	方　形	一辺0.90	フラスコ型	0.20	全体に底部から5cm程でオーバーハング。
126	11-P-03	方　形	一辺1.05	フラスコ型	0.20	全体に底部から5cm程でオーバーハング。
127	11-P-09	方　形	一辺0.50	U字型	0.35	
128	11-P-08	不整長方形	1.50×1.18	逆台形	0.40	
129	10-P-22	方　形	一辺0.75	逆台形	0.90	
130	10-P-12	不整円形	径1.10	フラスコ型	0.25	全体に底部から6cm程でオーバーハング。
131	10-P-12	不整円形	径1.20	フラスコ型	0.40	全体に底部から8cm程でオーバーハング。
132	10-P-13	不整円形	径0.75	フラスコ型	0.35	全体に底部から10cm程でオーバーハング。
133	10-P-07	不整方形	一辺0.60	フラスコ型	0.35	全体に底部から10cm程でオーバーハング。
134	10-P-09	不整楕円形	0.65×0.55	U字型	0.25	
135	10-P-09	不整円形	径0.70	逆台形	0.10	
136	10-P-04	不整円形	径1.10	フラスコ型	0.23	全体に底部から5cm程でオーバーハング。
137	10-P-04	不整円形	径0.90	フラスコ型	0.30	全体に底部から10cm程でオーバーハング。
138	9-P-25	円　形	径0.85	U字型	0.25	
139	10-P-05	長方形	0.75×0.60	U字型	0.36	
140	9-Q-25	不整方形	一辺0.85	フラスコ型	0.30	北壁から南壁にかけてオーバーハング。
141	9-Q-22	不整楕円形	1.15×1.10	フラスコ型	0.32	全体に底部から8cm程でオーバーハング。
142	9-Q-21	円　形	径0.75	逆台形	0.28	
143	9-Q-17	不整楕円形	1.35×1.00	逆台形	0.30	
144	9-Q-16	不整楕円形	1.15×0.95	フラスコ型	0.20	全体に底部から10cm程でオーバーハング。
145	9-P-05	不整円形	径0.85	逆台形	0.10	
146	9-P-05	不整形	1.40×1.10	フラスコ型	0.20	西壁から東壁にかけてオーバーハング。
147	9-P-19	楕円形	0.90×0.80	フラスコ型	0.38	全体に底部から5cm程でオーバーハング。
148	9-P-18	不整円形	径0.20	フラスコ型	0.35	全体に底部から20cm程でオーバーハング。
149	9-P-13	楕円形	1.05×0.90	逆台形	0.15	
150	9-P-14	円　形	径0.50	U字型	0.80	

第12表　縄文土坑一覧表(4)

番号	ｸﾞﾘｯﾄﾞ	平面形	規模(長軸×短軸)m	断面形	深さm	備　　考
151	9-P-09	円　形	径0.75	フラスコ型	0.32	全体に底部から5cm程でオーバーハング。
152	9-P-08	不整長方形	0.70×0.50	逆台形	0.22	
153	9-P-08	円　形	径1.00	フラスコ型	0.30	北壁から南壁にかけてオーバーハング。
154	9-P-08	不整長方形	0.65×0.50	逆台形	0.20	
155	9-P-17	不整長方形	1.05×0.85	フラスコ型	0.30	西壁から南壁にかけてオーバーハング。
156	10-P-01	方　形	径0.80	V字型	0.35	
157	10-O-05	不整長方形	1.45×1.15	逆台形	0.30	
158	9-P-07	不整円形	径0.45	U字型	0.15	
159	9-P-07	不整円形	径0.85	U字型	0.40	
160	9-P-07	不整方形	一辺1.00	フラスコ型	0.42	全体に底部から20cm程でオーバーハング。
161	11-O-09	不整楕円形	1.70×1.50	逆台形	0.40	
162	11-O-03	不整楕円形	1.00×0.90	逆台形	0.32	
163	9-P-07	不整長方形	0.55×0.45	U字型	0.30	
164	9-P-07	不整方形	一辺1.00	逆台形	0.20	
165	9-P-02	不整円形	径0.45	フラスコ型	0.28	全体に底部から8cm程でオーバーハング。
166	9-P-02	不整楕円形	0.85×0.65	逆台形	0.12	
167	9-P-02	円　形	径1.00	逆台形	0.15	
168	8-P-22	不整長方形	0.80×0.65	U字型	0.25	
169	9-P-02	円　形	径0.65	U字型	0.30	
170	9-P-07	不整楕円形	1.35×1.15	フラスコ型	0.46	全体に底部から12cm程でオーバーハング。
171	9-P-06	不整楕円形	0.90×0.80	フラスコ型	0.40	全体に底部から5cm程でオーバーハング。
172	9-P-06	不整円形	径0.65	U字型	0.25	
173	9-P-06	不整楕円形	1.05×0.90	フラスコ型	0.50	全体に底部から10cm程でオーバーハング。
174	9-P-08	方　形	一辺0.40	U字型	0.22	
175	9-O-15	不整楕円形	0.90×0.80	V字型	0.30	西壁にテラスを有する。
176	9-P-11	円　形	径0.65	逆台形	0.15	
177	10-O-24	不整楕円形	1.25×1.15	フラスコ型	0.52	全体に底部から15cm程でオーバーハング。
178	10-O-25	不整楕円形	0.65×0.55	逆台形	0.15	
179	10-O-24	方　形	一辺0.55	逆台形	0.25	
180	10-P-09	不整円形	径0.50	U字型	0.25	
181	8-O-25	長方形	0.50×0.40	U字型	0.18	
182	9-O-25	不整円形	径1.10	逆台形	0.20	
183	8-O-24	不整円形	径1.10	フラスコ型	0.35	全体に底部から8cm程でオーバーハング。
184	9-O-09	不整円形	径0.90	U字型	0.25	
185	9-O-14	不整形	0.60×0.45	フラスコ型	0.45	全体に底部から12cm程でオーバーハング。
186	11-O-02	不整円形	径0.85	フラスコ型	0.55	全体に底部から20cm程でオーバーハング。
187	11-O-21	不整長方形	0.60×0.50	逆台形	0.15	
188	11-N-25	円　形	径1.60	逆台形	0.48	
189	11-O-02	不整楕円形	0.40×0.30	U字型	0.25	
190	11-O-02	楕円形	1.05×0.70	U字型	0.40	
191	7-R-24	円　形	径1.05	逆台形	0.35	
192	8-R-03	不整円形	径0.95	U字型	0.20	
193	8-R-03	不整円形	径0.90	逆台形	0.13	
194	7-R-23	不整円形	径0.60	逆台形	0.15	
195	7-R-19	不整円形	径1.00	フラスコ型	0.45	全体に底部から5cm程でオーバーハング。
196	7-R-18	不整楕円形	1.20×0.95	U字型	0.42	
197	7-R-22	円　形	径0.50	フラスコ型	0.26	全体に底部から8cm程でオーバーハング。
198	7-R-19	円　形	径0.40	V字型	0.16	
199	7-R-20	不整円形	径0.60	U字型	0.32	
200	7-R-20	不整長方形	0.65×0.45	U字型	0.20	

第13表　縄文土坑一覧表(5)

番号	ｸﾞﾘｯﾄﾞ	平面形	規模(長軸×短軸) m	断面形	深さ m	備　　考
201	7-R-18	不整円形	径0.45	逆台形	0.15	
202	7-R-18	不整楕円形	0.80×0.65	フラスコ型	0.25	全体に底部から８㎝程でオーバーハング。
203	7-R-13	不整楕円形	1.25×1.00	フラスコ型	0.46	全体に底部から12㎝程でオーバーハング。
204	7-R-13	不整円形	径0.60	逆台形	0.18	
205	7-R-17	楕円形	0.95×0.85	フラスコ型	0.40	全体に底部から15㎝程でオーバーハング。
206	7-R-12	不整楕円形	1.00×0.50	フラスコ型	0.45	全体に底部から15㎝程でオーバーハング。
207	7-R-12	円　形	径0.80	フラスコ型	0.48	全体に底部から20㎝程でオーバーハング。
208	7-R-14	不整円形	径1.00	U字型	0.15	
209	7-R-15	不整楕円形	1.05×0.90	V字型	0.30	
210	7-R-15	不整楕円形	0.90×0.75	逆台形	0.20	
211	7-R-13	楕円形	1.00×0.90	逆台形	0.20	
212	7-R-14	円　形	径0.80	逆台形	0.25	
213	7-R-10	不整円形	径0.55	U字型	0.25	
214	7-R-10	楕円形	0.65×0.55	逆台形	0.10	
215	6-R-12	不整長方形	1.00×0.75	逆台形	0.35	
216	6-R-10	不整楕円形	1.40×1.20	逆台形	0.20	中位にテラスを有する。
217	6-R-20	円　形	径1.20	逆台形	0.32	
218	6-R-20	不整楕円形	1.00×0.90	フラスコ型	0.32	南東壁にオーバーハング。
219	6-R-20	不整円形	径0.65	逆台形	0.30	
220	6-R-25	不整楕円形	0.65×0.50	U字型	0.30	
221	6-R-20	不整楕円形	0.85×0.70	U字型	0.35	
222	7-R-05	不整長方形	0.80×0.65	V字型	0.45	
223	6-R-23	円　形	径0.65	U字型	0.40	
224	7-R-03	円　形	径0.80	U字型	0.15	
225	7-R-08	不整円形	径0.50	U字型	0.25	
226	7-R-08	不整楕円形	0.90×0.80	フラスコ型	0.55	全体に底部から15㎝程でオーバーハング。
227	7-R-07	不整楕円形	1.05×0.95	U字型	0.50	
228	7-R-07	方　形	一辺0.50	フラスコ型	0.35	南壁にオーバーハング。
229	7-R-07	不整円形	径0.70	フラスコ型	0.35	全体に底部から8㎝程でオーバーハング。
230	7-R-07	不整円形	径0.65	逆台形	0.25	
231	7-R-02	不整楕円形	0.60×0.50	逆台形	0.10	
232	7-R-02	不整長方形	0.80×0.55	U字型	0.35	
233	7-R-02	不整方形	一辺0.45	逆台形	0.20	
234	6-R-22	不整円形	径0.60	逆台形	0.25	
235	6-R-22	不整楕円形	1.25×1.05	フラスコ型	0.30	全体に底部から6㎝程でオーバーハング。
236	7-R-01	円　形	径0.80	U字型	0.40	
237	6-R-03	長方形	0.85×0.45	V字型	0.55	陥し穴の可能性あり。
238	7-R-06	円　形	径0.80	フラスコ型	0.35	全体に底部から15㎝程でオーバーハング。
239	7-R-01	不整円形	径0.85	逆台形	0.15	東壁が縄文240号土坑に壊される。
240	7-R-01	不整円形	径1.00	フラスコ型	0.40	全体に底部から10㎝程でオーバーハング。
241	7-R-01	不整楕円形	0.80×0.70	U字型	0.55	
242	6-R-21	不整楕円形	1.15×1.00	フラスコ型	0.50	全体に底部から5㎝程でオーバーハング。
243	6-R-21	不整円形	径0.85	逆台形	0.10	
244	7-R-05	円　形	径1.20	フラスコ型	0.30	全体に底部から5㎝程でオーバーハング。
245	6-Q-25	円　形	径0.60	逆台形	0.40	
246	6-Q-20	円　形	径0.70	逆台形	0.10	
247	6-Q-20	不整円形	径0.70	フラスコ型	0.45	全体に底部から15㎝程でオーバーハング。
248	6-R-11	不整円形	径0.70	逆台形	0.35	
249	6-Q-20	不整方形	一辺0.60	逆台形	0.30	
250	6-R-01	円　形	径1.00	逆台形	0.35	

第14表　縄文土坑一覧表(6)

番号	ｸﾞﾘｯﾄﾞ	平面形	規模(長軸×短軸) m	断面形	深さ m	備　　考
251	5-Q-25	楕円形	0.90×0.80	フラスコ型	0.60	全体に底部から18cm程でオーバーハング。
252	6-Q-04	楕円形	1.40×1.25	フラスコ型	0.52	全体に底部から8cm程でオーバーハング。
253	6-Q-04	楕円形	1.00×0.90	逆台形	0.15	北西壁が縄文254号土坑に壊される。
254	6-Q-04	円　形	径1.30	フラスコ型	0.50	全体に底部から5cm程でオーバーハング。
255	6-Q-20	不整円形	径0.70	逆台形	0.15	
256	6-Q-20	楕円形	1.00×0.85	逆台形	0.50	
257	6-Q-25	方　形	一辺0.60	逆台形	0.25	
258	6-Q-25	楕円形	1.10×1.00	フラスコ型	0.40	全体に底部から10cm程でオーバーハング。
259	7-Q-05	不整円形	径0.50	逆台形	0.15	
260	7-Q-04	不整楕円形	1.20×0.95	V字型	0.40	
261	21-N-01	不整円形	径0.90	逆台形	0.25	
262	21-N-01	不整楕円形	0.75×0.55	U字型	0.50	
263	7-Q-24	円　形	径0.85	逆台形	0.15	
264	6-Q-24	不整円形	径0.80	逆台形	0.10	
265	6-Q-24	不整円形	径0.75	逆台形	0.15	
266	6-Q-24	楕円形	0.70×0.60	逆台形	0.20	
267	6-Q-19	円　形	径0.65	逆台形	0.33	
268	6-Q-19	方　形	一辺0.55	逆台形	0.10	
269	6-Q-19	不整円形	径0.65	逆台形	0.20	
270	6-Q-19	不整円形	径0.70	逆台形	0.10	
271	6-Q-19	方　形	一辺1.20	フラスコ型	0.30	全体に底部から8cm程でオーバーハング。
272	6-Q-14	方　形	一辺0.80	逆台形	0.20	
273	6-Q-14	楕円形	1.25×1.10	フラスコ型	0.32	北壁から西壁にかけてオーバーハング。
274	6-Q-14	楕円形	1.00×0.90	フラスコ型	0.55	全体に底部から8cm程でオーバーハング。
275	6-Q-18	楕円形	0.80×0.60	逆台形	0.25	
276	6-Q-18	不整円形	径0.95	フラスコ型	0.30	西壁から東壁にかけてオーバーハング。
277	6-Q-13	楕円形	1.30×1.20	逆台形	0.18	
278	6-Q-13	不整円形	径0.55	逆台形	0.25	
279	6-Q-13	不整円形	径0.55	U字型	0.15	
280	6-Q-08	不整楕円形	0.90×0.80	逆台形	0.15	
281	7-R-06	楕円形	0.95×0.85	逆台形	0.12	
282	7-R-01	長方形	0.55×0.45	U字型	0.12	
283	6-Q-23	不整円形	径0.45	V字型	0.15	
284	7-Q-13	円　形	径0.85	フラスコ型	0.20	全体に底部から5cm程でオーバーハング。
285	7-Q-08	不整円形	径1.10	フラスコ型	0.35	北壁から西壁にかけてオーバーハング。
286	7-Q-13	不整円形	径0.55	U字型	0.25	
287	7-Q-08	不整円形	径0.60	U字型	0.35	
288	7-Q-07	円　形	径0.60	逆台形	0.20	
289	6-Q-02	円　形	径0.65	U字型	0.35	
290	6-Q-02	不整円形	径0.90	U字型	0.75	
291	6-R-15	楕円形	1.10×1.00	逆台形	0.15	
292	6-R-07	不整円形	0.65×0.55	U字型	0.30	
293	6-R-06	円　形	径0.85	フラスコ型	0.50	東壁がオーバーハング。
294	5-Q-25	不整円形	径0.80	フラスコ型	0.35	西壁から東壁にかけてオーバーハング。
295	6-Q-04	楕円形	1.25×1.15	フラスコ型	0.55	全体に底部から12cm程でオーバーハング。
296	6-Q-03	不整円形	径0.80	逆台形	0.20	
297	5-Q-22	楕円形	1.00×0.90	逆台形	0.30	
298	6-Q-02	円　形	径0.60	逆台形	0.15	
299	7-S-06	不整楕円形	0.55×0.45	U字型	0.20	
300	5-P-25	不整楕円形	0.60×0.50	逆台形	0.20	

第15表　縄文土坑一覧表(7)

番号	ｸﾞﾘｯﾄﾞ	平面形	規模(長軸×短軸) m	断面形	深さ m	備　　考
301	5-P-18	不整円形	径1.15	フラスコ型	0.35	全体に底部から8cm程でオーバーハング。
302	5-P-17	長方形	1.05×0.55	U字型	0.85	
303	5-P-17	不整楕円形	0.60×0.45	U字型	0.30	
304	5-P-22	不整方形	一辺0.65	逆台形	0.15	
305	6-P-08	楕円形	1.20×1.05	逆台形	0.45	
306	6-P-03	不整長方形	1.05×0.65	逆台形	0.30	
307	6-P-04	楕円形	0.55×0.45	U字型	0.40	
308	6-Q-24	不整円形	径0.45	U字型	0.25	
309	7-R-12	円　形	径0.50	U字型	0.35	
310	7-R-17	不整円形	径0.60	逆台形	0.20	
311	7-R-17	楕円形	0.60×0.50	逆台形	0.05	
312	7-R-17	円　形	径1.00	逆台形	0.35	
313	7-R-12	円　形	径0.60	フラスコ型	0.38	全体に底部から12cm程でオーバーハング。
314	7-R-12	不整円形	径0.65	U字型	0.30	
315	7-R-16	不整円形	径1.60	フラスコ型	0.60	全体に底部から15cm程でオーバーハング。
316	7-R-17	不整長方形	1.15×0.85	フラスコ型	0.35	全体に底部から10cm程でオーバーハング。
317	7-R-11	楕円形	0.70×0.60	フラスコ型	0.40	全体に底部から10cm程でオーバーハング。
318	7-R-11	不整長方形	0.70×0.50	U字型	0.45	
319	7-R-11	不整楕円形	0.70×0.60	逆台形	0.15	
320	7-R-11	円　形	径0.50	U字型	0.25	
321	7-R-12	不整円形	径1.00	逆台形	0.20	
322	7-R-07	楕円形	0.70×0.60	逆台形	0.10	
323	7-R-06	不整楕円形	1.05×0.80	フラスコ型	0.35	全体に底部から10cm程でオーバーハング。
324	7-R-12	楕円形	0.65×0.55	U字型	0.15	
325	7-R-06	不整方形	一辺0.65	逆台形	0.20	
326	7-R-16	円　形	径0.55	逆台形	0.18	
327	7-R-16	不整楕円形	0.70×0.50	逆台形	0.12	
328	7-R-06	不整楕円形	1.10×0.95	フラスコ型	0.55	西壁がオーバーハング。
329	7-R-16	不整楕円形	0.80×0.70	逆台形	0.10	
330	7-Q-20	楕円形	0.75×0.65	逆台形	0.20	
331	7-R-22	不整楕円形	1.00×0.75	逆台形	0.15	
332	8-R-09	楕円形	1.15×1.00	フラスコ型	0.35	全体に底部から15cm程でオーバーハング。
333	8-R-08	楕円形	1.50×1.25	逆台形	0.25	
334	8-R-07	楕円形	1.00×0.90	U字型	0.30	
335	8-Q-10	不整長方形	1.10×0.75	逆台形	0.28	
336	8-Q-10	楕円形	0.60×0.50	逆台形	0.15	
337	8-Q-10	不整円形	径1.00	逆台形	0.15	
338	8-Q-05	不整円形	径1.05	フラスコ型	0.38	全体に底部から8cm程でオーバーハング。
339	8-Q-05	楕円形	0.75×0.65	逆台形	0.25	
340	8-Q-05	円　形	径0.85	U字型	0.25	
341	8-Q-05	円　形	径0.60	逆台形	0.20	
342	8-Q-05	不整円形	径0.75	逆台形	0.20	
343	8-Q-10	不整楕円形	0.90×0.80	逆台形	0.20	
344	7-Q-25	楕円形	0.80×0.70	V字型	0.25	
345	7-Q-24	不整方形	一辺0.85	逆台形	0.30	
346	7-Q-24	円　形	径0.60	逆台形	0.25	
347	7-Q-19	不整楕円形	0.80×0.70	逆台形	0.28	
348	7-Q-19	方　形	一辺0.55	逆台形	0.10	
349	7-Q-19	円　形	径0.45	逆台形	0.10	
350	7-Q-14	不整楕円形	0.60×0.50	U字型	0.35	

第16表　縄文土坑一覧表(8)

番号	ｸﾞﾘｯﾄﾞ	平面形	規模(長軸×短軸) m	断面形	深さ m	備　　考
351	7-Q-14	不整方形	一辺0.55	U字型	0.35	
352	7-Q-19	不整楕円形	0.75×0.55	逆台形	0.15	
353	7-Q-14	楕円形	0.65×0.55	逆台形	0.20	
354	7-Q-14	不整円形	径0.55	逆台形	0.20	
355	7-Q-14	不整円形	径0.95	フラスコ型	0.22	全体に底部から5cm程でオーバーハング。
356	7-Q-14	方　形	一辺0.50	逆台形	0.20	
357	7-Q-14	不整楕円形	0.85×0.75	フラスコ型	0.45	全体に底部から12cm程でオーバーハング。
358	7-Q-14	円　形	径0.60	逆台形	0.18	
359	7-Q-14	円　形	径0.75	逆台形	0.26	
360	7-Q-14	不整楕円形	1.30×1.00	逆台形	0.18	
361	7-Q-13	不整長方形	0.80×0.55	逆台形	0.15	
362	7-Q-10	不整長方形	0.65×0.30	U字型	0.80	
363	7-Q-14	不整長方形	0.65×0.30	U字型	0.62	
364	7-Q-17	不整長方形	0.65×0.50	U字型	0.32	
365	7-Q-18	不整円形	径0.55	V字型	0.35	
366	8-Q-15	不整楕円形	0.70×0.60	逆台形	0.30	
367	8-R-11	楕円形	1.40×1.20	フラスコ型	0.35	全体に底部から10cm程でオーバーハング。
368	8-R-11	楕円形	0.65×0.55	逆台形	0.25	
369	8-R-11	楕円形	0.80×0.65	逆台形	0.20	
370	8-Q-15	不整楕円形	1.00×0.75	逆台形	0.20	
371	8-R-11	楕円形	0.95×0.80	フラスコ型	0.40	全体に底部から10cm程でオーバーハング。
372	8-Q-13	不整楕円形	1.10×1.00	フラスコ型	0.25	全体に底部から8cm程でオーバーハング。
373	8-R-11	不整長方形	1.40×0.75	V字型	0.30	
374	8-R-11	不整方形	一辺0.70	U字型	0.40	
375	8-Q-13	楕円形	0.90×0.80	逆台形	0.20	
376	8-Q-13	円　形	径0.50	V字型	0.20	
377	8-Q-13	楕円形	0.85×0.75	逆台形	0.10	
378	8-Q-13	方　形	一辺0.45	U字型	0.22	
379	8-Q-13	不整楕円形	0.80×0.70	逆台形	0.20	
380	8-Q-13	楕円形	0.70×0.60	V字型	0.20	
381	8-Q-12	不整楕円形	1.10×0.95	フラスコ型	0.35	全体に底部から5cm程でオーバーハング。
382	8-Q-12	不整円形	径0.70	逆台形	0.35	
383	8-Q-12	不整方形	一辺1.20	フラスコ型	0.30	北壁から西壁にかけてオーバーハング。
384	8-Q-12	楕円形	0.60×0.50	U字型	0.30	
385	8-Q-07	不整円形	径0.85	逆台形	0.40	
386	8-R-17	不整円形	径0.50	U字型	0.35	
387	8-R-16	不整形	0.60×0.40	逆台形	0.20	
388	9-R-01	不整方形	一辺0.50	U字型	0.45	
389	9-R-01	楕円形	0.90×0.80	フラスコ型	0.45	全体に底部から10cm程でオーバーハング。
390	9-R-12	楕円形	0.80×0.70	U字型	0.30	
391	9-R-05	円　形	径0.85	フラスコ型	0.45	全体に底部から15cm程でオーバーハング。
392	9-R-05	不整楕円形	0.65×0.55	フラスコ型	0.45	南壁にオーバーハング。
393	9-R-05	不整楕円形	0.60×0.50	逆台形	0.35	
394	9-R-05	楕円形	0.80×0.70	逆台形	0.12	
395	9-Q-04	不整円形	径0.95	フラスコ型	0.50	西壁から南壁にかけてオーバーハング。
396	8-Q-20	不整楕円形	1.30×1.10	逆台形	0.35	
397	8-Q-19	不整形	0.75×0.5	逆台形	0.20	
398	8-Q-24	方　形	一辺0.75	U字型	0.45	
399	7-Q-03	不整円形	径1.00	V字型	0.35	
400	7-Q-02	不整円形	径0.75	U字型	0.45	

第17表　縄文土坑一覧表(9)

番号	ｸﾞﾘｯﾄﾞ	平面形	規模(長軸×短軸) m	断面形	深さ m	備　　考
401	8-Q-24	不整楕円形	0.85×0.60	逆台形	0.15	
402	8-Q-23	不整楕円形	1.00×0.80	フラスコ型	0.50	北壁から南壁にかけてオーバーハング。
403	8-Q-23	不整長方形	0.85×0.65	逆台形	0.35	北壁から西壁にかけてオーバーハング。
404	8-Q-24	不整長方形	1.10×0.75	逆台形	0.20	
405	8-Q-25	不整楕円形	1.00×0.80	フラスコ型	0.50	全体に底部から5cm程でオーバーハング。
406	8-Q-23	楕円形	0.90×0.75	逆台形	0.25	
407	8-Q-23	不整楕円形	0.75×0.55	逆台形	0.35	
408	8-Q-23	楕円形	1.15×1.05	フラスコ型	0.50	全体に底部から6cm程でオーバーハング。
409	9-Q-04	不整円形	径0.55	U字型	0.25	
410	9-Q-08	楕円形	0.90×0.80	逆台形	0.45	
411	9-Q-03	楕円形	0.85×0.75	逆台形	0.35	
412	9-Q-03	不整方形	一辺0.70	逆台形	0.30	
413	9-Q-03	不整長方形	0.95×0.80	逆台形	0.45	
414	9-Q-02	不整楕円形	0.80×0.70	逆台形	0.50	
415	9-Q-02	楕円形	0.95×0.80	逆台形	0.35	
416	9-Q-02	不整円形	径0.85	フラスコ型	0.40	全体に底部から10cm程でオーバーハング。
417	9-Q-02	不整円形	径0.65	逆台形	0.20	
418	8-Q-22	不整楕円形	0.60×0.50	逆台形	0.28	
419	8-Q-22	楕円形	0.85×0.70	逆台形	0.25	
420	8-Q-22	不整楕円形	0.85×0.75	逆台形	0.25	
421	9-Q-02	円　形	径0.50	U字型	0.30	
422	9-Q-02	不整円形	径0.80	フラスコ型	0.45	全体に底部から10cm程でオーバーハング。
423	9-Q-02	楕円形	0.80×0.60	逆台形	0.25	
424	9-Q-11	不整楕円形	0.75×0.65	逆台形	0.25	
425	9-Q-06	不整楕円形	0.60×0.50	フラスコ型	0.35	全体に底部から5cm程でオーバーハング。
426	9-Q-06	不整楕円形	1.55×1.30	フラスコ型	0.45	全体に底部から6cm程でオーバーハング。
427	9-Q-02	不整長方形	0.80×0.55	逆台形	0.30	
428	9-Q-02	不整円形	径1.00	フラスコ型	0.35	北壁から南壁にかけてオーバーハング。
429	9-Q-02	円　形	径0.85	フラスコ型	0.40	全体に底部から15cm程でオーバーハング。
430	9-Q-01	不整円形	径0.40	U字型	0.35	
431	8-Q-22	不整円形	径0.50	逆台形	0.20	
432	8-Q-21	円　形	径0.85	逆台形	0.40	
433	9-Q-01	不整円形	径0.50	U字型	0.45	
434	8-Q-21	不整長方形	0.80×0.60	逆台形	0.15	
435	8-P-25	円　形	径0.80	フラスコ型	0.50	全体に底部から15cm程でオーバーハング。
436	8-P-25	不整方形	一辺0.50	U字型	0.25	
437	9-Q-01	円　形	径0.95	逆台形	0.30	
438	8-P-24	不整方形	一辺0.40	フラスコ型	0.35	全体に底部から15cm程でオーバーハング。
439	8-P-24	不整楕円形	0.90×0.80	逆台形	0.20	
440	8-P-24	不整形	1.10×0.60	逆台形	0.40	
441	8-P-24	不整円形	径1.10	逆台形	0.40	
442	9-Q-04	不整方形	一辺0.70	逆台形	0.30	
443	9-Q-04	不整楕円形	1.75×1.05	フラスコ型	0.28	西壁から東壁にかけてオーバーハング。
444	9-Q-04	不整楕円形	1.20×1.10	逆台形	0.15	
445	9-Q-04	円　形	径0.70	逆台形	0.18	
446	9-Q-04	不整楕円形	0.55×0.45	フラスコ型	0.45	全体に底部から5cm程でオーバーハング。
447	9-P-05	円　形	径0.85	逆台形	0.40	
448	9-P-05	不整方形	一辺0.45	U字型	0.25	
449	8-P-25	不整円形	径1.10	フラスコ型	0.60	全体に底部から12cm程でオーバーハング
450	9-P-04	不整方形	一辺0.90	フラスコ型	0.35	全体に底部から12cm程でオーバーハング。

第18表　縄文土坑一覧表(10)

番号	ｸﾞﾘｯﾄﾞ	平面形	規模(長軸×短軸) m	断面形	深さ m	備　　考
451	9-P-05	楕円形	0.70×0.60	逆台形	0.25	
452	9-P-04	円　形	径0.70	U字型	0.45	
453	9-P-04	不整円形	径0.60	逆台形	0.35	縄文452号土坑に壊される。
454	9-P-04	円　形	径0.75	逆台形	0.30	
455	9-P-04	不整円形	径0.80	フラスコ型	0.25	全体に底部から10cm程でオーバーハング。
456	9-P-04	不整楕円形	1.20×1.10	逆台形	0.35	
457	9-P-03	楕円形	1.25×1.15	フラスコ型	0.50	全体に底部から20cm程でオーバーハング。
458	9-P-03	円　形	径1.00	フラスコ型	0.40	全体に底部から12cm程でオーバーハング。
459	8-P-20	不整楕円形	0.45×0.35	U字型	0.30	
460	8-P-15	楕円形	0.75×0.60	逆台形	0.20	
461	8-P-24	円　形	径0.45	逆台形	0.25	
462	8-P-25	楕円形	0.80×0.70	逆台形	0.15	
463	8-Q-17	楕円形	1.20×1.00	逆台形	0.40	
464	8-Q-18	不整円形	径0.90	U字型	0.80	陥し穴の可能性あり。
465	9-R-12	楕円形	0.70×0.60	逆台形	0.25	
466	9-R-01	不整長方形	1.00×0.80	逆台形	0.20	
467	8-Q-14	不整楕円形	0.75×0.60	U字型	0.40	
468	8-Q-14	不整楕円形	0.70×0.55	逆台形	0.30	
469	8-Q-13	不整方形	一辺0.65	逆台形	0.25	
470	8-Q-02	円　形	径0.90	フラスコ型	0.35	全体に底部から6cm程でオーバーハング。
471	8-Q-02	方　形	一辺0.70	逆台形	0.10	
472	8-Q-11	不整楕円形	0.80×0.60	逆台形	0.20	
473	8-Q-07	不整形	0.60×0.50	U字型	0.25	
474	8-R-02	不整長方形	1.10×0.60	逆台形	0.25	
475	7-R-21	不整形	1.20×0.75	逆台形	0.30	
476	7-R-21	不整形	1.95×0.85	逆台形	0.35	
477	8-R-01	不整長方形	1.50×0.90	逆台形	0.40	
478	8-R-01	楕円形	0.80×0.70	逆台形	0.35	
479	8-Q-05	不整方形	一辺0.80	フラスコ型	0.35	北壁から西壁にかけてオーバーハング。
480	8-Q-05	円　形	径1.00	逆台形	0.20	
481	8-Q-10	円　形	径0.75	逆台形	0.25	
482	8-Q-10	不整円形	径0.75	逆台形	0.25	縄文481号土坑に壊される。
483	7-Q-25	不整形	1.50×1.10	フラスコ型	0.40	全体に底部から5cm程でオーバーハング。
484	7-Q-25	楕円形	1.10×0.90	逆台形	0.30	
485	7-Q-25	不整楕円形	0.70×0.55	逆台形	0.20	
486	7-Q-19	不整楕円形	0.85×0.65	U字型	0.30	
487	7-R-12	不整形	0.50×0.45	V字型	0.22	人為的埋土。
488	7-R-12	不整楕円形	1.10×0.95	フラスコ型	0.40	全体に底部から10cm程でオーバーハング。
489	7-R-14	不整形	1.00×0.85	フラスコ型	0.50	全体に底部から10cm程でオーバーハング。
490	8-R-12	不整楕円形	1.00×0.85	フラスコ型	0.35	南壁から西壁にかけてオーバーハング。
491	8-R-12	不整楕円形	0.60×0.50	フラスコ型	0.50	北壁から西壁にかけてオーバーハング。
492	9-R-16	不整方形	一辺0.55	逆台形	0.10	
493	9-Q-10	不整円形	径0.45	逆台形	0.25	
494	9-Q-15	円　形	径0.35	逆台形	0.15	
495	9-Q-15	不整楕円形	0.55×0.45	U字型	0.28	
496	9-Q-14	不整形	0.50×0.40	逆台形	0.30	
497	8-Q-22	不整円形	径0.45	逆台形	0.20	
498	8-P-19	不整長方形	0.70×0.50	逆台形	0.20	
499	9-Q-05	円　形	径0.55	逆台形	0.22	
500	9-R-06	不整長方形	0.80×0.55	逆台形	0.30	

第19表　縄文土坑一覧表(11)

番号	ｸﾞﾘｯﾄﾞ	平面形	規模(長軸×短軸) m	断面形	深さ m	備　　考
501	8-Q-21	楕円形	0.95×0.85	逆台形	0.28	
502	8-P-25	方　形	一辺0.85	逆台形	0.40	
503	9-P-05	不整長方形	0.75×0.55	逆台形	0.35	
504	9-P-05	方　形	一辺0.60	U字型	0.30	
505	9-P-05	不整楕円形	0.60×0.50	U字型	0.30	
506	9-P-05	不整楕円形	0.70×0.60	逆台形	0.15	
507	8-P-24	楕円形	0.80×0.70	フラスコ型	0.50	全体に底部から5cm程でオーバーハング。
508	9-Q-03	円　形	径0.80	逆台形	0.20	
509	8-Q-23	不整楕円形	1.15×1.00	フラスコ型	0.45	全体に底部から10cm程でオーバーハング。
510	8-Q-23	不整楕円形	0.90×0.80	逆台形	0.35	
511	8-Q-23	不整長方形	1.05×0.80	逆台形	0.25	
512	8-Q-23	不整形	0.85×0.55	逆台形	0.15	
513	8-Q-22	円　形	径0.80	逆台形	0.15	
514	8-Q-22	円　形	径0.60	逆台形	0.32	
515	7-Q-15	不整長方形	1.20×0.85	逆台形	0.15	
516	8-Q-22	方　形	一辺0.60	逆台形	0.26	
517	8-Q-14	不整楕円形	0.75×0.65	逆台形	0.15	
518	8-Q-13	円　形	径0.65	逆台形	0.20	
519	7-O-15	不整長方形	1.20×0.85	逆台形	0.12	
520	8-P-06	不整円形	径0.50	逆台形	0.20	
521	8-O-09	不整楕円形	1.10×0.95	フラスコ型	0.30	南壁から西壁にかけてオーバーハング。
522	8-P-19	不整長方形	0.60×0.40	逆台形	0.15	
523	9-Q-03	不整形	0.50×0.35	逆台形	0.22	
524	8-P-24	不整円形	径0.70	フラスコ型	0.25	全体に底部から5cm程でオーバーハング。
525	8-Q-19	不整楕円形	0.65×0.55	逆台形	0.15	
526	8-P-19	不整円形	径0.55	逆台形	0.32	
527	8-Q-08	不整楕円形	0.50×0.40	逆台形	0.30	
528	8-Q-13	不整円形	径0.45	逆台形	0.15	
529	8-Q-13	不整楕円形	1.25×1.00	逆台形	0.25	
530	8-Q-18	円　形	径0.45	逆台形	0.30	
531	8-Q-18	不整円形	径0.40	逆台形	0.10	
532	8-Q-17	円　形	径0.45	U字型	0.20	
533	8-Q-17	不整円形	径0.40	V字型	0.18	
534	8-Q-25	不整方形	一辺0.50	逆台形	0.22	
535	8-R-16	不整長方形	1.50×1.20	フラスコ型	0.45	北壁から東壁にかけてオーバーハング。
536	8-O-16	不整形	0.80×0.50	逆台形	0.15	
537	8-Q-16	不整形	0.85×0.55	逆台形	0.22	
538	8-Q-09	不整楕円形	0.50×0.40	逆台形	0.20	
539	8-Q-09	不整楕円形	0.55×0.45	逆台形	0.30	
540	8-Q-09	不整円形	径0.65	逆台形	0.20	
541	8-R-02	楕円形	0.50×0.40	逆台形	0.22	
542	7-Q-03	楕円形	0.70×0.60	逆台形	0.35	
543	7-Q-09	楕円形	0.90×0.80	逆台形	0.30	東壁を縄文6号住居跡と重複。
544	7-Q-09	不整方形	一辺0.80	逆台形	0.40	南東壁を縄文6号住居跡と重複。
545	9-Q-06	楕円形	0.80×0.70	逆台形	0.42	
546	5-H-25	不整楕円形	0.85×0.65	U字型	0.85	
547	5-H-06	不整形	2.60×1.20	逆台形	0.35	
548	5-G-19	不整形	0.70×0.60	逆台形	0.40	
549	5-G-12	不整長方形	1.75×0.85	逆台形	0.92	
550	4-G-19	不整形	2.70×1.55	逆台形	0.45	

第20表　縄文土坑一覧表(12)

番号	ｸﾞﾘｯﾄﾞ	平面形	規模(長軸×短軸) m	断面形	深さ m	備　　考
551	4-G-13	不整方形	一辺0.85	フラスコ型	0.55	全体に底部から18㎝程でオーバーハング。
552	欠　番					
553	3-H-12	不整形	1.65×0.85	逆台形	0.20	
554	3-Q-22	円　形	径1.10	逆台形	0.25	

2－1．土坑出土土器

縄文1号土坑(第53図、PL68)

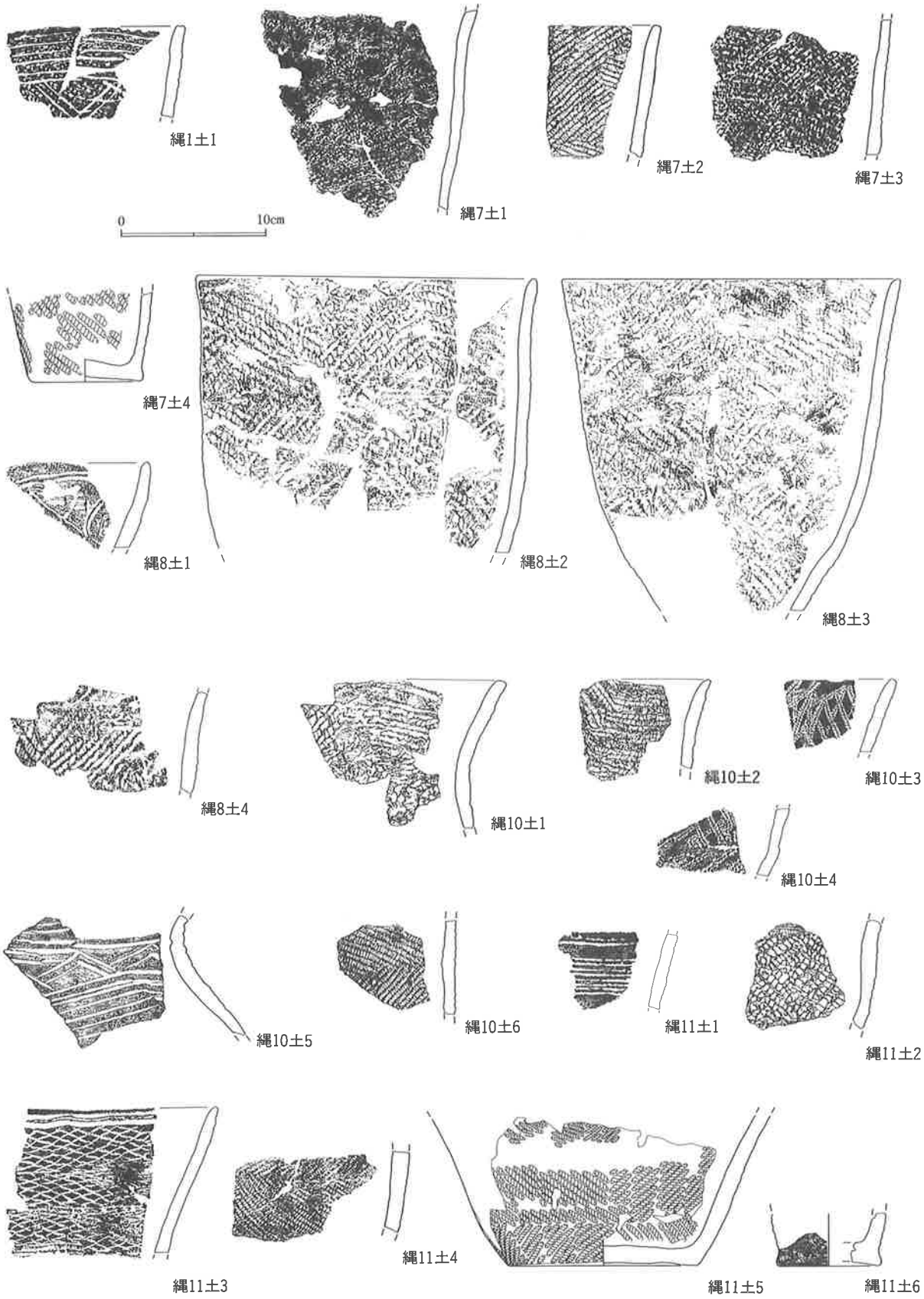
1は口縁部破片である。深鉢と思われ、器壁はほぼ直立する。遺存高6.4㎝、器厚0.8㎝程を測る。外面暗褐色、内面黒褐色を呈し、焼成は良好でやや堅い。胎土には多量の繊維と細粒砂が混入されている。文様は縄文(単節R-LL原体)に平行沈線を横位に重ねて配す。内面は比較的丁寧に磨かれ、口唇部断面は平坦に整形されている。黒浜式。

縄文7号土坑(第53図、PL68･69)

1は胴部破片で、外･内面ともに橙褐色を呈し、焼成は悪く脆い。胎土には多量の繊維と砂礫が混入されている。文様は単節L-RR縄文。内面は丁寧に磨かれている。黒浜式。**2**は胴部破片で、深鉢と思われる。器壁はほぼ直立し、遺存高9㎝、器厚0.7㎝程を測る。外･内面ともに暗褐色を呈し、焼成は悪くやや脆い。胎土には多量の繊維と少量の砂礫が混入されている。文様は菱形羽状縄文で、原体は無節。内面は粗く磨かれている。黒浜式。**3**は胴部破片で、外･内面ともに橙褐色を呈し、焼成は悪くやや脆い。胎土には多量の繊維と砂礫が混入されている。文様は菱形羽状縄文で、原体は無節。内面は粗く磨かれている。黒浜式。**4**は胴部下位～底部破片である。やや上げ底を呈し、底径8㎝、遺存高6㎝、器厚0.6～1㎝程を測る。外･内面ともに褐色を呈し、焼成は悪く脆い。胎土には多量の繊維と少量の砂礫が混入されている。文様は単節R-LL縄文。内･底面は粗く磨かれている。黒浜式。

縄文8号土坑(第53図、PL68･69)

1は甕の口縁部と思われる。口唇部はほぼ直立し、器壁はやや外反する。焼成は悪く脆い。胎土には少量の繊維と砂礫が混入されている。文様は沈線を不規則に配す。内面は粗く磨かれ、口唇部断面は丸く整形されている。黒浜式。**2**は深鉢の口縁部～胴部中位である。口唇部は弱く外反し、胴部は下方にやや内湾して窄まる。口径23.5㎝、胴部最小径20㎝、遺存高18.7㎝、器厚0.7～0.9㎝程である。外･内面ともに褐色を呈し、両面には疎らに煤が付着している。焼成は悪くやや脆い。胎土には多量の繊維と砂礫が混入されている。文様は菱形羽状縄文で原体は無節。内面は比較的丁寧に磨かれ、口唇部断面は丸く整形されている。黒浜式。**3**は深鉢の口縁部～胴部下位である。口縁部は外斜し、胴部は下方にやや内湾して窄まる。口径23㎝、胴部最小径9.8㎝、遺存高22.9㎝、器厚0.6～0.9㎝程である。外面暗褐色～橙褐色、内面暗褐色を呈し、口縁部内面には少量の煤が付着している。焼成は悪く脆い。胎土には多量の繊維と少量の砂礫が混入されている。文様は矢羽形羽状縄文で原体は単節。内面は粗く磨かれ、口唇部断面は丸く整形されている。黒浜式。**4**は胴部破片である。焼成は悪く脆い。胎土には多量の繊維と砂礫が混入されている。文様は無節L-rr縄文。内面は粗く磨かれている。黒浜式。



第53図　縄文1·7·8·10·11号土坑出土土器

縄文10号土坑(第53図、PL68)

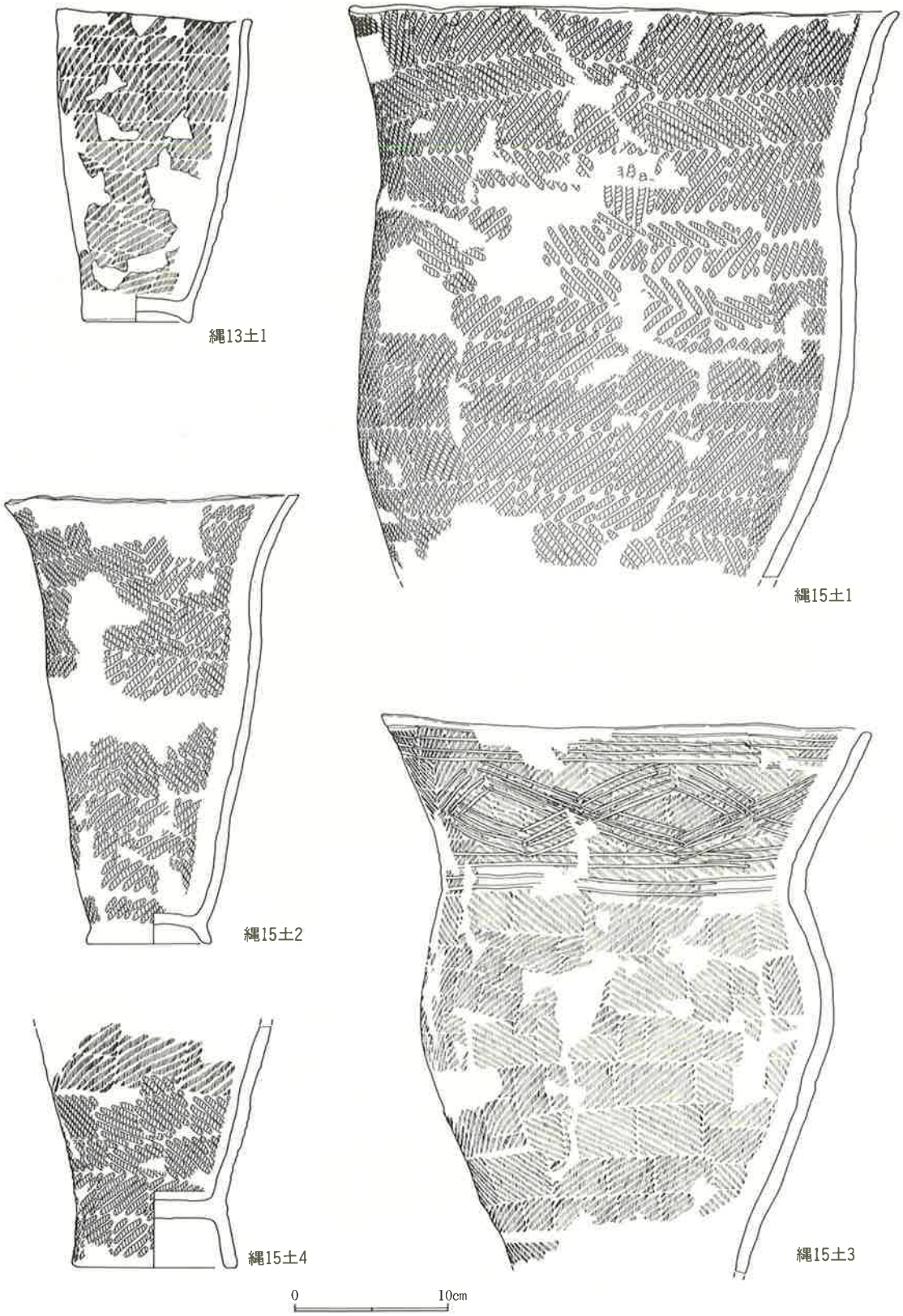
1は甕の口縁部～頸部破片と思われる。口縁部は外反し、焼成は悪くやや脆い。胎土には多量の繊維と微量の砂礫が混入されている。文様は菱形羽状縄文で、原体は単節。内面は比較的丁寧に磨かれている。黒浜式。**2**は深鉢の口縁部破片と思われる。口唇部は僅かに外反する。外面橙褐色、内面暗褐色を呈し、外面には煤が多量に付着している。焼成は悪く脆い。胎土には多量の繊維と細粒砂が混入されている。文様は矢羽形羽状縄文で、原体は単節。内面は比較的丁寧に磨かれ、口唇部は丸く整形されている。黒浜式。**3**は深鉢の口縁部破片と思われる。器壁は外斜する。外面暗赤褐色、内面赤褐色を呈し、焼成は悪く脆い。胎土には少量の砂礫が混入されている。文様は２条１単位の撚糸文を斜格子状に配す。内面は粗く磨かれ、口唇部は丸く整形されている。諸磯式。**4**は胴部破片で、外面には煤が少量付着している。焼成は悪く脆い。胎土には少量の砂礫が混入されている。文様は２条１単位の撚糸文を横位･斜格子状に配す。内面は粗く磨かれている。諸磯式。**5**は甕の頸部破片と思われる。器壁は強く括れ、外面灰褐色、内面赤褐色を呈し、外面には煤が少量付着している。焼成は良好でやや堅い。胎土には多量の繊維と少量の砂礫が混入されている。文様は平行沈線文を横位･斜行･山形に配す。内面は比較的丁寧に磨かれている。有尾式。**6**は胴部破片で、外･内面ともに橙褐色を呈し、両面には煤が疎らに付着している。焼成は良好でやや堅い。胎土には多量の繊維と砂礫が混入されている。文様は矢羽形羽状縄文で、原体は単節。内面は粗く磨かれている。黒浜式。

縄文11号土坑(第53図、PL68)

1は胴部破片。焼成は良好で堅い。胎土には少量の砂礫が混入されている。文様は平行沈線を横位に配す。内面は丁寧に磨かれている。諸磯ｂ式。**2**も胴部破片で、焼成は良好でやや堅い。胎土には多量の繊維と砂礫が混入されている。文様は菱形羽状縄文で原体は単節。内面は比較的丁寧に磨かれている。黒浜式。**3**は口縁部破片である。器壁は外斜し、遺存高10㎝、器厚0.5～0.9㎝程を測る。外面橙褐色、内面灰褐色を呈し、両面には煤が少量付着している。焼成は良好でやや堅い。胎土には多量の繊維と砂礫が混入されている。文様は撚糸文を斜格子状に配し、口唇部には平行沈線を横位に配す。内面は比較的丁寧に磨かれ、口唇部は丸く整形されている。大木Ⅱａ式。**4**は胴部破片。焼成は悪くやや脆い。胎土には多量の繊維と砂礫が混入されている。文様は矢羽形羽状縄文で、原体は単節。内面は比較的丁寧に磨かれている。黒浜式。**5**は甕の胴部下位～底部と思われる。胴部はかなり外斜し、底はほぼ平底を呈す。最大径23.8㎝、底径13㎝、遺存高10.5㎝、器厚1～1.2㎝程を測る。外･内面ともに橙褐色を呈し、焼成は良好でやや堅い。胎土には多量の繊維と砂礫が混入されている。文様は矢羽形羽状縄文で原体は単節。内･底面は粗く磨かれている。黒浜式。**6**は底部破片で、やや上げ底を呈す。底径7.2㎝、器厚1～1.4㎝程を測る。焼成は悪く脆い。胎土には多量の繊維と少量の砂礫が混入されている。文様は無節L-rr縄文。内･底面ともにやや丁寧に磨かれている。黒浜式。

縄文13号土坑(第54図、PL69)

1は深鉢で完形に近い。口唇部は僅かに外反し、胴部は下方にやや内湾して窄まる。底はやや上げ底を呈す。口径12.7㎝、底径7㎝、器高20.2㎝、器厚0.5㎝程を測る。外面暗褐色～赤褐色、内面褐色を呈し、内面全体には多量の煤が付着している。焼成は良好でやや堅い。胎土には多量の繊維と少量の砂礫が混入されている。文様は無節L-rr縄文。内･底面ともに丁寧に磨かれ、口唇部断面は平坦に整形されている。黒浜式。



第54図　縄文13·15号土坑出土土器

第55図　縄文20·26·49·60号土坑出土土器

縄文15号土坑(第54図、PL69)

1は甕で底部を欠損している。口縁部は弱く外反し、胴部は僅かに張る。口径35.7㎝、頸部径30.5㎝、胴部最大径32.1㎝、遺存高35.6㎝、器厚0.5～1.1㎝を測る。外面褐色、内面白褐色を呈し、両面には少量の煤が付着している。焼成は悪く脆い。胎土には多量の繊維と砂礫が混入されている。文様は矢羽形羽状縄文で、原体は無節。内面は粗く磨かれ、口唇部断面は丸く整形されている。黒浜式。**2**は深鉢で完形に近い。口縁部はやや外反し、胴部上位は僅かに張る。底は上げ底で高台状を呈す。口径19.3㎝、底径8.2㎝、遺存高20.2㎝、器厚0.5～0.7㎝程を測る。外面暗褐色～赤褐色、内面横褐色を呈し、外面には煤が多量に付着している。焼成は悪く脆い。胎土には多量の繊維と少量の砂礫が混入されている。文様は矢羽形羽状縄文で、原体は単節。内·底面ともに比較的丁寧に磨かれ、口唇部断面は平坦に整形されている。黒浜式。**3**は甕で底部を欠損している。口縁部は強く外反し、胴部は弱く張る。口径32㎝、頸部径23.6㎝、胴部最大径26.8㎝、遺存高35.7㎝、器厚0.7～1.2㎝を測る。外面暗褐色～赤褐色、内面褐色を呈し、口縁部·胴部中位外面·胴部下位内面には煤が付着している。焼成は悪くやや脆い。胎土には多量の繊維と少量の砂礫が混入されている。文様は菱形羽状縄文で、原体は無節であるが、口縁部においてはさらに4条1単位の平行沈線による横位文·菱形文を重ねて配す。内面は粗く磨かれ、口唇部断面は平坦に整形されている。有尾式。**4**は深鉢の胴部下位～底部である。胴部はやや外斜し、底は上げ底で高台状を呈す。最大径15.2㎝、底径10.7㎝、遺存高15.5㎝、器厚0.7～1.1㎝程を測る。外·内面ともに赤褐色を呈し、底部内面には少量の煤が付着している。焼成は良好でやや堅い。胎土には多量の繊維と砂礫が混入されている。文様は羽状縄文で、原体は無節L-rrを上方に、単節R-LL·L-RRを下方に乱雑に配す。内·底面ともに粗く磨かれている。黒浜式。

縄文20号土坑(第55図、PL69)

1は胴部破片。外面明褐色、内面暗褐色を呈し、焼成は良好でやや堅い。胎土には多量の繊維と微量の砂礫が混入されている。文様は縄文(無節L-rr原体)に平行沈線による横位文·斜行文を重ねて配す。内面は比較的丁寧に磨かれている。有尾式。**2**も胴部破片。焼成は良好でやや堅い。胎土には多量の繊維と少量の砂礫が混入されている。文様は半截竹管による連続爪形文で、斜行·ループ状に配す。内面は丁寧に磨かれている。諸磯b式。**3**も胴部破片。内面には煤が全体に付着している。焼成は悪く脆い。胎土には多量の繊維と細粒砂が混入されている。外面には縄文の痕跡を残すが、風化が著しく詳細は不明である。内面は粗く磨かれている。黒浜式。**4**は底部破片で、平底を呈す。底径9㎝、器厚1～1.2㎝程を測る。外面赤褐色、内面黒褐色を呈し、焼成は悪くやや脆い。胎土には多量の繊維と微量の砂礫が混入されている。文様は単節L-RR縄文。内面は粗く、底面は比較的丁寧に磨かれている。黒浜式。**5**は深鉢の胴部中位～底部と思われる。器壁は外斜し、やや上げ底を呈す。最大径18.9㎝、底径8.6㎝、遺存高16㎝、器厚0.6～1.2㎝程を測る。焼成は良好でやや堅い。胎土には多量の繊維と砂礫が混入されている。文様は無節R-ℓℓ縄文。内面は粗く、底面は丁寧に磨かれている。黒浜式。

縄文26号土坑(第55図、PL69)

1は胴部破片。焼成は悪く脆い。胎土には多量の繊維と細粒砂が混入されている。文様は単節L-RR縄文。内面は粗く磨かれている。黒浜式。**2**も胴部破片。外面横褐色、内面暗褐色を呈し、焼成は悪く脆い。胎土には多量の繊維と少量の砂礫が混入されている。文様は無節L-rr縄文。内面は粗く磨かれている。黒浜式。**3**は深鉢の胴部下位～底部である。器壁は外斜し、やや上げ底を呈す。底径9.5㎝、遺存高9㎝、器厚0.9～1.4㎝程を測る。外·内面ともに橙褐色を呈し、焼成は良好でやや堅い。胎土には多量の繊維と少量の砂礫が混入されている。文様は縄文で、原体は無節R-ℓℓ縄文。内面は粗く、底面は丁寧に磨かれ一部に網代痕を残す。

黒浜式。4は甕で、口唇部を欠損している。口縁部はやや外反し、胴部は僅かに張る。底はやや上げ底を呈す。頸部径20.3㎝、胴部最大径21.3㎝、底径9.6㎝、遺存高28.5㎝、器厚0.9～0.5㎝程を測る。外·内面ともに赤褐色を呈し、頸部外面には多量の煤が付着している。焼成は悪く脆い。胎土には多量の繊維と少量の砂礫が混入されている。文様は縄文で、単節R-LL·L-RRを乱雑に配す。内·底面は粗く磨かれている。黒浜式。

縄文49号土坑(第55図、PL70)

1は甕で、底部を欠損している。口縁部は強く外反し、胴部は僅かに張る。口径24.5㎝、頸部径17.3㎝、胴部最大径18㎝、遺存高24.4㎝、器厚0.5～0.7㎝程を測る。外面暗褐色～赤褐色、内面赤褐色～暗褐色を呈し、焼成は悪くやや脆い。胎土には多量の繊維と砂礫が混入されている。文様は口縁部に平行沈線を横位·山形に配し、胴部に縄文(単節L-RR原体)を配す。内·底面は粗く磨かれており、口唇部断面は丸く整形されている。有尾式。

縄文60号土坑(第55図)

1·2ともに口縁部破片である。1は深鉢の口縁部破片である。口唇部はやや外反し、遺存高14.6㎝程を測る。外面には煤が少量付着している。焼成は悪く脆い。胎土には多量の繊維と少量の砂礫が混入されている。文様は縄文で、原体は単節L-RR·R-LLを交互に配す。内面は比較的粗く磨かれており、口唇部断面は丸く仕上げられている。黒浜式。2は深鉢の口縁部破片と思われる。器壁はほぼ直立し、焼成は良好で堅い。胎土には多量の繊維と少量の砂礫が混入されている。文様は平行沈線を横位に配す。内面は丁寧に磨かれている。有尾式。

縄文61号土坑(第56図)

1は胴部破片。外面黄褐色、内面暗褐色を呈し、外面には煤が多量に付着している。焼成は悪くやや脆い。胎土には少量の砂礫が混入されている。文様は撚糸文を斜格子状に配す。内面はやや丁寧に磨かれている。大木Ⅱａ式。2も胴部破片。外面橙褐色を呈し、内面には煤が全面に付着している。焼成は良好でやや堅い。胎土には多量の繊維と少量の細粒砂が混入されている。文様は縄文(単節R-LL原体)に重ねて平行沈線を波状に配す。内面は粗く磨かれている。黒浜式。

縄文63号土坑(第56図、PL70)

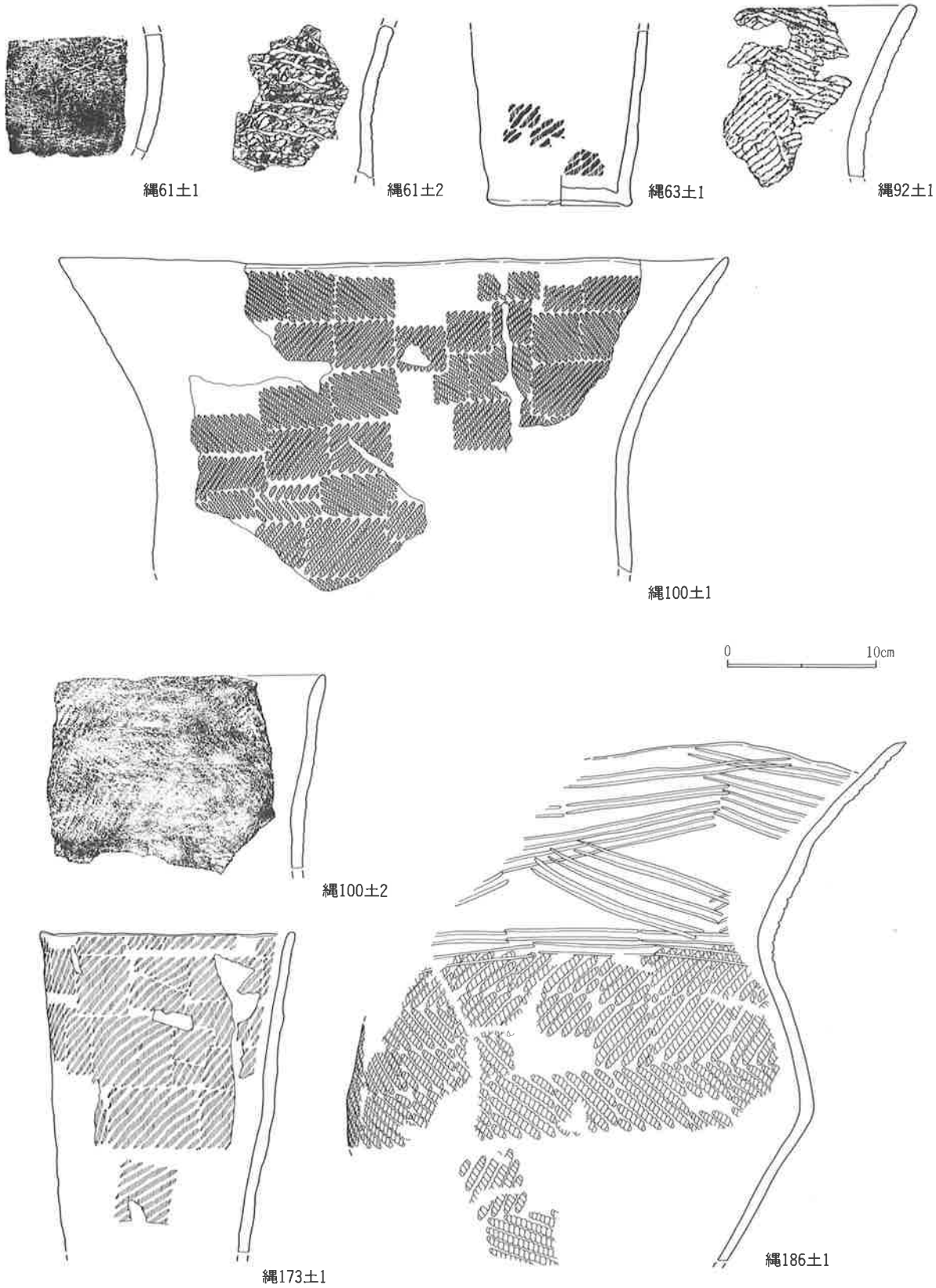
1は深鉢胴部下位～底部である。器壁はほぼ直立し、やや上げ底を呈す。底径9.5㎝、遺存高11.7㎝、器厚0.7～0.9㎝程を測る。内面には煤が疎らに付着している。焼成は悪く脆い。胎土には多量の繊維と少量の砂礫が混入されている。文様は縄文で、原体は無節L-rr。内·底面は粗く磨かれている。黒浜式。

縄文92号土坑(第56図)

1は甕の口縁部破片。器壁は弱く外反する。内面には疎らに煤が付着している。焼成は悪く脆い。胎土には多量の繊維と少量の砂礫が混入されている。文様は菱形羽状縄文で、原体は無節。内面は丁寧に磨かれ、口唇部断面は丸く整形されている。黒浜式。

縄文100号土坑(第56図、PL70)

1は深鉢の口縁部～頸部である。口縁部は強く外反し、頸部は弱く括れる。口径45㎝、頸部径30.9㎝、遺存高20.9㎝、器厚0.8～1㎝程を測る。外·内面ともに黄褐色を呈し、頸部内面には多量の煤が付着している。焼成は悪くやや脆い。胎土には多量の繊維と砂礫が混入されている。文様は矢羽形羽状縄文で、原体は単節。内面は粗く磨かれ、口唇部断面は丸く整形されている。黒浜式。2は深鉢の口縁部破片と思われる。器壁はほぼ直立し、遺存高12.9㎝、器厚0.8～1㎝程を測る。内面には多量の煤が付着している。焼成は悪く脆い。胎土には多量の繊維と砂礫が混入されている。文様は菱形羽状縄文で、原体は無節。内面は丁寧に磨かれ、



第56図　縄文61·63·92·100·173·186号土坑出土土器

第57図　縄文203·226·242·258·405号土坑出土土器

口唇部断面は丸く整形されている。黒浜式。

縄文173号土坑(第56図、PL70)

1は深鉢で、底部を欠損している。器壁は僅かに外斜する。口径17.1㎝、遺存高21.5㎝、器厚0.6～0.9㎝程を測る。外面暗褐色～褐色、内面暗褐色を呈し、胴部下位内面には少量の煤が付着している。焼成は悪くやや脆い。胎土には多量の繊維と少量の砂礫が混入されている。文様は無節L-rr縄文。内面は粗く磨かれ、口唇部断面は平坦に整形されている。黒浜式。

縄文186号土坑(第56図、PL70)

1は甕の口縁部～胴部下位である。口縁部は強く外反し、胴部も強く張る。口径40㎝、頸部径14.6㎝、胴部最大径31.5㎝、遺存高35.3㎝、器厚0.6～1.1㎝程を測る。外·内面ともに橙褐色を呈し、頸部外面には少量の煤が付着している。焼成は悪くやや脆い。胎土には多量の繊維と砂礫が混入されている。文様は口縁部に平行沈線を横位·山形に配し、胴部には矢羽形羽状縄文(原体単節)をやや乱雑に配す。内面は丁寧に磨かれ、口唇部断面は平坦に整形されている。有尾式。

縄文203号土坑(第57図、PL70)

1は甕で、底部を欠損している。口縁部は強く外斜し、胴部は弱く張る。口径20.8㎝、頸部径16.2㎝、胴部最大径17.8㎝、遺存高22.1㎝、器厚0.5～1㎝程である。外面暗褐色～赤褐色、内面赤褐色を呈し、内面には縦に煤が付着している。焼成は悪くやや脆い。胎土には多量の繊維と砂礫が混入されている。文様は口縁部に半截竹管による連続爪形文を横位·菱形に配し、胴部に菱形羽状縄文(原体単節)。内面は粗く磨かれ、口唇部断面は丸く整形されている。黒浜式。

縄文226号土坑(第57図、PL70)

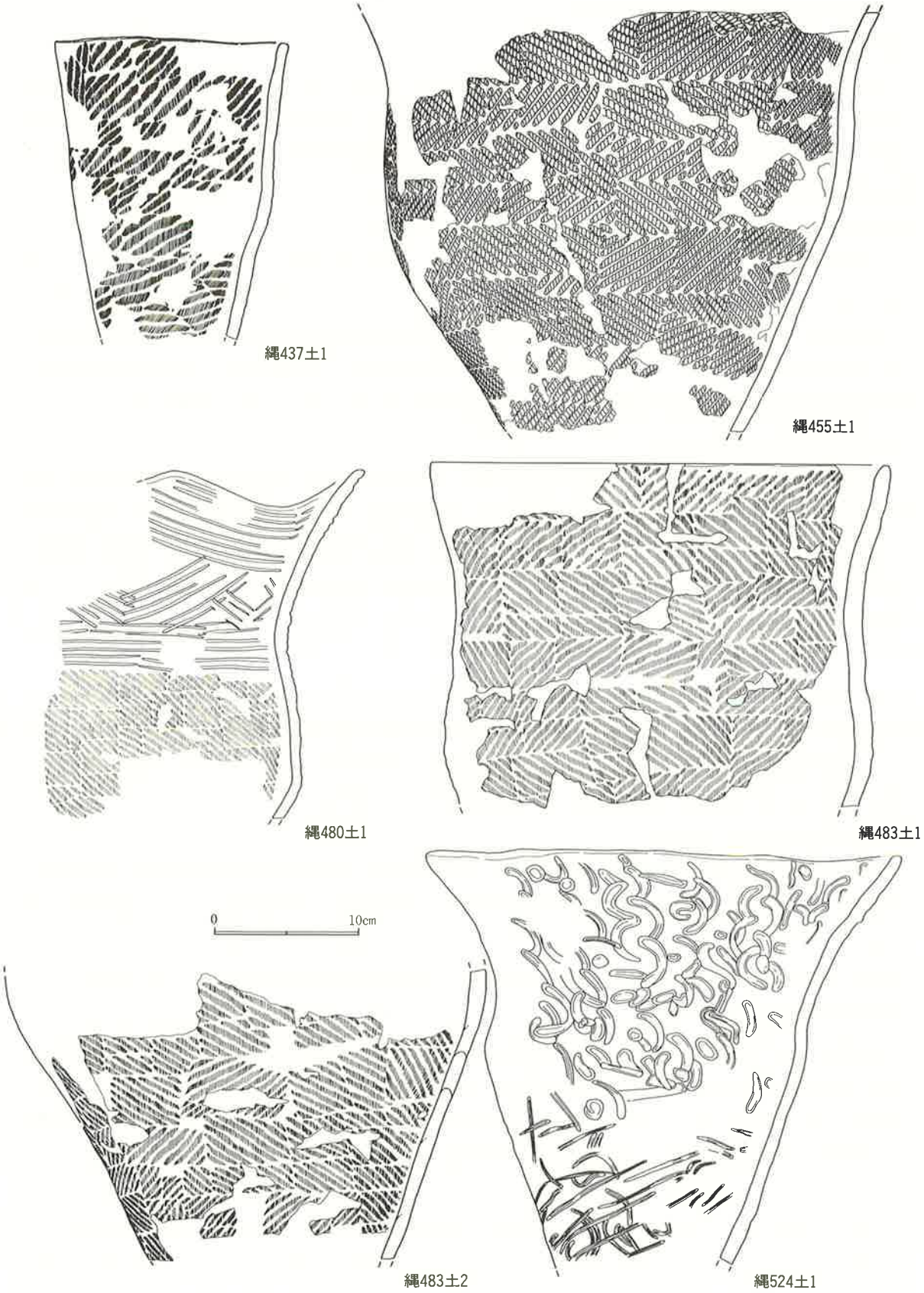
1は深鉢で、底部を欠損している。口唇部はやや外反し、胴部は僅かに湾曲して窄まる。口径25.4㎝、最小径14.4㎝、遺存高25.3㎝程である。外面暗褐色～赤褐色、内面赤褐色を呈し、内面には縦に煤が付着している。焼成は比較的良好でやや堅い。胎土には多量の繊維と少量の砂礫が混入されている。文様は無節R-ℓℓ縄文。内面は丁寧に磨かれ、口唇部断面は丸く整形されている。黒浜式。

縄文242号土坑(第57図、PL70)

1は甕で、底部を欠損している。口唇部は直立し、口縁部は強く外斜し、胴部は僅かに張る。口径24.9㎝、頸部径14.7㎝、胴部最大径15.1㎝、遺存高18.5㎝程である。外面暗褐色、内面橙褐色を呈し、口縁部内面には少量の煤が付着。焼成は比較的良好でやや堅い。胎土には多量の繊維と少量の砂礫が混入されている。文様は２条１単位の撚糸文を斜めに配す。内面は粗く磨かれ、口唇部断面は丸く整形されている。黒浜式。

縄文258号土坑(第57図、PL70)

1は深鉢で、底部を欠損している。口縁部は外反し、胴部は緩やかに湾曲して窄まる。口径28㎝、遺存高28㎝、器厚0.5～1㎝程を測る。外面暗褐色～赤褐色、内面赤褐色を呈し、両面には疎らに煤が付着している。焼成は良好でやや堅い。胎土には多量の繊維と砂礫が混入されている。文様は矢羽形羽状縄文で、原体は無節。内面はやや丁寧に磨かれ、口唇部断面は平坦に整形されている。黒浜式。**2**は深鉢で、口唇部を欠損している。口縁部はやや外反し、胴部は弱く張る。底はやや上げ底を呈す。胴部最大径25.5㎝、底径10㎝、遺存高30.7㎝、器厚0.9～1.5㎝程を測る。外面橙褐色、内面白灰褐色を呈し、口縁部外面·胴部中位内面には多量の煤が付着している。焼成は良好でやや堅い。胎土には多量の繊維と砂礫が混入されている。文様は矢羽形羽状縄文で、原体は単節。内面はやや丁寧に磨かれている。黒浜式。



第58図　縄文437·455·480·483·524号土坑出土土器

縄文405号土坑(第57図、PL71)

1は深鉢で、底板を欠損する。器壁は直線的に窄まり、口縁部中央には小孔が穿たれている。口径28.8㎝、底径12㎝、器高34.6㎝、器厚0.9～1.5㎝程を測る。外･内面ともに褐色を呈し、内面には煤が疎らに付着している。焼成は比較的良好でやや堅い。胎土には多量の繊維と少量の砂礫が混入されている。文様は菱形羽状縄文(原体無節)と、重ねて単節L-RR縄文を疎らに配す。内面は丁寧に磨かれ、口唇部断面は平坦に整形されている。黒浜式。

縄文437号土坑(第58図、PL71)

1は深鉢で、底部を欠損している。器壁は直線的に窄まる。口径16㎝、遺存高20㎝、器厚0.7～0.9㎝程を測る。外面橙褐色、内面暗褐色を呈し、口縁部外･内面全体には煤が付着している。焼成は悪くやや脆い。胎土には多量の繊維と少量の砂礫が混入されている。文様は無節L-rr縄文。内面は粗く磨かれ、口唇部断面は丸く整形されている。黒浜式。

縄文455号土坑(第58図、PL71)

1は甕で、口唇部･底部を欠損している。口縁部はやや外反し、頸部は僅かに括れる。頸部径32.2㎝、胴部最大径32.2㎝、遺存高28.7㎝、器厚0.9～1.2㎝程を測る。外面暗褐色～橙褐色、内面橙褐色を呈し、内面には縦に煤が付着している。焼成は悪くやや脆い。胎土には多量の繊維と砂礫が混入されている。文様は菱形羽状縄文で、原体は単節。内面は粗く磨かれている。黒浜式。

縄文480号土坑(第58図、PL71)

1は甕で、底部を欠損している。口唇部はキャリパー形を呈す。口縁部は強く外反し、胴部は弱く張る。口径26.5㎝、頸部径17㎝、胴部最大径20㎝、遺存高23.5㎝、器厚0.6～1㎝程を測る。外面暗灰褐色～橙褐色、内面白褐色を呈し、頸部外面には多量の煤が付着している。焼成は良好でやや堅い。胎土には多量の繊維と少量の砂礫が混入されている。文様は口縁部に平行沈線を横位･菱形に配し、胴部に縄文(無節R-ℓℓ原体)を配す。内面はやや丁寧に磨かれ、口唇部断面は丸く整形されている。有尾式。

縄文483号土坑(第58図、PL71)

1は甕で、胴部下位～底部を欠損している。口縁部はやや外反し、口唇部で直立する。胴部は僅かに張る。口径31.5㎝、胴部最大径29.5㎝、遺存高23.5㎝、器厚1～1.3㎝程を測る。外面暗褐色、内面やや赤色がかる褐色を呈し、外面には多量の煤が付着している。焼成は良好でやや堅い。胎土には多量の繊維と砂礫が混入されている。文様は菱形羽状縄文で、原体は無節。内面は粗く磨かれ、口唇部断面は丸く整形されている。黒浜式。**2**は甕の胴部下半である。器壁は強く張る。遺存高19.5㎝、器厚0.8～1㎝程を測る。両面には少量の煤が付着している。焼成良好でやや堅い。胎土には多量の繊維と砂礫が混入されている。文様は羽状縄文で、原体は無節R-ℓℓ･L-rrを雑然と配す。内面は粗く磨かれている。黒浜式。

縄文524号土坑(第58図、PL71)

1は深鉢で、底部を欠損している。口縁部は強く外反し、胴部は僅かに張る。口径32.7㎝、頸部径21.8㎝、胴部最大径22.2㎝、遺存高28.2㎝、器厚0.8～1.1㎝程を測る。外面暗褐色～橙褐色、内面橙褐色を呈し、焼成は悪く脆い。胎土には多量の繊維と砂礫が混入されている。文様は口縁部～胴部中位に結節部による勾玉状文･押圧文を、胴部下位に沈線による斜行文･ループ状文を雑然と配す。内面は粗く磨かれ、口唇部断面は平坦に整形されている。黒浜式の範疇と捉えられるが、詳細不明である。

2－2．土坑出土石器　（　）は、長さ·幅·厚さ·重さの数値で、単位はcm·gを表す。

縄文1号土坑(第59図、PL72)

1は黒色頁岩製の石錐である。つまみ部から錐部までを整形し、作り出す。つまみは角形を呈する(1.9·2.8·0.8·2.9)。**2**は黒色頁岩製の不定形スクレイパーである。剥片を素材とし、加工によって刃部を作り出す(5.4·6.7·1.4·62.5)。

縄文100号土坑(第59図)

1は粗粒輝石安山岩製の凹み石である。平面楕円形を呈する。表裏面に敲打による凹みをもつ。側面には擦痕が認められる(12.0·6.9·3.3·446.1)。

縄文138号土坑(第59図、PL72)

1·2は灰色安山岩製、**3**は黒色頁岩製の打製石斧である。何れも短冊形を呈する。**2**は刃部に筋状の擦痕がある(9.2·4.2·1.6·85.5)(12.9·5.0·1.7·140.8)(7.3·5.5·2.5·99.6)。**4**は黒色頁岩製の石篦である。機能的には、掻器の一種と思われる(9.3·5.9·2.9·140.6)。

縄文195号土坑(第59図、PL72)

1は粗粒輝石安山岩製の凹み石である。表裏·側面に敲打による凹みをもつ(12.0·11.0·7.0·1164.3)。

縄文207号土坑(第59図、PL72)

1は石英閃緑岩製の磨石である。敲打痕が摩耗している。凹み石に近似するが、表裏面の敲打痕が明瞭ではない(10.2·9.8·4.8·699.4)。

縄文315号土坑(第59図、PL72)

1はひん岩製の磨石である。表裏面に敲打痕が認められたものの、あまり明瞭でなく、凹み石と区別した(9.9·8.5·5.0·580.8)。

縄文437号土坑(第59図、PL72)

1は黒色頁岩製の縦型石匙である(2.5·6.3·0.6·11.0)。

縄文464号土坑(第60図)

1は粗粒輝石安山岩製の石皿である。周縁が一段高く整形され、側面には一条の溝を巡らす。また表裏面に敲打による凹みを有し、凹み石の機能も併用する。

縄文478号土坑(第59図)

1は黒曜石製の凹基無茎石鏃である。基部の抉りは浅い。側縁は直線的で、平面三角形を呈する(1.6·1.9·0.4·1.1)。

縄文480号土坑(第59図、PL72)

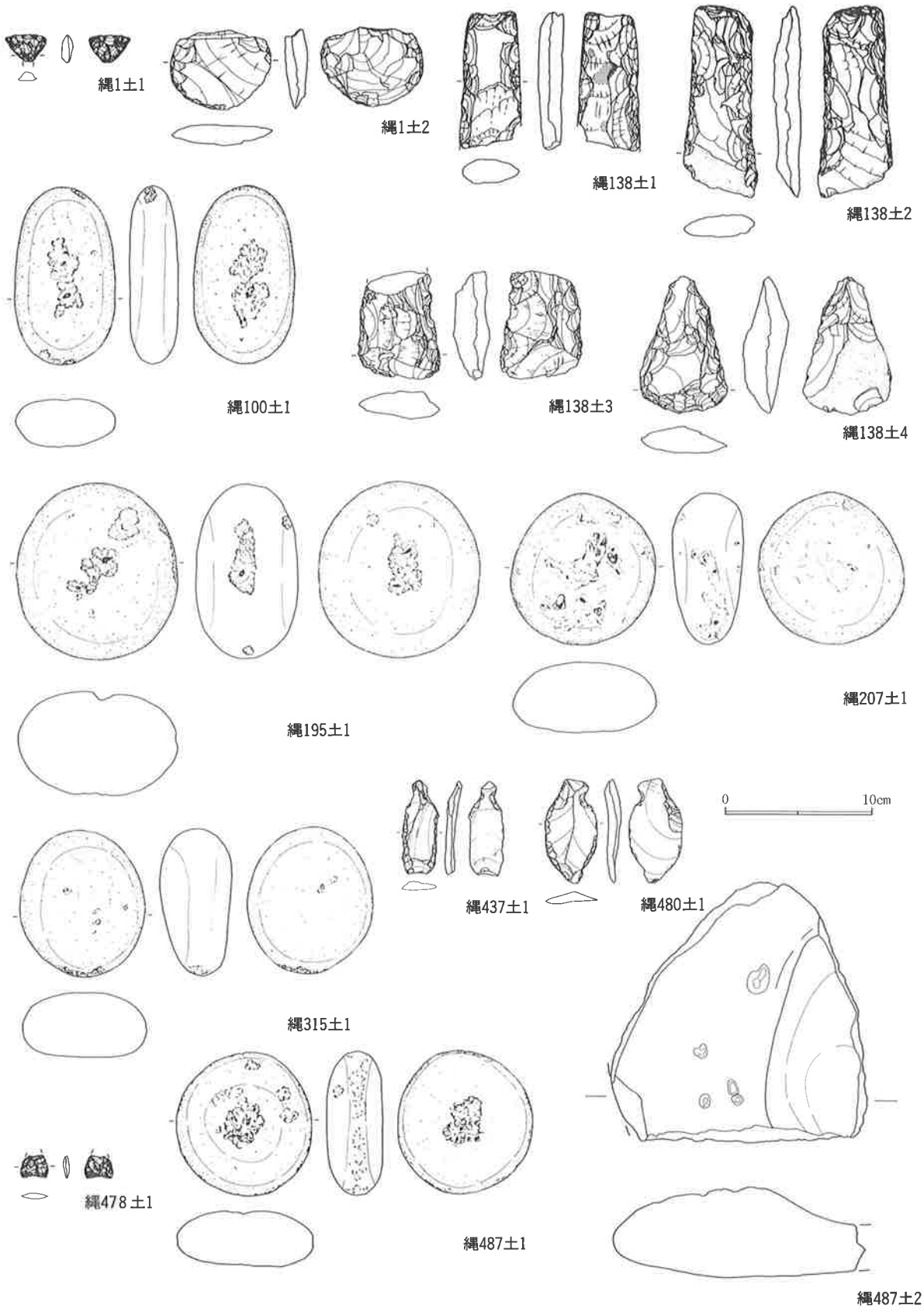
1は黒色頁岩製の縦型石匙である。肩部の抉りはやや浅い(7.0·3.5·0.9·19.5)。

縄文481号土坑(第60図)

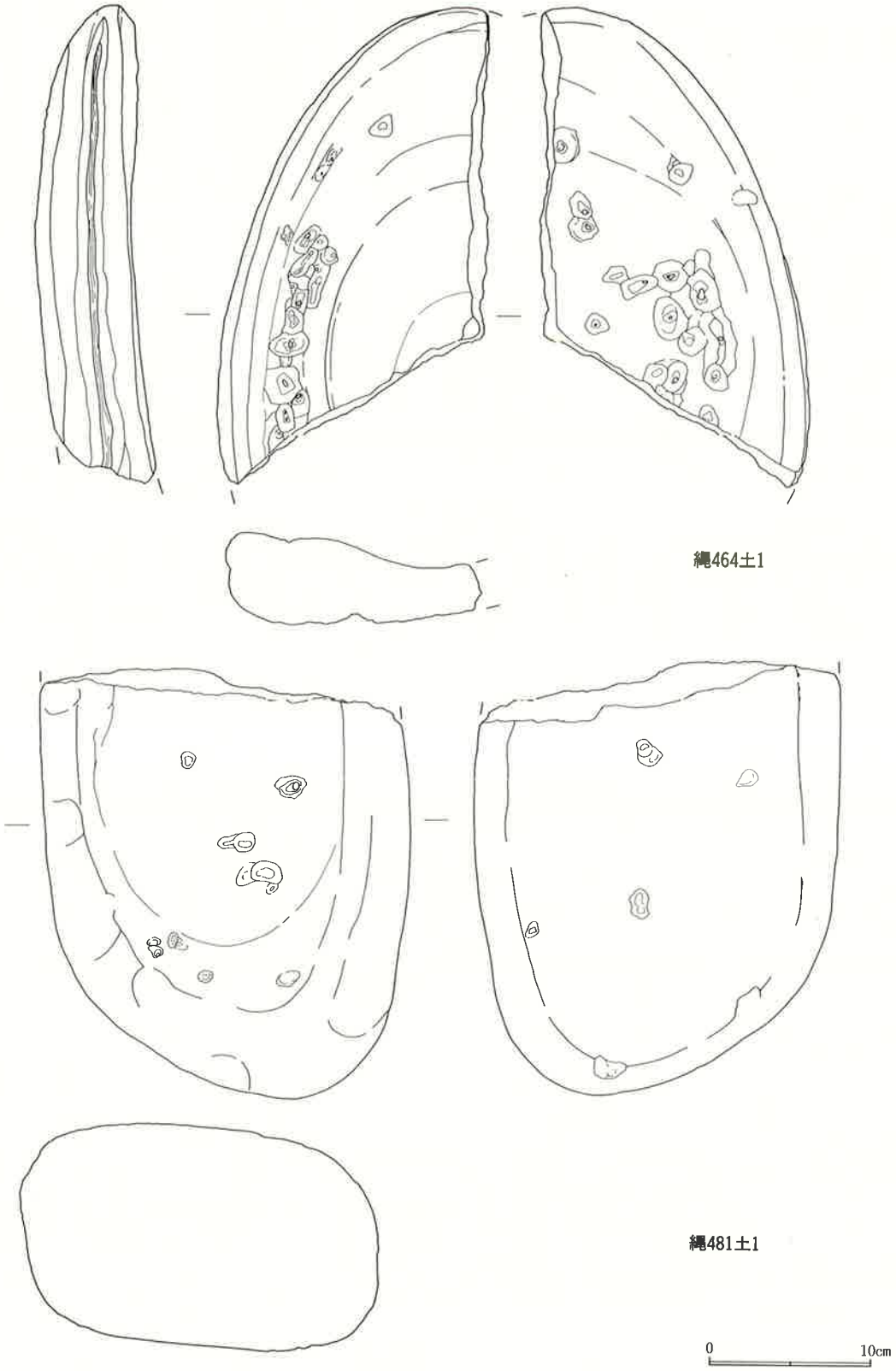
1は粗粒輝石安山岩製の多孔石である。表裏面の孔は少ない。

縄文487号土坑(第59図、PL72)

1は粗粒輝石安山岩製の凹み石である。不整円形を呈する。表裏面の窪み弱い。側面にも摩耗した敲打痕が認められる(9.7·9.2·3.8·514.6)。**2**は粗粒輝石安山岩製の石皿である。側縁部に凹みが認められ、凹み石の機能も併用している。



第59図　縄文1・100・138・195・207・315・437・478・480・487号土坑出土石器



第60図　縄文464·481号土坑出土石器

3．遺構外出土の縄文遺物

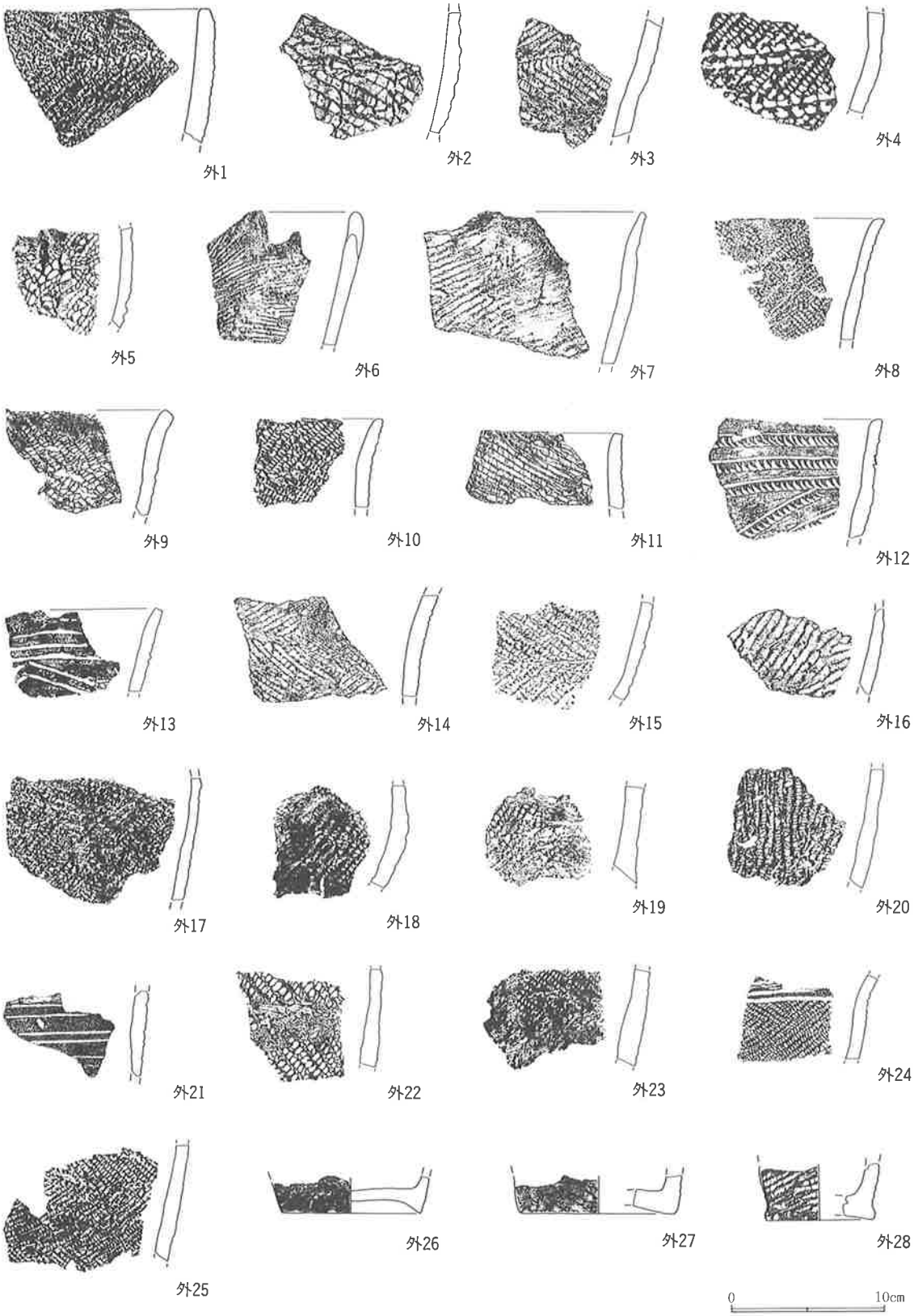
3－1．遺構外出土の縄文土器(第61･62図、第21･22表、PL73)

第21表　遺構外出土縄文土器一覧表(1)

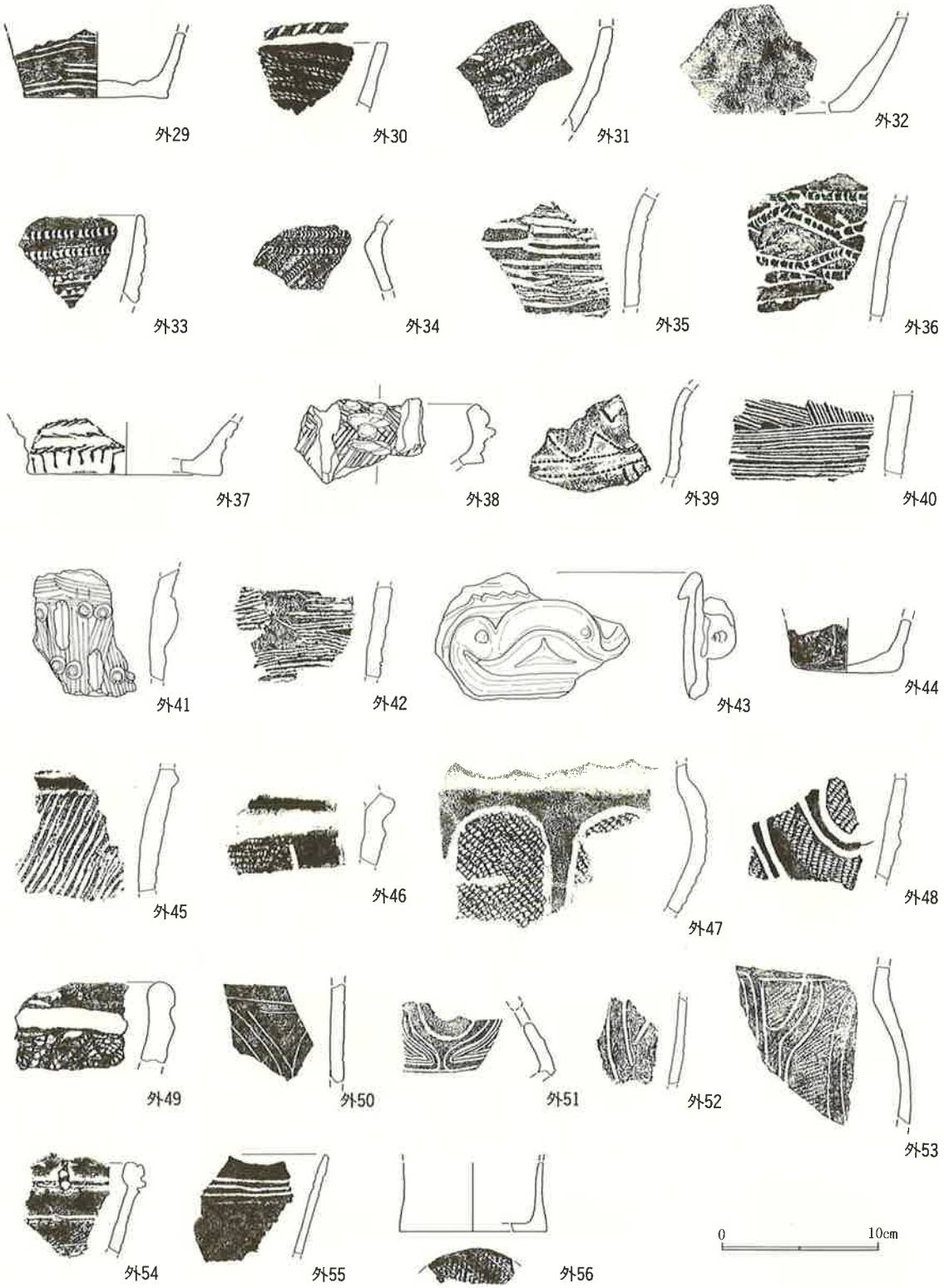
挿図番号 図版番号	出土 グリッド	器種 部位	遺存高 器厚(cm)	色調 外面 内面	焼成 胎土含有物	文様・特徴	型式
外－1	11-H-14	深鉢 口縁	8.5 0.9～1.6	赤褐色 赤褐色	堅い 繊維・砂礫	単節原体による矢羽形羽状縄文、中位に連続刺突文(横位)。	関山式
外－2	6-Q-21	胴部	7.7 0.7～1.0	暗黄褐色 暗褐色	脆い 繊維・細粒砂	無節R-ℓℓ縄文、中位にループ文。	関山式
外－3	東部 調査区	胴部	7.3 0.8～1.0	赤褐色 赤褐色	堅い 繊維・砂礫	無節原体による矢羽形羽状縄文、上位にループ文。	関山式
外－4	6-A-10	胴部	6.5 1.0	暗褐色 赤褐色	堅い 繊維・砂礫	単節L-RR縄文、上･中位にループ文。	関山式
外－5	2-H-17	胴部	6.4 0.7	橙褐色 白赤褐色	堅い 繊維・砂礫	単節原体によるループ文、浮線による懸垂文。	関山式
外－6	2-I-08	深鉢 口縁	8.6 0.7～1.0	白赤褐色 白灰色	脆い 繊維・砂礫	無節L-rr縄文、波状口縁。	関山式
外－7	6-R-21	甕 口縁	9.8 0.4～0.9	白黄褐色 白黄褐色	脆い 繊維・砂礫	無節L-rr縄文。口唇部やや外反。	黒浜式
外－8	9-P-15	深鉢 口縁	7.7 0.7～1.0	暗褐色 暗褐色	やや脆い 繊維・砂礫	単節L-RR縄文。口唇部やや外反。	黒浜式
外－9	7-P-10	甕 口縁	6.8 0.9	暗橙褐色 橙褐色	やや堅い 繊維・砂礫	単節R-LL縄文。口唇部外反。	黒浜式
外－10	7-P-15	深鉢 口縁	5.8 0.6～0.9	橙褐色 暗灰褐色	脆い 繊維・砂礫	単節原体による菱形羽状縄文。口唇部外反。	黒浜式
外－11	6-R-21	甕 口縁	5.6 0.7～1.0	褐色 褐色	やや脆い 繊維・砂礫	無節R-ℓℓの羽状縄文。器壁僅かに内斜。	黒浜式
外－12	6-P-18	深鉢 口縁	7.7 0.7～1.0	橙褐色 褐色	やや堅い 繊維・砂礫	半截竹管による連続爪形文･斜行文。口唇部ほぼ直立。	有尾式
外－13	9-P-20	甕 口縁	5.4 0.6～0.8	暗褐色 暗褐色	やや脆い 繊維・砂礫	平行沈線による横位文･山形文。口唇部外反。	有尾式
外－14	5-E-24	甕 頸部	6.5 1.0	白黄褐色 灰褐色	脆い 繊維・砂礫	単節原体による矢羽形羽状縄文。	黒浜式
外－15	7-Q-02	胴部	6.5 0.7	白黄褐色 白灰褐色	脆い 繊維・砂礫	単節原体による矢羽形羽状縄文、中位沈線による横位文。	黒浜式
外－16	10-S-12	胴部	5.6 0.5～.0.9	黄褐色 暗褐色	脆い 繊維・細粒砂	無節L-rr縄文。	黒浜式
外－17	7-Q-09	胴部	7.9 0.6～0.8	黄褐色 黄褐色	やや脆い 繊維・砂礫	単節原体による矢羽形羽状縄文。	黒浜式
外－18	12-G-11	甕 胴部	6.6 0.8～1.2	白黄褐色 白褐色	脆い 繊維・砂礫	単節L-RR縄文。	黒浜式
外－19	7-R-03	胴部	6.2 1.2～1.4	赤褐色 暗灰褐色	やや脆い 繊維・砂礫	無節原体による菱形羽状縄文。	黒浜式
外－20	2-J-02	胴部	7.6 0.8～1.0	赤褐色 赤褐色	脆い 繊維・砂礫	単節(縦)の縄文。	黒浜式
外－21	8-P-24	口縁	5.6 0.5～0.9	黄褐色 橙褐色	脆い 繊維・砂礫	平行沈線による横位文。	黒浜式
外－22	7-P-05	胴部	6.3 0.7～1.1	褐色 赤褐色	やや堅い 繊維・砂礫	単節R-LL縄文。	黒浜式
外－23	16-Q-23	胴部	5.6 0.9～1.4	赤褐色 赤褐色	やや堅い 繊維・砂礫	単節R-LL縄文。	黒浜式
外－24	7-Q-02	深鉢 頸部	5.5 0.8	暗褐色 暗灰褐色	やや堅い 繊維・砂礫	平行沈線による横位文、単節原体による菱形羽状縄文。	黒浜式
外－25	7-R-08	胴部	7.5 0.7～1.0	暗褐色 暗褐色	堅い 繊維・砂礫	単節原体による菱形羽状縄文。	黒浜式
外－26	7-R-25	底部	9.0(底径) 0.5～1.2	黄褐色 黄褐色	堅い 繊維・砂礫	無文。内外面磨き良好。上げ底。	黒浜式
外－27	歴史 12号住	底部	10.1(底) 1.1	橙褐色 暗灰褐色	やや脆い 繊維・砂礫	単節R-LL縄文。緩い上げ底。	黒浜式

第22表　遺構外出土縄文土器一覧表(2)

挿図番号 図版番号	出土 グリッド	器種 部位	遺存高 器厚(cm)	色調外面 内面	焼成 胎土含有物	文様・特徴	型式
外－28	9-Q-01	底部	7.0(底径) 1.0～1.4	赤褐色 黒褐色	脆い 繊維・砂礫	無節L-rr縄文。緩い上げ底。	黒浜式
外－29	3-F-22	底部	9.0(底径) 0.5～1.1	橙褐色 橙褐色	脆い 繊維・砂礫	2条1単位の平行沈線による横位文。平底。	黒浜式
外－30	8-P-19	口縁	4.2 0.7～0.9	暗褐色 暗褐色	やや脆い 細粒砂	2条1単位の撚糸文(横位文)、口唇部上面に連続刺突文。	諸磯式
外－31	7-Q-03	胴部	6.7 0.8	暗褐色 暗褐色	やや脆い 細粒砂	2条1単位の撚糸文(斜行文)。	諸磯式
外－32	表採	甕 底部	5.7 0.6～1.3	橙褐色 白褐色	やや堅い 砂礫	無文。平底。	前期
外－33	23-Q-18	深鉢 口縁	5.5 0.6～1.0	褐色 赤褐色	堅い 砂礫	連続爪形文(横位文)、平行沈線上に円形刺突文。	諸磯a式
外－34	7-Q-09	甕 頸部	4.2 0.7～1.0	灰横褐色 白灰褐色	脆い 微粒砂	連続爪形文(横位文)･斜行文。	諸磯a式
外－35	7-Q-06	甕 頸部	7.0 0.9	暗褐色 暗褐色	やや堅い 細粒砂	集合沈線による横位文。器壁外反。	諸磯b式
外－36	7-P-13	胴部	8.2 0.7～0.9	暗褐色 暗褐色	やや堅い 砂礫	連続爪形文(横位･菱形)。器壁外反。	諸磯b式
外－37	12-H-22	底部	12.0(底) 0.5～1.5	橙褐色 白褐色	やや堅い 無し	浮線横位文上に斜行刻み文、縦位の浮線文。	諸磯b式
外－38	8-Q-04	深鉢 口縁	3.9 0.6～1.0	赤褐色 赤褐色	堅い 砂礫	集合沈線による斜行文、縦帯状･豆粒状の貼付文。器壁内湾。	諸磯c式
外－39	12-D-19	深鉢 口縁	5.5 0.5	暗赤褐色 暗褐色	堅い 砂礫	結節状浮線による横位文、波状文。器壁外反。	諸磯c式
外－40	16-Q-15	深鉢 胴部	5.0 1.2	赤褐色 白黄褐色	堅い 細粒砂	集合沈線による横位文･斜行文。	諸磯c式
外－41	7-Q-20	深鉢 胴部	6.6 1.0	赤褐色 赤褐色	やや堅い 砂礫	集合沈線による縦位文･横位文、ボタン状･縦帯状貼付文。	諸磯c式
外－42	10-P-16	胴部	5.6 1.0	暗灰褐色 暗灰褐色	やや堅い 砂礫	集合沈線による横位文。	諸磯c式
外－43	22-L-19	深鉢 口縁	8.1 0.9～1.6	赤褐色 赤褐色	堅い 砂礫	波状沈線文、幾何学貼付文、円形刺突文。	勝坂式
外－44	西部 調査区	底部	6.9(底径) 0.6～1.3	赤褐色 暗赤褐色	やや脆い 砂礫	磨消縄文、縦位沈線文。	加曽利EⅠ式
外－45	13-G-05	胴部	7.5 1.0～1.3	暗赤褐色 赤褐色	堅い 砂礫	浮線による横位文、集合沈線による斜行文。	加曽利EⅡ式
外－46	東部 調査区	深鉢 口縁	4.6 1.1～1.3	赤褐色 赤褐色	堅い 砂礫	横位･縦位に沈線で区画し、磨消縄文･縄文を配す。	加曽利EⅣ式
外－47	歴史 3号溝	甕 胴部	9.3 0.6～1.2	赤褐色 赤褐色	堅い 砂礫	沈線による楕円形区画内に縄文、区画外に磨消縄文。	加曽利EⅣ式
外－48	東部 調査区	胴部	6.4 0.8	白橙褐色 暗灰褐色	やや脆い 細粒砂	2条1単位の沈線による渦巻状区画内に縄文、沈線間は磨消。	加曽利EⅣ式
外－49	M-19-22	深鉢 口縁	5.0 1.3～1.6	赤褐色 暗赤褐色	堅い 砂礫	太い横位沈線、無節L-rr縄文。	加曽利EⅣ式
外－50	9-H-04	胴部	5.8 0.8	灰黄褐色 灰褐色	堅い 砂礫	沈線による三角文、全面磨消縄文。	堀之内Ⅰ式
外－51	11-P-11	注口 胴部	4.6 0.7	白褐色 白褐色	堅い 細粒砂	平行沈線による幾何学文。	堀之内Ⅰ式
外－52	7-H-01	胴部	5.5 0.5	橙褐色 暗灰褐色	堅い 細粒砂	縦位沈線文、全面磨消縄文。	堀之内Ⅰ式
外－53	6-G-25	甕 頸部	9.8 0.8～1.1	橙褐色 暗褐色	堅い 砂礫	縦位沈線による区画内に縄文、沈線間は磨消縄文。	堀之内Ⅰ式
外－54	10I-18	深鉢 口縁	5.3 0.6～1.0	赤褐色 灰褐色	堅い 砂礫	横位に隆起線文･沈線文、上位は磨消･下位は縄文。	堀之内Ⅱ式
外－55	表採	甕 口縁	6.2 0.5	暗褐色 暗褐色	堅い 細粒砂	口唇部両面に横位沈線文。器壁外斜。	加曽利BⅠ式
外－56	表採	底部	9.3(底径) 0.3～1.0	白褐色 暗灰褐色	堅い 細粒砂	両面丁寧な磨き。底に網代痕。	後期



第61図　遺構外出土縄文土器(1)



第62図　遺構外出土縄文土器(2)

３－２．遺構外出土の縄文石器(第63～73図、第23～28表、PL74～81)

小原目遺跡では、地表面、確認面、遺構内、トレンチ内からコンテナ14箱分程の縄文時代に属す石器、石製品が出土している。剥片類が大半を占めるため、図示できたのはそのうちの一部にとどまる。

有舌尖頭器(第63図、第23表、PL74)

1は縄文時代草創期に位置づけられる有舌尖頭器である。1号溝から出土しているが、混入したものである。先端、および基部を欠損し、表面はかなり摩耗している。

石槍(第68図、第23表、PL74)

2は硬質頁岩製の石槍である。側縁に角を持ち、基部が平らに作られているため、五角形を呈する。また、側縁の下半部は鋸歯状に整形されている。やや薄手。3号溝から出土しているが、混入品である。縄文時代早期のものであろうか。

石鏃(第63･64･65図、第23･24表、PL74～76)

3～71までは石鏃に分類される石器である。いずれも縄文時代のものである。

3は両側縁に抉りを持つ石鏃である。いわゆるアメリカ式石鏃と呼ばれるものであろう。

4～40までは凹基無茎鏃である。このうち、**4～13**までは小ぶりの製品を示す。薄手で三角形の脚を作り出すものが多いが、**7**は断面円形の脚を作り出している。**14～24**までは平面形が三角形に近い、中型の製品を示した。**14～21**のように基部が広く抉られて脚が三角形に尖るもの、**22～24**のように基部を丸く抉り、脚をあまりとがらせないものに細分できる。**26～32**は側縁がカーブするものである。**25～28**のように下半部でカーブするもの、**29～32**のように上半部からカーブするものがある。**33～36**までは凹基鏃のうちでも基部の抉りが浅いものである。側縁は直線的で、平面形は三角形を呈するものが多い。**37～40**は長身で基部に浅い抉り込みを持つものを示し、**41～51**は長身で基部の抉りの深いものである。**41～45**のように側縁がカーブするものと、**46～51**のように直線的なものに細分できる。**52～54**は平基無茎鏃に分類される石鏃である。いずれもやや長身で、側縁は直線的である。

55～71までは有茎鏃に分類される石鏃である。**55･56**は返しを持つ凹基有茎鏃。**56**は茎部が欠損しているため、一見すると無茎鏃に見える。**57～59**は平基無茎鏃である。**58**のような短身のものと、**59**のような長身のものがある。**60～71**は凸基有茎鏃である。いずれも長身で、無茎鏃に比べてやや厚手のものが多い。側縁は直線的である。茎部の欠損しているものが多いが、これが使用によるものなのか、埋没した後に折損したものなのかは不明。また、**70･71**はほかのものに比べて茎部の作り出しが貧弱で、かなり薄手に作られている。

石鏃全体を総じてみると、前述したように縄文早期に位置づけられるものがある一方、有茎鏃が本地域で定着するのは縄文後期以後のことである。よって本遺跡出土の石鏃は、縄文時代晩期を除く全期のものが混在していると言ってよいであろう。無茎鏃は縄文前期と後期のものが主体となっているように思われる。

石錐(第65図、第25表、PL76)

72～75は石錐に分類される石器である。**72～74**はつまみ部から錐部までを整形し、作り出しているもの。**75**は不定形の剥片の一部を加工して錐部を作り出したものである。**73･74**は錐部は残存せず、つまみ部だけの出土である。**72**は槍先形のつまみ、**73･74**は角形のつまみである。**75**は黒色頁岩の剥片を加工したものである。錐部先端は摩耗している。

石匙(第65·66·68図、第25表、PL76)

76〜83は石匙である。**76・77**は縦型に分類され、**78〜83**は横型に分類される。**76**は黒曜石製の小型石匙である。調整は粗い。縦型のうち、**77**には刃部付近に使用によるものと思われる擦痕が観察できた。横形に含めた**78**については、欠損品ではあるが、**82**のような横長あるいは円形の身部を持つものと推定される。全体に、つまみ部の作り出しが粗雑で、肩部の抉りもあまり深くないものが多い。

打製石斧(第68〜70図、第25·26表、PL79·80)

84〜113は打製石斧に分類される。**92・93**のように短冊形あるいは長楕円形を呈するものと、**97・99**のように撥形、あるいは歪んだ三角形を呈するもの、**112・113**のように刃部にかけて緩く開く台形を呈するものがある。また、**101・102**は側面から見ると湾曲しており、ほかのものとはやや機能的に差がありそうに思える。刃部は**92・100・111**のように丸刃のものと、**93・99**のように直刃のものがある。両者とも刃部は両面から調整を施して作り出された両刃であり、加工方法に差異はみられない。

これらの資料のうち、**91・93・94・100・101・103・104・106・108・109**には表面に摩耗あるいは擦痕が観察される。刃部に筋状の擦痕がある**104・108**や、刃部がほかの部位と比べて著しく摩耗している**94・100・106・109**は使用による痕跡と認めてよいと思われるが、他のものについては判断し難い。

分銅形打製石斧(第70図、第26表、PL80)

114〜116。これらの資料については、いわゆる打製石斧の範疇に入れられることが多いが、機能、用途ともに前項の石斧類と差異が論じられているので、別項を設けることにする。本遺跡で出土した当該資料も大きさ、重量ともに前項の石斧とは明らかに違う。ただし、石材に関しては同質である。3点ともに石材を粗く加工、整形し、刃部を作り出している。

石箆(第70図、第26表、PL80)

117〜123は石箆に分類されるものである。機能からいえば掻器の一種であると思われている。刃部に向かって開く器形と、調整が片面に集中することが特徴である。また厚さも打製石斧に比べて厚手のものが多い。**118・119**は他のものと平面形が異なるが、片面調整による整形、刃部の位置および作り出し方から本項に属するものと考えた。

スクレイパー(第66·70·71図、第26·27表、PL77·80)

124〜146はいわゆるスクレイパーに分類される石器である。剥片もしくは石核を素材とし、加工によって刃部を作り出しているものの、石鏃から石箆までの分類に属さないものを本項に含めた。

124は小型の木葉形石器である。石鏃の可能性もあるが、作りが全体に華奢なので本項に含めた。**125**はおそらく半分ほど欠損したものであろう。**128〜130**は不定形の石器である。**128**は全面に加工を施し、側縁と下縁に抉りを入れている。**129・130**は剥片の一部に刃部を作り出しているものである。**131**は楕円形に整形された石器である。主に背面に加工時の剥離が認められ、腹面側には刃部を調整したときの剥離しかない。**132〜143**は不定形のスクレイパーである。ほとんどは剥片素材であるが、**143**は石核素材である。粗く整形したものが多い中で、**139**は縁辺全周が調整されており、下端の刃部には使用による摩耗が認められた。

上記のような不定形のスクレイパーのほか、本遺跡では下記のような規格性の認められるスクレイパーも出土している。**144〜146**は横長の剥片を素材にしたエンドスクレイパーである。刃部以外の加工痕は少なく、明らかに素材の選択が行われている。

楔型石器(第66図、第27表、PL77)

147・148は楔型石器に分類される石器である。**147**は黒曜石の剥片を素材とし、剥片の先端部を打ち欠いている。形状はいびつであるが、上端および下端に打撃によってつぶれた個所があり、そこを打点とする剥離が対極の近くにまで達している。**148**は頁岩製の剥片を台形状に整形し、使用している。やはり上下端に打点があり、向かい合った剥離が観察できる。

その他の打製石器(第66図、第27表)

149は加工を施された剥片である。素材剥離後に二次的に加工が施されているが、どの部分を使用しているのか不明。

剥片(第66・67図、第27表、PL77・78)

150～168は剥片類である。このうち**150・152・153**の3点には使用による微細な剥離が認められた。

石核(第67・71・72図、第27・28表、PL78・81)

169～184までは石核である。**169**のような黒曜石製の小型のものから、**184**のように安山岩系の石材を粗く打ち割り、礫器状のものまで、バリエーションがある。

磨製石斧(第67・72図、第28表、PL78・81)

185～191は磨製石斧である。**185・186**は小型の定角式磨製石斧。**185**は蛇紋岩を石材とし、表面は滑らかに整形されている。刃部には使用痕が観察できる。**187～191**は乳棒状磨製石斧。**187・188**は刃部のみの破片である。**190**は大型の石斧の基部であろう。刃部の残る資料にはいずれも使用痕が認められる。

凹み石(第72図、第28表)

192は、石器表裏面に敲打による凹みをもつ、凹み石である。低い三角錐状に整形してある。敲打痕は頂部、および底面中央に認められる。

磨石(第72・73図、第28表、PL81)

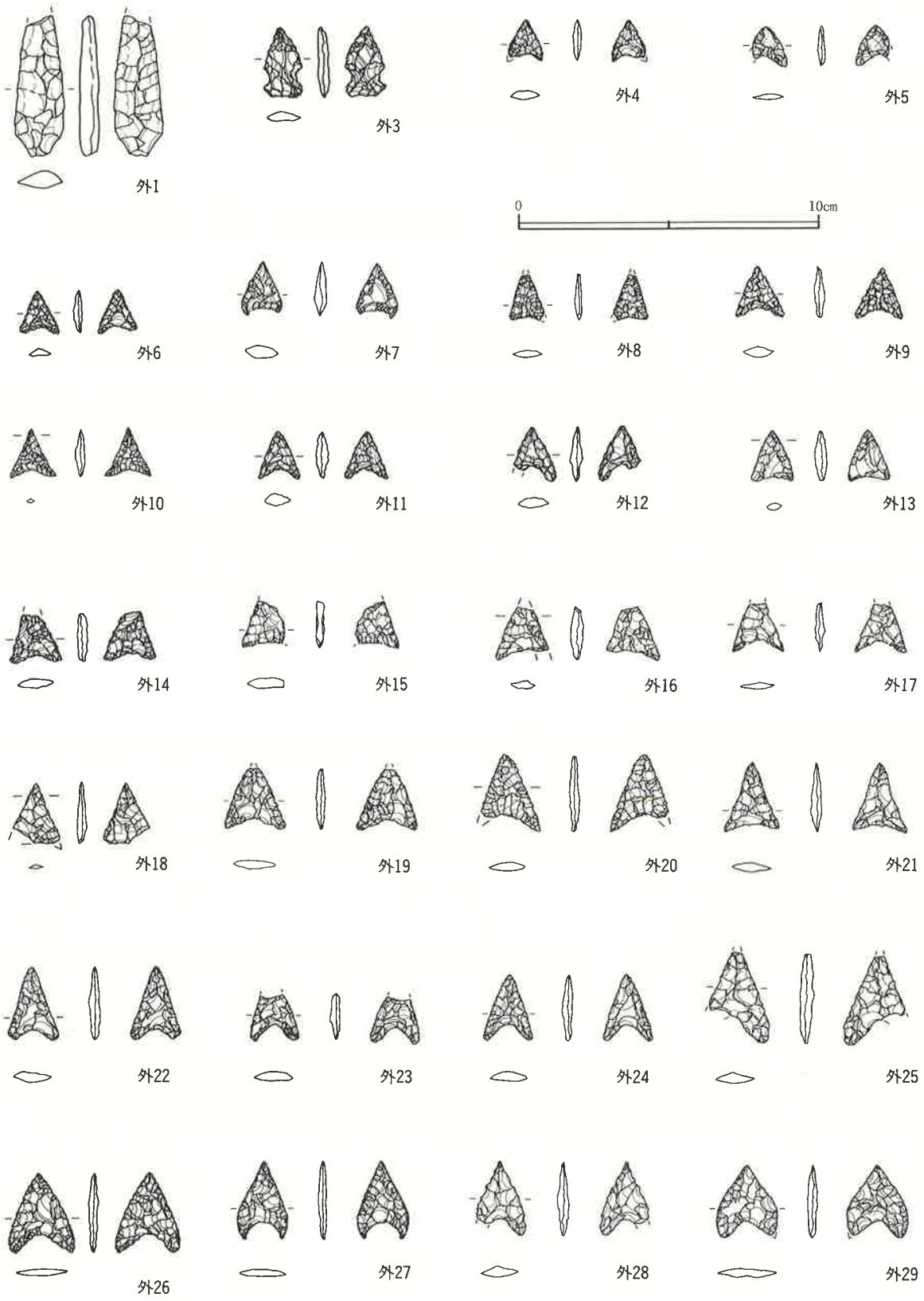
193～196は、粗粒輝石安山岩製の磨石である。前記の凹み石と同様の石材を用い、同様の形状に整形しながら表裏面の敲打痕が明確でないものを磨石として区別した。表裏面か縁辺、もしくはその両方に敲打痕が認められるものがある。

石皿(第73図、第28表、PL81)

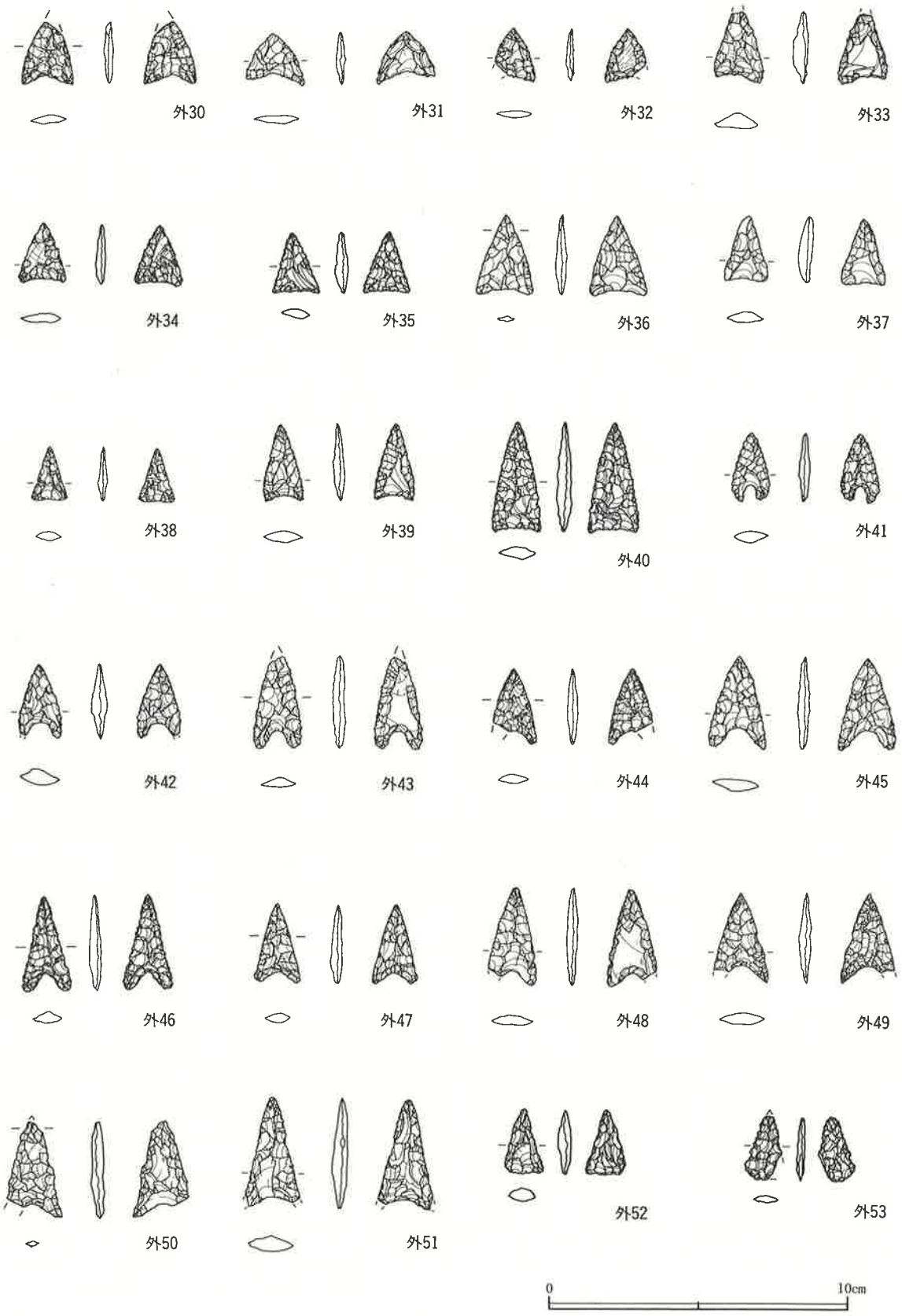
197・198は縄文時代の石皿である。すべて安山岩系の石材を用いる。一般的特徴として表面中央が広く窪んでいる。

装飾品(第66図)

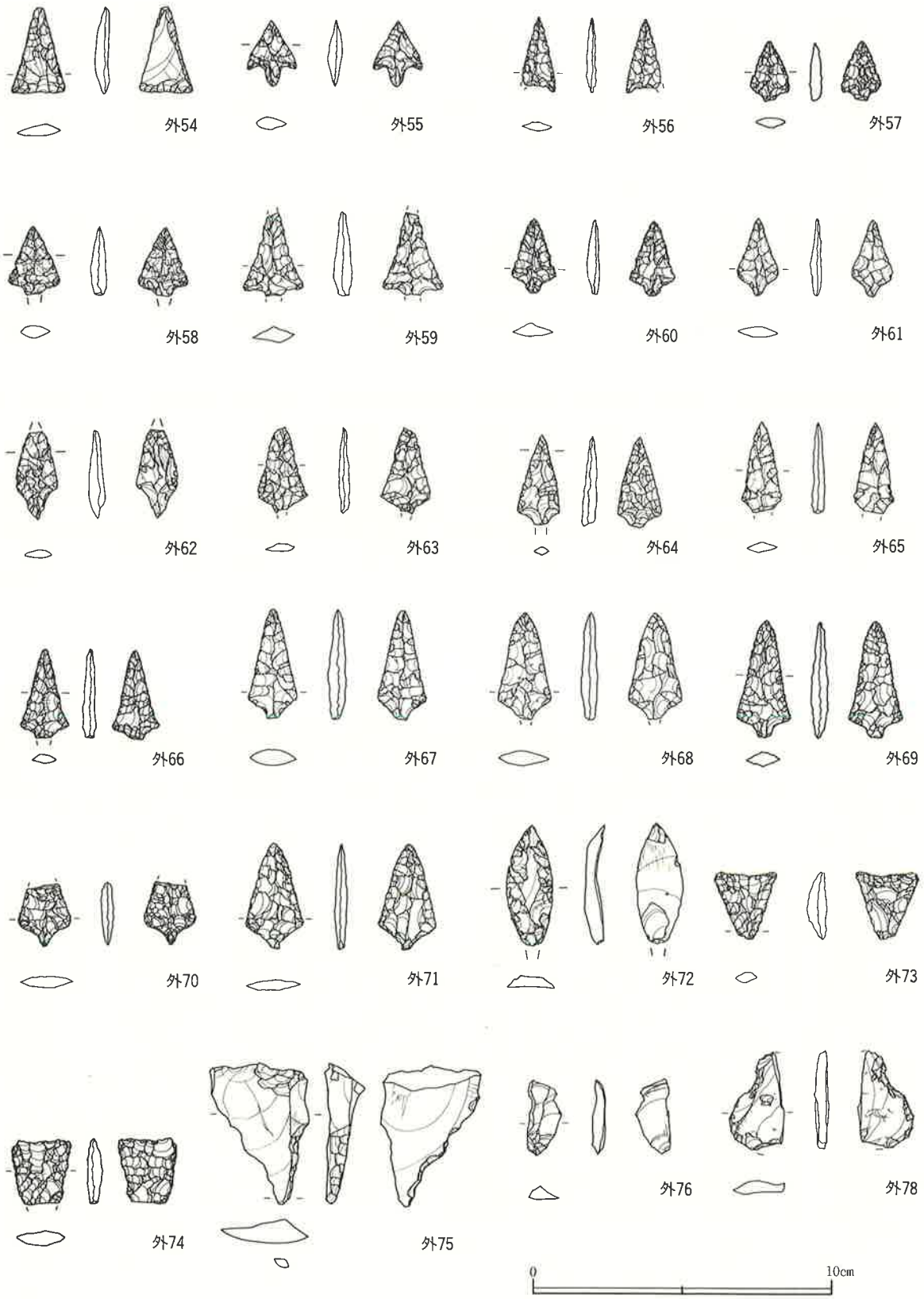
199は貝製品。全体に規則正しく波打っているので、サルボウ属などの海水性二枚貝の貝殻を使用したものと思われる。おそらく垂飾であろう。長さ4.1㎝、幅0.9㎝、厚さ0.2㎝、重さ1.0ｇ程を測る。



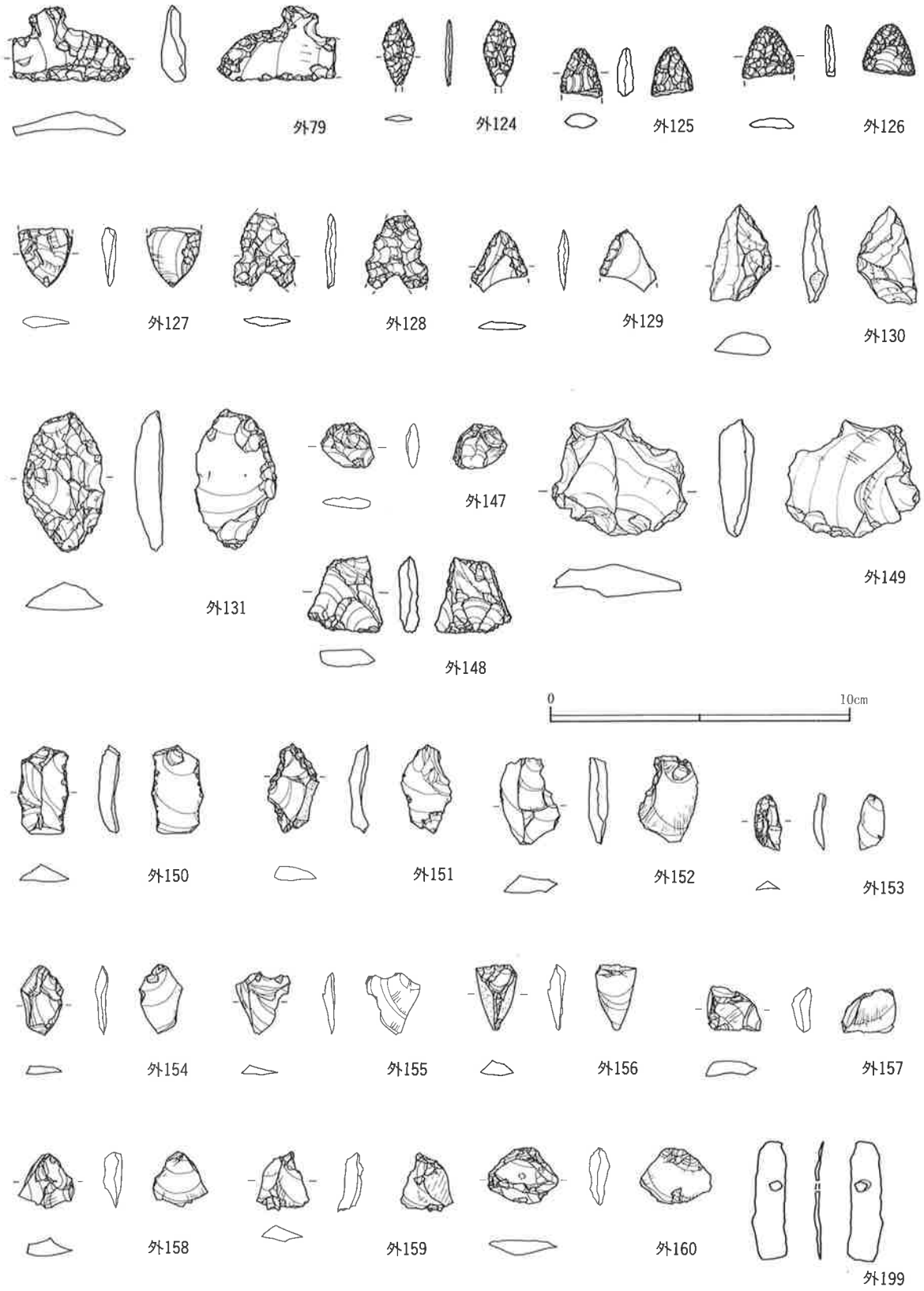
第63図　遺構外出土縄文石器(1)



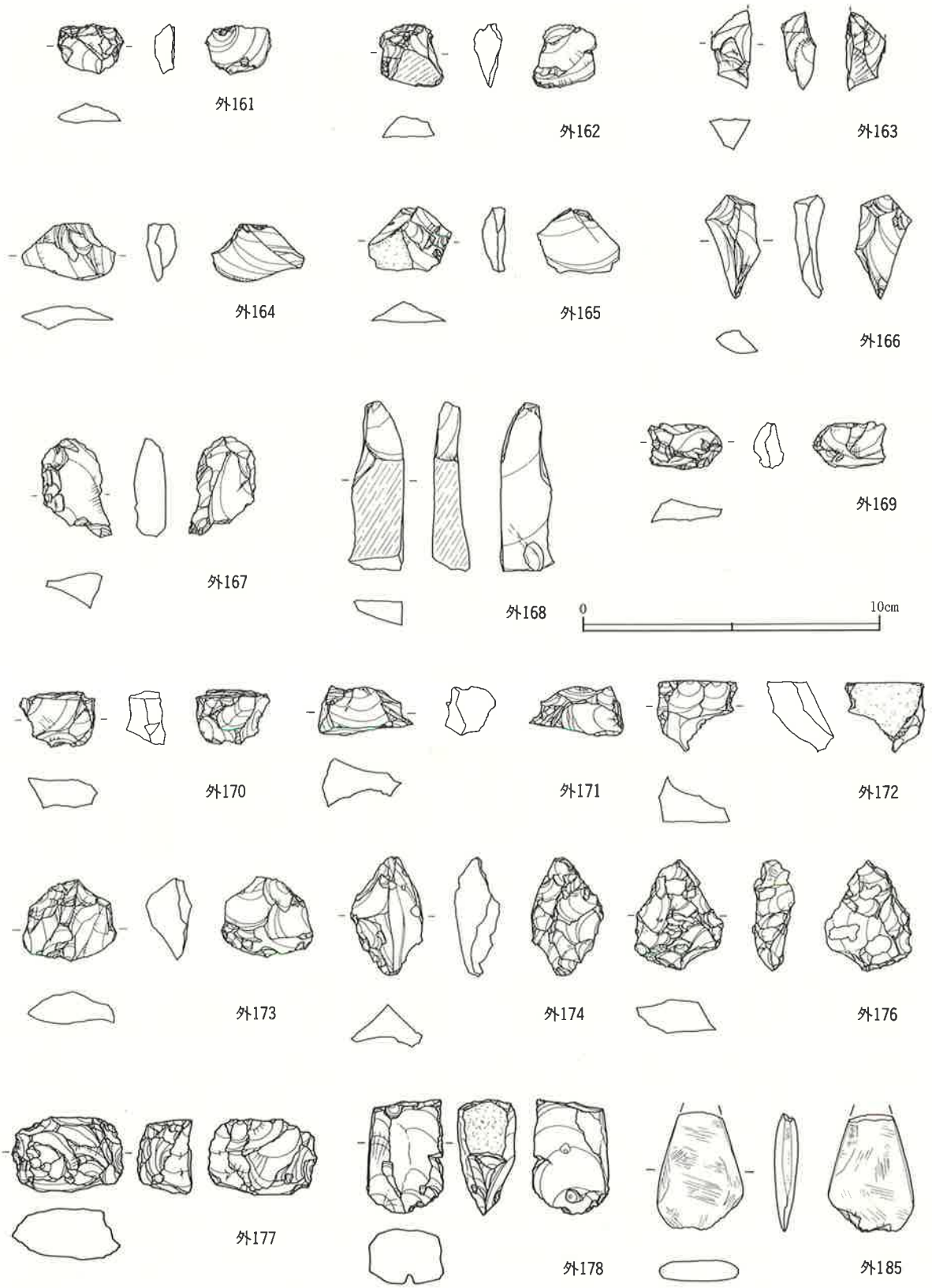
第64図　遺構外出土縄文石器(2)



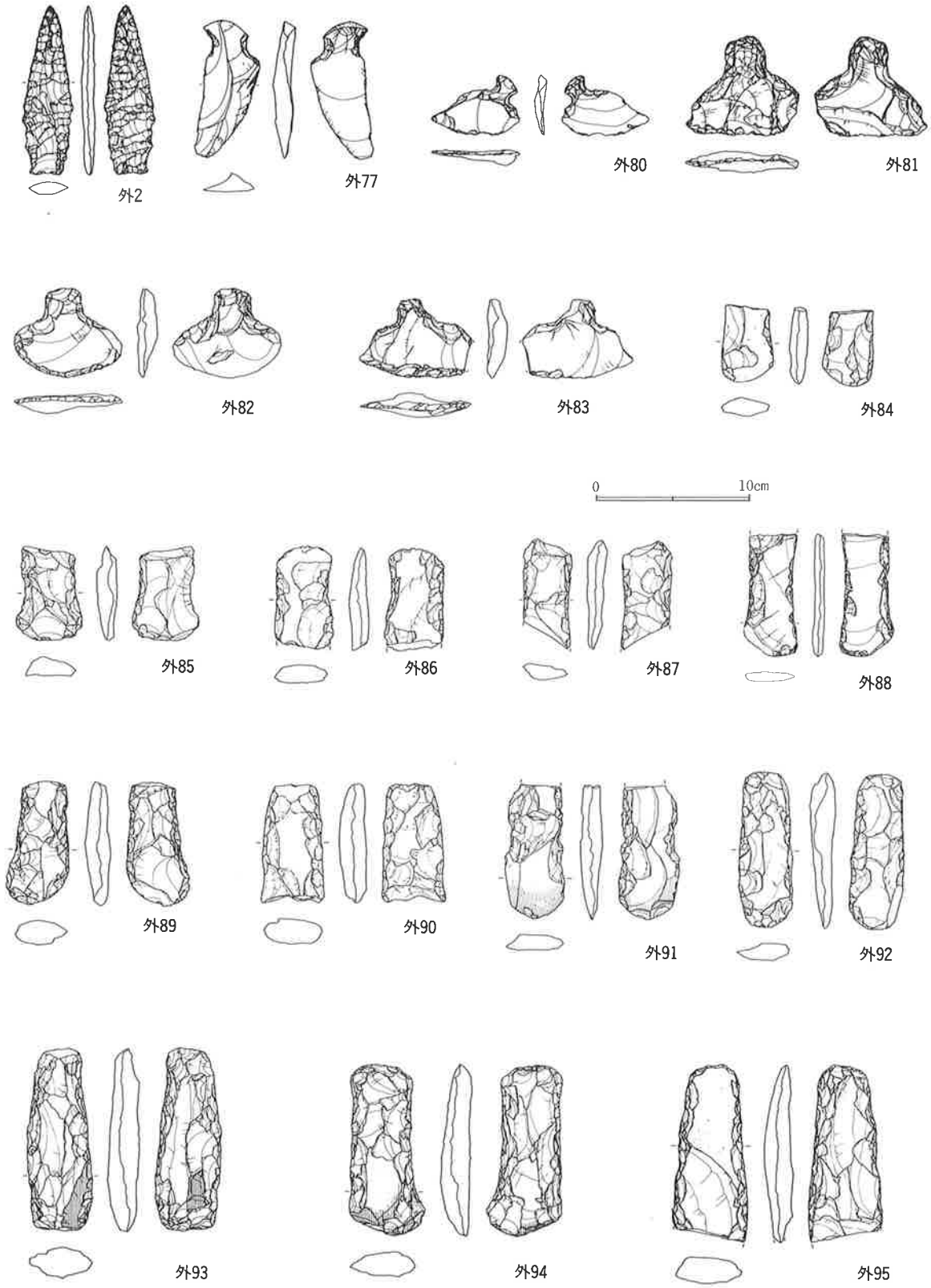
第65図　遺構外出土縄文石器(3)



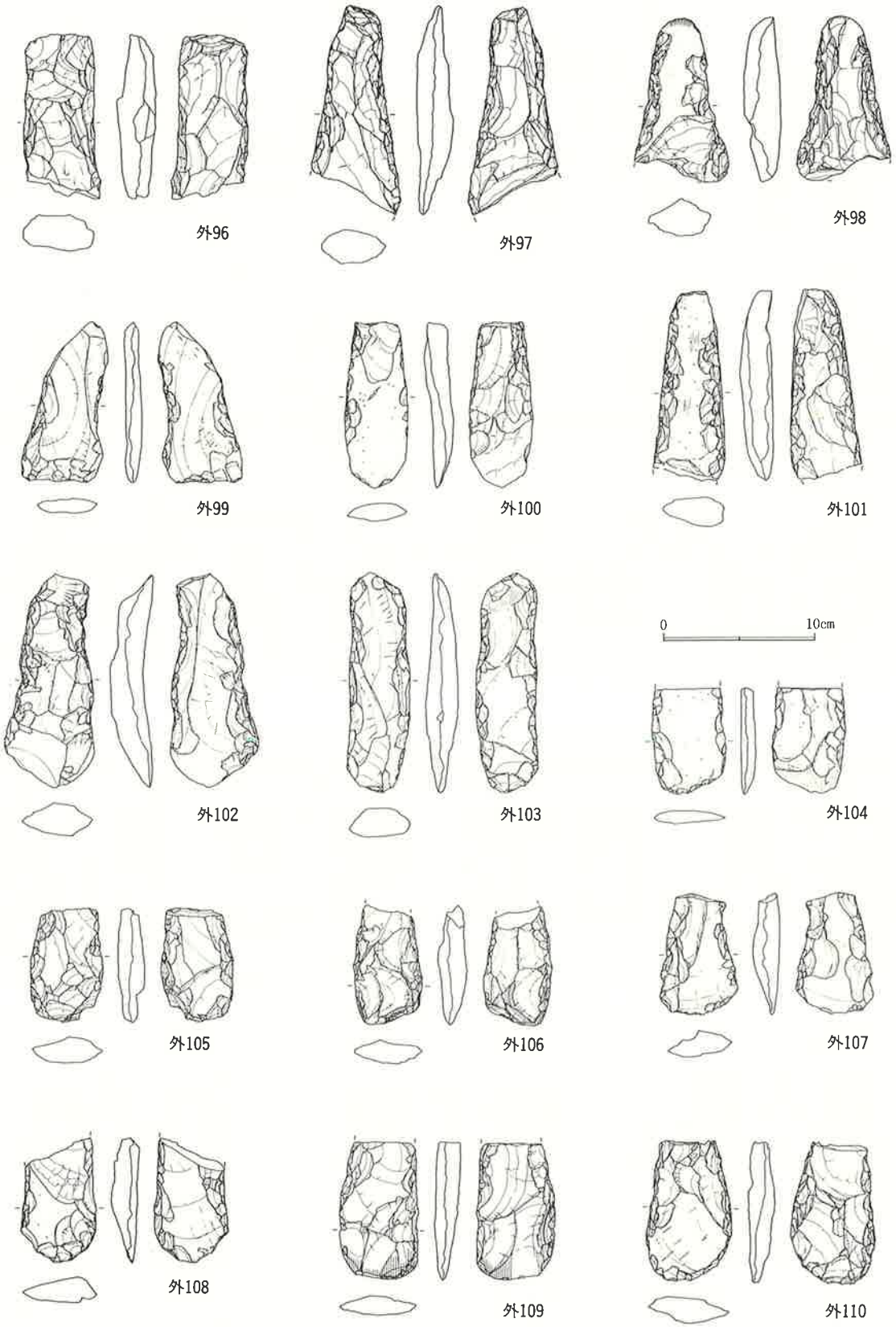
第66図　遺構外出土縄文石器(4)



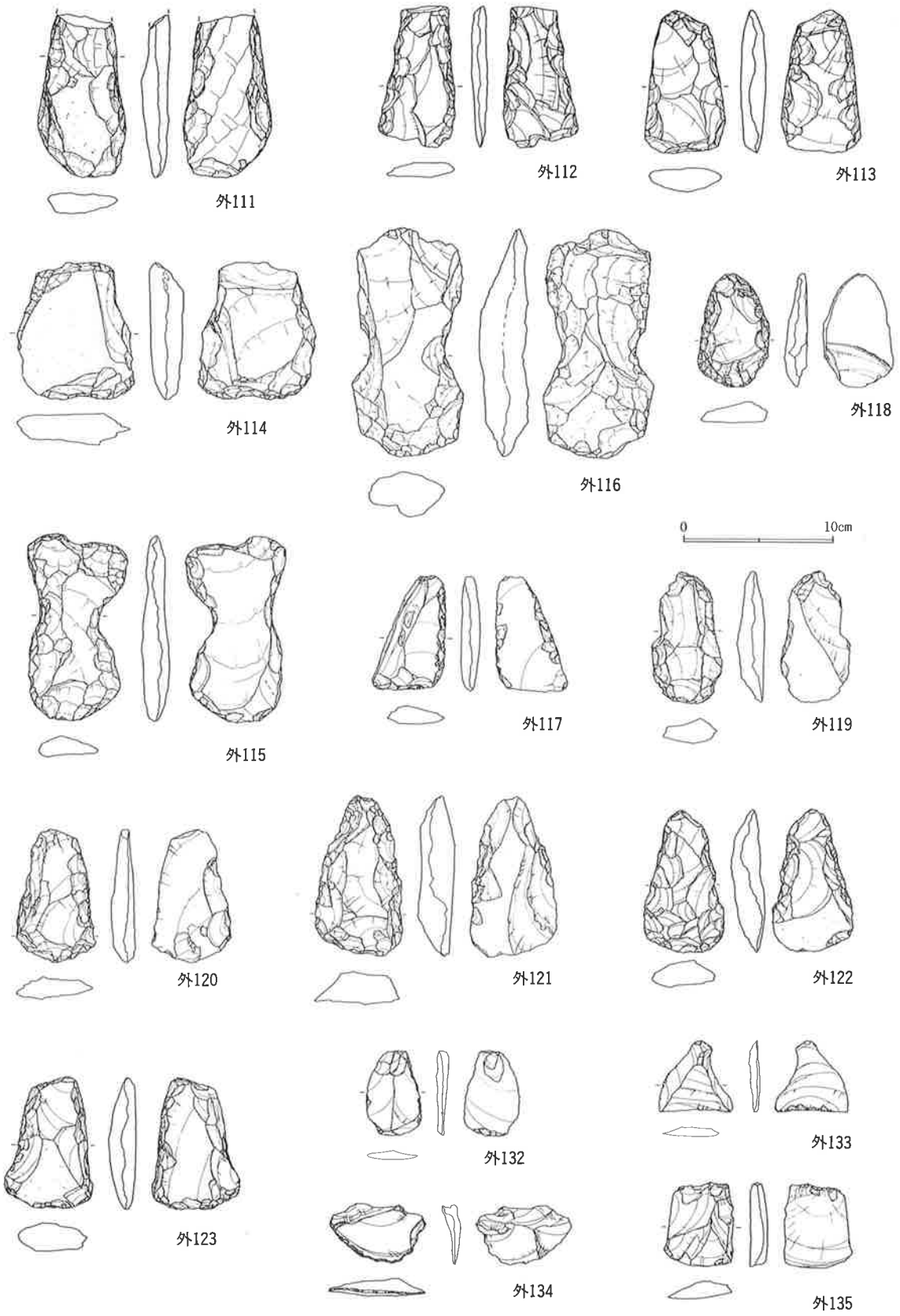
第67図　遺構外出土縄文石器(5)



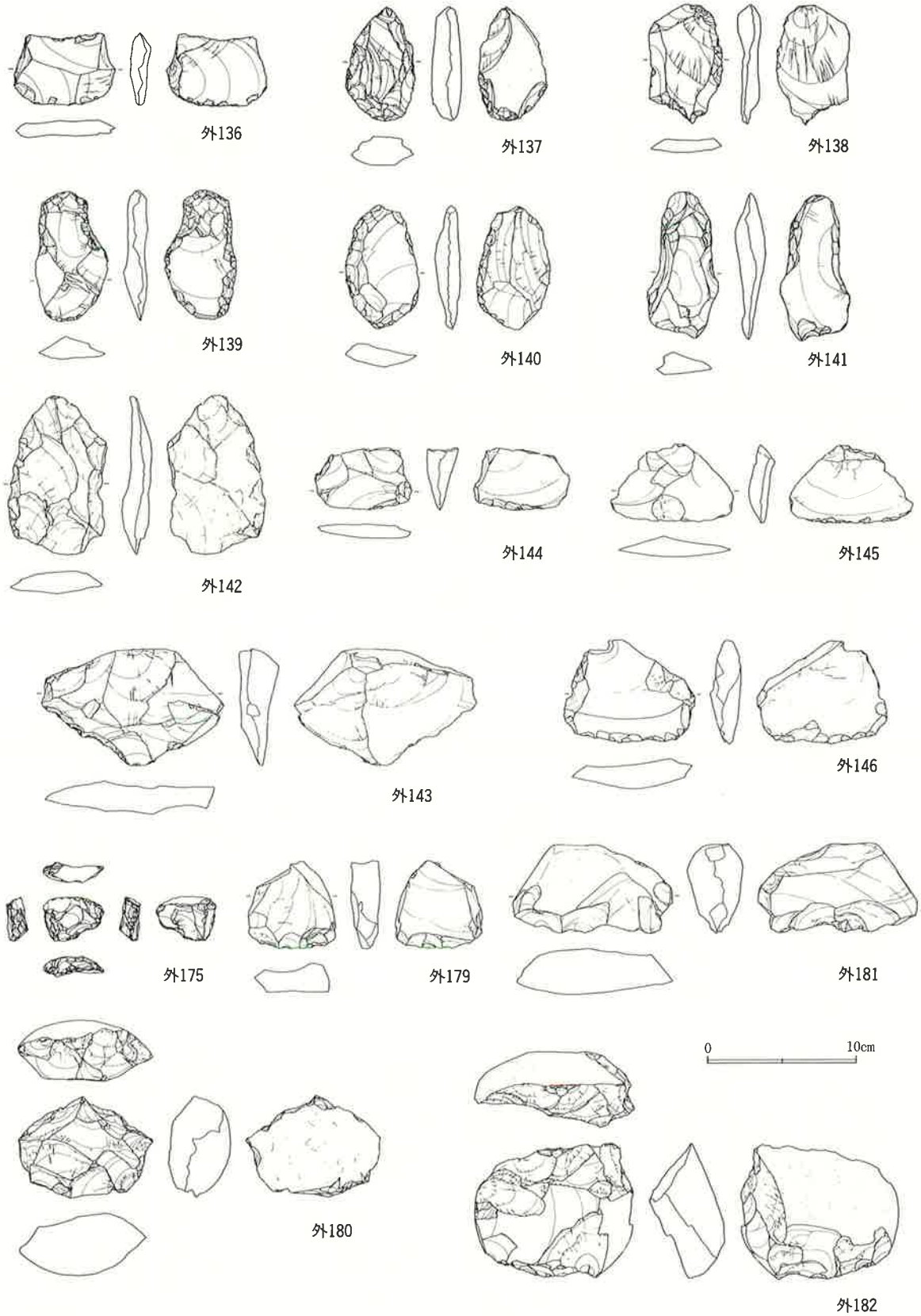
第68図　遺構外出土縄文石器(6)



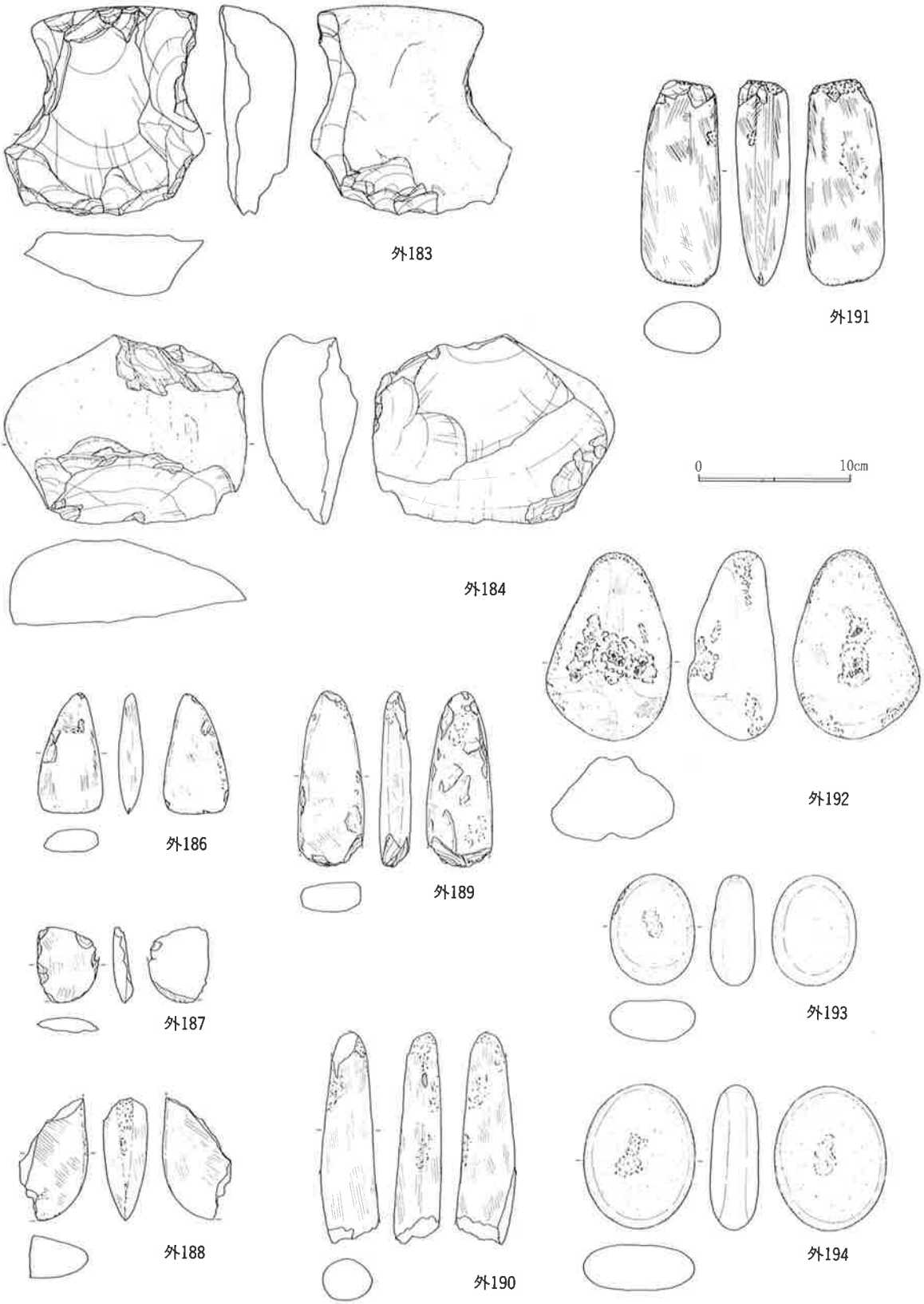
第69図　遺構外出土縄文石器(7)



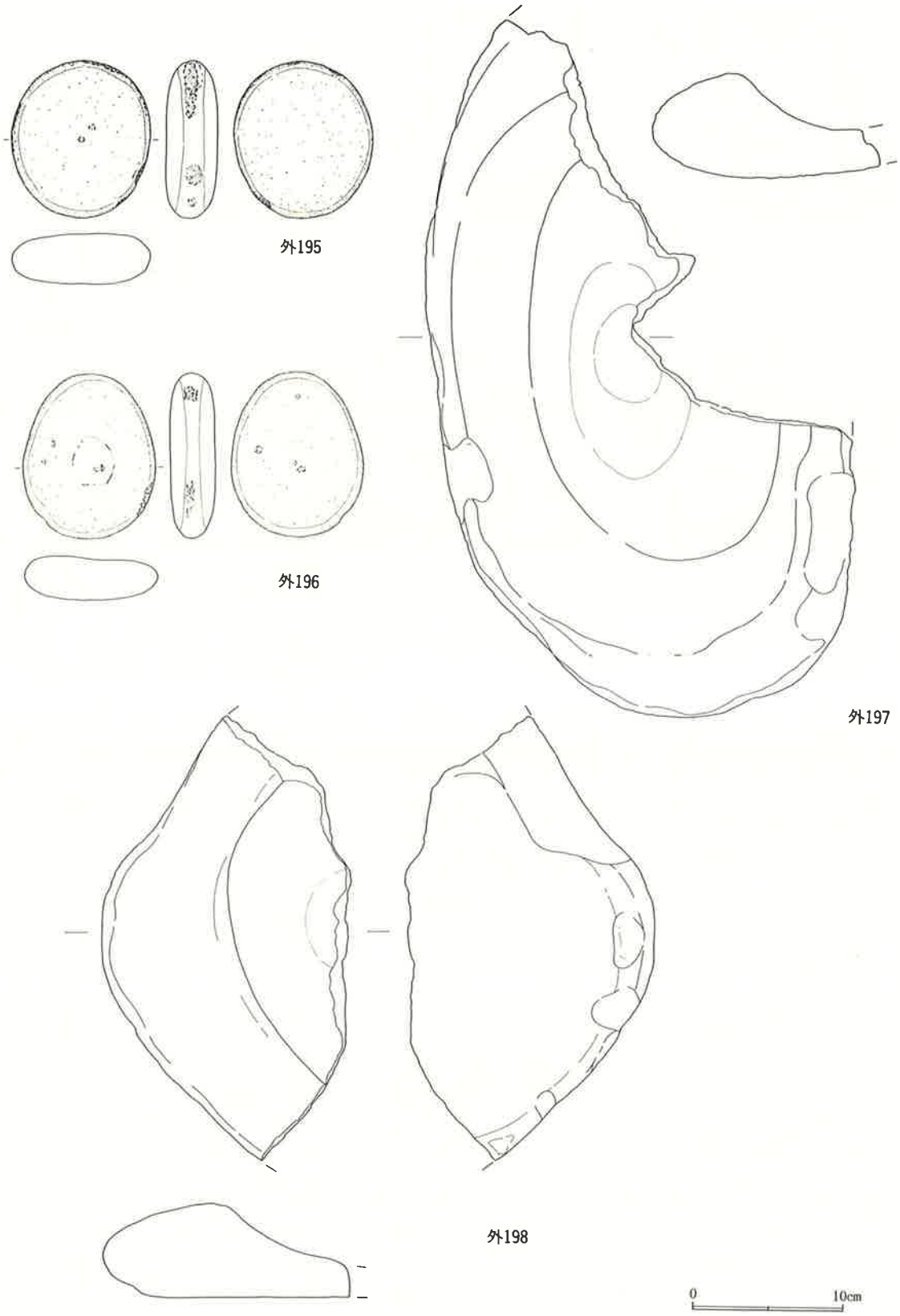
第70図　遺構外出土縄文石器(8)



第71図　遺構外出土縄文石器(9)



第72図　遺構外出土縄文石器(10)



第73図　遺構外出土縄文石器(11)

第23表　遺構外出土縄文石器一覧表(1)　　(単位：cm・g、グはグリッドの略)

番号	出土位置	器　種	石　材	長さ	幅	厚さ	重量	備　考
1	1号溝跡	有舌尖頭器	黒色頁岩	4.6	1.6	0.6	5.9	縄文時代草創期に属す
2	3号溝跡	石槍	硬質頁岩	11.0	3.3	0.8	29.9	
3	表採	石鏃	チャート	2.3	1.3	0.3	1.2	
4	11-H-06グ	石鏃	チャート	1.4	1.1	0.3	0.4	
5	19-L-11グ	石鏃	黒曜石	1.3	1.1	0.2	0.3	
6	表採	石鏃	チャート	1.0	1.2	0.3	0.3	
7	12-D-08グ	石鏃	黒曜石	1.7	1.3	0.4	0.7	
8	表採	石鏃	黒曜石	1.5	1.1	0.2	0.3	
9	表採	石鏃	黒曜石	1.7	1.6	0.3	0.6	
10	7-I-07グ	石鏃	チャート	1.6	1.5	0.3	0.5	
11	12-H-18グ	石鏃	黒色安山岩	1.6	1.4	0.4	0.5	
12	7-Q-14グ	石鏃	黒色頁岩	1.8	1.4	0.4	0.5	
13	8-Q-09グ	石鏃	黒色安山岩	1.7	1.4	0.4	0.7	
14	15-J-14グ	石鏃	黒曜石	1.6	1.7	0.3	0.6	
15	23-M-03グ	石鏃	黒曜石	1.6	1.4	0.2	0.6	
16	8-I-01グ	石鏃	黒曜石	1.8	1.7	0.4	0.8	
17	19-L-02グ	石鏃	チャート	1.6	1.7	0.3	0.6	
18	6-Q-11グ	石鏃	チャート	2.0	1.5	0.3	0.6	
19	5-H-03グ	石鏃	チャート	2.0	2.0	0.3	1.0	
20	4-C-04グ	石鏃	黒曜石	2.5	1.9	0.3	1.0	
21	表採	石鏃	黒色安山岩	2.3	1.8	0.3	0.9	
22	10-I-03グ	石鏃	黒色頁岩	2.4	1.6	0.4	0.9	
23	12-D-10グ	石鏃	黒色安山岩	1.6	1.6	0.3	0.7	
24	4-K-17グ	石鏃	黒色頁岩	2.2	1.6	0.3	0.8	
25	10-I-18グ	石鏃	黒色頁岩	3.0	2.0	0.5	1.1	
26	表採	石鏃	チャート	2.6	2.1	0.3	1.3	
27	4-I-05グ	石鏃	チャート	2.6	1.7	0.3	1.0	
28	15-G-08グ	石鏃	黒色安山岩	2.4	1.6	0.4	1.0	
29	4-H-13グ	石鏃	黒色安山岩	2.4	2.0	0.3	1.2	
30	14号住居	石鏃	チャート	2.1	1.7	0.3	1.1	
31	表採	石鏃	黒色頁岩	1.8	2.0	0.3	0.7	
32	表採	石鏃	チャート	1.8	1.4	0.2	0.5	
33	表採	石鏃	チャート	2.4	1.6	0.5	1.5	
34	11-G-02グ	石鏃	黒曜石	2.0	1.6	0.3	0.7	
35	17-O-03グ	石鏃	黒色安山岩	2.0	1.6	0.4	0.9	

第24表　遺構外出土縄文石器一覧表(2)　(単位：cm・g、グはグリッドの略)

番号	出土位置	器　種	石　材	長さ	幅	厚さ	重量	備　考
36	7-H-18グ	石鏃	黒色安山岩	2.7	1.4	0.3	1.3	
37	10-Q-07グ	石鏃	黒色頁岩	2.2	1.4	0.4	1.1	
38	表採	石鏃	黒色頁岩	1.8	1.2	0.3	0.5	
39	9-H-11グ	石鏃	チャート	2.5	1.3	0.3	0.9	
40	表採	石鏃	チャート	3.7	1.6	0.5	2.3	
41	11-Q-24グ	石鏃	黒色頁岩	2.3	1.2	0.3	0.7	
42	9-Q-20グ	石鏃	珪質頁岩	2.5	1.5	0.5	1.0	
43	4-K-14グ	石鏃	黒色頁岩	3.0	1.6	0.4	2.0	
44	3号溝跡	石鏃	チャート	2.5	1.5	0.3	1.0	
45	20-L-04グ	石鏃	黒色頁岩	3.1	1.9	0.4	1.6	
46	9-P-09グ	石鏃	チャート	3.2	1.7	0.4	1.3	
47	15号住居	石鏃	チャート	2.6	1.6	0.3	1.1	
48	11-J-21グ	石鏃	黒色安山岩	3.3	1.6	0.3	1.6	
49	20-N-22グ	石鏃	黒曜石	3.0	1.8	0.3	1.3	
50	9-I-21グ	石鏃	黒色安山岩	3.2	1.9	0.4	2.0	
51	表採	石鏃	黒色安山岩	3.7	1.9	0.5	2.6	
52	12-D-17グ	石鏃	珪質頁岩	2.1	1.3	0.4	0.9	
53	表採	石鏃	黒曜石	2.1	1.2	0.2	0.5	
54	8-I-01グ	石鏃	黒色頁岩	2.8	1.7	0.4	1.5	
55	5号古墳	石鏃	黒色頁岩	2.2	1.6	0.5	1.0	
56	16-H-15グ	石鏃	珪質頁岩	2.5	1.1	0.3	0.6	
57	22-L-10グ	石鏃	黒曜石	2.0	1.3	0.4	0.8	
58	3号溝跡	石鏃	チャート	2.3	1.7	0.5	1.6	
59	12-E-11グ	石鏃	チャート	2.8	2.0	0.6	2.1	
60	16-H-15グ	石鏃	硬質頁岩	2.5	1.5	0.4	1.1	
61	表採	石鏃	黒色頁岩	2.6	1.3	0.4	1.0	
62	3号溝跡	石鏃	チャート	2.9	1.3	0.5	1.9	
63	9-J-17グ	石鏃	チャート	2.9	1.6	0.3	1.2	
64	7-Q-04グ	石鏃	黒色頁岩	3.0	1.5	0.4	1.5	
65	12-I-09グ	石鏃	チャート	3.0	1.4	0.4	1.4	
66	13-I-07グ	石鏃	黒色頁岩	2.9	1.6	0.4	1.2	
67	表採	石鏃	黒色頁岩	3.6	1.6	0.6	2.8	
68	23-M-03グ	石鏃	黒色頁岩	3.6	1.8	0.5	2.8	
69	表採	石鏃	黒色頁岩	3.9	1.8	0.5	2.8	
70	21-L-15グ	石鏃	チャート	2.1	1.7	0.4	1.3	

第25表　遺構外出土縄文石器一覧表(3)　　(単位：cm・g、グはグリッドの略)

番号	出土位置	器　種	石　材	長さ	幅	厚さ	重量	備　考
71	表採	石鏃	黒色頁岩	3.5	1.9	0.4	2.3	
72	10-F-20グ	石錐	黒曜石	4.0	1.6	0.6	3.0	
73	表採	石錐	チャート	2.3	2.1	0.7	2.4	
74	12-S-12グ	石錐	チャート	2.1	1.8	0.5	2.1	
75	2-I-05グ	石錐	黒色頁岩	4.7	3.2	1.3	11.5	
76	23-M-03グ	石匙	黒曜石	2.5	1.7	0.4	1.0	
77	11-S-17グ	石匙	黒色頁岩	9.0	4.2	1.1	33.0	
78	10-H-22グ	石匙	黒曜石	3.2	1.8	0.5	2.6	
79	5-I-03グ	石匙	チャート	2.5	3.9	0.8	6.2	
80	表採	石匙	黒色頁岩	3.9	5.7	0.6	10.6	
81	4-G-25グ	石匙	黒色安山岩	6.5	7.3	1.3	50.4	
82	表採	石匙	黒色頁岩	5.8	7.1	1.3	37.9	
83	表採	石匙	黒色頁岩	5.2	7.3	1.2	40.7	
84	10号炭窯	打製石斧	細粒輝石安山岩	5.0	3.3	1.2	26.2	
85	3号溝跡	打製石斧	黒色頁岩	6.1	4.3	0.8	33.6	
86	1号溝跡	打製石斧	黒色頁岩	6.8	3.8	1.2	43.4	
87	4-H-11グ	打製石斧	黒色頁岩	7.2	3.2	0.7	32.4	
88	12-G-07グ	打製石斧	珪質頁岩	8.0	3.5	0.7	26.8	
89	表採	打製石斧	黒色頁岩	8.1	4.1	1.6	60.2	
90	3号溝跡	打製石斧	珪質頁岩	7.8	4.1	1.7	86.9	
91	19-M-02グ	打製石斧	黒色頁岩	8.8	4.0	1.4	61.6	
92	6号溝跡	打製石斧	黒色頁岩	10.2	3.5	1.8	63.1	
93	17-R-01グ	打製石斧	黒色頁岩	12.0	4.3	2.0	129.7	
94	12-H-23グ	打製石斧	珪質頁岩	11.2	4.9	2.9	117.0	
95	16-R-02グ	打製石斧	灰色安山岩	11.6	4.9	1.8	122.8	
96	1号溝跡	打製石斧	細粒輝石安山岩	10.7	5.0	2.5	157.4	
97	18-N-04グ	打製石斧	細粒輝石安山岩	13.6	5.9	2.4	165.0	
98	23-N-11グ	打製石斧	黒色頁岩	10.6	6.2	2.4	143.4	
99	18-M-20グ	打製石斧	黒色頁岩	10.5	5.6	1.0	68.9	
100	表採	打製石斧	細粒輝石安山岩	10.8	4.1	1.5	82.9	
101	11-R-09グ	打製石斧	細粒輝石安山岩	12.3	4.7	2.1	152.9	
102	表採	打製石斧	黒色頁岩	13.9	5.7	2.2	192.9	
103	表採	打製石斧	黒色頁岩	14.4	4.2	2.1	149.5	
104	12-R-05グ	打製石斧	細粒輝石安山岩	6.9	4.8	1.0	45.5	
105	13号溝跡	打製石斧	細粒輝石安山岩	7.4	4.7	1.8	72.7	

第26表　遺構外出土縄文石器一覧表(4)　　(単位：cm・g、グはグリッドの略)

番号	出土位置	器　種	石　材	長さ	幅	厚さ	重量	備　考
106	11-J-16グ	打製石斧	黒色頁岩	7.8	4.5	1.8	70.9	
107	3号溝跡	打製石斧	珪質頁岩	7.9	5.0	1.7	64.2	
108	20-N-22グ	打製石斧	黒色頁岩	8.1	4.9	1.7	71.0	
109	17-R-01グ	打製石斧	灰色安山岩	9.0	5.1	1.5	98.4	
110	表採	打製石斧	黒色頁岩	9.2	5.5	1.7	92.2	
111	3号溝跡	打製石斧	黒色頁岩	10.8	6.0	1.7	127.6	
112	3号溝跡	打製石斧	黒色頁岩	9.5	5.0	1.1	55.9	
113	1号溝跡	打製石斧	黒色頁岩	9.5	5.3	1.6	105.5	
114	4号古墳	打製石斧	細粒輝石安山岩	9.1	7.8	2.1	214.5	分銅形
115	3号溝跡	打製石斧	黒色頁岩	12.4	6.7	1.8	151.7	分銅形
116	3号溝跡	打製石斧	黒色頁岩	15.2	7.3	3.0	408.1	分銅形
117	5-P-20グ	石篦	黒色頁岩	7.6	4.9	1.3	49.7	
118	5-E-07グ	石篦	黒色頁岩	7.5	4.7	1.5	52.3	
119	1号炭窯	石篦	黒色頁岩	8.8	4.7	1.8	72.0	
120	12-E-06グ	石篦	黒色頁岩	8.9	5.3	1.5	78.7	
121	12-D-22グ	石篦	黒色頁岩	10.7	5.8	2.3	170.3	
122	7-R-06グ	石篦	黒色頁岩	9.4	5.4	1.9	96.7	
123	16-R-07グ	石篦	黒色頁岩	8.8	5.9	1.8	111.7	
124	16-O-15グ	スクレイパー	チャート	2.2	1.1	0.2	0.5	
125	12-I-11グ	スクレイパー	チャート	1.6	1.4	0.6	1.2	
126	12-D-20グ	スクレイパー	黒曜石	1.7	1.7	0.3	0.9	
127	7-R-07グ	スクレイパー	黒曜石	2.0	1.8	0.5	1.4	
128	2-I-05グ	スクレイパー	珪質頁岩	2.4	2.0	0.4	1.4	
129	12-D-14グ	スクレイパー	チャート	2.0	1.9	0.4	0.9	
130	16-O-05グ	スクレイパー	黒色頁岩	2.1	2.7	0.8	4.3	
131	9-P-02グ	スクレイパー	黒曜石	4.6	2.7	0.8	11.3	
132	14号住居	スクレイパー	黒色頁岩	5.6	3.6	0.7	15.2	
133	5-F-10グ	スクレイパー	黒色頁岩	4.8	4.9	0.7	12.4	
134	22-N-05グ	スクレイパー	黒色頁岩	4.0	6.4	1.0	18.8	
135	10号住居	スクレイパー	黒色頁岩	5.6	5.0	1.1	40.5	
136	19-M-02グ	スクレイパー	黒色頁岩	4.8	6.7	1.3	43.7	
137	6-Q-21グ	スクレイパー	黒色頁岩	7.6	4.6	2.0	80.5	
138	11号住居	スクレイパー	黒色頁岩	7.9	4.7	1.5	46.3	
139	表採	スクレイパー	黒色頁岩	8.6	4.8	1.5	63.4	
140	7-Q-20グ	スクレイパー	黒色頁岩	8.2	4.9	1.7	55.3	

第27表　遺構外出土縄文石器一覧表(5)　(単位：cm・g、グはグリッドの略)

番号	出土位置	器　種	石　材	長さ	幅	厚さ	重量	備　考
141	3号溝跡	スクレイパー	黒色頁岩	9.7	4.7	1.9	71.4	
142	1号溝跡	スクレイパー	黒色頁岩	10.5	6.5	1.8	107.1	
143	7-Q-24グ	スクレイパー	黒色頁岩	7.7	12.0	2.6	199.8	
144	1号炭窯	スクレイパー	黒色頁岩	4.0	6.4	2.0	49.1	
145	11号溝跡	スクレイパー	黒色頁岩	5.1	8.2	1.3	49.4	
146	10-R-03グ	スクレイパー	黒色頁岩	6.8	8.7	2.0	113.6	
147	21-L-07グ	楔型石器	黒曜石	1.4	1.8	0.4	1.0	
148	表採	楔型石器	チャート	2.5	2.5	0.6	3.7	
149	10-R-13グ	剥片	黒色頁岩	3.9	4.5	1.1	17.9	
150	16-R-19グ	剥片	黒曜石	2.9	1.7	0.7	2.6	
151	17-R-01グ	剥片	黒曜石	2.9	1.6	0.6	2.1	
152	10号炭窯	剥片	黒曜石	2.9	2.0	0.6	2.9	
153	12-D-19グ	剥片	黒曜石	1.8	0.9	0.3	0.4	
154	11-D-11グ	剥片	黒曜石	2.3	1.4	0.4	0.9	
155	11-H-06グ	剥片	黒曜石	2.0	1.8	0.4	0.7	
156	16-R-12グ	剥片	黒曜石	2.2	1.4	0.6	1.2	
157	11-E-10グ	剥片	黒曜石	1.5	1.8	0.6	1.6	
158	12-D-07グ	剥片	黒曜石	1.8	1.8	0.6	1.3	
159	11-E-05グ	剥片	チャート	2.0	1.7	0.6	1.5	
160	16-R-19グ	剥片	黒曜石	1.9	2.4	0.7	2.3	
161	12-D-14グ	剥片	黒曜石	1.7	2.2	0.7	2.2	
162	11-D-21グ	剥片	チャート	2.1	2.1	1.0	3.9	
163	12-D-20グ	剥片	黒曜石	2.6	1.4	1.0	2.8	
164	1号炭窯	剥片	黒曜石	1.9	3.0	0.9	3.3	
165	11-H-06グ	剥片	チャート	2.2	2.8	0.8	3.7	
166	10-I-03グ	剥片	チャート	3.5	1.8	1.0	4.3	
167	4-E-15グ	剥片	黒曜石	3.3	2.3	1.0	6.0	
168	12-S-21グ	剥片	チャート	5.6	1.8	1.3	12.1	
169	12-D-20グ	石核	黒曜石	1.5	2.5	0.9	2.9	
170	16-Q-09グ	石核	黒曜石	1.8	2.5	1.3	5.6	
171	1号炭窯	石核	黒曜石	1.6	3.2	1.7	6.3	
172	17-R-01グ	石核	黒曜石	2.4	2.7	1.6	7.6	
173	9-I-21グ	石核	チャート	2.7	3.0	1.5	9.1	
174	21-N-07グ	石核	黒曜石	3.9	2.4	1.5	8.5	
175	10-P-18グ	石核	チャート	2.9	4.0	1.4	15.8	

第28表　遺構外出土縄文石器一覧表(6)　　(単位：cm・g、グはグリッドの略)

番号	出土位置	器　種	石　材	長さ	幅	厚さ	重量	備　考
176	3-D-08グ	石核	黒曜石	3.7	2.9	1.3	11.2	
177	17-Q-01グ	石核	黒曜石	2.5	3.6	1.8	19.2	
178	10-P-18グ	石核	鉱滓	3.8	2.5	1.9	27.4	
179	表採	石核	黒色頁岩	5.8	5.7	1.9	78.7	
180	13号溝跡	石核	黒色安山岩	6.7	8.9	4.0	257.2	
181	16-R-10グ	石核	黒色頁岩	5.8	10.6	3.7	247.2	
182	9-P-25グ	石核	黒色頁岩	8.9	10.4	5.0	441.1	
183	1号溝跡	石核	細粒輝石安山岩	13.8	13.2	4.5	1027.2	
184	11-P-19グ	石核	細粒輝石安山岩	12.5	15.9	6.3	1283.8	
185	9-Q-04グ	磨製石斧	蛇文岩	3.9	2.9	0.8	12.9	
186	8-Q-19グ	磨製石斧	蛇文岩	8.0	4.2	1.6	78.6	
187	8-Q-15グ	磨製石斧	変玄武岩	5.0	4.0	1.0	30.8	
188	8-Q-15グ	磨製石斧	蛇文岩	8.1	4.5	2.9	129.3	
189	9-P-02グ	磨製石斧	変玄武岩	11.5	4.3	2.0	174.0	
190	6-R-06グ	磨製石斧	変玄武岩	13.9	3.8	2.9	230.5	
191	7-Q-10グ	磨製石斧	変玄武岩	13.6	5.2	3.4	456.2	
192	7-Q-20グ	凹石	粗粒輝石安山岩	12.4	8.4	5.9	576.3	
193	8-Q-24グ	磨石	粗粒輝石安山岩	7.3	5.5	2.9	184.1	
194	3-P-15グ	磨石	粗粒輝石安山岩	9.5	7.4	3.2	353.7	
195	10-R-04グ	磨石	粗粒輝石安山岩	10.3	9.1	3.4	504.8	
196	7-O-05グ	磨石	粗粒輝石安山岩	10.7	8.7	3.0	450.1	
197	10-R-04グ	石皿	粗粒輝石安山岩					
198	10-R-04グ	石皿	粗粒輝石安山岩					

(3). 古墳時代

1. 住居跡

9号住居跡(第74図、PL45)

位置 ①調査区東部の11-F-6·7·8·11·12·13グリッドに跨がって検出された。2·3号古墳の中間に位置する。

規模 主軸はN-90°-Eを指向し、平面東西に長いやや歪な長方形を呈する。北壁から南壁にかけて耕作により削平されており、南東隅は確認できなかった。規模は長軸(東西)7.45×短軸(南北)6.20m程を測る。壁は大きく開いて立ち上がり、壁高は0.10～0.40m程を測る。床面はほぼ平坦で、踏み固めはさほど強くない。壁溝は、検出されなかった。

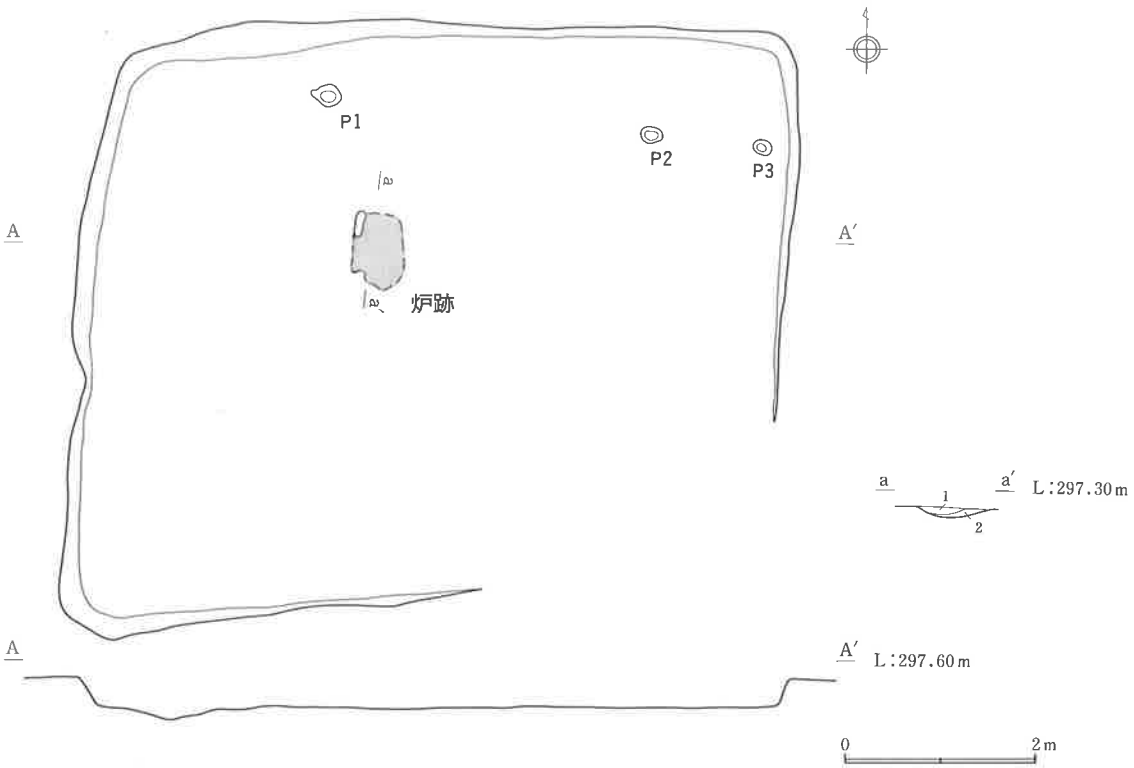
覆土 ローム粒·ロームブロック·FA軽石を含む暗茶褐色土を主体とし、自然堆積である。

柱穴 3本検出されている。P1は住居南東部の東壁際に位置し、平面楕円形で長0.25×短0.15×深0.95m程を測る。P2はP1の西1.20m程に位置し、平面楕円形で長0.25×短0.18×深0.72m程を測る。P3は住居北壁際に位置し、平面不整楕円形で長0.33×短0.25×深0.27m程を測る。何れからも柱痕跡は確認されなかった。

炉跡 住居中央やや北西寄りにて炉跡が検出された。平面南北に長い不整楕円形で長0.75×短0.55×深0.10m程を測る。炉跡北西隅では、被熱痕をもつ自然礫が検出されている。

遺物 土師器細片数点が出土している。

時期 炉跡を伴うことと土師器が出土していることから、本項に含めたが、詳細不明。



第74図　9号住居跡

2．古墳

1号古墳(第75図、PL38)

位置 ①調査区北東部の14-G-24、15-G-3·4·5グリッドに跨がって検出された。周囲は地形的にやや張り出し、古墳はこの突端部を利用して構築されている。群中で最も高所に位置している。

墳丘 遺存状況は概して悪く、規模·形状は不明である。周溝·石室の位置から、恐らく直径８ｍ内外の小円墳であったと推定される。

外部施設 墳丘東·西側で、周溝が土坑状に検出されている。西側は最大幅2.96ｍ、深さ0.27～0.35ｍ、東側は最大幅1.7ｍ、深さ0.04～0.16ｍ程を測る。覆土中から礫が数個検出されたが、数量的に葺石の存在を確定するには至っていない。

内部施設 ほぼ真南に開口する横穴式石室である。用材は多くが抜き取られ、下部のみが遺存していた。その状況より、平面両袖形を呈していたものと推測される。遺存部で全長3.2ｍ、玄室長1.8ｍ、同奥幅1.0ｍ、同前幅0.95ｍ、羨道前幅0.5ｍ程を測る。壁材は輝石安山岩の割石と河原石を乱石積にし、玄室床面には扁平な河原石が敷き詰められていた。奥壁には鏡石が据えられていたが、石室内部に倒壊していた。また、羨道前部には閉塞石とみられる割石が拡充されていた。石室外方には控積みの痕跡も検出されている。石室掘り方は平面やや歪な馬蹄形を呈し、全長5.25ｍ、奥幅3.1ｍ、前幅2.3ｍ、深さ0.11～0.36ｍ程を測る。掘り方の石室入口·袖該当部には、左右並列してピット状の窪みが検出された。これは門柱石の据付け孔と推測され、石室に羨門·玄門が具備されていたと考えられる。

遺物 検出されなかった。

2号古墳(第76図、第29表、PL39·82)

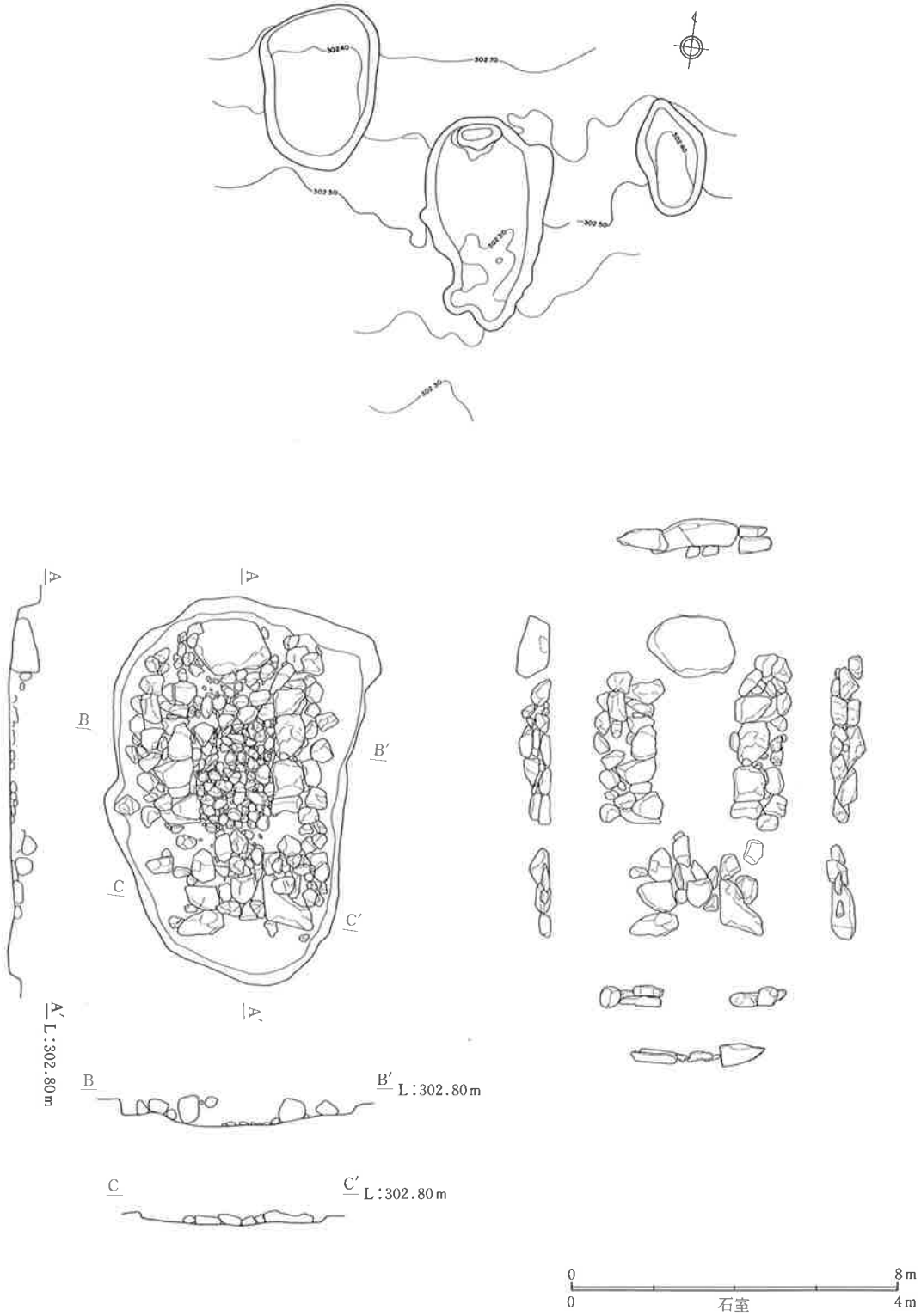
位置 ①調査区中央やや北寄り、10-G-25、10-H-21·22、11-G-5·10、11-H-1·2·6·7グリッドに跨がって検出された。1号古墳の南85ｍ程に位置している。

墳丘 遺存状況は悪いが、周溝内径8.6ｍ、同外径11.3ｍ程を測る円墳である。

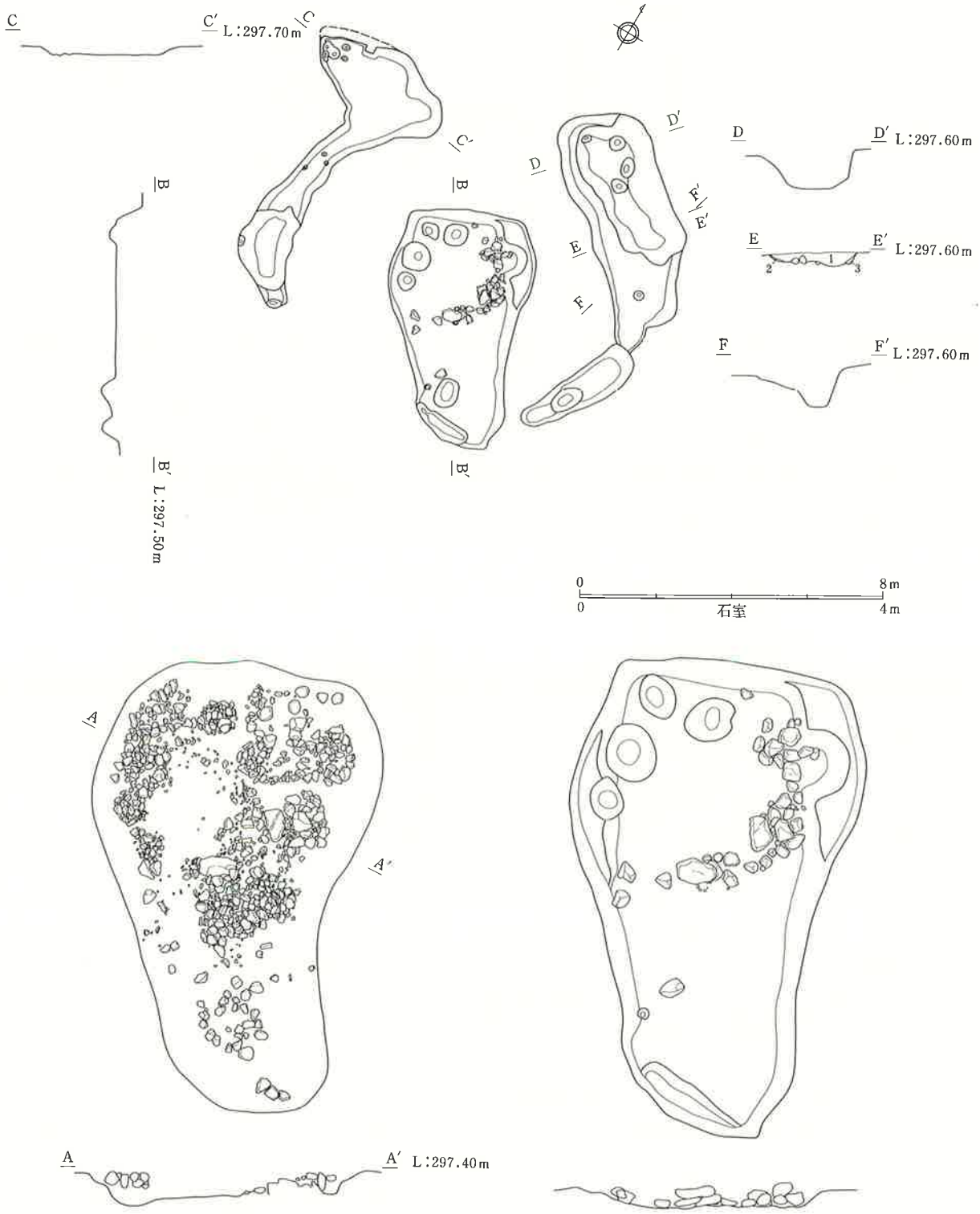
外部施設 周溝が墳丘西北·東側に遺存していた。西北側は幅0.6～1.1ｍ程を測るが、北端が顕著に広がり同部での幅は2.5ｍ程を測る。深さは0.12～0.19ｍ程である。東側は幅1.6～2.6ｍ、深さ0.11～0.47ｍ程を測る。覆土中にはローム粒·ロームブロックと風化FA軽石·As-C軽石が含まれている。周溝底部からは礫が数個検出されたが、葺石の存在は確定できなかった。

内部施設 南東に開口する横穴式石室である。用材は殆どが抜き取られ、裏込めと僅かな用材が遺存していた。玄室部では壁材数石が散乱していたが、原位置を留めるのは梱石１石と、東側壁材１石のみである。羨道部では、敷石の一部のみが遺存していた。壁材は輝石安山岩の割石を用い、玄室床面からは割石の細片と小振りの河原石が少量検出されている。石室掘り方は平面イチジク形を呈し、全長5.9ｍ、最大幅3.8ｍ、括れ部幅2.4ｍ、最小幅2.1ｍ、深さ0.24～0.37ｍ程を測る。掘り方内の玄室該当部には、石材の据付け孔が顕著に認められ、やや大振りの石材を用材にしていたと推測された。また掘り方平面形状から、石室平面形が両袖形を呈す可能性も示唆された

遺物 須恵器大甕1個体が出土したのみである。



第75図　1号古墳


C
C′ L:297.70m
C
C′
B
B′ L:297.50m
B
B′
D
D′
E
E′
F
F′
D
D′ L:297.60m
E
E′ L:297.60m
F
F′ L:297.60m
0
8m
0
石室
4m
A
A′
A
A′ L:297.40m

第76図　2号古墳

3号古墳(第77図、PL40)

位置 ①調査区東端の11-C-5·9·10、11-D-6グリッドに跨がって検出された。2号古墳の東95m程に位置している。

墳丘 遺存状況は概して悪く、規模·形状は不明である。周溝·石室の位置から、恐らく直径7m内外の小円墳であったと推定される。

外部施設 墳丘北西·北東側で、周溝が土坑状に検出されている。北西側は最大幅1.9m、深さ0.11～0.29m、北東側は最大幅1.5m、深さ0.11～0.16m程を測る。覆土中にはローム粒·ロームブロックと風化FA軽石·As-C軽石が含まれている。周溝内からは礫がやや多く検出され、葺石の存在が推定される。

内部施設 ほぼ真南に開口する横穴式石室である。用材は多くが抜き取られ、玄室のみが遺存していた。遺存部で全長2.5m、奥幅0.7m、最大幅0.8m、前幅0.7m程を測る。壁材は輝石安山岩の割石と河原石を乱石積にし、床面には扁平な河原石が敷き詰められていた。奥部には鏡石の抜取り痕が検出されている。石室外方には控積みが施されていた。石室掘り方は平面長楕円形を呈し、全長5m、奥幅2.4m、前幅1.6m、深さ0.03～0.21m程を測る。掘り方の石室入口·袖該当部には、門柱石の据付け孔が検出され、本石室が両袖形を呈し、羨門·玄門が具備されていた可能性が指摘された。

遺物 検出されなかった。

4号古墳(第78図、PL41)

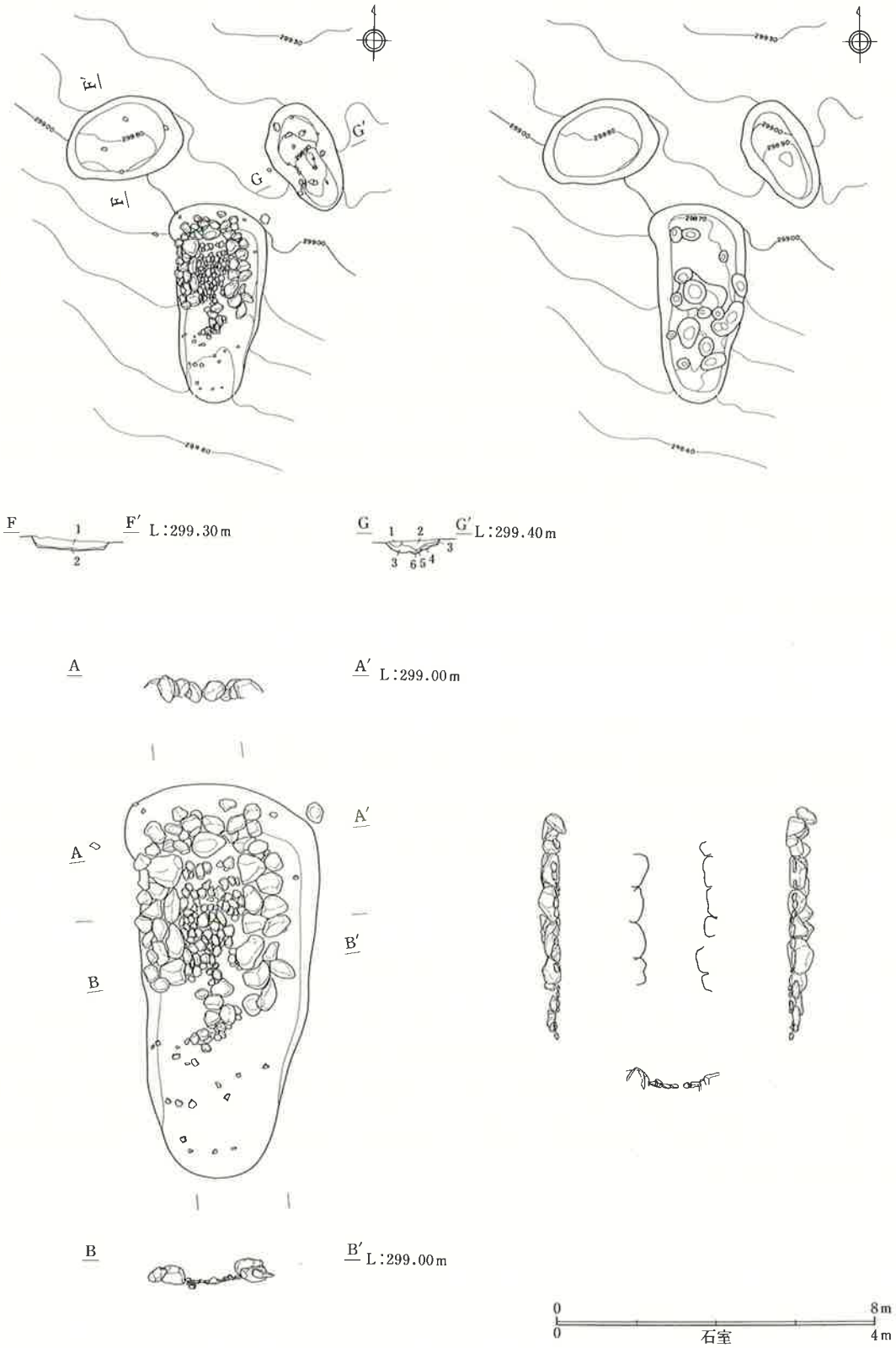
位置 ①調査区中央やや西、8-J-2·3、9-J-2·3·4·7·8·9グリッドに跨がって検出された。2号古墳の南西65m程に位置している。

墳丘 遺存状況は概して悪く、規模·形状は不明である。周溝·石室の位置から、恐らく直径9m内外の小円墳であったと推定される

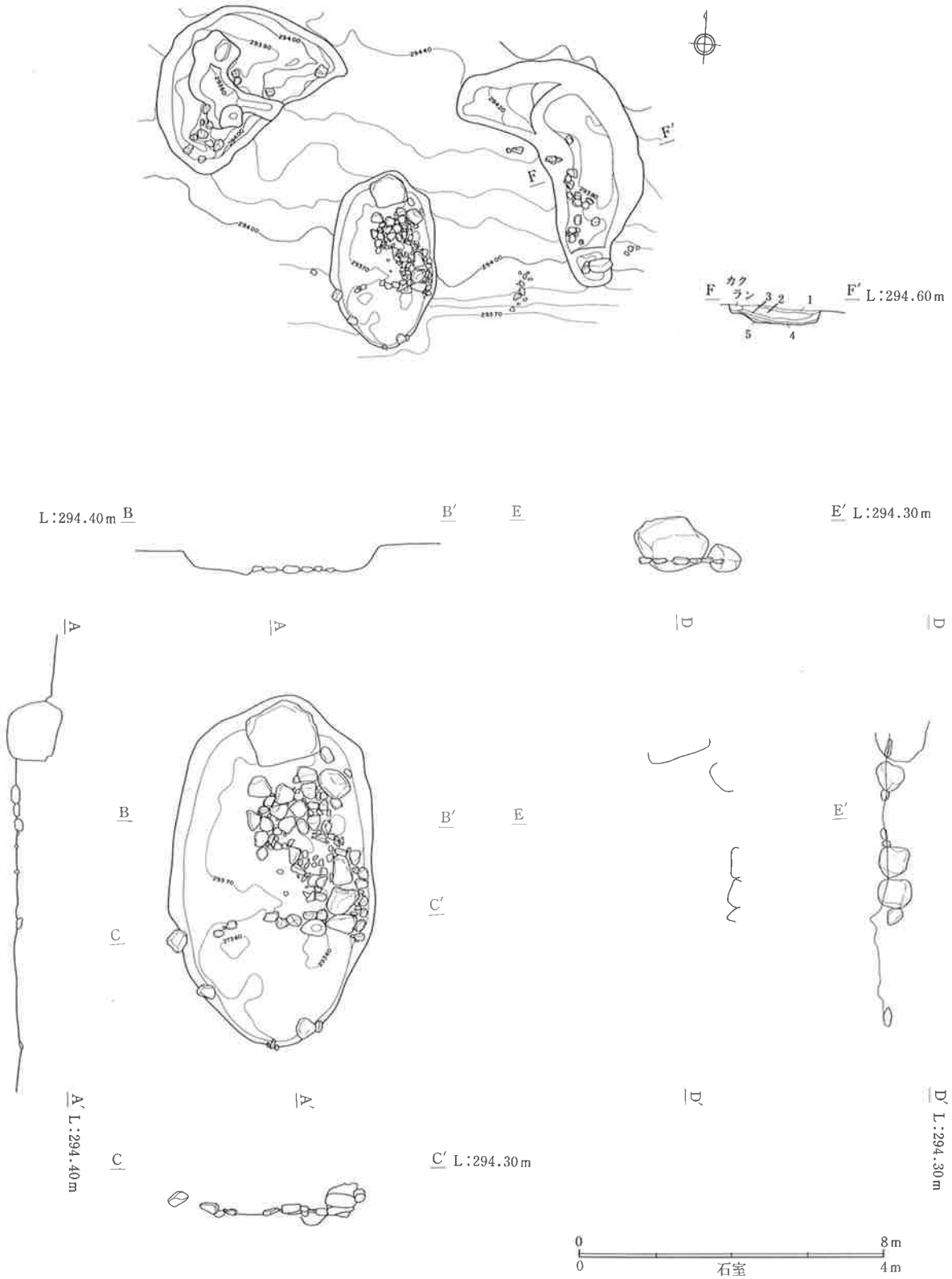
外部施設 墳丘北西·北東側で、周溝が土坑状に検出されている。北西側は最大幅3.5m、深さ0.18～0.26m、西側は幅1.9～2.5m、深さ0.17～0.6m程を測る。覆土中にはローム粒·ロームブロックと風化FA軽石·As-C軽石が含まれている。周溝内からは礫が多量に検出され、葺石の流れ込みと推測される。墳丘東部には葺石も若干遺存していた。

内部施設 ほぼ真南に開口する横穴式石室である。用材は殆どが抜き取られ、玄室東壁の一部が遺存していた。従って規模は不明である。壁材は輝石安山岩の割石を乱石積にし、奥壁鏡石は角閃石安山岩の削石を使用している。その整形は粗く、一部に切組を有す。床面には扁平な河原石と割石の小片が敷き詰められていた。奥部には鏡石が検出されているが、石室外方に倒壊していた。東部では裏込めも若干遺存していた。石室掘り方は平面楕円形を呈し、全長4.6m、最大幅2.7m、深さ0.1～0.38m程を測る。

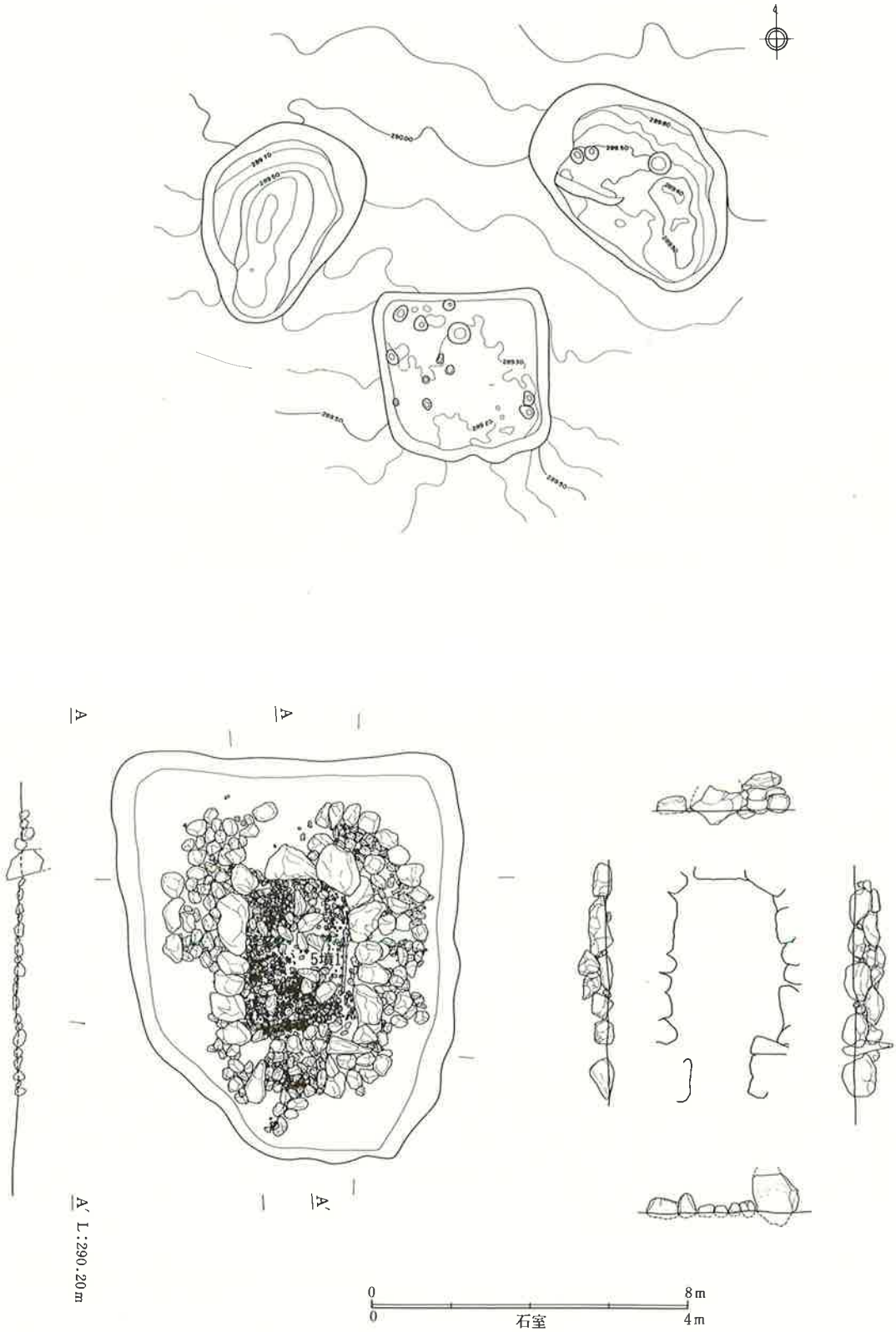
遺物 検出されなかった。



第77図　3号古墳


F
F′
カクラン
3
2
1
5
4
F′ L:294.60m
L:294.40m
B
B′
E
E′ L:294.30m
A
A
D
D
B
B′
E
E′
C′
C
A′ L:294.40m
A′
D′
D′ L:294.30m
C
C′ L:294.30m
0
8m
0
石室
4m

第78図　4号古墳



第79図　5号古墳

5号古墳(第79図、PL42·82)

位置 ①調査区南部の6-I-9·10、6-H-6·11グリッドに跨がって検出された。4号古墳の南西60m程に位置している。群中最も低い位置に占地している。

墳丘 遺存状況は概して悪く、規模·形状は不明である。周溝·石室の位置から、恐らく直径10m内外の小円墳であったと推定される

外部施設 墳丘北西·北東側で、周溝が土坑状に検出されている。北西側は最大幅3.8m、深さ0.3～0.76m、北東側は最大幅4m、深さ0.35～0.64m程を測る。覆土中にはローム粒·ロームブロックと風化FA軽石·As-C軽石が含まれている。周溝内からは礫が数点検出されているが、葺石の存在は確定できなかった。

内部施設 ほぼ真南に開口する横穴式石室である。用材は多くが抜きとられていたが、玄室部は比較的良好に遺存していた。平面両袖形を呈し、遺存長3.0m、玄室長2.0m、同奥幅1.1m、前幅1.3m、羨道遺存部幅0.8m程を測る。奥壁はやや外方に張る。壁材は輝石安山岩の割石を乱石積にし、床面には扁平な河原石が敷き詰められ、さらにその上に玉砂利が敷かれていた。奥部には鏡石が設置されているが、その上部は既に打ち欠かれていた。袖部には板石を縦に一枚設置しており、玄門を意識したものと推測される。またその床面には梱石が4石並べられていた。石室外方からは控積みが楕円形に検出されている。石室掘り方は平面方形を呈し、東西4.1m、南北3.9m、深さ0.2～0.3m程を測る。控積みと掘り方とのあいだは埋土で突き固められていた。

遺物 玄室内から直刀3、鉄族8、鍔1、刀子2、不明鉄製品1点が検出されている。特に直刀1は、東壁際から原位置のまま出土している。

古墳土層説明

2号古墳

1. 黒褐色土　ﾛｰﾑ粒·ﾛｰﾑﾌﾞﾛｯｸ·やや風化したFAをやや密に含む。
2. 暗褐色土　ﾛｰﾑﾌﾞﾛｯｸを密に含む。
3. 褐色土　ﾛｰﾑ粒·ﾛｰﾑﾌﾞﾛｯｸをやや密に含む。

3号古墳

1. 暗褐色土　ﾛｰﾑ粒を含む。
2. 黒褐色土　ﾛｰﾑﾌﾞﾛｯｸ·やや風化したFA·As-Cを含む。
3. 黒褐色土　As-C·FAをやや密、ﾛｰﾑﾌﾞﾛｯｸ含む。
4. 褐色土　ﾛｰﾑ粒·ﾛｰﾑﾌﾞﾛｯｸ含む。
5. 茶褐色土　ﾛｰﾑ粒·ﾛｰﾑﾌﾞﾛｯｸを多く含む。
6. 黄褐色土　ﾛｰﾑﾌﾞﾛｯｸを多量に含む。

4号古墳

1. 暗褐色土　ﾛｰﾑﾌﾞﾛｯｸ·FAを含む。
2. 黒褐色土　FAをやや密に含む。風化したAs-Cを疎に含む。
3. 茶褐色土　ﾛｰﾑ粒·ﾛｰﾑﾌﾞﾛｯｸ·FAを含む。
4. 暗褐色土　ﾛｰﾑ粒·ﾛｰﾑﾌﾞﾛｯｸをやや密に含む。FA·As-C含む。
5. 茶褐色土　ﾛｰﾑﾌﾞﾛｯｸを多量に含む。

第29表　2号古墳出土土器観察表

番号	器種	出土状態 残存状態	法量(cm)	胎土・色調	器形・成・整形の特徴	備考
1	甕 須恵器	覆土 胴下半部1/2	口：—— 底：—— 高：(34.2)	小砂礫 暗灰色	胴部球状を呈する。	

２－１．５号古墳出土鉄製品(第80図、PL82)

直刀(1･10･11)

1は完存の刀身である。全長83.8㎝、身幅3.1㎝、棟厚0.7㎝、茎長11.0㎝、同中央幅1.7㎝、同厚0.5㎝程を測る。両関で刃部は平造りである。関部には鞘元金具が遺存している。**10･11**は刀身残欠である。**10**は遺存長10.6㎝、身幅1.9㎝、棟厚0.3㎝程を測る。平造りである。**11**は遺存長5.4㎝、身幅2.4㎝、棟厚0.3㎝程を測る。腐食が著しく詳細不明である。

鍔(15)

1/2が遺存する。縦7.8㎝、横(推定)7.6㎝、厚さ0.3㎝程を測る。やや逆三角形を呈し、６窓式。

鉄鏃(2～9)

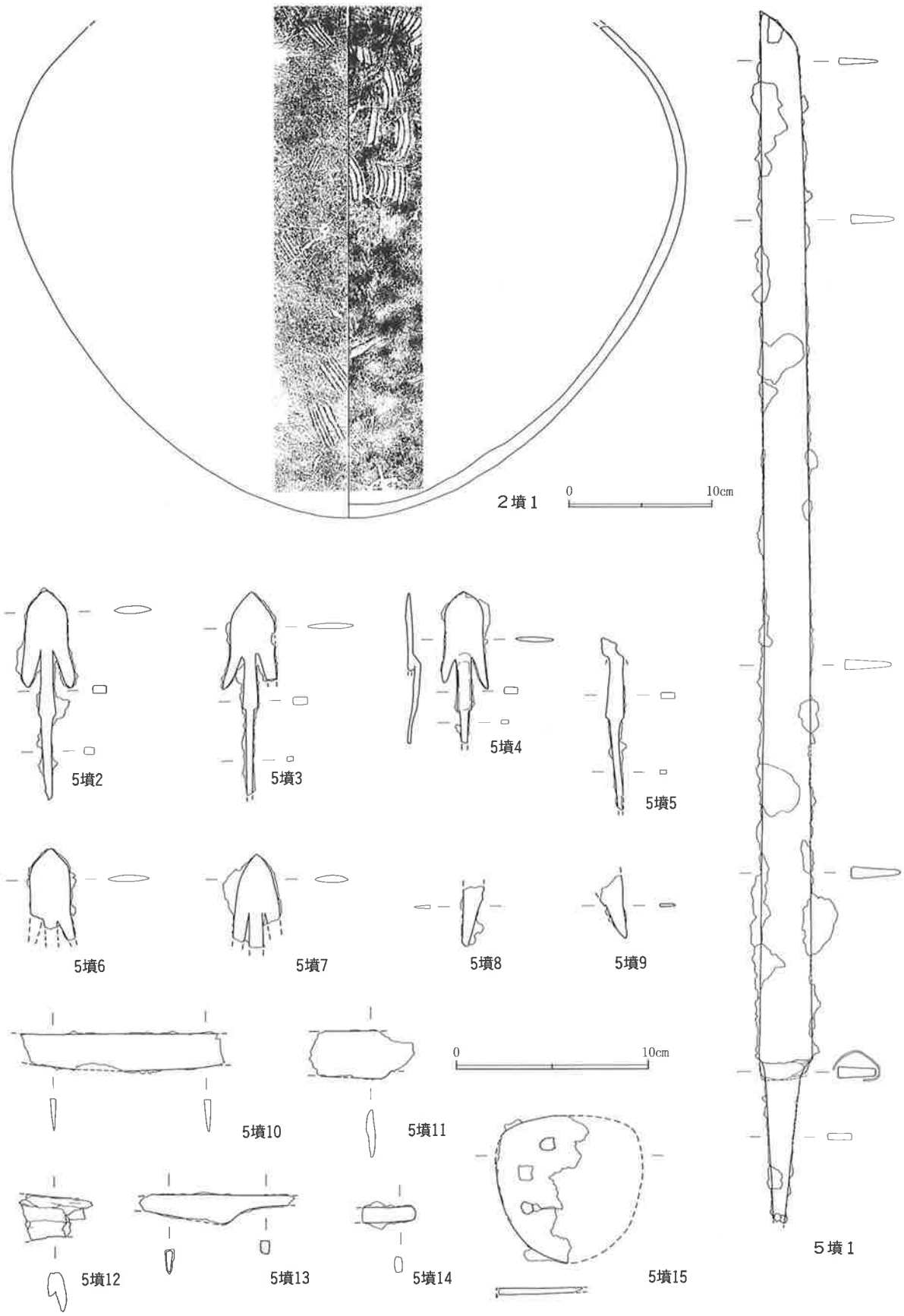
2～4･6･7は広根腸抉長三角鏃で、深逆刺を有す。**2**は全長10.9㎝、鋒部長3.1㎝、同厚0.4㎝、腸抉部幅2.2㎝、柄部長3.5㎝、同幅0.6㎝、茎部幅0.5㎝程を測る。逆刺先端は僅かに外反する。**3**は茎部の先端を欠損する。遺存長10.5㎝、鋒部長3.2㎝、同厚0.3㎝、腸抉部幅2.3㎝、柄部長2.9㎝、同幅0.8㎝、茎部幅0.3㎝程を測る。逆刺先端はやや外反する。**4**は茎部の大半を欠損する。遺存長7.9㎝、鋒部長3.5㎝、同厚0.2㎝、腸抉部幅2.1㎝、柄部長2.8㎝、同幅0.7㎝、茎部幅0.4㎝程を測る。逆刺先端は僅かに外反する。鋒部と柄部は打ち付けによって接合されている。**6**は茎部と柄部の殆どを欠損する。遺存長4.1㎝、鋒部長3.7㎝、同厚0.3㎝、腸抉部幅2.1㎝、柄部幅0.6㎝程を測る。逆刺はやや外反する。**7**は茎部と柄部の大半を欠損する。遺存長4.8㎝、鋒部長3.0㎝、同厚0.4㎝、腸抉部幅2.3㎝、柄部幅0.7㎝程を測る。**5**は長頸両刃鏃である。鋒部は端刃で平面三角形を呈す。茎部先端を欠損し、鋒部は曲折している。遺存長9.0㎝、鋒部長1.0㎝、同最大幅0.9㎝、柄部長3.6㎝、同幅0.8㎝、同厚0.3㎝、茎部幅0.3㎝、同厚0.2㎝程を測る。**8･9**は逆刺部である。**8**は遺存長3.0㎝、厚さ0.2㎝程を測る。**9**は遺存長3.1㎝、厚さ0.1㎝程を測る。

刀子(13･14)

13は刀身で、刃部先端と茎部先端を欠損する。遺存長8.1㎝、身幅1.1㎝、棟厚0.4㎝、茎幅0.6㎝、同厚0.4㎝程を測る。片関である。**14**は茎部先端で遺存長2.8㎝、幅0.8㎝、厚さ0.4㎝程を測る。

不明鉄製品(12)

遺存長3.8㎝、幅2.0㎝、厚さ0.9㎝程を測る。腐食が著しく、詳細不明である。



第80図　2·5号古墳出土遺物

（4）．歴史時代

1．住居跡

1号住居跡(第81·89図、第29表、PL43·83)

位置　①調査区北部の18-I-23·24、19-I-3·4グリッドに跨がって検出された。3号溝跡の北に位置する。

規模　主軸はN-94°-Eを指向し、平面長方形を呈する。規模は長軸(南北)4.00×短軸(東西)3.10ｍ程を測る。壁はやや開き気味に立ち上がり、壁高は0.20ｍ程を測る。床面はほぼ平坦で、踏み固めは弱い。壁溝は検出されなかった。

覆土　浅間Ｃ軽石·ＦＡ軽石を含む黒褐色土を主体とし、自然堆積である。

柱穴　P1は住居中央やや南に位置し、平面円形で径0.30ｍ、深さは0.80ｍ程と深い。主柱穴と成りうるか、詳細は不明である。

貯蔵穴　検出されなかった。

カマド　東壁中央南寄りに位置し、壁外に0.50ｍ程張り出して構築されていた。遺存状況は比較的良好である。袖部は検出されなかったが、カマド前面にて袖石の掘り込み痕がピットとして確認できた。また、天井部懸架材もその位置をズラしながらも、ほぼ原位置にて確認されている。焚き口の掘り込みは極めて弱く、ほぼ平坦な燃焼部から煙道部にかけては緩やかに立ち上がり、煙出しは角度を持って立ち上がる。

付属施設　D1は床下土坑で、カマドの延長線上の住居中央南、P1の西に位置する。平面円形に近い楕円形を呈し、長0.76×短0.70×深0.20ｍ程を測る。D2も床下土坑で、D1の北西0.5ｍ程に位置する。平面不整楕円形で、長1.00×短0.60×深0.18ｍ程を測る。D1·D2共に、覆土はＦＡ軽石·ロームブロックを含む暗褐色土を主体としている。

遺物　覆土からの検出が大半で、カマド、及びその周辺にて若干量の破片が認められた。

2号住居跡(第81図、PL43)

位置　①調査区北部の18-J-19·20·24·25グリッドに跨がって検出された。緩傾斜地に位置し、1号住居跡の南西30ｍ程にて検出された。

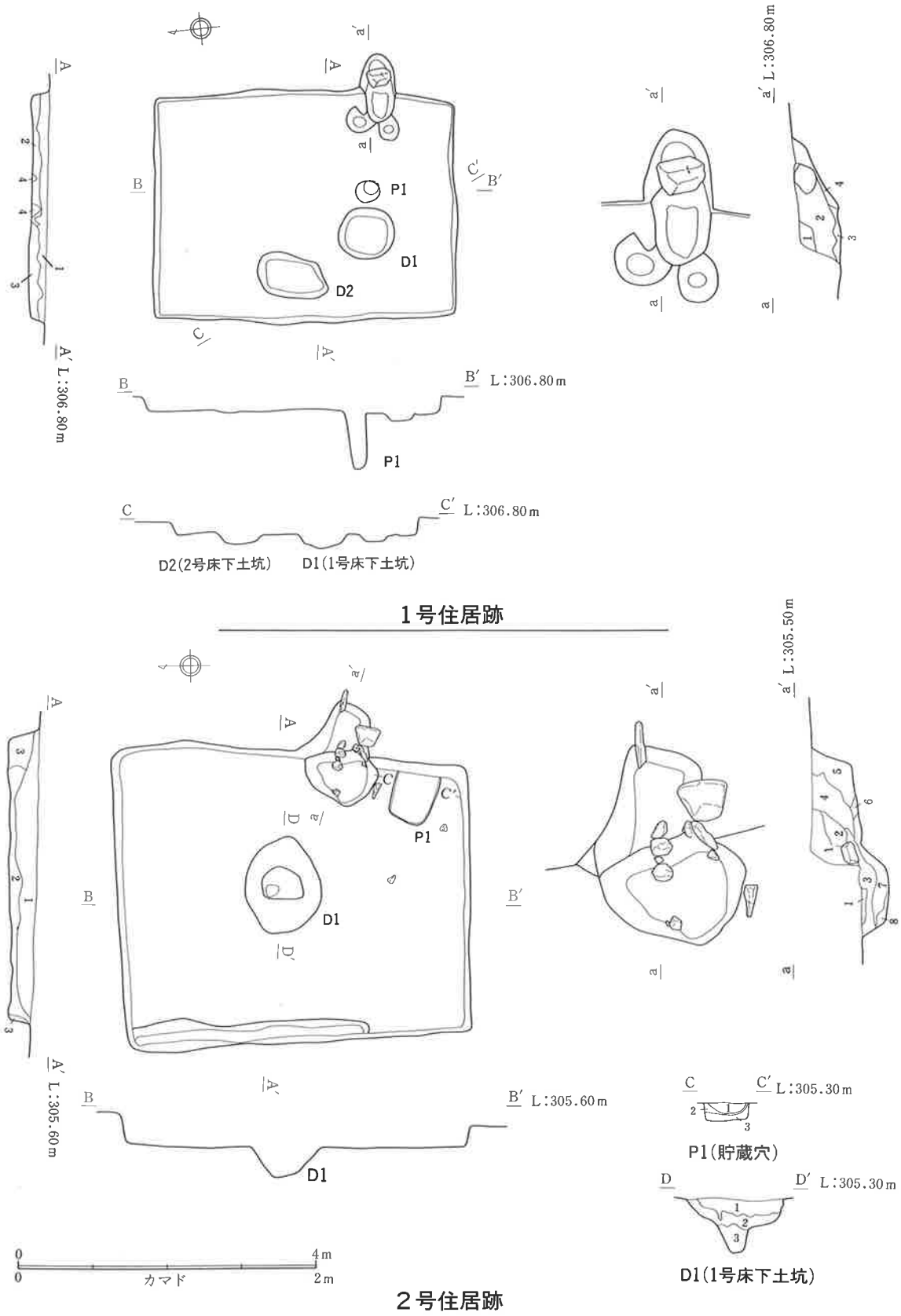
規模　主軸はN-94°-Eを指向し、平面北が開く台形を呈する。規模は南辺3.50ｍ、北辺3.95ｍ、東辺4.70ｍ、西辺4.55ｍ程を測る。壁はやや開き気味に立ち上がり、壁高は0.40ｍ程を測る。床面はほぼ平坦で、住居中央の踏み固めがやや強い。壁溝は、西辺の北西隅から中央やや南寄りにかけて検出された。その長さ3.15ｍ、幅20～30㎝、深さ4～5㎝程を測る。

覆土　浅間Ｃ軽石·ＦＡ軽石を含む黒褐色土を主体としている。

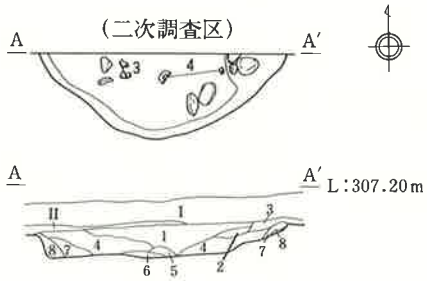
柱穴　検出されなかった。

貯蔵穴　住居南東部に位置する。平面長方形で、長0.68×短0.58×深0.23ｍ程を測る。覆土は暗褐色土を主体としている。

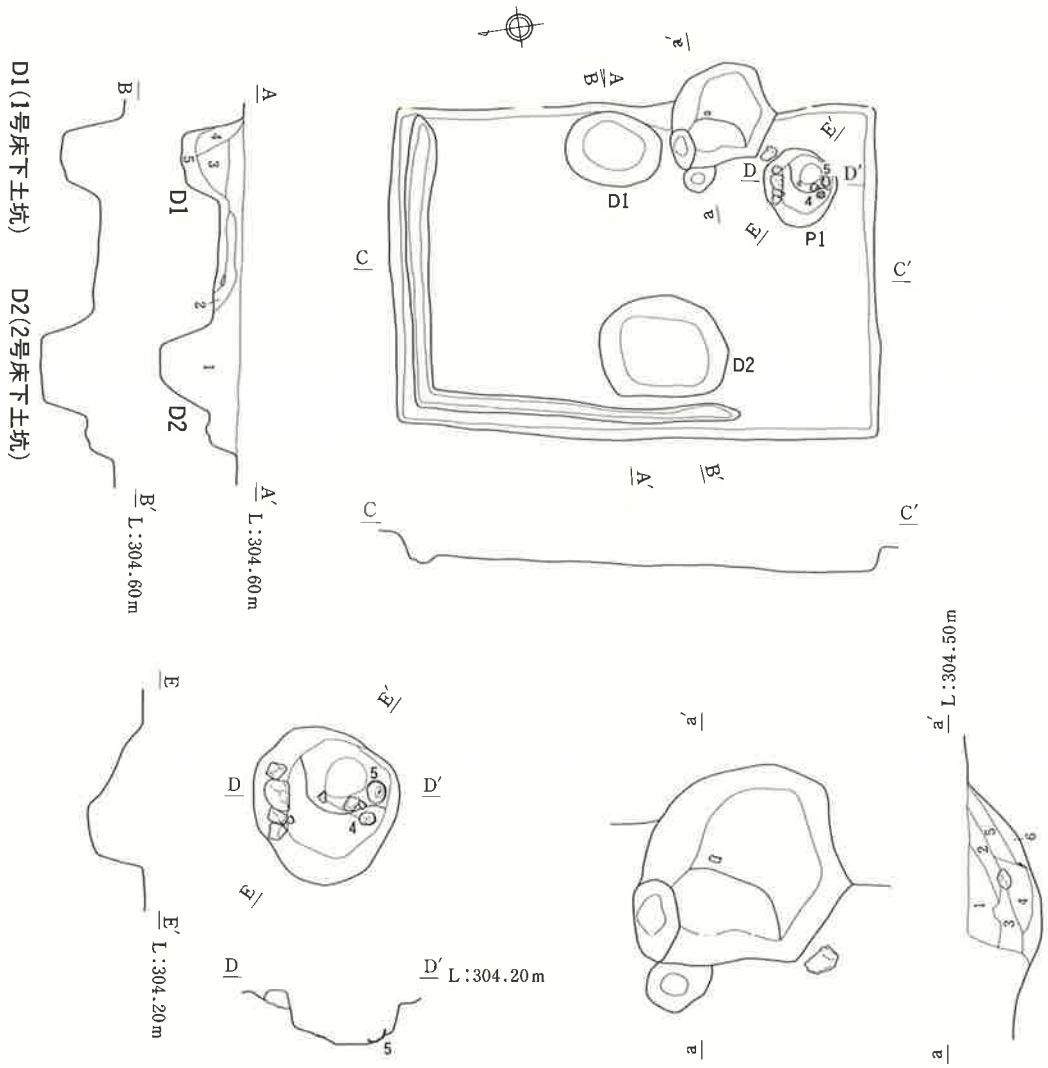
カマド　東壁中央南寄りに位置し、壁外に0.70ｍ程張り出して構築されていた。遺存状況は比較的良好である。袖部は検出されなかったが、袖構築材と捉えられる礫が散在して検出された。焚き口はかなり掘り込まれており、平面楕円形を呈する燃焼部はほぼ平坦で、被熱痕顕著であった。煙道部は角度をもって立ち上がる。


A
A′ L:306.80m
B
B′ L:306.80m
P1
D1
D2
C
C′ L:306.80m
D2(2号床下土坑)
D1(1号床下土坑)
a′ L:306.80m
1号住居跡
A
A′ L:305.60m
B
B′ L:305.60m
P1
D1
D
D′
C
C′
a′ L:305.50m
C
C′ L:305.30m
P1(貯蔵穴)
D
D′ L:305.30m
D1(1号床下土坑)
0
4m
カマド
2m
2号住居跡

第81図　1·2号住居跡



3号住居跡



4号住居跡

第82図　3·4号住居跡

付属施設 D1は床下土坑である。住居ほぼ中央に位置する。平面は楕円形を呈し、長1.30×短1.00×深0.70ｍ程を測る。ＦＡ軽石･ロームブロックを含む黒色土を主体としている。

遺物 カマド内と覆土中より、少量出土している。

３号住居跡《二次調査1号住居跡》(第82･89図、第29表、PL43･83)

位置 ①調査区北端部の19-I-10･15、19-J-6･11グリッドに跨がって検出された。一次調査時には、住居の大半は未買収地に位置していた。買収後の二次調査区にて住居の全容が明らかになった為、概要は二次調査1号住居跡にて記し、本項では省略する。

規　模～二次調査参照

覆　土～二次調査参照

柱　穴～二次調査参照

貯蔵穴～二次調査参照

カマド～二次調査参照

遺物 灰釉陶器が、床面直上にて出土している。

４号住居跡(第82･89･90･96図、第29表、PL43･83)

位置 ①調査区北部の17-J-19･24グリッドに跨がって検出された。2号住居跡の南東17ｍ程に位置する。

規模 主軸はN-100°-Eを指向し、平面南北に長い長方形を呈する。規模は長軸(南北)5.15×短軸(東西)3.55ｍ程を測る。壁は直立気味に開き、壁高は0.30ｍ程を測る。床面はほぼ平坦で、踏み固めは弱い。壁溝は、北壁から西壁にかけてＬ字状に検出されたが、壁から5～10㎝程離れて構築されていた。壁溝の長さは6.48ｍ、幅25㎝、深さ7㎝程を測る。

覆土 浅間Ｃ軽石･ＦＡ軽石を含む黒褐色土を主体とし、自然堆積である。

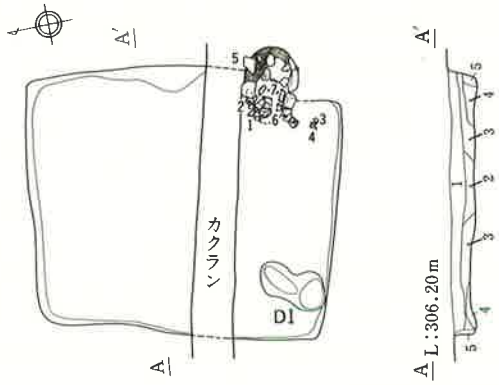
柱穴 検出されなかった。

貯蔵穴 P1は住居南東部、東･南壁から0.3ｍ程離れて検出された。中位に段を有し、平面楕円形で長0.83×短0.78×深0.25ｍ程を測る。カマド構築材と思われる被熱した自然礫が、覆土上層有段部から検出されている。

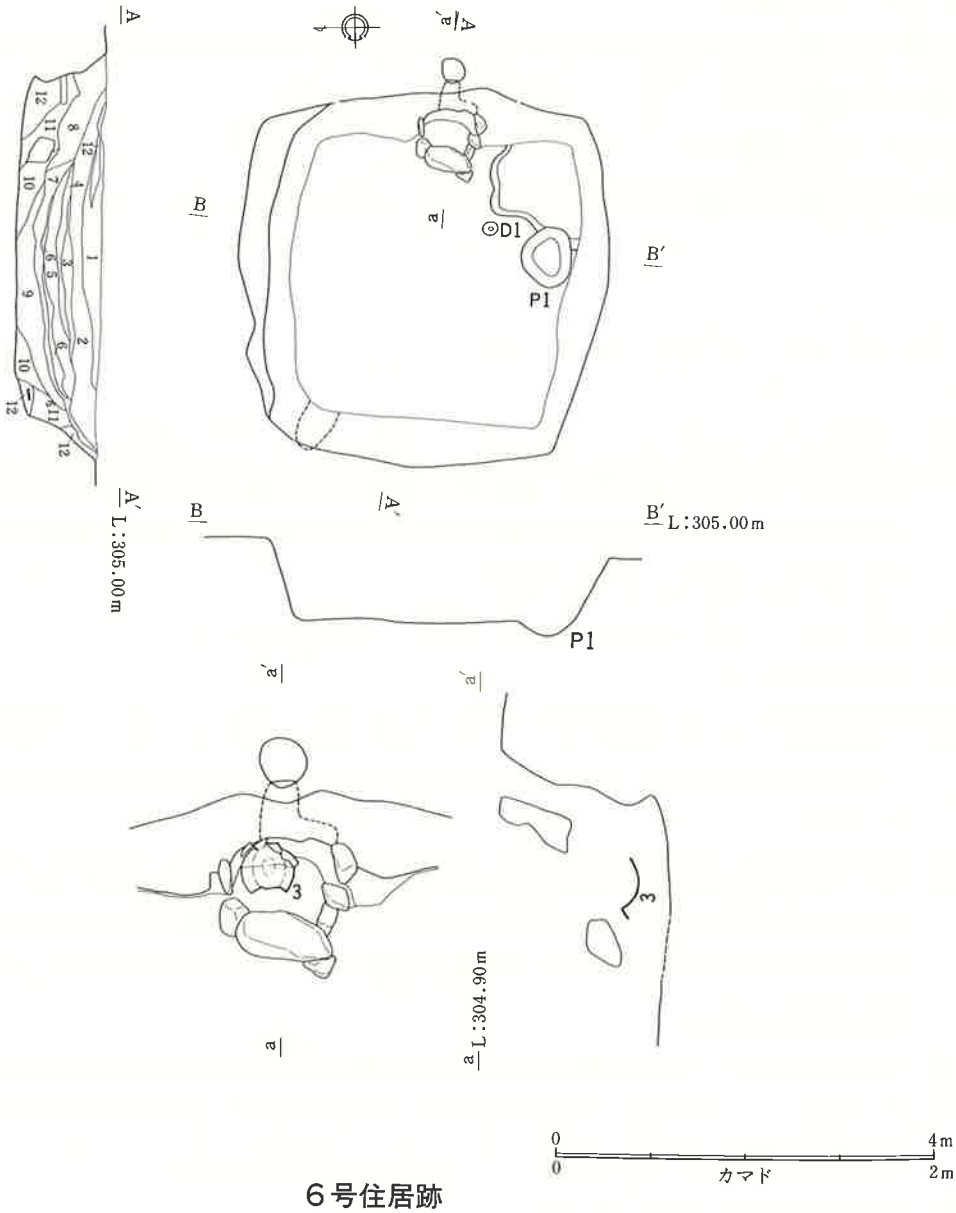
ｶﾏﾄﾞ 東壁中央南寄りに位置し、壁外に0.50ｍ程張り出して構築されていた。貯蔵穴にカマド構築材と思われる自然礫の流出が認められ、遺存状況は良好とは言えない。袖部も検出されなかったが、袖石痕と思われるピットが確認されている。燃焼部から煙道部にかけてはゆるやかに立ち上がり、やや角度を持って煙出しに至る。

付属施設 D1は床下土坑で、西壁壁溝際に位置する。平面楕円形で長1.35×短1.10×深0.41㎝程を測る。D2も床下土坑で、カマドの北、東壁際に位置する。平面楕円形で、長1.00×短0.80×深0.45ｍ程を測る。D1･D2共に、覆土はＦＡ軽石･ロームブロックを含む暗褐色土を主体としている。

遺物 覆土中と貯蔵穴から出土している。



5号住居跡



6号住居跡

第83図　5·6号住居跡

5号住居跡(第83·90·91図、第29·30表、PL44·83)

位置 ①調査区北部の17-I-13·14グリッドに跨がって検出された。4号住居跡の南東25ｍ程に位置する。住居中央を、耕作により攪乱されて検出された。

規模 主軸はN-107°-Eを指向し、平面南北に長い不整長方形を呈する。東壁のみ直線的でなく、カマド南でＬ字型に屈曲している。規模は長軸(南北)3.30×短軸(東西)2.80ｍ程を測る。壁は直立気味に開き、壁高は0.25ｍ程を測る。床面はほぼ平坦で、踏み固めは弱い。壁溝は、検出されなかった。

覆土 浅間Ｃ軽石·ＦＡ軽石を含む黒褐色土を主体とする。

柱穴 検出されなかった。

貯蔵穴 検出されなかった。

ｶﾏﾄﾞ 東壁中央南寄りに位置し、壁外に0.30ｍ程張り出して構築されていた。遺存状況は比較的良好である。カマド構築材として自然礫が使用されていた。燃焼部から煙道部にかけては角度をもって立ち上がる。

付属施設 D1は床下土坑で、南壁際に位置する。平面不整形を呈し、長0.75×短0.35×深0.40ｍ程を測る。覆土はＦＡ軽石·ロームブロックを含む暗褐色土を主体としている。

遺物 カマドに集中する他、覆土中から出土している。

6号住居跡(第83·91図、第30表、PL44·83)

位置 ①調査区北部の17-I-9グリッドにて検出された。5号住居跡の南西3ｍ程に位置する。

規模 主軸はN-90°-Eを指向し、平面ほぼ方形を呈する。規模は4.00ｍ程を測る。壁はやや開き気味に立ち上がり、中位にて大きく開く。壁高は0.90ｍ程を測る。床面は平坦で、カマド周囲で踏み固めが強い。壁溝は検出されなかった。

覆土 浅間Ｃ軽石·ＦＡ軽石·ローム粒·ロームブロックを含む黒褐色土を主体としている。

柱穴 検出されなかった。

貯蔵穴 住居南東隅にて検出された。P1は平面楕円形を呈し、長0.65×短0..55×深0.20ｍ程を測る。

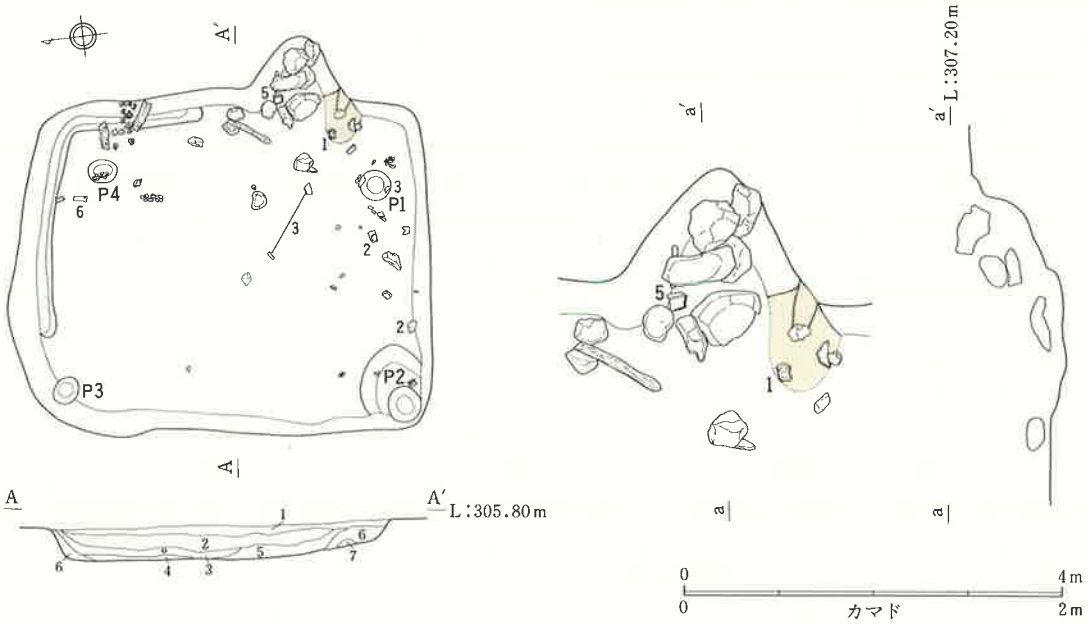
ｶﾏﾄﾞ 東壁ほぼ中央に位置し、壁外に煙出しが確認された。遺存状況は良好である。自然礫で構築されており、袖石に跨るように天井部懸架材の一部も確認された。ほぼ平坦な燃焼部は方形を呈し、煙道部はほぼ直立気味に立ち上がり、壁外の煙出しへと至る。

付属施設 D1は床下土坑で、住居南東部に位置する。平面不整形を呈し、長1.10×短0.90×深0.15ｍ程の規模を測る。

遺物 覆土からの出土が大半で、カマド、及びその周辺にて若干量の破片が認められた。

7号住居跡

欠　番



第84図　8号住居跡

8号住居跡(第84·91·96図、第30表、PL44·45·83·84)

位置　②調査区東部の19-L-16·21グリッドに跨がって検出された。2号住居跡の北西38m程に位置する。

規模　主軸はN-98°-Eを指向し、平面長方形を呈する。規模は長軸(南北)4.35×短軸(東西)3.60m程を測る。壁は開き気味に立ち上がり、壁高は0.35m程を測る。床面はほぼ平坦で、踏み固めは弱い。壁溝は住居北壁から東壁北部にかけてL字状に検出された。幅12～18cm、深さ2～11cm程を測る。

覆土　浅間C軽石·FA軽石を含む黒褐色土を主体とし、自然堆積である。

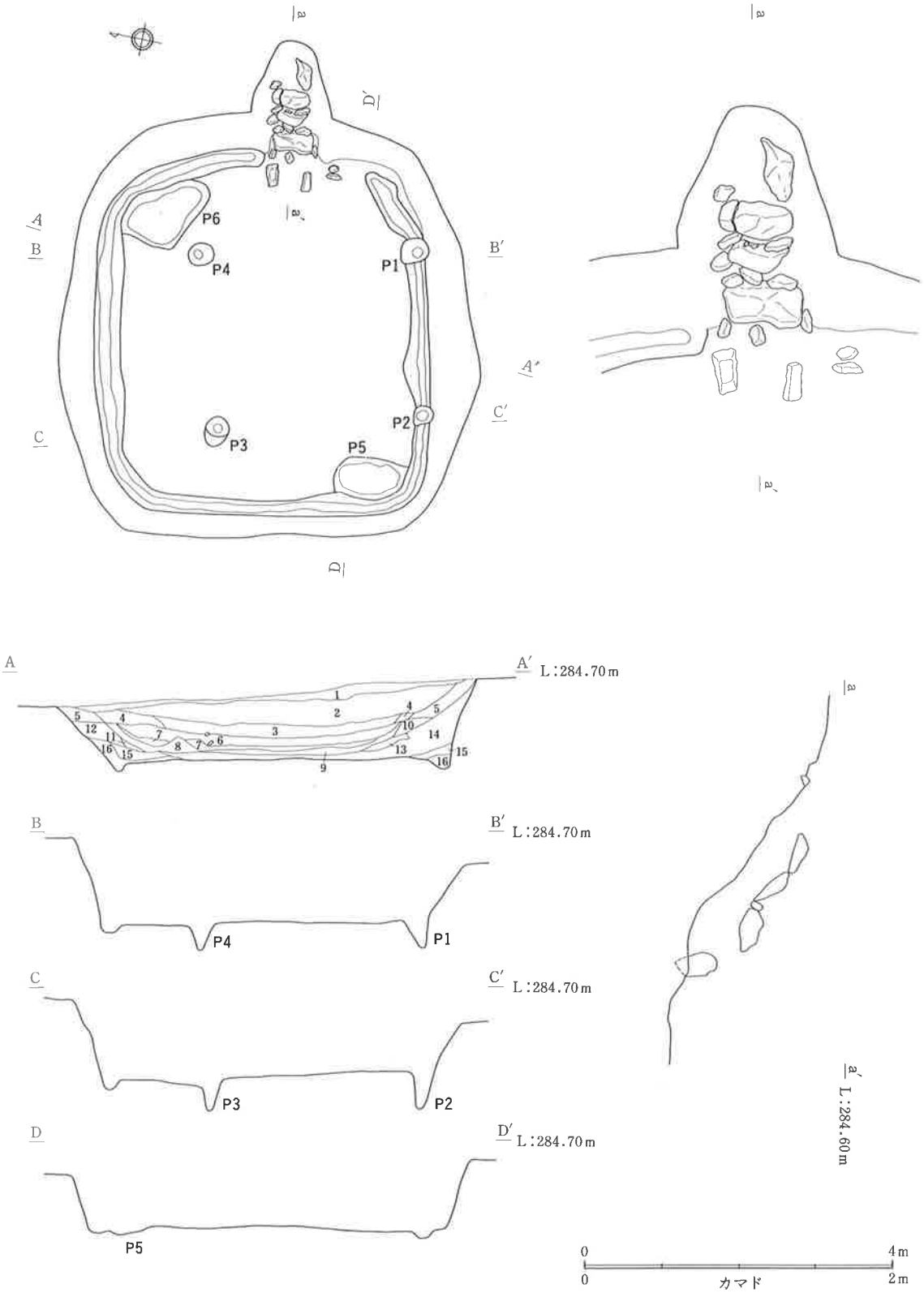
柱穴　主柱穴が4本検出された。P1は住居南東部にて検出され、平面円形で径0.30m×深0.58m程を測る。P2は住居南西隅にて検出され、平面不整円形で径0.35m×深0.47m程を測る。P3はP2の対の位置の北西隅にて検出され、平面楕円形で長0.30×短0.25×深0.45m程を測る。P4は住居北東部に位置し、平面楕円形で長0.30×短0.24×深0.71m程を測る。

貯蔵穴　検出されなかった。

ｶﾏﾄﾞ　東壁中央南寄りに位置し、壁外に0.60m程張り出して構築されていた。遺存状況は比較的良好である左袖部は不明であるが、右袖部は地山に近似した粘土に砂礫を混入して突き固めて構築されていた。また袖石や天井部懸架材の一部は、原位置を留めて検出された。カマド内で散在して検出された自然礫の一部は、被熱痕から袖石と判明した。また袖石を埋め込む為の掘り込みも左右で確認された。燃焼部はほぼ平坦で平面楕円形を呈し、短い煙道部から煙出しへは角度を持って立ち上がる。

付属施設　P2と重複して住居南西端にて床下土坑が検出された。D1は平面不整楕円形で長0.80×短0.65×深0.15m程を測る。

遺物　カマド全面から住居南部にかけて集中する。また、住居北部東壁際には炭化材が投げ込まれている。


a
D′
A
B
P6
P4
P1
B′
A′
C′
C
P3
P5
P2
a′
D
A
A′ L:284.70m
B
B′ L:284.70m
P4
P1
C
C′ L:284.70m
P3
P2
D
D′ L:284.70m
P5
a′ L:284.60m
0
4m
0
2m
カマド

第85図　10号住居跡

9号住居跡

古墳時代編

１０号住居跡(第85·91·92·93·96図、第30·31表、PL45·84)

位置　①調査区南端部、緩やかな傾斜地の2-K-23·24、3-K-2·3·4グリッドに跨がって検出された。他の住居とはその位置を大きく異にする。

規模　主軸はN-83°-Eを指向し、平面丸みを持つ隅丸方形を呈する。長軸(東西)5.50×短軸(南北)5.40ｍ程を測る規模である。壁は床面からやや開き気味に立ち上がり、中位から上場にかけては大きく開いて立ち上がる。壁高は1.0ｍ程を測る。床面はほぼ平坦で、ロームブロックと暗褐色土ブロックの混土で張床されており、特に住居中央部の踏み固めが強い。壁溝は、カマド部を除いて全周して検出された。その幅15～30㎝、深さ12㎝程を測る。

覆土　ＦＡ軽石をやや密に含む暗褐色土を主体とし、ローム粒·ロームブロック·焼土粒·炭化物を含む自然堆積である。

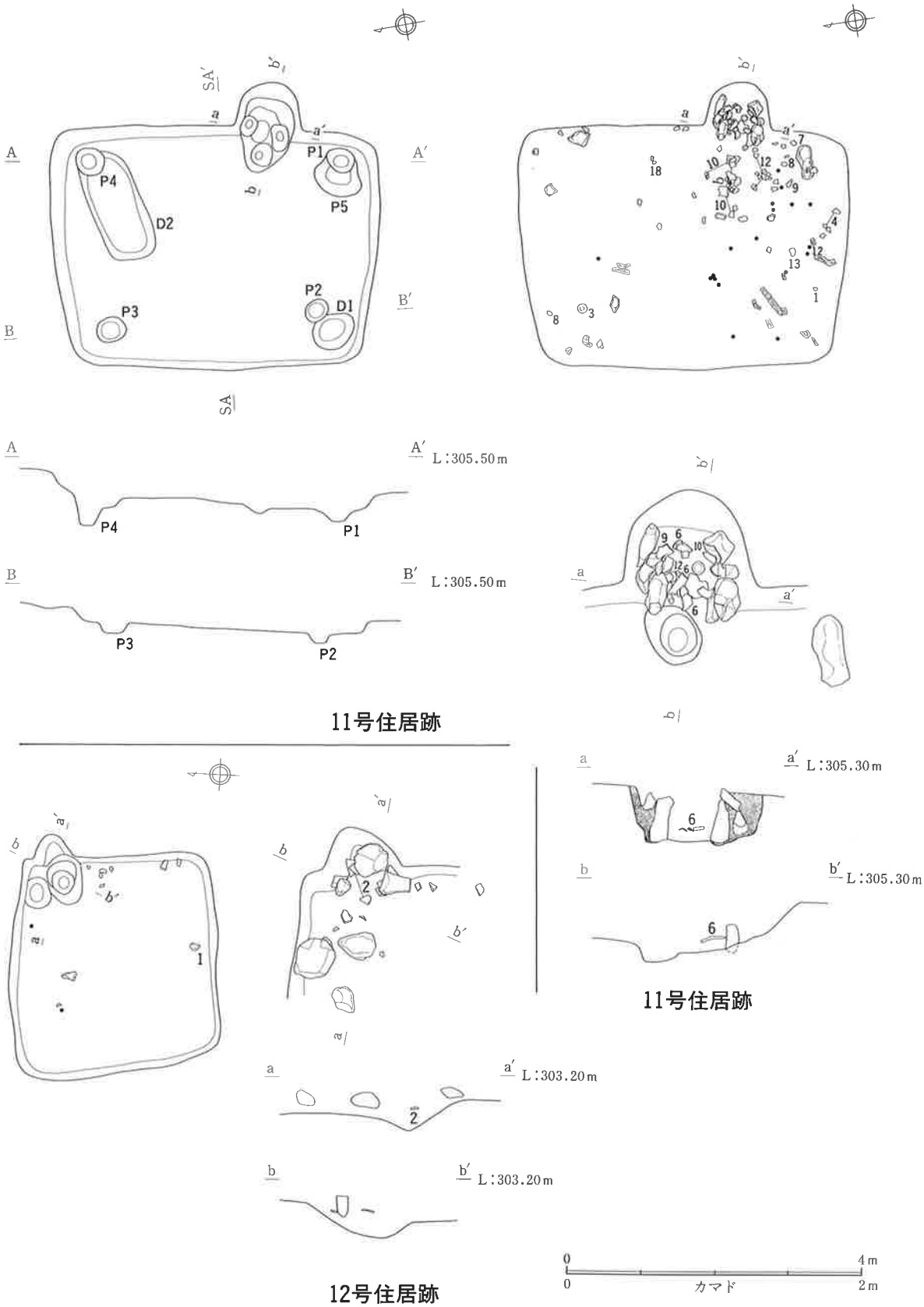
柱穴　主柱穴がその位置を南に偏在して4本検出されている。P1は住居南東部の南壁際、壁溝と重複して検出された。平面方形に近い楕円形で長0.38×短0.32×深0.34ｍ程を測る。P2も住居南西部の壁溝上に位置しており、平面不整円形で径0.25×深0.66ｍ程を測る。P3は住居中央やや北西に位置し、平面は楕円形を呈し、長0.40×短0.32×深0.41ｍ程を測る。P4は住居北東部に位置し、平面楕円形で長0.32×短0.28×深0.38ｍ程を測る。何れの柱穴の覆土もＦＡ軽石·ローム粒を含む暗褐色土を主体としていた。何れからも柱痕跡は確認されなかった。またP1·P3·P4は、住居内部に向かい「ハ」の字状に掘り込まれているが、P2のみ住居外に傾きを持つように掘り込まれている。このことはP1·P3·P4の深さが40㎝前後と同規模であるのに対し、P2のみ他のピットより倍近い深さを持つことと関係あるのであろうか？

貯蔵穴　2基検出された。P5は住居南西隅に位置しており、平面不整楕円形で、長0.90×短0.55×深0.13ｍ程を測る。覆土は暗褐色土を主体としている。P6はP5の対角線上、住居北東隅に位置しており、平面不整楕円形で長1.05×短0.80×深0.17ｍ程を測る。覆土は暗茶褐色土を主体としている。

ｶﾏﾄﾞ　東壁中央やや南寄りに位置し、壁外に0.95ｍ程張り出して構築されていた。遺存状況は非常に良好である。自然礫を使用した袖石や天井部懸架材もほぼその位置を保って検出された。袖石と懸架材には、被熱痕が顕著に認められた。火床部から燃焼部にかけては段を有して立ち上がり、石製支脚が遺存する。ほぼ平坦な燃焼部から煙道部にかけてはやや角度をもって立ち上がり、煙出しに至る。

付属施設　D1は床下土坑で、住居中央部に位置する。平面楕円形を呈し、長0.57×短0.45×深0.20ｍ程を測る。覆土中に、焼土·灰をやや密に含む。D2も床下土坑で、D1の南0.60ｍ程に位置する。平面不整楕円形で、長0.80×短0.63×深0.20ｍ程を測る。覆土は、混土による人為的埋土である。

遺物　カマドからカマド南部にかけて、また覆土中より出土している。



第86図　11·12号住居跡

１１号住居跡(第86·93·94·96図、第31·32表、PL45·84)

位置　②調査区東部の19-K-10·15グリッドに跨がって検出された。北から南へ向かう緩傾斜地に立地し、8号住居跡の南東8ｍ程に位置する。

規模　主軸はN-101°-Eを指向し、平面南北に長い長方形を呈する。規模は長軸(南北)4.45×短軸(東西)3.30ｍ程を測る。壁は開き気味に立ち上がり、壁高は0.20～0.35ｍ程を測る。床面はほぼ平坦で、踏み固めは弱い。壁溝は検出されなかった。

覆土　浅間Ｃ軽石·ＦＡ軽石を含む黒褐色土を主体とし、自然堆積である。

柱穴　主柱穴が4本検出された。P1は住居南東部の東壁際、P5(貯蔵穴)と重複して検出された。平面楕円形を呈し、長0.38×短0.32×深0.15ｍ程を測る。P2は住居南西部、住居南·西壁から40㎝程に位置する。平面楕円形で長0.34×短0.28×深0.20ｍ程を測る。P3は住居北西部、住居北·西壁から20㎝程に位置する。平面楕円形を呈し、長0.40×短0.34×深0.14ｍ程を測る。P4は住居北東隅に位置し、平面楕円形を呈し、長0.40×短0.36×深0.38ｍ程を測る。P4以外は、P1·P2·P3共に浅い。何れの柱穴からも柱痕跡は確認されていない。

貯蔵穴　P5は住居南東部、P1と重複して検出された。平面楕円形を呈し、長0.65×短0.50×深0.10ｍ程と浅い。

ｶﾏﾄﾞ　東壁中央南寄りに位置し、壁外に0.60ｍ程張り出して構築されていた。遺存状況は比較的良好である。袖部は、地山に近似した黄褐色土に小砂礫を混入して突き固められていた。左右の袖石もほぼ原位置にて遺存していた。石製支脚も原位置にて検出された。また天井部懸架材と思われる自然礫が貯蔵穴上にて検出されている。燃焼部は平面方形で、煙道部から煙出しへは緩やかに立ち上がる。

付属施設　床下土坑が2基検出された。D1は、住居南西部P2と重複して検出された。平面楕円形を呈し、長0.60×短0.48×深0.15ｍ程を測る。D2はD1の対角線上、住居北東部にて検出された。平面東西に長い楕円形を呈し、長1.55×短0.70×深0.12ｍ程を測る。

遺物　カマド前面から南東部を中心に、住居全域から出土している。

１２号住居跡(第86·95図、第32表、PL46·85)

位置　②調査区南東部の17-L-16グリッドにて検出された。11号住居跡の南38ｍ、2号住居跡の南西35ｍ程に位置する。

形状　主軸はN-82°-Eを指向し、平面ほぼ方形を呈する。規模は長軸(東西)2.90×短軸(南北)2.80ｍ程を測る。壁はやや開き気味に立ち上がり、壁高は0.20ｍ程を測る。床面はほぼ平坦で、踏み固めは弱い。壁溝は検出されなかった。

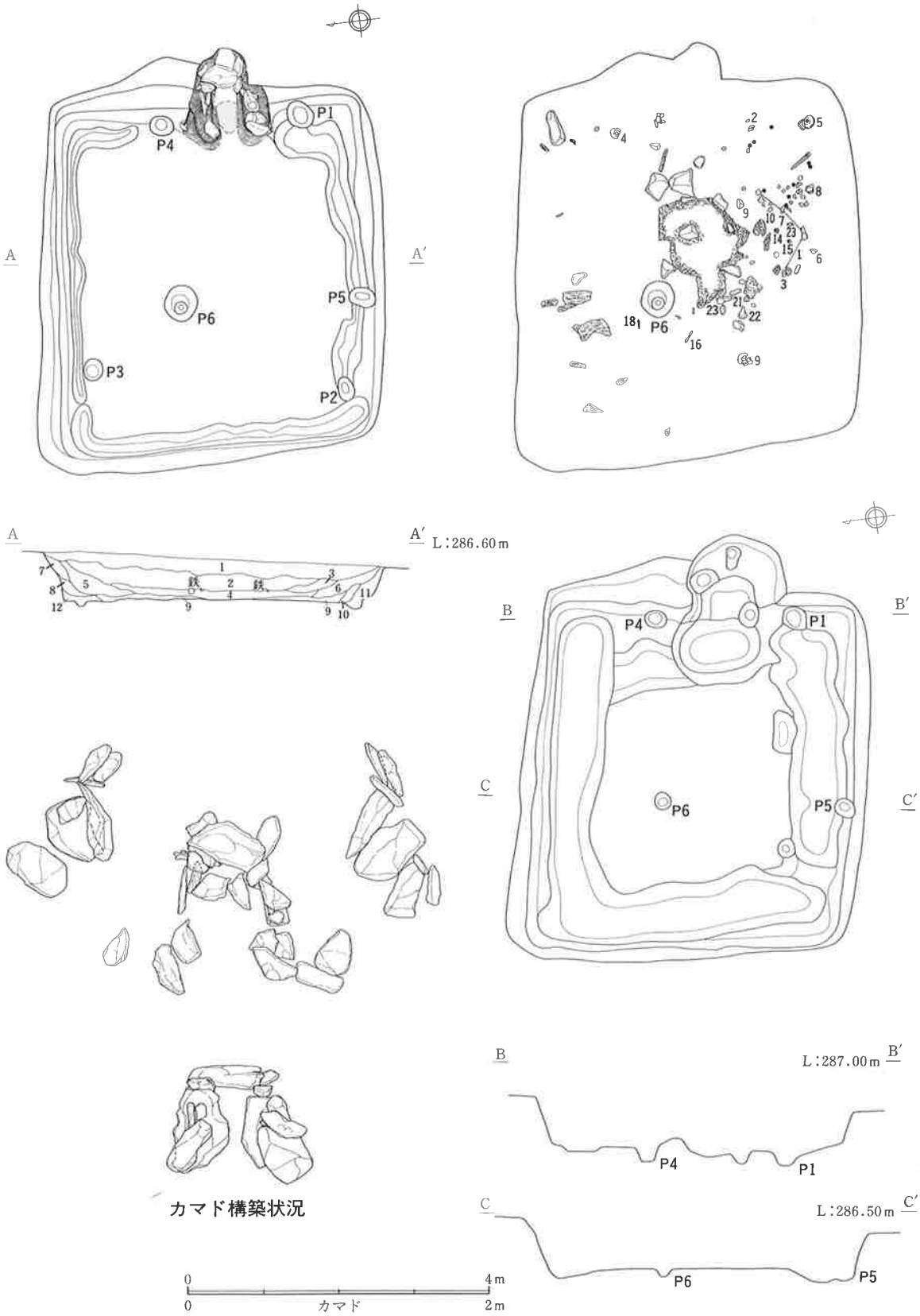
覆土　浅間Ｃ軽石·ＦＡ軽石を含む黒褐色土を主体とし、自然堆積である。

柱穴　検出されなかった。

貯蔵穴　検出されなかった。

ｶﾏﾄﾞ　東壁北東隅に位置し、壁外に0.36ｍ程張り出して構築されていた。耕作の影響により、遺存状況は悪い。袖部は検出されなかった。カマド周辺にて散在して検出された自然礫は、袖石や天井部懸架材の一部と捉えられた。両袖石の掘り込み痕もピットとして確認できた。やや円形に近い燃焼部から、煙道部は緩やかに立ち上がる。

遺物　カマドや、住居東部にて出土している。


A
A′
P1
P2
P3
P4
P5
P6
L:286.60m
B
B′
C
C′
L:287.00m
L:286.50m
カマド構築状況
0
4m
0
カマド
2m

第87図　13号住居跡

１３号住居跡(第87·95·96図、第32表、PL46·85)

位置　③調査区中央部、ほぼ平坦な9-Q-10·15、9-R-6·11グリッドに跨がって検出された。

規模　主軸はN-100°-Eを指向し、平面東西にやや長い長方形を呈する。長軸(東西)5.10×短軸(南北)4.60ｍ程を測る。壁は床面からやや開き気味に立ち上がり、中位から上場にかけてはやや開いて立ち上がる。壁高は0.60ｍ程を測る。床面はほぼ平坦で、ロームブロックと暗褐色土ブロックの混土で張床されており、住居中央部の踏み固めがやや強い。壁溝は、カマド部を除いてほぼ全周して検出された。その幅20～35㎝、深さ10㎝程を測る。

覆土　ＦＡ軽石をやや密に含む黒褐色土を主体とし、ローム粒·ロームブロック·浅間Ｃ軽石を含む自然堆積である。

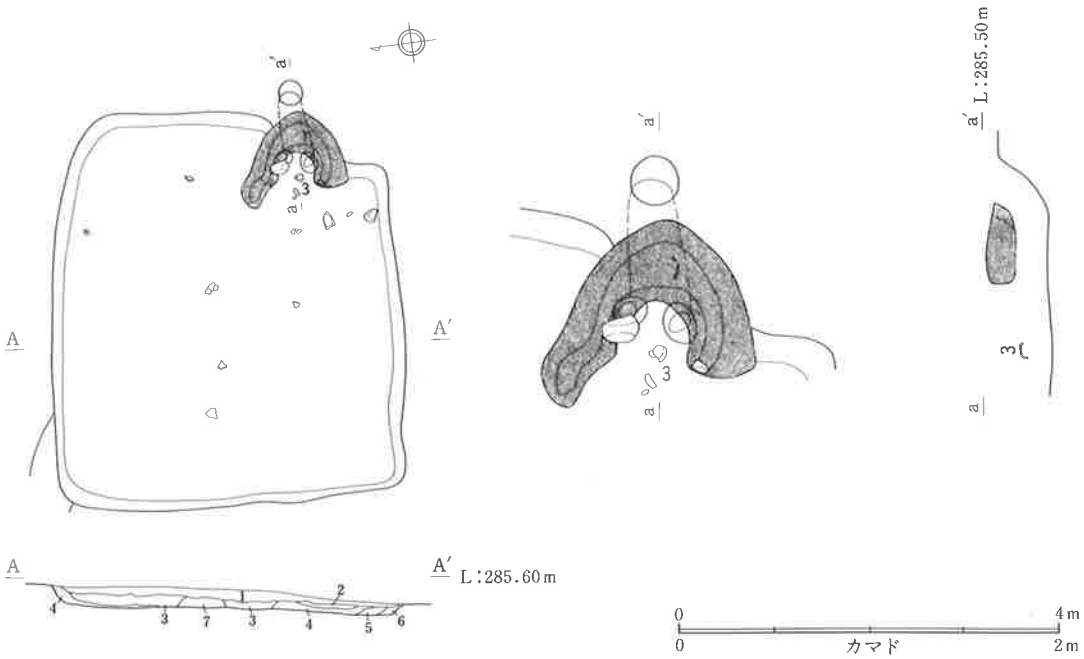
柱穴　主柱穴がその位置をやや偏在して5本検出されている。P1は住居南東部の東壁際、壁溝と重複して検出された。平面楕円形で長0.40×短0.32×深0.28ｍ程を測る。P2も住居南壁際の壁溝上に位置しており、平面楕円形長0.36×短0.25×深0.24ｍ程を測る。P3も住居南西隅壁溝上に位置し、平面楕円形を呈し、長0.32×短0.20×深0.26ｍ程を測る。P4は住居北壁際、壁溝に接するように位置し、平面円形に近い楕円形で長0.30×短0.26×深0.26ｍ程を測る。またP5は、カマドを挟んでP1の対角線上の東壁際に位置する。平面楕円形を呈し、長0.32×短0.26×深0.18ｍ程を測る。何れの柱穴の覆土もＦＡ軽石·ローム粒を含む暗褐色土を主体としていた。また柱痕跡は確認されなかった。住居中央やや北西寄りにて検出されたP6は、平面楕円形を呈し、長0.50×短0.44×深0.20ｍ程を測る。主柱穴となり得るか、詳細は不明である。

貯蔵穴　検出されなかった。

ｶﾏﾄﾞ　東壁中央やや南寄りに位置し、壁外に0.50ｍ程張り出して構築されていた。遺存状況は非常に良好である。袖部は地山に近似した黄褐色粘土を使用し、小砂礫を混入して構築されていた。自然礫を使用した袖石や天井部懸架材もほぼ構築時の位置を保って検出されている。袖石と懸架材には、被熱痕が顕著に認められた。火床部も被熱顕著であった。ほぼ平坦な燃焼部から煙道部にかけて緩やかに立ち上がり、煙出しへと至る。

掘り方　住居中央部をテラス状に残し、カマドを除く外縁が幅0.70ｍ前後、深さ0.30ｍ前後で「コ」の字状に掘り込まれていた。

遺物　多量の鉄滓や鉄製品破片·フイゴ羽口等が住居中央部、床面からやや浮いて検出された。当初、本跡も鍛冶跡かと考えられたが、検出状況等から、他から遺棄されたものと推測された。



第88図　14号住居跡

１４号住居跡(第88･95図、第32表、PL46･47)

位置　③調査区中央部やや南寄り、ほぼ平坦な7-Q-21、8-Q-1･2、8-P-5グリッドに跨がって検出された。13号住居跡の南東35ｍ程に位置する。

規模　主軸はN-86°-Eを指向し、平面東西に長い不整長方形を呈する。5号住居跡同様、東壁のみ直線的でなく、カマド南でＬ字型に屈曲して検出された。規模は長軸(東西)4.20×短軸(南北)3.70ｍ程を測る。壁は床面からほぼ直立気味に立ち上がり、壁高は0.20ｍ程を測る。床面はほぼ平坦で、踏み固めは強く、黄褐色土を主体に暗褐色土との混土で貼り床されていた。壁溝は、検出されなかった。

覆土　ＦＡ軽石をやや密に含む黒褐色土を主体とし、ローム粒･ロームブロック･浅間Ｃ軽石を含む自然堆積である。

柱穴　検出されなかった。

貯蔵穴　検出されなかった。

ｶﾏﾄﾞ　東壁中央やや南寄りに位置し、壁外に0.30ｍ程張り出して構築されていた。遺存状況は良好である。袖部は地山に近似した黄褐色粘土と灰白色粘土を使用し、小礫を混入して構築されていた。灰白色粘土は、特に天井部に多く使用されていた。袖石は検出されなかったものの、袖石用の掘り込みが確認されたことから、その使用が推測された。焚き口の掘り込みは弱く、燃焼部から煙道部にかけてはほぼ平坦で、煙出しで直立する。

掘り方　住居北部ではほとんど平坦な掘り込みで、住居中央から南部にかけては10㎝前後の深さで、土坑状の粗掘りが確認された。

遺物　住居全域にて散在して検出された。

住居跡土層説明

1号住居跡

1. 黒褐色土　ﾛｰﾑ粒･FA軽石(以下、FA)･浅間C軽石(以下、As-C)を含む。
2. 橙褐色土　焼土ﾌﾞﾛｯｸ。
3. 茶褐色土　ﾛｰﾑ粒･ﾛｰﾑﾌﾞﾛｯｸをやや密に含み、FA･As-Cを含む。
4. 黄褐色土　ﾛｰﾑﾌﾞﾛｯｸ。

ｶﾏﾄﾞ

1. 黒褐色土　住居覆土。
2. 橙茶褐色土ﾛｰﾑﾌﾞﾛｯｸをやや密、灰色粘土･焼土粒･炭化物を含む。
3. 茶褐色土　ﾛｰﾑﾌﾞﾛｯｸ･焼土粒･炭化物を疎に含む。
4. 褐色土暗　褐色土とﾛｰﾑﾌﾞﾛｯｸ･茶褐色土の混土。焼土粒･炭化物を密に含む。

2号住居跡

1. 黒褐色土　ﾛｰﾑ粒を密、FA･As-Cを含む。
2. 暗褐色土　ﾛｰﾑ粒･ﾛｰﾑﾌﾞﾛｯｸを含み、FA･As-Cを疎に含む。
3. 茶褐色土　ﾛｰﾑ粒･ﾛｰﾑﾌﾞﾛｯｸをやや密に含み、FA･As-Cを含む。

貯蔵穴

1. 暗褐色土　FA･ﾛｰﾑ粒をやや密に含む。
2. 茶褐色土　FA･ﾛｰﾑ粒を含む。
3. 黄褐色土　ﾛｰﾑ粒･ﾛｰﾑﾌﾞﾛｯｸを密に含む。

ｶﾏﾄﾞ

1. 黒褐色土　住居覆土。
2. 茶褐色土　ﾛｰﾑﾌﾞﾛｯｸが主体で、焼土粒･炭化物を含む。
3. 橙褐色土　焼土粒をやや密、ﾛｰﾑﾌﾞﾛ ｯｸ･炭化物を疎に含む。
4. 褐色土　暗褐色土とﾛｰﾑﾌﾞﾛｯｸ･茶褐色土の混土。焼土粒･炭化物を密に含む。
5. 橙褐色土　焼土ﾌﾞﾛｯｸ。灰･炭化物含む。
6. 茶褐色土　ﾛｰﾑ粒･ﾛｰﾑﾌﾞﾛｯｸを密に含む。
7. 黄褐色土　暗褐色土とﾛｰﾑﾌﾞﾛｯｸ･茶褐色土の混土。
8. 茶褐色土　6に近似するが、焼土粒･炭化物を含む。

1号床下土坑

1. 黒色土　FA･As-C･ﾛｰﾑﾌﾞﾛｯｸを含む。
2. 暗褐色土　ﾛｰﾑ粒･FA･ﾛｰﾑﾌﾞﾛｯｸをやや密に含む。
3. 茶褐色土　ﾛｰﾑ粒･YP軽石･ﾛｰﾑﾌﾞﾛｯｸを密に含む。

3号住居跡

1. 黒褐色土　ﾛｰﾑ粒･FA･As-Cを含む。
2. 暗茶褐色土ﾛｰﾑ粒を含み、FAをやや疎に含む。
3. 黒褐色土　ﾛｰﾑ粒･FAを含む。
4. 茶褐色土　ﾛｰﾑ粒･ﾛｰﾑﾌﾞﾛｯｸをやや密に含み、FAを含む。
5. 黒色土　ﾛｰﾑ粒を含む。
6. 黒褐色土　ﾛｰﾑ粒･ﾛｰﾑﾌﾞﾛｯｸ･FAを含む。
7. 茶褐色土　ﾛｰﾑ粒･ﾛｰﾑﾌﾞﾛｯｸをやや密に含み、FA･As-Cを疎に含む。
8. 黄褐色土　ﾛｰﾑﾌﾞﾛｯｸ。

4号住居跡

ｶﾏﾄﾞ

1. 黒褐色土　住居覆土。
2. 茶褐色土　ﾛｰﾑﾌﾞﾛｯｸが主体で、焼土粒･炭化物を含む。
3. 茶褐色土　焼土粒･ﾛｰﾑﾌﾞﾛｯｸ･炭化物を疎に含む。
4. 褐色土　暗褐色土とﾛｰﾑﾌﾞﾛｯｸ･茶褐色土の混土。焼土粒･炭化物を密に含む。
5. 橙褐色土　焼土ﾌﾞﾛｯｸをやや密に含み、ﾛｰﾑﾌﾞﾛｯｸ･灰･炭化物を含む。
6. 茶褐色土　ﾛｰﾑ粒･焼土粒･炭化物含む。

1･2号床下土坑

1. 褐色土　ﾛｰﾑ粒･ﾛｰﾑﾌﾞﾛｯｸを含み、FA･As-Cを疎に含む。
2. 暗黄褐色土ﾛｰﾑ粒･ﾛｰﾑﾌﾞﾛｯｸをやや密に含み、FA･As-Cを含む。
3. 暗褐色土　ﾛｰﾑ粒･FAを密に含む。
4. 暗褐色土　ﾛｰﾑ粒･FA･As-C･ﾛｰﾑﾌﾞﾛｯｸを含む。
5. 黄褐色土　ﾛｰﾑﾌﾞﾛｯｸを密に含む。

5号住居跡

1. 黒褐色土　As-C･FA･ﾛｰﾑ粒を含む。
2. 橙褐色土　FAをやや密、ﾛｰﾑ粒含む。
3. 茶褐色土　FA･ﾛｰﾑ粒を含み、ﾛｰﾑﾌﾞﾛｯｸをやや密に含む。
4. 黄褐色土　ﾛｰﾑ粒･ﾛｰﾑﾌﾞﾛｯｸを密に含む。
5. 茶褐色土　ﾛｰﾑ粒･ﾛｰﾑﾌﾞﾛｯｸやや密に含む。

6号住居跡

1. 暗褐色土　ﾛｰﾑ粒･小礫をやや密、As-C･FAを含む。
2. 黒色土　ﾛｰﾑ粒を含み、FA･As-C含む。
3. 暗褐色土　ﾛｰﾑ粒･ﾛｰﾑﾌﾞﾛｯｸ･FA･As-Cを含む。
4. 暗褐色土　ﾛｰﾑ粒を含み、FAをやや疎に含む。
5. 暗褐色土　ﾛｰﾑ粒･ﾛｰﾑﾌﾞﾛｯｸをやや密に含み、FA･As-Cを含む。
6. 黒褐色土　ﾛｰﾑ粒･FA･As-Cを含む。
7. 黒褐色土　ﾛｰﾑ粒･ﾛｰﾑﾌﾞﾛｯｸ･FA･As-Cをやや密に含む。
8. 暗褐色土　ﾛｰﾑ粒･FA･ﾛｰﾑﾌﾞﾛｯｸをやや密に含む。
9. 暗茶褐色土ﾛｰﾑ粒･ﾛｰﾑﾌﾞﾛｯｸをやや密に含み、FAを含む。
10. 茶褐色　暗褐色土とﾛｰﾑﾌﾞﾛｯｸ･茶褐色土の混土。
11. 茶褐色土　ﾛｰﾑﾌﾞﾛｯｸを密に含む。
12. 黄褐色土　ﾛｰﾑﾌﾞﾛｯｸ。

8号住居跡

1. 黒褐色土　ﾛｰﾑ粒･FA･As-Cを含む。
2. 暗褐色土　ﾛｰﾑ粒･FA･As-Cを含む。
3. 暗褐色土　ﾛｰﾑ粒･ﾛｰﾑﾌﾞﾛｯｸをやや密に含み、FA･As-Cを含む。
4. 茶褐色土　ﾛｰﾑ粒･FAをやや疎に含む。
5. 暗茶褐色土ﾛｰﾑ粒･ﾛｰﾑﾌﾞﾛｯｸをやや密、炭化物･FAを含む。
6. 暗褐色土　ﾛｰﾑ粒･ﾛｰﾑﾌﾞﾛｯｸをやや密に含み、FAを含む。
7. 茶褐色土　ﾛｰﾑ粒･ﾛｰﾑﾌﾞﾛｯｸをやや密に含み、FAを疎に含む。

10号住居跡

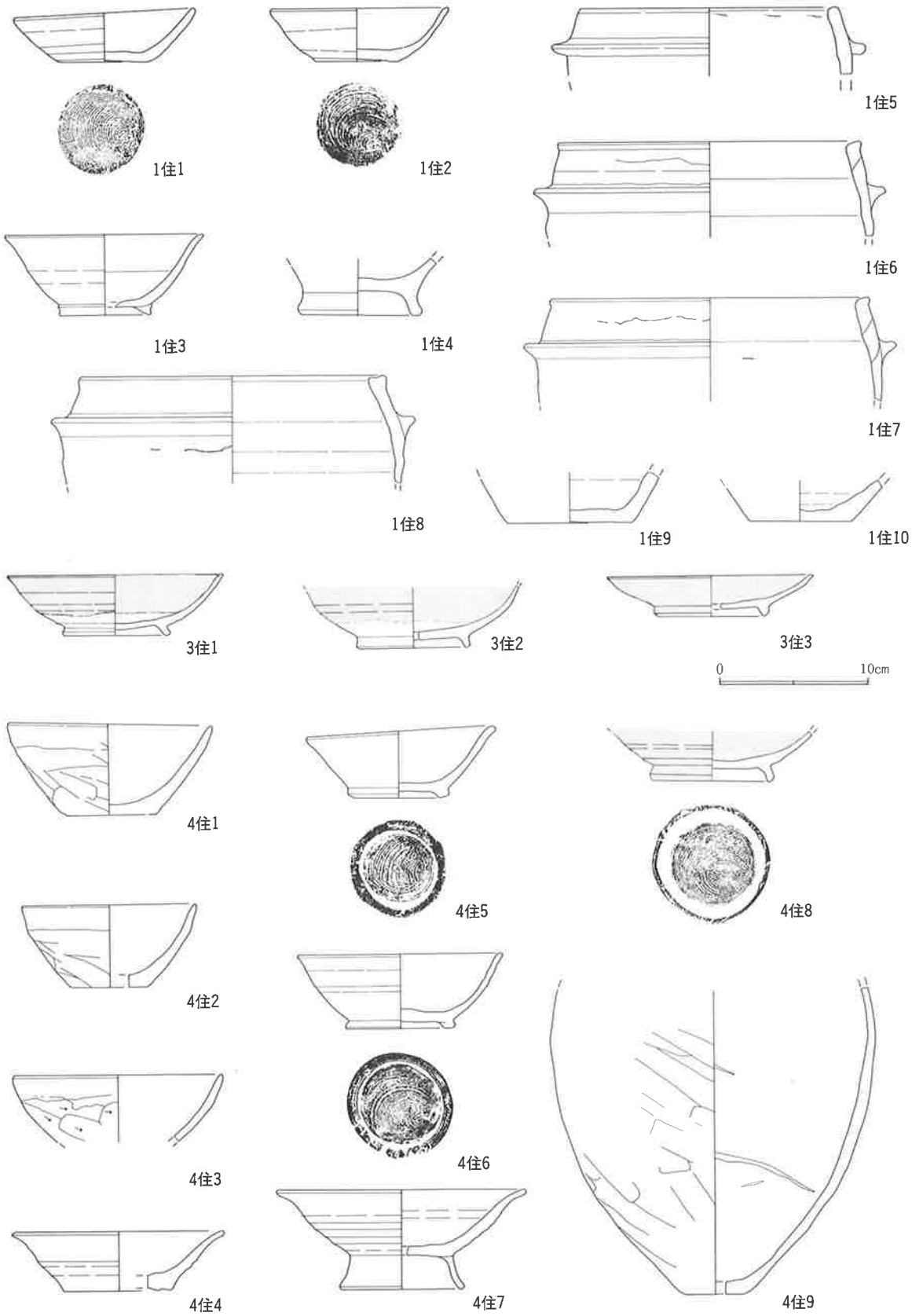
1. 暗褐色土　ﾛｰﾑ粒･FA･As-Cを含む。
2. 暗褐色土　ﾛｰﾑ粒･ﾛｰﾑﾌﾞﾛｯｸ･FA･As-Cをやや密に含む。
3. 暗褐色土　ﾛｰﾑ粒･ﾛｰﾑﾌﾞﾛｯｸをやや密に含み、FA･As-Cを疎に含む。
4. 黒褐色土　ﾛｰﾑ粒･FA･As-Cを含む。
5. 暗茶褐色土ﾛｰﾑ粒･ﾛｰﾑﾌﾞﾛｯｸをやや密、FAを含む。
6. 暗褐色土　ﾛｰﾑ粒･ﾛｰﾑﾌﾞﾛｯｸをやや密に含み、FAを含む。
7. 茶褐色土　ﾛｰﾑ粒･ﾛｰﾑﾌﾞﾛｯｸ含む。FA･As-C含む。
8. 茶褐色土　ﾛｰﾑ粒･ﾛｰﾑﾌﾞﾛｯｸを含み、FAをやや疎に含む。
9. 黄褐色土　ﾛｰﾑﾌﾞﾛｯｸ。
10. 茶褐色土　暗褐色土とﾛｰﾑﾌﾞﾛｯｸ･茶褐色土の混土。
11. 暗褐色土　ﾛｰﾑ粒･ﾛｰﾑﾌﾞﾛｯｸを含み、FAを含む。
12. 暗茶褐色土11に近似するが、ﾛｰﾑ粒をやや密に含む。
13. 暗茶褐色土ﾛｰﾑ粒･ﾛｰﾑﾌﾞﾛｯｸをやや密、炭化物を疎に含む。
14. 茶褐色土　ﾛｰﾑ粒･ﾛｰﾑﾌﾞﾛｯｸをやや密に含む。しまり強い。
15. 暗茶褐色土ﾛｰﾑ粒･FA･As-Cをやや疎に含む。
16. 茶褐色土　ﾛｰﾑ粒･ﾛｰﾑﾌﾞﾛｯｸ密、FA･As-C･炭化物を疎に含む。しまり強い。

13号住居跡

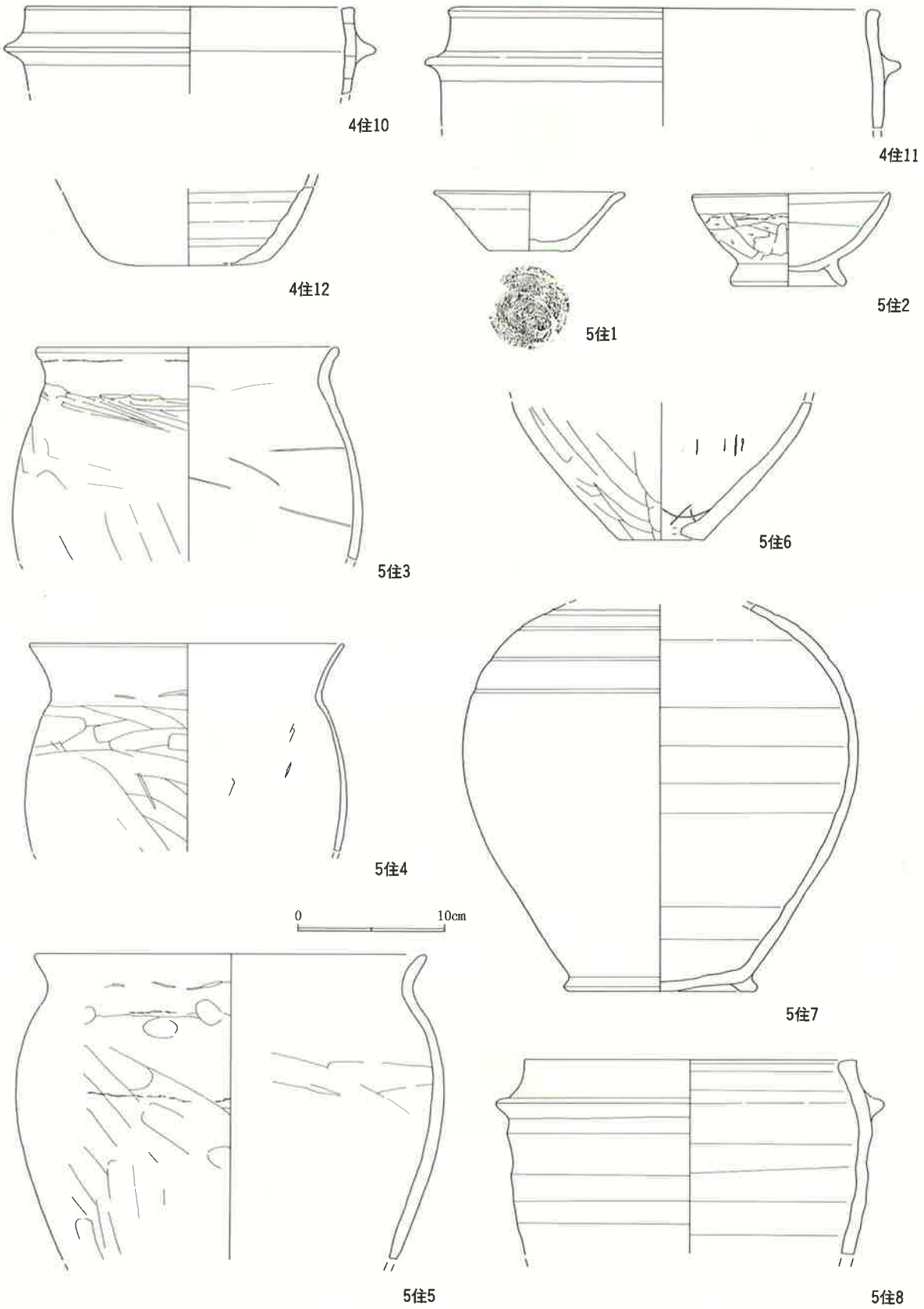
1. 黒褐色土　ﾛｰﾑ粒･FA･As-Cを含む。
2. 黒褐色土　ﾛｰﾑ粒･ﾛｰﾑﾌﾞﾛｯｸ･FA･As-Cをやや密に含む。
3. 暗褐色土　ﾛｰﾑ粒･FA･As-Cを含み、鉄滓･鉄粉を含む。
4. 茶褐色土　ﾛｰﾑ粒を含む。
5. 暗茶褐色土ﾛｰﾑ粒･ﾛｰﾑﾌﾞﾛｯｸ･FA･鉄滓を含む。
6. 茶褐色土　ﾛｰﾑ粒･ﾛｰﾑﾌﾞﾛｯｸをやや密に含み、FA･As-C･炭化物を含む。
7. 黄褐色土　ﾛｰﾑ粒･ﾛｰﾑﾌﾞﾛｯｸをやや密に含む。
8. 暗茶褐色土ﾛｰﾑ粒･をやや疎、炭化物･炭化材を含む。
9. 茶褐色土　ﾛｰﾑ粒･ﾛｰﾑﾌﾞﾛｯｸ含み、炭化物･焼土粒含む。しまりあり。
10. 暗茶褐色土ﾛｰﾑ粒を含む。
11. 黄褐色土　ﾛｰﾑ粒を多く含む。
12. 暗茶褐色土炭化物･焼土粒を疎に含む。

14号住居跡

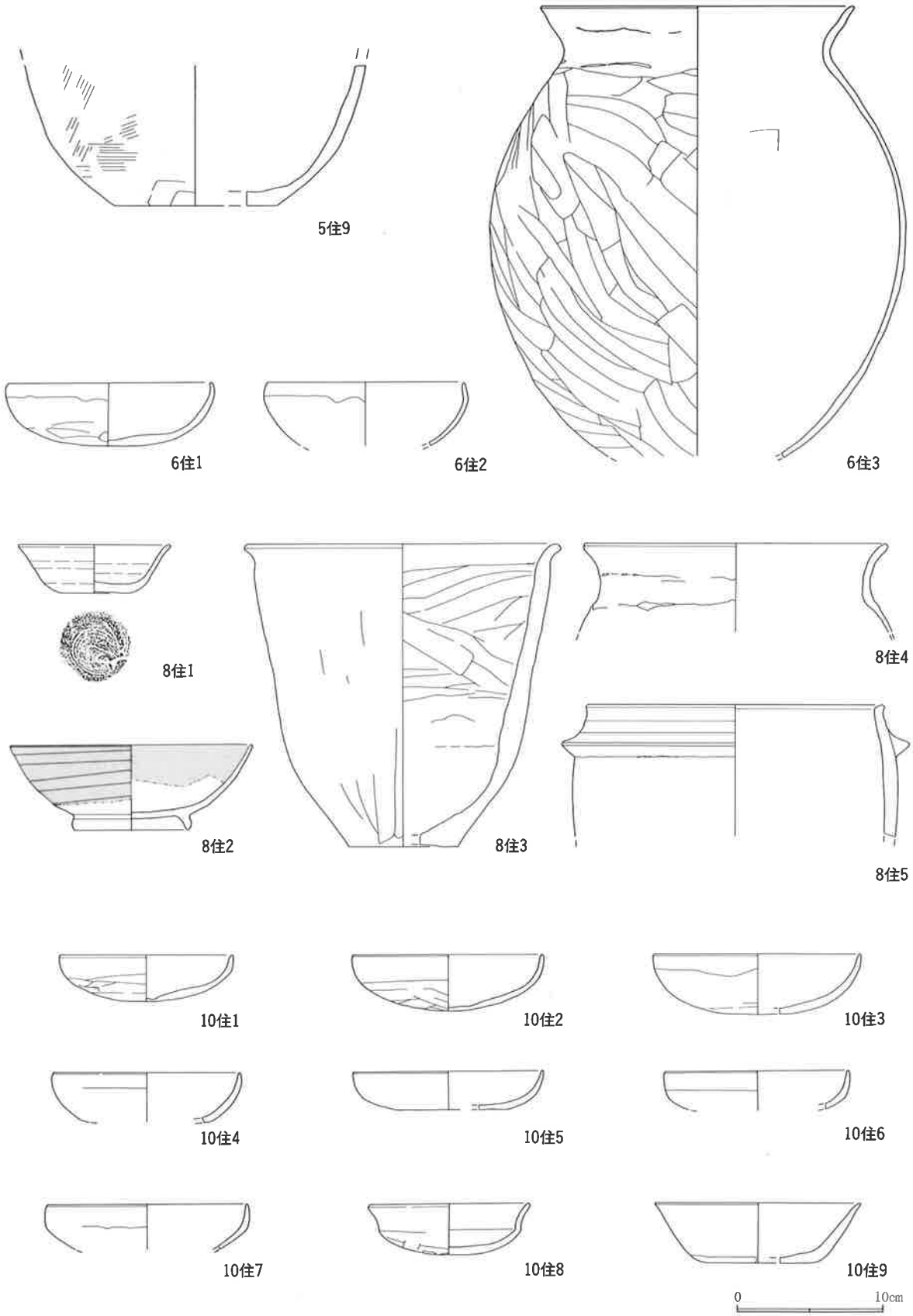
1. 暗褐色土　ﾛｰﾑ粒･FAをやや密に含む。
2. 暗茶褐色土ﾛｰﾑ粒･FAを疎に含む。
3. 黒褐色土　FA･ﾛｰﾑ粒を含む。
4. 暗褐色土　ﾛｰﾑ粒･FA･As-Cを含む。
5. 暗茶褐色土ﾛｰﾑ粒･FAを含む。
6. 茶褐色土　ﾛｰﾑ粒をやや密に含む。
7. 黄褐色土　ﾛｰﾑﾌﾞﾛｯｸを密に含む。



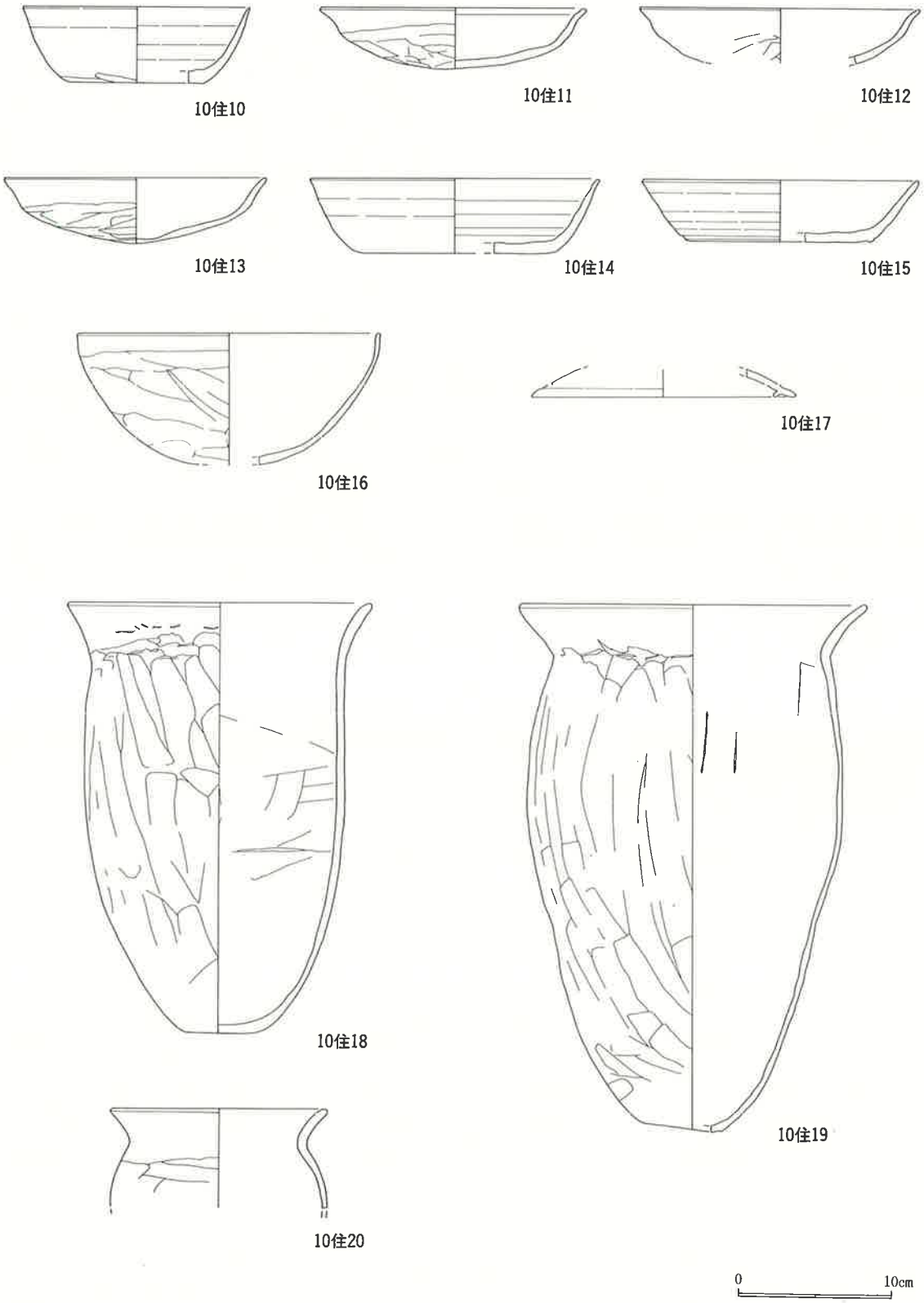
第89図　1·3·4号住居跡出土土器



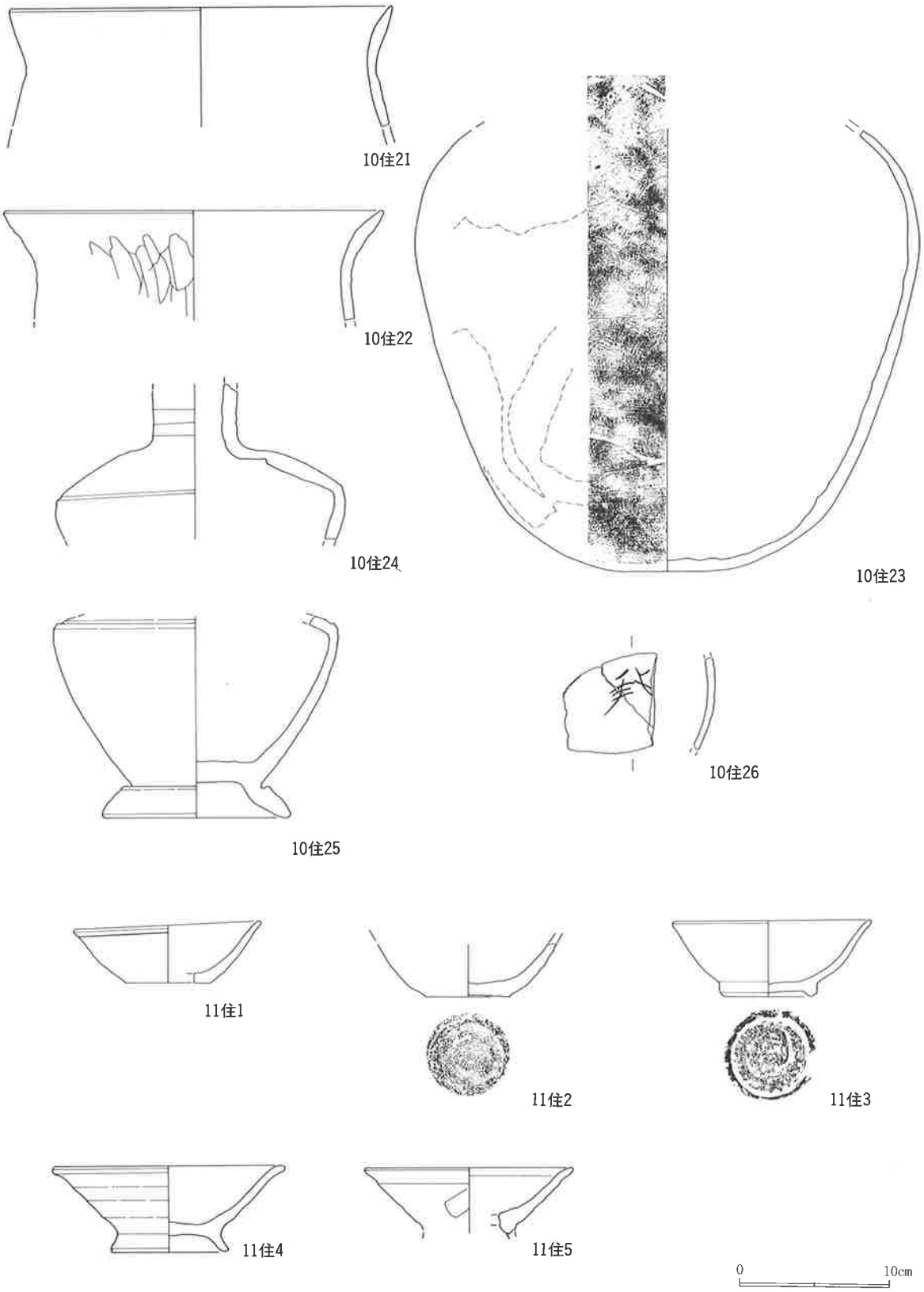
第90図　4·5号住居跡出土土器



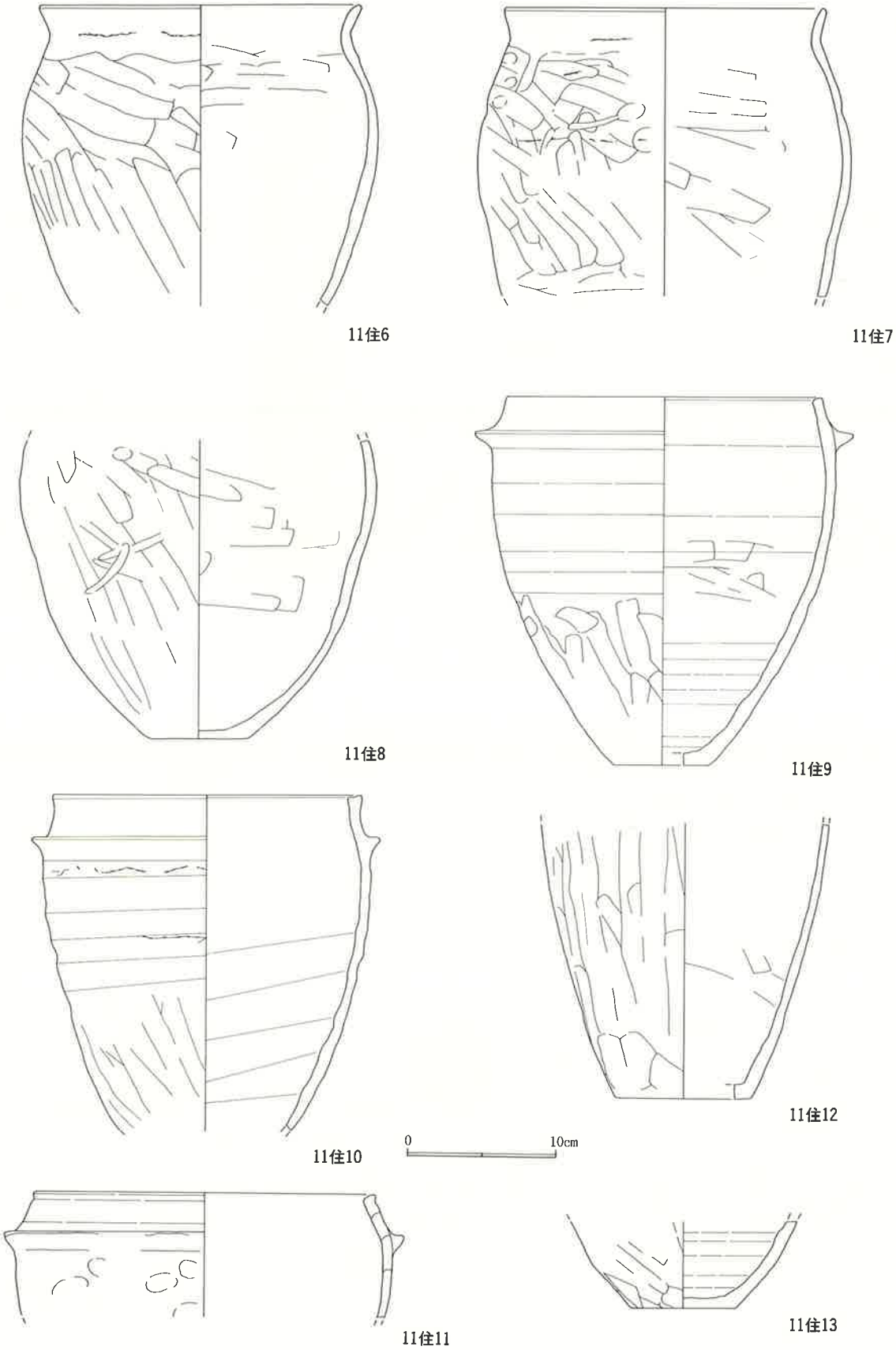
第91図　5·6·8·10号住居跡出土土器



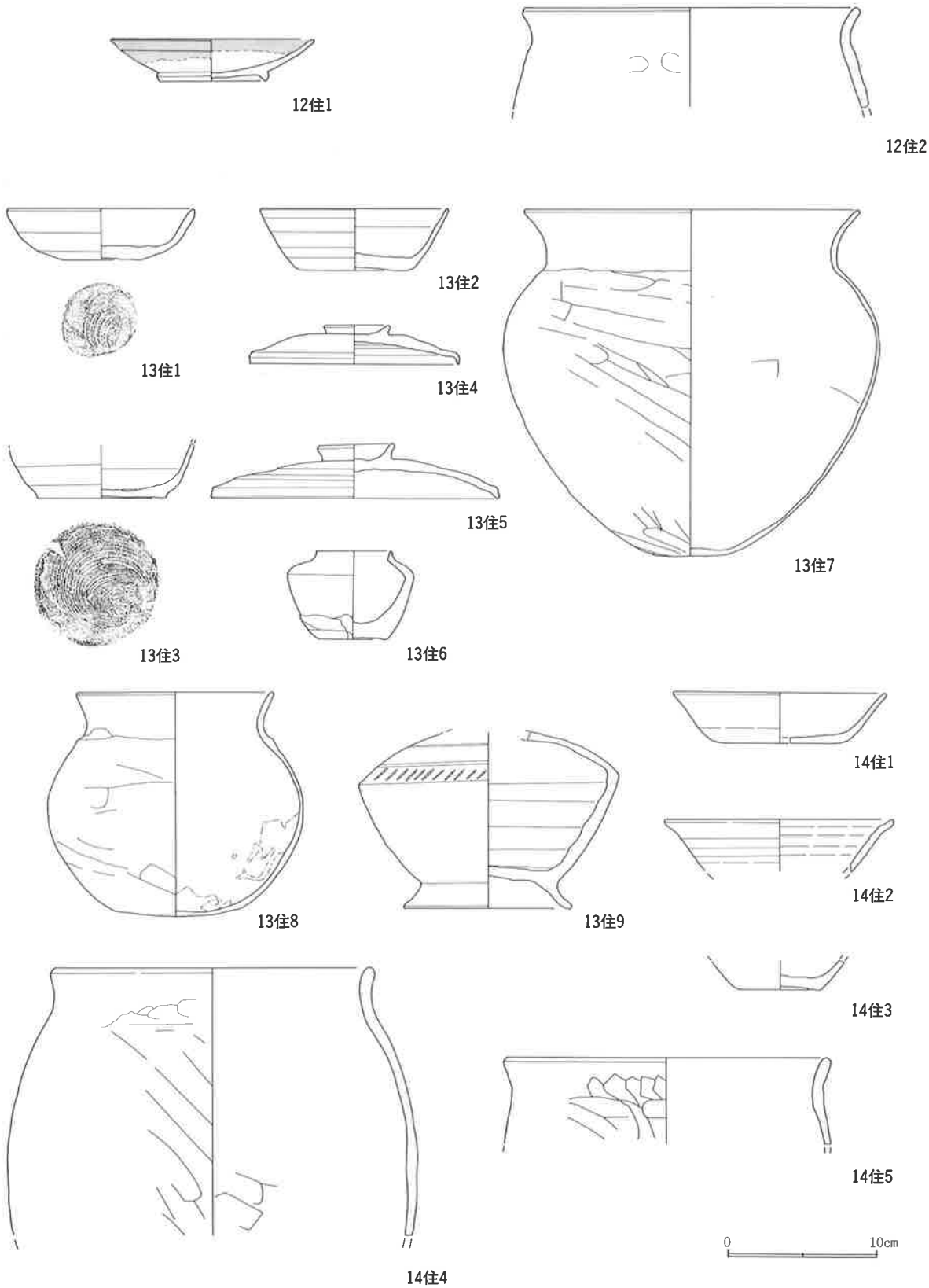
第92図　10号住居跡出土土器



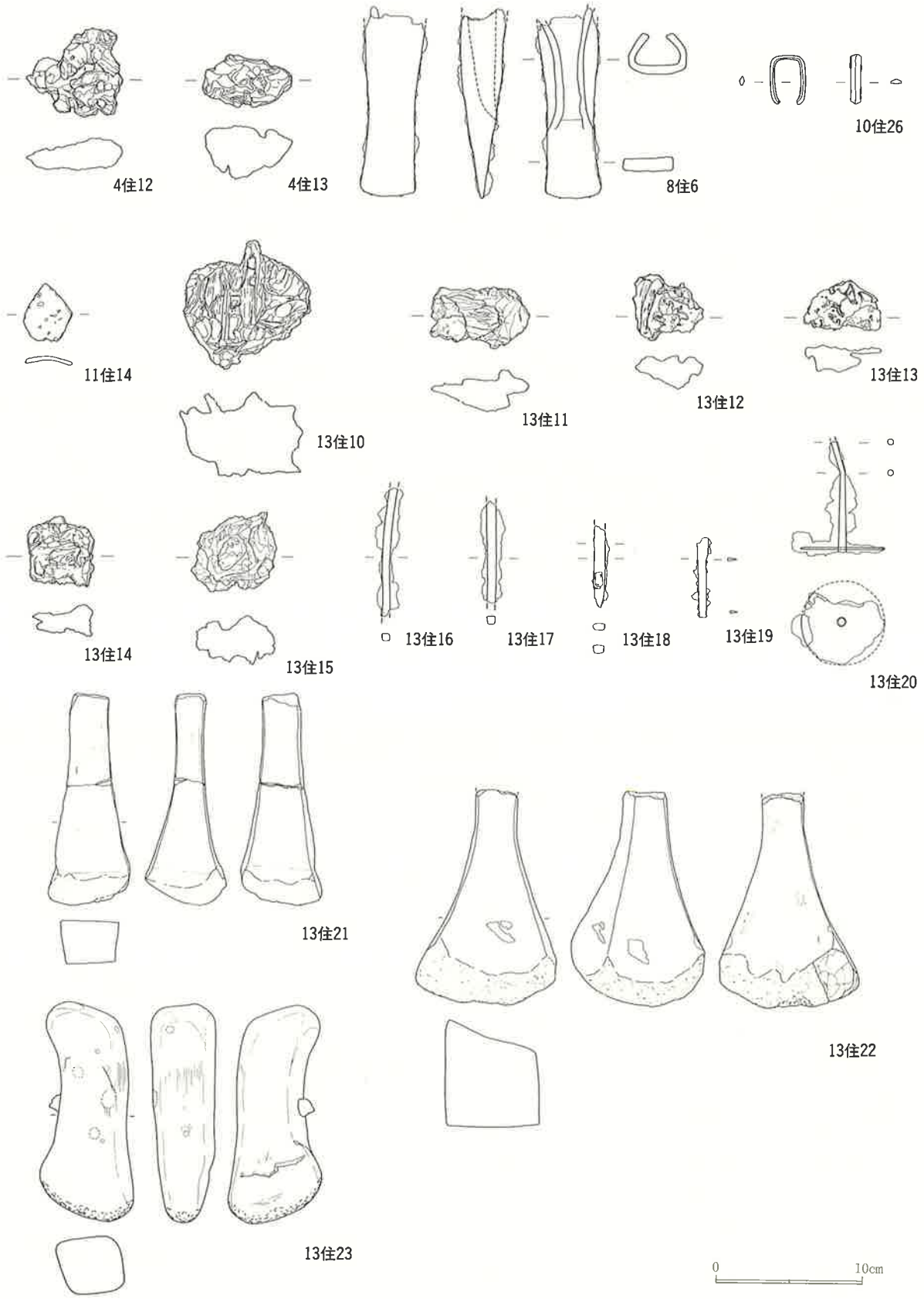
第93図　10·11号住居跡出土土器



第94図　11号住居跡出土土器



第95図　12·13·14号住居跡出土土器



第96図　4·8·10·11·13号住居跡出土鉄製品、13号住居跡出土石製品

第30表　住居跡出土土器観察表(1)

番号	器種	出土状態 残存状態	法量(cm)	胎土・色調	器形・成・整形の特徴	備考
1住 1	坏 須恵器	覆土 4/5	口：12.0 底：5.8 高：3.3	粗砂粒、雲母片 黄褐色	体部直線的に外傾する。 ロクロ整形。底部回転糸切り未調整。	
1住 2	坏 須恵器	覆土 3/4	口：11.8 底：5.5 高：3.5	細砂粒、雲母片 内面灰色 外面黄褐色	体部内湾気味に外傾し、口縁部で小さく外反する。 ロクロ整形。底部回転糸切り未調整。	
1住 3	椀 須恵器	覆土 1/5	口：(13.3) 底：(6.0) 高：5.4	小砂礫、雲母片 黄褐色	体部は直線的に内湾し、口縁部で小さく外反する。 高台部は「ハ」の字状に開く。 ロクロ整形。底部回転糸切り未調整。高台貼付け。	
1住 4	椀 須恵器	覆土 底部片	口：—— 底：7.8 高：(3.8)	細砂粒 黄褐色	台部は高く、「ハ」の字状に開く。 ロクロ整形。貼付高台。	
1住 5	羽釜	覆土 口縁部1/4	口：17.2 底：—— 高：(4.6)	細砂粒 橙褐色	口縁部で内傾して立ち上がる。 口縁部横ナデ、鍔貼り付け。	
1住 6	羽釜	覆土 口縁部片	口：(20.1) 底：—— 高：(6.4)	細砂粒 褐色	口縁部で内傾して立ち上がる。 口縁部横ナデ、鍔貼り付け。	
1住 7	羽釜	覆土 口縁部片	口：(21.2) 底：—— 高：(7.0)	粗砂粒 褐色	口縁部で内傾して立ち上がる。 口縁部横ナデ、鍔貼り付け。	
1住 8	羽釜	カマド 口縁部片	口：(20.4) 底：—— 高：(7.2)	粗砂粒 黄灰褐色	口縁部で肥厚気味に内傾する。 口縁部横ナデ、鍔貼り付け。	
1住 9	羽釜	覆土 底部片	口：—— 底：(8.3) 高：(3.4)	小砂礫 橙褐色	平底で、直線的に外傾する。 ロクロ整形。底部ヘラ削り。	
3住 1	椀 灰釉陶器	3/4	口：(14.5) 底：6.7 高：4.1	緻密 灰白色	体部から口縁部にかけて内湾気味に外傾する。高台部は「ハ」の字状に開く。 ロクロ整形。貼付高台。	施釉漬け掛け
3住 2	椀 灰釉陶器	底部片	口：—— 底：(7.0) 高：(4.0)	緻密 緑灰色	大ぶりの椀で、体部から口縁部にかけて内湾気味に外傾する。高台部は「ハ」の字状に開く。 ロクロ整形。貼付高台。	
3住 3	皿 灰釉陶器	1/2	口：13.8 底：7.0 高：2.8	緻密 灰白色	体部直線的に外傾し、口縁部で小さく外反する。 高台部は、「ハ」の字状に開く。 ロクロ整形。貼付高台。	
4住 1	坏 土師器	覆土 3/4	口：13.8 底：6.0 高：6.1	小砂礫、石英粒 暗赤褐色	平底で、体部から口縁部にかけて直線的に外傾する	
4住 2	坏 土師器	覆土 1/3	口：(11.8) 底：(5.0) 高：(5.6)	小砂礫、石英粒 褐色	平底で、体部直線的に外傾し、口縁部で小さく外反する。	
4住 3	坏 土師器	覆土、3住 破片	口：(14.0) 底：—— 高：4.5	小砂礫、石英粒 褐色	体部から口縁部にかけて内湾気味に外傾する。	
4住 4	椀 須恵器	覆土 1/3	口：(14.0) 底：(7.1) 高：(4.0)	小砂礫、雲母片 暗黄褐色	体部から口縁部にかけて直線的に外反する。 ロクロ整形。底部回転糸切り離し後、高台貼付。	
4住 5	椀 須恵器	カマド 完形	口：12.6 底：5.8 高：4.5	砂礫多い 黒褐色	体部から口縁部にかけて直線的に外傾し、口縁部で小さく外反する。高台部は「ハ」の字状に開く。 ロクロ整形。貼付高台。	
4住 6	椀 須恵器	覆土、カマド P3 1/2	口：(13.6) 底：7.0 高：5.0	細砂 褐色	体部から口縁部にかけて内湾気味に外傾し、口縁部で小さく外反する。高台部は「ハ」の字状に開く。 ロクロ整形。貼付高台。	
4住 7	椀 須恵器	覆土 1/5	口：(16.7) 底：(8.0) 高：6.7	砂礫 橙褐色	体部から口縁部にかけて内湾気味に外傾し、口縁部で大きく外反する。足高高台で、貼付高台部は「ハ」の字状に開く。ロクロ整形。	
4住 8	椀 灰釉陶器	覆土、P3 底部破片	口：—— 底：7.8 高：(3.4)	緻密 灰白色	体部内湾気味に外傾する。高台部は「ハ」の字状に開く。 ロクロ整形。貼付高台。	施釉漬け掛け
4住 9	甕 土師器	覆土 胴下半部1/3	口：—— 底：(3.8) 高：(20.4)	小砂礫やや密 橙褐色	小さい平底で、胴部中位に張りを持つ。 胴部外面縦位の箆削り、内面ナデ。	
4住 10	羽釜	覆土 口縁部破片	口：(22.0) 底：—— 高：(5.8)	砂粒 茶褐色	口縁部ほぼ直立する。鍔貼付。	
4住 11	羽釜	覆土 口縁部破片	口：(28.4) 底：—— 高：(8.0)	砂粒 橙褐色	口縁部やや内傾気味に直立する。	
4住 12	羽釜	P3 底部破片	口：—— 底：(11.0) 高：(5.2)	砂粒 灰褐色	底部薄い。 ロクロ整形。	
5住 1	坏 須恵器	2/3	口：12.8 底：5.6 高：4.0	砂粒 橙褐色	体部直線的に外傾し、口縁部で外反する。 ロクロ整形。底部回転糸切り離し。	
5住 2	椀 土師器	ほぼ完形	口：13.3 底：7.4 高：6.2	多量の小砂礫 橙褐色	底部やや丸みを持って、体部から口縁部にかけて直線的に外傾する。	

第31表　住居跡出土土器観察表(2)

番号	器種	出土状態 残存状態	法量(cm)	胎土・色調	器形・成・整形の特徴	備考
5住 3	甕 土師器	口縁～胴上半部1/2	口：20.4 底：—— 高：(14.4)	砂粒 赤褐色	口縁部「く」の字状に外反する。胴部中位に張りを持つ。 口縁部内外面横ナデ。胴部外面篦削り。内面ナデ。	
5住 4	甕 土師器	口縁～胴上半部1/3	口：(21.3) 底：—— 高：(14.0)	砂粒 橙褐色	張りの無い胴部から口縁部「く」の字状に外反する。 口縁部内外面横ナデ。胴部外面篦削り。内面ナデ。	
5住 5	甕 土師器	口縁～胴上半部1/3	口：(26.4) 底：—— 高：(20.6)	砂粒やや密 淡橙褐色	肩部にやや張りを持ち、口縁部「く」の字状に外反する。 口縁部内外面横ナデ。胴部外面篦削り。内面ナデ。	
5住 6	甕 土師器	胴下半部破片	口：—— 底：—— 高：(9.2)	小砂礫 淡橙褐色	上げ底で、胴部大きく外傾する。 胴部外面篦削り、内面ナデ。	
5住 7	瓶 須恵器	肩～底部1/5	口：—— 底：12.6 高：(26.2)	小砂礫 外―暗茶褐色 内―暗灰色	底部接地し、胴部中位から肩部にかけて、大きく内湾する。肩部に２条の沈線を巡らす。 ロクロ整形。貼付高台。	肩部に自然釉付着
5住 8	羽釜	３住Ｐ２ 口縁～胴上半部	口：22.6 底：—— 高：(13.0)	砂粒 褐色	口縁部内傾気味に立ち上がる。 ロクロ整形。鍔貼付。	
5住 9	甕 須恵器	胴下半部	口：—— 底：(11.0) 高：(9.6)	砂粒 暗灰色	胴部直立気味に外傾する。 ロクロ整形。胴部外面平行叩き目。	
6住 1	坏 土師器	覆土 3/4	口：13.9 底：—— 高：4.2	細砂 明橙褐色	内湾気味に外傾する体部から口縁部で小さく直立する。口縁部内外面横ナデ。体部外面篦削り後、雑なナデ。内面ナデ。	
6住 2	坏 土師器	カマド 破片	口：(13.4) 底：—— 高：(4.3)	細砂 橙褐色	内湾気味に立ち上がる体部から口縁部で小さく内傾する。口縁部内外面横ナデ。体部外面篦削り後、ナデ。内面ナデ。	
6住 3	甕 土師器	カマド 口縁～胴下半部1/2	口：(21.2) 底：—— 高：(30.8)	細砂 橙褐色	胴部中位に張りを持ち、口縁部「く」の字状に外反する。口縁部内外面横ナデ。胴部外面篦削り。内面ナデ。	
8住 1	坏 須恵器	覆土 2/3	口：(10.2) 底：4.7 高：3.3	小砂礫 褐色	体部直線的に外傾し、口縁部で外反する。 ロクロ整形。底部回転糸切り未調整。	
8住 2	埦 灰釉陶器	1/3	口：(16.4) 底：(7.7) 高：5.8	緻密 灰白色	体部から口縁部にかけて内湾気味に外傾する。 ロクロ整形。貼付高台。	施釉漬け掛け
8住 3	甕 土師器	覆土 1/2	口：(21.2) 底：(7.4) 高：20.7	砂粒 暗茶褐色	全体に肥厚気味で、胴部は底部からほぼ直立気味に外傾し、口縁部で小さく外反する。 口縁部内外面横ナデ。胴部外面篦削り。内面ナデ。	
8住 4	甕 土師器	覆土 口縁部2/3	口：20.4 底：—— 高：(6.0)	細砂 橙褐色	口縁部「コ」の字状に外反する。 口縁部内外面横ナデ。	
8住 5	羽釜	覆土 口縁部細片	口：(20.0) 底：—— 高：(9.0)	小砂礫 橙褐色	口縁部内傾気味に直立する。 口縁部横ナデ、鍔貼り付け。	
10住 1	坏 土師器	覆土 2/3	口：11.8 底：—— 高：3.1	細砂 橙褐色	内湾気味に外傾する体部から口縁部で小さく直立する。 口縁部内外面横ナデ。体部外面篦削り。内面ナデ。	
10住 2	坏 土師器	1/4	口：(12.8) 底：—— 高：3.8	細砂 橙褐色	内湾気味に外傾する体部から口縁部で直立する。 口縁部内外面横ナデ。体部外面篦削り。内面ナデ。	
10住 3	坏 土師器	覆土 2/3	口：(14.1) 底：—— 高：(4.1)	細砂 橙褐色	内湾気味に外傾する体部から口縁部に至る。 口縁部内外面横ナデ。体部外面篦削り。内面ナデ。	
10住 4	坏 土師器	覆土 細片	口：(12.8) 底：—— 高：(3.3)	細砂 橙褐色	内湾気味に外傾する体部から口縁部で小さく直立する。 口縁部内外面横ナデ。体部外面篦削り。内面ナデ。	
10住 5	坏 土師器	カマド 細片	口：(12.8) 底：—— 高：(2.6)	細砂 暗橙褐色	扁平な底部から体部内湾気味に外傾する。 口縁部内外面横ナデ。体部外面篦削り。内面ナデ。	
10住 6	坏 土師器	覆土 細片	口：(12.5) 底：—— 高：(2.7)	細砂 橙褐色	内湾気味に外傾する体部から口縁部で小さく直立する。 口縁部内外面横ナデ。体部外面篦削り。内面ナデ。	
10住 7	坏 土師器	覆土 細片	口：(13.6) 底：—— 高：(3.1)	細砂 暗橙褐色	内湾気味に外傾する体部から口縁部で小さく直立する。 口縁部内外面横ナデ。体部外面篦削り。内面ナデ。	
10住 8	坏 土師器	カマド 1/2	口：10.8 底：—— 高：3.5	砂粒 橙褐色	扁平な丸底の底部から体部内湾気味に外傾し、体部と外反する口縁部の境に稜を有する。 口縁部内外面横ナデ。体部外面篦削り。内面ナデ。	
10住 9	坏 須恵器	覆土 1/4	口：(13.8) 底：(7.2) 高：4.1	緻密 灰色	体部直線的に外傾し、口縁部で小さく外反する。 ロクロ整形。底部外周手持ち篦削り。	
10住 10	坏 須恵器	覆土 破片	口：(14.5) 底：(8.6) 高：4.9	緻密 灰色	体部内湾気味に外傾し、口縁部で小さく外反する。 ロクロ整形。底部外周手持ち篦削り。	
10住 11	盤 土師器	3/4	口：17.0 底：—— 高：3.9	砂粒 橙褐色	扁平な丸底の底部から体部直線的に外傾し、口縁部で小さく外反する。	

第32表　住居跡出土土器観察表(3)

番号	器種	出土状態 残存状態	法量(cm)	胎土・色調	器形・成・整形の特徴	備考
10住 12	坏 土師器	覆土 細片	口：(18.0) 底：—— 高：(3.5)	砂粒 橙褐色	ほぼ直線的に外傾する体部から口縁部で小さく外反する。 口縁部内外面横ナデ。体部外面篦削り。内面ナデ。	
10住 13	盤 土師器	覆土 2/3	口：(16.7) 底：—— 高：4.2	細砂 橙褐色	体部から口縁部にかけて内湾気味に外傾し、口縁部で外反する。 口縁部内外面横ナデ。体部外面篦削り。内面ナデ。	
10住 14	盤 須恵器	カマド 1/8	口：(18.6) 底：(12.0) 高：4.9	緻密 青灰色	体部直線的に外傾し、口縁部で小さく外反する。 ロクロ整形。底部手持ち篦削り。	
10住 15	盤 須恵器	覆土 1/3	口：(17.8) 底：(11.0) 高：4.0	砂粒 暗灰色	体部から口縁部にかけて直線的に外傾する。高台部は小さく、「ハ」の字状に開く。 ロクロ整形。底部手持ち篦削り。削り出し高台。	
10住 16	埦 土師器	覆土 1/3	口：—— 底：—— 高：——	細砂 橙褐色	体部球形を呈し、口縁部で小さく直立する。 口縁部内外面横ナデ。体部外面篦削り。内面ナデ。	
10住 17	蓋 須恵器	覆土 破片	口：(17.0) 底：—— 高：(1.8)	砂粒 暗灰褐色	口唇部にかえりを持つ。 ロクロ整形。	
10住 18	甕 土師器	覆土 3/4	口：19.5 底：4.2 高：27.8	砂粒やや密 橙褐色	張りの無い胴部から口縁部「く」の字状に外反する。 口縁部内外面横ナデ。胴部外面篦削り。内面ナデ。	
10住 19	甕 土師器	覆土 3/4	口：22.2 底：5.0 高：33.9	細砂やや密 橙褐色	やや長胴で、胴部中位に弱い張りを持ち、口縁部「く」の字状に外反する。 口縁部内外面横ナデ。胴部外面篦削り。内面ナデ。	
10住 20	甕 土師器	覆土 口縁部1/2	口：13.8 底：—— 高：(6.4)	細砂 黄褐色	口縁部「く」の字状に外反する。 口縁部内外面横ナデ。胴部外面篦削り。内面ナデ。	
10住 21	甕 土師器	カマド、覆土 破片	口：(25.4) 底：—— 高：(8.0)	砂粒、石英 褐色	口縁部弱く「く」の字状に外反する。 口縁部内外面横ナデ。胴部外面篦削り。内面ナデ。	
10住 22	甕 土師器	カマド 口縁部破片	口：(25.0) 底：—— 高：(7.3)	砂粒やや密 褐色	口縁部弱く「く」の字状に外反する。 口縁部内外面横ナデ。胴部外面篦削り。内面ナデ。	
10住 23	甕 須恵器	覆土 胴下半部1/3	口：—— 底：—— 高：(29.7)	砂粒 灰白色	丸底で、肩部に張りを持つ。	胴部外面に自然釉
10住 24	瓶 須恵器	覆土 肩部1/2	口：—— 底：—— 高：(10.3)	細砂 灰色	肩部に張りを持ち、口頸部直立する。 ロクロ整形。頸部二段接合。	
10住 25	瓶 須恵器	覆土 肩部～底部 1/3	口：—— 底：(12.0) 高：(13.5)	細砂 灰白色	肩部に張りを持つ。高台部は「ハ」の字状に開く。 ロクロ整形。貼付高台。	
10住 26	瓶？ 須恵器	覆土 胴部細片	口：—— 底：—— 高：(6.5)	細砂 灰色	胴部内湾気味に外傾する。	外面に線刻
11住 1	坏 須恵器	覆土 1/2	口：12.4 底：(5.5) 高：3.8	細砂 灰色	体部やや内湾気味に外傾し、口縁部で小さく外反する。 ロクロ整形。底部回転糸切り離し。	
11住 2	坏 須恵器	覆土 口縁部全損 1/3	口：—— 底：5.6 高：(3.5)	細砂 黄灰色	体部内湾気味に外傾する。 ロクロ整形。底部回転糸切り離し。	
11住 3	埦 須恵器	ほぼ完形	口：13.0 底：5.6 高：5.1	細砂 橙褐色	体部から口縁部にかけて内湾気味に外傾し、口縁部で小さく外反する。高台部は「ハ」の字状に開く。 ロクロ整形。底部回転糸切り離し。	
11住 4	埦 須恵器	1/2	口：15.2 底：7.4 高：5.7	細砂やや密 橙褐色	体部内湾気味に外傾し、口縁部でやや強く外反する。 高台部は「ハ」の字状に開く。 ロクロ整形。底部回転糸切り離し後、高台貼付。	
11住 5	埦 土師器	1/4	口：(13.8) 底：—— 高：(4.4)	砂粒 茶褐色	体部直線的に外傾し、口縁部で外反する。 口縁部内外面横ナデ。胴部外面篦削り。内面ナデ。 貼付高台。	
11住 6	甕 土師器	口縁～胴下半部1/4	口：(21.3) 底：—— 高：(20.1)	小砂礫 褐色	胴上半部に張りを持ち、口縁部「く」の字状に外反する。 口縁部内外面横ナデ。胴部外面篦削り。内面ナデ。	
11住 7	甕 土師器	カマド 口縁部～胴部中位	口：(21.3) 底：—— 高：(19.2)	砂粒、雲母片 褐色	僅かに張りを持つ胴上半部から、口縁部直立気味に外反する。 口縁部内外面横ナデ。胴部外面篦削り。内面ナデ。	内面にスス付着
11住 8	甕 土師器	カマド 胴下半部破片	口：—— 底：(6.4) 高：(20.0)	小砂礫 暗茶褐色	胴部内湾気味に外傾する。 胴部外面篦削り。内面ナデ。	
11住 9	羽釜	覆土 1/4	口：(21.0) 底：(6.3) 高：(24.7)	小砂礫 黄橙褐色	張りを持つ胴上半部から口縁部内湾して立ち上がる。 ロクロ整形。胴下半部篦削り。鍔貼付。	
11住 10	羽釜	覆土 2/3底部全損	口：20.6 底：—— 高：(22.6)	砂粒 暗茶褐色	胴部から口縁部にかけて内湾気味に立ち上がる。 ロクロ整形。胴下半部篦削り。鍔貼付。	
11住 11	羽釜	覆土 口縁部破片	口：(22.6) 底：—— 高：(8.3)	細砂 灰褐色	胴部から口縁部にかけて内湾気味に立ち上がる。 ロクロ整形。鍔貼付。	

第33表　住居跡出土土器観察表(4)

番号	器種	出土状態 残存状態	法量(cm)	胎土・色調	器形・成・整形の特徴	備考
11住 12	甕 土師器	胴下半部1/2	口：—— 底：—— 高：(18.4)	小砂礫 褐色	胴部直線的に立ち上がる。 胴部外面篦削り。内面ナデ。	
11住 13	羽釜	底部片	口：—— 底：(6.9) 高：(5.8)	小砂礫 橙褐色	胴部直線的に外傾する。 ロクロ整形。胴下半部篦削り。	
12住 1	皿 灰釉陶器	3/4	口：13.5 底：7.2 高：2.9	緻密 暗灰色	内湾気味に外傾する体部から口縁部にかけて直線的に外傾する。 ロクロ整形。貼付高台。	施釉漬け掛け
12住 2	甕 土師器	口縁部破片	口：(22.2) 底：—— 高：(6.7)	細砂 黄橙褐色	内湾気味に立ち上がる胴部から、口縁部で小さく「く」の字状に外反する。 口縁部内外面横ナデ。胴部外面篦削り。内面ナデ。	
13住 1	坏 須恵器	2/3	口：(12.4) 底：5.0 高：3.5	砂粒 暗灰色	体部から口縁部にかけて内湾気味に外傾する。 ロクロ整形。底部回転糸切り後、外周手持ち篦削り。	
13住 2	坏 須恵器	1/3	口：(12.4) 底：7.4 高：4.2	細砂 灰白色	体部から口縁部にかけて直線的に外傾する。 ロクロ整形。底部静止糸切り離し。	
13住 3	坏 須恵器	覆土 4/5	口：—— 底：8.5 高：(3.5)	細砂 灰色	体部から口縁部にかけて直立気味に外傾する。 ロクロ整形。底部回転糸切り離し。	
13住 4	蓋 須恵器	3/4	口：13.9 底：—— 高：2.6	小砂礫 灰色	天井部から口縁部にかけて直線的で、端部で鋭角に垂下する。 ロクロ整形。天井部回転篦削り。つまみ貼付。	外面に自然礫釉付着
13住 5	蓋 須恵器	ほぼ完形	口：19.2 底：—— 高：3.6	砂粒 灰色	天井部から口縁部にかけてやや外湾気味で、端部で垂下する。 ロクロ整形。天井部回転篦削り。つまみ貼付。	
13住 6	小型壺 須恵器	1/2	口：(5.0) 底：4.6 高：5.9	砂粒 橙褐色	肥厚する底部から体部直線的に外傾し、屈曲する肩部から口縁部で小さく直立する。ロクロ整形。 底部回転糸切り離し。体部下端手持ち篦削り。	
13住 7	甕 土師器	覆土、カマド 1/2	口：(13.2) 底：—— 高：15.1	砂粒 外一橙褐色 内一褐色	扁平な丸底で、球状を呈する胴部から口縁部「く」の字状に外反する。 口縁部内外面横ナデ。胴部外面篦削り。内面ナデ。	
13住 8	甕 土師器	カマド 1/3	口：22.4 底：—— 高：23.3	細砂 橙褐色	丸みを持って立ち上がる胴部は、その上半部に張りを持ち、口縁部で「く」の字状に外反する。 口縁部内外面横ナデ。胴部外面篦削り。内面ナデ。	内面にスス付着
13住 9	瓶 須恵器	口頸部全損	口：—— 底：11.0 高：(11.9)	細粒 暗灰色	「ハ」の字状に開く高台部から胴部直線的に外傾し、肩部で「く」の字状に外湾する。 ロクロ整形。肩部に二条の沈線と刺突文。	外面に自然礫釉付着
14住 1	坏 須恵器	覆土、13住 1/2	口：(14.0) 底：(7.6) 高：3.4	緻密 灰色	体部直線的に外傾し、口縁部で小さく外反する。 ロクロ整形。底部全面手持ち篦削り。	
14住 2	坏 須恵器	覆土 破片	口：(15.1) 底：—— 高：(3.5)	砂粒 灰色	体部直線的に外傾し、口縁部で外反する。 ロクロ整形。	
14住 3	坏 須恵器	カマド 底部破片	口：—— 底：5.4 高：(2.0)	細砂 橙褐色	ロクロ整形。底部回転糸切り離し。	
14住 4	甕 土師器	カマド 破片	口：(21.4) 底：—— 高：(18.0)	砂粒 橙褐色	張りのない胴部から口縁部で直立気味に小さく外反する。 口縁部内外面横ナデ。胴部外面篦削り。内面ナデ。	
14住 5	甕 土師器	覆土 口縁部破片	口：(21.4) 底：—— 高：(5.8)	砂粒 橙褐色	口縁部弱く外反する。 口縁部内外面横ナデ。胴部外面篦削り。内面ナデ。	

1－1．住居跡出土鉄製品(第96図、PL85)

4住12・13と**13住10～15**は椀形の鉄滓である。それぞれ81・97・213・60・41・111・62・53ｇ程の重さを測る。**8住6**は短冊状鉄斧で、遺存長12.9㎝、刃部幅3.8㎝程を測る。**10住26**は銅製鞘金具で、**11住14**は不明銅製品である。**13住16・17**は断面方形を呈する棒状鉄製品で、遺存長はそれぞれ8.8・6.8㎝程を測る。**13住18**は断面長方形で遺存長5.6㎝程を測る。**13住19**は片関の刀子で遺存長5.4㎝程を測る。**13住20**は鉄製紡錘車で、径5.8㎝、芯径0.6㎝程を測る。

1－2．住居跡出土石製品(第96図、PL85)

13住21・22は粗粒輝石安山岩製の砥石である。それぞれ長14.4・14.7㎝、幅5.5・9.5㎝、厚5.3・9.0㎝を測る。**13住23**は変質安山岩製の敲石で、一部に使用痕が認められた。長14.9㎝、幅6.4㎝、厚4.4㎝を測る。

2．小鍛冶

1号小鍛冶(第97･98図、第34表、PL47･86)

位置　③調査区南部の7-Q-15･20、7-R-11グリッドに跨がって検出された。14号住居跡の南西20ｍ程、鉄滓等が多量に廃棄され、廃滓場と推測される13号住居跡の南41ｍ程に位置する。

規模　北東部を大きく削平･攪乱されており、可能性として平面方形に近い形状も考えられたが、北壁の検出状況から平面不整楕円形と推測された竪穴である。規模は長軸(南北)2.85×短軸(東西)2.65ｍ程を測り、壁はやや開き気味に立ち上がり、深さ0.20ｍ程を測る。

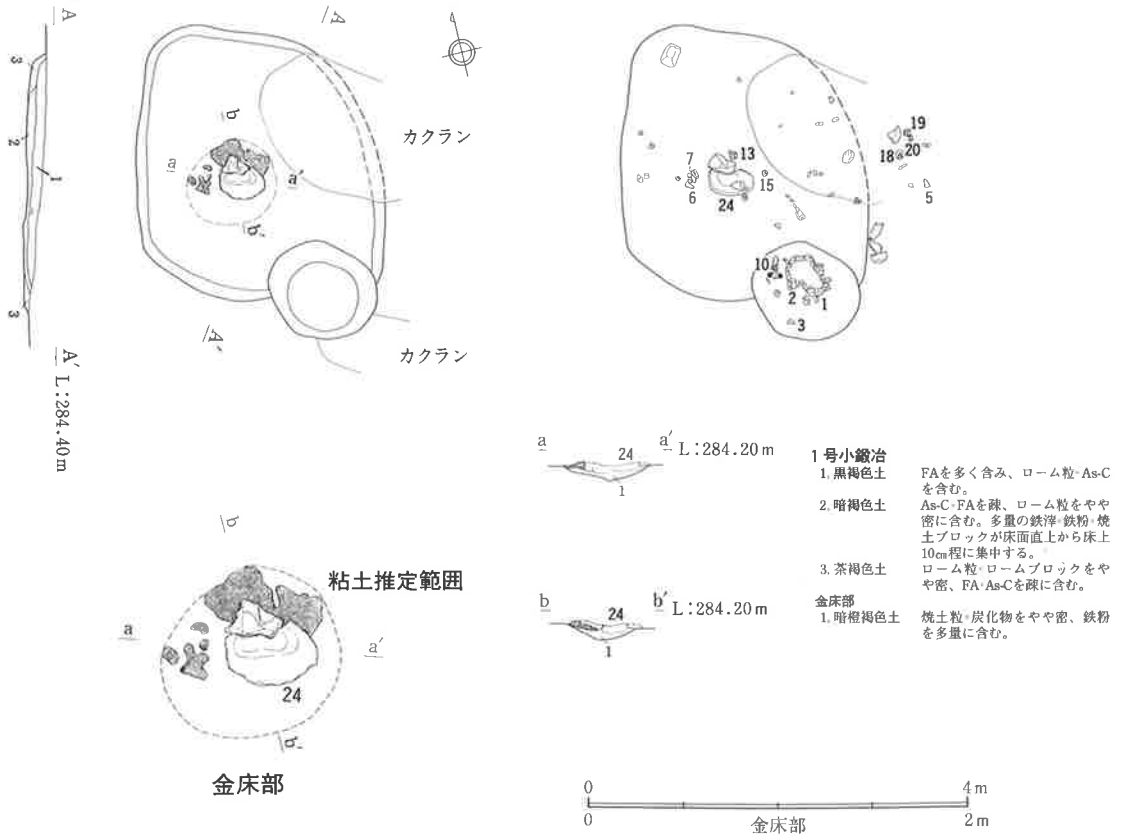
覆土　ＦＡ軽石をやや密に、浅間Ｃ軽石･ローム粒を含む黒褐色土を主体としている。ポツポツではあるが、ＦＰ軽石も確認された。

鍛冶炉　竪穴中央やや西寄りにて金床石が検出された。38×58㎝程を測る楕円形の安山岩で、特に中央部の使用痕と被熱痕が顕著であった。この金床石を包み込むように、ロームが厚さ5㎝、径90㎝程のほぼ円形の範囲にて、突き固めた状態で確認された。金床石の下の掘り方は平面楕円形を呈し、長0.89×短0.69×深0.15ｍ程を測る。覆土中より、焼土と共に多量の鉄粉が検出された。

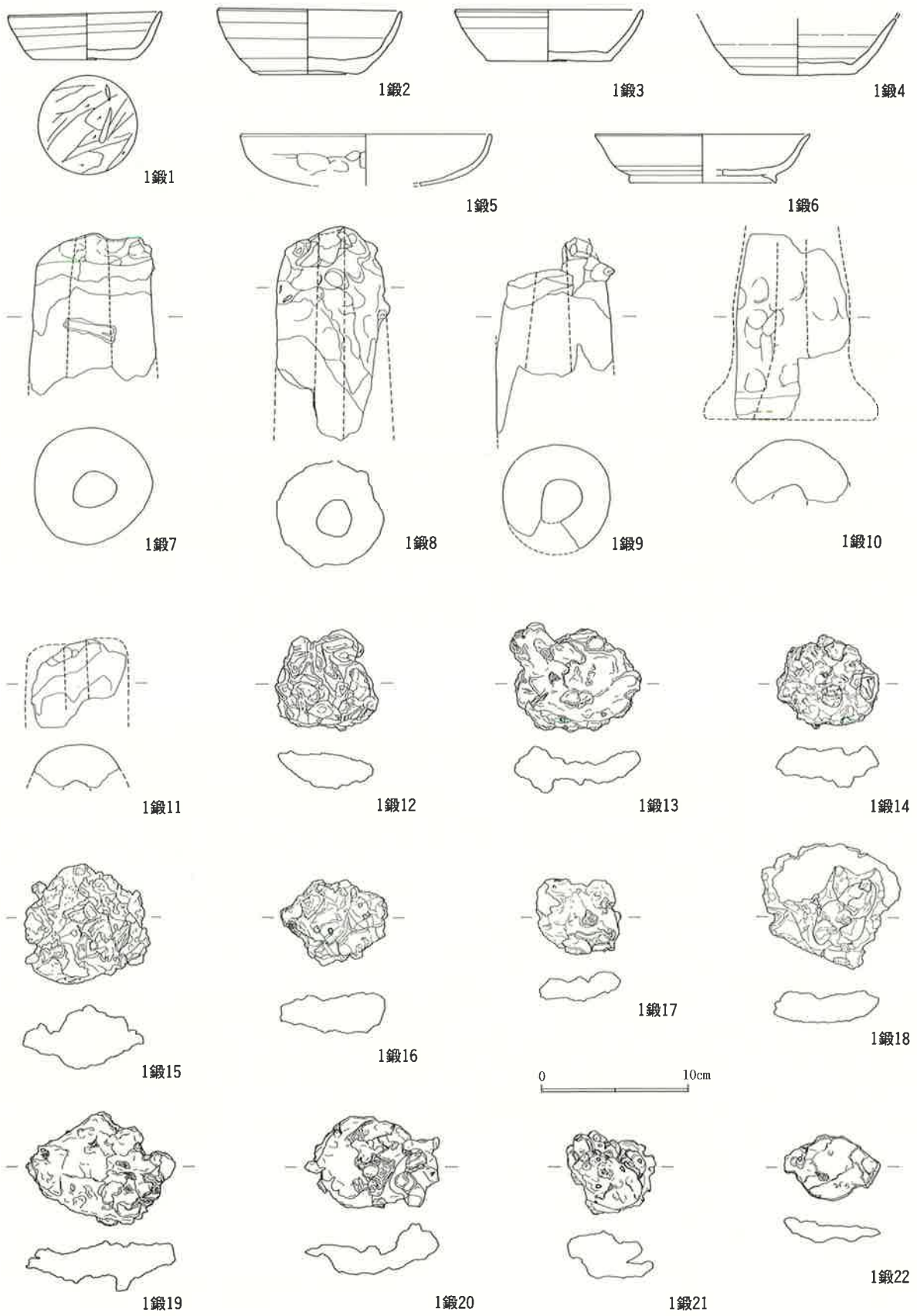
廃滓場　竪穴南壁から張り出して廃滓場が確認された。長軸(東西)1.15×短軸(南北)1.00ｍ程を測る平面楕円形の土坑状で、深さは0.30ｍ程を測る。覆土中からは、鉄滓や多量のチップが検出された。

柱穴･貯蔵穴･カマド　検出されなかった。

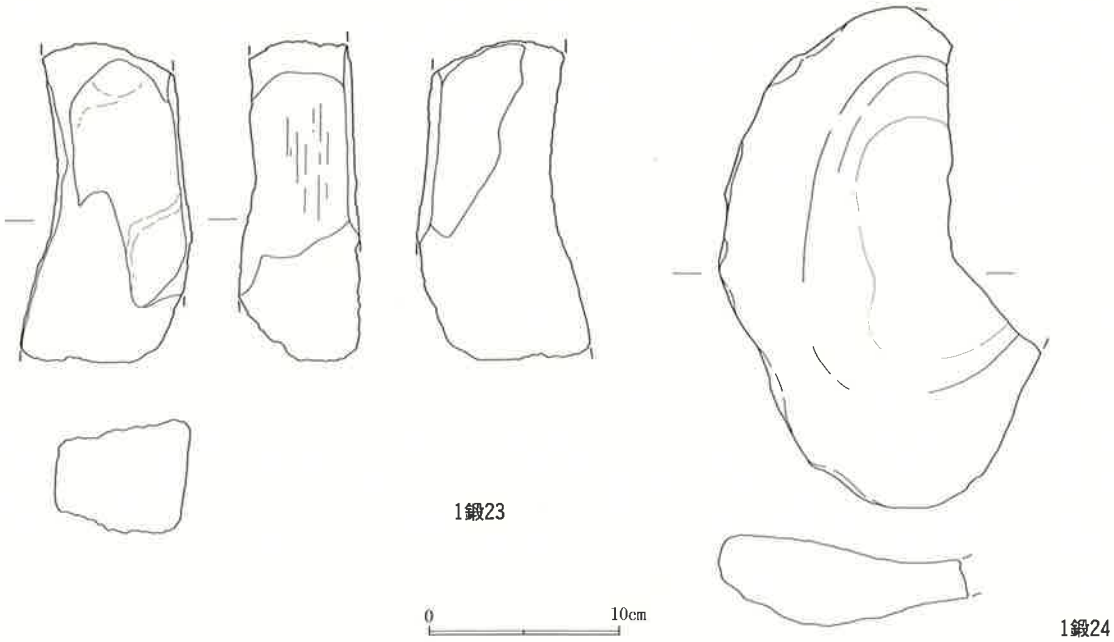
遺物　床面を中心に、鉄製品･鉄滓の他、フイゴの羽口や土器片が出土している。



第97図　1号小鍛冶



第98図　1号小鍛冶出土遺物(1)

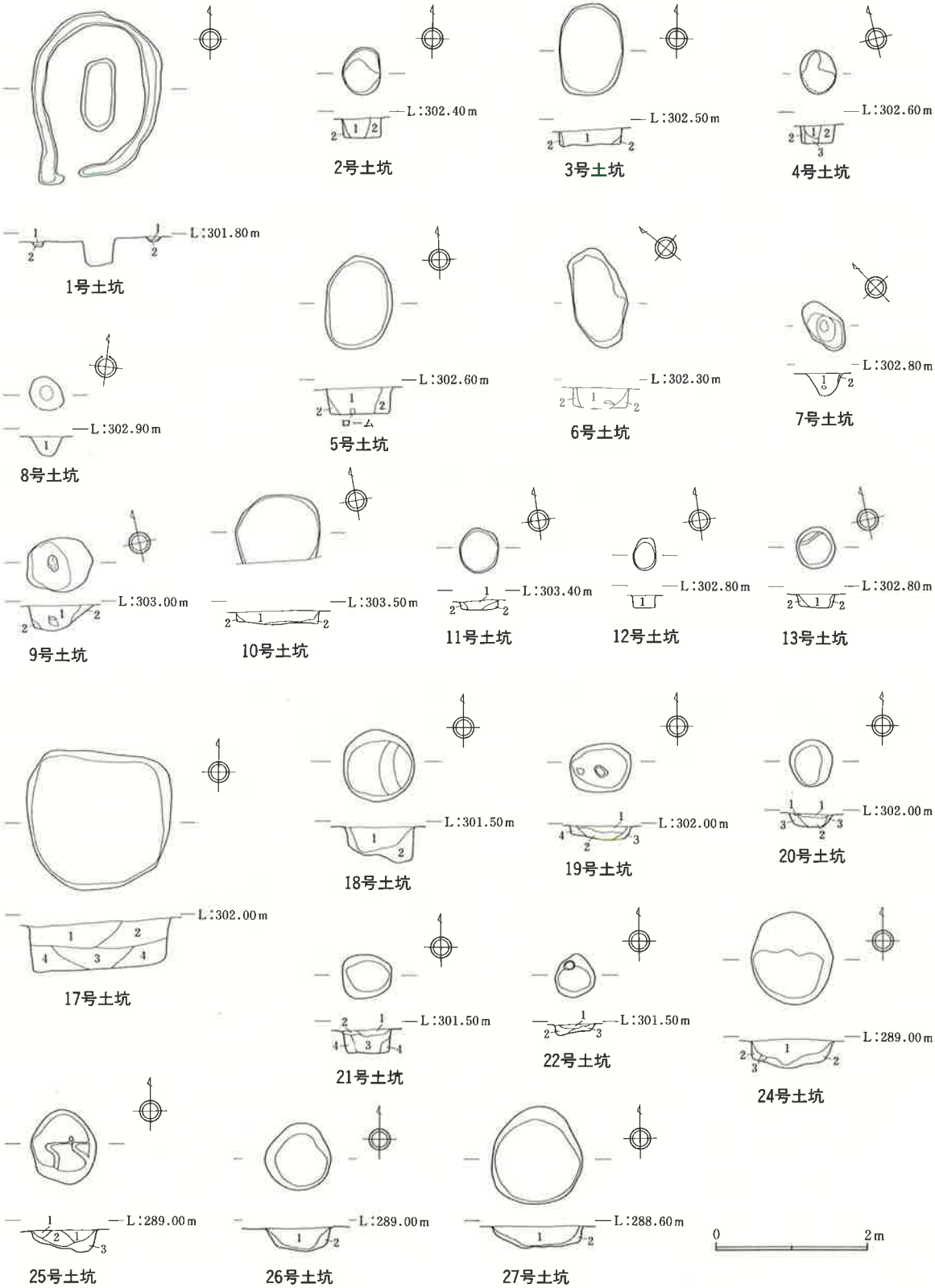


第99図　1号小鍛冶出土遺物(2)

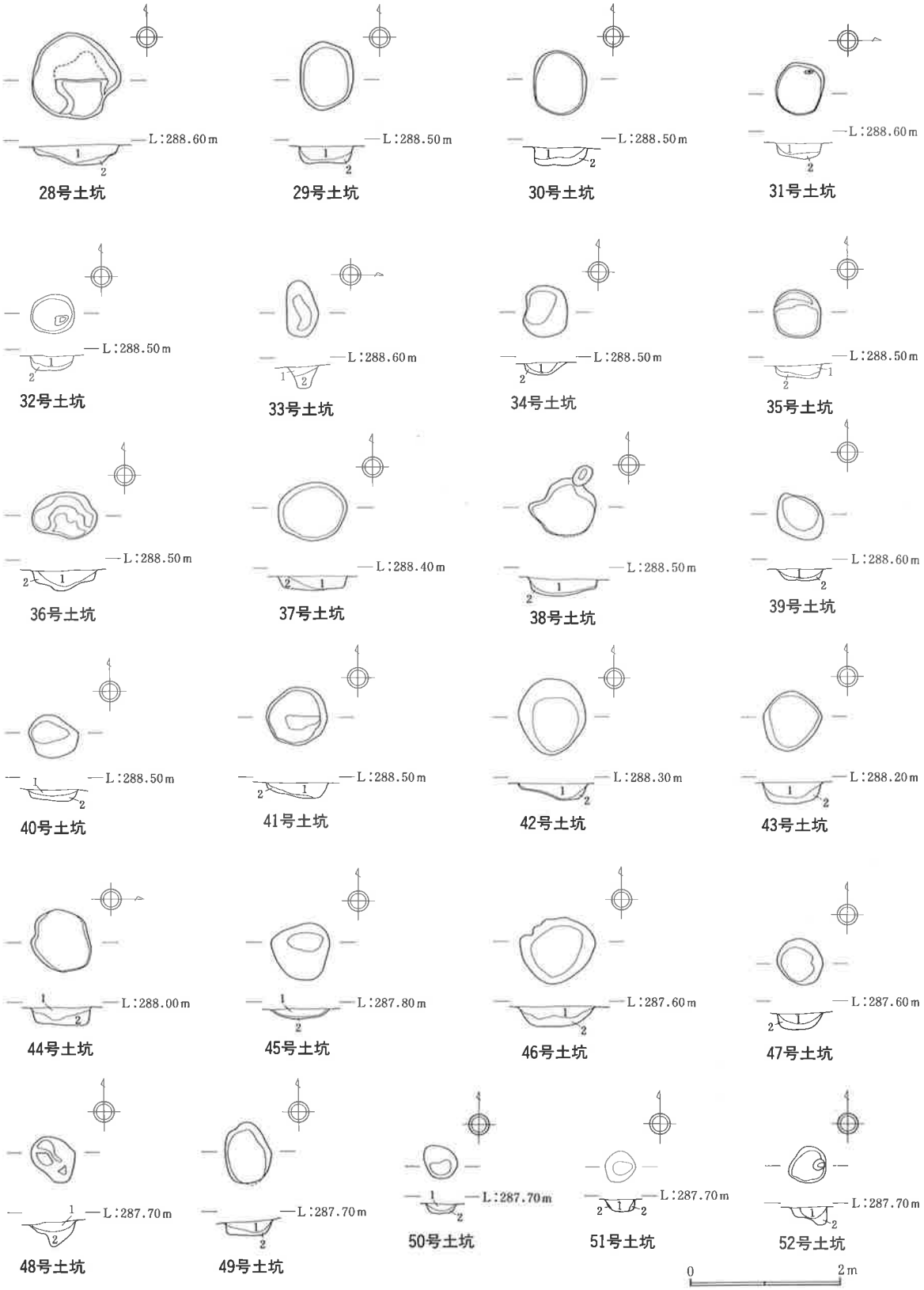
第34表　1号小鍛冶出土土器観察表

番号	器種	出土状態 残存状態	法量(cm)	胎土・色調	器形・成・整形の特徴	備考
1	坏 須恵器	覆土 3/4	口：10.3 底：6.7 高：3.1	細砂やや密 暗灰色	体部から口縁部にかけて直線的に外傾する。 ロクロ整形。底部全面手持ち篦削り。	
2	坏 須恵器	3/4	口：12.5 底：6.6 高：4.5	砂粒 暗橙褐色	体部内湾気味に外傾する。 ロクロ整形。底部全面・体部下端回転篦削り。	
3	坏 須恵器	覆土 1/2	口：(12.8) 底：8.6 高：3.5	砂粒 灰色	体部から口縁部にかけて直線的に外傾する。 ロクロ整形。底部回転篦切り後、回転篦削り。	
4	坏 須恵器	覆土 破片	口：—— 底：(7.8) 高：(3.9)	砂粒 暗灰色	体部直線的に外傾する。 ロクロ整形。底部回転篦切り。	
5	坏 土師器	破片	口：(17.0) 底：—— 高：(3.6)	細砂 橙褐色	体部内湾気味に外傾し、口縁部で短く直立する。 口縁部内外面横ナデ。体部外面篦削り。内面ナデ。	
6	椀 須恵器	覆土 1/3	口：(14.6) 底：(9.8) 高：3.3	細砂 灰色	体部から口縁部にかけて内湾気味に外傾し、口縁部で外反する。高台部は「ハ」の字状に開く。 ロクロ整形。貼付高台。	

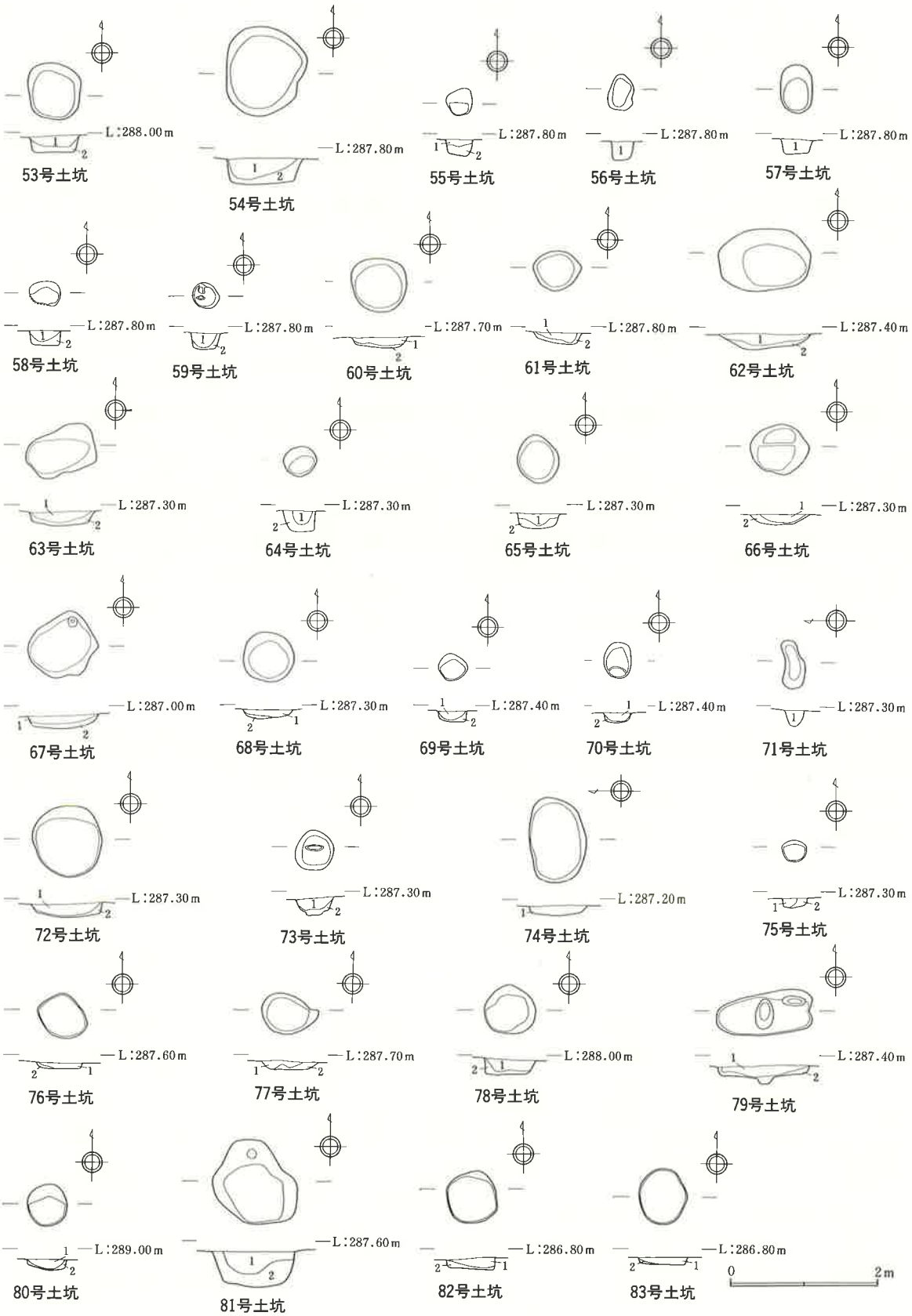
3．土　坑(第100～104図、第35～37表、PL48～55)



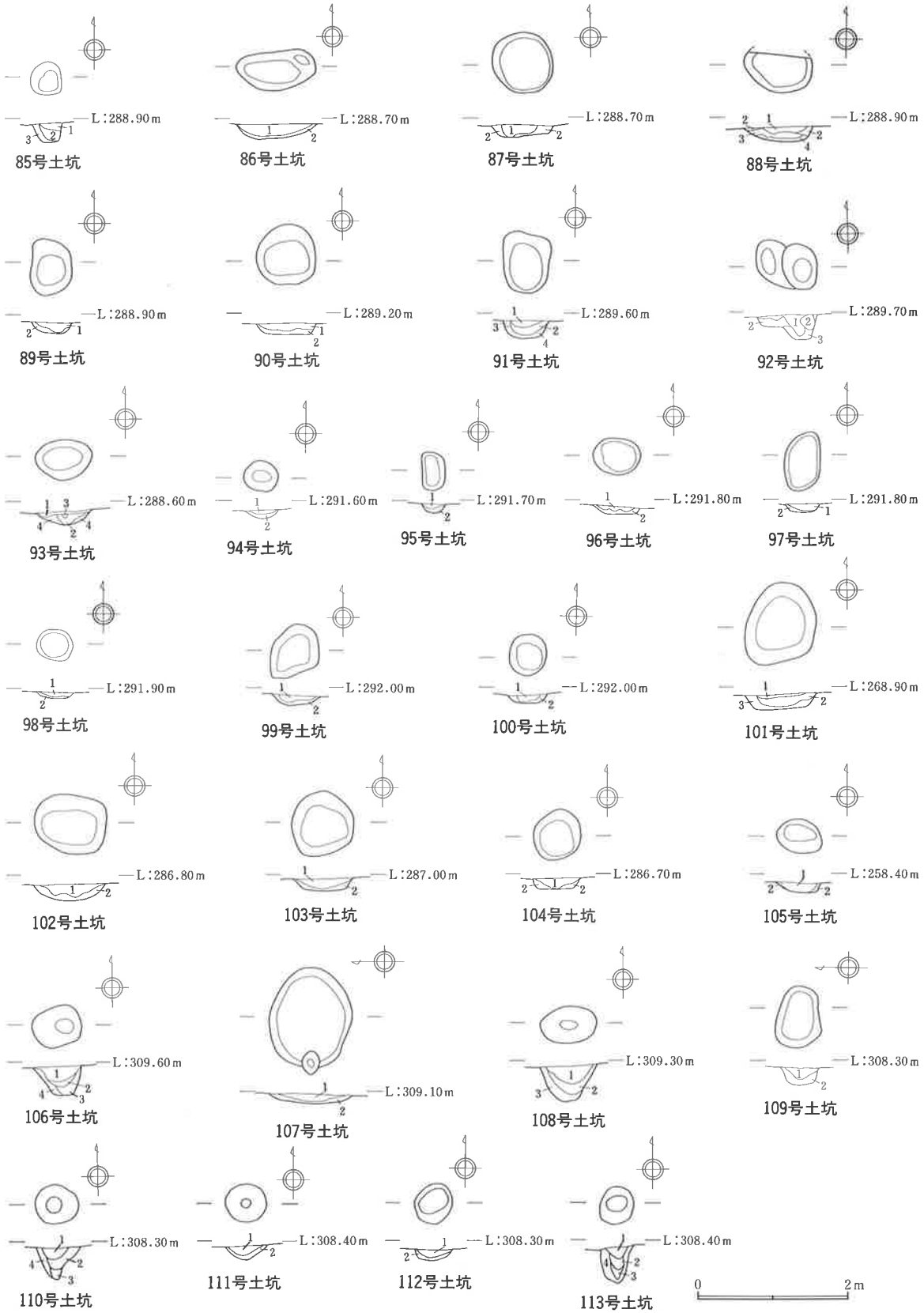
第100図　1～13·17～22·24～27号土坑



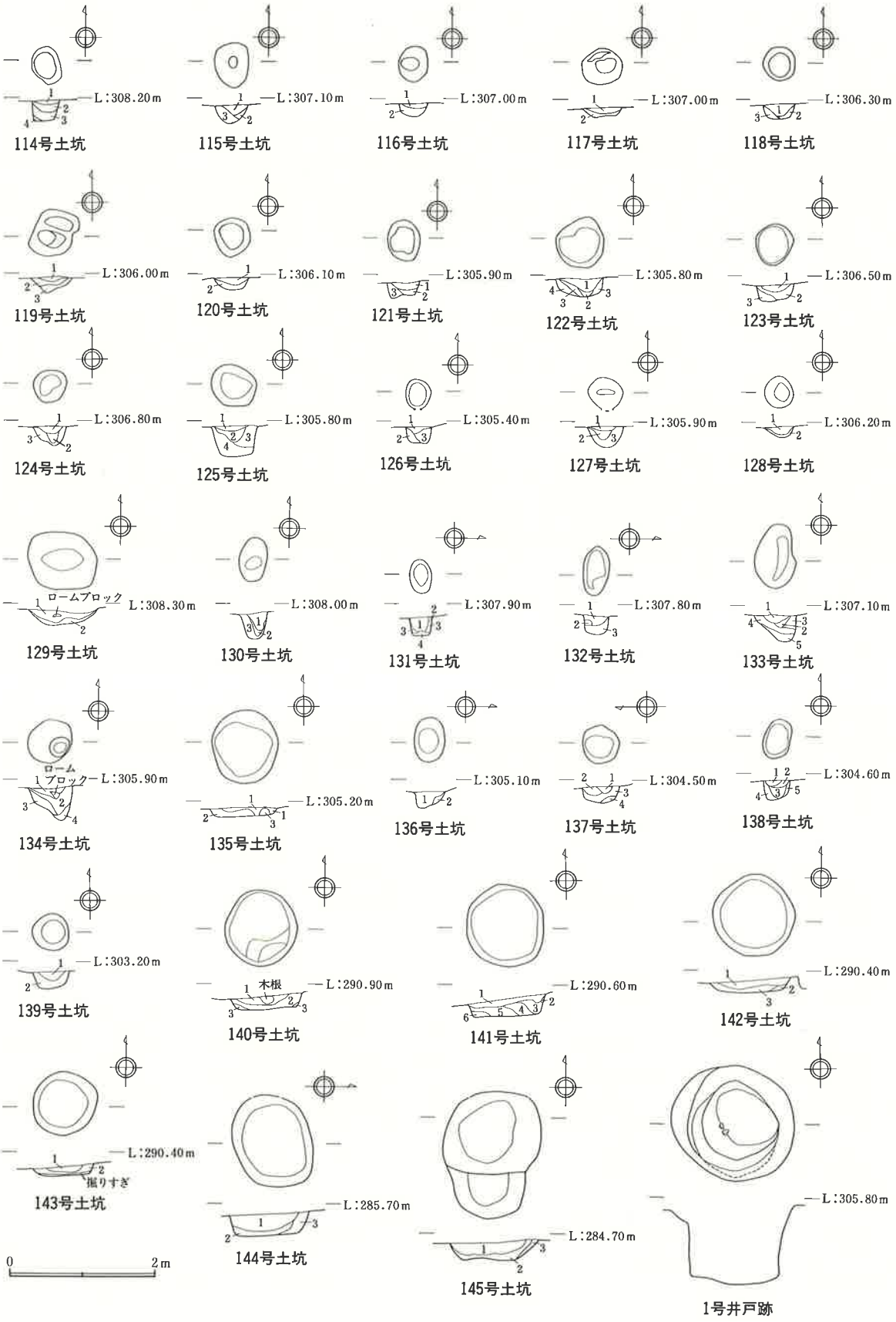
第101図　28～52号土坑



第102図　53～83号土坑



第103図　85～113号土坑



第104図　114～145号土坑、1号井戸跡

土坑土層説明

1号土坑
1.黒褐色土　ﾛｰﾑ粒･FA軽石(以下､FA)を含む。
2.茶褐色土　ﾛｰﾑ粒･ﾛｰﾑﾌﾞﾛｯｸをやや密に含む。

2号土坑
1.黒褐色土　浅間B軽石(以下､As-B)･ﾛｰﾑ粒を含む。
2.暗茶褐色土ﾛｰﾑﾌﾞﾛｯｸ含む。

3号土坑
1.暗褐色土　ﾛｰﾑ粒･炭化物を疎に､FAを含む。
2.茶褐色土　風化した浅間C軽石(以下､As-C)をやや密に、炭化物を疎に含む。

4号土坑
1.暗褐色土　FAをやや密に､炭化物疎に含む。
2.茶褐色土　ﾛｰﾑ粒･ﾛｰﾑﾌﾞﾛｯｸをやや密に含む。
3.暗茶褐色土ﾛｰﾑ粒をやや密に含む。

5号土坑
1.黒褐色土　FA･炭化物を疎に含む。
2.茶褐色土　FA･ﾛｰﾑ粒･風化As-Cを含む。

6号土坑
1.暗褐色土　ﾛｰﾑ粒･炭化物をやや疎に､As-C･FAを含む。
2.茶褐色土　ﾛｰﾑ粒をやや密に､炭化物を疎に含む。

7号土坑
1.暗褐色土　ﾛｰﾑ粒･炭化物を疎に含む。
2.暗茶褐色土ﾛｰﾑ粒を1より多く含み、炭化物を含まない。

8号土坑
1.黒褐色土　FA･As-C･炭化物を疎に含む。

9号土坑
1.黒褐色土　FA･ﾛｰﾑ粒を含む。
2.茶褐色土　ﾛｰﾑ粒･ﾛｰﾑﾌﾞﾛｯｸ含む。

10号土坑
1.暗褐色土　白色粒･炭化物を疎に含む。
2.暗茶褐色土ﾛｰﾑ粒･ﾛｰﾑﾌﾞﾛｯｸ含む。

11号土坑
1.暗褐色土　FAを疎に含む。
2.茶褐色土　ﾛｰﾑ粒･ﾛｰﾑﾌﾞﾛｯｸ含む。

12号土坑
1.暗褐色土　白色粒･炭化物を疎に含む。

13号土坑
1.暗褐色土　FAを疎に含む。
2.暗茶褐色土ﾛｰﾑ粒･ﾛｰﾑﾌﾞﾛｯｸをやや密に含む。

14号土坑
欠番

15号土坑
欠番

16号土坑
欠番

17号土坑
1.黒色土　FAを含む。
2.黒褐色土　ﾛｰﾑ粒･FAを含む。
3.暗褐色土　ﾛｰﾑ粒･FA･As-Cを疎に含む。
4.茶褐色土　ﾛｰﾑ粒･ﾛｰﾑﾌﾞﾛｯｸをやや密に含む。

18号土坑
1.黒褐色土　ﾛｰﾑ粒･FAを含む。
2.暗茶褐色土ﾛｰﾑ粒･ﾛｰﾑ漸移層ﾌﾞﾛｯｸを含む。

19号土坑
1.暗褐色土　白色粒･炭化物を疎に含む。
2.暗茶褐色土FA･ﾛｰﾑ粒を含む。
3.茶褐色土　ﾛｰﾑ粒を含む。
4.黄褐色土　ﾛｰﾑ粒･ﾛｰﾑﾌﾞﾛｯｸを密に含む。

20号土坑
1.黒褐色土　As-Bを含む。
2.暗褐色土　As-Bをやや密に含む。
3.茶褐色土　ﾛｰﾑ粒･ﾛｰﾑﾌﾞﾛｯｸ含む。

21号土坑
1.黒褐色土　ﾛｰﾑ粒･FAを含む。
2.黒色土　ﾛｰﾑ粒･ﾛｰﾑﾌﾞﾛｯｸ含む。
3.茶褐色土　ﾛｰﾑ粒を含む。
4.黄褐色土　ﾛｰﾑ粒･ﾛｰﾑﾌﾞﾛｯｸ含む。

22号土坑
1.黒褐色土　As-Bを含む。
2.茶褐色土　ﾛｰﾑﾌﾞﾛｯｸ含む。
3.暗茶褐色土ﾛｰﾑ粒･ﾛｰﾑﾌﾞﾛｯｸを密に含む。

23号土坑
欠番

24号土坑
1.暗褐色土　FA･炭化物を含む。
2.茶褐色土　ﾛｰﾑ粒･ﾛｰﾑﾌﾞﾛｯｸ含む。
3.暗茶褐色土ﾛｰﾑ粒を含む。

25号土坑
1.暗褐色土　FAを疎に含む。
2.黒褐色土　FA･風化したAs-Cを疎に含む。
3.茶褐色土　ﾛｰﾑ粒･ﾛｰﾑﾌﾞﾛｯｸを密に含む。

26号土坑
1.黒褐色土　FAを疎に含む。
2.茶褐色土　ﾛｰﾑ粒を含む。

27号土坑
1.暗褐色土　炭化物を疎に含む。
2.茶褐色土　ﾛｰﾑ粒を含む。

28号土坑
1.暗褐色土　As-Bを疎に含む。
2.暗茶褐色土ﾛｰﾑ粒･ﾛｰﾑﾌﾞﾛｯｸ含む。

29号土坑
1.黒褐色土　白色粒･炭化物を疎に含む。
2.茶褐色土　ﾛｰﾑ粒･ﾛｰﾑﾌﾞﾛｯｸ含む。

30号土坑
1.暗褐色土　FA･As-Cを含む。
2.茶褐色土　ﾛｰﾑ粒を含む。

31号土坑
1.黒褐色土　FAを含む。
2.茶褐色土　ﾛｰﾑ粒を含む。

32号土坑
1.暗褐色土　FA･As-Cを含む。
2.茶褐色土　ﾛｰﾑ粒を含む。

33号土坑
1.暗褐色土　As-Bを含む。
2.茶褐色土　ﾛｰﾑ粒を含む。

34号土坑
1.暗褐色土　As-Cを含む。
2.茶褐色土　ﾛｰﾑ粒を含む。

35号土坑
1.暗褐色土　FAを疎に含む。
2.茶褐色土　ﾛｰﾑ粒･ﾛｰﾑﾌﾞﾛｯｸをや や密に含む。

36号土坑
1.暗褐色土　FAを疎に含む。
2.茶褐色土　ﾛｰﾑ粒を含む。

37号土坑
1.黒褐色土　FA･As-Cを含む。
2.茶褐色土　FA･ﾛｰﾑ粒を含む。

38号土坑
1.暗褐色土　FAを含む。
2.茶褐色土　ﾛｰﾑ粒･ﾛｰﾑﾌﾞﾛｯｸ含む。

39号土坑
1.暗褐色土　FA･As-Cを含む。
2.茶褐色土　ﾛｰﾑﾌﾞﾛｯｸ含む。

40号土坑
1.暗褐色土　As-B･ﾛｰﾑ粒を含む。
2.茶褐色土　ﾛｰﾑ粒を含む。

41号土坑
1.暗褐色土　FAを含む。
2.茶褐色土　ﾛｰﾑ粒を含む。

42号土坑
1.暗褐色土　FAを含む。
2.茶褐色土　ﾛｰﾑ粒を含む。

43号土坑
1.暗褐色土　As-Bを含む。
2.茶褐色土　As-Bを含む。

44号土坑
1.暗褐色土　FAを含む。
2.茶褐色土　ﾛｰﾑ粒を含む。

45号土坑
1.暗褐色土　FAを含む。
2.茶褐色土　ﾛｰﾑ粒･ﾛｰﾑﾌﾞﾛｯｸ含む。

46号土坑
1.暗褐色土　ﾛｰﾑ漸移層ﾌﾞﾛｯｸを含む。
2.茶褐色土　ﾛｰﾑ粒を含む。

47号土坑
1.暗褐色土　ﾛｰﾑ漸移層ﾌﾞﾛｯｸを含む。
2.茶褐色土　ﾛｰﾑ粒を疎に含む。

48号土坑
1.暗褐色土　ﾛｰﾑ粒を含む。
2.茶褐色土　ﾛｰﾑ漸移層ﾌﾞﾛｯｸを含む。

49号土坑
1.暗褐色土　FAを含む。
2.茶褐色土　ﾛｰﾑ粒を含む。

50号土坑
1.暗褐色土　As-Bを含む。
2.茶褐色土　ﾛｰﾑ粒を含む。

51号土坑
1.暗褐色土　As-Bを含む。
2.茶褐色土　ﾛｰﾑ粒を含む。

52号土坑
1.暗褐色土　As-Bを含む。
2.茶褐色土　As-Bを疎に含む。

５３号土坑
1.黒褐色土　As-B･ﾛｰﾑ粒を含む。
2.茶褐色土　FAを疎に含む。
５４号土坑
1.暗褐色土　FAをやや密に含む。
2.茶褐色土　ﾛｰﾑ粒･ﾛｰﾑﾌﾞﾛｯｸ含む。
５５号土坑
1.暗褐色土　FAを含む。
2.茶褐色土　ﾛｰﾑ粒･ﾛｰﾑﾌﾞﾛｯｸをやや密に含む。
５６号土坑
1.暗褐色土　FAを含む。
５７号土坑
1.黒褐色土　As-Bを含む。
５８号土坑
1.暗褐色土　As-Bを含む。
2.茶褐色土　ﾛｰﾑ粒･ﾛｰﾑﾌﾞﾛｯｸ含む。
５９号土坑
1.黒褐色土　As-Bをやや密に含む。
2.茶褐色土　ﾛｰﾑ粒･ﾛｰﾑﾌﾞﾛｯｸ含む。
６０号土坑
1.黒褐色土　FAをやや密に含む。
2.茶褐色土　ﾛｰﾑﾌﾞﾛｯｸ含む。
６１号土坑
1.黒褐色土　ﾛｰﾑ粒を含む。
2.茶褐色土　ﾛｰﾑﾌﾞﾛｯｸ含む。
６２号土坑
1.暗褐色土　FA･As-Cを含む。
2.茶褐色土　ﾛｰﾑﾌﾞﾛｯｸ含む。
６３号土坑
1.黒褐色土　FAをやや密に含む。
2.茶褐色土　黒褐色土ﾌﾞﾛｯｸを含む。
６４号土坑
1.黒色土　FAをやや密に含む。
2.茶褐色土　ﾛｰﾑ漸移層ﾌﾞﾛｯｸを含む。
６５号土坑
1.暗褐色土　ﾛｰﾑ漸移層ﾌﾞﾛｯｸを含む。
2.茶褐色土　ﾛｰﾑﾌﾞﾛｯｸ含む。
６６号土坑
1.黒褐色土　ﾛｰﾑ粒を含む。
2.茶褐色土　ﾛｰﾑ粒･ﾛｰﾑﾌﾞﾛｯｸ含む。
６７号土坑
1.暗褐色土　FAを含む。
2.茶褐色土　ﾛｰﾑﾌﾞﾛｯｸ含む。
６８号土坑
1.黒褐色土　ﾛｰﾑ漸移層ﾌﾞﾛｯｸを含む。
2.茶褐色土　ﾛｰﾑﾌﾞﾛｯｸ含む。
６９号土坑
1.黒褐色土　As-Bを含む。
2.茶褐色土　ﾛｰﾑ粒を含む。
７０号土坑
1.暗茶褐色土黒褐色土ﾌﾞﾛｯｸを含む。
2.茶褐色土　ﾛｰﾑ掘り過ぎ。
７１号土坑
1.茶褐色土　ﾛｰﾑ粒を含む。
７２号土坑
1.暗茶褐色土ﾛｰﾑ漸移層ﾌﾞﾛｯｸを含む。
2.茶褐色土　ﾛｰﾑ掘り過ぎ。
７３号土坑
1.暗茶褐色土As-Bを含む。
2.茶褐色土　ﾛｰﾑ粒･ﾛｰﾑﾌﾞﾛｯｸ含む。
７４号土坑
1.暗茶褐色土ﾛｰﾑ漸移層ﾌﾞﾛｯｸを含む。
７５号土坑
1.暗茶褐色土黒褐色土ﾌﾞﾛｯｸを含む。
2.茶褐色土　ﾛｰﾑﾌﾞﾛｯｸ含む。
７６号土坑
1.暗茶褐色土As-Bを含む。
2.茶褐色土　ﾛｰﾑ掘り過ぎ。
７７号土坑
1.暗褐色土　ﾛｰﾑ漸移層ﾌﾞﾛｯｸを含む。
2.茶褐色土　ﾛｰﾑ粒･ﾛｰﾑﾌﾞﾛｯｸ含む。
７８号土坑
1.黒褐色土　ﾛｰﾑ漸移層ﾌﾞﾛｯｸを含む。
2.茶褐色土　ﾛｰﾑ粒含む。
７９号土坑
1.黒褐色土　ﾛｰﾑ粒･ﾛｰﾑﾌﾞﾛｯｸ含む。
2.茶褐色土　1に近似するが、ﾛｰﾑﾌﾞﾛｯｸを多く含む。
８０号土坑
1.暗茶褐色土ﾛｰﾑ漸移層ﾌﾞﾛｯｸ含む。
2.茶褐色土　ﾛｰﾑ掘り過ぎ。
８１号土坑
1.黒褐色土　As-Bを含む。
2.暗褐色土　As-Bをやや密に含む。
８２号土坑
1.黒褐色土　As-Bを含む。
2.茶褐色土　ﾛｰﾑﾌﾞﾛｯｸ含む。
８３号土坑
1.黒褐色土　ﾛｰﾑ漸移層ﾌﾞﾛｯｸを含む。
2.茶褐色土　ﾛｰﾑ掘り過ぎ。
８４号土坑
欠番
８５号土坑
1.暗褐色土　As-Bを含む。
2.暗茶褐色土As-Bを疎に含む。
3.茶褐色土　ﾛｰﾑﾌﾞﾛｯｸを密に含む。
８６号土坑
1.暗褐色土　FAをやや密に含む。
2.黄褐色土　ﾛｰﾑ粒･ﾛｰﾑﾌﾞﾛｯｸを密に含む。
８７号土坑
1.暗褐色土　FAを含む。
2.茶褐色土　ﾛｰﾑ粒をやや密に含む。
８８号土坑
1.暗褐色土　FA･As-Cを含む。
2.暗褐色土　FAを疎に含む。
3.暗茶褐色土FAを疎、ﾛｰﾑ粒を含む。
4.黄褐色土　ﾛｰﾑﾌﾞﾛｯｸを多く含む。
８９号土坑
1.暗褐色土　ﾛｰﾑ粒を含む。
2.茶褐色土　ﾛｰﾑ粒･ﾛｰﾑﾌﾞﾛｯｸ含む。
９０号土坑
1.暗褐色土　FA･As-Cを含む。
2.茶褐色土　ﾛｰﾑ粒･ﾛｰﾑﾌﾞﾛｯｸをやや密に含む。
９１号土坑
1.暗褐色土　FA･As-Cを含む。
2.暗褐色土　FA･As-Cをやや密に含む。
3.茶褐色土　ﾛｰﾑ漸移層ﾌﾞﾛｯｸ。
4.黄褐色土　ﾛｰﾑ漸移層ﾌﾞﾛｯｸ･ﾛｰﾑ ﾌﾞﾛｯｸを含む。
９２号土坑
1.暗褐色土　ﾛｰﾑ漸移層ﾌﾞﾛｯｸ含む。
2.茶褐色土　ﾛｰﾑ粒含む。
3.黄褐色土　ﾛｰﾑ粒･ﾛｰﾑﾌﾞﾛｯｸ含む。
９３号土坑
1.暗褐色土　As-Bを含む。
2.茶褐色土　ﾛｰﾑ粒含む。
3.黄褐色土　ﾛｰﾑﾌﾞﾛｯｸ。
4.茶褐色土　ﾛｰﾑﾌﾞﾛｯｸ含む。
９４号土坑
1.暗褐色土　ﾛｰﾑ漸移層ﾌﾞﾛｯｸ含む。
2.茶褐色土　ﾛｰﾑ粒･ﾛｰﾑﾌﾞﾛｯｸ含む。
９５号土坑
1.暗褐色土　As-Bを含む。
2.茶褐色土　ﾛｰﾑ粒含む。
９６号土坑
1.暗茶褐色土FAを含む。
2.茶褐色土　ﾛｰﾑ粒･ﾛｰﾑﾌﾞﾛｯｸ含む。
９７号土坑
1.暗茶褐色土ﾛｰﾑ粒を含む。
2.茶褐色土　ﾛｰﾑ粒･ﾛｰﾑﾌﾞﾛｯｸ含む。
９８号土坑
1.茶褐色土　As-Bを含む。
2.黄褐色土　ﾛｰﾑ掘り過ぎ。
９９号土坑
1.暗茶褐色土As-Bを含む。
2.茶褐色土　ﾛｰﾑ粒･ﾛｰﾑﾌﾞﾛｯｸ含む。
１００号土坑
1.暗茶褐色土As-Bを含む。
2.茶褐色土　ﾛｰﾑﾌﾞﾛｯｸ含む。
１０１号土坑
1.暗褐色土　FAをやや密に含む。
2.暗茶褐色土ﾛｰﾑﾌﾞﾛｯｸ含む。
3.茶褐色土　ﾛｰﾑ粒･ﾛｰﾑﾌﾞﾛｯｸ含む。
１０２号土坑
1.暗茶褐色土As-Bを疎に含む。
2.茶褐色土　As-Bを含む。
１０３号土坑
1.暗褐色土　As-Bを含む。
2.茶褐色土　ﾛｰﾑ漸移層ﾌﾞﾛｯｸを含む。
１０４号土坑
1.黒褐色土　As-B･ﾛｰﾑ粒を含む。
2.茶褐色土　As-Bを疎に含む。
１０５号土坑
1.暗褐色土　FAを疎に含む。
2.茶褐色土　ﾛｰﾑ粒を含む。

１０６号土坑
1.黒褐色土　ﾛｰﾑ粒を含む。
2.暗茶褐色土ﾛｰﾑ粒を含み、FA疎に含む。
3.暗褐色土　ﾛｰﾑ粒を含む。
4.茶褐色土　ﾛｰﾑ粒･ﾛｰﾑﾌﾞﾛｯｸをやや密に含む。
１０７号土坑
1.黒褐色土　FA･ﾛｰﾑ粒を含む。
2.暗茶褐色土ﾛｰﾑ粒･ﾛｰﾑﾌﾞﾛｯｸを含む。
１０８号土坑
1.黒褐色土　FA･As-Cをやや密に含む。
2.暗褐色土　FAを疎に含む。
3.褐色土　ﾛｰﾑ漸移層ﾌﾞﾛｯｸ･ﾛｰﾑﾌﾞﾛｯｸをやや密に含む。
１０９号土坑
1.黒褐色土　As-Cをやや疎に含む。
2.暗褐色土　As-C･FAを含む。
１１０号土坑
1.黒色土　FAを疎に含む。
2.黒褐色土　FA･As-C･ﾛｰﾑ粒を含む。(柱痕跡?)
3.暗茶褐色土ﾛｰﾑﾌﾞﾛｯｸをやや密に含む。しまり強い。(柱痕跡?)
4.暗茶褐色土ﾛｰﾑﾌﾞﾛｯｸ･暗褐色土ﾌﾞﾛｯｸの混土。
１１１号土坑
1.黒褐色土　FA･ﾛｰﾑ粒を含む。
2.暗褐色土　FA･As-Cを疎に含む。
１１２号土坑
1.黒褐色土　FAを含む。
2.茶褐色土　ﾛｰﾑ粒･ﾛｰﾑﾌﾞﾛｯｸをやや密に含む。
１１３号土坑
1.黒褐色土　FA･ﾛｰﾑ粒を含む。
2.暗褐色土　FA･ﾛｰﾑ粒･ﾛｰﾑﾌﾞﾛｯｸを含む。(柱痕跡?)
3.暗褐色土　ﾛｰﾑ粒･ﾛｰﾑﾌﾞﾛｯｸ含む。しまり強い。(柱痕跡?)
4.黄褐色土　ﾛｰﾑﾌﾞﾛｯｸを密に含む。
１１４号土坑
1.暗褐色土　FA･As-Cを疎に含む。
2.褐色土　ﾛｰﾑ粒･FAを疎に含む。
3.褐色土　ﾛｰﾑ粒･ﾛｰﾑﾌﾞﾛｯｸ含む。
4.黄褐色土　ﾛｰﾑﾌﾞﾛｯｸ。
１１５号土坑
1.黒褐色土　FAを含む。
2.暗褐色土　ﾛｰﾑ粒を疎に含む。
3.褐色土　ﾛｰﾑ粒･ﾛｰﾑﾌﾞﾛｯｸをやや密に含む。
１１６号土坑
1.暗褐色土　FA･ﾛｰﾑ粒を含む。
2.褐色土　ﾛｰﾑ粒･ﾛｰﾑﾌﾞﾛｯｸをやや密に含む。
１１７号土坑
1.黒褐色土　As-C･FAを含む。
2.褐色土　ﾛｰﾑ粒･ﾛｰﾑﾌﾞﾛｯｸをやや密に含む。
１１８号土坑
1.黒褐色土　As-C･FAを含む。
2.暗褐色土　FAを疎に含む。
3.褐色土　ﾛｰﾑ漸移層ﾌﾞﾛｯｸを含む。
１１９号土坑
1.黒褐色土　As-Bを含む。
2.暗褐色土　As-Bをやや密に含む。
3.褐色土　ﾛｰﾑﾌﾞﾛｯｸを密に含む。
１２０号土坑
1.黒褐色土　FAを含む。
2.暗褐色土　FAを疎に含む。
１２１号土坑
1.暗褐色土　FAをやや密に含む。
2.褐色土　FA･炭化物を含む。
3.茶褐色土　ﾛｰﾑ粒･ﾛｰﾑﾌﾞﾛｯｸをやや密に含む。
１２２号土坑
1.黒褐色土　FA･ﾛｰﾑ粒を含む。
2.暗褐色土　FAを疎に含む。
3.褐色土　ﾛｰﾑ粒を含む。
4.黄褐色土　ﾛｰﾑ粒･ﾛｰﾑﾌﾞﾛｯｸを密に含む。
１２３号土坑
1.暗褐色土　FAを疎に含む。
2.茶褐色土　ﾛｰﾑ粒を含む。
3.褐色土　ﾛｰﾑ粒･ﾛｰﾑﾌﾞﾛｯｸ含む。
１２４号土坑
1.暗褐色土　FAを含む。
2.暗褐色土　FAを疎に含む。(柱痕跡?)
3.褐色土　ﾛｰﾑ粒を含む。
１２５号土坑
1.黒褐色土　FA･ﾛｰﾑ粒を含む。
2.暗褐色土　FAを含む。
3.褐色土　ﾛｰﾑ粒を含む。
4.茶褐色土　ﾛｰﾑ粒･ﾛｰﾑﾌﾞﾛｯｸを密に含む。
１２６号土坑
1.暗褐色土　As-B･ﾛｰﾑ粒を含む。
2.暗褐色土　ﾛｰﾑ粒を疎に含む。
3.褐色土　ﾛｰﾑ粒･ﾛｰﾑﾌﾞﾛｯｸ含む。
１２７号土坑
1.黒褐色土　FAを含む。
2.暗褐色土　FAを疎に含む。(柱痕跡?)
3.茶褐色土　ﾛｰﾑﾌﾞﾛｯｸをやや密に含む。
１２８号土坑
1.黒褐色土　As-Bを含む。
2.暗褐色土　ﾛｰﾑ掘り過ぎ。
１２９号土坑
1.暗褐色土　FAを含む。
2.暗褐色土　ﾛｰﾑ粒を含む。
１３０号土坑
1.黒褐色土　FAを含む。(柱痕跡?)
2.暗褐色土　ﾛｰﾑ粒を含む。
3.茶褐色土　ﾛｰﾑ粒･ﾛｰﾑﾌﾞﾛｯｸ含む。
１３１号土坑
1.黒褐色土　FA･ﾛｰﾑ粒を含む。(柱痕跡?)
2.暗褐色土　FAを疎に含む。
3.褐色土　ﾛｰﾑ粒を含む。しまり強い。
4.黄褐色土　ﾛｰﾑ粒･ﾛｰﾑﾌﾞﾛｯｸを密に含む。しまり強い。
１３２号土坑
1.茶褐色土　ﾛｰﾑ粒を含む。
2.暗褐色土　ﾛｰﾑﾌﾞﾛｯｸ含む。
3.褐色土　ﾛｰﾑ粒を含む。しまり強い。
１３３号土坑
1.黒褐色土　ﾛｰﾑ粒を含む。
2.暗褐色土　ﾛｰﾑﾌﾞﾛｯｸ含む。
3.茶褐色土　ﾛｰﾑ粒を含む。
4.褐色土　ﾛｰﾑ粒･ﾛｰﾑﾌﾞﾛｯｸ含む。
5.黄褐色土　ﾛｰﾑﾌﾞﾛｯｸを密に含む。
１３４号土坑
1.暗褐色土　As-B･ﾛｰﾑ粒を含む。
2.褐色土　ﾛｰﾑ粒･ﾛｰﾑﾌﾞﾛｯｸ含む。
3.茶褐色土　ﾛｰﾑ粒を密に含む。
4.黄褐色土　ﾛｰﾑ粒･ﾛｰﾑﾌﾞﾛｯｸ含む。
１３５号土坑
1.茶褐色土　ﾛｰﾑ粒を含む。
2.褐色土　ﾛｰﾑﾌﾞﾛｯｸを密に含む。
3.茶褐色土　ﾛｰﾑ粒を含む。
１３６号土坑
1.黒褐色土　FA･ﾛｰﾑ粒を含む。
2.褐色土　ﾛｰﾑﾌﾞﾛｯｸ含む。
１３７号土坑
1.黒褐色土　ﾛｰﾑ粒を含む。(柱痕跡?)
2.暗褐色土　ﾛｰﾑﾌﾞﾛｯｸ含む。
3.茶褐色土　ﾛｰﾑ粒を含む。しまりあり。
4.褐色土　ﾛｰﾑ粒･ﾛｰﾑﾌﾞﾛｯｸ含む。
１３８号土坑
1.茶褐色土　ﾛｰﾑ粒を含む。
2.黒褐色土　ﾛｰﾑﾌﾞﾛｯｸ含む。
3.茶褐色土　ﾛｰﾑ粒を含む。(柱痕跡?)
4.褐色土　ﾛｰﾑ粒･ﾛｰﾑﾌﾞﾛｯｸ含む。
5.褐色土　ﾛｰﾑﾌﾞﾛｯｸ･褐色土の混土。
１３９号土坑
1.暗褐色土　FAを含む。
2.暗褐色土　ﾛｰﾑ粒を含む。
１４０号土坑
1.暗褐色土　FA･As-C･ﾛｰﾑ粒を含む。
2.暗褐色土　As-C･ﾛｰﾑ粒を含む。しまり強い。粘性あり。
3.暗茶褐色土ﾛｰﾑ粒やや密に含む。
１４１号土坑
1.暗褐色土　FA･As-C･ﾛｰﾑ粒をやや疎に含む。
2.茶褐色土　ﾛｰﾑ粒を含む。
3.黒褐色土　FA･As-Cを疎に含む。粘性あり。
4.暗茶褐色土FA･As-Cを疎に含む。粘性弱い。
5.暗褐色土　FAを含む。しまりあり。
6.茶褐色土　ﾛｰﾑ粒をやや密に含む。
１４２号土坑
1.暗褐色土　FA･As-C･ﾛｰﾑ粒をやや疎に含む。
2.暗褐色土　FAを疎に含む。ﾛｰﾑ粒を含む。
3.茶褐色土　ﾛｰﾑ粒を密に含む。
１４３号土坑
1.黒褐色土　FA･As-C･ﾛｰﾑ粒を含む。
2.暗褐色土　As-Cを密に含む。ﾛｰﾑ粒含む。
１４４号土坑
1.暗褐色土　FA･As-C･ﾛｰﾑ粒をやや疎に含む。
2.茶褐色土　ﾛｰﾑ粒を密に含む。
3.黄褐色土　ﾛｰﾑ粒･ﾛｰﾑﾌﾞﾛｯｸを密に含む。
１４５号土坑
1.暗褐色土　FA･As-C･ﾛｰﾑ粒を含む。
2.暗茶褐色土FA･As-C･ﾛｰﾑ粒を密に含む。
3.茶褐色土　ﾛｰﾑ粒を密に含む。

第35表　土坑一覧表(1)

番号	ｸﾞﾘｯﾄﾞ	平　面　形	規模(長軸×短軸) m	断面形	深さ m	備　　考
1	12-D-25	円　形	径1.15	逆台形	0.20	
2	17-I-20	不整楕円形	0.60×0.50	U字型	0.25	
3	16-I-16	不整長方形	1.20×0.80	U字型	0.20	
4	17-J-11	楕円形	0.55×0.45	U字型	0.25	
5	18-I-12	不整楕円形	1.20×0.85	U字型	0.35	
6	16-K-02	不整形	1.25×0.65	U字型	0.25	
7	16-I-05	不整形	0.70×0.45	逆台形	0.30	
8	16-J-10	不整楕円形	0.50×0.35	逆台形	0.25	
9	17-K-01	不整形	0.90×0.70	逆台形	0.30	
10	16-J-25	不整方形	一辺1.10	逆台形	0.15	
11	17-J-08	不整楕円形	0.60×0.50	逆台形	0.22	
12	16-J-05	不整長方形	0.45×0.30	U字型	0.15	
13	17-K-13	円　形	径0.55	逆台形	0.18	
14	欠　番					
15	欠　番					
16	欠　番					
17	16-J-07	不整方形	一辺0.90	U字型	0.30	
18	15-J-21	不整円形	径0.90	逆台形	0.45	
19	15-J-21	不整長方形	0.80×0.60	逆台形	0.20	
20	15-J-21	不整方形	一辺0.60	逆台形	0.20	
21	15-J-23	不整方形	一辺0.60	逆台形	0.30	
22	15-J-25	不整形	0.60×0.50	逆台形	0.10	
23	欠　番					
24	5-E-03	楕円形	1.20×1.05	逆台形	0.35	
25	4-E-22	不整楕円形	1.00×0.85	逆台形	0.30	
26	4-E-25	不整円形	径0.60	逆台形	0.28	
27	4-D-16	楕円形	1.25×1.15	逆台形	0.25	
28	4-C-20	不整円形	径1.15	逆台形	0.25	
29	4-C-15	不整長方形	0.90×0.70	逆台形	0.20	
30	4-C-09	楕円形	0.85×0.65	逆台形	0.25	
31	4-C-14	楕円形	0.70×0.55	U字型	0.20	
32	4-D-07	楕円形	0.60×0.50	逆台形	0.22	
33	4-D-07	不整形	0.75×0.40	逆台形	0.30	
34	4-D-01	不整形	0.70×0.55	逆台形	0.15	
35	4-D-01	不整方形	一辺0.65	U字型	0.15	
36	4-D-01	不整形	0.85×0.60	逆台形	0.25	
37	4-C-05	楕円形	0.95×0.75	逆台形	0.18	
38	4-C-10	不整形	0.80×0.65	逆台形	0.22	
39	4-C-10	不整形	0.70×0.50	逆台形	0.15	
40	4-C-09	不整形	0.65×0.55	逆台形	0.15	
41	4-C-04	不整円形	径0.75	逆台形	0.20	
42	4-C-04	不整楕円形	1.00×0.90	逆台形	0.20	
43	4-C-03	不整円形	径0.80	逆台形	0.30	
44	3-C-22	不整形	0.85×0.75	逆台形	0.25	
45	3-C-22	不整形	0.75×0.65	逆台形	0.15	
46	3-C-13	不整方形	一辺0.60	逆台形	0.25	
47	3-C-13	楕円形	0.60×0.50	逆台形	0.20	
48	3-C-14	不整形	0.65×0.55	V字型	0.35	
49	3-C-14	不整長方形	0.80×0.60	逆台形	0.20	
50	3-C-14	不整形	0.50×0.35	逆台形	0.15	

第36表　土坑一覧表(2)

番号	ｸﾞﾘｯﾄﾞ	平　面　形	規模(長軸×短軸)m	断面形	深さ m	備　　考
51	3-C-14	不整方形	一辺0.40	逆台形	0.40	
52	3-C-14	不整形	0.50×0.40	逆台形	0.15	
53	3-C-17	不整方形	一辺0.70	U字型	0.20	
54	3-C-15	不整形	1.20×1.00	逆台形	0.35	
55	3-C-14	不整円形	径0.35	U字型	0.25	
56	3-C-20	不整長方形	0.50×0.30	U字型	0.25	
57	3-C-20	不整長方形	0.65×0.40	逆台形	0.20	
58	3-C-20	不整形	0.40×0.30	U字型	0.20	
59	3-C-20	不整円形	径0.35	U字型	0.20	
60	3-C-15	不整方形	一辺0.70	逆台形	0.15	
61	3-D-17	不整楕円形	0.65×0.50	逆台形	0.15	
62	3-D-06	不整長方形	1.25×0.80	逆台形	0.20	
63	3-D-03	不整長方形	0.90×0.55	逆台形	0.20	
64	3-D-03	方　形	一辺0.40	逆台形	0.30	
65	3-D-03	不整楕円形	0.65×0.50	逆台形	0.20	
66	3-D-03	不整楕円形	0.80×0.65	逆台形	0.15	
67	3-C-14	不整楕円形	0.90×0.80	逆台形	0.15	
68	3-D-08	円　形	径0.65	逆台形	0.10	
69	3-D-09	不整形	0.40×0.38	逆台形	0.18	
70	3-D-09	不整形	0.50×0.35	逆台形	0.15	
71	3-D-09	不整形	0.70×0.20	V字型	0.20	
72	3-D-09	不整円形	径1.00	逆台形	0.20	
73	3-D-10	方　形	一辺0.50	U字型	0.20	
74	3-D-10	不整長方形	1.15×0.75	逆台形	0.15	
75	3-D-10	不整円形	径0.30	U字型	0.10	
76	3-D-13	不整長方形	0.60×0.50	逆台形	0.65	
77	3-D-13	不整形	0.75×0.55	逆台形	0.10	
78	3-C-25	円　形	径0.65	U字型	0.20	
79	3-D-07	不整長方形	1.25×0.55	U字型	0.15	
80	4-D-16	方　形	一辺0.50	逆台形	0.15	
81	3-E-22	不整形	1.10×1.00	逆台形	0.45	
82	3-E-09	方　形	一辺0.65	U字型	0.15	
83	3-E-10	楕円形	0.75×0.65	U字型	0.10	
84	欠　番					
85	5-F-03	不整方形	一辺0.45	逆台形	0.25	
86	4-F-22	不整形	1.00×0.50	逆台形	0.20	
87	4-F-23	方　形	一辺0.80	逆台形	0.20	
88	4-F-24	不整形	0.90×0.50	逆台形	0.20	
89	5-F-05	不整形	0.75×0.50	逆台形	0.15	
90	5-G-07	不整円形	径0.80	逆台形	0.20	
91	5-G-16	不整長方形	0.80×0.60	逆台形	0.25	
92	5-G-17	不整形	0.80×0.55	逆台形	0.30	
93	5-G-04	不整楕円形	0.75×0.55	V字型	0.20	
94	6-G-21	不整円形	径0.40	逆台形	0.10	
95	6-G-21	長方形	0.50×0.30	逆台形	0.10	
96	6-G-21	楕円形	0.60×0.50	逆台形	0.10	
97	6-G-21	不整長方形	0.80×0.45	逆台形	0.10	
98	7-G-01	不整円形	径0.40	逆台形	0.50	
99	7-G-05	不整形	0.80×0.60	逆台形	0.15	
100	7-H-01	楕円形	0.55×0.45	逆台形	0.10	

第37表　土坑一覧表(3)

番号	ｸﾞﾘｯﾄﾞ	平　面　形	規模(長軸×短軸) m	断面形	深さ m	備　　考
101	4-H-01	不整楕円形	1.10×0.90	逆台形	0.20	
102	4-H-02	不整長方形	0.95×0.75	逆台形	0.20	
103	4-H-03	不整方形	一辺0.85	逆台形	0.20	
104	4-G-09	不整方形	一辺0.65	逆台形	0.15	
105	4-G-03	不整形	0.60×0.45	逆台形	0.10	
106	22-K-24	不整長方形	0.70×0.60	逆台形	0.40	
107	22-L-21	不整長方形	1.35×1.10	逆台形	0.15	
108	22-K-20	不整長方形	0.75×0.50	逆台形	0.45	
109	22-L-17	不整形	0.80×0.50	逆台形	0.25	
110	22-L-17	不整円形	径0.55	V字型	0.45	柱穴の可能性あり。
111	22-K-12	円　形	径0.50	V字型	0.20	
112	22-K-13	不整楕円形	0.55×0.45	逆台形	0.15	
113	23-M-01	不整方形	一辺0.45	U字型	0.50	柱穴の可能性あり。
114	23-M-01	不整楕円形	0.50×0.40	U字型	0.30	
115	22-N-24	不整長方形	0.60×0.45	V字型	0.30	
116	22-N-24	楕円形	0.50×0.40	逆台形	0.15	
117	22-N-25	不整円形	径0.55	逆台形	0.10	
118	22-N-17	円　形	径0.45	逆台形	0.20	
119	22-N-17	不整形	0.65×0.50	V字型	0.20	
120	22-N-23	不整方形	一辺0.50	逆台形	0.15	
121	22-N-24	不整長方形	0.55×0.45	U字型	0.15	
122	22-N-24	不整楕円形	0.70×0.60	逆台形	0.25	
123	23-L-08	不整楕円形	0.60×0.50	U字型	0.20	
124	23-L-13	不整円形	径0.45	V字型	0.25	柱穴の可能性あり。
125	23-O-13	不整円形	径0.55	逆台形	0.45	
126	23-O-01	不整楕円形	0.40×0.30	U字型	0.20	
127	22-M-10	不整形	0.50×0.40	V字型	0.20	柱穴の可能性あり。
128	22-M-09	不整円形	径0.40	逆台形	0.15	
129	21-K-13	楕円形	0.90×0.80	逆台形	0.20	
130	21-K-13	不整長方形	0.65×0.40	逆台形	0.35	柱穴の可能性あり。
131	21-K-13	不整長方形	0.45×0.30	U字型	0.25	柱穴の可能性あり。
132	21-K-04	不整長方形	0.70×0.35	U字型	0.25	
133	21-L-02	不整長方形	0.90×0.60	逆台形	0.40	
134	20-L-13	不整円形	径0.60	V字型	0.45	
135	20-M-17	不整楕円形	1.00×0.90	逆台形	0.20	
136	20-M-08	不整長方形	0.60×0.40	逆台形	0.20	
137	20-N-06	不整円形	径0.50	逆台形	0.20	柱穴の可能性あり。
138	20-N-06	不整長方形	0.55×0.35	逆台形	0.25	柱穴の可能性あり。
139	20-N-03	円　形	径0.50	逆台形	0.25	
140	16-Q-03	不整円形	径1.00	逆台形	0.15	
141	16-Q-03	不整円形	径1.10	逆台形	0.25	
142	16-Q-03	不整円形	径1.15	逆台形	0.20	
143	16-Q-04	不整円形	径0.95	逆台形	0.15	
144	8-R-22	不整楕円形	1.25×1.25	逆台形	0.30	
145	8-R-01	不整形	1.75×1.25	逆台形	0.25	

4．井戸跡

1号井戸跡(第104図、PL55)

位置　①調査区北西部の18-K-3グリッド、2号住居跡の南西18ｍ、12号住居跡の北東13ｍ程に位置する。

規模　平面円形に近い楕円形で、確認長軸(東西)3.40×短軸(南北)3.15ｍ、深さ3.20ｍ程を測る。底面も楕円形を呈し、長1.70×短1.35ｍ程を測る。壁は直立気味に、やや開いて立ち上がる。

覆土　最上層にて浅間Ｂ軽石が確認された。覆土中は浅間Ｃ軽石･ＦＡ軽石･ローム粒をやや密に含む黒褐色土を主体としている。

遺物　覆土中から、土師器甕破片が出土している。

5．炭窯

1号炭窯(第105図、PL56)

①調査区東端部の13-D-4･5グリッドに跨がって検出された。耕作の影響により、遺存状況は悪い。等高線にほぼ平行に構築されており、主軸N-136°-Eを指向する。平面羽子板状を呈し、全長5.40ｍ、幅1.75ｍ程を測る。焼成部床面はほぼ水平で、緩やかな凹凸が認められた。壁の立ち上がりは緩やかで、壁高30㎝程を測る。舌状形の突出部は焚き口と推測される。

炭化物以外に、遺物は検出されなかった。

2号炭窯(第105図)

②調査区北部の21-N-1･6･7グリッドに跨がって検出された。1号炭窯同様削平されており、遺存状況は悪い。また等高線に平行に構築されており、主軸N-145°-Eを指向する。平面羽子板状を呈し、全長6.10ｍ、幅1.85ｍ程を測る。焼成部床面はほぼ水平で、緩やかな凹凸が認められた。壁の立ち上がりは緩やかで、壁高25㎝程を測る。

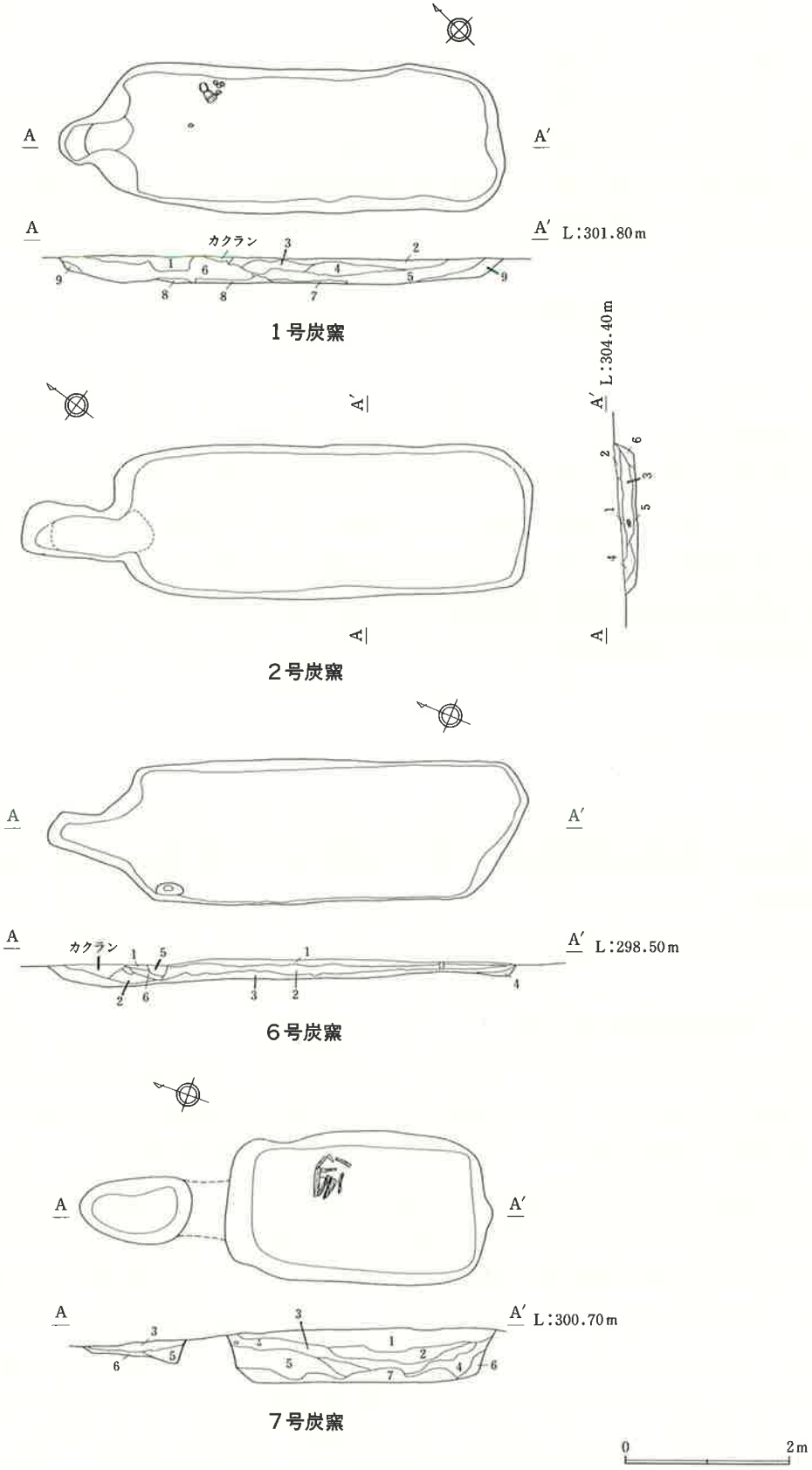
炭化物以外に、遺物は検出されなかった。

3・4号炭窯(第106図、PL56･87)

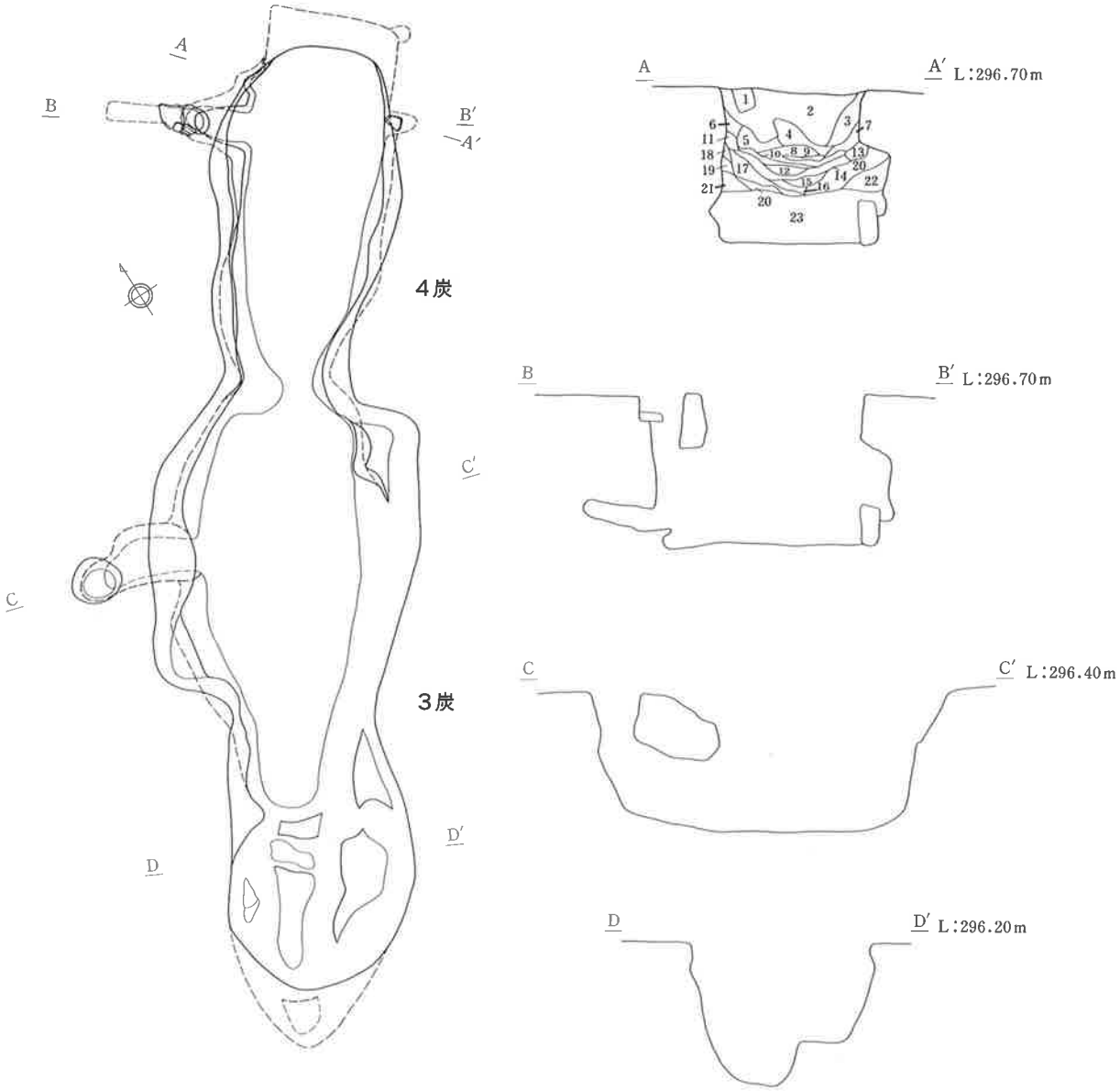
①調査区中央部の10-I-15･20グリッドに跨がって検出された。1号炭窯の南西135ｍ程に位置する。6号溝跡の延長線上に位置するが、これとの重複は不明である。斜面にほぼ直交するように構築されている。

検出状況から2基の炭窯としているが、連房である可能性も否定できない。

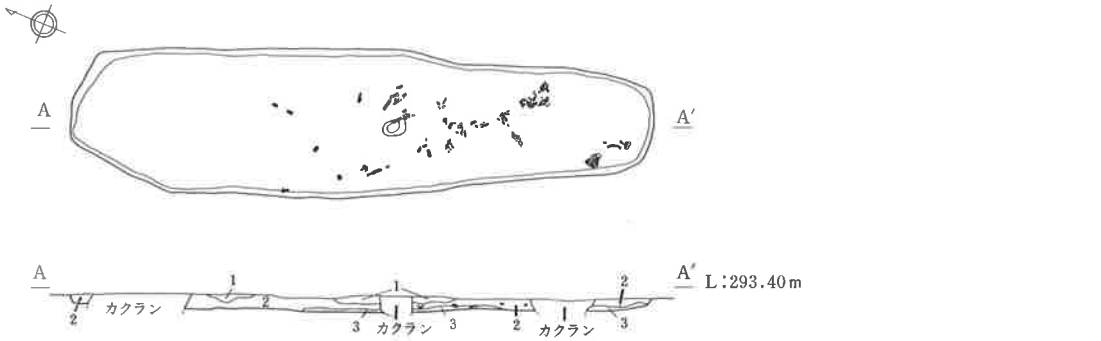
3号炭窯は、平面不整な羽子板状を呈し、主軸はN-29°-Eを指向する。入り口部から奥壁に向かっては、やや角度をもって至るが、焚き口部で大きく括れる。焼成部奥壁よりやや煙道部寄りにて最大幅を有する。全長7.10ｍ、最大幅3.05ｍ程を測る。焼成部の底面幅は1.80ｍ、焚き口部の底面幅は0.90ｍ程を測る。焼成部床面は、緩やかな凹凸を有するもののほぼ平坦で、入り口部から奥壁にかけては10°弱の緩やかな傾斜で立ち上がる。壁は上位にて開き気味に確認されているが、崩落によるためと推測された。焼成部にオーバーハングがほとんど認められないのもその為であり、構築時の壁はほぼ垂直であったと考えられる。壁高は確認面から1.7ｍ程を測る。煙道部は奥壁から1.9ｍ程南の西壁に、窯壁部より屈曲してトンネル状に穿たれている。煙出は平面楕円形を呈し、長0.60×短0.55ｍ程を測る。入り口部は階段状に掘り込まれていた。覆土下層や底面付近での炭化物の出土量は少ない。



第105図　1·2·6·7号炭窯



3・4号炭窯



8号炭窯

第106図　3·4·8号炭窯

3号炭窯の北に位置する4号炭窯は主軸はN-38°-Eを指向し、平面形は、焚き口部から奥壁に向かって緩やかに膨らむ棍棒状を呈するが、焼成部に最大幅を有している。全長4.00m、最大幅2.25m程を測る。焚き口は、窯体の底面幅が0.35m程と極端に狭まる括れ部と捉えられた。焼成部床面は、緩やかな凹凸を有するもののほぼ平坦で、傾斜もほとんど認められなかった。壁はほぼ垂直に立ち上がるが、焼成部奥壁から東側壁にかけてオーバーハングしている。壁高は確認面から1.8m程を測る。煙道部は奥壁から1m程南の西壁に、主軸に対してほぼ90°の角度で設置されている。煙出は平面楕円形を呈し、自然礫が付設されている。覆土下層では、ローム混合土と炭化物の互層が認められ、数次の操業が想定された。

出土遺物は炭化物のみである。

5号炭窯

欠　番

6号炭窯(第105図、PL56)

②調査区南部の17-N-10·17-O-6グリッドに跨がって検出された。2号炭窯の南95m程に位置する。他の炭窯同様、耕作により削平されており、遺存状況は悪い。等高線に平行に構築されており、主軸N-160°-Eを指向する。平面羽子板状を呈するが、奥壁いびつである。全長5.80m、幅1.75m程を測る。焼成室床面はほぼ水平で、緩やかな起伏が認められた。壁の立ち上がりは緩やかで、壁高25cm程を測る。

炭化物以外に、遺物は検出されなかった。

7号炭窯(第105図、PL56)

④調査区北部の23-Q-2グリッドにて検出された。2号炭窯の北西87m程に位置する。他の炭窯に比較すると遺存状況は比較的良好である。等高線に平行に構築されており、主軸N-162°-Eを指向する。羽子板状を呈する平面形状は、長1.05×短0.80×深0.20m程を測る平面楕円形の焚き口部と、平面長方形の長軸(南北)3.20×短軸(東西)1.80mを測る焼成室とに分けられる。全長は5.00m程を測る。焼成室床面はほぼ水平で、緩やかな起伏が認められた。壁はほぼ垂直に立ち上がる。壁高65cm程を測る。

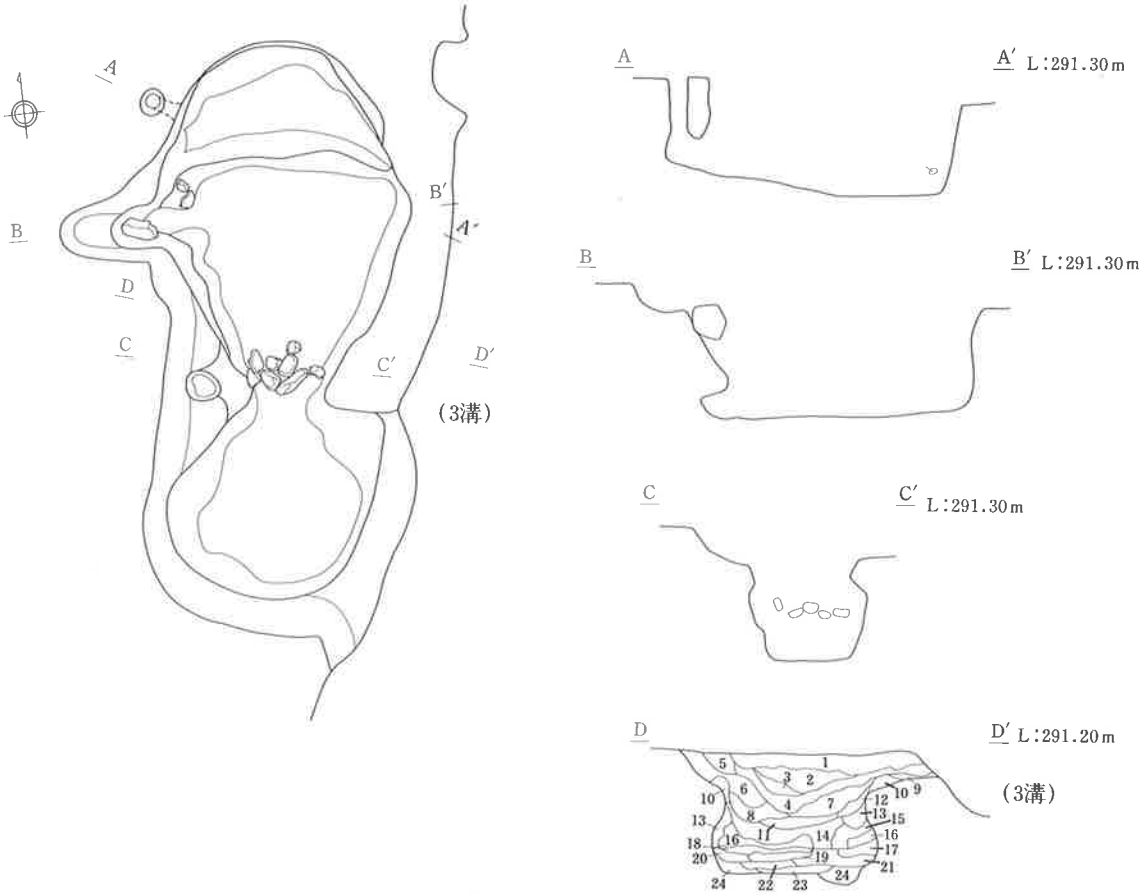
炭化物以外に、遺物は検出されなかった。

8号炭窯(第106図、PL57)

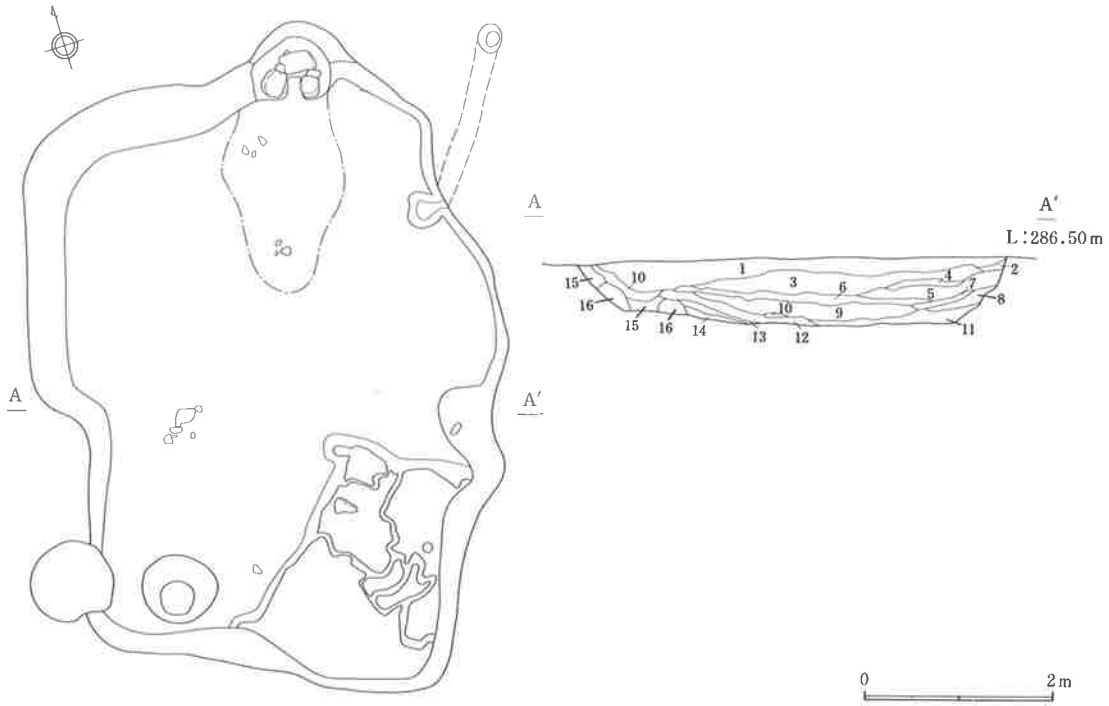
③調査区北部の13-N-5·10、13-O-1·6グリッドに跨がって検出された。6号炭窯の南95m程に位置する。耕作により削平されており、遺存状況は悪い。等高線にほぼ平行に構築されており、主軸N-21°-Wを指向する。平面隅丸長方形を呈する。全長6.15m、最大幅1.55m程を測る。焼成室床面はほぼ水平で、僅かに凹凸が認められた。壁の立ち上がりはほぼ垂直で、壁高15cm程と浅い。煙道部·焚き口部は不明である。

9号炭窯(第107図、PL57)

③調査区11-O-14·15·19·20グリッドに跨がり、3号溝跡に接して検出された。8号炭窯の南西43m程に位置する。平面形状は、焚き口部が強く括れるために瓢箪型を呈する。焼成部は、中央部が大きく膨らむ楕円形を呈し、西壁中央に煙道部を有する。主軸はN-9°-Eを指向する。全長5.90m、最大幅2.60m程を測る。焼第

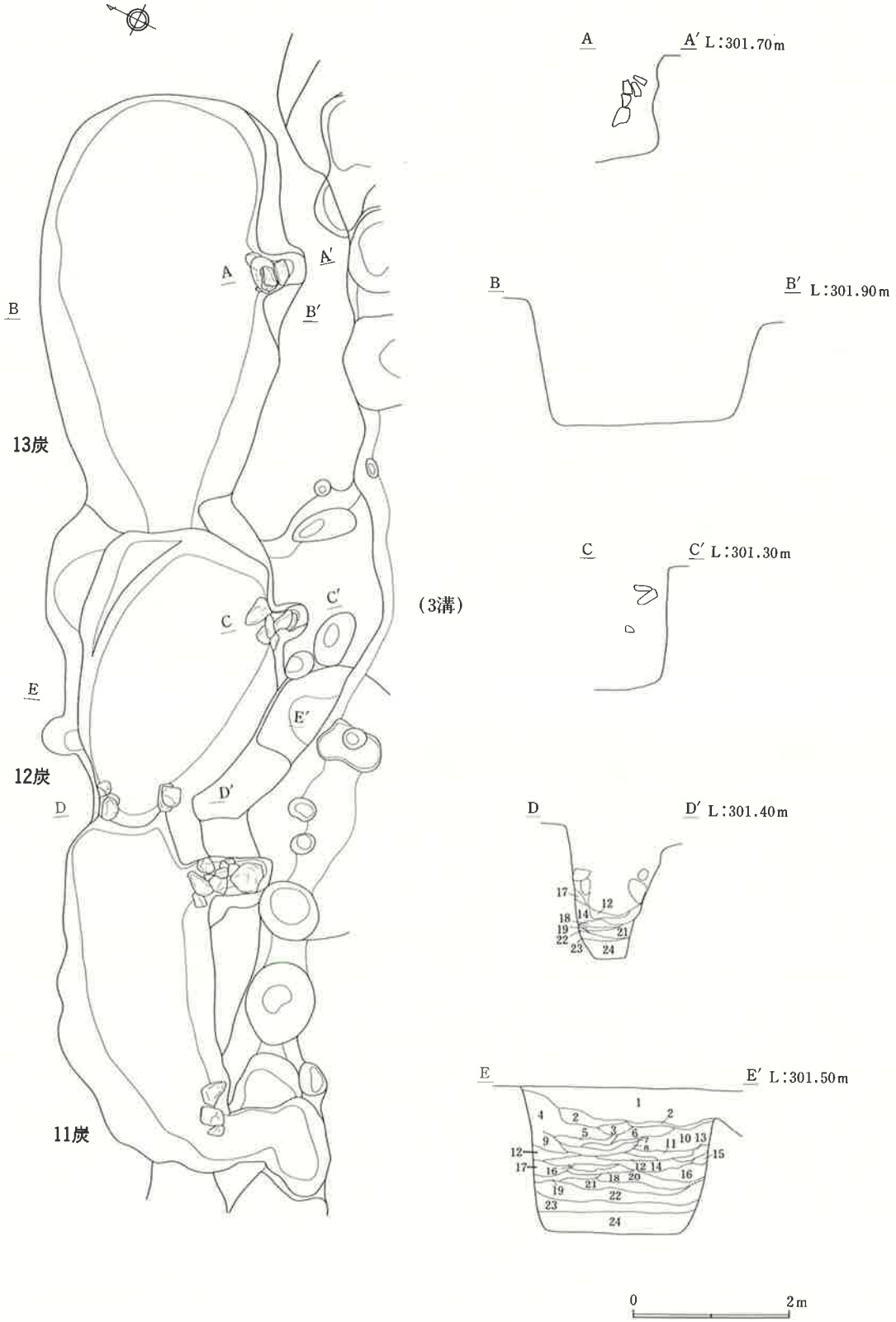


9号炭窯



10号炭窯

107図　9·10号炭窯



第108図　11·12·13号炭窯

成部床面は、緩やかな凹凸を有するもののほぼ平坦で、入り口部から奥壁にかけては僅かに緩やかな傾斜で立ち上がる。壁はほぼ垂直に立ち上がる。壁高は確認面から1.3m程を測る。先述した西壁中央の煙道部は段を持って壁外に張り出すが、トンネル状に構築されていたかは不明。また自然礫が遺存していた。この他、奥壁寄りの西壁にて、窯壁部より短くトンネル状に穿たれた煙道部も確認されている。煙出は平面楕円形を呈し、長0.30×短0.25m程を測る。焚き口部では、礫積みが認められた。

炭化物以外に、遺物は検出されなかった。

１０号炭窯(第107·109図、PL57·87)

③調査区8-Q-11·12·16·17グリッドに跨がって検出された。9号炭窯の南西75m程に位置する。等高線に直交するように構築されており、主軸N-23°-Eを指向する。平面不整方形を呈し、特に焼成部がいびつである。全長7.00m、最大幅5.05m程を測る。小さな凹凸が認められたが、焼成室床面はほぼ水平である。壁の立ち上がりはやや開き気味で、壁高70㎝程を測る。奥壁ほぼ中央に位置する煙出部は、自然礫を鳥居状に組み合わせている。また、東壁にてトンネル状に穿たれた煙道部は、やや屈曲して検出されている。

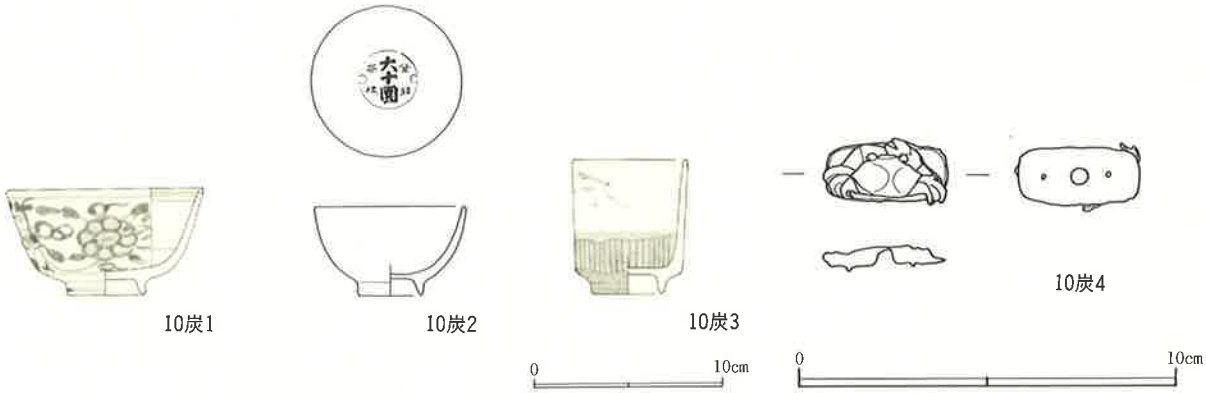
近世陶磁器と蟹型銅製品が出土している。

１１·１２·１３号炭窯(第108図)

⑤調査区16-L-24、17-L-2·3·4グリッドに跨がり、3号溝跡に接して検出された。3·4号炭窯同様、連房の可能性もある。

11号炭窯は平面煙管状を呈し、大きく括れる焚き口部から入り口部にかけてはほぼ直角に屈曲し、3号溝跡と重複している。主軸はN-52°-Eを指向する。焼成部中央付近にて最大幅を有する。全長5.80m、最大幅1.95m程を測る。焼成部床面はほぼ平坦で、入り口部から奥壁にかけての傾斜もほとんど認められない。壁はほぼ垂直に立ち上がる。壁高は確認面から1.85m程を測る。煙道部は奥壁から0.9m程西の南壁にて、石組みで構築されている。焚き口部にも礫積みの痕跡が窺えた。

出土遺物は炭化物のみである。



第109図　10号炭窯出土遺物

炭窯土層説明

1号炭窯

1. 暗褐色土　ﾛｰﾑﾌﾞﾛｯｸやや密、炭化物･ﾛｰﾑ粒を含む。
2. 黒褐色土　炭化物･ﾛｰﾑ粒を含む。
3. 黒褐色土　2に近似するが、炭化物多量に含む。
4. 黒褐色土　炭化物を多量に、焼けたﾛｰﾑﾌﾞﾛｯｸを含む。
5. 暗茶褐色土 炭化物を多量に、ﾛｰﾑﾌﾞﾛｯｸを疎に含む。
6. 黒色土　多量の炭化物と焼土ﾌﾞﾛｯｸを含む。
7. 赤褐色土　焼土ﾌﾞﾛｯｸと炭化物を多量に含む。
8. 黒色土　炭化材･炭化物ﾌﾞﾛｯｸ。
9. 茶褐色土　ﾛｰﾑﾌﾞﾛｯｸ。

2号炭窯

1. 暗褐色土　炭化物を疎に含む。
2. 黒褐色土　炭化物を多量に含む。
3. 黒褐色土　2に近似するが、炭化物やや少ない。
4. 褐色土　炭化物･ﾛｰﾑ粒を含む。
5. 明褐色土　ﾛｰﾑ粒･ﾛｰﾑﾌﾞﾛｯｸを多量に、炭化物を少量含む。
6. 黄褐色土　ﾛｰﾑﾌﾞﾛｯｸを多量に含む。

4号炭窯

1. 黒褐色土　ﾛｰﾑﾌﾞﾛｯｸを疎に含む。
2. 暗褐色土　風化したFAを含む。
3. 暗茶褐色土 2に近似し、ﾛｰﾑﾌﾞﾛｯｸ含む。
4. 褐色土　ﾛｰﾑﾌﾞﾛｯｸ･焼土ﾌﾞﾛｯｸ･FAを含む。
5. 茶褐色土　ﾛｰﾑ粒･FAを疎に含む。
6. 淡茶褐色土 ﾛｰﾑﾌﾞﾛｯｸを含む。
7. 茶褐色土　FAを疎に、ﾛｰﾑ粒をやや密に含む。5よりFAは多い。
8. 黒褐色土　灰･焼土の混土。
9. 橙褐色土　焼土ﾌﾞﾛｯｸ。
10. 暗褐色土　ﾛｰﾑ粒･焼土ﾌﾞﾛｯｸを疎に含む。
11. 茶褐色土　ﾛｰﾑﾌﾞﾛｯｸをやや密に含む。
12. 褐色土　焼土ﾌﾞﾛｯｸ･炭化物を多量に含む。
13. 黄褐色土　ﾛｰﾑﾌﾞﾛｯｸを密に含む。
14. 灰褐色土　灰を密に含む。炭化物含む。
15. 黒褐色土　炭化物層。
16. 灰褐色土　焼土･灰ﾌﾞﾛｯｸ。
17. 黒褐色土　炭化材を多量に含む。
18. 茶褐色土　ﾛｰﾑﾌﾞﾛｯｸ含む。
19. 茶褐色土　18に近似するが、炭化物混入。
20. 黒褐色土　炭化物をやや密に含む。
21. 暗褐色土　炭化物･ﾛｰﾑﾌﾞﾛｯｸの混土。
22. 黒褐色土　炭化物を多量に、焼土･灰ﾌﾞﾛｯｸ混入。
23. 黒色土　炭化材･炭化物が主。下層に灰･焼土が堆積。

6号炭窯

1. 暗褐色土　炭化物を含む。
2. 黒褐色土　炭化物を多量に含む。
3. 暗褐色土　ﾛｰﾑ粒･ﾛｰﾑﾌﾞﾛｯｸ･炭化物を含む。
4. 茶褐色土　炭化物を多量に含む。
5. 橙褐色土　焼土ﾌﾞﾛｯｸを多量に、炭化物を疎に含む。
6. 黒褐色土　多量の炭化物とﾛｰﾑﾌﾞﾛｯｸを含む。

7号炭窯

1. 暗褐色土　FA･FPを疎、炭化物･As-Cをやや密に含む。
2. 暗茶褐色土 1に近似するが、As-C少ない。
3. 暗茶褐色土 FA･ﾛｰﾑ粒･As-Cを疎に含む。
4. 暗褐色土　多量の炭化物･炭化材を含む。
5. 黒褐色土　ﾛｰﾑ粒･炭化物を疎に含む。
6. 茶褐色土　ﾛｰﾑ粒をやや密に、炭化物を疎に含む。
7. 黒褐色土　炭化物･炭化材を多量に含 む。

8号炭窯

1. 暗褐色土　As-C･FAを疎に含む。
2. 黒褐色土　ﾛｰﾑﾌﾞﾛｯｸ疎、炭化物･炭化材を多量に含む。
3. 茶褐色土　ﾛｰﾑ粒･ﾛｰﾑﾌﾞﾛｯｸ･炭化物･焼土粒を含む。

9号炭窯

1. 暗褐色土　As-B･FAを疎に含む。
2. 暗褐色土　As-Bをやや密、ﾛｰﾑ粒を含む。
3. 黒褐色土　ﾛｰﾑ粒･砂粒を含む。
4. 灰褐色土　砂礫層。
5. 茶褐色土　ﾛｰﾑﾌﾞﾛｯｸ。
6. 黒色土　多量の炭化物と焼土ﾌﾞﾛｯｸを含む。
7. 赤褐色土　焼土ﾌﾞﾛｯｸと炭化物を多量に含む。
8. 黒色土　炭化材･炭化物ﾌﾞﾛｯｸ。
9. 茶褐色土　ﾛｰﾑﾌﾞﾛｯｸ。
10. 暗褐色土　ﾛｰﾑ粒･焼土ﾌﾞﾛｯｸ疎に含む。
11. 茶褐色土　ﾛｰﾑﾌﾞﾛｯｸをやや密に含む。
12. 褐色土　焼土ﾌﾞﾛｯｸ･炭化物を多量に含む。
13. 黄褐色土　ﾛｰﾑﾌﾞﾛｯｸを密に含む。
14. 灰褐色土　灰を密に含む。炭化物を含む。
15. 黒色土　炭化物層。
16. 灰褐色土　焼土･灰ﾌﾞﾛｯｸ。
17. 黒色土　炭化材を多量に含む。
18. 茶褐色土　ﾛｰﾑﾌﾞﾛｯｸ含む。
19. 茶褐色土　18に近似するが、炭化物混入。
20. 黒褐色土　炭化物をやや密に含む。
21. 暗褐色土　炭化物･ﾛｰﾑﾌﾞﾛｯｸの混土。
22. 黄褐色土　ﾛｰﾑﾌﾞﾛｯｸ。
23. 黒色土　炭化材。
24. 黄褐色土　ﾛｰﾑﾌﾞﾛｯｸと炭化物の混土。

10号炭窯

1. 暗褐色土　ﾛｰﾑ粒を含む。
2. 暗褐色土　ﾛｰﾑ粒･ﾛｰﾑﾌﾞﾛｯｸをやや密、FAを含む。
3. 褐色土　焼土ﾌﾞﾛｯｸ･炭化物を多量に含む。
4. 黄褐色土　ﾛｰﾑﾌﾞﾛｯｸを密に含む。
5. 灰褐色土　灰を密に含む。炭化物を含む。
6. 黒色土　炭化物層。
7. 灰褐色土　焼土･灰ﾌﾞﾛｯｸ。
8. 黒色土　炭化材を多量に含む。
9. 茶褐色土　ﾛｰﾑﾌﾞﾛｯｸ含む。
10. 茶褐色土　炭化物混入。
11. 黒褐色土　炭化物をやや密に含む。
12. 暗褐色土　炭化物･ﾛｰﾑﾌﾞﾛｯｸの混土。
13. 黄褐色土　ﾛｰﾑﾌﾞﾛｯｸ。
14. 黒色土　炭化材。
15. 褐色土　ﾛｰﾑﾌﾞﾛｯｸ含む。
16. 黄褐色土　ﾛｰﾑﾌﾞﾛｯｸ。

11号炭窯

1. 暗褐色土　As-Bをやや密に含む。
2. 暗褐色土　As-B･ﾛｰﾑ粒を含む。
3. 黒褐色土　ﾛｰﾑ粒･砂粒を含む。
4. 茶褐色土　小砂礫･ﾛｰﾑ粒･風化FAを含む。
5. 暗褐色土　As-Bを疎に含む。
6. 褐色土　As-B･ﾛｰﾑ粒を含む。
7. 暗褐色土　ﾛｰﾑ粒･As-Bをやや密に含む。
8. 暗褐色土　ﾛｰﾑ粒･ﾛｰﾑﾌﾞﾛｯｸを含む。
9. 褐色土　ﾛｰﾑﾌﾞﾛｯｸ。
10. 暗褐色土　ﾛｰﾑ粒･炭化物疎に含む。
11. 茶褐色土　ﾛｰﾑﾌﾞﾛｯｸをやや密に含む。
12. 褐色土　焼土ﾌﾞﾛｯｸ･炭化物を多量に含む。
13. 黄褐色土　ﾛｰﾑﾌﾞﾛｯｸを密に含む。
14. 灰褐色土　灰を密に含む。炭化物を含む。
15. 黒褐色土　炭化物層。
16. 灰褐色土　灰ﾌﾞﾛｯｸ。
17. 黒褐色土　炭化材を多量に含む。
18. 茶褐色土　ﾛｰﾑﾌﾞﾛｯｸ含む。
19. 茶褐色土　炭化物混入。
20. 黒褐色土　炭化物をやや密に含む。
21. 暗褐色土　炭化物･ﾛｰﾑﾌﾞﾛｯｸの混土。
22. 黒褐色土　炭化物を多量に、焼土･灰ﾌﾞﾛｯｸ混入。
23. 黒色土　炭化材･ﾛｰﾑﾌﾞﾛｯｸの混 土。
24. 黒色土　炭化材層。

11号炭窯の北に位置する12号炭窯は主軸N-85°-Eを指向し、11号炭窯の主軸から27°南折する。平面形状は、焚き口部から奥壁に向かって緩やかに膨らむ棍棒状を呈するが、焼成部中央に最大幅を有している。全長3.85m、最大幅2.60m程を測る。焼成部床面は、緩やかな凹凸を有するもののほぼ平坦で、傾斜もほとんど認められなかった。壁はほぼ垂直に立ち上がる。壁高は確認面から1.7m程を測る。煙道部は奥壁から0.6m程西の南壁に設置されている。煙出しは短く、自然礫で構築されている。焚き口部の両脇に礫積みが認められた。覆土下層では、ローム混合土と炭化物の互層が認められ、数次の操業が想定された。

出土遺物は炭化物のみである。

12号炭窯の北に位置する13号炭窯は主軸N-68°-Eを指向し、11号炭窯の主軸から12°南折する。平面形状は、焚き口部から奥壁に向かって緩やかに膨らむ棍棒状を呈するが、焼成部中央に最大幅を有している。全長5.60m、最大幅3.10m程を測る。焼成部床面はほぼ平坦で、傾斜もほとんど認められなかった。壁はほぼ垂直に立ち上がる。壁高は確認面から1.6m程を測る。煙道部は奥壁から2.1m程西の南壁に設置されている。煙出しは壁外に短く、自然礫で構築されている。

出土遺物は炭化物のみである。

6．溝跡

1号溝跡(第110図、PL58·87)

位置 ①調査区西部に位置する。北東端の17-H-12グリッドから南西端の2-L-10グリッドにかけて、調査区を縦断するように検出された南北溝で、両端共に調査区外へと延びている。

規模 全長は405m以上を測る。本跡は細かい屈曲が認められるものの、ほぼ直線的に南下しており、南端部3-L-6グリッド付近でやや大きく西偏している。確認幅は屈曲部を中心に最大1.8m、最小0.3m程を測る。平均1.0～1.5m程である。底面幅も0.3～1.0m程とばらつくが、平均では0.8m程である。断面は逆台形を呈しており、深さは0.2～0.7m程を測る。また、底面のピットは流水による巻き孔であり、これも屈曲部を中心に多数検出され、多量の砂礫が沈殿堆積していた。

覆土 浅間B軽石をやや密に、FA軽石·ロームブロックを含む暗褐色土を主体としている。屈曲部を中心 に底面付近では砂礫が20cm程堆積していた。これは、前述した流水による巻き孔も含め、本跡が通水溝であったことを裏付ける。

遺物 土器は破片·細片が主であり、図化し得なかった。**1～12**は五輪塔である。**1**は空輪、**2～11**は四角く穿孔された火輪である。**12**は粗く自然石を成形しており、中央部がやや窪む。地輪か。図示した資料には、石材として安山岩系のほか、榛名山二ッ岳起源の軽石を使用したものがある。**5～7**、**8**、**12**がそれであるが、Hr-FPなどと比べるときもち重みがし、硬度も違うようである。各々の長さ·奥行き·高さは、**1**が平面ほぼ円形で22.2·22.6·20.2cm、**2**も平面円形で30.8·34.6·17.0cm、**3**は平面長方形で35.4·47.2·23.0cmを測る。**4**·**5**は平面不整形で、断面三角形の**4**は30.4·35.8·27.4cm、**5**は断面台形で29.8·35.4·20.2cmを測る。**6**は平面楕円形と推測され(28.2)·29.4·16.4cm、**7**は平面隅丸方形で32.6·32.2·18.6cmを測る。**8**は断面丸みをもち29.8·30.6·17.6cm、**9**は平面丸みをもつ六角形で35.1·27.3·16.4cm、**10**は平面不整方形で31.2·31.1·22.3cmを測る。**11**·**12**は共に平面丸みを持つ長方形で11が27.6·34.3·15.2cm、**12**は(27.4)·37.4·18.6cm程を測る。

時期 出土遺物より、平安時代以降の所産と考えられる。

2号溝跡(第112図)

位置　①調査区北部18-R-7·19-R-7グリッドにて検出され、北端は調査区外(二次調査区)に延びる南北溝である。

規模　全長24.5m以上を測り、確認幅0.8～1.1m、底面幅0.1～0.6m程、深さ25cm程を測る。東壁にテラスを有し、断面は開いて立ち上がる。

覆土　小砂礫を多量に含む黒褐色土を主体としている。

遺物　検出されなかった。

3号溝跡(第111図、PL58·88)

位置　遺跡中央を南北に走る道路を横切るように湾曲し、①調査区北東端の18-I-21グリッドから②調査区南東部を経て、③調査区南端部の3-O-25グリッドから調査区外へと延びる規模の大きな南北溝である。

規模　全長は480m以上を測り、規模にかなりのばらつきが認められた。確認幅は0.9～3.3m、底面幅0.2～1.3m、深さ10～90cm程を測り、断面緩やかな逆台形を呈する。平均的な確認幅は1.20m、同底面幅0.4m、同深さは50cm程である。

覆土　部分的であるが、覆土最上層に浅間B軽石が認められ、覆土はFA軽石·浅間C軽石を含む黒褐色土を主体としている。また、底面付近ではかなりの場所で多量の砂礫の堆積が認められ、通水の可能性が示唆された。

遺物　多数の土師器·須恵器が出土している。

4号溝跡(第112図)

位置　①調査区北部の15-I-4グリッドから14-I-24グリッドに位置し、1号溝跡に平行して検出された南北溝である。

規模　全長は短く5.9m、確認幅0.9m、底面幅0.6m程を測る。深さは、8cm程と浅い。

覆土　ローム粒を含む暗褐色土を主体としている。

遺物　検出されなかった。

5号溝跡(第112図)

位置　①調査区北東部の16-G-3グリッドから15-H-16グリッドに位置し、1号溝跡に平行して検出された南北溝である。

規模　全長40m以上で、北端部は調査区外に延びる。南端部は短く東折する。確認幅は0.3～0.5m、底面幅0.2～0.4m、深さ20cm程を測る。

覆土　ローム粒·ロームブロックをやや密に含む茶褐色土を主体としている。

遺物　検出されなかった。

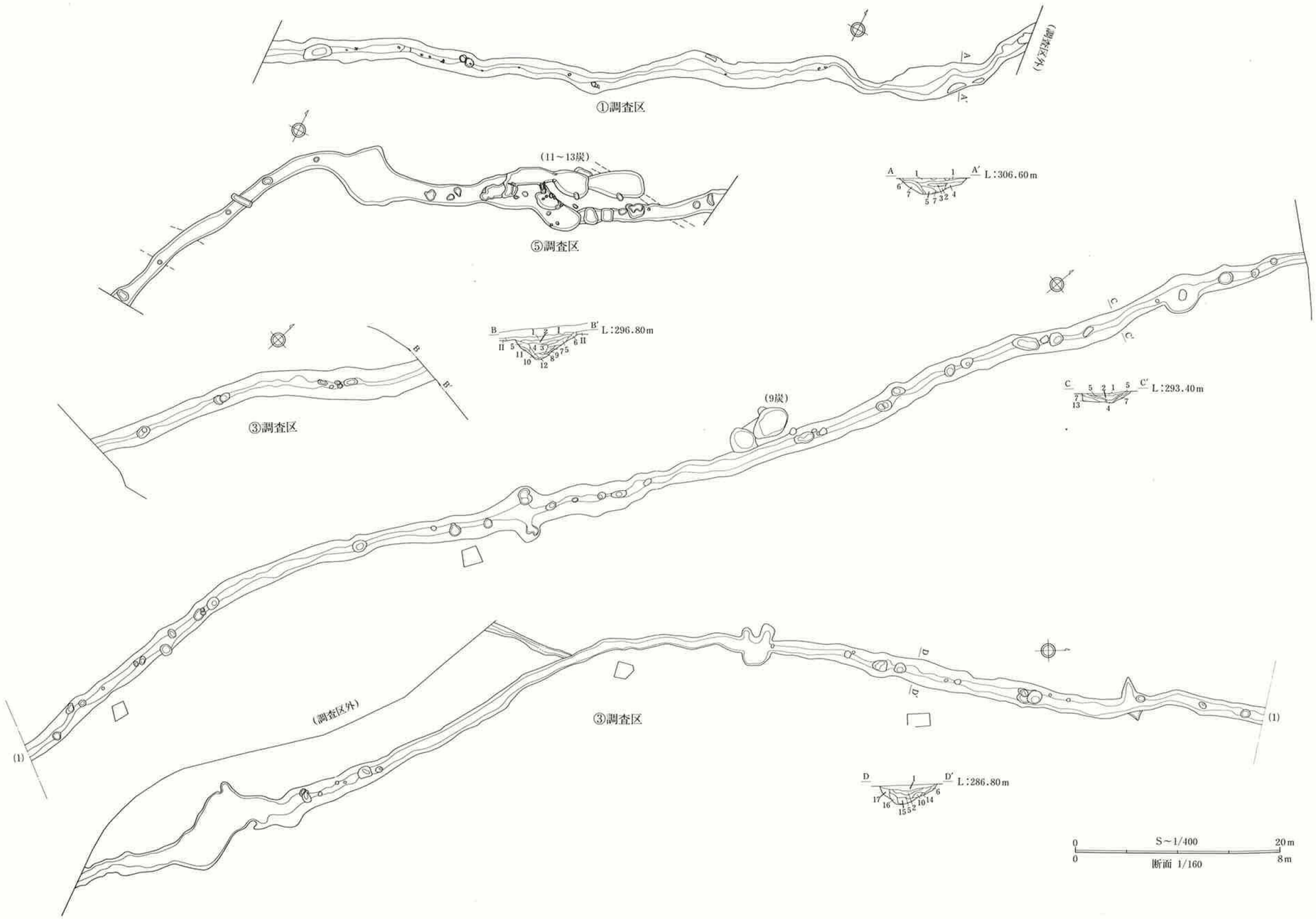
6号溝跡(第113図、PL58)

位置　①調査区ほぼ中央、1号溝跡に平行して13-I-3グリッドから10-I-25グリッドにかけて検出された。12-I-9グリッド付近で途切れる南北溝である。

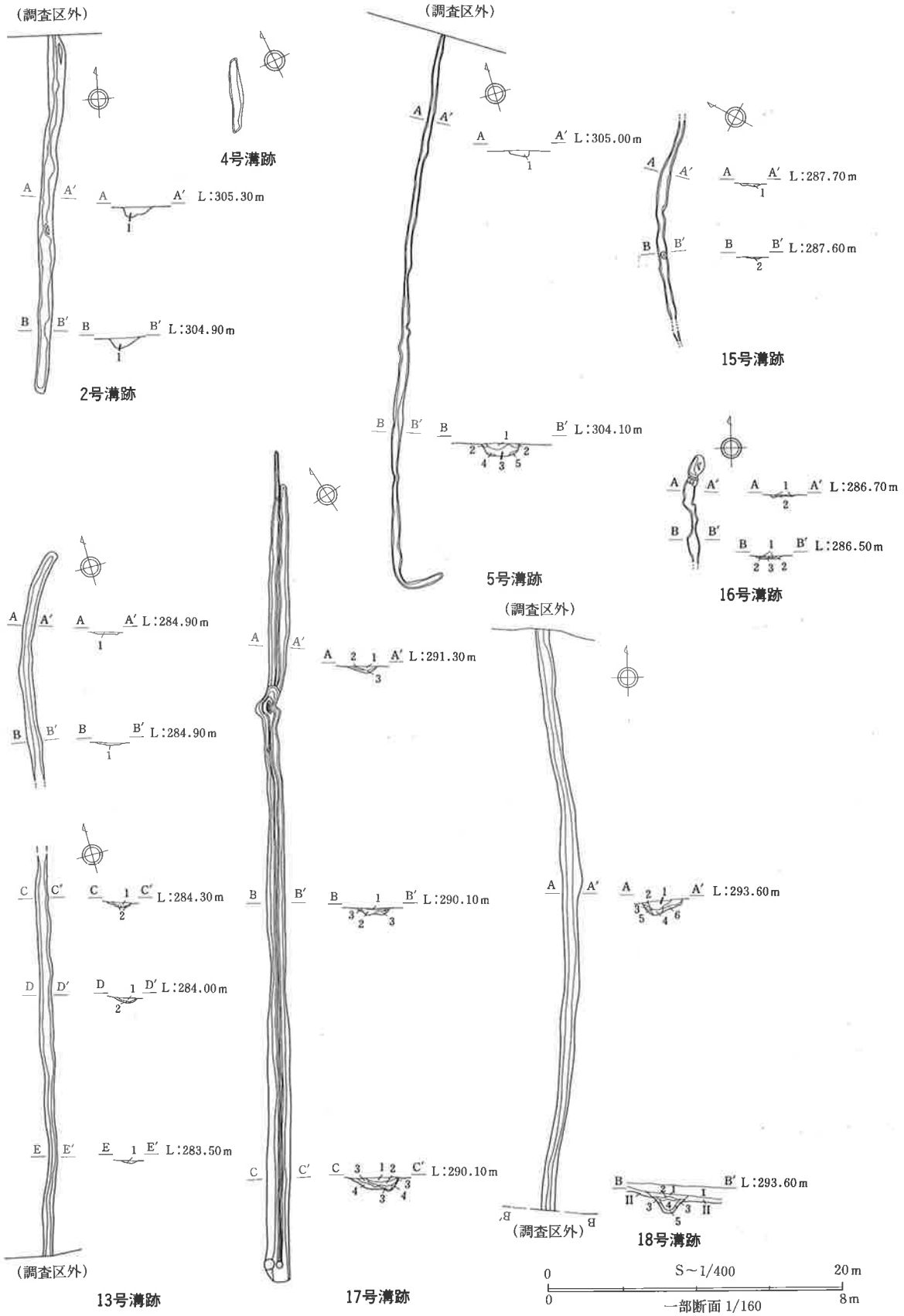
規模　全長59m程を測るが、削平等により途切れて検出されている。後述する11号溝跡と同一溝と考えられるが、ここでは検出時のままとする。確認幅は0.4m程を測り、最大で0.8m程を測る。底面幅は0.3～

(調査区外)
A A'
L:305.10m
B B'
L:304.10m
C C'
L:301.90m
D D'
L:300.00m
E E'
L:296.90m
F F'
L:295.60m
G G'
L:291.50m
H H'
L:289.80m
I I'
L:289.80m
J J'
L:288.20m
K K'
L:285.80m
L L'
L:283.80m
(1)
(2)
(3)
S~1/400
断面 1/160
0
20m
8m

第110図　1号溝跡


①調査区
(調査区外)
(11～13炭)
⑤調査区
A
A'
L:306.60m
B
B'
L:296.80m
③調査区
C
C'
L:293.40m
(9炭)
(調査区外)
③調査区
(1)
(1)
D
D'
L:286.80m
0
S～1/400
20m
0
8m
断面 1/160

第111図　3号溝跡



第112図　2·4·5·13·15～18号溝跡

0.6ｍ程を測る。断面は緩やかな逆台形を呈し、深さは4～24㎝程を測る。

覆土　浅間Ｂ軽石を覆土上層に含み、ＦＡ軽石･浅間Ｃ軽石を含む黒褐色土を主体としている。底面に砂礫がやや多く堆積する。

遺物　土師器破片が出土しているが、図示し得なかった。

７号溝跡(第113図、PL59)

位置　①調査区東部の13-F-5グリッドから10-I-21グリッドにかけて検出されたＬ字溝である。

規模　西進する本跡は、12-H-24グリッドにて南折しており、全長92ｍ程を測る。確認幅0.4～1.3ｍ、底面幅0.4ｍ、深さ30㎝前後を測る。断面逆台形を呈する。

覆土　ローム粒･ロームブロックを含む黒色土を主体としている。

遺物　土師器･須恵器破片が出土しているが、図示し得なかった。

８号溝跡(第113図)

位置　7号溝跡に北接して、①調査区東部の13-G-1グリッドから12-H-21グリッドにかけて検出された東西溝である。

規模　全長27.5ｍ程で、確認幅0.6ｍ、底面幅0.4ｍ、深さ30㎝程を測る。断面逆台形を呈する。

覆土　炭化物を含む暗褐色土を主体としている。

遺物　検出されなかった。

９号溝跡(第113図)

位置　①調査区南端部2-K-9グリッドから2-L-22グリッドにて検出された南北溝である。本跡南端は、調査区外に延びる。

規模　全長18.2ｍ以上を測り、確認幅0.35～0.7ｍ、底面幅0.2～0.3ｍ程を測る。断面直立気味に立ち上がる。深さ20～40㎝程を測る。

覆土　浅間Ａ･浅間Ｂ軽石、砂粒をやや密に含む暗褐色土を主体とする。底面には、砂礫が堆積している。

遺物　検出されなかった。

時期　検出状況から、中世以降の構築と考えられる。

１０号溝跡(第113図)

位置　①調査区南端部2-K-13グリッドから2-L-22グリッドにかけて、9号溝跡に平行して検出された南北溝である。

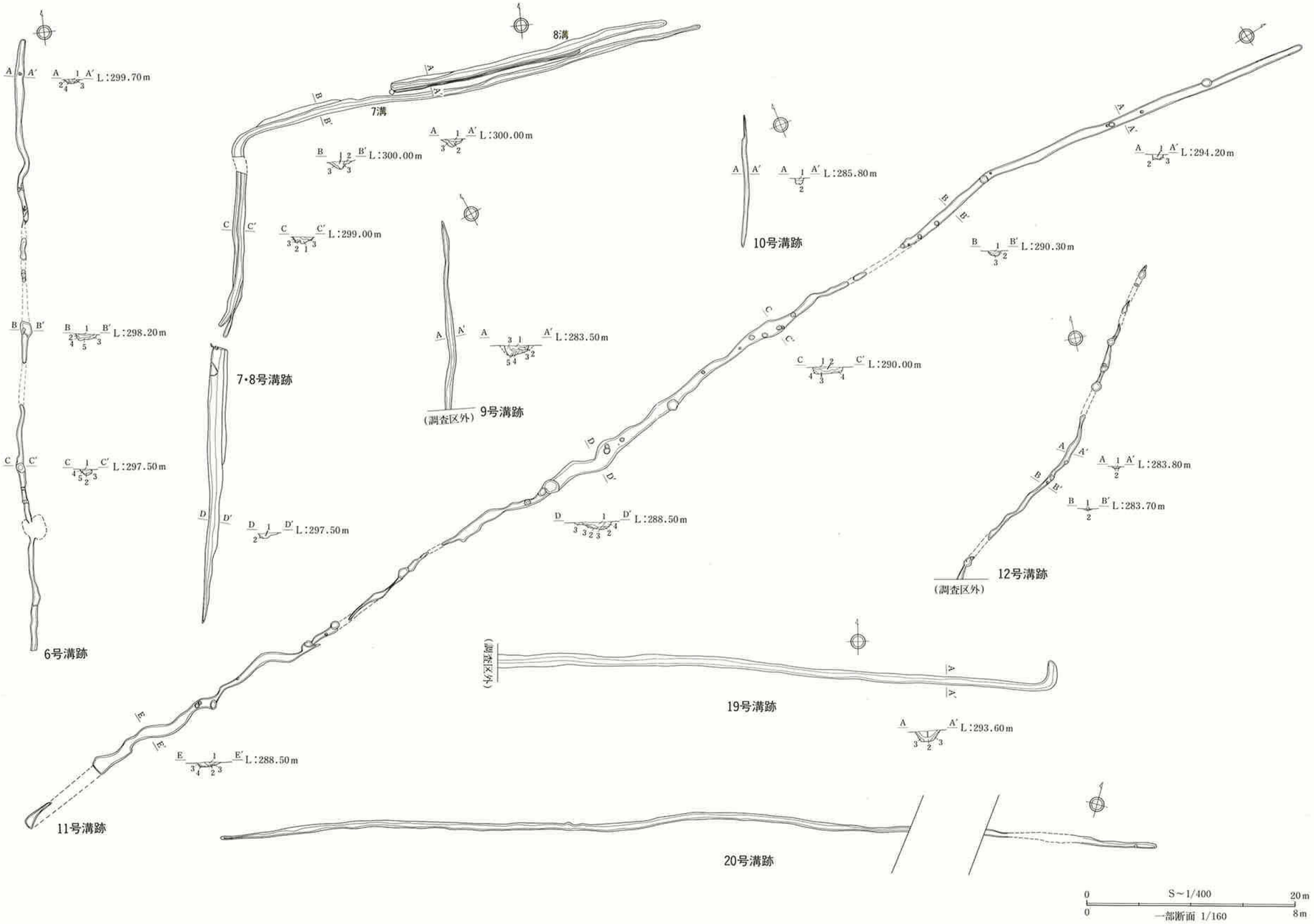
規模　全長12.9ｍ、確認幅は0.2～0.5ｍ程、底面幅は0.3ｍ程を測る。断面開き気味に立ち上がり、深さ20㎝前後を測る。

覆土　浅間Ａ･浅間Ｂ軽石を含む暗褐色土を主体としている。

遺物　検出されなかった。

１１号溝跡(第113図)

位置　①調査区中央部8-J-16グリッドから南下し、6-J-23･4-J-18･3-J-9グリッド付近にて途切れるものの、2-J-23



第113図　6～12・19・20号溝跡

グリッドまでほぼ直線的に南進する南北溝である。

規模　全長145ｍ程を測るが、本跡の北部に位置する6号溝跡と同一溝の可能性が強く、その全長は258ｍ程と推定される。確認幅は0.3～1.4ｍ、底面幅0.2～0.6ｍ程を測り、深さ10～20㎝程と浅い。確認幅の平均は0.8ｍ、同底面幅は0.7ｍ程を測る。断面逆台形を呈するが、部分的に緩やかに立ち上がる。

覆土　ＦＡ軽石を混入する黒褐色土を主体としている。

遺物　土師器･須恵器破片が出土しているが、図示し得なかった。

１２号溝跡(第113図、PL88)

位置　①調査区南部2-J-25グリッドから2-K-25グリッドにかけて検出された南北溝で、南端は調査区外へ延びる。

規模　全長36ｍ以上、確認幅0.1～0.6ｍ、底面幅0.1～0.3ｍ程を測り、削平の為に深さは2～15㎝程である。断面やや角度をもって立ち上がる。11号溝跡と同一溝の可能性強く、6号溝跡を含めたその全長は295ｍ以上と推察される。

覆土　浅間Ｂ軽石を含む黒褐色土を主体としている。

遺物　須恵器蓋が出土している。

１３号溝跡(第112図、PL59)

位置　①調査区南部の1-I-12グリッドから3-H-12グリッドにかけて検出された南北溝である。南端は調査区外へ延びる。本跡は、検出時に北に位置する14号溝跡と別溝とされている。しかし、明らかに同一溝であり、本項では14号溝跡を含めて13号溝跡として取り扱う。

規模　全長45.5ｍ以上、確認幅0.5～0.9ｍ、底面幅0.3～0.5ｍ、深さは4～15㎝程と浅い。断面緩やかに立ち上がる。

覆土　ＦＡ軽石を含む暗褐色土を主体としている。

遺物　検出されなかった。

１４号溝跡

欠　番

１５号溝跡(第112図、PL59)

位置　①調査区南部の4-H-9グリッドから4-H-16グリッドにて検出された東西溝である。

規模　全長17ｍ、確認幅0.2～0.6ｍ、底面幅0.1～0.5ｍ程を測り、深さ3～10㎝程と浅い。断面緩やかに立ち上がる。

覆土　浅間Ｂ軽石を含む黒色土を主体としている。

遺物　土師器破片が出土しているが、図示し得なかった。

１６号溝跡(第112図)

位置　①調査区南部の3-G-25グリッドから4-G-5グリッドにて検出された南北溝である。

規模　全長8.0ｍ、確認幅0.3～0.7ｍ、底面幅0.1～0.6ｍ程を測り、深さ4～20㎝程とやや浅い。断面緩やかに立ち上がる。

覆土　ローム粒を含む褐色土を主体としている。

遺物　検出されなかった。

１７号溝跡(第112図、PL59)

位置　①調査区南東部に位置する南北溝で、5-G-1グリッドから7-F-3グリッドにかけて検出された。2条の溝跡が1条として捉えられた。西溝が15号溝跡、東溝が16号溝跡へ分岐し、両溝跡がそれぞれ13号溝跡へと南進すると考えられる。

規模　全長56.5ｍ程を測る。西溝の確認幅0.5ｍ、底面幅0.3ｍ、深さ15～50㎝程、東溝の確認幅0.4ｍ、底面幅0.3ｍ、深さ20～40㎝程を測る。断面やや角度をもって立ち上がる。

覆土　ＦＡ軽石･ローム粒を含む黒褐色土を主体としている。

遺物　土師器破片が出土しているが、図示し得なかった。

１８号溝跡(第112図、PL59)

位置　②調査区南西部にて検出された南北溝である。15-P-23グリッドから17-P-12グリッドに位置し、両端共に調査区外へ延びる。

規模　全長40ｍ以上、確認幅0.8～1.2ｍ、底面幅0.2～0.4ｍ、深さ50㎝程を測る。断面逆台形を呈する。

覆土　浅間Ｂ･浅間Ｃ軽石、ＦＡ軽石･ローム粒を含む暗褐色土を主体としている。

遺物　土師器･須恵器破片が出土しているが、図示し得なかった。

１９号溝跡(第113図、PL59)

位置　②調査区南西部にて18号溝跡に直交するように検出された東西溝である。16-P-23グリッドから17-R-4グリッドに位置し、西端は調査区外へ延びる。

規模　全長55ｍ以上、確認幅0.7～1.0ｍ、底面幅0.4ｍ、深さ35㎝程を測る。断面やや開き気味に立ち上がる。

覆土　ＦＡ軽石･ローム粒を含む暗褐色土を主体としている。

遺物　検出されなかった。

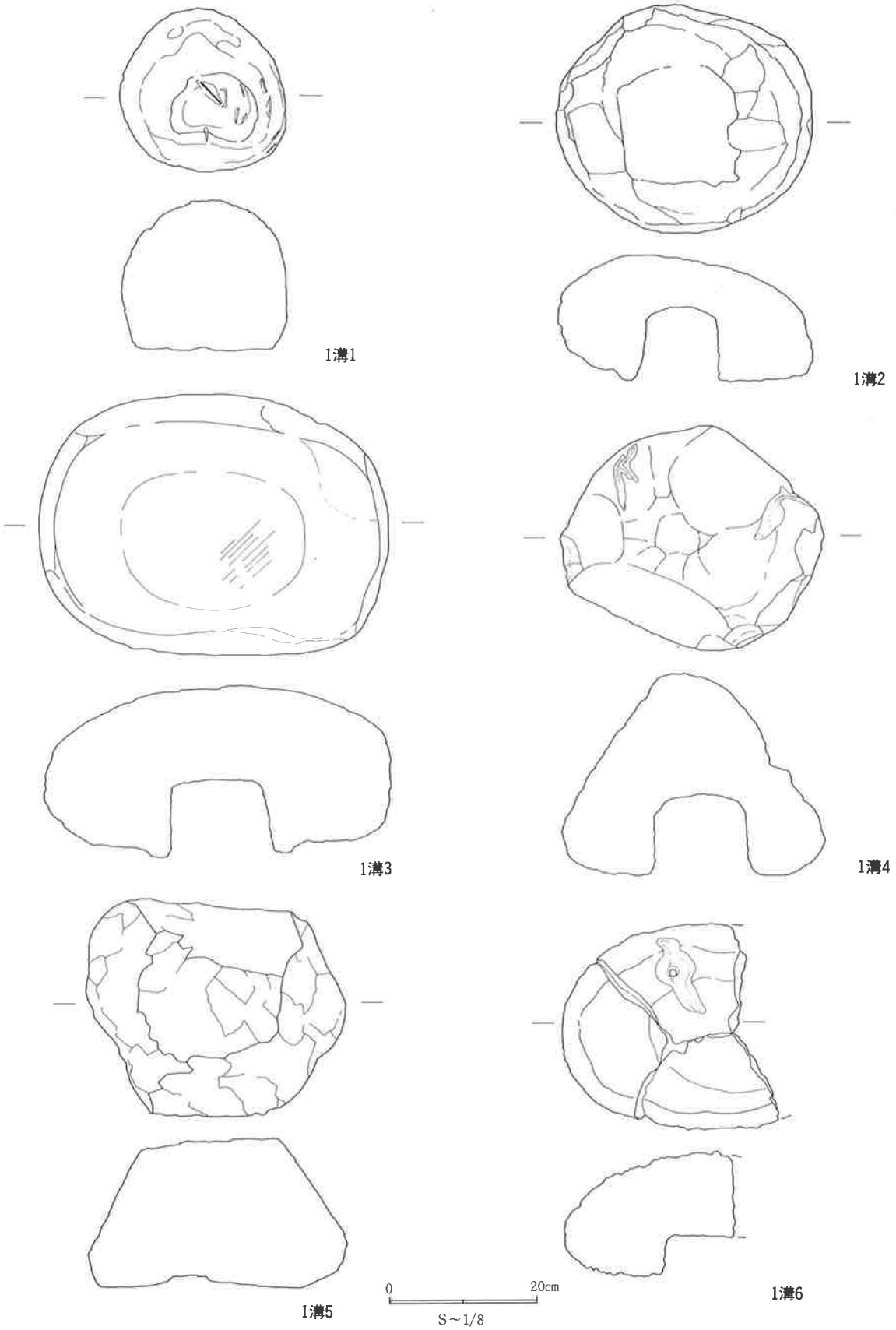
２０号溝跡(第113図)

位置　③調査区東部にて、1号溝跡と3号溝跡をつなぐように検出された東西溝である。9-O-12グリッドから10-K-10グリッドにかけて位置する。

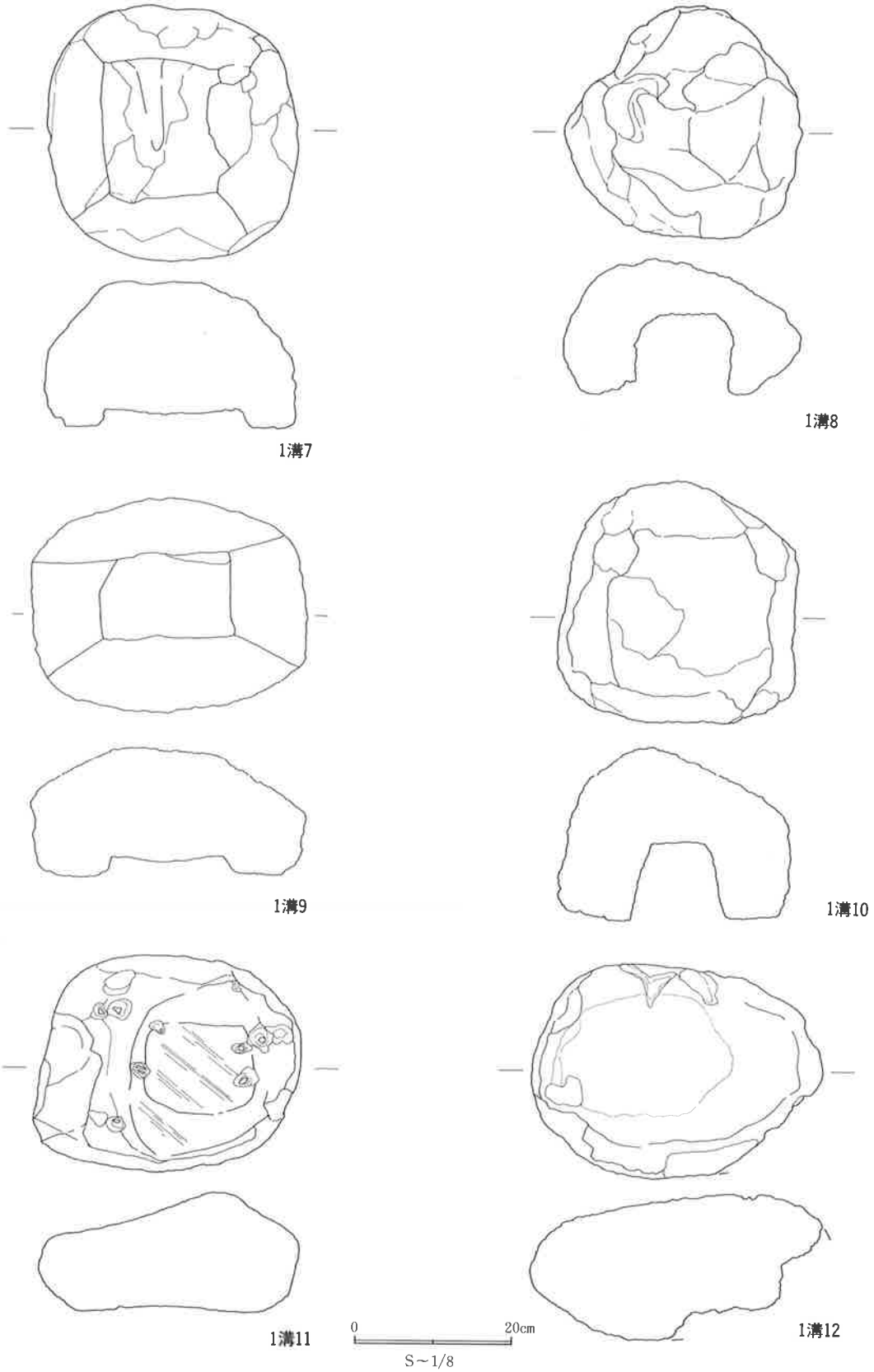
規模　全長91.5ｍ、確認幅0.5～0.7ｍ、底面幅0.2～0.5ｍ、深さ25㎝程を測る。断面逆台形を呈する。

覆土　ローム粒･ロームブロック･ＦＡ軽石を含む暗褐色土を主体としている。

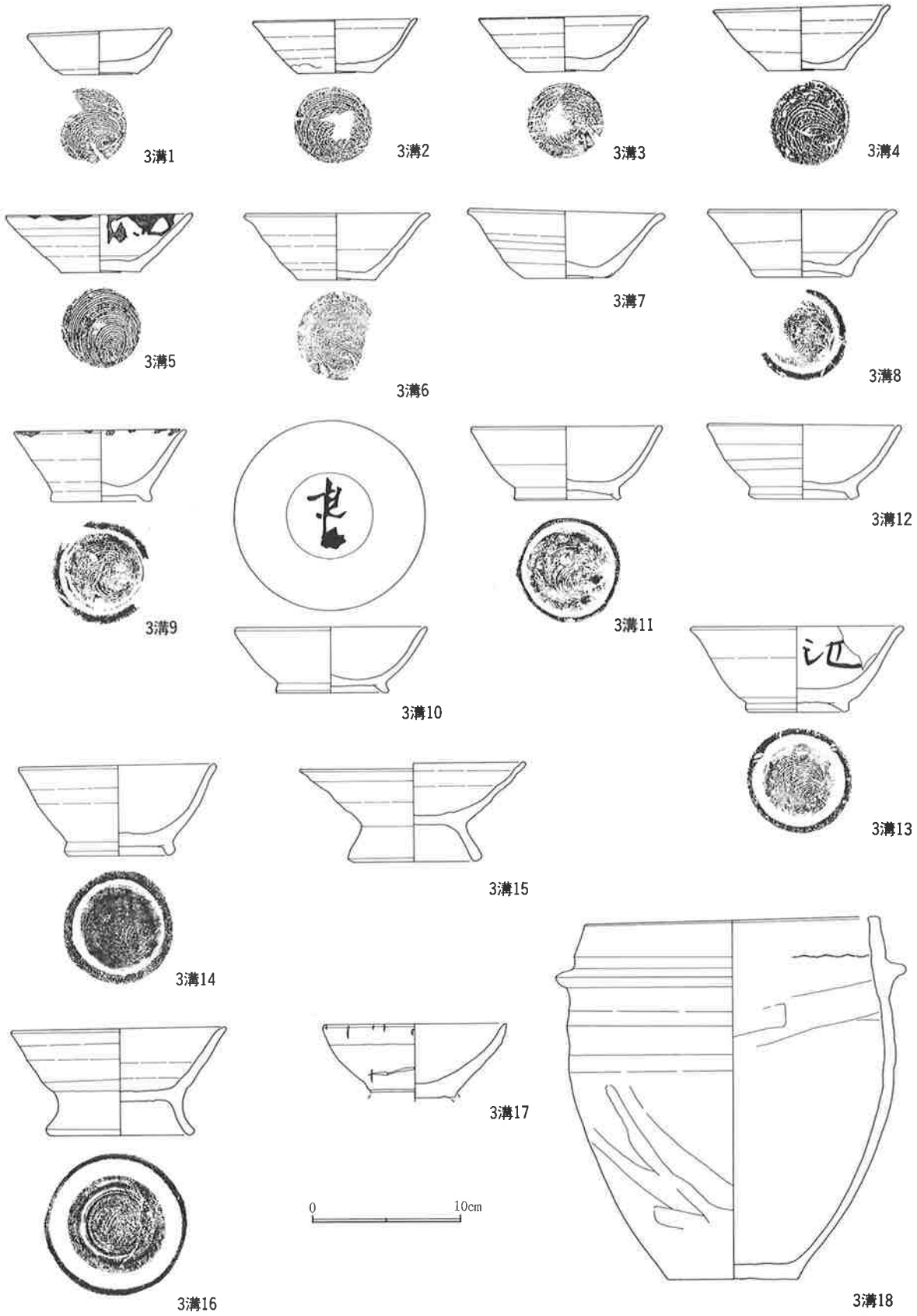
遺物　土師器破片が出土しているが、図示し得なかった。



第114図　1号溝跡出土遺物(1)



第115図　1号溝跡出土遺物(2)



第116図　3号溝跡出土土器

溝跡土層説明

1号溝跡
1. 暗褐色土　浅間B軽石(以下、As-B)やや密、ﾛｰﾑ粒を含む。
2. 暗褐色土　As-B・FA軽石(以下、FA)・ﾛｰﾑ粒を含む。
3. 黒褐色土　FA・ﾛｰﾑ粒・ﾛｰﾑﾌﾞﾛｯｸを含む。
4. 暗褐色土　FA・ﾛｰﾑ粒・ﾛｰﾑﾌﾞﾛｯｸをやや密に含む。
5. 暗茶褐色土FA・浅間C軽石を疎に含む。
6. 暗褐色土　ﾛｰﾑ粒を含む。
7. 褐色土　砂粒を含む。
8. 茶褐色土　ﾛｰﾑ粒・ﾛｰﾑﾌﾞﾛｯｸ含む。
9. 茶褐色土　砂粒をやや密に含む。
10. 黄褐色土　小砂礫を密に含む。

2号溝跡
1. 暗褐色土　砂礫・ﾛｰﾑ粒を含む。

3号溝跡
1. 黒褐色土　As-Bをやや密、FAを疎に含む。
2. 暗褐色土　風化したFAを疎に含む。やや粘性あり。
3. 暗茶褐色土2に近似し、ﾛｰﾑ粒含む。
4. 茶褐色土　小砂礫・ﾛｰﾑ粒・FAを含む。
5. 茶褐色土　ﾛｰﾑ粒・FAを疎に含む。
6. 淡茶褐色土ﾛｰﾑ粒を含む。
7. 茶褐色土　FAを疎に、ﾛｰﾑ粒をやや密 に含む。5よりFAは多い。
8. 黒褐色土　粘性・しまり強い。
9. 暗茶褐色土小ﾛｰﾑﾌﾞﾛｯｸ含む。しまりあり。
10. 暗褐色土　ﾛｰﾑ粒疎に含む。粘性・しまりあり。
11. 茶褐色土　ﾛｰﾑ粒・YP軽石をやや密に含む。
12. 暗茶褐色土小砂礫を多量に含む。
13. 灰茶褐色土12に近似するが、砂粒を多量に含む。
14. 暗灰褐色土砂泥層。ﾛｰﾑ粒を含む。
15. 茶褐色土　砂礫層。
16. 黒褐色土　FAを含む。
17. 茶褐色土　ﾛｰﾑ粒を含む。

4号溝跡
1. 暗褐色土　ﾛｰﾑ粒を含む。

5号溝跡
1. 黒褐色土　ﾛｰﾑ粒を含む。
2. 暗褐色土　As-Bを多量に含む。
3. 黒褐色土　ﾛｰﾑ粒・ﾛｰﾑﾌﾞﾛｯｸ含む。
4. 茶褐色土　ﾛｰﾑ粒・ﾛｰﾑﾌﾞﾛｯｸ含む。
5. 明褐色土　ﾛｰﾑ・茶褐色土の混土。

6号溝跡
1. 黒褐色土　As-Bをやや密、FAを疎に含む。
2. 暗褐色土　As-Bをやや密、ﾛｰﾑ粒を含む。
3. 暗褐色土　ﾛｰﾑ粒含む。
4. 茶褐色土　小砂礫・ﾛｰﾑ粒・風化FA含む。
5. 茶褐色土　砂礫層。

7号溝跡
1. 黒色土　ﾛｰﾑ粒を疎に含む。

8号溝跡
1. 黒褐色土　As-B・炭化物を疎に含む。
2. 暗褐色土　ﾛｰﾑ粒を含む。
3. 暗褐色土　ﾛｰﾑ粒・ﾛｰﾑﾌﾞﾛｯｸ・FAを含む。

9号溝跡
1. 暗褐色土　As-B・FAを疎に含む。
2. 暗褐色土　As-Bをやや密、ﾛｰﾑ粒を含む。
3. 黒褐色土　ﾛｰﾑ粒・砂粒を含む。
4. 灰褐色土　砂礫層。
5. 茶褐色土　ﾛｰﾑﾌﾞﾛｯｸ。

10号溝跡
1. 暗褐色土　ﾛｰﾑ粒を含む。
2. 暗褐色土　ﾛｰﾑ粒・ﾛｰﾑﾌﾞﾛｯｸをやや密、FAを含む。

11号溝跡
1. 暗褐色土　As-Bをやや密に含む。
2. 暗褐色土　As-B・ﾛｰﾑ粒を含む。
3. 黒褐色土　ﾛｰﾑ粒・砂粒を含む。
4. 茶褐色土　小砂礫・ﾛｰﾑ粒・FAを含む。

12号溝跡
1. 暗褐色土　As-Bを疎に含む。
2. 褐色土　As-B・ﾛｰﾑ粒を含む。

13号溝跡
1. 暗褐色土　ﾛｰﾑ粒・As-Bをやや密に含む。
2. 暗褐色土　ﾛｰﾑ粒・ﾛｰﾑﾌﾞﾛｯｸ含む。

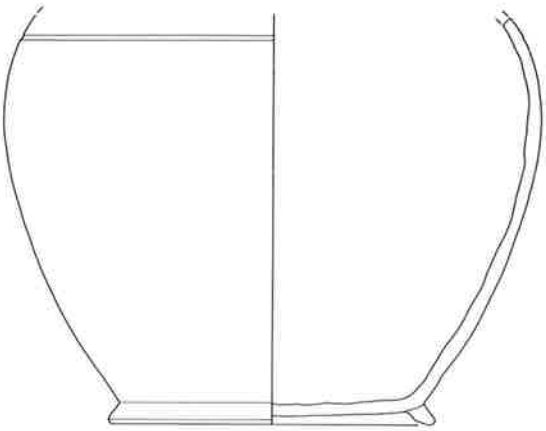
15号溝跡
1. 暗褐色土　ﾛｰﾑ粒・As-Bを疎に含む。
2. 黄褐色土　ﾛｰﾑ粒・ﾛｰﾑﾌﾞﾛｯｸを密に含む

16号溝跡
1. 褐色土　As-Bを疎に含む。
2. 暗茶褐色土As-B・ﾛｰﾑ粒を含む。
3. 黄褐色土　ﾛｰﾑ粒・ﾛｰﾑﾌﾞﾛｯｸを密に含む。

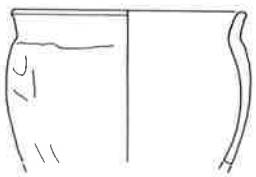
17号溝跡
1. 暗褐色土　As-B・ﾛｰﾑﾌﾞﾛｯｸを含む。
2. 暗褐色土　風化したFAを疎に含む。やや粘性あり。
3. 茶褐色土　2に近似し、ﾛｰﾑ粒含む。
4. 茶褐色土　ﾛｰﾑ粒・ﾛｰﾑﾌﾞﾛｯｸ含む。

18号溝跡
1. 暗褐色土　As-B・FAを含む。粘性弱い。
2. 暗茶褐色土ﾛｰﾑ粒をやや疎に含む。
3. 暗褐色土　ﾛｰﾑ粒を疎、As-Bを含む。
4. 暗茶褐色土ﾛｰﾑ粒をやや密に含む。
5. 暗茶褐色土ﾛｰﾑ粒をやや密に含む。
6. 暗褐色土　砂粒をやや密に含む

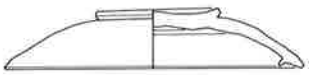
19号溝跡
1. 暗褐色土　FAを疎に含む。粘性あり。
2. 暗茶褐色土FAをやや密に含む。粘性・しまりあり。
3. 暗褐色土　ﾛｰﾑﾌﾞﾛｯｸやや密に含む。



3溝19



3溝20



12溝1

0　10cm

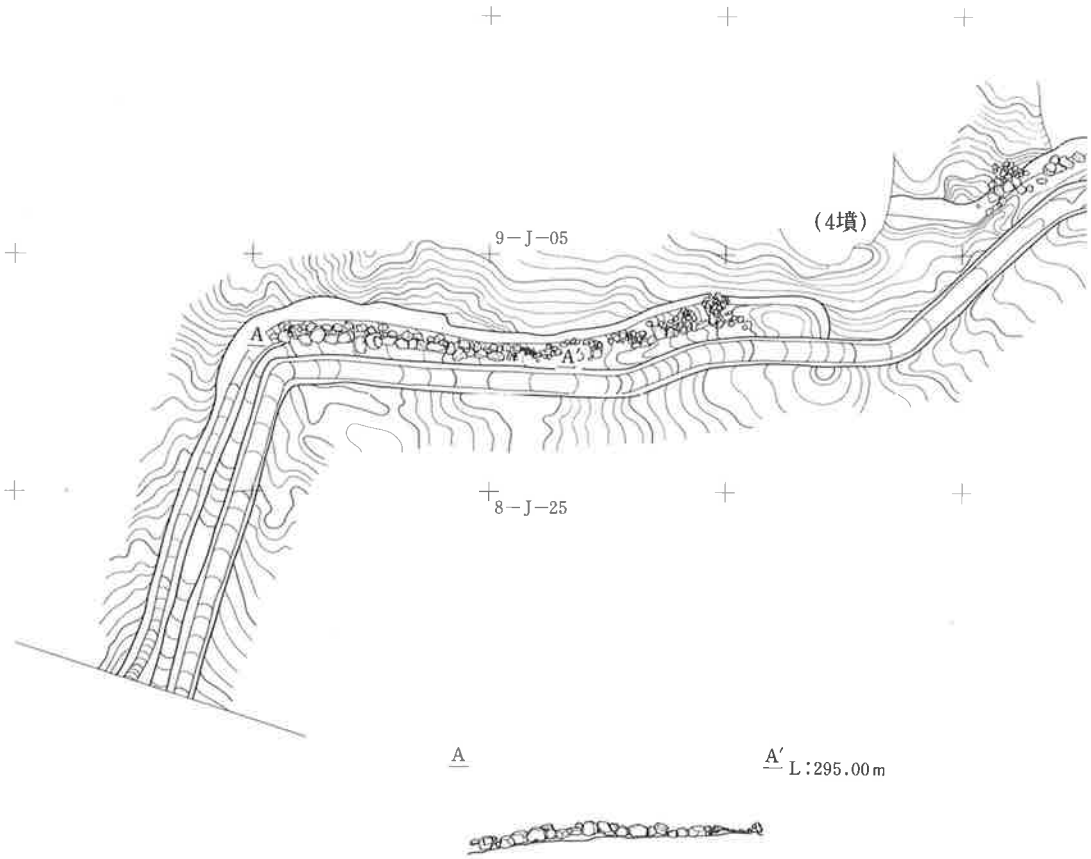
第117図　3・12号溝跡出土土器

第38表 溝跡出土土器観察表

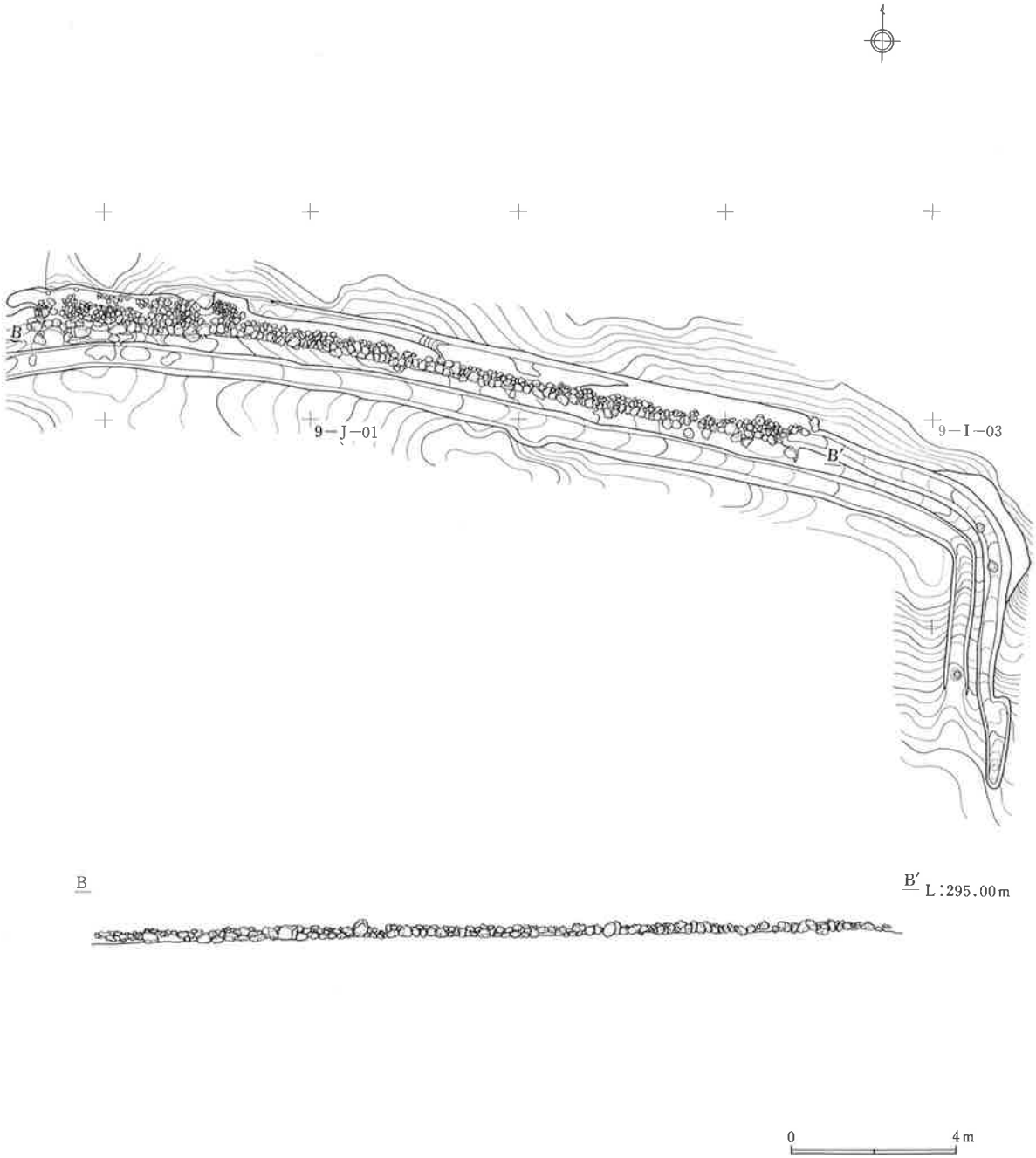
番号	器種	出土状態 残存状態	法量(cm)	胎土・色調	器形・成・整形の特徴	備考
3溝 1	坏 須恵器	覆土 3/4	口：9.5 底：5.0 高：2.9	砂粒 明橙色	体部から口縁部にかけて直線的に外傾し、口縁部で小さく外反する。 ロクロ整形。底部回転糸切り離し。	
3溝 2	坏 須恵器	覆土 2/3	口：10.9 底：10.1 高：3.6	砂粒 灰褐色	体部から口縁部にかけて内湾気味に外傾し、口縁部で小さく外反する。 ロクロ整形。底部回転糸切り離し。	
3溝 3	坏 須恵器	覆土 2/3	口：11.4 底：5.2 高：3.7	細砂 褐色	体部から口縁部にかけて内湾気味に外傾し、口縁部で外反する。 ロクロ整形。底部回転糸切り離し。	口縁部内外面に煤付着
3溝 4	坏 須恵器	覆土 ほぼ完形	口：11.7 底：5.2 高：4.2	細砂、雲母片 黄灰色	体部から口縁部にかけて内湾気味に外傾し、口縁部でやや強く外反する。 ロクロ整形。底部回転糸切り離し。	
3溝 5	坏 須恵器	覆土 3/4	口：12.6 底：5.4 高：4.0	細砂 黄褐色	体部から口縁部にかけて直線的に外傾する。 ロクロ整形。底部回転糸切り離し。	口縁部内外面に煤付着
3溝 6	坏 須恵器	覆土 1/2	口：(12.2) 底：5.2 高：4.5	小砂礫 褐色	体部から口縁部にかけて内湾気味に外傾し、口縁部で外反する。 ロクロ整形。底部回転糸切り離し。	
3溝 7	椀 須恵器	覆土 杯部完形、 高台部全損	口：13.0 底：—— 高：4.6	砂粒 褐色	体部から口縁部にかけて直線的に外傾し、口縁部でやや強く外反する。 ロクロ整形。底部回転糸切り離し後、高台貼付。	
3溝 8	椀 須恵器	覆土 2/3	口：12.5 底：6.2 高：4.5	細砂 暗橙褐色	体部から口縁部にかけて直線的に外傾し、口縁部で外反する。 ロクロ整形。底部回転糸切り離し後、高台貼付。	
3溝 9	椀 須恵器	覆土 3/4	口：(11.5) 底：6.4 高：4.9	砂粒 暗灰色	体部から口縁部にかけて直線的に外傾する。高台部は「ハ」の字状に開く。 ロクロ整形。底部回転糸切り離し後、高台貼付。	口縁部内外面に煤付着
3溝 10	椀 須恵器	覆土 1/2	口：(12.8) 底：7.4 高：4.5	砂粒 灰褐色	体部から口縁部にかけて内湾気味に外傾し、口縁部で小さく外反する。高台部は「ハ」の字状に開く。 ロクロ整形。底部回転糸切り離し後、高台貼付。	底部内面に墨書
3溝 11	椀 須恵器	覆土 1/3	口：(12.8) 底：6.8 高：5.0	細砂 灰色	体部から口縁部にかけて内湾気味に外傾する。高台部は「ハ」の字状に開く。 ロクロ整形。底部回転糸切り離し後、高台貼付。	
3溝 12	椀 須恵器	覆土 2/3	口：13.0 底：6.5 高：5.1	砂粒 橙灰色	体部から口縁部にかけて内湾気味に外傾する。高台部は「ハ」の字状に開く。 ロクロ整形。底部回転糸切り離し後、高台貼付。	
3溝 13	椀 須恵器	覆土 1/2	口：(14.2) 底：6.5 高：5.9	砂粒 灰褐色	体部から口縁部にかけて内湾気味に外傾し、口縁部で外反する。高台部は「ハ」の字状に開く。 ロクロ整形。底部回転糸切り離し後、高台貼付。	体部内面に墨書
3溝 14	椀 須恵器	14 2/3	口：13.2 底：6.8 高：6.2	細砂 黄褐色	体部から口縁部にかけて内湾気味に外傾し、口縁部で外反する。高台部は「ハ」の字状に開く。 ロクロ整形。底部回転糸切り離し後、高台貼付。	
3溝 15	椀 須恵器	覆土 ほぼ完形	口：15.2 底：8.2 高：6.8	小砂礫、金雲母 黄褐色	体部から口縁部にかけて直線的に外傾する。高台部は足長で、「ハ」の字状に開く。 ロクロ整形。底部回転糸切り離し後、高台貼付。	
3溝 16	椀 須恵器	覆土 ほぼ完形	口：14.4 底：9.5 高：7.3	砂粒、雲母片 褐色	体部から口縁部にかけて直線的に外傾し、口縁部で小さく外反する。高台部は足長で、「ハ」の字状に開く。ロクロ整形。底部回転糸切り後高台貼付。	
3溝 17	椀 土師器	覆土 ほぼ完形	口：12.3 底：5.8 高：5.3	砂粒、雲母片 橙褐色	体部から口縁部にかけて内湾気味に外傾し、口縁部で小さく直立気味に立ち上がる。口縁部内外面横ナデ。体部外面篦削り。内面ナデ。	口唇部に、半裁竹管により文様
3溝 18	羽釜	覆土 3/4	口：19.8 底：8.8 高：24.4	小砂礫 灰色	胴部中位に張りを持ち、口縁部で内傾気味に立ち上がる。 ロクロ整形。胴下半部外面篦削り。鍔貼付。	
3溝 19	瓶 須恵器	覆土 胴下半部1/3	口：—— 底：(17.0) 高：(21.6)	小砂礫やや密 暗灰茶褐色	胴部内湾気味に外傾し、肩部に張りを持つ。高台部は「ハ」の字状に開く。 ロクロ整形。貼付高台。	
3溝 20	甕 土師器	覆土 口縁～胴上半部1/2	口：12.1 底：—— 高：(7.9)	小砂礫 暗橙褐色	肩部に弱い張りを持ち、口縁部「く」の字状に外反する。 口縁部内外面横ナデ。胴部外面篦削り。内面ナデ。	
12溝 1	蓋 灰釉陶器	覆土 4/5	口：15.6 底：—— 高：3.0	砂粒 地ー灰色 釉ー緑色	つまみ大きく、天井部から口縁部にかけて緩やかに湾曲する。内にかえりを持つ。 ロクロ整形。天井部回転篦削り。	外面のみに施釉、刷毛塗り

7．石垣(第118図)

①調査区中央やや南、8-I-23･24、8-J-24･25、9-I-4･5、9-J-1･2グリッドに跨がって検出された近世の石垣である。全長は33ｍ程を測る。

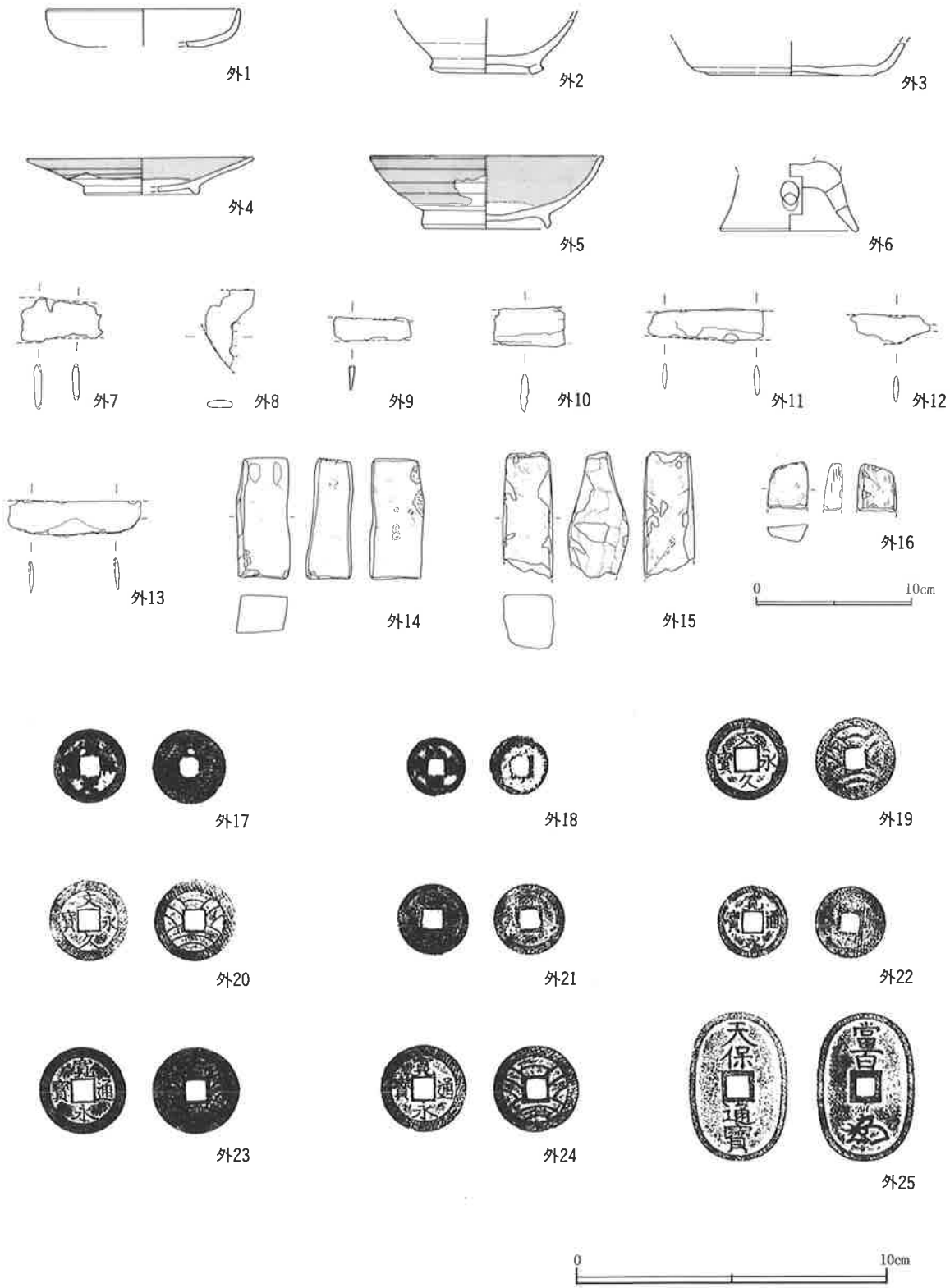


第118図　石　垣



第118図　石　垣

8．遺構外の出土遺物(第119図、PL88)



第119図　遺構外の出土遺物

第39表 遺構外の出土土器観察表

番号	器種	出土状態 残存状態	法量(cm)	胎土・色調	器形・成・整形の特徴	備考
1	坏 土師器	細片	口：(12.2) 底：—— 高：(2.4)	細砂 橙褐色	扁平な底部から体部内湾気味に外傾し、口縁部で短く直立する。 口縁部内外面横ナデ。体部外面篦削り。内面ナデ。	
2	椀 須恵器	破片	口：—— 底：(5.9) 高：(3.5)	細砂 暗灰色	体部内湾気味に外傾する。高台部は「ハ」の字状に開く。 ロクロ整形。貼付高台。	
3	盤 須恵器	1/4	口：—— 底：10.6 高：(2.1)	細砂 灰色	体部内湾気味に外傾する。 ロクロ整形。底部回転篦削り。削り出し高台。	
4	皿 灰釉陶器	1/3	口：(14.4) 底：(7.2) 高：2.4	緻密 灰色	体部から口縁部にかけて直線的に外反する。高台部は「ハ」の字状に開く。 ロクロ整形。貼付高台。	施釉は漬け掛け
5	椀 灰釉陶器	完形	口：14.8 底：7.8 高：4.7	緻密 灰色	体部から口縁部にかけて内湾気味に外傾し、口縁部で弱く外反する。高台部は「ハ」の字状に開く。 ロクロ整形。貼付高台。	施釉は漬け掛け
6	高坏 土師器	脚部片	口：—— 底：8.6 高：(4.3)	砂粒 黄褐色	脚部は「ハ」の字状に開く。4孔を有す。 脚部内外面ナデ。	

8－1．遺構外出土鉄製品(第119図)

外7・8は古墳時代の所産と捉えられるが、古墳の周囲から採取されたものではなく、古墳と関係のない①調査区南部と②調査区にて採取されている。**外7**は、直刀の破片である。遺存長は5.1㎝、身幅2.9㎝、棟厚0.5㎝程を測る。両関である。**外8**は鍔の破片である。1/3程の遺存で、逆三角形を呈する。長径·短径不明であるが、厚さ0.5㎝程を測る。5、あるいは6窓式かと考えられる。**外9～13**は、いずれも刀子の破片である。遺存長·幅は、それぞれ4.8·1.5、4.6·2.5、7.4·1.9、5.1·1.8、8.5·2.1㎝程を測る。**外12**は両関、**外13**は片関である。

8－2．遺構外出土石製品(第119図)

外14・15・16はいずれも砥石である。**外14・15**は①調査区からの採取、**外16**は②調査区からの採取である。**外14**は、長さ7.7㎝、幅3.3㎝、厚さ3.1㎝程を測る。表裏·側面に使用痕が認められるが、顕著ではない。**外15**は遺存長8.0㎝、幅3.1㎝、厚さ3.5㎝程を測る。全体にかなりの使用痕が認められた。**外16**は下げ砥と推測され、遺存長3.1㎝、幅2.6㎝、厚さ1.0㎝程を測る。表裏面の擦痕が顕著である。

8－3．遺構外出土貨幣(第119図、PL88)

出土した貨幣は、いずれも表土除去後の遺構精査作業中に検出されたものである。1号溝跡の周辺にて検出されていることから、1号溝跡から検出された五輪塔との関連も示唆される。**外17**は「元祐通寶」、**外18**は「延喜通寶」、**外19・20**は「文久永寶」、**外21・22・23・24**は「寛永通寶」、**外25**は「天保通寶」である。

二 次 調 査

Ⅳ．調査の方法と経過

調査は予定地約3700㎡の内、試掘調査により遺構が確認された約3000㎡を対象とした。実際に調査を行ったのは、面的な調査を実施した歴史時代を対象とする約2500㎡、トレンチ調査による試掘調査を実施した縄文･旧石器を対象とする約700㎡である。

歴史時代以降を対象とした調査は、遺構確認面である淡色黒ボク土？まで重機によって掘り下げ、その後手作業により遺構確認作業を行った。検出された個々の遺構は全て手作業により調査を実施し、各調査段階で写真･図面に記録した。

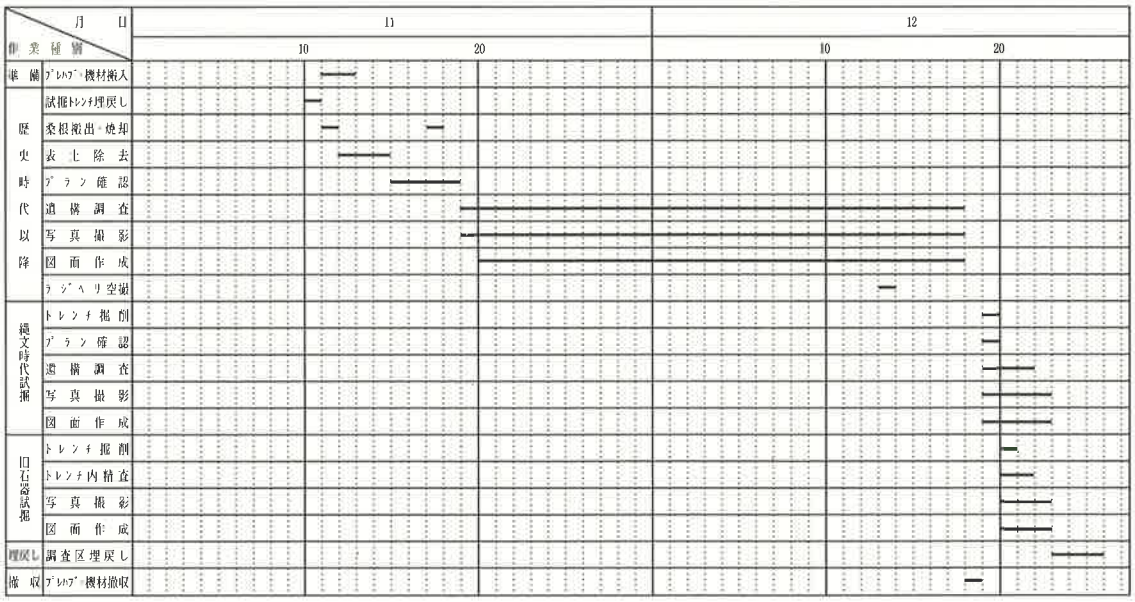
縄文時代の試掘調査については約12ｍ間隔に任意にトレンチを設定し、重機によって遺構確認面(As-OP1？含有層)まで掘り下げ、その後は手作業により遺構検出作業を行った。調査の結果、遺構が検出された2号トレンチ南端、3･4号トレンチ付近については、さらにトレンチを設定し、遺構の分布範囲を把握することとした。検出した遺構については規模が小さく、数量も少ないため、そのまま遺構調査を継続して行った。

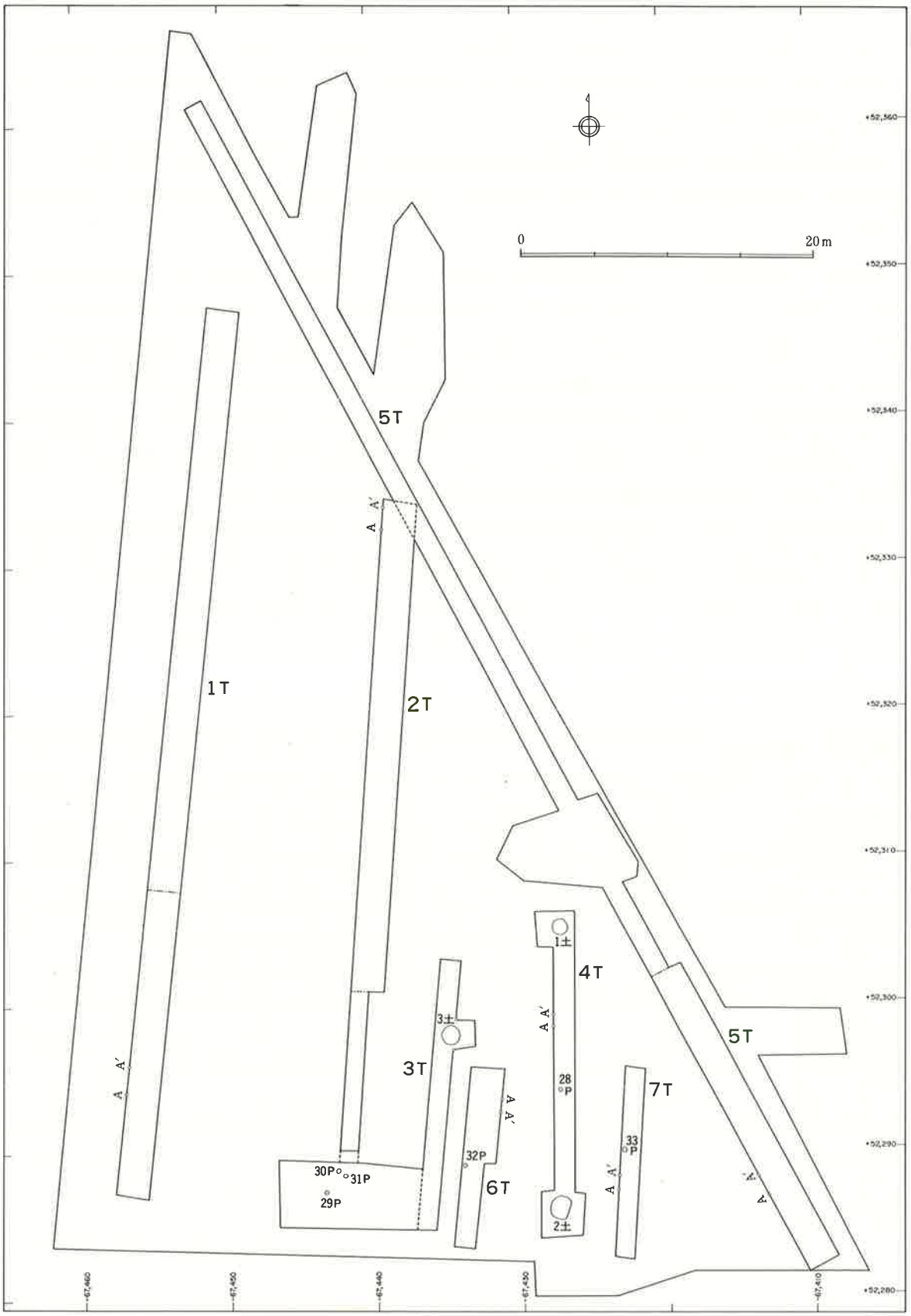
旧石器試掘調査については、縄文時代の遺構が検出された範囲を除いた区域を対象に行った。調査はブロックを検出することを目的とし、重機により1･2･5号トレンチを拡張して薄く徐々に剥いでいった。この作業を行うに当たっては作業員を補助に付け、除去面の監視と壁面の精査を行った。

図面は基本的にセクションは全て縮尺＝1/20で作成し、平面図については住居跡･炭窯･井戸跡等は縮尺＝1/20、大型の溝跡等については縮尺＝1/100、全体図は縮尺＝1/200で作成した。なお、測量に当たっては国家座標を使用し、前回設定した25ｍグリットを同様に基準とした。写真は白黒35㎜･35㎜カラーリバーサル･35㎜カラーネガフィルムを基本として使用したが、一部6×7白黒･6×7リバーサルも使用した。

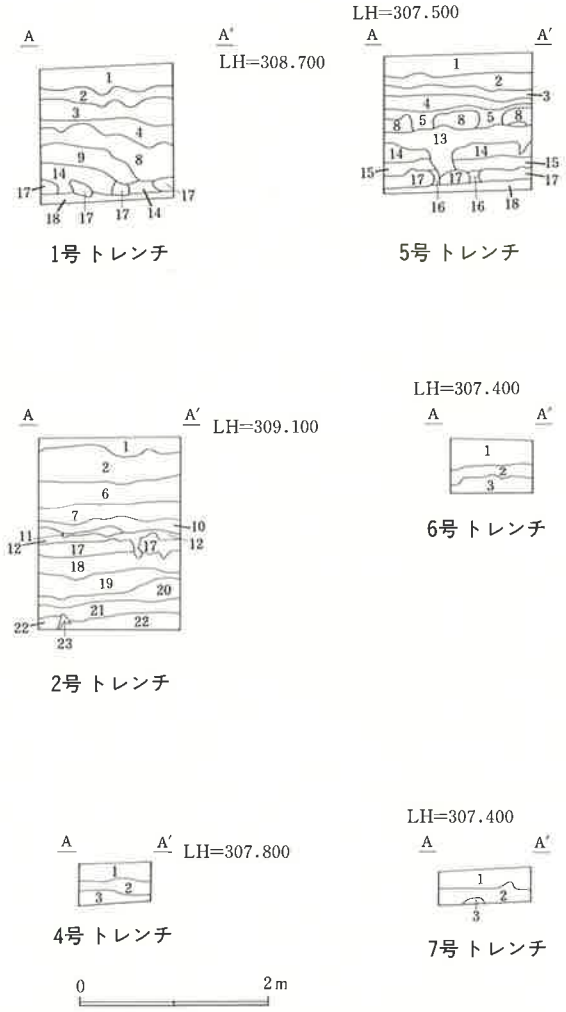
作業経過の概略は第40表の通りである。

第40表　作業経過表





第120図　トレンチ･遺構(旧石器･縄文)配置図



1・2・4・5・6・7号トレンチAセクション

第 1層　暗褐色土。As-OP1?含有小ブロックをわずか含む。非常に堅く締っている。
第 2層　黄褐色土。ブロック状。黄色軽石粒を多く含む。非常に堅く締っている。As-OP1?層。
第 3層　暗黄褐色土。As-Sr?含有ブロック・粒を多く含む。非常に堅く締っている。
第 4層　暗黄褐色土。As-Sr?軽石を多く含む。非席に堅く締っている。
第 5層　暗茶褐色土。As-Sr?軽石を多く含む。堅く締っている。第4層と軽石との混合層。
第 6層　As-Sr?層(赤黄褐色軽石)とAs-Hg?を含む暗黄色ブロックとの混合層。堅く締っている。
第 7層　暗黄褐色土。As-Hg?含有ブロック・粒(白・橙色軽石粒)を多く含む。非常に堅く締っている。
第 8層　As-Sr?軽石層。
第 9層　暗黄褐色土。As-BP(FK-10)?軽石を非常に多く含む。非常に堅く締っている。
第10層　暗黄褐色土。やや赤味を帯びる。As-BP(FK-10)?層。第4層より粒子が細い。非常に堅く締っている。やや砂質。
第11層　暗褐色土。第 7層と黒褐色土との混合層。非常に堅く締っている。
第12層　褐色土。As-BP(FK-8)?を含む。第5層より暗い。非常に堅く締っている。砂質。
第13層　暗黄褐色土。As-BP(FK-8)?軽石を非常に多く含む。非常に堅く締っている。
第14層　暗黄茶褐色土。As-BP(FK-8)?軽石を多く含む。堅く締っている。
第15層　暗赤灰褐色土。As-BP(FK-8)?軽石を非常に多く含む。軽石・灰粒を多く含む。非常に堅く締っている。砂質。
第16層　暗黄茶褐色土。As-BP(FK-8)?軽石を非常に多く含む。軽石・灰粒を多く含む。堅く締っている。
第17層　As-BP(FK-8)?(暗赤褐色軽石純層)。
第18層　暗黄褐色土。橙色軽石粒を含む。非常に堅く締っている。AT?層。
第19層　茶褐色土。灰色軽石粒をわずか含む。非常に堅く締っている。やや粘質。
第20層　暗褐色土。非常に堅く締っている。粘質。
第21層　黒灰色土。非常に堅く締っている。粘質。
第22層　暗黒灰色土。非常に堅く締っている。粘質。小礫をわずか含む。基盤層。
第23層　黄色土。やや粘質。ソフト。

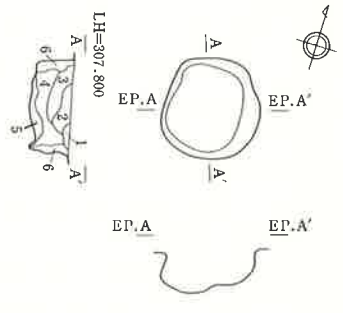
第121図　トレンチ各セクション図

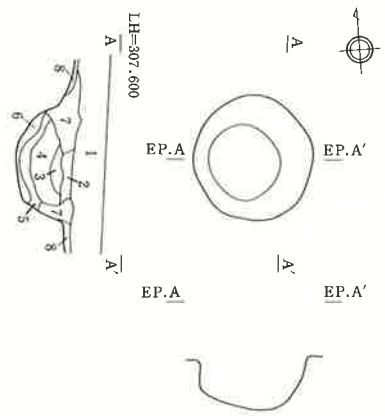
Ⅴ．検出された遺構と遺物

(1) 概　要

今回の調査対象地域における土層堆積状況は、第１次調査の基本土層と同様である。上位層から大まかに層位を見ると、およそ耕作土直下はHr-FA、あるいはAs-Cを含む黒色土である。その下に淡色黒ボク土が堆積し、As-YP(約13000～14000年前)含有層→As-OP1(約17000年前)含有層→As-Sr(17500年前)→As-BP(約19000～22000年前)→AT(22000～25000年前)？→Hr-HAという層位が認められる(第120・121図参照)。

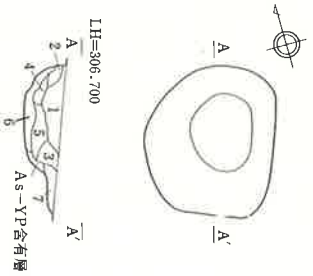
旧石器試掘調査についてはAT層上面まで検出作業を行ったが、ブロック・遺物は検出されなかった。縄文時代については淡色黒ボク土下で土坑3基・ピット6基が検出された。歴史時代以降についてはAs-FAを含む黒色土が二次堆積の様相を示すことから、実際には平安時代から近世以降に至るまで全ての遺構が淡色黒ボク土上面で検出されている。住居跡2軒、炭窯1基、井戸跡2基、溝跡14条、ピット27基が検出された。





1号土坑ｾｸｼｮﾝ

第 1層　黒色土。炭化物を少量含む。As-OP1?粒をわずか含む。締っている。
第 2層　黒褐色土。As-OP1?粒を含む。締っている。
第 3層　黒褐色土。As-Sr?粒を多く含む。堅く締っている。
第 4層　暗褐色土。As-Sr?粒を非常に多く含む。堅く締っている。
第 5層　褐色土。As-Hg?ﾌﾞﾛｯｸを多く含む。As-BP?粗粒を少量含む。堅く締っている。
第 6層　暗黄褐色土。As-BP?小ﾌﾞﾛｯｸ・粒を多く含む。

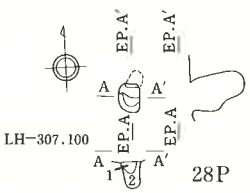


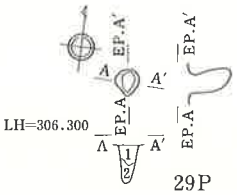
2号土坑ｾｸｼｮﾝ

第 1層　暗褐色土。堅く締っている。As-Sr?粒をわずか含む。
第 2層　暗褐色土。堅く締っている。As-Sr?粒を多く含む。
第 3層　黒褐色土。堅く締っている。As-Sr?粒を少量、炭化粒をごくわずか含む。
第 4層　黒褐色土。締っている。As-Sr?粒を少量含む。
第 5層　暗褐色土。堅く締っている。第1層よりやや暗い。As-Sr?粒を少量含む。
第 6層　暗黄褐色土。堅く締っている。As-Sr?小ﾌﾞﾛｯｸ・粒を多く含む。
第 7層　暗褐色土。非常に堅く締っている。As-Sr?小ﾌﾞﾛｯｸを少量含む。
第 8層　褐色土。非常に堅く締っている。As-Sr?小ﾌﾞﾛｯｸを多く含む。

3号土坑ｾｸｼｮﾝ

第 1層　黒ﾎﾞｸ土。
第 2層　褐色土。非常に堅く締っている。As-OP1?粒を少量含む。
第 3層　褐色土。非常に堅く締っている。As-OP1?粒を多く含む。
第 4層　暗褐色土。非常に堅く締っている。As-Sr?粒を多く含む。
第 5層　暗褐色土。非常に堅く締っている。As-Sr?粒を非常に多く含む。第4層よりやや黒い。
第 6層　暗赤黄褐色土。As-Sr?軽石・粒を非常に多く含む。
第 7層　暗黄褐色土。非常に堅く締っている。As-Sr?ﾌﾞﾛｯｸを多く含む。
第 8層　As-Sr?層。



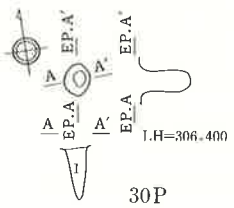


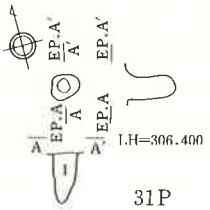
28号ﾋﾟｯﾄｾｸｼｮﾝ

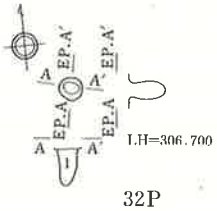
第 1層　黒褐色土。As-Sr?粒を少量含む。締っている。
第 2層　暗黄褐色土。As-Sr?粗粒を多く含む。

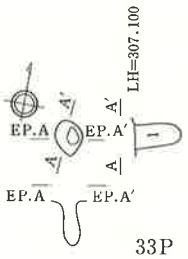
29号ﾋﾟｯﾄｾｸｼｮﾝ

第 1層　暗褐色土。As-OP1?粒を含む。非常に堅く締っている。
第 2層　褐色土。As-OP1?粒を含む小ﾌﾞﾛｯｸ・As-Sr?粒を含む。非常に堅く締っている。









30号ﾋﾟｯﾄｾｸｼｮﾝ

第 1層　暗褐色土。As-OP1?小ﾌﾞﾛｯｸ・粒を含む。非常に堅く締っている。

31号ﾋﾟｯﾄｾｸｼｮﾝ

第 1層　暗褐色土。As-OP1?小ﾌﾞﾛｯｸを多く含む。非常に堅く締っている。

32号ﾋﾟｯﾄｾｸｼｮﾝ

第 1層　暗褐色土。As-OP1?粒を含む。非常に堅く締っている。

33号ﾋﾟｯﾄｾｸｼｮﾝ

第 1層　黒褐色土。As-OP1?粒を含む。非常に堅く締っている。

第122図　縄文時代の遺構(土坑・ピット)

（2）縄文時代

検出された遺構は土坑·ピットのみで、その性格は不明瞭である。いずれも淡色黒ボク土下、調査区南東部の一定範囲に検出されていることから遺構と認定した。遺構内から出土した遺物はないが、周辺の淡色黒ボク土中に縄文前期末葉～中期前葉の土器片が若干包含散布している。

1．土　坑

1号土坑(第120·122図)

位置　調査区南東寄りの4号トレンチ北端部に検出された。

形状　平面形は隅丸方形、底面はほぼ平坦を成す。壁はほぼ垂直に立つが、下端で緩やかに湾曲する。規模は長軸(南北)1.11×短軸(東西)1.03×深さ0.45ｍ程を測る。

覆土　覆土最上層に炭化物を含む。As-Srを含む黒褐色土を主体とした自然堆積である。

遺物　出土遺物はない。

時期　淡色黒ボク土下で検出されていること、周辺に縄文時代前期前末葉～中期前葉の土器片が僅かに散布していることから、およそこの時期に帰属するものと思われる。

2号土坑(第120·122図)

位置　調査区南東寄りの4号トレンチ南端部に検出された。

形状　平面形は不整形、断面形は擂鉢状に近い形状を成す。西壁下半部·東壁の一部は攪乱である。規模は長軸(南北)1.58×短軸(東西)1.32×深さ0.4ｍ程を測る。

覆土　As-Srを含む黒褐色土を主体とした自然堆積である。

遺物　出土遺物はない。

時期　淡色黒ボク土下で検出されていること、周辺に縄文時代前期前末葉～中期前葉の土器片が僅かに散布していることから、およそこの時期に帰属するものと思われる。

3号土坑(第120·122図)

位置　調査区南東寄りの3号トレンチ北部に検出された。

形状　平面形は円形、断面形は擂鉢状を成す。規模は長軸(南北)1.33×短軸(東西)1.27×深さ0.52ｍ程を測る。

覆土　As-Srを含む暗褐色土を主体とした自然堆積である。

遺物　出土遺物はない。

時期　淡色黒ボク土下で検出されていること、周辺に縄文時代前期前末葉～中期前葉の土器片が僅かに散布していることから、およそこの時期に帰属するものと思われる。

2．ピット(第120·122図、第41表)

検出された6基のピットは、いずれも出土遺物もなく性格不明であるが、掘り込みが明確であること、土坑に隣接する一定範囲に分布することから遺構と判断した。個々の詳細については第41表にまとめた。

第41表　ピット(縄文)一覧表　　(計測値単位：m)

番号	長軸	短軸	深さ	平面形態	時　期	重複遺構	形　態	出土遺物	備　考
28	0.43	0.24	0.56	南北に長い隋円形	縄文時代	なし	北方向斜めに掘り込まれている。	なし	4トレンチ
29	0.27	0.26	0.45	円形	縄文時代	なし	北方向斜めに掘り込まれている。	なし	2トレンチ拡張部
30	0.3	0.27	0.53	円形	縄文時代	なし	ほぼ垂直に掘り込まれている。平底。	なし	2トレンチ
31	0.3	0.26	0.52	円形	縄文時代	なし	ほぼ垂直に掘り込まれている。丸底。	なし	2トレンチ拡張部
32	0.27	0.24	0.38	不整円形	縄文時代	なし	ほぼ垂直に掘り込まれている。丸底。	なし	6トレンチ
33	0.31	0.28	0.47	南北に長い隋円形	縄文時代	なし	西壁際に向って掘り込まれている。	なし	7トレンチ

(3) 歴史時代以降(第123図)

検出された遺構は住居跡2軒、炭窯1基、井戸跡2基、溝14条、ピット27基である。性格·時期が明確なものは住居跡のみで、他の遺構は不明瞭な部分が多い。特にピットについては人為的な遺構と断定できるものは少ない。

1．住居跡

1号住居跡(第124·125·126図、第42表)

位置　調査区南端部、東寄りの19ーI·Jグリッドに跨って検出された。第1次調査においては3号住居跡として南端部が一部調査されている。重複遺構はない。

形状　主軸はN-121°-Eを指向し、平面南北に長い長方形を成す。長軸(南北)3.81×短軸(東西)3.12mを測る(第1次調査の結果は含まれない)。壁はほぼ垂直に立ち、壁高は北壁で0.4mを測る。床面は非常に堅く締っている。壁溝は検出されなかった。北西部に炭化材が若干検出されている。

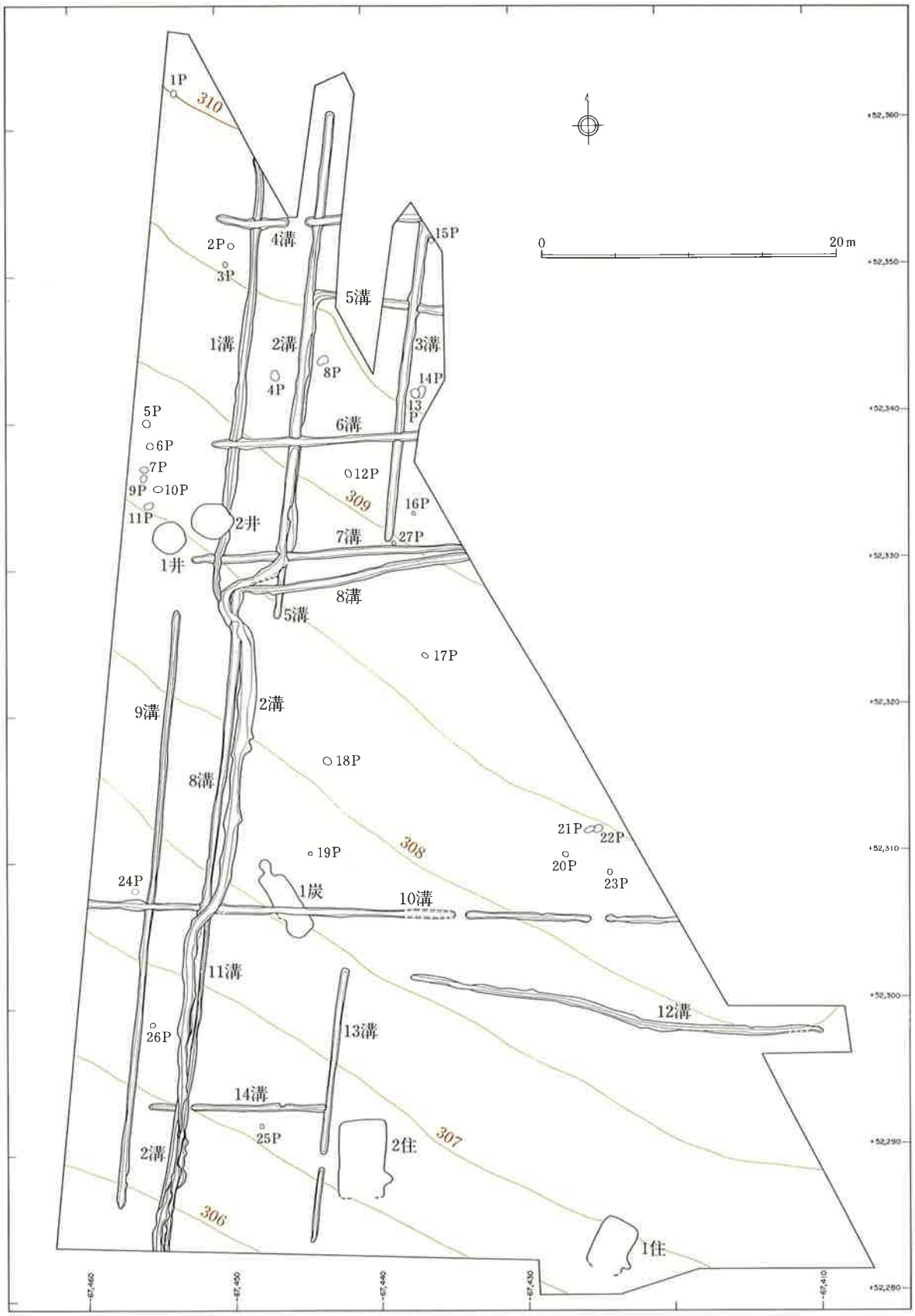
覆土　ローム粒·ローム小ブロック·Hr-FA粒を含む暗褐色土を主体とした自然堆積である。

柱穴　柱穴らしきピットが北壁寄り中央部に1箇所確認された。非常に浅く、鍛冶施設の炉跡に接していることもあり断定はできないが、炭化材がピット内に北西方向に倒れた状態で検出されたことから柱穴と判断した。おそらく対角に位置する南壁寄りにも柱を持つ、長軸方向2本柱の構造と推定される。平面楕円形で長軸(南北)48×短軸(東西)40×深さ10cmを測る。底面は平坦で、壁は開き気味に立ち上がる。覆土は炭化粒を多量·ローム小ブロックを含む黒褐色土である。上面に焼土粒を含む。

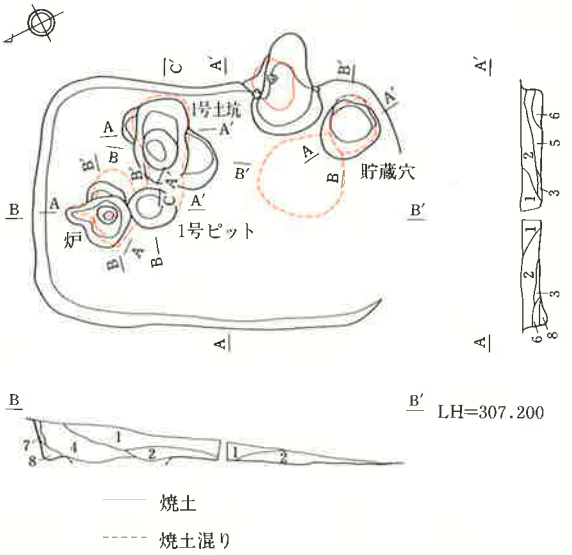
貯蔵穴　南東隅、カマド右脇に1基検出された。平面楕円形で、長軸(南北)65×短軸(東西)56×深さ40cmを測る。底面は平坦で、壁はほぼ垂直に立つが、東壁は抉り込まれている。覆土は焼土粒·ローム粒を含む暗褐色土を中心とした自然堆積である。

カマド　東壁南寄りに付設されている。焚口·燃焼部半分程は壁内に位置し、燃焼部の残り半分程から煙道にかけては壁外に位置する。遺存状態はあまり良くないが、焚口部両袖は15cmと短く、自然礫による補強が認められる。焚口から燃焼部にかけては平坦で石製支脚が遺存し、煙道は緩やかに立ち上がる。また、焚口·燃焼部には焼土が認められ、礫にも被熱が認められる。現存する規模は、長さ(焚口～煙道)70×幅(燃焼部)50×深さ(燃焼部)15cm程を測る。覆土は焼土粒·ローム粒を含む褐色土を主体とした自然堆積である。

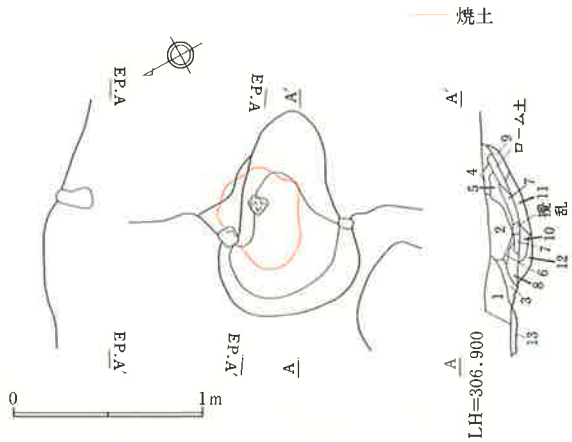
鍛冶施設　北壁際に炉跡、この東脇(壁際)に土坑が各1基検出された。炉跡は平面不整楕円形で東西68×南北50cm程を測り、北側が一部20cm程突出する。断面は擂鉢状を成し、深さ20cm程を測る。底面には焼土が認



第123図　歴史時代の遺構配置図

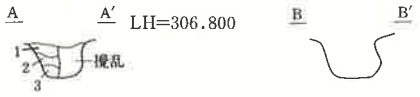


1住A・Bｾｸｼｮﾝ
第 1層　黒色土。Hr-FA粗粒を含む。
第 2層　黒褐色土。Hr-FA粒・ﾛｰﾑ粒を含む。
第 3層　暗褐色土。ﾛｰﾑ小ﾌﾞﾛｯｸ・粒を多く含む。
第 4層　暗褐色土。ﾛｰﾑ粒を含む。FA粒を少量含む。
第 5層　黄褐色土。ほとんどﾛｰﾑﾌﾞﾛｯｸ。
第 6層　暗黄褐色土。ﾛｰﾑ粒・ﾛｰﾑ小ﾌﾞﾛｯｸを少量含む。
第 7層　暗褐色土。ﾛｰﾑ粒をわずか含む。
第 8層　暗黄褐色土。ﾛｰﾑﾌﾞﾛｯｸ・粒を多く含む。床面。

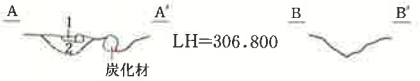


1住ｶﾏﾄﾞｾｸｼｮﾝ
第 1層　黒褐色土。Hr-FA・ﾛｰﾑ粒を少量含む。
第 2層　暗黄褐色土。ﾛｰﾑﾌﾞﾛｯｸ・粒を多く含む。天井崩壊土。
第 3層　暗褐色土。ﾛｰﾑ粒を含む。Hr-FA粒をわずか含む。
第 4層　褐色土。やや赤味を帯る。ﾛｰﾑ・焼土粒を含む。
第 5層　暗赤褐色土。焼土粒を多く含む。
第 6層　黒色土。炭化粒を多く含む。灰層。
第 7層　暗赤色土。焼土。竈底面。
第 8層　褐色土。ﾛｰﾑ粒を含む。

1住ｶﾏﾄﾞ掘方ｾｸｼｮﾝ
第 9層　暗褐色土。ﾛｰﾑ粒を含む。
第10層　暗赤褐色土。ﾛｰﾑ粒・焼土を多く含む。
第11層　暗黄褐色土。ﾛｰﾑﾌﾞﾛｯｸを多く含む。焼土を少量含む。
第12層　褐色土。ﾛｰﾑ粒を含む。焼土粒をごくわずか含む。
第13層　褐色土。堅く締っている。ﾛｰﾑﾌﾞﾛｯｸを含む。

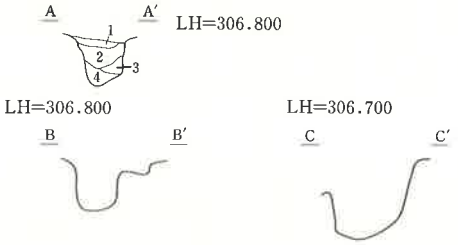


1住貯蔵穴ｾｸｼｮﾝ
第 1層　黒褐色土。ﾛｰﾑ小ﾌﾞﾛｯｸ・粒を含む。
第 2層　暗褐色土。ﾛｰﾑ粒を含む。焼土粒をわずか含む。
第 3層　暗赤褐色土。焼土粒を含む。ﾛｰﾑ粒を少量含む。

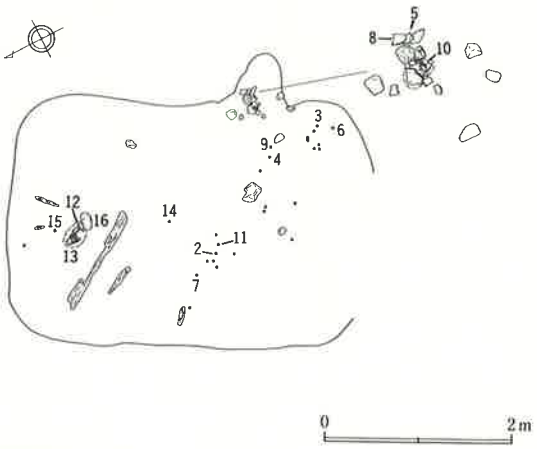


1住炉ｾｸｼｮﾝ
第 1層　黒褐色土。Hr-FA粒をわずか含む。
第 2層　黒色土。炭を多く含む。ﾛｰﾑ粒を少量含む。

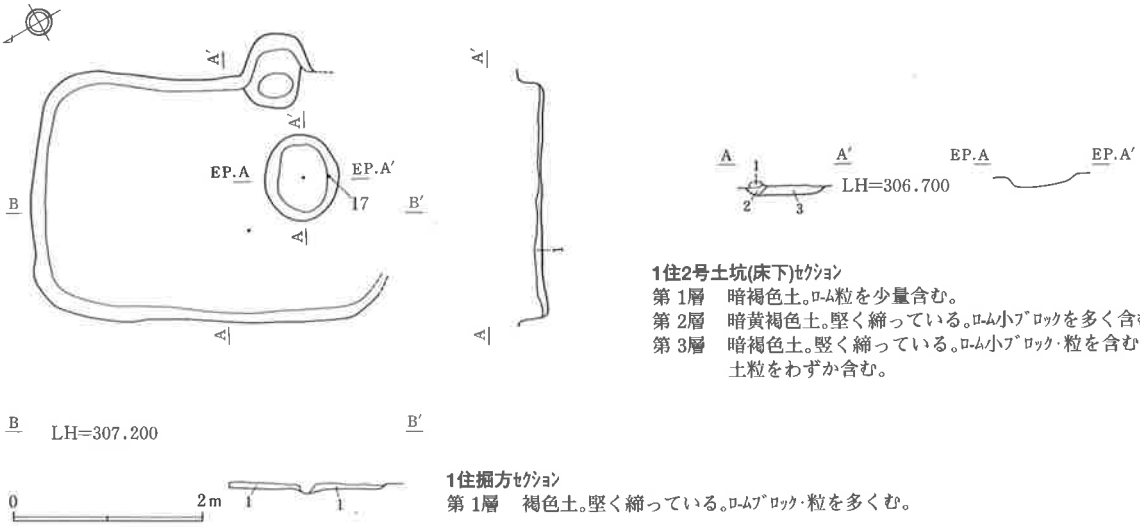
1住1号ﾋﾟｯﾄｾｸｼｮﾝ
第 1層　黒褐色土。炭化粒を多く含む。ﾛｰﾑ小ﾌﾞﾛｯｸを含む。

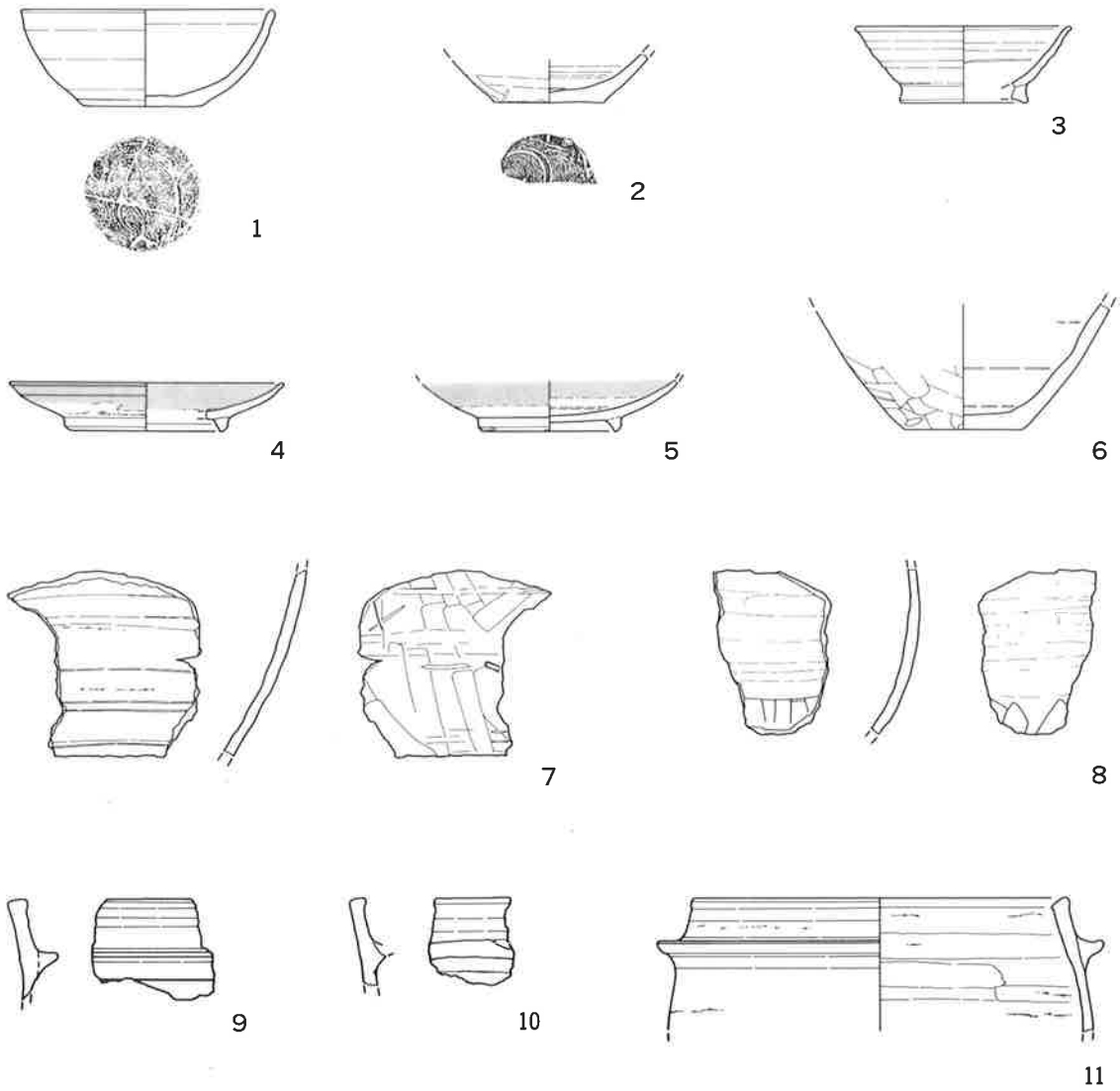


1住1号土坑ｾｸｼｮﾝ
第 1層　黒褐色土。Hr-FA粒を少量、焼土粒をわずか含む。
第 2層　黒褐色土。Hr-FA・焼土粒をわずか含む。
第 3層　暗褐色土。ﾛｰﾑﾌﾞﾛｯｸ・粒を少量含む。
第 4層　暗黄褐色土。ほとんどﾛｰﾑﾌﾞﾛｯｸ。黒色土を少量含む。

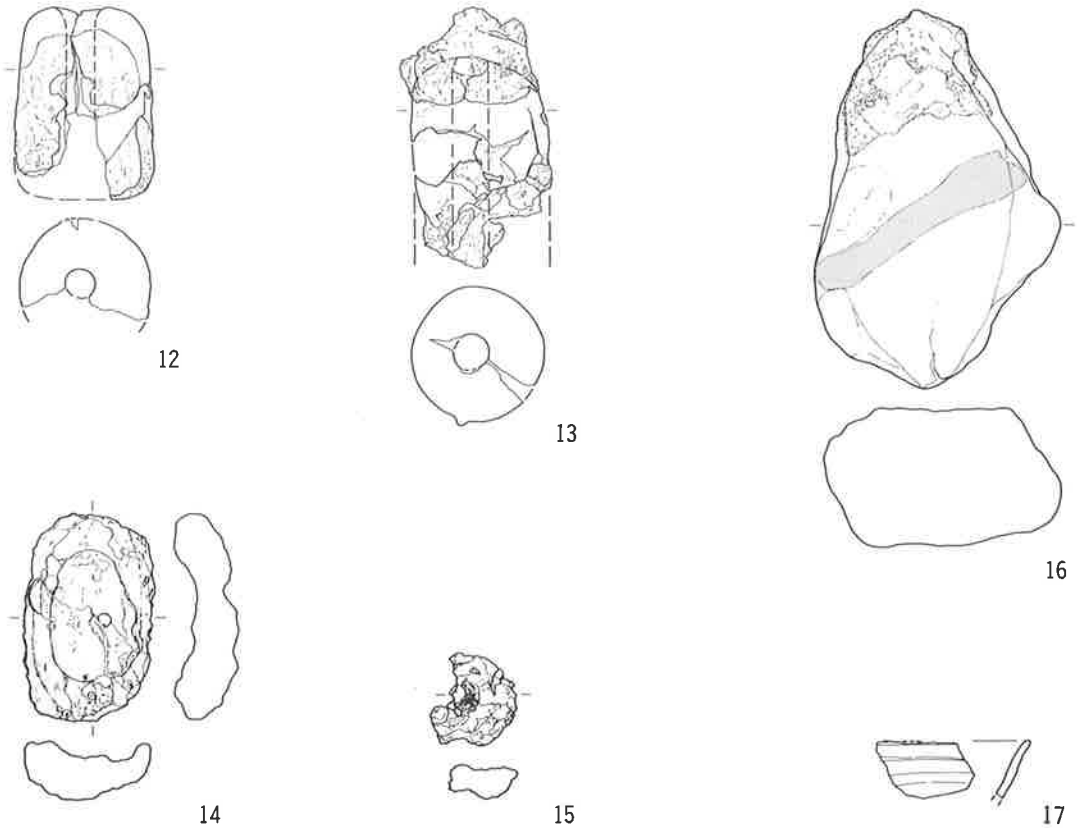


第124図　1号住居跡(1)





第125図　1号住居跡(2)／出土遺物



第126図　1号住居跡出土遺物(2)

められ、羽口·鉄滓·被熱した自然礫が出土している。覆土は炭を含む黒色土を主体とした自然堆積である。土坑は平面隅丸長方形で東西90×南北56㎝程を測り、一部北と南に深さ8㎝程の浅いテラス状の掘り込みがある。底面は丸底気味で壁はほぼ垂直に立ち、深さ50㎝程を測る。覆土は焼土粒·Hr-FAを少量含む黒褐色土を主体とした自然堆積である。位置的に鍛冶施設の鉄滓廃坑と推定されたが、実際には土坑内から鉄滓は一切出土していない。また、住居の床面検出時には炉跡·土坑とも上面に焼土粒が含まれていた。

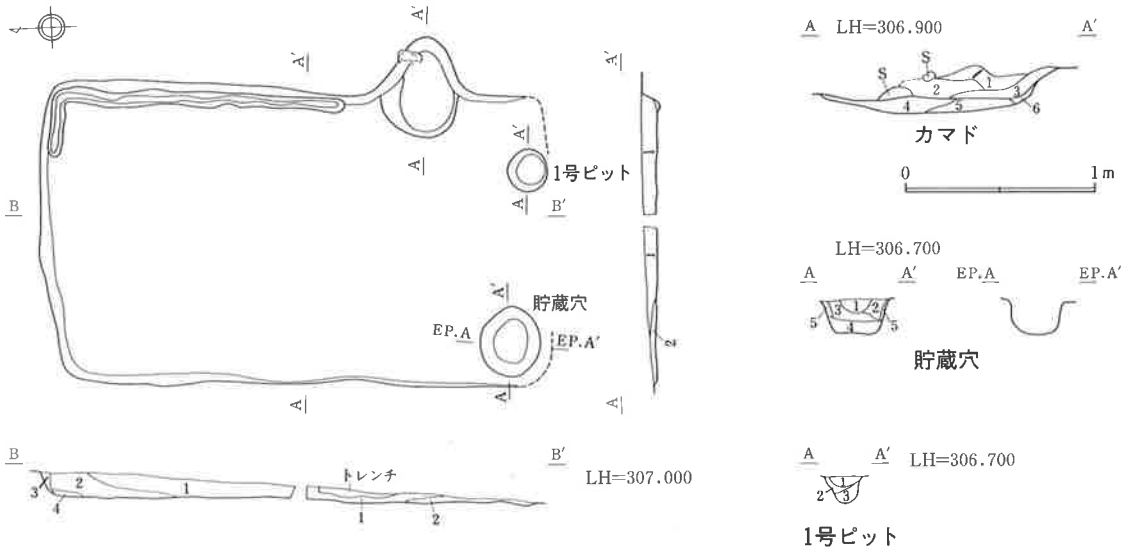
掘方　床面と掘方の差はほとんどなく、床面から平均的に4㎝程下がる程度である。一部カマドの手前60㎝程に土坑が1基検出されたが、他に大きな変化は認められない。土坑は平面楕円形で長軸(東西)92×短軸(南北)78×深さ10㎝程を測り、底面はほぼ平坦で壁は開き気味に浅く立ち上がる。覆土はローム小ブロックを含む褐色土を主体とした人為堆積である。

遺物　カマド、及びその周辺を中心に比較的多くの遺物が出土している。そのほとんどは小破片のため正確な比率とは言えないが、土師器の甕が20点と最も多く、その他は土師器の坏3点·羽釜3点、須恵器の埦類3点、灰釉陶器4点、鉄滓1点、羽口1点のみである。また、貯蔵穴からは土師器の甕7点、須恵器の埦1点が出土し、鍛冶施設からは羽口1点、鉄滓1点、被熱した自然礫が出土した。掘方からは灰釉陶器1点、土坑内からは土師器の甕·坏各1点が出土した。

時期　出土遺物から10世紀中葉と推定される。

第42表 1号住居跡出土遺物観察表

番号	器種	出土状態 残存状態	法量(cm)	胎土・色調	器形・成・整形の特徴	備考
1	坏 須恵器	床直 4/5	口：13.4 底：6.2 高：5.2	細砂粒 外面にぶい橙色 内面灰黄色	体部は内湾気味に外傾する。 ロクロ整形。底部回転糸切り未調整。	
2	坏 須恵器	床直 底～体部1/3	口：—— 底：(5.8) 高：——	細砂粒、雲母片 外面黒褐色 内面黒色	体部は直線的に外傾する。 ロクロ整形。底部回転糸切り未調整。 外面一部ヘラ撫で。	内黒処理
3	椀 須恵器	貯蔵穴 1/4	口：(11.3) 底：(6.7) 高：(4.1)	細砂粒、雲母片 灰白色	体部は直線的に外傾し、口縁部で小さく外反する。 ロクロ整形。貼付高台。	
4	皿 灰釉陶器	床直 1/6	口：(14.6) 底：(8.8) 高：(2.8)	微細砂粒 明ｵﾘｰﾌﾞ灰色	体部は内湾気味に大きく開き、口縁部で小さく外反する。内外面共、底部以外に施釉。 ロクロ整形。貼付高台。	
5	皿 灰釉陶器	カマド 1/3	口：—— 底：(7.7) 高：——	微細砂粒 明ｵﾘｰﾌﾞ灰色	体部は内湾気味に大きく開く。内外面共、底部以外に施釉。ロクロ整形。貼付高台。 重ね焼き痕有り。自然釉付着。	
6	甕 土師器	貯蔵穴 底部1/2	口：—— 底：6.3 高：——	粗砂粒、雲母片 にぶい黄褐色	底部は平底で、胴部は直線的に開く。 外面ヘラ削り。内面撫で。	
7	甕 土師器	床上15cm 胴部破片	口：—— 底：—— 高：——	細砂粒、雲母片 外面にぶい褐色 内面にぶい黄褐色	外面ヘラ削り後、縦位のヘラ撫で。 内面横撫で。	
8	甕 土師器	カマド 胴部破片	口：—— 底：—— 高：——	細砂粒、雲母片 外面にぶい橙色 内面にぶい黄褐色	内外面横撫で。外面一部ヘラ削り。	
9	羽釜 土師器	床直 口縁部破片	口：—— 底：—— 高：——	砂粒、石英片 にぶい黄褐色	口縁部は内傾する。 内外面横撫で。鍔貼り付け。	
10	羽釜 土師器	カマド 口縁部破片	口：—— 底：—— 高：——	砂粒、石英片 明黄褐色	口縁部は内傾する。 内外面横撫で。鍔貼り付け。	
11	羽釜 土師器	床直 口辺部1/4	口：(20.0) 底：—— 高：——	粗砂粒、雲母片 灰黄褐色	口縁部は内傾する。 内外面横撫で。鍔貼り付け。	
12	羽口	鍛冶施設 1/3	長さ：10.1 径：6.8 孔径：1.5	細砂粒、藁 橙色		一部鉄滓付着
13	羽口	鍛冶施設	長さ：—— 径：6.8 孔径：1.8	細砂粒、藁 にぶい黄橙色		鉄滓付着
14	鉄滓	床直	長さ：11.0 幅：6.7 厚み：2.5		中央部が皿状にくぼむ。	重さ344.5g
15	鉄滓	鍛冶施設	長さ：4.5 幅：4.8 厚み：1.5			重さ29g
16	焼礫	鍛冶施設	長さ：20.0 幅：12.8 厚み：7.0			一部鉄滓付着
17	坏 土師器	床下(2号土坑) 口縁部破片	口：—— 底：—— 高：——	砂粒、雲母片 橙色	口縁部で小さく外反する。	



2住A・Bｾｸｼｮﾝ

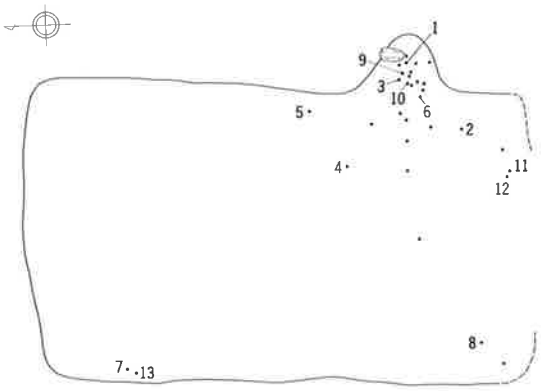
第 1層　黒褐色土。Hr-FA粗・細粒を多く含む。
第 2層　暗褐色土。Hr-FA粒を含む。ﾛｰﾑ粒を少量含む。
第 3層　褐色土。ﾛｰﾑ粒を多く含む。Hr-FA粒をわずか含む。
第 4層　暗黄褐色土。淡色黒ﾎﾞｸ土?ﾌﾞﾛｯｸを含む。

2住ｶﾏﾄﾞｾｸｼｮﾝ

第 1層　暗黄褐色土。やや赤味を帯る。やや粘質。ﾛｰﾑ土を多く含む。Hr-FA・焼土粒をわずか含む。
第 2層　黒色土。焼土粒をわずか含む。
第 3層　暗褐色土。ﾛｰﾑ粒・焼土粒を少量含む。

2住ｶﾏﾄﾞ掘方ｾｸｼｮﾝ

第 4層　暗褐色土。締っている。淡色黒ﾎﾞｸ土ﾌﾞﾛｯｸを含む。
第 5層　褐色土。淡色黒ﾎﾞｸ土?ﾌﾞﾛｯｸを多く含む。Hr-FA・焼土粒をわずか含む。
第 6層　褐色土。地山とほぼ同じ。焼土粒をごくわずか含む。

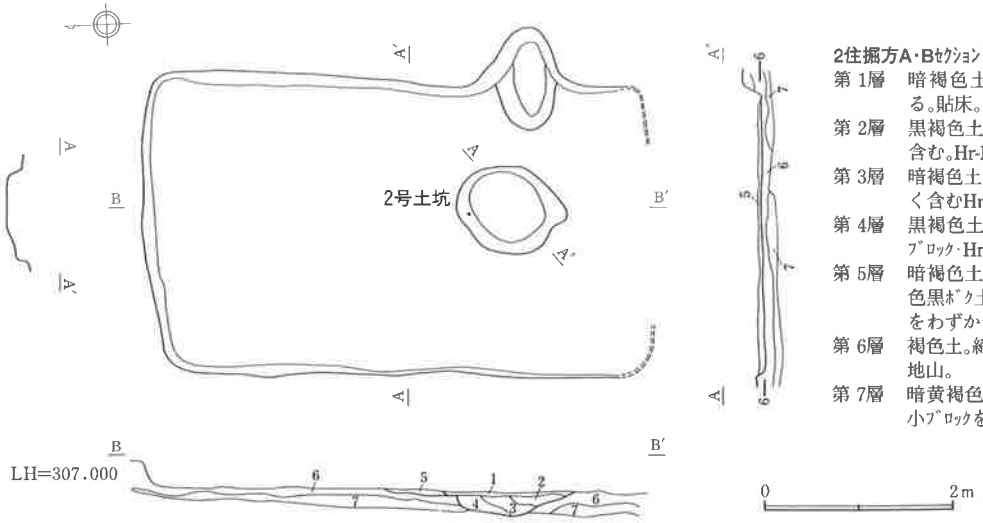


2住貯蔵穴ｾｸｼｮﾝ

第 1層　暗褐色土。Hr-FA・ﾛｰﾑ粒をわずか含む。
第 2層　黒褐色土。Hr-FA粒を少量含む。
第 3層　暗褐色土。ﾛｰﾑ粒を少量含む。
第 4層　褐色土。ﾛｰﾑ小ﾌﾞﾛｯｸ・粒を含む。
第 5層　褐色土。淡色黒ﾎﾞｸ土?を含む。

2住1号ﾋﾟｯﾄｾｸｼｮﾝ

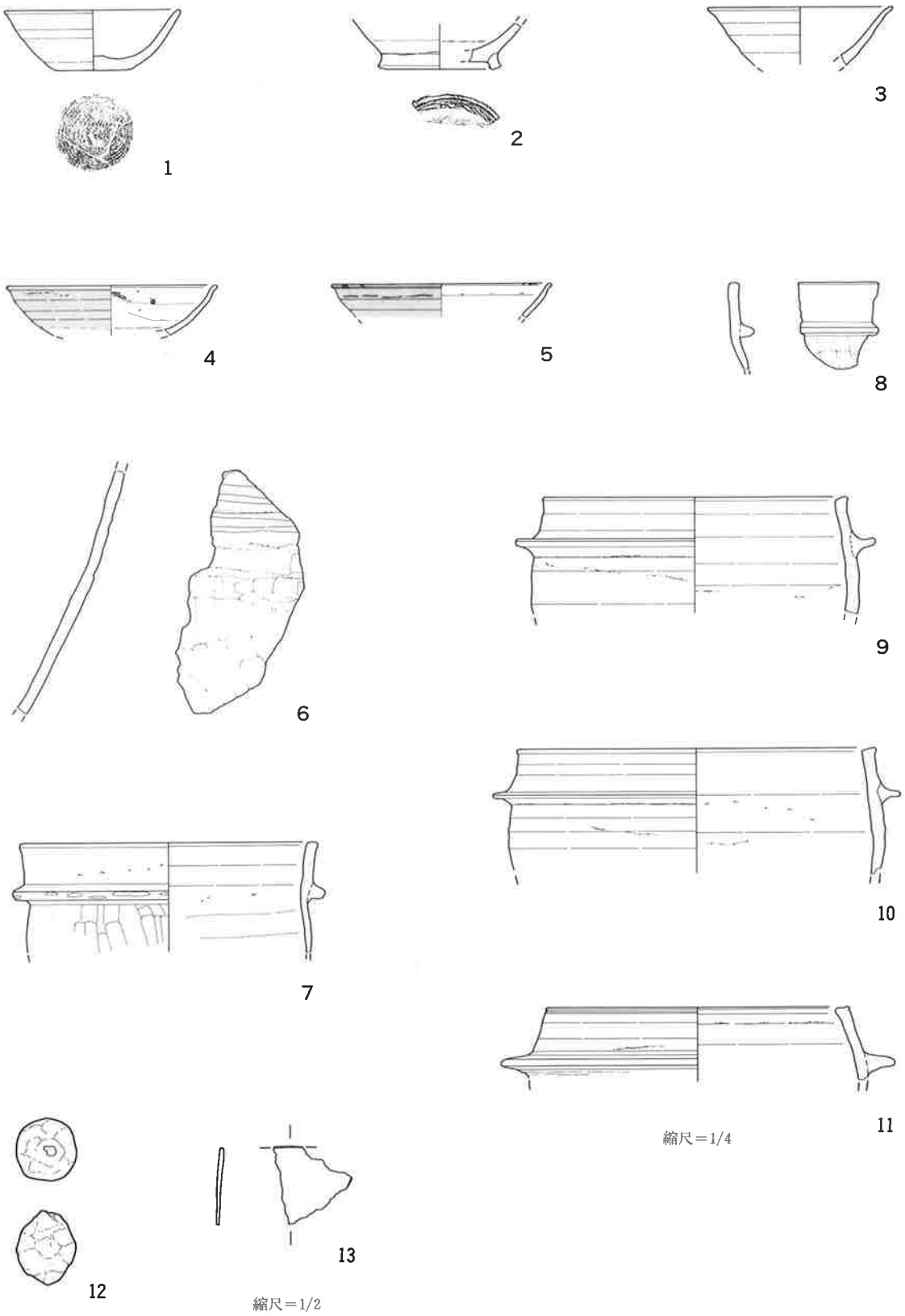
第 1層　黒褐色土。ﾛｰﾑ粒を少量含む。Hr-FAをわずか含む。
第 2層　暗褐色土。淡色黒ﾎﾞｸ土?ﾌﾞﾛｯｸを多く含む。
第 3層　褐色土。ﾛｰﾑ小ﾌﾞﾛｯｸを多く含む。堅く締っている。地山。



2住掘方A・Bｾｸｼｮﾝ

第 1層　暗褐色土。非常に堅く締っている。貼床。
第 2層　黒褐色土。淡橙色粘質土を壁際に含む。Hr-FA粒を少量含む。
第 3層　暗褐色土。淡色黒ﾎﾞｸ土?ﾌﾞﾛｯｸを多く含むHr-FA粒をわずか含む。
第 4層　黒褐色土。堅く締っている。ﾛｰﾑ小ﾌﾞﾛｯｸ・Hr-FA粒をわずか含む。
第 5層　暗褐色土。表面堅く締る。床面。淡色黒ﾎﾞｸ土?ﾌﾞﾛｯｸを含む。Hr-FA粒をわずか含む。地山。
第 6層　褐色土。締っている。淡色黒ﾎﾞｸ土?地山。
第 7層　暗黄褐色土。堅く締っている。ﾛｰﾑ小ﾌﾞﾛｯｸを多く含む。地山。

第127図　2号住居跡



第128図　2号住居跡出土遺物

第43表 2号住居跡出土遺物観察表

番号	器種	出土状態 残存状態	法量(cm)	胎土・色調	器形・成・整形の特徴	備考
1	坏 須恵器	カマド ほぼ完形	口：11.8 底：4.9 高：4.0	砂粒 にぶい黄橙色	体部は内湾気味に外傾する。 ロクロ整形。底部回転糸切り未調整。	土師質
2	埦 須恵器	床直 底～体部1/5	口：—— 底：(8.1) 高：——	砂粒 にぶい黄橙色	体部は内湾気味に外傾する。 ロクロ整形。貼付高台。	土師質
3	埦 須恵器	カマド 口縁部1/6	口：(12.0) 底：—— 高：——	細砂粒 にぶい黄橙色	体部は内湾気味に外傾し、口縁部で小さく外反する。 ロクロ整形。	土師質
4	埦 灰釉陶器	床上5cm 口縁部1/6	口：(13.5) 底：—— 高：——	微細砂粒 灰白色	体部は直線的に外傾し、口縁部で小さく外反する。 内外面施釉。 ロクロ整形。	一部口縁部に油煙付着
5	埦 灰釉陶器	床上15cm 口縁～体部 1/5	口：(13.9) 底：—— 高：——	微細砂粒 灰白色	体部は内湾気味に外傾し、口縁部で小さく外反する。内外面施釉。 ロクロ整形。	一部油煙付着
6	甕 土師器	カマド 胴部破片	口：—— 底：—— 高：——	小砂礫、石英 灰黄色	外面ヘラ削り、撫で。 内面横撫で。	
7	羽釜 土師器	床直 口縁部1/6	口：(19.5) 底：—— 高：——	砂粒、雲母片 灰黄色	口縁は直立気味にやや外傾する。 外面鍔以下は縦位のヘラ削り。外面口辺部、及び内面は横撫で。鍔貼り付け。	口縁部の一部、外面鍔以下に油煙付着
8	羽釜 土師器	貯蔵穴 口縁部破片	口：—— 底：—— 高：——	粗砂粒、雲母片、石英片 灰黄褐色	口縁部は内傾する。 外面鍔以下は縦位のヘラ削り。外面口辺部、及び内面は横撫で。鍔貼り付け。	口縁部、外面鍔以下に油煙付着
9	羽釜 土師器	カマド 口縁部1/5	口：(20.0) 底：—— 高：——	粗砂粒 外面にぶい黄橙色 内面灰黄色	口縁はやや内傾する。 内外面横撫で。鍔貼り付け。	
10	羽釜 土師器	カマド 口縁部1/5	口：(23.6) 底：—— 高：——	砂粒、雲母片 灰黄色	口縁部は内傾する。 内外面横撫で。鍔貼り付け。	
11	羽釜 土師器	床直 口縁部1/6	口：(19.9) 底：—— 高：——	粗砂粒 外面にぶい黄橙色 内面にぶい橙色	口縁部は内傾する。 内外面横撫で。鍔貼り付け。	
12	不明 土製品	1号ピット 完形	長さ：4.1 径：4.0	粗砂粒、雲母片 にぶい褐色		
13	不明 青銅製品	床直 破片	不明		一部、縁が残る。内面と思われる面に繊維らしきものが付着。緑錆。	

2号住居跡(第127·128図、第43表)

位置 調査区南端中央部、19ーJグリッドに検出された。1号住居跡の西約15mに位置している。南壁のほとんどは削平されており、南壁は不明瞭である。重複遺構はない。

形状 主軸はN-93°-Eを指向し、平面南北に長い長方形を成す。長軸(南北)5.37×短軸(東西)3.68mを測る。壁はほぼ垂直に立ち、壁高は北壁で0.21mを測る。床面は堅く締り、特にカマド手前は非常に堅く締まっている。壁溝は東壁下をカマド左脇から北壁に60cm程回り込んだところまで検出された(全周していない)。

覆土 ローム粒·Hr-FA粒を含む褐色土を主体とした自然堆積である。

柱穴 柱穴は検出されなかった。

貯蔵穴 南西隅に1基検出された。平面楕円形で、長軸(東西)76×短軸(南北)66×深さ36㎝を測る。底面は平坦で、壁は開き気味に立つ。覆土はローム粒を含む暗褐色土を中心とした自然堆積である。

カマド 東壁南寄りに付設されている。遺存状態が悪く不明瞭であるが、焚口·燃焼部半分程は壁内に位置し、燃焼部の残り半分程から煙道にかけては壁外に位置すると思われる。焚口部両袖はなく、焚口から燃焼部にかけては平坦で、煙道は段を有して立ち上がる。現存する規模は、長さ100×幅80×深さ40㎝程を測る。覆土は焼土粒·ローム粒·ロームブロックを含む暗褐色土を主体とした自然堆積である。

ピット 南東寄りに径43×深さ30㎝程のピットが1基検出された。位置的には貯蔵穴が通常存在する場所であるが、規模が小さいため貯蔵穴とはしなかった。覆土はローム小ブロックを含む褐色土を主体とした自然堆積である。

掘方 床面と掘方の差はほとんどなく、床面から部分的に4㎝程下がる程度である。一部カマドの手前80㎝程に土坑が1基検出されたが、他に大きな変化は認められない。土坑は平面不整楕円形で長軸(東西)120×短軸(南北)90×深さ24㎝程を測り、底面はほぼ平坦で壁は開き気味に浅く立ち上がる。覆土はローム小ブロック·Hr-FA粒を含む黒褐色土を主体とした人為堆積である。上面に貼床らしき非常に堅く締まった層が認められる。

遺物 カマド、及びその周辺を中心に比較的多くの遺物が出土している。そのほとんどは小破片のため正確な比率とは言えないが、土師器の甕が14点と最も多く、その他は土師器の坏1点·羽釜4点、須恵器の埦類3点、灰釉陶器2点、青銅製品1点のみである。また、貯蔵穴からは羽釜1点が出土し、1号ピットからは玉状の土製品1点が出土した。床下土坑からは灰釉陶器1点が出土した。

時期 出土遺物から1号住居跡同様、10世紀中葉と推定される。

2．炭　窯

1号炭窯(第129図)

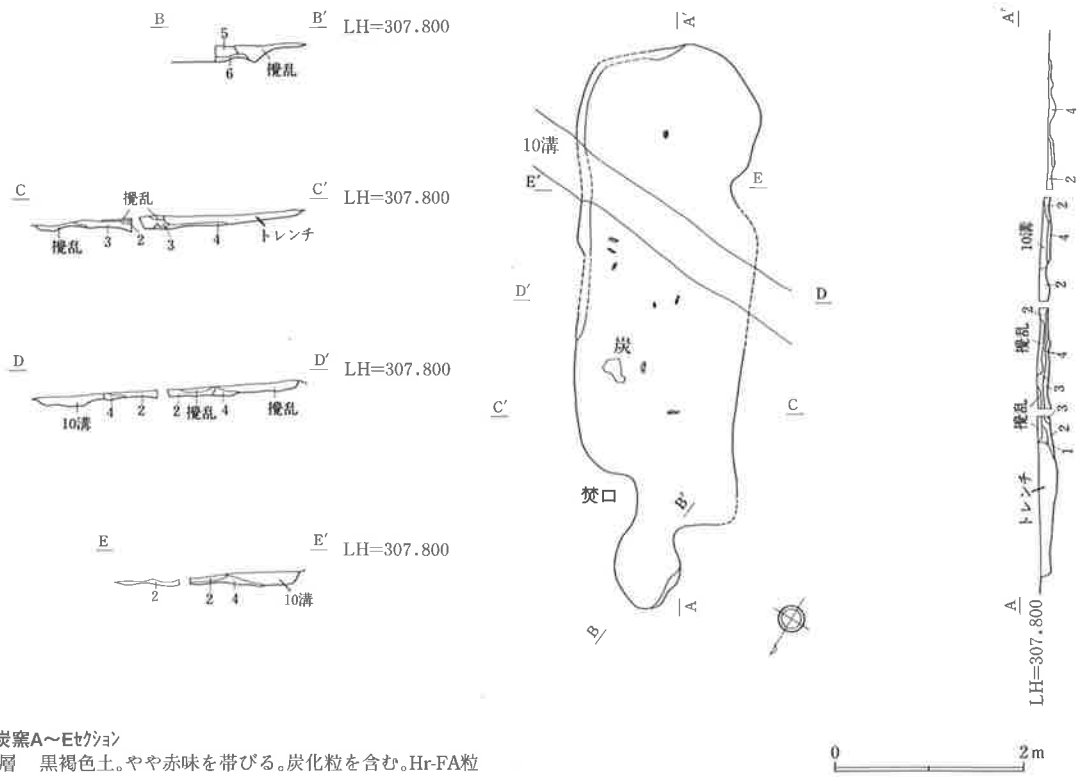
位置 調査区中央部南西寄り、20—Jグリッドに検出された。2号住居跡の北西約15ｍに位置している。10号溝跡に切られている。

形状 攪乱が著しく底面をわずかに検出できた程度で、形態も不明瞭なほど遺存状態は良くない。およそ主軸はN-149°-Eを指向し、等高線とほぼ平行に築かれている。平面形は柄の短い羽子板状(大根おろし器にも似ている）を成し、南北に長い隅丸長方形の焼成部から焚き口が極端に狭くなり、焚き口手前は舌状に突出する。長軸(南北)5.87×短軸(東西)1.79m程を測る。壁高は西壁で0.1ｍ程を測る。底面は全体的に平坦であるが、小さな凹凸が部分的に認められる。被熱面は認められない。

覆土 炭化物·粒を含む黒色土を主体とした自然堆積である。焚き口部は炭化物が少ない。

遺物 炭化物以外は出土していない。

時期 不明(中近世？)。



1号炭窯A～Eｾｸｼｮﾝ

第 1層　黒褐色土。やや赤味を帯びる。炭化粒を含む。Hr-FA粒を少量含む。
第 2層　黒色土。炭化粒を多く含む。炭化材を含む。
第 3層　暗褐色土。ﾛｰﾑ粒を含む。炭化粒をわずか含む。締っている。
第 4層　褐色土。ﾛｰﾑ小ﾌﾞﾛｯｸ・粒を含む。締っている。
第 5層　黒褐色土。やや砂質。Hr-FA粒を多く含む。
第 6層　褐色土。第5層とﾛｰﾑ土との混合層。

第129図　1号炭窯

3．井戸跡

1号井戸跡(第130･131図、第44表)

位置　調査区西端北寄り、21－Kグリッドに検出された。2号井戸跡と隣接している。

形状　平面円形を成し、径2.2ｍ程を測る。断面は上面がロート状に開く円筒形を成し、深さ2.86ｍ程を測る。底面は丸底気味である。

覆土　上層にHr-FA･ローム粒を含む暗褐色土、中層にAs-Srを含む褐色土、下層にAs-BPを含む暗赤褐色土を主体とした自然堆積である。

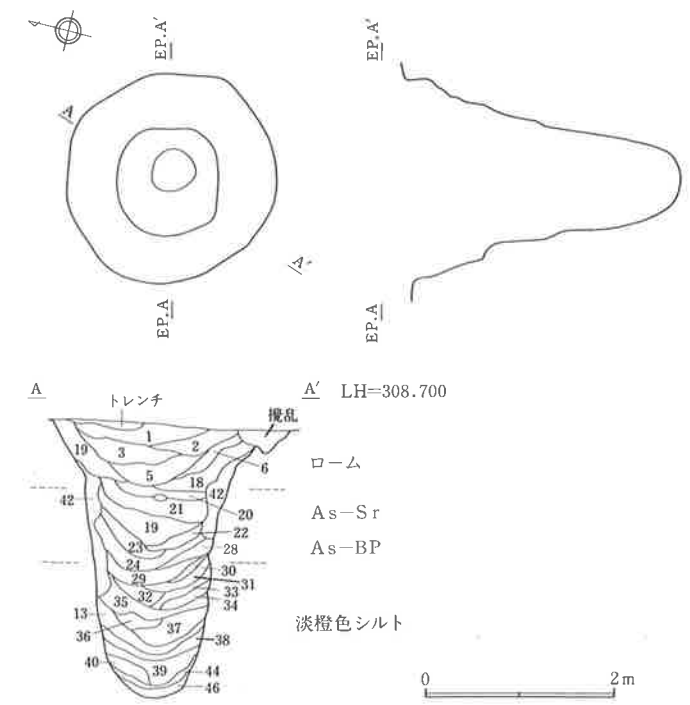
遺物　覆土上層から打製石斧が1点出土している。

時期　近世と思われる。

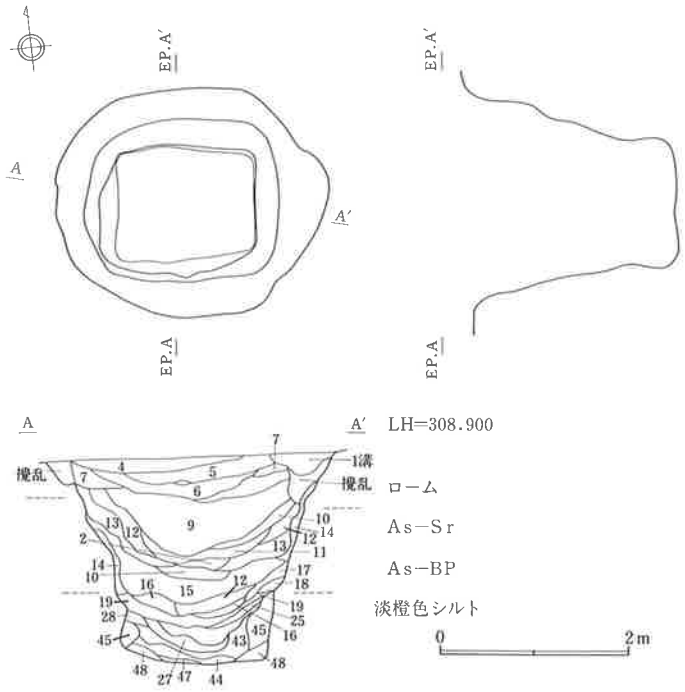
2号井戸跡(第130･131図、第44表)

位置　調査区西端北寄り、21－Kグリッドにて検出された。1号井戸跡と隣接している。1号溝跡に切られる。

形状　平面東西にやや長い隅丸方形を成し、長軸2.86×短軸2.42程を測る。断面は上位がロート状に開き、下



1号井戸跡

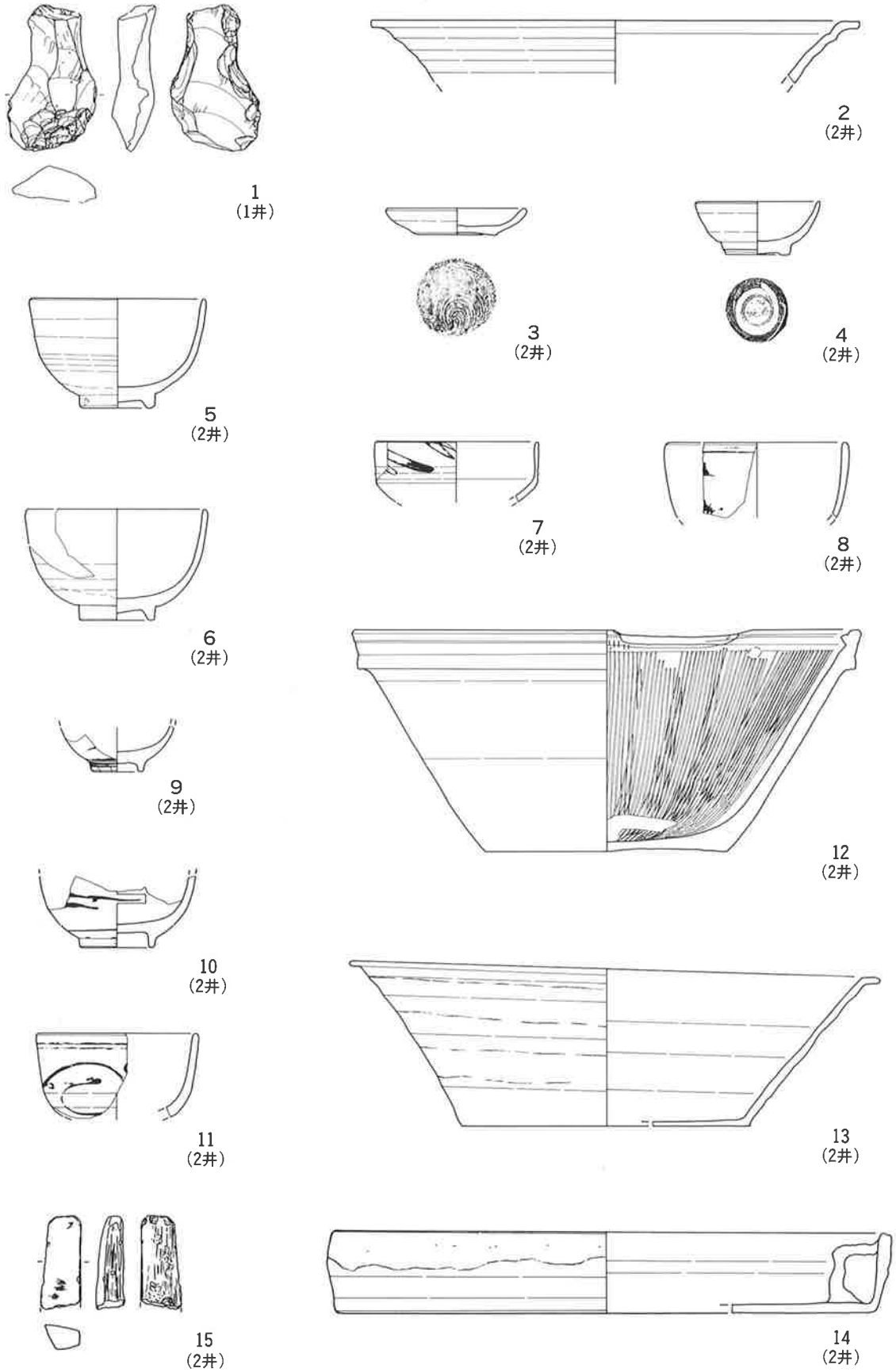


2号井戸跡

第130図　1·2号井戸跡

1·2号井戸ｾｸｼｮﾝ

第 1層　暗褐色土。Hr-FA·ﾛｰﾑ粒をわずか含む。
第 2層　暗褐色土。ﾛｰﾑ粒を少量含む。
第 3層　暗褐色土。Hr-FA·ﾛｰﾑ粒を少量含む。
第 4層　黒褐色土。Hr-FA粒·小軽石を含む。
第 5層　黒褐色土。Hr-FA粒を少量含む。
第 6層　黒褐色土。Hr-FA粒·炭化粒を少量含む
第 7層　褐色土。ﾛｰﾑ粒·Hr-FA粒を多く含む。
第 8層　黒褐色土。Hr-FA小軽石を少量含む。
第 9層　黒色土。Hr-FA軽石を多く含む。骨出土。
第10層　黒褐色土。ﾛｰﾑ粒を含む。
第11層　黒褐色土。ﾛｰﾑ粒をわずか含む。
第12層　暗褐色土。ﾛｰﾑ小ﾌﾞﾛｯｸ·粒を含む。
第13層　褐色土。ﾛｰﾑ小ﾌﾞﾛｯｸ·粒を多く含む。
第14層　暗黄色土。ﾛｰﾑﾌﾞﾛｯｸ·粒を非常に多く含む。
第15層　褐色土。第13層に準じる。比較的含有量が多い。
第16層　黄色土。ほとんどﾛｰﾑﾌﾞﾛｯｸ。
第17層　黄色土。As-Sr?·ﾛｰﾑ小ﾌﾞﾛｯｸを多く含む。
第18層　暗褐色土。As-Sr?粒を含む。
第19層　褐色土。As-Sr?粒を少量含む。
第20層　黒褐色土。As-Sr?粒をわずか含む。
第21層　暗褐色土。As-Sr?小ﾌﾞﾛｯｸ·粒を多く含む。
第22層　褐色土。As-Sr?と黒褐色土との混合層。
第23層　黄褐色土。ほとんどﾛｰﾑ土。As-Sr?を含む。
第24層　褐色土。第23層に準じる。As-Sr?粒を非常に多く含む。
第25層　暗黄色土。淡褐色ｼﾙﾄ土。
第26層　暗褐色土。淡褐色ｼﾙﾄ粒を少量含む。
第27層　暗黄色土。第25層に準じる。As-Sr?粒を含む。
第28層　暗赤黄褐色土。ほとんどAs-Sr?。
第29層　褐色土。As-BP(FK-8)?と黒褐色土との混合層。
第30層　黄褐色土。ﾛｰﾑ土とAs-BP(FK-8)?の混合層。
第31層　暗黄褐色土。ほとんどﾛｰﾑ土。As-BP(FK-8)?を含む。
第32層　黄褐色土。第30層に準じる。
第33層　褐色土。第29層に準じる。
第34層　黄褐色土。第30層に準じる。
第35層　褐色土。ﾛｰﾑ小ﾌﾞﾛｯｸを多く含む。As-BP(FK-8)?粒を含む。
第36層　暗赤黄褐色土。ほとんどAs-BP(FK-8)?。
第37層　褐色土。第29層に準じる。As-BP(FK-8)?粒を非常に多く含む。
第38層　黒色土。ﾛｰﾑ粒を含む。
第39層　褐色土。第34層に準じる。
第40層　黒色土。第24層に準じる。
第41層　暗褐色土。ﾛｰﾑ粒を含む。
第42層　暗黄褐色土。ﾛｰﾑ小ﾌﾞﾛｯｸ粒、As-BP(FK-8)?粒を多く含む。
第43層　褐色土。ｼﾙﾄ粒を多く含む。
第44層　黒色土。やや粘質。ｼﾙﾄ粒をわずか含む。
第45層　暗赤黄色土。ｼﾙﾄとAs-BP(FK-8)?。
第46層　褐色土。淡黄色ｼﾙﾄ小ﾌﾞﾛｯｸ粒を多く含む。
第47層　ｼﾙﾄ層。
第48層　黒色土。第44層に準じる。



第131図　1·2号井戸跡出土遺物

第44表 1·2号井戸跡出土遺物観察表

番号	器種	出土状態 残存状態	法量(cm)	胎土・色調	器形・成・整形の特徴	備考
1	打製石斧	1号井戸 覆土 2/3	長：—— 幅：5.9 厚：2.6	黒色頁岩	分銅型。	重さ：136.6g
2	甕 灰釉陶器	2号井戸 覆土 口縁部破片	口：(32.6) 底：—— 高：——	微細砂粒 灰色	直線的に外傾する口辺から口唇部は直立後、水平に大きく外へ開く。 ロクロ整形。内外面施釉。	
3	皿 土師質 土器	2号井戸 覆土 ほぼ完形	口：9.2 底：5.2 高：	砂粒、雲母片 にぶい黄橙色	体部は直線的に外傾し、口縁部でやや内湾する。 ロクロ整形。底部回転糸切り未調整。	油煙付着 灯明皿？
4	小碗 陶器	2号井戸 覆土 2/3	口：(8.2) 底：4.3 高：3.4	微細砂粒 暗オリーブ色	体部は内湾外傾する。 ロクロ整形。削り出し高台。高台部底面に回転糸切り痕。外面底部以外は飴釉？	美濃焼 18C前？
5	埦 陶器	2号井戸 覆土 4/5	口：11.6 底：5.0 高：7.2	微細砂粒 暗オリーブ色	体部下方は内湾外傾し、口縁部に向かって直立する。ロクロ整形。削り出し高台。 外面底部以外は飴釉？	美濃焼 18C前？
6	埦 陶器	2号井戸 覆土 2/3	口：12.0 底：5.1 高：7.4	微細砂粒 暗オリーブ色	体部下方は内湾外傾し、口縁部に向かって直立する。ロクロ整形。削り出し高台。 外面底部以外は飴釉？	美濃焼 18C前？
7	茶碗 陶器	2号井戸 覆土 口縁 ～体部破片	口：(10.8) 底：—— 高：——	微細砂粒 オリーブ黄色	直線的に外傾する体部から口辺部下方で屈曲し、口縁部は直立する。 ロクロ整形。貫入風の釉。	益子焼 江戸末期？
8	埦 磁器	2号井戸 覆土 口縁部破片	口：(11.9) 底：—— 高：——	微細砂粒 オリーブ灰色	口縁部は直線的に直立する。 ロクロ整形。染め付け、貫入風の釉。	
9	埦 磁器	2号井戸 覆土 底部	口：—— 底：3.5 高：——	微細砂粒 明オリーブ灰色	体部下方は内湾外傾する。 ロクロ整形。削り出し高台。 染め付け。	
10	埦 磁器	2号井戸 覆土 底～体部1/3	口：—— 底：(5.1) 高：——	微細砂粒 灰色	体部下方は内湾外傾する。 ロクロ整形。削り出し高台。 染め付け、貫入風。	
11	埦 磁器	2号井戸 覆土 口縁 ～体部1/6	口：(10.7) 底：—— 高：——	微細砂粒 灰色	口縁部は直線的に直立する。 ロクロ整形。染め付け、貫入風の釉。	
12	擂り鉢 焼締陶器	2号井戸 覆土 1/4	口：(33.8) 底：(16.1) 高：14.9	小礫、粗砂粒 外面明赤褐色 内面赤褐色	平底の底部から体部は直線的に外傾し、口縁部は段違いに内·外側が突出する。口縁部の一部をわずかに外側に膨らませている(片口状)。ロクロ整形。内面体部から底部縁にかけて11条単位の櫛目が縦位に右から左に施され、底部は7条単位の櫛目が斜格子状に左から右に施されている。	備前焼？
13	鍋 軟質陶器	2号井戸 覆土 2/3	口：(35.5) 底：(19.3) 高：(10.5)	砂粒、雲母片 灰オリーブ色	平底の底部から体部は直線的に外傾し、口唇部は水平に開く。外面体部は指頭整形、顕著に巻上げ痕が残る。外面口縁部から内面は横撫で。	在地 外面煤付着
14	焙烙 内耳鍋 軟質陶器	2号井戸 覆土 1/3	口：(37.3) 底：(36.0) 高：(5.5)	砂粒 外面黒色、内面浅黄色·黒褐色	平底の底部から体部は直立し、外面中位に緩やかな段差あり。内面には一部、いわゆる耳状把手が貼り付けられている(単位3～4)。 外面体部は指頭整形、顕著に巻上げ痕が残る。内面は横撫で。	在地 外面煤付着
15	砥石	2号井戸 覆土 一面欠損	長：6.2 幅：2.6 厚：1.9	砥沢石	四面使用。 横小口？に櫛描状の条痕あり。	重さ：35.6g

位は円筒形を成す。深さ2.86ｍ程を測る。底面は平坦である。

覆土　上層にHr-FA･ローム粒を含む暗褐色土、中層にAs-Srを含む褐色土、下層にAs-BPを含む暗赤褐色土を主体とした自然堆積である。

遺物　覆土上層～中層より草食動物の骨･陶磁器類が点出土している。

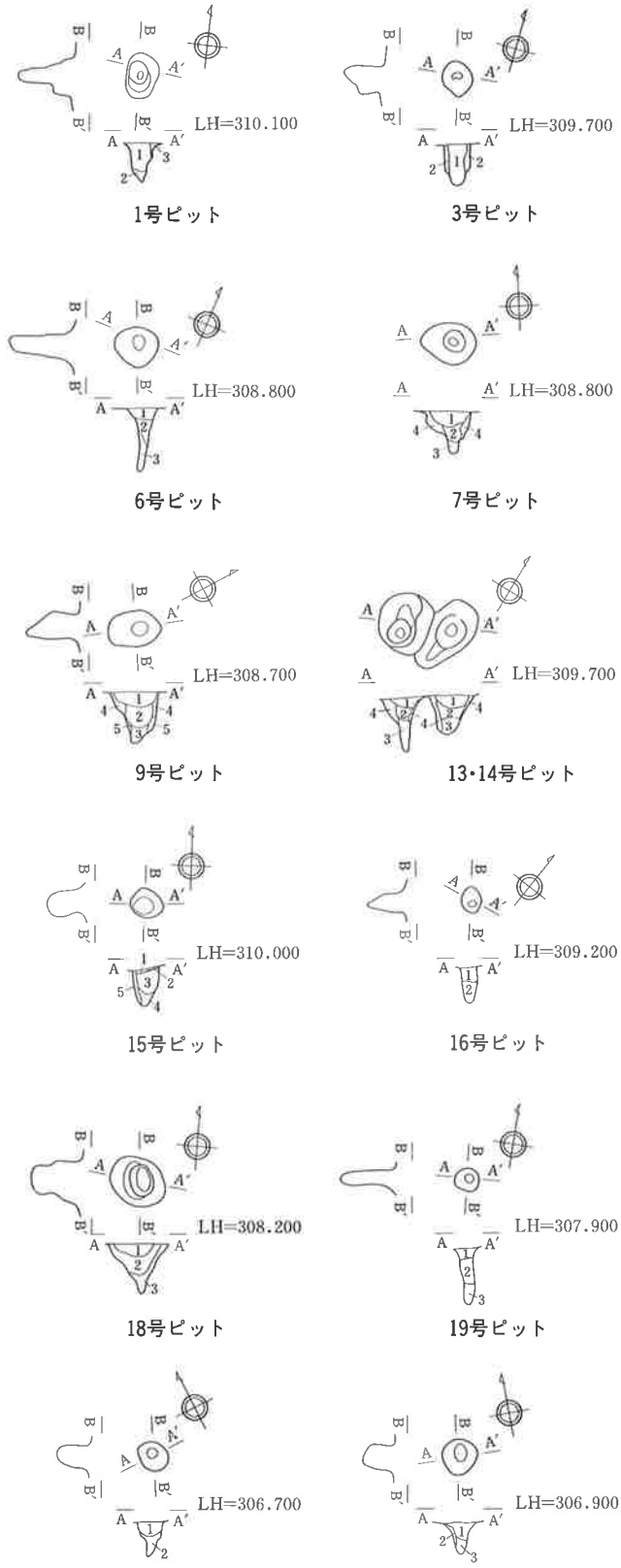
時期　近世と思われる。

４．ピット(第132図、第45表)

検出された27基のピットは、調査区全体に散らばっており、規則的に配列されたものはない。いずれも出土遺物もなく性格不明である。掘り込みが明確であることから遺構と判断したが、おそらく大半は自然のものと思われる。個々の詳細については第45表にまとめた。

第45表　ピット一覧表　（計測値単位：ｍ）

番号	長軸	短軸	深さ	平面形態	時期	重複遺構	性格	出土遺物	備考
1	0.49	0.36	0.61	南北に長い楕円形	不明	なし	柱穴?	なし	
2	0.43	0.41	0.65	円形	不明	なし	根の立腐れor抜根痕?	なし	底面不整形
3	0.38	0.31	0.43	円形	不明	なし	不明	なし	
4	0.72	0.60	0.45	不整円形	不明	なし	根の立腐れor抜根痕?	なし	底面不整形
5	0.61	0.53	0.49	円形	不明	なし	不明	なし	
6	0.48	0.45	0.72	円形	不明	なし	柱穴?	なし	
7	0.61	0.44	0.52	東西に長い楕円形	不明	なし	柱穴?	なし	円形の掘込
8	0.80	0.50	0.44	不整形	不明	なし	根の立腐れor抜根痕?	なし	
9	0.57	0.39	0.60	南北に長い楕円形	不明	なし	柱穴?	なし	底面円形
10	0.64	0.4	0.45	東西に長い楕円形	不明	なし	不明	なし	底面円形
11	0.66	0.45	0.39	東西に長い楕円形	不明	なし	根の立腐れor抜根痕?	なし	
12	0.59	0.4	0.41	南北に長い楕円形	不明	なし	根の立腐れor抜根痕?	なし	底面不整形
13	0.63	0.56	0.77	南北に長い楕円形	不明	14ﾋﾟｯﾄとの新旧関係は不明	柱穴?	なし	円形の掘込
14	0.83	0.48	0.44	南北に長い楕円形	不明	13ﾋﾟｯﾄとの新旧関係は不明	柱穴?	なし	円形の掘込
15	0.33	0.30	0.43	円形	不明	なし	柱穴	なし	
21	0.78	0.36	0.29	東西に長い楕円形	不明	22ﾋﾟｯﾄを切る。	根の立腐れor抜根痕?	なし	
22	0.66	0.45	0.45	東西に長い楕円形	不明	21ﾋﾟｯﾄに切られる。	根の立腐れor抜根痕?	なし	底面不整形
23	0.45	0.34	0.34	南北に長い楕円形	不明	なし	根の立腐れor抜根痕?	なし	底面不整形
24	0.45	0.40	0.31	東西に長い楕円形	不明	なし	根の立腐れor抜根痕?	なし	
25	0.32	0.29	0.38	円形	不明	なし	柱痕?	なし	
26	0.39	0.35	0.33	円形	不明	なし	不明	なし	底面楕円形
27	0.31	0.24	0.53	東西に長い楕円形	不明	7溝に切られる。	柱穴?	なし	底面円形



1号ﾋﾟｯﾄｾｸｼｮﾝ
第 1層　黒褐色土。Hr-FA粒を少量含む。
第 2層　黒褐色土。As-Sr?粒を少量含む。
第 3層　暗褐色土。ﾛｰﾑ土を含む。

3号ﾋﾟｯﾄｾｸｼｮﾝ
第 1層　黒褐色土。Hr-FA粒を少量含む。
第 2層　褐色土。ﾛｰﾑ土を含む。締っている。人為的?

6号ﾋﾟｯｾｸｼｮﾝﾄ
第 1層　黒褐色土。Hr-FA粒を少量含む。
第 2層　ﾛｰﾑ粒を少量含む。
第 3層　黒色土。ﾛｰﾑ小ﾌﾞﾛｯｸを少量含む。

7号ﾋﾟｯﾄｾｸｼｮﾝ
第1～3層　6号ﾋﾟｯﾄと共通。
第 4層　暗褐色土。やや締っている。ﾛｰﾑ土を少量含む。

9号ﾋﾟｯﾄｾｸｼｮﾝ
第 1層　黒褐色土。Hr-FA･ﾛｰﾑ粒を少量含む。
第 2層　黒褐色土。ﾛｰﾑ粒をわずか含む。
第 3層　黒色土。ﾛｰﾑ小ﾌﾞﾛｯｸを少量含む。
第 4層　褐色土。淡色黒ﾎﾞｸ土?混り。
第 5層　黄褐色土。ﾛｰﾑﾌﾞﾛｯｸを多く含む。

13･14号ﾋﾟｯﾄｾｸｼｮﾝ
第 1層　黒褐色土。Hr-FA粒をわずか含む。
第 2層　暗褐色土。ﾛｰﾑ粒を少量含む。
第 3層　暗褐色土。ﾛｰﾑ粒を含む。
第 4層　暗褐色土。淡色黒ﾎﾞｸ土?を含む。

15号ﾋﾟｯﾄｾｸｼｮﾝ
第 1層　黒色土。Hr-FA粒を少量含む。
第 2層　黄茶褐色土。火山灰層?
第 3層　黒褐色土。Hr-FA･ﾛｰﾑ粒をわずか含む。
第 4層　暗褐色土。ﾛｰﾑ粒を多く含む。
第 5層　褐色土。ﾛｰﾑ小ﾌﾞﾛｯｸ･粒を多く含む。

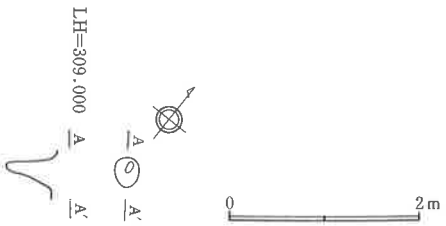
16号ﾋﾟｯﾄｾｸｼｮﾝ
第 1層　黒褐色土。ﾛｰﾑ粒を少量含む。
第 2層　褐色土。ﾛｰﾑ粒を多く含む。

18号ﾋﾟｯﾄｾｸｼｮﾝ
第 1層　黒褐色土。Hr-FA･ﾛｰﾑ粒を少量含む。
第 2層　黒褐色土。ﾛｰﾑ粒を含む。
第 3層　褐色土。ﾛｰﾑ小ﾌﾞﾛｯｸ･粒を多く含む。

19号ﾋﾟｯﾄｾｸｼｮﾝ
第 1層　黒褐色土。炭化粒をわずか含む。
第 2層　暗褐色土。ﾛｰﾑ粒を少量含む。
第 3層　褐色土。ﾛｰﾑ粒を多く含む。

25号ﾋﾟｯﾄｾｸｼｮﾝ
第 1層　黒褐色土。Hr-FA粒を少量含む。
第 2層　暗褐色土。ﾛｰﾑ粒を含む。

26号ﾋﾟｯﾄｾｸｼｮﾝ
第 1層　黒褐色土。Hr-FA粒を少量含む。
第 2層　黒褐色土。ﾛｰﾑ粒をごくわずか含む。
第 3層　褐色土。淡色黒ﾎﾞｸ土?を多く含む。



27号ピット

第132図　ピット

5．溝　跡

溝跡は北寄りから西端に集中し、ほとんどが平行、あるいは直角の位置関係をとっている。いずれの溝跡も深さ約5～30㎝と浅く、幅も約20～30㎝と狭く小規模である。覆土は若干の差違が認められるが、ほぼ同様の状況を示す。全ての溝跡は同時存在ではないが、同じ時代に属するもので若干の時間差を持つものと推測される。

1号溝跡(第133図)

位置　調査区西寄り、北西端の22－Jグリッドから南西端の21－Jグリッドにかけて検出された。北は調査区外へ延び、南は調査区中央付近で2号溝跡と合流する。2号溝跡より新しいが、合流地点より先の走向は不明確である(11号溝跡が同一の可能性がある)。2号井戸跡を切る。4·6·7号溝跡に切られる。

形状　全長31ｍ以上を測る。走向は直線的に南走し、2号溝跡との合流地点付近で東に緩やかに屈曲する。合流地点から先の走向は不明確であるが、2号溝跡と並走して南端も調査区外へ延びている可能性が高い。断面はほぼ半円状を成すが、部分的に垂直な立ち上がりを残した壁もあり、小規模な箱掘の溝と推定される。確認幅は平均30cm、底幅は平均15cm、深さ20cm程を測る。

覆土　Hr-FA·ローム粒を含む砂質の暗褐色土を主体とした自然堆積である。

遺物　出土遺物はない。

時期　近世以降と思われる。

2号溝跡(第133·134図)

位置　調査区西寄り、北西端の22－Jグリッドから南西端の19－Kグリッドにかけて検出された。調査区北端を起点に南は調査区外へ延び、第1次調査で検出された2号溝跡に接続する。調査区中央付近で1号溝跡と合流する。

形状　全長79ｍ以上を測る。走向はほぼ直線的に南走するが、2号溝跡との合流地点で蛇行し、10号溝跡との交差点付近で西に緩やかに屈曲する。調査区中央付近から8号溝跡と並走する。断面は、北で巾の狭い壁が垂直に立つ箱掘の形状を残すが、8号溝跡と合流する地点から南では比較的巾の広い半円状(不整)を呈す。確認幅は30～50cm、底幅は15～30cm、深さ20～30cm程を測る。

覆土　Hr-FA·ローム粒を含む砂質の暗褐色土を主体とした自然堆積である。

遺物　出土遺物はない。

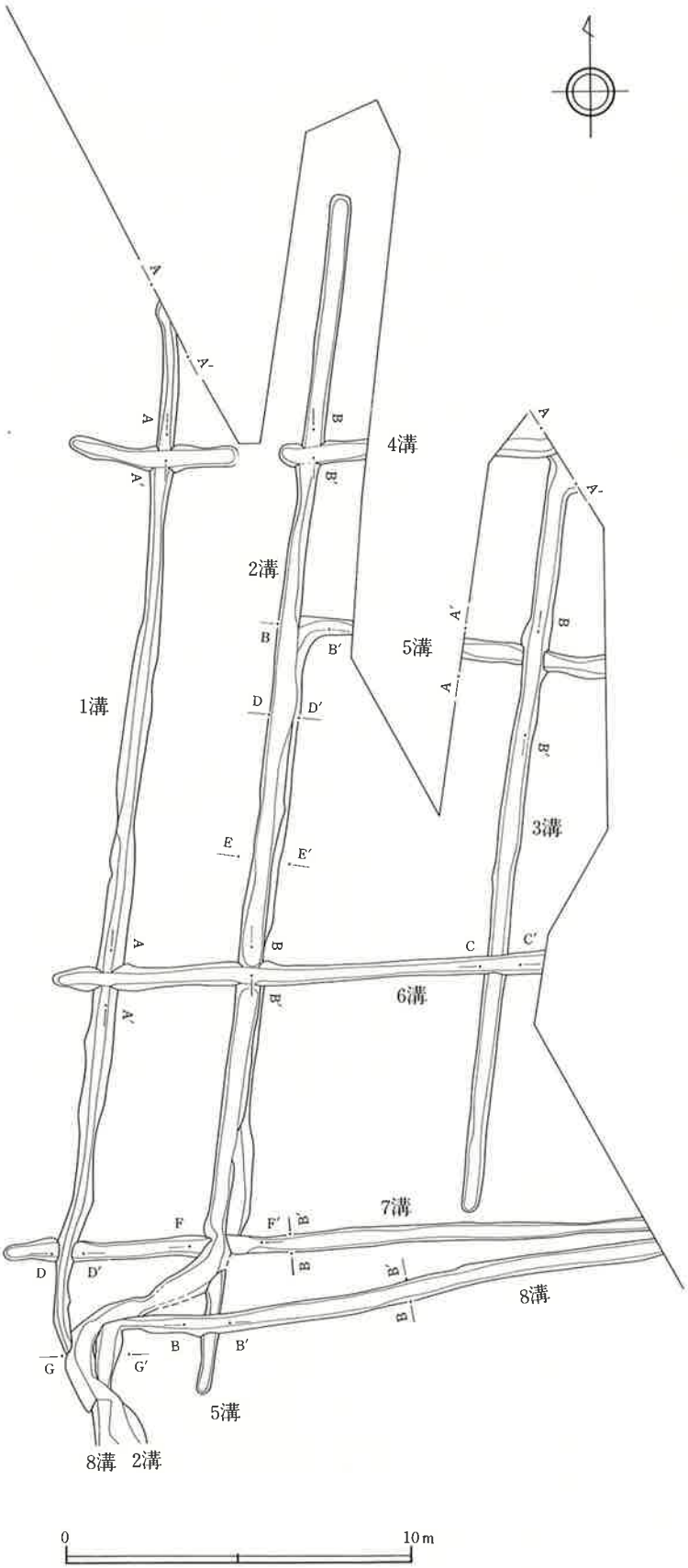
時期　近世以降と思われる。

3号溝跡(第133·135図)

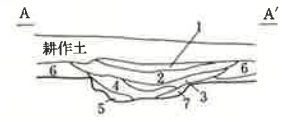
位置　調査区北端、22－Jグリッドから南西端の21－Jグリッドにかけて検出された。北端は調査区外へ延び、南端は7号溝跡と接する直前で止まる。4·5·6号溝跡に切られる。

形状　全長22ｍ以上を測る。走向は直線的に南走する。比較的浅く、底面はやや丸味を帯び、壁はやや外に開き気味であるが、もともとは1号溝跡と同様の形状と判断される。確認幅は平均30cm、底幅は平均20cm、深さ20～40cm程を測る。

覆土　ローム粒·ロームブロックを含む褐色土を主体とした自然堆積である。



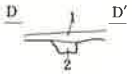
LH=310.500



1号溝Aｾｸｼｮﾝ

第 1層　黒褐色土。Hr-FA粒を少量含む。やや砂質。
第 2層　暗灰黄色土。砂質。Hr-FA粒を多く含む。
第 3層　暗褐色土。砂層。
第 4層　暗褐色土。砂質。ﾛｰﾑ土を少量含む。
第 5層　褐色土。ﾛｰﾑ粒を多く含む。
第 6層　黒褐色土。Hr-FA粒を含む。
第 7層　黄褐色土。ﾛｰﾑ土(地山)。

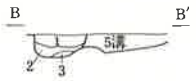
LH=308.600



1号溝Dｾｸｼｮﾝ

第 1層　7号溝Bと共通。
第 2層　黒褐色土。砂層。ﾛｰﾑ粒をわずか含む。

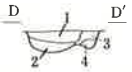
LH=309.600



2号溝Bｾｸｼｮﾝ

第 1層　暗褐色土。Hr-FA粒、淡色黒ﾎﾞｸ土?ﾌﾞﾛｯｸを少量含む。
第 2層　黒褐色土。Hr-FA粒をわずか含む。
第 3層　暗褐色土。ﾛｰﾑ粒を含む。

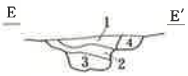
LH=309.500



2号溝Dｾｸｼｮﾝ

第 1層　暗灰褐色土。砂質。Hr-FA粗粒を含む。ﾛｰﾑ小ﾌﾞﾛｯｸを少量含む。
第 2層　暗褐色土。やや砂質。ﾛｰﾑ小ﾌﾞﾛｯｸ・粒を含む。
第 3層　暗褐色土。ﾛｰﾑ粒を少量含む。5号溝。
第 4層　暗黄褐色土。ﾛｰﾑﾌﾞﾛｯｸを多く含む。

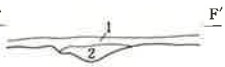
LH=309.400



2号溝Eｾｸｼｮﾝ

第 1層　暗褐色土。Hr-FA粒をわずか含む。ﾛｰﾑﾌﾞﾛｯｸを含む。
第 2層　黒褐色土。ﾛｰﾑﾌﾞﾛｯｸを多く含む。
第 3層　黒褐色土。ﾛｰﾑﾌﾞﾛｯｸ・粒を含む。
第 4層　褐色土。ﾛｰﾑ小ﾌﾞﾛｯｸ・粒を多く含む。

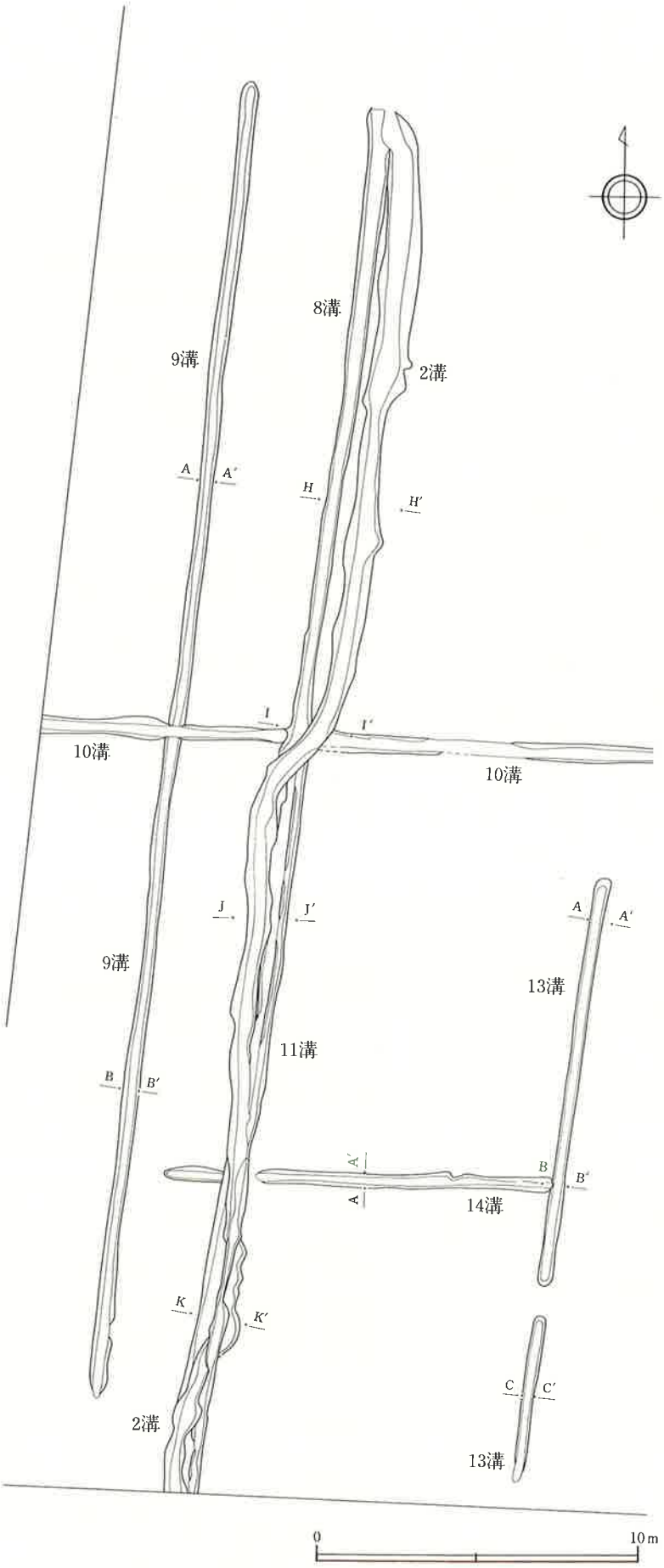
LH=308.800



2号溝Fｾｸｼｮﾝ

第 1層　暗褐色土。やや砂質。FA粒・ﾛｰﾑ小ﾌﾞﾛｯｸを少量含む。7号溝。
第 2層　褐色土。締っている。ﾛｰﾑﾌﾞﾛｯｸを多く含む。Hr-FA粗粒を少量含む。

第133図　溝跡(1)

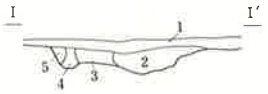


LH=307.900

2号溝Hｾｸｼｮﾝ

第 1層　黒色土。Hr-FA粒をわずか含む。8号溝。
第 2層　黒褐色土。ﾛｰﾑ粒を含む。8号溝。
第 3層　暗褐色土。砂質。ﾛｰﾑﾌﾞﾛｯｸ・粒を少量含む。
第 4層　褐色土。ﾛｰﾑﾌﾞﾛｯｸを多く含む。人為的埋土。

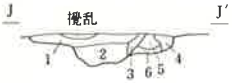
LH=307.500



2号溝Iｾｸｼｮﾝ

第 1層　暗褐色土。やや砂質。Hr-FA・ﾛｰﾑ粒を少量含む。10号溝。
第 2層　暗灰褐色土。砂質。ﾛｰﾑ小ﾌﾞﾛｯｸ・粒を少量含む。
第 3層　暗褐色土。ﾛｰﾑ小ﾌﾞﾛｯｸを含む。8号溝?
第 4層　黒褐色土。ﾛｰﾑﾌﾞﾛｯｸを多く含む。8号溝?
第 5層　淡色黒ﾎﾞｸ土?。

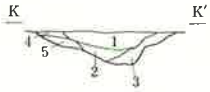
LH=307.100



2号溝Jｾｸｼｮﾝ

第 1層　黒褐色土。Hr-FA粒を少量含む。
第 2層　暗灰褐色土。砂質。ﾛｰﾑ粒をわずか含む。
第 3層　暗褐色土。やや砂質。Hr-FA・ﾛｰﾑ粒を含む。
第 4層　黒褐色土。やや砂質。Hr-FA・ﾛｰﾑ粒を少量含む11号溝。
第 5層　暗褐色土。Hr-FA粒・ﾛｰﾑ粗粒を含む。8号溝。
第 6層　暗黄褐色土。ﾛｰﾑﾌﾞﾛｯｸを多く含む。8号溝。

LH=306.200



2号溝Kｾｸｼｮﾝ

第 1層　黒褐色土。ﾛｰﾑﾌﾞﾛｯｸを含む。
第 2層　暗褐色土。やや砂質。ﾛｰﾑ小ﾌﾞﾛｯｸ・粒を含む。
第 3層　暗灰褐色土。砂質。部分的に砂層あり。ﾛｰﾑ粒を少量含む。
第 4層　黒褐色土。Hr-FA・ﾛｰﾑ粒を含む。
第 5層　暗褐色土。砂質。ﾛｰﾑ粒を含む。

0　2m

第134図　溝跡(2)

遺物　出土遺物はない。

時期　近世以降と思われる。

4号溝跡(第133·135図)

位置　調査区北端22ーJグリッドに検出された。東は調査区外へ延び、西端は1号溝跡と交叉した地点から2m程延びて止まる。1·2·3号溝跡と直交し、これを切る。

形状　全長14m以上を測る。調査区北端の3号溝跡と接する地点から直線的に西走するが、2号溝跡と交叉した地点で一旦途切れている。断面形態は1号溝跡と同様である。確認幅は平均30cm、底幅は平均20cm、深さは平均20cm程を測る。

覆土　ロームブロックを含む褐色土を主体とした自然堆積である。

遺物　出土遺物はない。

時期　近世以降と思われる。

5号溝跡(第133·135図)

位置　調査区北寄り、21ーJグリッドに検出された。4号溝跡の南5m程を平行に走り、2号溝跡と合流する地点から南へ直角に曲り、8号溝跡と交叉した地点から南へ2m程で止まる。東端は調査区外へ延びている。6·7·8号溝跡と直交する。3·8号溝跡を切る。2·6·7号溝跡に切られる。

形状　全長31m以上を測る。調査区北寄りを直線的に西走し、2号溝跡と合流する地点から南へ直角に曲り、2号溝跡の東側に重なり直線的に南走する。断面形態は1号溝跡と同様である。確認幅は平均30cm、底幅は平均20cm、深さは平均20cm程を測る。

覆土　Hr-FA·ローム粒を含む砂質の黒褐色土を主体とした自然堆積である。

遺物　出土遺物はない。

時期　近世以降と思われる。

6号溝跡(第133·135図)

位置　調査区北寄り、21ーJグリッドに検出された。4号溝跡の南14mを平行に走り、1号溝跡と合流した地点から1m程延びて止まる。東端は調査区外へ延びている。1·2·3号溝跡と直交し、これを切る。

形状　全長14m以上を測る。走向は直線的に西走する。断面形態は1号溝跡と同様である。確認幅は平均30cm、底幅は平均20cm、深さは平均20cm程を測る。

覆土　Hr-FA·ローム粒·ローム小ブロックを含む砂質の暗褐色土を主体とした自然堆積である。

遺物　出土遺物はない。

時期　近世以降と思われる。

7号溝跡(第133·135図)

位置　調査区中央部北寄り、21ーJグリッドに検出された。6号溝跡の南7m程を平行に走り、1号溝跡と合流した地点から1m程延びて止まる。東端は調査区外へ延びている。1·2·5号溝跡と直交し、これを切る。

形状　全長18m以上を測る。走向は直線的に西走する。断面形態は1号溝跡と同様である。確認幅は平均

30cm、底幅は平均20cm、深さは平均15cm程を測る。

覆土　ローム粒·ローム小ブロックを含む砂質の暗褐色土を主体とした自然堆積である。

遺物　出土遺物はない。

時期　近世以降と思われる。

8号溝跡(第133·134·135図)

位置　調査区西端部に位置し、21－Jグリッドから19－Kにかけて検出された。7号溝跡と平行に走り、2号溝跡と合流した地点で南へ直角に曲り、2号溝跡と同じ走向をとる。東端は調査区外へ延びている。1·2号溝跡に切られる。

形状　全長60ｍ以上を測る。走向は直線的に西走し、調査区北西部で直角に曲がり直線的に南走する。断面形態は1号溝跡と同様である。確認幅は平均30cm、底幅は平均20cm、深さは平均20cm程を測る。

覆土　ローム粒·ロームブロックを含む砂質の暗褐色土を主体とした自然堆積である。

遺物　出土遺物はない。

時期　近世以降と思われる。

9号溝跡(第134·137図、第46表)

位置　調査区中央部北東寄りから南西部に位置し、20－Kグリッドから19－Kにかけて検出された。1号井戸跡の南から2号溝跡の西3ｍ程を平行に直線的に南走し、調査区南端で止まる。

形状　全長41ｍ以上を測る。走向は直線的に南走する。断面形態は1号溝跡と同様である。確認幅は平均20cm、底幅は平均10cm、深さは平均10cm程を測る。

覆土　ローム粒·ロームブロックを含む黒褐色土を主体とした自然堆積である。

遺物　近世陶器が1片出土した。

時期　近世以降と思われる。

１０号溝跡(第136図)

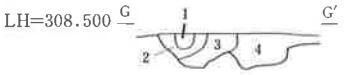
位置　調査区中央部に位置し、20－Jグリッドから20－Kにかけて検出された。調査区を東西に横断するように直線的な走向を示す。西端共調査区外へ延びる。2·8号溝跡と直交し、これを切る。

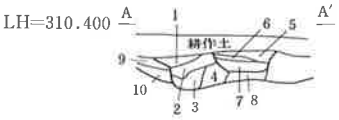
形状　全長45ｍ以上を測る。走向は直線的であるが、途中1箇所が途切れている。断面形態は浅くはっきりとしないが、1号溝跡と同様であろう。確認幅は平均25cm、底幅は平均18cm、深さは平均7cm程を測る。

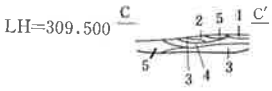
覆土　ローム粒を含む暗褐色土を主体とした自然堆積である。

遺物　出土遺物はない。

時期　近世以降と思われる。

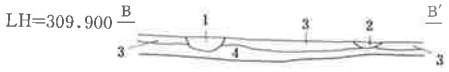






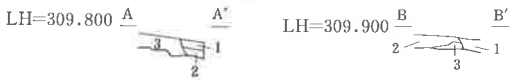
2号溝Gｾｸｼｮﾝ
第 1層　黒褐色土。Hr-FA･ﾛｰﾑ粒を少量含む。1号溝。
第 2層　暗褐色土。やや砂質。Hr-FA粗粒･ﾛｰﾑ粒を少量含む。
第 3層　暗灰褐色土。砂質。部分的に砂層あり。ﾛｰﾑ小ﾌﾞﾛｯｸを含む。
第 4層　暗灰褐色土。やや砂質。ﾛｰﾑﾌﾞﾛｯｸを多く含む。人為的埋土。8号溝。

3号溝Aｾｸｼｮﾝ
第 1層　褐色土。ｿﾌﾄ。ﾛｰﾑ粒を含む。
第 2層　暗褐色土。Hr-FA･ﾛｰﾑ粒を少量含む。
第 3層　褐色土。ﾛｰﾑ小ﾌﾞﾛｯｸ･粒を含む。
第 4層　褐色土。ﾛｰﾑﾌﾞﾛｯｸを多く含む。Hr-FA粒をわずか含む。
第 5層　暗褐色土。やや砂質。ﾛｰﾑ粒をわずか含む。
第 6層　暗灰褐色土。砂質。
第 7層　褐色土。やや砂質。ﾛｰﾑﾌﾞﾛｯｸを多く含む。
第 8層　暗褐色土。ｿﾌﾄ。ﾛｰﾑ粒を少量含む。
第 9層　暗褐色土。ﾛｰﾑ粒を含む。地山。
第10層　暗黄褐色土。淡色黒ﾎﾞｸ土?。



3号溝Bｾｸｼｮﾝ
第 1層　暗褐色土。ﾛｰﾑ粒を少量含む。5号溝。
第 2層　黒褐色土。Hr-FA粒を含む。
第 3層　褐色土。ﾛｰﾑﾌﾞﾛｯｸを多く含む。
第 4層　暗色褐土。ﾛｰﾑﾌﾞﾛｯｸ･粒を含む。

3号溝Cｾｸｼｮﾝ
第 1層　黒褐色土。ﾛｰﾑ粒を少量含む。
第 2層　黄褐色土。ほとんどﾛｰﾑ小ﾌﾞﾛｯｸ。
第 3層　黒色土。ﾛｰﾑ粒、Hr-FA粒をわずか含む。
第 4層　暗黄褐色土。ﾛｰﾑ小ﾌﾞﾛｯｸ･粒を多く含む。
第 5層　暗褐色土。ﾛｰﾑﾌﾞﾛｯｸ･粒を含む。

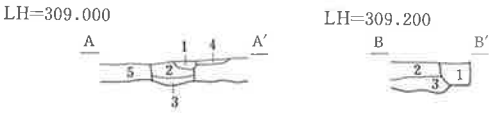


4号溝Aｾｸｼｮﾝ
第 1層　暗褐色土。Hr-FA粒を少量含む。
第 2層　褐色土。ﾛｰﾑ小ﾌﾞﾛｯｸ･粒を多く含む。
第 3層　暗褐色土。やや砂質。ﾛｰﾑ粒を含む。1号溝。

4号溝Bｾｸｼｮﾝ
第 1層　褐色土。ﾛｰﾑﾌﾞﾛｯｸを多く含む。4号溝。
第 2層　暗褐色土。やや砂質。ﾛｰﾑ粒を少量含む。2号溝。
第 3層　褐色土。やや砂質。ﾛｰﾑﾌﾞﾛｯｸを多く含む。2号溝。

5号溝Aｾｸｼｮﾝ
第 1層　暗褐色土。砂質。ﾛｰﾑ粒をわずか含む。
第 2層　褐色土。Hr-FA･ﾛｰﾑ粒を含む。
第 3層　黒褐色土。FA･ﾛｰﾑ粒を少量含む。
第 4層　暗黄褐色土。淡色黒ﾎﾞｸ土。

5号溝Bｾｸｼｮﾝ
第 1層　黒褐色土。砂質。Hr-FA粒を少量含む。
第 2層　暗褐色土。ﾛｰﾑﾌﾞﾛｯｸ･粒を多く含む。8号溝。



7号溝　　8号溝

6号溝Aｾｸｼｮﾝ
第 1層　黒色土。Hr-FA粒を含む。
第 2層　暗褐色土。Hr-FA粗粒を含む。
第 3層　黒褐色土。ﾛｰﾑ小ﾌﾞﾛｯｸを含む。
第 4層　暗褐色土。Hr-FA粒を少量含む。
第 5層　暗灰褐色土。砂層。ﾛｰﾑ粒を少量含む。1号溝覆土。

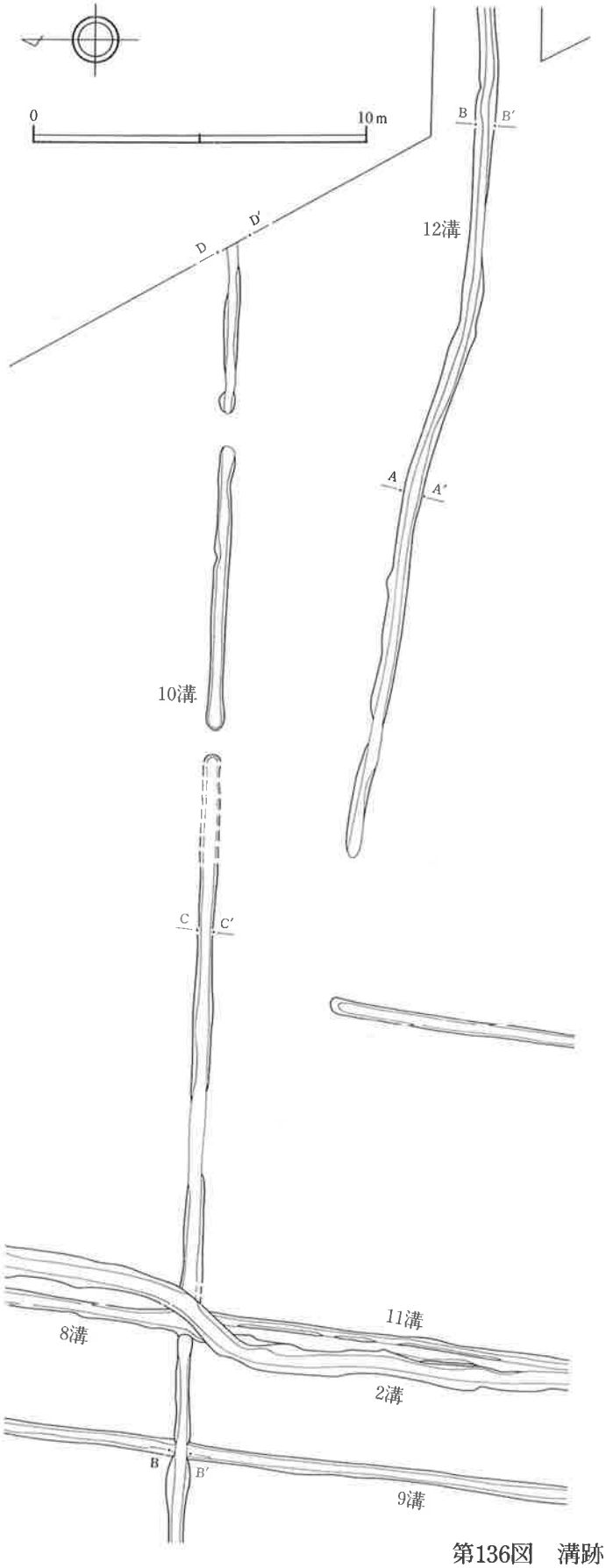
6号溝Bｾｸｼｮﾝ
第 1層　暗灰褐色土。砂質。Hr-FA粗粒ﾛｰﾑ小ﾌﾞﾛｯｸを少量含む。
第 2層　暗褐色土。やや砂質。Hr-FA粗粒を少量含む。ﾛｰﾑ粒をわずか含む。
第 3層　黒褐色土。やや砂質。ﾛｰﾑ小ﾌﾞﾛｯｸ･粒を少量含む。

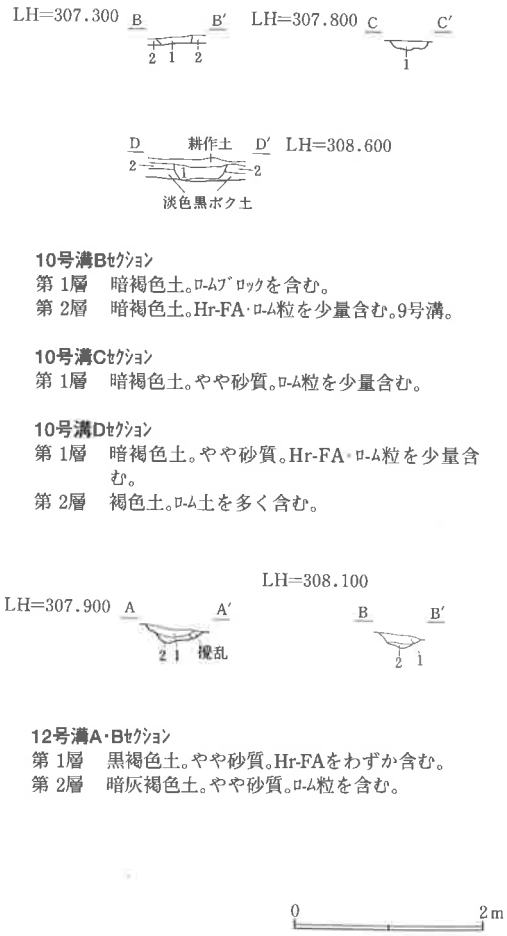
7号溝Bｾｸｼｮﾝ
第 1層　暗褐色土。砂質。ﾛｰﾑ小ﾌﾞﾛｯｸを含む。

8号溝Bｾｸｼｮﾝ
第 1層　黒褐色土。砂質。ﾛｰﾑ粒を少量含む。
第 2層　暗褐色土。ﾛｰﾑﾌﾞﾛｯｸ･粒を多く含む。

0　　2m

第135図　溝跡(3)





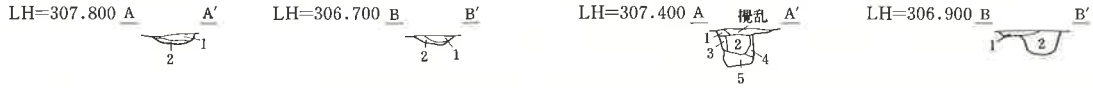
10号溝Bｾｸｼｮﾝ
第 1層　暗褐色土。ﾛｰﾑﾌﾞﾛｯｸを含む。
第 2層　暗褐色土。Hr-FA･ﾛｰﾑ粒を少量含む。9号溝。

10号溝Cｾｸｼｮﾝ
第 1層　暗褐色土。やや砂質。ﾛｰﾑ粒を少量含む。

10号溝Dｾｸｼｮﾝ
第 1層　暗褐色土。やや砂質。Hr-FA･ﾛｰﾑ粒を少量含む。
第 2層　褐色土。ﾛｰﾑ土を多く含む。

12号溝A･Bｾｸｼｮﾝ
第 1層　黒褐色土。やや砂質。Hr-FAをわずか含む。
第 2層　暗灰褐色土。やや砂質。ﾛｰﾑ粒を含む。

第136図　溝跡(4)

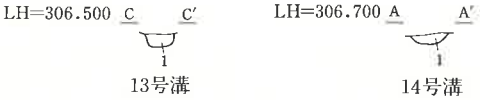


9号溝Aｾｸｼｮﾝ
第 1層　黒褐色土。Hr-FA･ﾛｰﾑ粒を含む。
第 2層　黒褐色土。ﾛｰﾑ小ﾌﾞﾛｯｸ･粒を少量含む。

9号溝Bｾｸｼｮﾝ
第 1層　暗褐色土。ﾛｰﾑ小ﾌﾞﾛｯｸ･粒を少量含む。
第 2層　黒褐色土。砂質。ﾛｰﾑ粒をわずか含む。

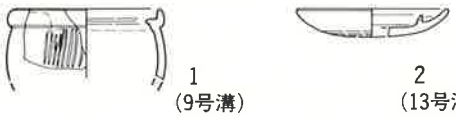
13号溝Aｾｸｼｮﾝ
第 1層　暗褐色土。淡色黒ﾎﾞｸ土?ﾌﾞﾛｯｸを含む。14号溝。
第 2層　黒褐色土。砂質。Hr-FA･ﾛｰﾑ粒をわずか含む。
第 3層　褐色土。ﾛｰﾑ小ﾌﾞﾛｯｸを多く含む。
第 4層　暗褐色土。やや砂質。ﾛｰﾑ小ﾌﾞﾛｯｸ･粒を少量含む。
第 5層　黒褐色土。やや砂質。Hr-FAをわずか含む

13号溝Bｾｸｼｮﾝ
第 1層　暗褐色土。砂質。淡色黒ﾎﾞｸ土?ﾌﾞﾛｯｸをわずか含む。
14号溝。
第 2層　暗褐色土。やや砂質。淡色黒ﾎﾞｸ土?ﾌﾞﾛｯｸを多く含む。
Hr-FAを少量含む。



13号溝Cｾｸｼｮﾝ
第 1層　暗褐色土。やや砂質。ﾛｰﾑ粒をわずか含む。

14号溝Aｾｸｼｮﾝ
第 1層　暗褐色土。淡色黒ﾎﾞｸ土?ﾌﾞﾛｯｸを多く含む。



第137図　溝跡(5)/出土遺物

第46表　溝跡出土遺物観察表

番号	器　種	出土状態 残存状態	法量(cm)	胎土・色調	器形・成・整形の特徴	備　考
1	急須？ 陶　器	9号溝 覆土 口縁部破片	口：(8.3) 底：—— 高：——	微細砂粒 暗赤褐色	体部は内湾し、口縁部は直立する。口唇部には蓋受けを持つ。外面飛び鉋。 ロクロ整形。口縁部以外に鉄釉。	益子焼？
2	灯明皿 陶　器	13号溝 底面 1/6	口：(8.1) 底：—— 高：(1.4)	微細砂粒 暗褐色	丸底気味の底部から口縁部は緩やかに内湾外傾する。内面に小さな仕切を持つ。ロクロ整形。内外面に薄く鉄釉。底部外面に重焼き痕が残る。	

１１号溝跡(第134図)

位置　調査区南西部、20－Kから19－Kグリッドに位置する。2･8号溝跡と重複、同一走向をとり、10号溝跡と交差する地点から南に検出された。2･10号溝跡に切られ、8号溝跡を切る。

形状　全長23ｍ以上を測る。走向は直線的で、断面は小規模な箱掘状を成す。確認幅は平均15cm、底幅は平均10cm、深さは平均20cm程を測る。

覆土　Hr-FA･ローム粒を少量含む砂質の黒褐色土を主体とした自然堆積である。

遺物　出土遺物はない。

時期　近世以降と思われる。

１２号溝跡(第136図)

位置　調査区南西部、19－Iから19－Jグリッドにかけて検出された。10号溝跡の南をほぼ並行に走るが、僅かに蛇行する。両端共徐々に浅くなり消失する。

形状　全長28ｍ以上を測る。走向は僅かに蛇行を示し、断面は壁が大きく開くＶ字状を成す。確認幅は平均25cm、底幅は平均12cm、深さは平均15cm程を測る。

覆土　Hr-FA粒を少量含むやや砂質の黒褐色土を主体とした自然堆積である。

遺物　出土遺物はない。

時期　近世以降と思われる。

１３号溝跡(第134･137図)

位置　調査区南部、19－Jグリッドに検出された。10号溝跡の南から2号住居跡の西際を直線的に南走し、調査区南端部で止まる。14号溝跡に切られる。

形状　全長19ｍ以上を測る。走向は直線的であるが、途中1ヶ所が途切れている。検出した溝の中で最も残存状態が良好で、壁が垂直に立つ小規模な箱掘状の形態を顕著に示す。確認幅は平均20cm、底幅は平均18cm、深さは平均30cm程を測る。

覆土　ローム粒･小ブロックを含むやや砂質の暗褐色土を主体とした自然堆積である。

遺物　溝北端付近の底面より近世の灯明皿が1片出土した。

時期　近世以降と思われる。

１４号溝跡(第134･137図)

位置　調査区南部、19－Jグリッドに検出された。10号溝跡の南を平行に東走し、2号溝跡と直行する。西端は徐々に浅くなり消失する。東端は13号溝跡とＴ字状に合流し、同じ走行をとる。13号溝跡を切る。

形状　全長12ｍ以上を測る。走向は直線的で、断面形態は1号溝跡と同様である。確認幅は平均20cm、底幅は平均10cm、深さは平均10cm程を測る。

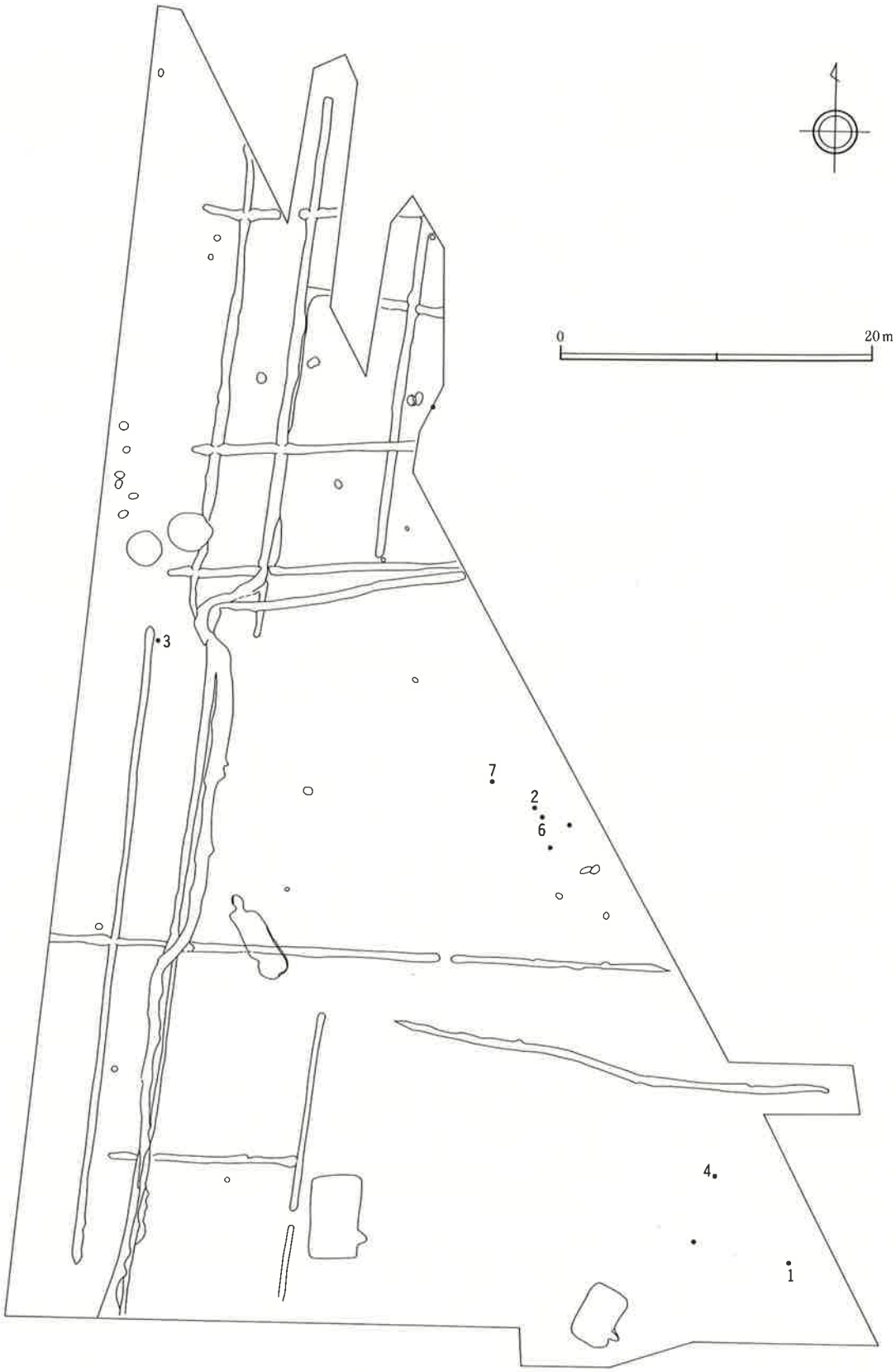
覆土　淡色黒ボク土ブロックを含む暗褐色土を主体とした自然堆積である。

遺物　出土遺物はない。

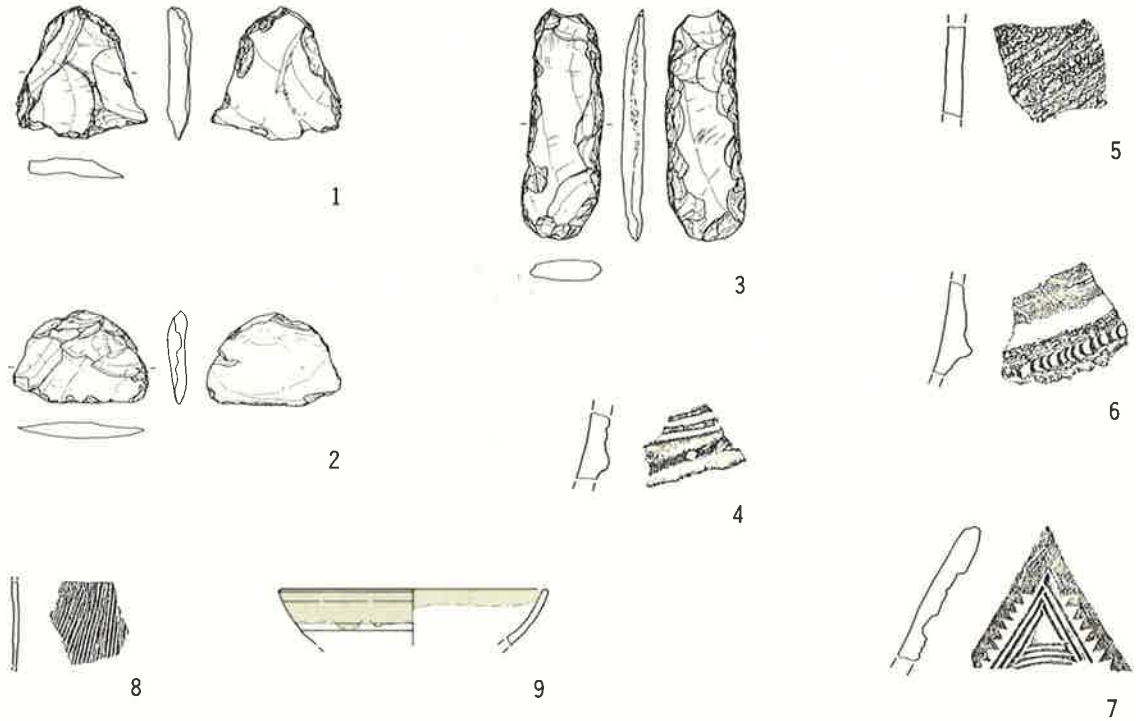
時期　近世以降と思われる。

（４）遺構外の出土遺物(第138･139図、第47表)

遺構外の出土遺物は少なく、縄文時代のものと思われる石器4点、縄文土器5片、須恵器2片、土師器2片、灰釉陶器1片が出土している。いずれも淡色黒ボク土表面(上部遺構確認面)に露出した状態で検出された。このうち縄文時代に帰属すると思われる遺物は調査区西端、トレンチ調査において検出された1号土坑の北側、2号土坑の東側に比較的まとまって出土している。縄文時代の遺構と遺物とは検出層が異なりその関係は不明であるが、いずれも調査区南東部の一定範囲に分布していることから遺構の帰属時期が遺物と一致する可能性は高いと考える。



第138図　遺構外出土遺物分布図



第139図　遺構外出土遺物

第47表　遺構外出土遺物観察表

番号	器種	出土状態 残存状態	法量(cm)	胎土・色調	器形・成・整形の特徴	備考
1	ｽｸﾚｲﾊﾟｰ	表採 完形	長：7.0 幅：6.8 厚：1.2	黒色頁岩		重さ：49.4 g
2	ｽｸﾚｲﾊﾟｰ	表採 完形	長：4.9 幅：7.0 厚：1.0	黒色頁岩		重さ：31.8 g
3	打製石斧	表採 完形	長：12.2 幅：4.1 厚：1.1	黒色頁岩	短冊型。	重さ：79.7 g
4	深鉢 縄文土器	表採 破片		粗細砂粒、雲母片 にぶい褐色	隆帯文。平行沈線文。	加曽利E式
5	深鉢 縄文土器	表採 破片		粗細砂粒、雲母片 にぶい赤褐色	縄文Lを施文。	諸磯a式
6	深鉢 縄文土器	表採 破片		粗細砂粒、雲母片 にぶい黄褐色	隆帯区画文。隆帯外縁に竹管連続刺突文。	阿玉台式
7	深鉢 縄文土器	表採 口縁破片		粗細砂粒、雲母片 外面にぶい褐色 内面にぶい赤褐色	波状口縁。三角印刻文(鋸歯状文)、平行沈線三角形文。	五領ヶ台式？
8	甕 土師器	表採 破片		細砂粒 灰黄褐色	捌け目。	石田川式
9	椀 灰釉陶器	表採 口縁部1/5	口：(14.2) 底：—— 高：——	微細砂粒 外面灰白色 内面淡黄色	口縁部は内湾気味に外傾する。 ロクロ整形。 口縁部内外面に灰釉。	

Ⅵ．まとめ

小原目遺跡(一次･二次調査)では、弥生時代を除く旧石器時代から近世にいたるまで多くの遺構･遺物が検出された。各時代ごとの概要と気付いた点を記し、まとめとしたい。

旧石器時代

遺構は検出されなかったが、ＡＴ下(暗色帯上位)にて40数点の遺物が検出された。富士見村では初の検出事例である。遺物の分布状況や出土数量からみると、本遺跡は小さな集団により、ごく短期間に営まれたキャンプサイト的性格が強いと考えられる。

縄文時代

本遺跡からは、縄文時代の住居跡7軒と土坑556基、多数のピットが検出された。遺構の大半が集中する縄文①調査区は開析台地上に位置し、周辺には樹枝状に谷地が発達している。同区はこの谷地を西に臨み、緩やかに南に傾斜している。特に、南部ではやや急勾配を呈している。縄文①調査区の西側に位置する桑畑は平坦な地形を呈し、ここにも住居跡の存在が想定された。検出された住居跡は、縄文④調査区の7号住居跡を除くと(出土遺物無し)、全て黒浜･有尾式土器を主体に伴出している。土坑出土の土器群も、遺存状況の良好なものは殆どが黒浜･有尾期の所産である。これらの土器群の一部には関山式、諸磯a･b式、大木Ⅱa式に比定されるものも混在するが、いずれも断片的な資料であり、出土量も黒浜･有尾式を凌駕しないことから直接遺構に伴うとは考え難い。従って、今回検出された縄文時代の遺構の殆どが、縄文時代前期中葉の所産と言える。

一般に縄文時代の土坑(以下、土坑)は、良好な遺物の伴出例やテフラの堆積が認められることが比較的少ない(註1)。このことは、土坑の性格付けのみならず帰属時期さえも即断できない状況を招いている。しかし、土坑も他の遺構同様、何らかの目的をもって構築されているはずである。土坑には貯蔵穴･陥し穴･墓壙･調理穴･祭祀土坑･柱列(建物)跡等の機能が存在する。狩猟･採集が食糧補給の主体を占めていた当時の社会においては、この分類が妥当性を持つと認識できる。中でも陥し穴と貯蔵穴は、食糧獲保とその保有を最優先させるという点で、生活に最も密着していたと推測される。実際、縄文土坑の多くがこれに該当している。

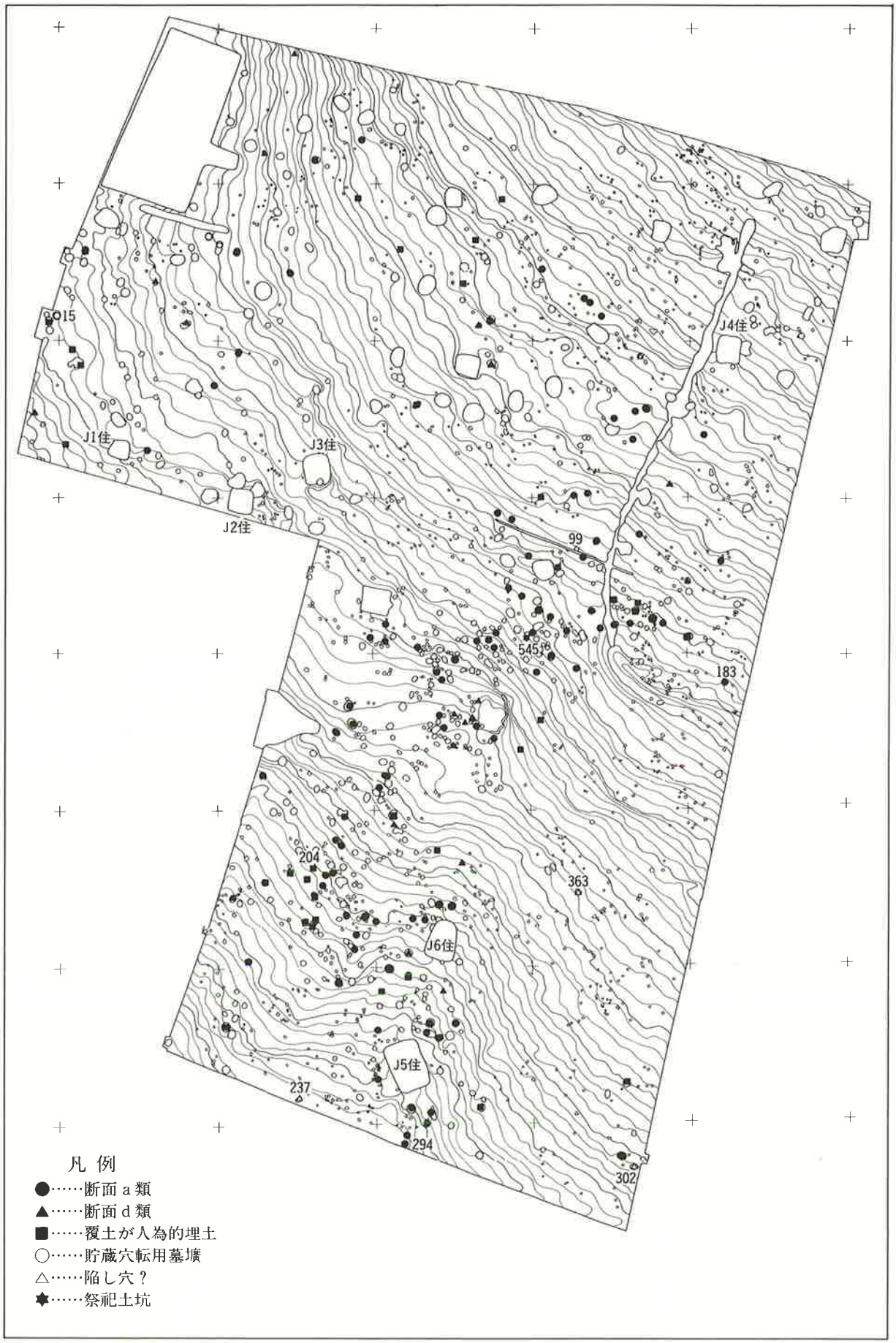
さて、この縄文土坑の分類は、伴出遺物の有無に関わらず平･断面形状を主眼とすることが多い。確かに、これには土坑の性格が反映されている可能性が高い。さらに、規模･立地･他遺構との位置(重複)関係、そして覆土の堆積状況にまで視野を広げた結果、土坑の性格付けが初めて可能となる。県内の代表例では、渋川市行幸田山遺跡･安中市大下原遺跡･勢多郡北橘村分郷八崎遺跡の調査において、個々の形態の異なる土坑の分析が試みられている(註2)。

本遺跡検出の土坑はどうであろうか。556基の土坑は実に種々の形態を呈し、全てが同じ性格を有するとは考え難い。幾つかの目的が構築の背景に存在するはずである。これを抽出するために、個々の分類を行う必要性がある。そこで、最も検出数の多い縄文①調査区を例に検討してみたい(第140図参照)。まず、前例に即し平･断面形状に主眼を置き、形態分類を試みた。

検出された土坑の平･断面の形状を以下の様に分類した。平面形状については、「不整円形･不整方形･･･」等も、全て基調を重視して「円形･方形･･･」として取り扱った。

平面･････Ⅰ円形　Ⅱ楕円形　Ⅲ方形　Ⅳ長方形　Ⅴ不整形

断面･････aフラスコ形　b逆台形　cU字形　dV字形



第140図　縄文土坑形態別分布図

次に、この平面5類、断面4類の組み合わせは以下のようになる。さらに、これに各類型ごとの検出数を併記してみる。

Ⅰa類(51基)　Ⅰb類(100基)　Ⅰc類(48基)　Ⅰd類(9基)
Ⅱa類(55基)　Ⅱb類(102基)　Ⅱc類(41基)　Ⅱd類(10基)
Ⅲa類(14基)　Ⅲb類(28基)　Ⅲc類(14基)　Ⅲd類(2基)
Ⅳa類(3基)　Ⅳb類(30基)　Ⅳc類(18基)　Ⅳd類(4基)
Ⅴa類(5基)　Ⅴb類(16基)　Ⅴc類(3基)　Ⅴd類(1基)

また、各類型において共伴遺物を出土した土坑数は次の通りである。

Ⅰa類(16基)　Ⅰb類(12基)　Ⅰc類(2基)　Ⅰd類(0基)
Ⅱa類(17基)　Ⅱb類(11基)　Ⅱc類(3基)　Ⅱd類(0基)
Ⅲa類(5基)　Ⅲb類(2基)　Ⅲc類(2基)　Ⅲd類(0基)
Ⅳa類(0基)　Ⅳb類(4基)　Ⅳc類(0基)　Ⅳd類(0基)
Ⅴa類(2基)　Ⅴb類(1基)　Ⅴc類(0基)　Ⅴd類(1基)

ここまでをまとめてみたい。検出数ではⅠb·Ⅱb類が圧倒的である。次にⅠa·Ⅱa類がそのほぼ半数の数値を示し、Ⅰc·Ⅱc類がそれをやや下回る。いずれにしても平面Ⅰ·Ⅱ類を呈すことが指摘される。興味深いのは、平面形状を問わず断面a～d類の割合がほぼ一致するという点である。例えば、b類は数的に最も多く、a類はそのほぼ半数、c類はa類以下(Ⅳc類を除く)、d類はc類を著しく下回る。遺物伴出例ではa→b→c→d類の順で減少する傾向をみせるが、a·b類が主体であり、c類がややそれを下回る点では共通している。これらのことから、現時点において、土坑の性格付けは平面より断面形状の方がある程度可能であると思われた。

比較的容易に性格付けが出来るのは断面a類である。この形態については一般に「貯蔵穴」として認識されている(註3)。その分布状況であるが、調査区北部では1～3号住居跡と4号住居跡の間に散在する。南部では5·6号住居跡周辺から西側、調査区中央やや南寄りの2カ所に集中する。従って、ここが当時の食糧貯蔵域であったと推測される。南部のa類分布域内には、b·c類が立地的に重複して位置しており、性格の関連性が指摘できる。少なくとも南部では、b·c類に該当する土坑の多くが貯蔵穴であった可能性を有す。格差はあるが、a類と同様にb·c類からも比較的良好な遺物が伴出される点も、住居群との密接な関係を想定できる。北部では、貯蔵穴に適した規模の土坑も存在するが、確証はない。また、b·c類には規模·深さが貯蔵穴の条件に附合しない土坑も含まれる。このため、b·c類の全てを「貯蔵穴」として扱うことはできない。

ここで、貯蔵穴の断面形状の違いについて若干触れてみたい。a類の場合、内部の気温·湿度はほぼ安定することが報告されている(註4)。勿論、これは貯蔵穴として最も重要な要素である。一方、b·c類はこの条件には当てはまらず、機能的にはa類の方が優位に立つ。この違いから推測されるのは食糧の貯蔵期間である。例えば、a類は長期の貯蔵に適し、貯蔵後は頻繁に食糧の取り出しを行う必要がない。a類に大型で深い土坑が多いのもこのためと思われる。一方b·c類は、貯蔵期間が短く食糧の出し入れが頻繁に行われていた日常的な貯蔵穴と考えられる。b·c類には比較的浅いものが多く、小型で密集する傾向がある。恐らく、日常性を重視した結果であろう。

ところで、d類は貯蔵穴にはやや不向きな形状である。分布状況は、貯蔵穴群の中に位置するもの、単独で位置するものが混在し、規模·深さも様々である。Ⅴd類の2·Ⅳd類の237号土坑は、狭長な平面を呈し、比

較的深い。また住居跡群からやや距離を置いて位置していることと併せて、「陥し穴」の可能性が指摘できる。形状的に類似するのが106·302·362·363号土坑(Ⅳc類)、549号土坑(Ⅳb類)である。これらは断面形状がd類に近く、上端に比べて下端が極端に狭い。さらに、狭長な平面を呈し、立地的にも237号土坑と共通している。従って、ここから陥とし穴の可能性が看取されるものである。また546号土坑は、a類の底部をさらに深く掘り窪めたことが断面形状から想定され、貯蔵穴の改造とみられる。付近には、549号土坑が位置し、本土坑周辺が貯蔵域から狩猟域へ変化したと推測される。同じ変化は、調査区南東部の302号土坑周辺にもあてはまる。これらの場合、周囲に既存の貯蔵穴が残存していたなら、陥し穴として転用した可能性も考えられる。特に断面a類は、中に落ちた動物が這い出し難い形状であり、陥とし穴としての条件も十分満たしていたのではなかろうか。

検出された「陥し穴」は、規模では長さ0.8～1m、深さ0.6～0.8m程とやや小型で浅く、当時の食糧源の主体とされるシカ·イノシシ等の大型動物の捕獲には適さない。規格的な配列も示さず、住居跡から極端に大きな距離は隔てていない。動物の習性を考えた場合、大型動物は人里からやや離れた場所に生息域を構え、小型動物はむしろ人里寄りに生息する。以上から、これらの陥し穴は小型動物を対象としていたと捉えられる。このことは、土坑底面に逆茂木を埋設した痕跡もなく、その構造が簡素であることからも推測される。

ここで視点を変えてみたい。土坑の一部には、人為的に埋められているものが存在する。15·26·77·83·138·139·153·202·204·207·208·218·226～228·290·487号土坑等がそれである。26·153·207号土坑はⅠa類、204号土坑はⅠb類、138·208·290号土坑はⅠc類、15·202·218·226号土坑はⅡa類、77号土坑はⅡb類、83·227号土坑はⅡc類、228号土坑はⅢa類、139号土坑はⅣc類、487号土坑はⅤd類にそれぞれ比定される。中でも15·138·204号土坑は、底部近くに多量の自然礫を伴っていた。また、15号土坑からは完形に近い土器が数個体まとまって出土している。立地的には15号土坑が北部の遺構群の外縁付近、138·204号土坑が南部の遺構群外縁に位置し、意図的に住居から離れた位置を選択している感がある。この3基は墓壙としての性格が強く伺えるが、全て単独で位置しており、特定の墓域を形成するものではない。尚、15号土坑については、断面形状から貯蔵穴の転用も考えられた。残りの14基については墓壙として比定し得る積極的な根拠は認められない。殆どが貯蔵穴群内に位置しており、少なくとも構築当時は貯蔵穴としての役割を果たしていたと考えられる。可能性としては、貯蔵穴を新規に構築した際に埋め戻された既存の貯蔵穴であったと捉えられる。26号土坑からは比較的豊富な遺物が出土しているが、全てが断片的な資料であり、墓壙的性格を有する15号土坑の出土遺物とは格差が認められる。恐らく、埋め戻しと同時に使用不能になった土器を廃棄したものであろう。

Ⅰa類に属す524号土坑からは完形の深鉢が1点出土している。この深鉢は、文様が他の土器群と大きく異なり、県内では稀少例である。日常的な煮沸具とは切り離して考えられるものである。また、深鉢は覆土の上層から出土しており、意図的に破砕されたような状況を呈していた。以上から考えると、本土坑には祭祀的な性格が強く伺えるものである。位置的には調査区中央寄りの貯蔵穴密集域のほぼ中央から検出されており、豊饒祭祀の形態の一つとして捉えたい。

小型土坑の中には、柱穴状を呈するものも存在する。3·29·37·64·80·97·133·168·174·278·286·289·309·350·351·365·386·388·393·407·412·430·433·439·461·498号土坑が挙げられる。図面操作から柱列·建物跡の抽出を試みてみたものの、規格的な配列は認められなかった。貯蔵穴群内に位置するものが多く、両者の関連性が指摘されたが、その性格は不明と言える。

ここまで土坑の性格について、可能な限りの検討を試みてきた。住居跡群との関係についても若干触れて

みたい。

縄文①調査区の住居跡群は、一見すると環状·馬蹄形集落の範疇で捉えられそうである。しかし3·6号住居跡間は距離的にかなり離れている。また、1～4号住居跡は構造的に簡素であるが、5·6号住居跡は壁溝と多数の壁柱穴·支柱穴を伴う。さらに建て替えの痕跡が認められたのも5·6号住居跡のみである。つまり、調査区の北部と南部とでは住居形態に大きな差異が認められる。これに土坑群の分布状態を加えてみたい。土坑は、調査区北部では疎らに散在する。南部では半弧状に分布し、その密度は濃い。特に5·6号住居跡の西側と、調査区中央寄りに顕著に密集する。調査区中央やや北寄りには土坑の希薄地が存在するが、この希薄地は調査区を南西から北東に二分する形で認められる。以上をまとめると、北部·南部の遺構群はそれぞれ別群として捉えられる。土坑の分布状況の違いは、その構築背景を異にしていたことを如述に示すものと推測される。

ここでもう一度、遺構の分布状況に注目してみたい。1～4号住居跡の分布状況はL字状を呈している。また、3·4号住居跡間にはかなりの間隔が認められる。この住居跡間から北側にかけて、土坑は散在する傾向がある。この状況は、計画的な配置とは捉え難い。むしろ、住居はやや期間をおいて単発的に構築され、それに伴って貯蔵穴を主体とする土坑が構築された結果が、散在的な状況になって現れたものと捉えたい。南部の土坑群が密集するのは、5·6号住居がほぼ同時に構築され、西側と調査区中央寄りを共有の貯蔵域として意図的に選択したためと推測される。住居に建て替えの痕跡が認められることも、構築当初には既に居住域の選択が行われていた可能性があり、居住域ー貯蔵域の区分と計画的な配置が看取される。また建て替えだけでなく、構造的に複雑かつ堅牢な住居形態から、5·6号住居跡は比較的長期にわたって使用されていたものと推測される。この間には貯蔵穴の新規構築(造り替え)が行われていたことも十分推測され、土坑の密集化はその結果であるとも言える。しかし、南部の土坑群の殆どがほぼ一斉に構築されたとするなら、住居跡の軒数と比較するとあまりにも膨大な数である。5·6号住居跡西側と調査区中央の土坑群の分布状況は、時期差による結果なのか、それとも生業の主体が採集であり、もともと大量の貯蔵穴を必要としていていたかである。前者の場合は貯蔵域の移動として捉えられ、後者の場合は貯蔵域の拡大、或いは同時配置が考えられる。5·6号住居跡から出土した石器群は、解体調理用の掻器·スクレイパー·石匙、植物調理用の磨石·凹石·石皿·敲石が普遍的であるが、狩猟具である石鏃·石槍は各1点しか出土していない。また、このうち石槍は壁溝内からの出土であり、住居構築時の混入である可能性も残る。また、これら狩猟具の製作の痕跡も認められず、その使用が頻繁であったかどうか疑わしい。従って、南部の遺構群からは、食糧確保の多くを採集行為に依存していた可能性が示唆される。

ところで、北部と南部の遺構群との先後関係はどうであろうか。1～4·5·6号住居跡の土器群は黒浜·有尾期の所産であることは前述した。有尾式土器(註5)については、近年の成果として谷藤氏が群馬県内の資料を整理し、細分·変遷についての検討を試みている(註6)。それによると、5·6号住居跡の土器群はⅡ·Ⅲ期に位置付けられる。1～4号住居跡の管見では、時期的にこれを大きく外れるものは見あたらないが、出土量は少なく、２つの遺構群の同時期性を決定付けることはできない。そこで、住居跡の形態に注目してみたい。複雑な構造を呈す5·6号住居跡は、簡素な1～4号住居跡の発展形態とすることも可能である。しかし、既に前段階の関山期には5·6号住居跡と同様の形態が出現しており(註7)、２つの異なる住居形態が、必ずしも形態的発展の軌上で捉えられないことを示している。また、両形態とも黒浜·有尾期には普遍的であり、その関係も未だ明確にされていない。しかし、本遺跡の遺構分布状況をみると北部·南部のそれは、それぞれ重複を避けるように配置された感を受ける。特に、調査区中央やや北寄りの遺構希薄地の存在、住居跡と土坑

の重複関係の少例はこれを強く示唆する。そうであるならば２つの遺構群は、同時期、或いは若干の時期差という比較的短い時間枠に納まる可能性も考えられる。同時期性で捉えるなら、それぞれが構築背景を異にしていた可能性が推測される。また、時間差を考慮するなら、南部の遺構群が形成された後に、新規参入者が外部の余地に居住域を累々と構えていった結果、或いは南部の遺構群が衰退して住民の一部が北部に居住域を転々と移動させた可能性も考えられる。何れにしても憶測の域を出ず、今後の課題としたい。

註1)　群馬県域で検出される縄文時代のテフラは、浅間ー藤岡軽石(約8,200年前)、鬼界アカホヤ火山灰(約6,300年前)、浅間ー六合軽石(約5,400年前)、浅間Ｄ軽石(約4～5,000年前)等が代表例である。しかし、遺構覆土中に純層で認められる例は概して少ない。

註2)　行幸田山遺跡では阿玉台～加曽利ＥⅠ、大下原遺跡では関山Ⅱ～五領ヶ台、分郷八崎遺跡では黒浜･有尾期の土坑についての検討が試みられている。

註3)　本文中で断面a類は「フラスコ形」と呼称しているが、「袋状」･「袋形」とも呼称される。

註4)　永瀬福男氏は実際の観測数値から、実証している。

註5)　群馬県内で出土する有尾式土器に対しては、胎土中に繊維を含む点で中部地方の有尾式土器と分離し、「有尾系土器」として長い間呼称されてきたが、現在は型式名を統一する傾向にある。

註6)　谷藤保彦氏は、群馬県内出土の有尾式土器をⅠ～Ⅳ型式に細分している。

註7)　群馬県内の縄文時代前期の住居形態については、原雅信氏が集成を試みている。

古墳時代

本遺跡では、住居跡1軒と古墳5基が検出されている。住居跡については詳細不明と言わざるをえない。また、今回の調査で検出された5基の古墳はいずれも遺存状況が悪く、良好な記録を残し得なかった。しかし、各々の位置関係からこれらは群として捉えられた。当然、調査区外にも未発見の古墳が存在している可能性があるが、この5基は占地状態より、古墳群のほぼ全体に相当するものと思われる。古墳間にはかなりの間隔が認められ、所為「群集墳」として扱い得るものではない。この点は、群が形成されるまで一定の時期を要した可能性を内包している(註8)。周辺地域に視野を広げても、古墳群の構成数は比較的少なく、県内でも群集墳の希薄地として捉えられる(註9)。

共伴遺物(副葬品)を出土したのは2･5号古墳のみであるが、中でも5号墳出土の鉄製品は7世紀末葉～8世紀前葉の所産とされる(註10)。また全ての古墳において、埴輪は破片すらも検出されておらず、その樹立は想定し難い。上毛野地域(註11)においては、埴輪の消滅は前方後円墳廃止とほぼ期を一にするものとされ、その時期は6世紀末葉～7世紀初頭を境に考えられている(註12)。従って5基の古墳は、全て7世紀代の築造とみるのが妥当である。

石室形状が良好に把握できたのは1･5号古墳のみである。しかし3･4号古墳については玄室側壁･奥壁材の多くが原位置を保っており、ある程度の復元が可能である。また、石室掘り方平面･石室平面形状がほぼ類似形になることが、2号古墳を除く4基の古墳から想定できる。さらに掘り方底面には多数の用材の抜取り痕を伴っている。以上を総括し、7世紀代には上毛野地域に導入されていた唐尺(1尺＝約30㎝)で方眼を組み、各古墳石室に重ねたものが第141図である(注13)。

同図をもとに各石室の ①玄室長･幅 ②玄室長･羨道長の比率を求めてみると、1号古墳は概ね①が2:1、②が

1:1の数値が得られた。2号古墳は①が5:4、②が5:9、4·5号古墳は①が3:2、②が2:1の数値となった。尚、3号古墳については、袖部の石材(痕跡含む)·梱石の位置が不明なことから、玄室·羨道の区分を明確にし難く、分析の対象外とした。しかし、石室全長:奥壁幅については、11:3の数値が得られ、狭長な石室であったことが伺えた。

上記の結果から、本古墳群の石室形状は様々と言える。群集墳の場合、そこに認められる石室形状の差異が直接時期差を反映しないことは石塚·鹿田両氏の分析結果(註14)からも導き出されている。しかし本古墳群の場合、群集墳とは性格的に切り離して考えるべきであることは既に述べた。むしろこの点から、石室平面形状の分析を通じて各古墳の編年を行うことが可能であると考えられる。

1号古墳の石室各比率(「以下、比率と略記」)は、6世紀末葉～7世紀初頭の巨石積石室が近い数値を示すことが多い。また、この種の石室は羨道奥幅≧前幅の平面を呈すことが多く、本古墳と共通する。従って本古墳の築造時期は、少なくとも上毛野地域の巨石積石室成立期から比較的近接していた可能性が高い。埴輪の皆無を考慮に加えると、7世紀前葉の築造が推定される(註15)。

2号古墳は、比率から平面正方形に近い玄室と、玄室長≦羨道長の点を指摘できる。この特徴は7世紀中葉～後葉の古墳に多く類例をみる(註16)。

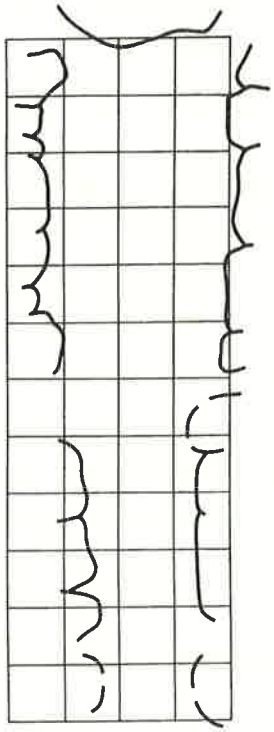
3号古墳は、袖の有無を明確にし難いが、石室が狭長である点はむしろ１号古墳に近い。同時期とは決定し難いが、比較的近接した時期の築造と推測したい。

4·5号古墳の比率は同じ数値を示す。このことから両者は比較的近接した時期の築造といえる。5号古墳副葬品は7世紀末葉～8世紀前葉の様相を呈し、群内でも最終段階に位置付けられる可能性が高い。また羨道の短小化も両者に指摘でき、これを否定するものではない(註17)。

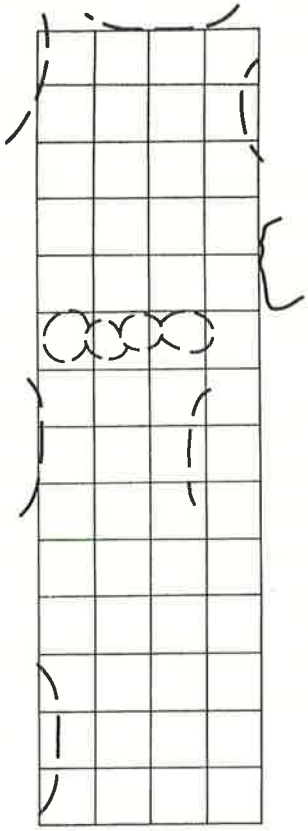
以上をまとめてみると、当地においては7世紀前葉に1号古墳、これに前後するかたちで3号古墳が築造され造墓活動が開始される。以降、7世紀中葉の2号古墳、7世紀末～8世紀初頭の4·5号古墳に至るまで継起的に古墳の築造が行われ、結果、「群」を形成した。立地的にはそれは高所から低所に向かって進められていったものと言える。

ところで、本古墳群の形成時期は古墳時代終末期に該当し、上毛野地域内において前橋市総社古墳群の歴代被葬者が屈指の勢力に成長し、地域統合を成功させていった時期でもある(註18)。同時にいわゆる「截石切組積石室墳」が小地域内に1乃至2基単位で出現し、前方後円墳廃止以降の支配体制の転換を如述に反映している(註19)。本古墳群の近隣の例では、南西約2.8㎞に位置する上庄司原4号古墳が截石切組積石室を有す。

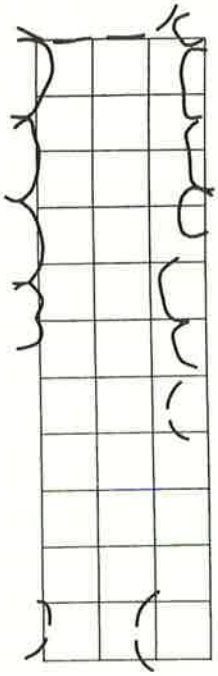
当古墳は陣場·上司原古墳群内に位置し、石材加工や石室構築の面で卓越した技術を駆使している。また、古墳群内の他の古墳も墳丘·石室いずれも比較的大型の部類に属し、6世紀末葉から台頭した小地域首長の墓所として認識されている(註20)。周辺地域では、6世紀末葉～7世紀代の有力古墳は当該地以外では今のところ確認されていない。一方、本古墳群の古墳はどれをみても墳丘·石室全てが小型の部類に属す。この明瞭な格差から、古墳を介した身分的秩序の中で、本古墳群の被葬者は陣場·上司原古墳群被葬者の従者的立場にあったとも考えられる。しかし、本古墳群中において古墳が群集せず散在的な位置関係を呈すことは、当地において造墓活動を可能にした被葬者が極めて限定されていたことを物語っている。また、群形成の初現は前方後円墳廃止後であり、当然旧来の支配体制下の所産とは言えない。本古墳群成立の背景として、新たな支配体制下における在地勢力の伸張、或いは外来的勢力の参入の2つの可能性が指摘される。さらにこれを追随するなら、6世紀末葉～7世紀代において総社古墳群勢力を頂点として行われた上毛野地域内の小地域首長の再編と、それに伴う新興勢力の台頭についても詳細に触れなくてはならない。この問題については、



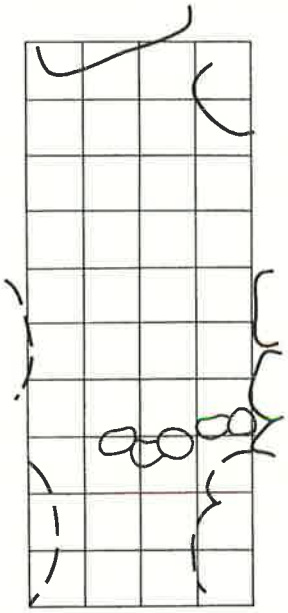
1号古墳



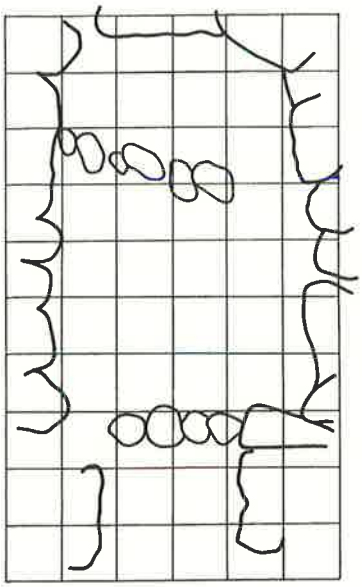
2号古墳



3号古墳



4号古墳



5号古墳

第141図　古墳石室形態図

周辺古墳のみならず同時期の集落の変遷からも検討を進めねばならず、また調査事例の増加と研究の進展により明らかにされるものと考える。

註8) 例えば群集墳の場合、同時期に複数の古墳が築造されることが多く、さらに長期にわたる同一墓域利用の結果として群が形成される。本古墳群の古墳数は概して少なく、また占地状況も疎らである。このことはむしろ集団単位ではなく、同一系譜上に全ての古墳が位置付けられる可能性を内包している。

註9) 『富士見村誌』による本村と北橘村·旧南橘村の古墳数を、古墳群数で対比させると、私見では群集墳として捉えられるものは少ない。

註10) 鉄製品の編年については、加部二生·杉山秀宏両氏の年代観に準じた。

註11) 「上毛野」とは古墳時代における群馬県地域の名称で、範囲的には多少の異同も推測されるが現在の行政区画とほぼ一致するとされている。

註12) 機内をはじめ、全国ほぼ各地で同じ動向が認められる。

註13) 7世紀代の石室構築には、新たに導入された唐尺と旧来の高麗尺(1尺＝約35㎝)が並行して使用されていた可能性が指摘されている。なお、本古墳群の石室は、遺存状況が悪いため設計企画を抽出するには不向きである。文中にも記したが、あくまで目安として唐尺方眼を併記した。

註14) 石塚久則氏の奥原古墳群、鹿田雄三氏の蟹沼東古墳群の検討による。また、藤岡一雄氏による高崎市御部入古墳群·佐波郡玉村町玉村古墳群の検討からも同様の推測が成り立つ。

註15) 県内の巨石積石室墳としては、前橋市総社二子山古墳(前方部石室)、同市総社愛宕山古墳、安中市野殿天王塚古墳、高崎市八幡観音塚古墳が大型古墳として挙げられる。その他、中小古墳にもこの種の石室は採用されているが、紙面の都合で割愛したい。

註16) 前橋市総社宝塔山古墳、北群馬郡吉岡町南下A号古墳等。これらは截石切組積石室墳であるが、玄室平面形のみに着目した場合、群集墳内の小古墳にも類例が認められる。

註17) 上毛野地域における最終末段階の石室は、羨道を省略、或いは簡略化したものが多い。また、石室規模も小型化する傾向が強い。

註18) 総社古墳群内の大型古墳の変遷は、尾崎喜左雄氏が提唱してきた二子山古墳前方部石室→愛宕山古墳→二子山古墳後円部石室→宝塔山古墳→蛇穴山古墳が通説であった。右島和夫氏は畿内の大型古墳の動向からこれを否定し、二子山古墳後円部石室→同前方部石室→(遠見山古墳)→愛宕山古墳→宝塔山古墳→蛇穴山古墳の系譜を位置付けた。この変遷はかなりの妥当性をもつと認識するが、近年、稲荷山古墳が全長90m程の前方後円墳であった可能性が木津博明氏によって提唱され、その確定と共に変遷再考の余地を残す。

註19) 註11文献による。なお、「截石」の定義については現在のところ分類基準が曖昧であり「切石」「削石」との区分が必ずしも明確ではない。本稿では、混乱を避けるため従来の名称をそのまま使用している。

註20) 陣場·上庄司原古墳群は富士見村横室に位置し、7基が調査されている。群中には角閃石安山岩削石積の石室を有す上庄司原1号古墳、自然石乱石積の石室を有し子持須恵器を伴出した同2号古墳、輝石安山岩截石使用の羨門を具備した陣場1号古墳が位置しており、上庄司原4号古墳と共に、周辺の小古墳群と比較して優勢を誇っている。

歴史時代

歴史時代に属す遺構として、本遺跡では竪穴住居跡13軒、小鍛冶2基、土坑140基、井戸跡3基、炭窯13基、溝跡33条、ピット等が検出されている。

小原目遺跡北部、一次調査区北部から二次調査区にかけて検出された住居跡の大半は、出土遺物から平安時代、10世紀前半代に属すと考えられる。一次調査区6·10·13·14号住居跡は、奈良時代8世紀代の所産と捉えられた。

一次調査区にて検出された1号小鍛冶は、8世紀代の所産と捉えられる。この鍛冶施設に付随する生活域が近接する13·14号住居跡と考えられる。二次調査区にて確認された鍛冶施設(1号住居跡)は、工房を付設する住居跡と捉えられた。本文中にて「廃棄場」とした一次調査区12号住居跡にもその可能性が示唆されるが、詳細は不明である。13基検出された炭窯の内、棍棒型や瓢箪型を呈する炭窯も、覆土等から奈良～平安時代に属すと考えられた。炭の生産に適した山間部で、多量の燃料を必要とする鍛冶施設が構築されたことは必然と考える。後代の平面羽子板状を呈する炭窯を含め、本遺跡が平野部に炭を供給する生産の場であり、奈良·平安時代には炭の他、鉄生産を生業とする集落であったと言える。

参考文献

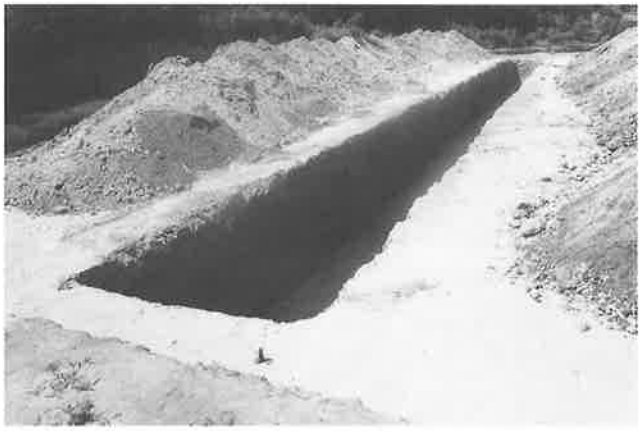
『群馬県史』資料編１、1988年
『群馬県史』資料編２、1986年
『群馬県史』資料編３、1981年
『富士見遺跡群、向吹張遺跡·岩ノ下遺跡·田中遺跡·寄居遺跡』、富士見村教育委員会1987年
『愛宕山遺跡』、富士見村教育委員会
『中山与惣平衛塚遺跡』、群馬県埋蔵文化財調査事業団1994年
『行幸田山遺跡』、渋川市教育委員会1987年
『大下原·吉田原遺跡』、安中市教育委員会1993年
『分郷八崎遺跡』、北橘村教育委員会1986年
『群馬県出土の武器·武具』、1995年
『市之関前田遺跡』、宮城村教育委員会1991年
永瀬福男「貯蔵穴」
『季刊考古学』創刊号、1982年
村田文夫「おとし穴」
『季刊考古学』創刊号、1982年
菊池　実「陥し穴群の基礎的分析を中心として」
『二後沢遺跡·卜二原Ⅱ遺跡』、1986年
谷藤保彦「縄文時代前期中葉土器群について」『神保植松遺跡』本文編Ⅱ、1997年
原　雅信「群馬県における縄文時代前期の住居形態について」
『群馬県埋蔵文化財調査事業団研究紀要』8、1991年
森田秀策「古墳について」
『富士見村誌』、1954年

右島和夫「古墳から見た六、七世紀の上野地域」
『国立歴史民俗博物館研究報告』44集、1992年
松本浩一·桜場和寿·右島和夫「截石切組積横穴式石室における構築技術上の諸問題(下)」
『群馬県史研究』13号、1981年
石塚久則「終末期古墳の石室形態」
『奥原古墳群』、1983年
鹿田雄三「赤城山南麓における群集墳成立過程の分析」
『群馬県埋蔵文化財調査事業団研究紀要』10、1992年
藤岡一雄「御部入古墳群」
『群馬県史』資料編3、1981年
藤岡一雄「玉村古墳群」
『群馬県史』資料編3、1981年
右島和夫「前橋市総社古墳群の形成課程とその画期」
『群馬県史研究』22号、1985年
右島和夫·津金澤吉茂·羽鳥政彦「截石切組横穴式石室の基礎的研究」
『群馬県史研究』33号、1991年
坂口　一『伊勢崎·東流通団地遺跡』、1982年

一次調査
写真図版

小原日遺跡調査前全景（ ━━━ 一次調査範囲 ┅┅┅ 二次調査範囲）

基本層序



旧石器試掘トレンチ

旧石器試掘トレンチ

旧石器検出状況

旧石器検出状況

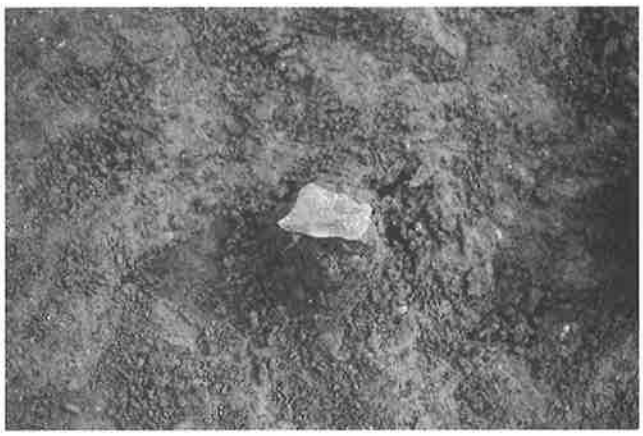
旧石器No.20検出状況

旧石器No.21検出状況

旧石器No.22検出状況

旧石器No26·29検出状況

旧石器No.32検出状況



旧石器No.36検出状況

旧石器No.37検出状況

旧石器No.39検出状況

旧石器No.40検出状況

旧石器No.41検出状況

縄文①調査区全景

縄文①調査区南部

縄文①調査区南東部

縄文①調査区中央部

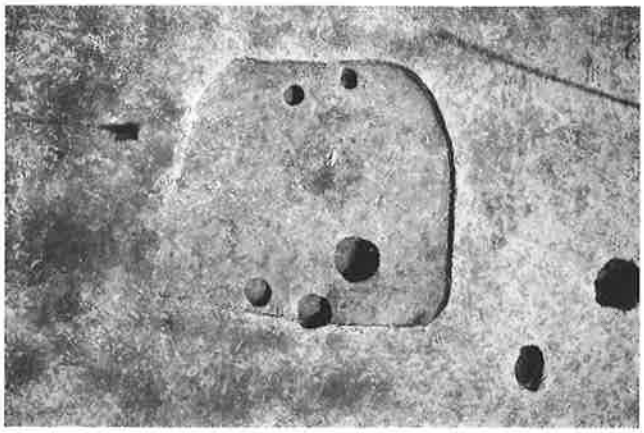
縄文①調査区北部

縄文①調査区東部

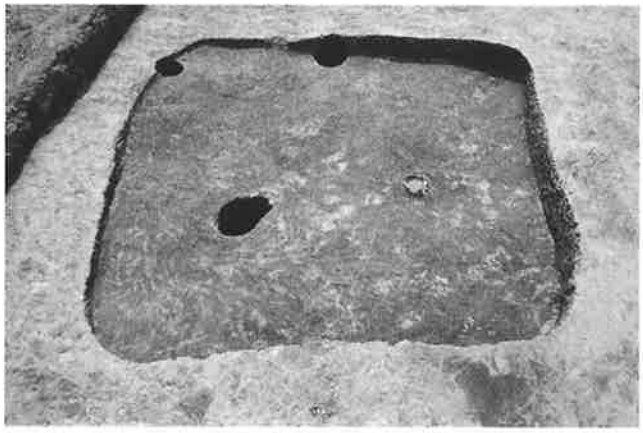
縄文①調査区中央部土坑群

縄文④調査区全景

縄文④調査区全景



縄文1号住居跡

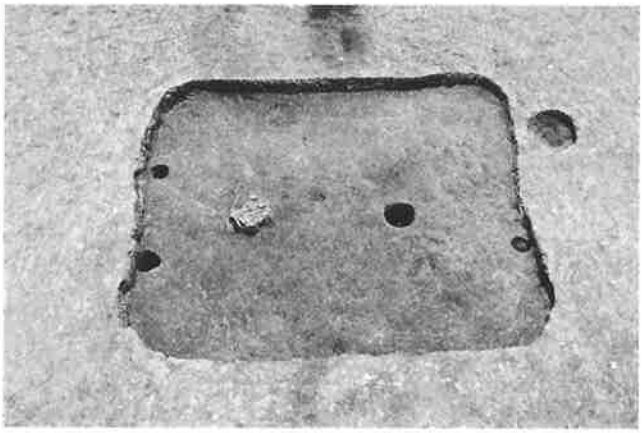


縄文2号住居跡

縄文2号住居炉跡

縄文3号住居跡

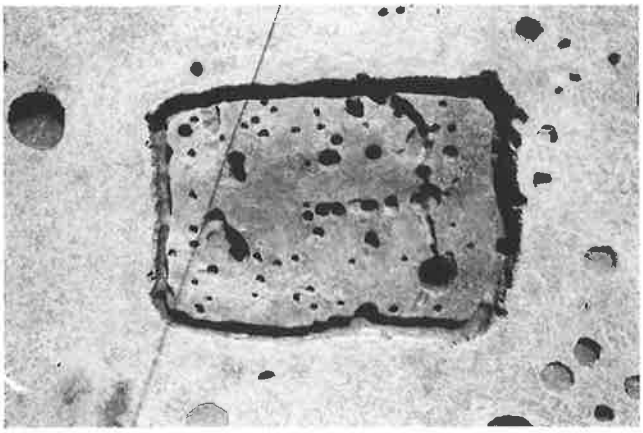
縄文4号住居跡遺物出土状況



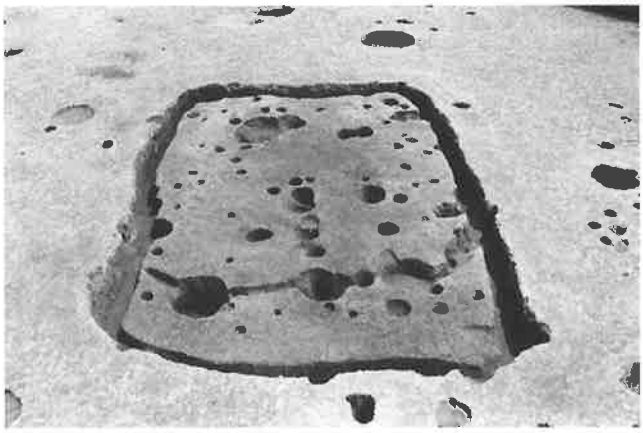
縄文4号住居跡

縄文4号住居炉跡

縄文5号住居跡遺物出土状況



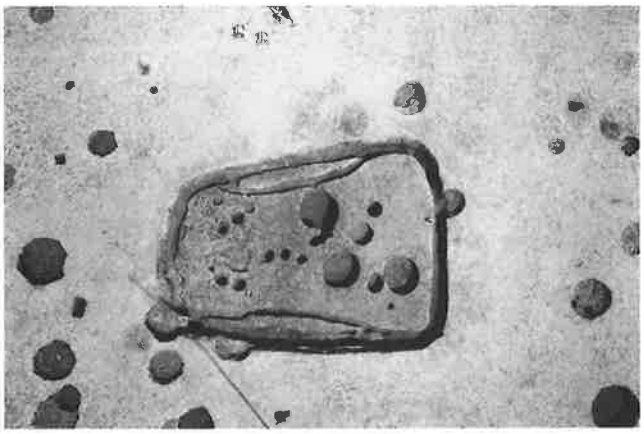
縄文5号住居跡



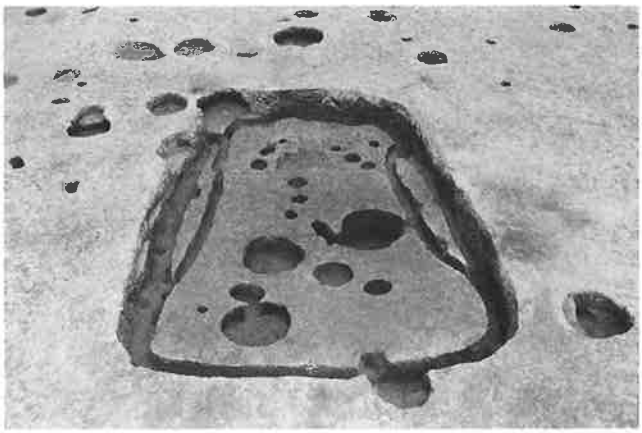
縄文5号住居跡

縄文6号住居跡遺物出土状況

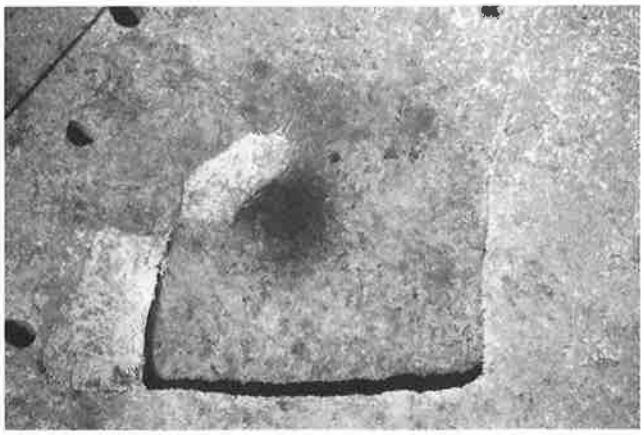
縄文6号住居跡床下土坑遺物出土状況



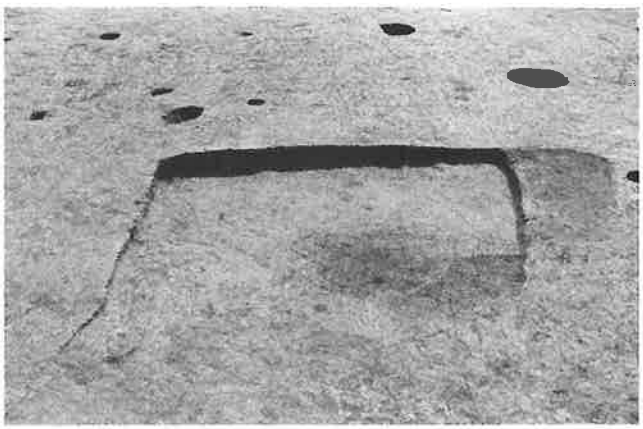
縄文6号住居跡



縄文6号住居跡



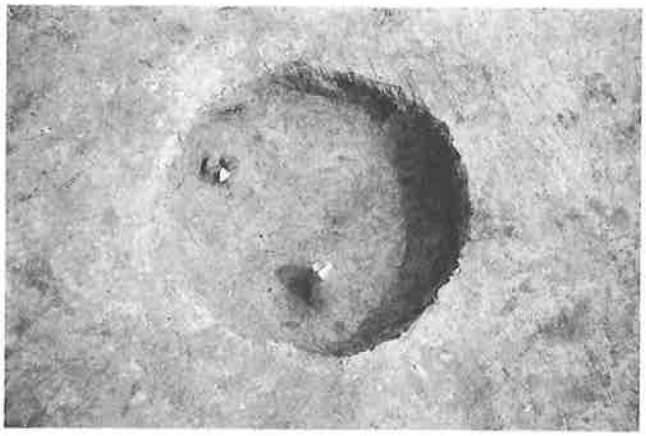
縄文7号住居跡



縄文7号住居跡

縄文1号土坑出土遺物近景

縄文2号土坑



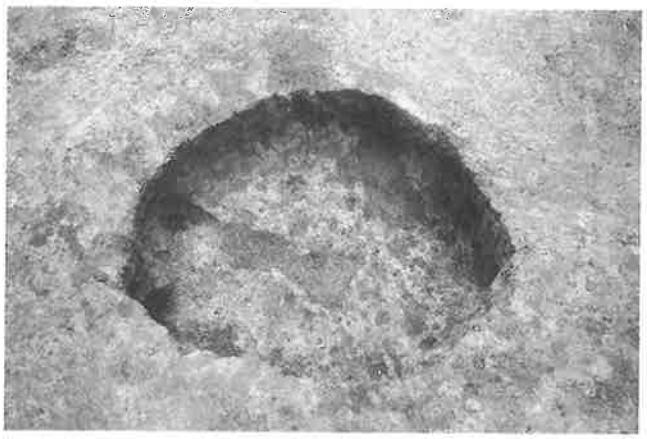
縄文5号土坑

縄文7号土坑

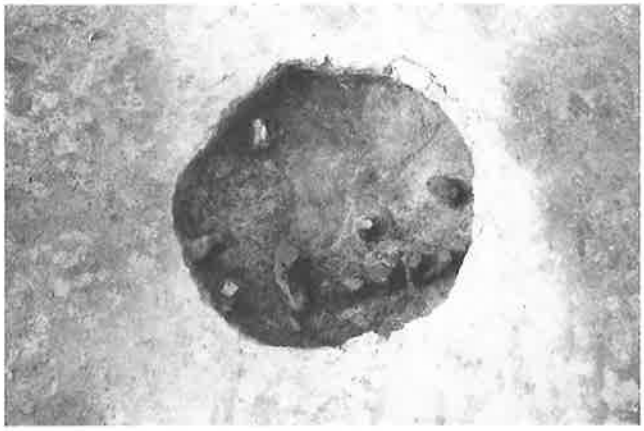
縄文7号土坑出土遺物近景

縄文8号土坑遺物出土状況

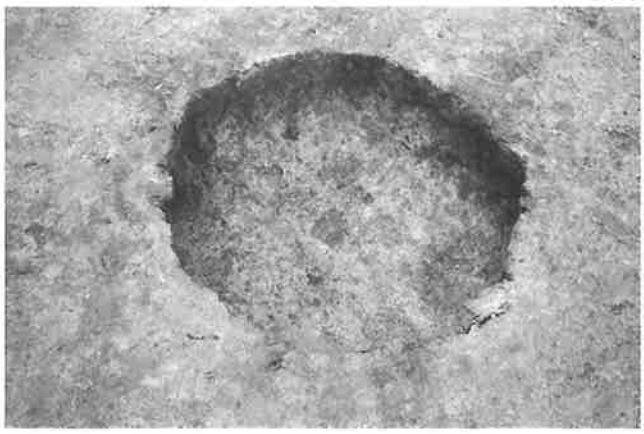
縄文10号土坑出土遺物近景



縄文10号土坑

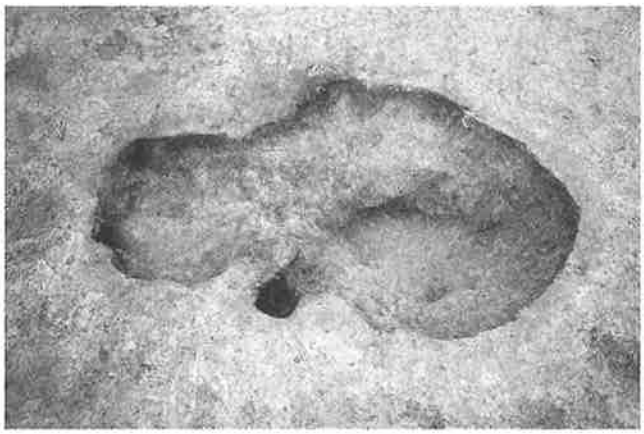


縄文11号土坑

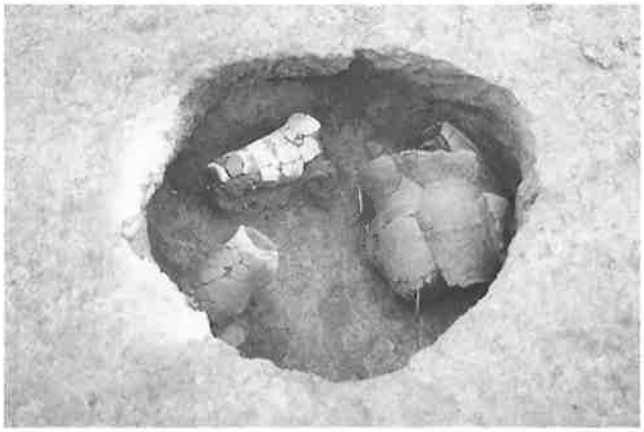


縄文12号土坑

縄文13号土坑

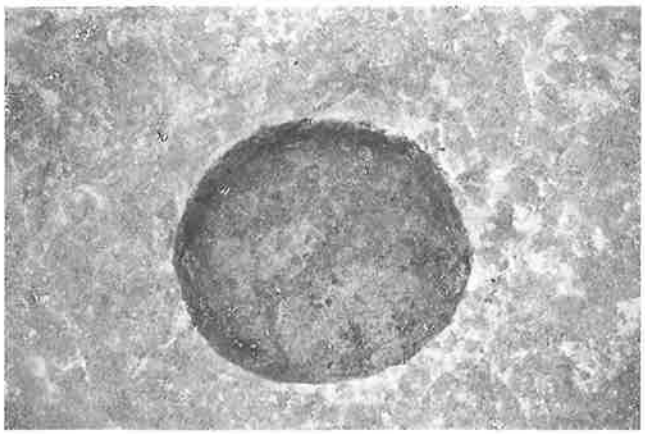


縄文13·14号土坑



縄文15号土坑遺物出土状況

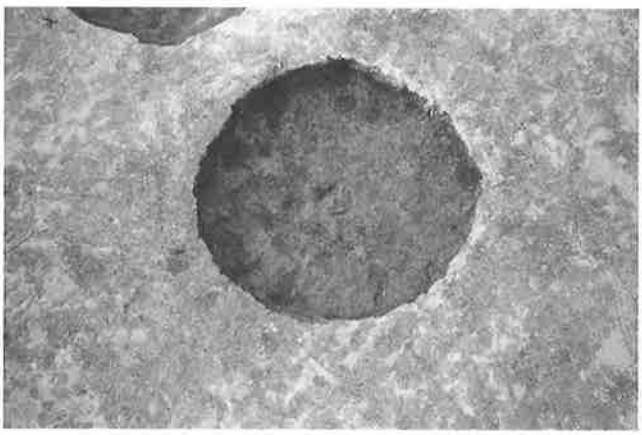
縄文15号土坑遺物出土状況



縄文16号土坑

縄文19号土坑

縄文20号土坑

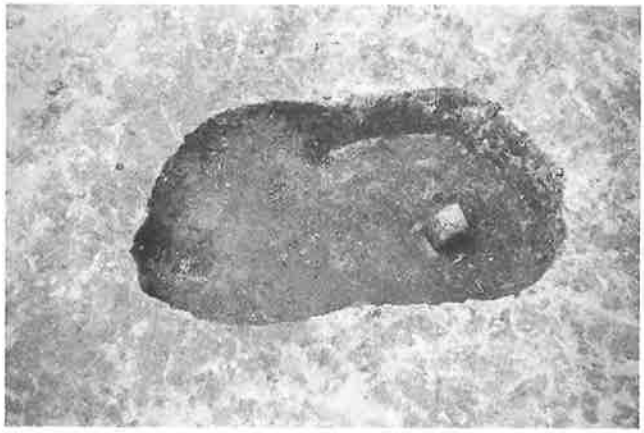


縄文21号土坑

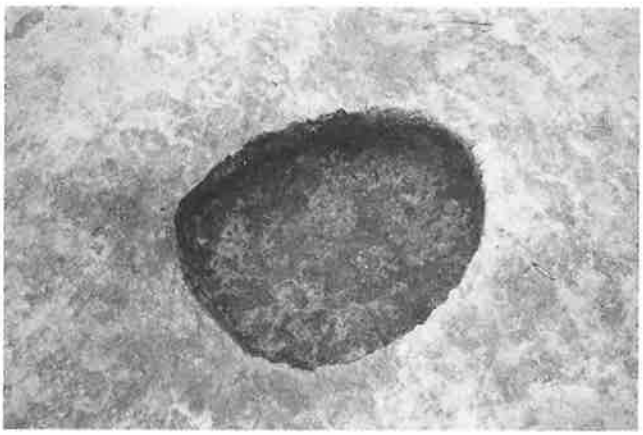
縄文26号土坑遺物出土状況

縄文26号土坑

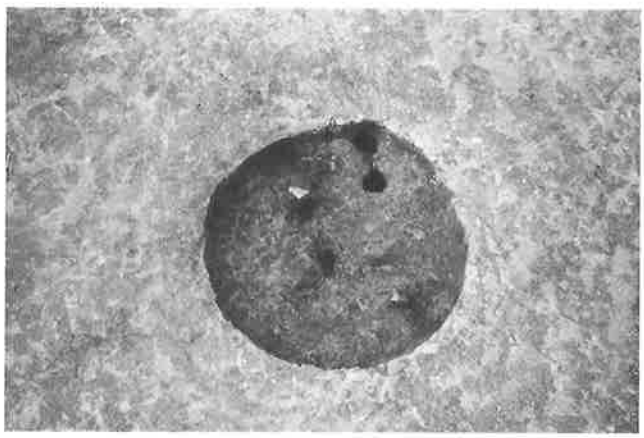
縄文28号土坑



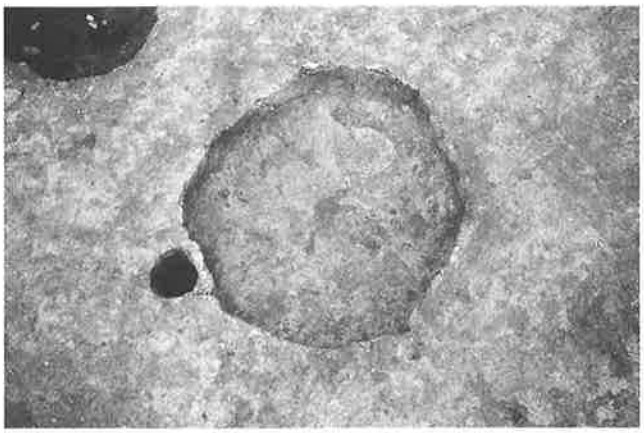
縄文31号土坑



縄文33号土坑

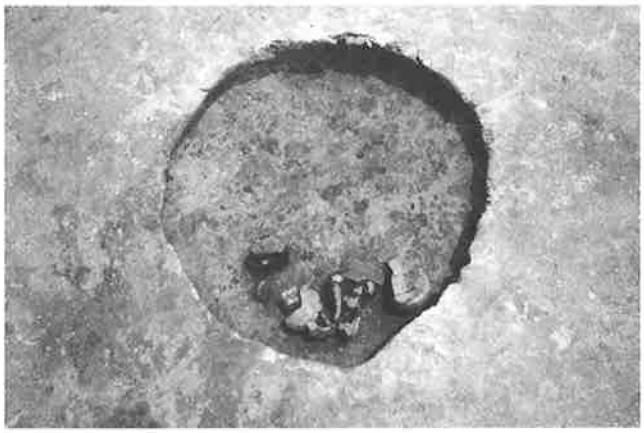


縄文36号土坑

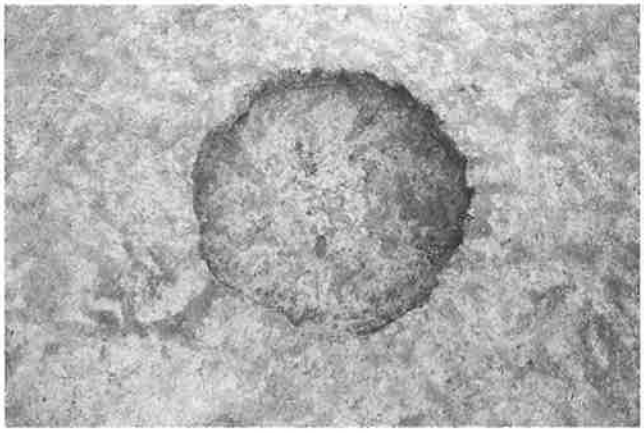


縄文42号土坑

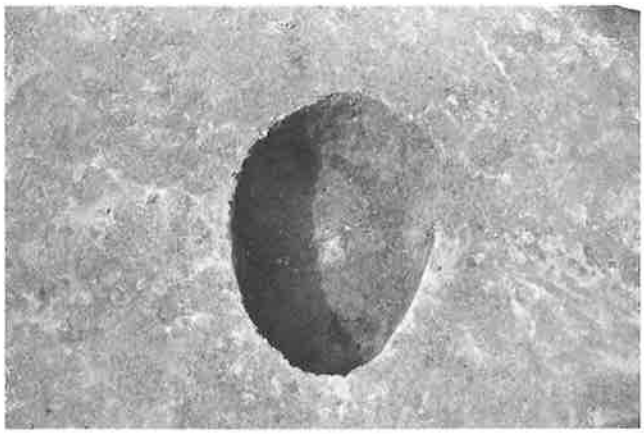
縄文44号土坑



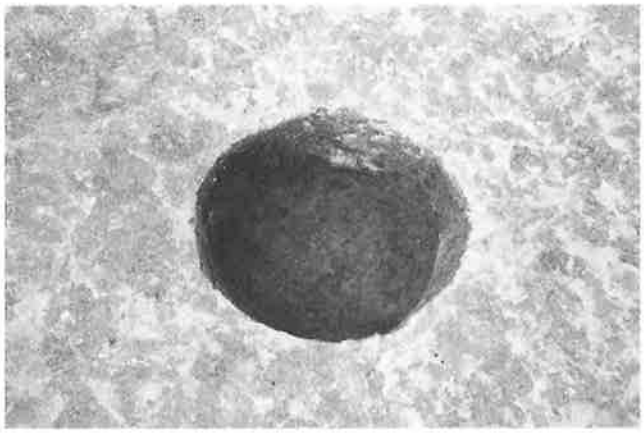
縄文49号土坑



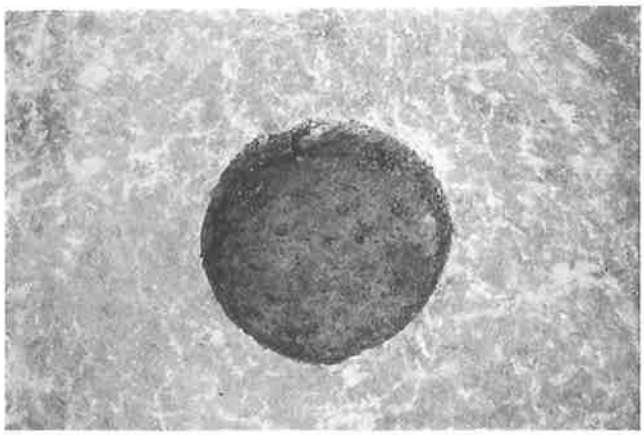
縄文50号土坑



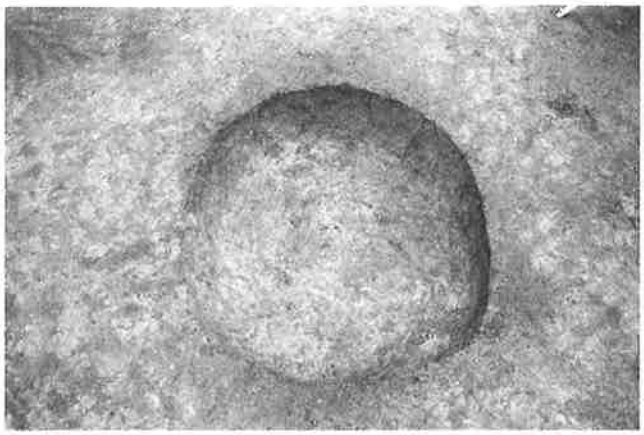
縄文55号土坑



縄文57号土坑



縄文58号土坑

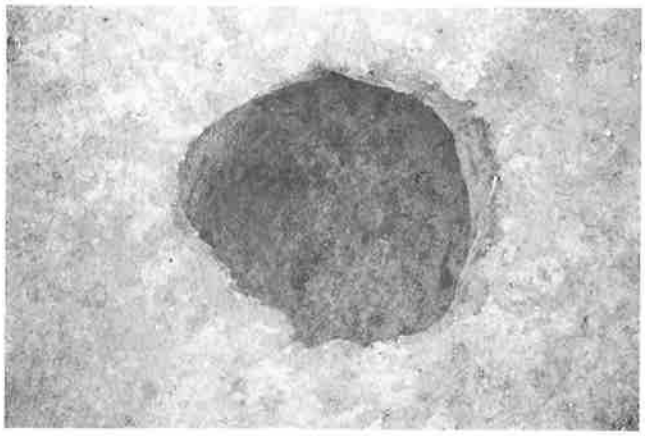


縄文59号土坑

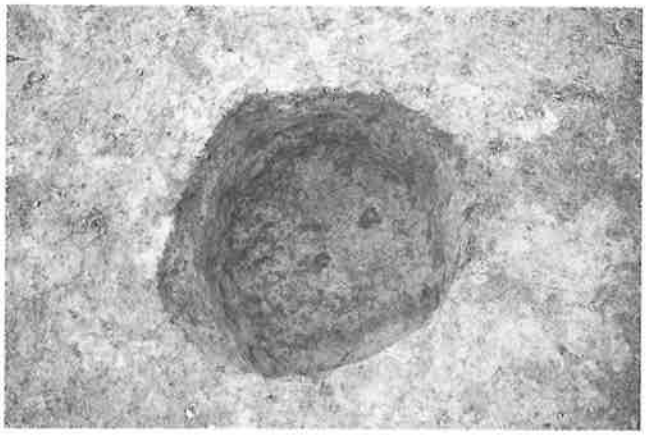
縄文60号土坑

縄文61·108号土坑

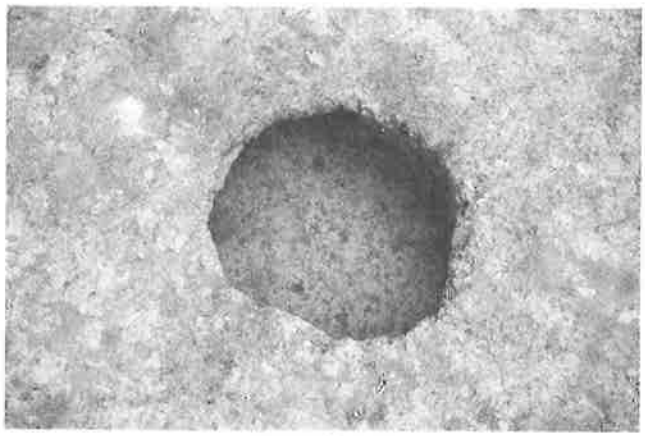
縄文62号土坑



縄文63号土坑



縄文64号土坑



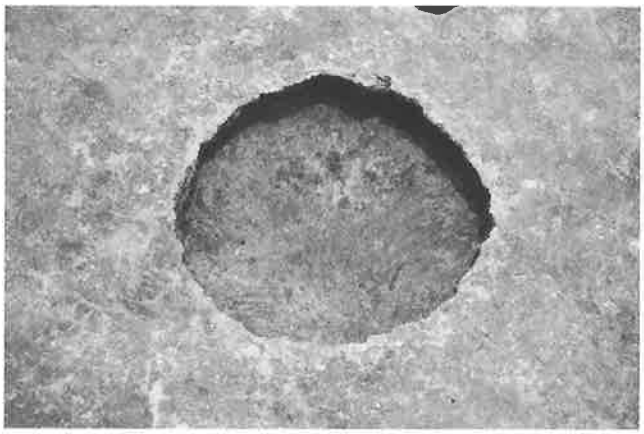
縄文65号土坑

縄文69号土坑

縄文75号土坑

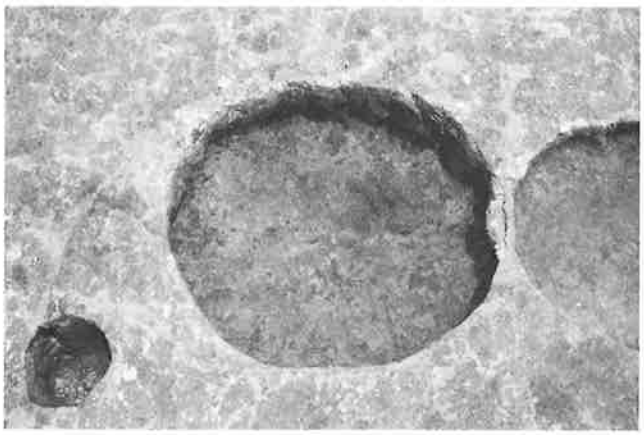
縄文79号土坑

縄文81号土坑

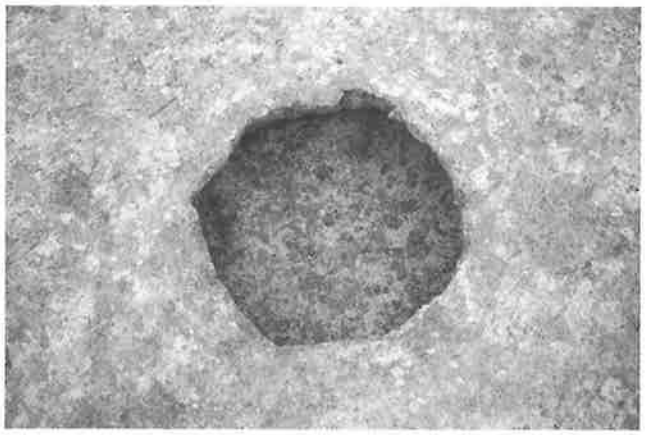


縄文82号土坑

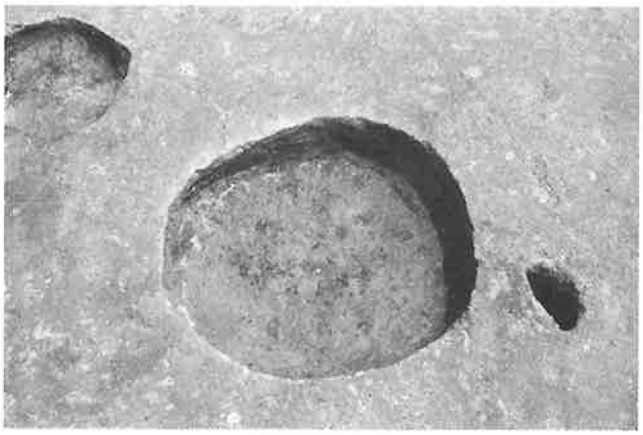
縄文83号土坑



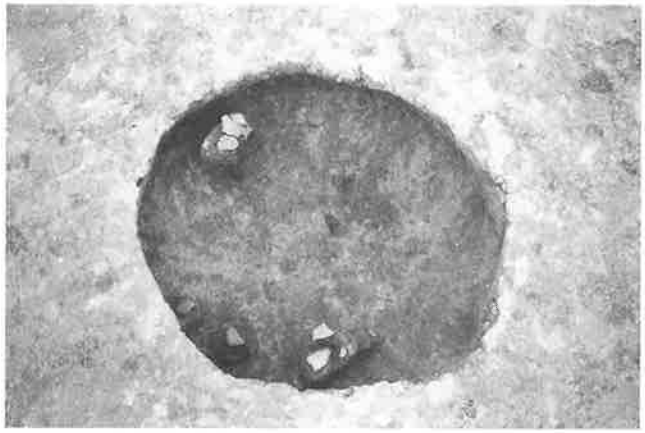
縄文85号土坑



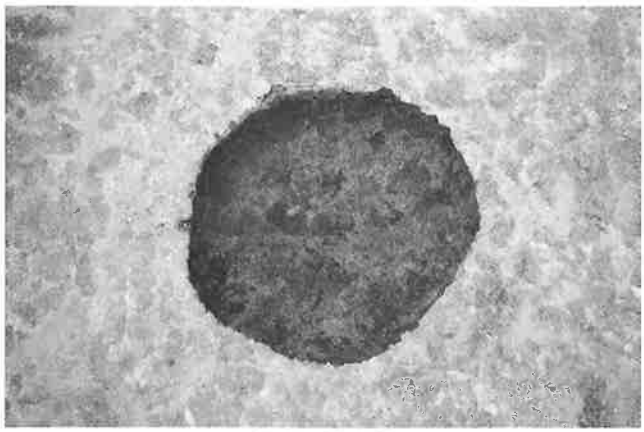
縄文87号土坑



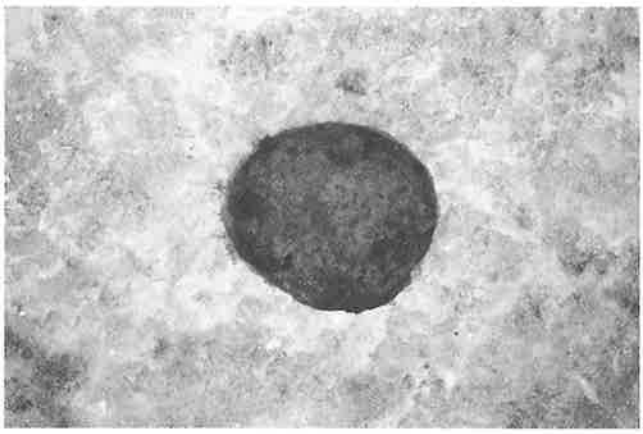
縄文90号土坑



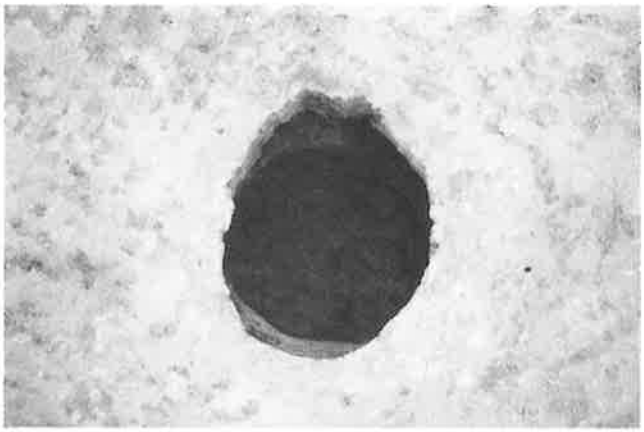
縄文92号土坑



縄文94号土坑

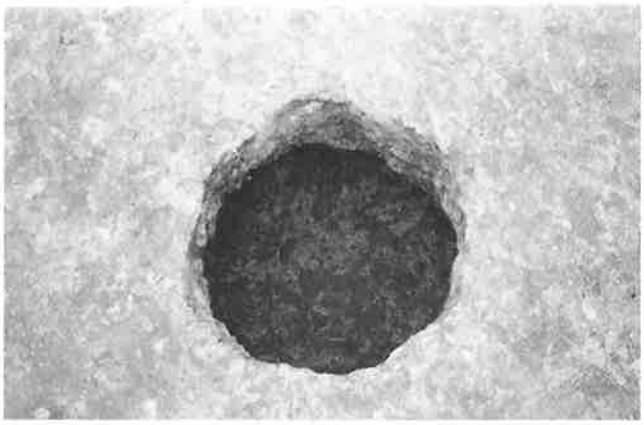


縄文95号土坑

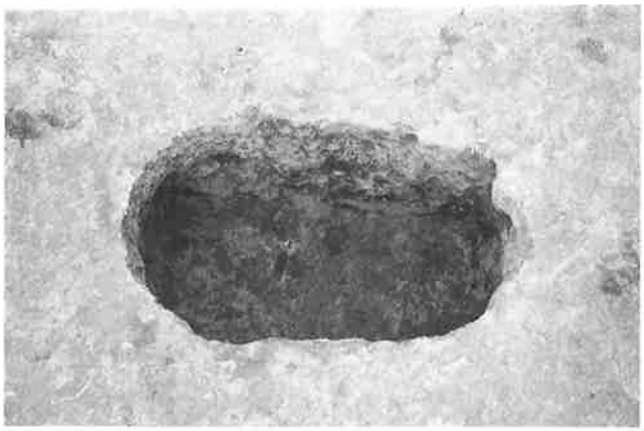


縄文97号土坑

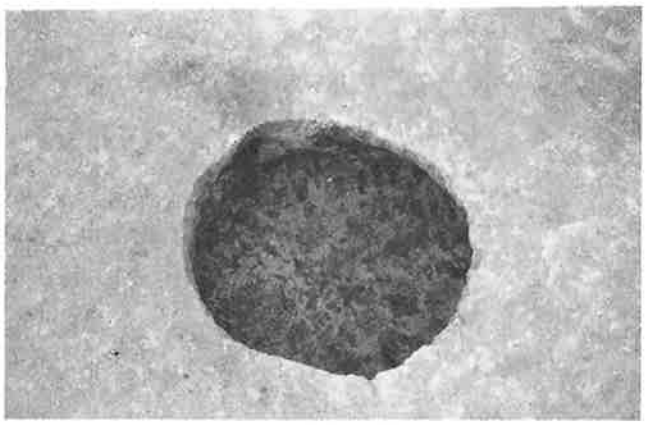
縄文104号土坑土層断面



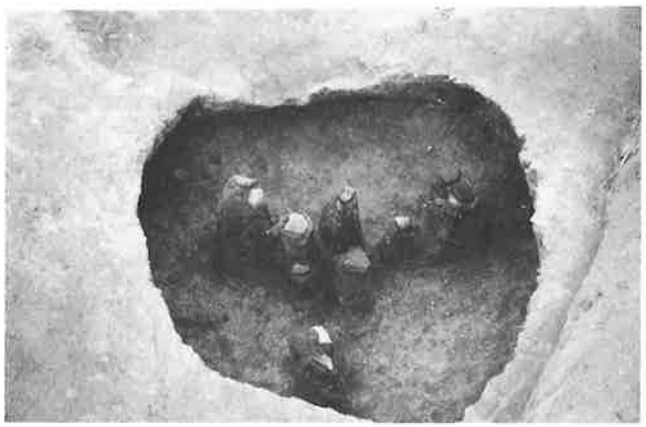
縄文104号土坑



縄文106号土坑

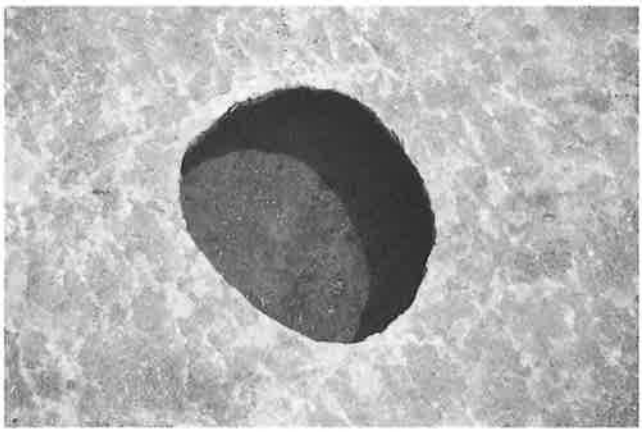


縄文107号土坑

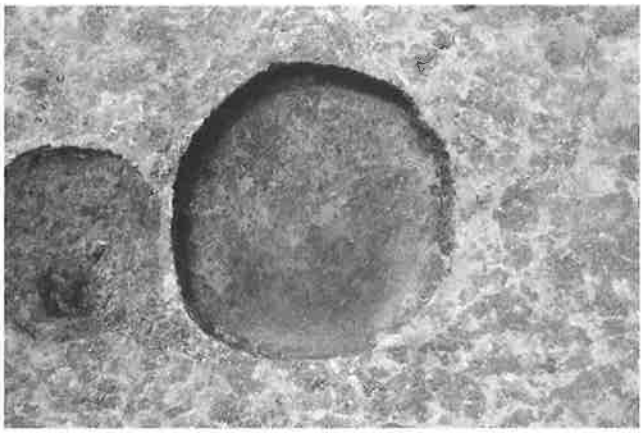


縄文109号土坑

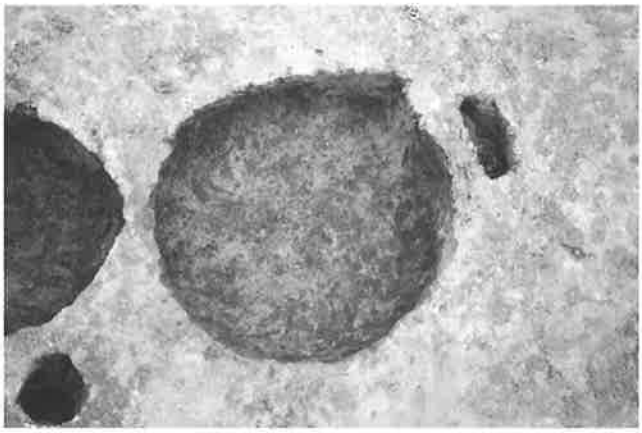
縄文114号土坑



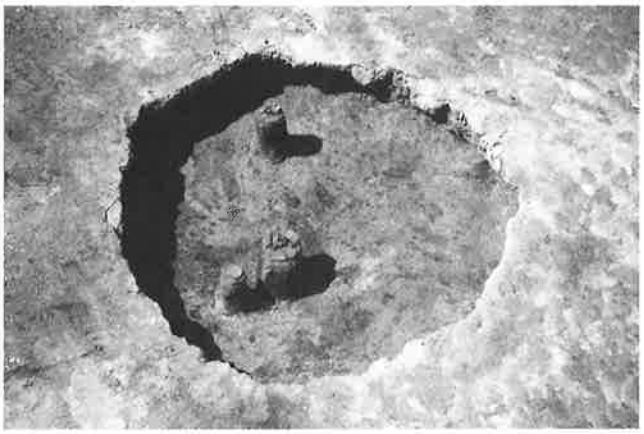
縄文115号土坑



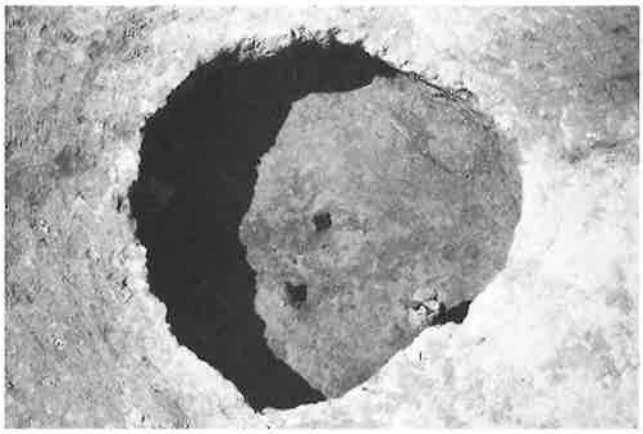
縄文121号土坑



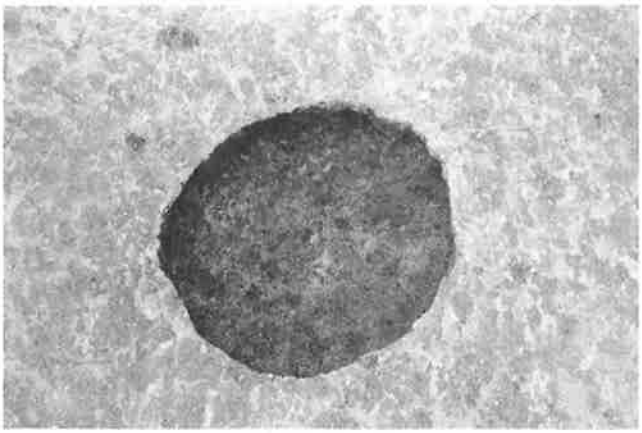
縄文125号土坑



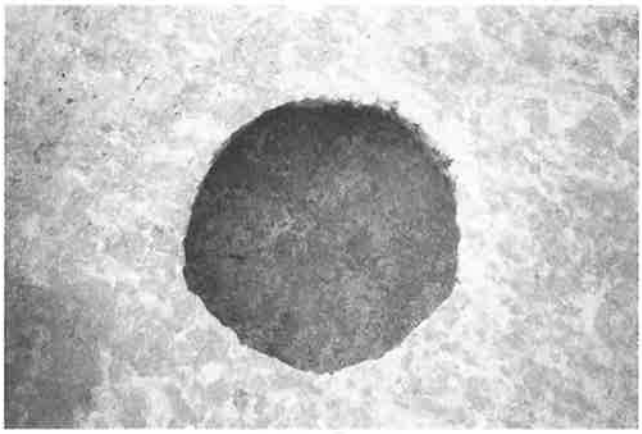
縄文130号土坑



縄文131号土坑

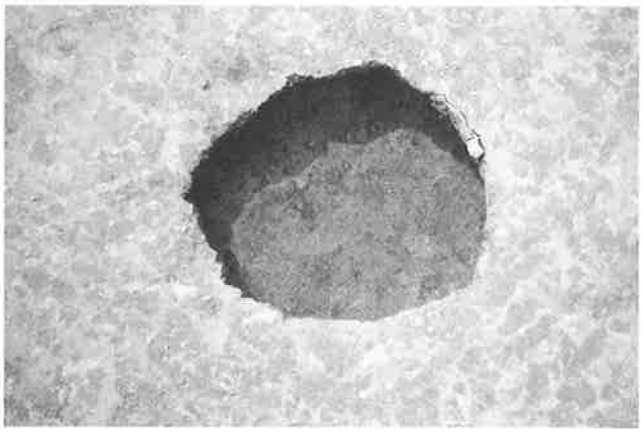


縄文136号土坑

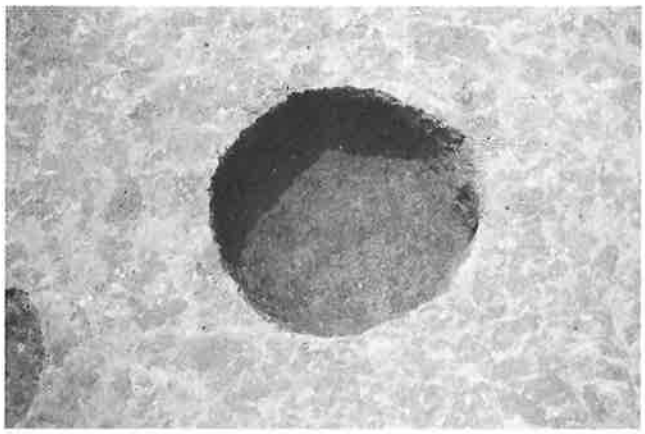


縄文137号土坑

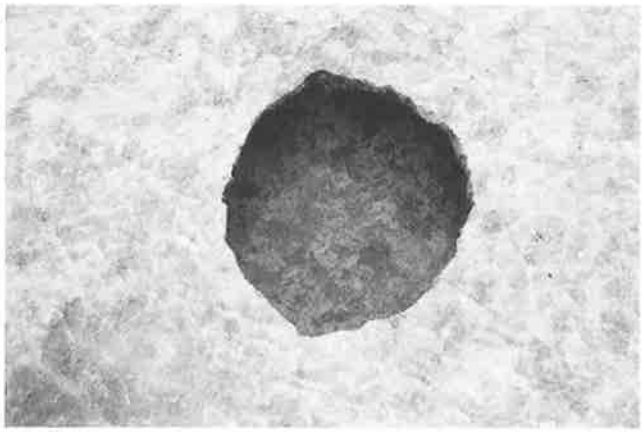
縄文138号土坑



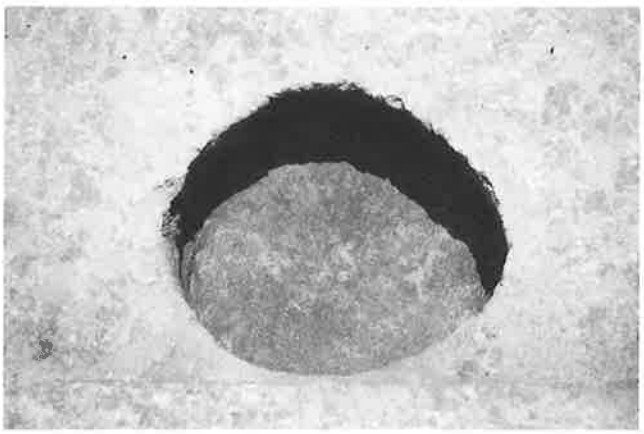
縄文140号土坑



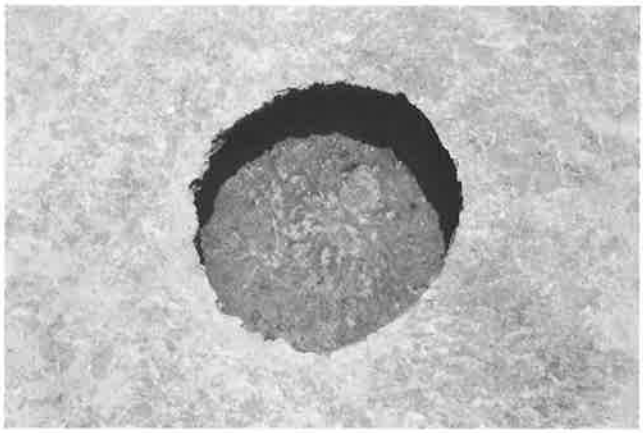
縄文142号土坑



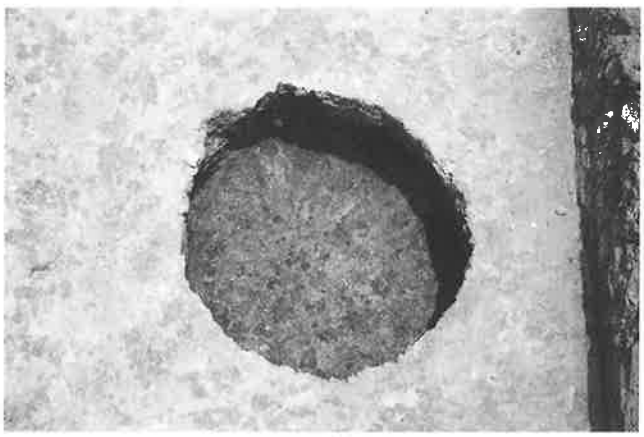
縄文144号土坑



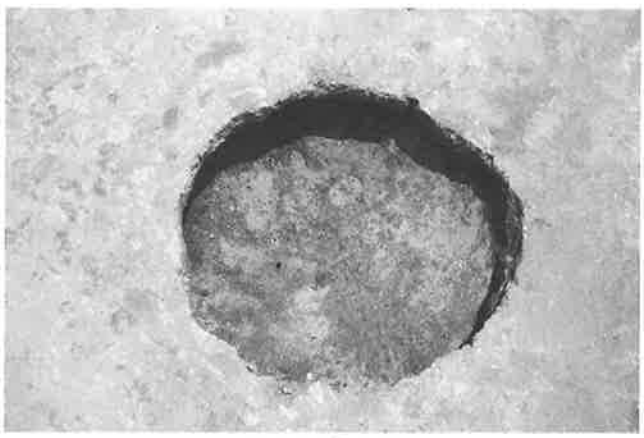
縄文147号土坑



縄文148号土坑

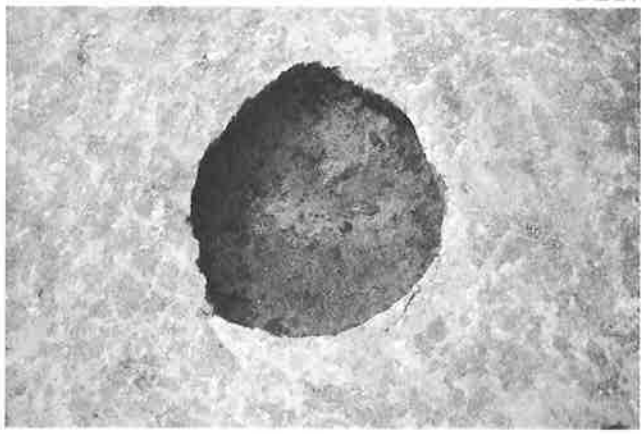


縄文151号土坑

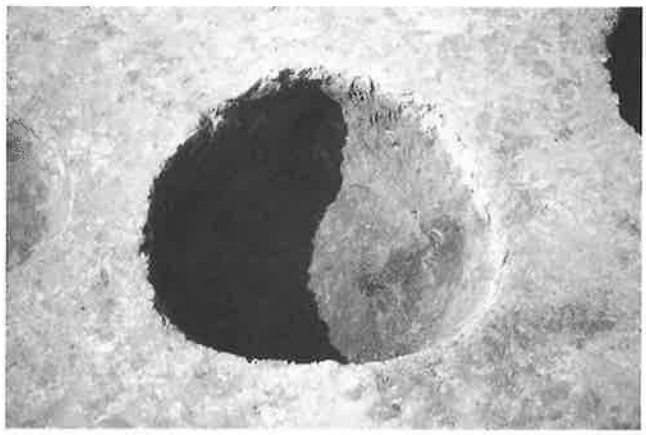


縄文153号土坑

縄文154号土坑



縄文155号土坑



縄文159号土坑

縄文161号土坑

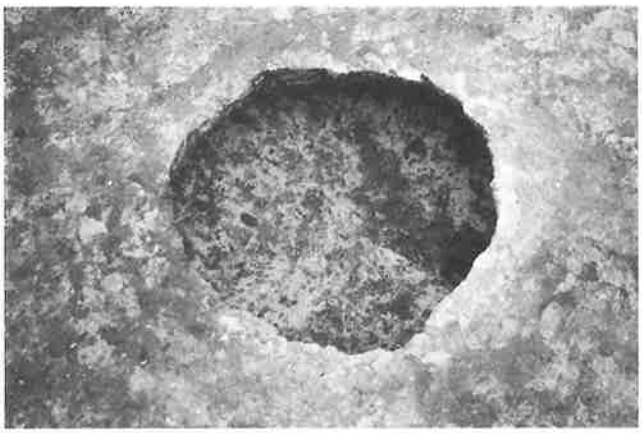
縄文165号土坑

縄文173号土坑

縄文177号土坑

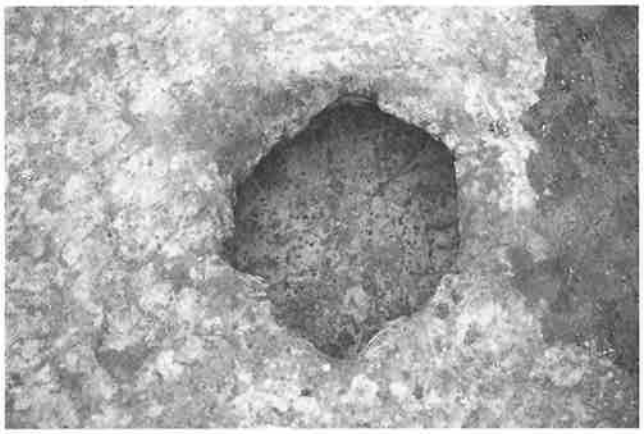
縄文178号土坑

縄文183号土坑遺物出土状況



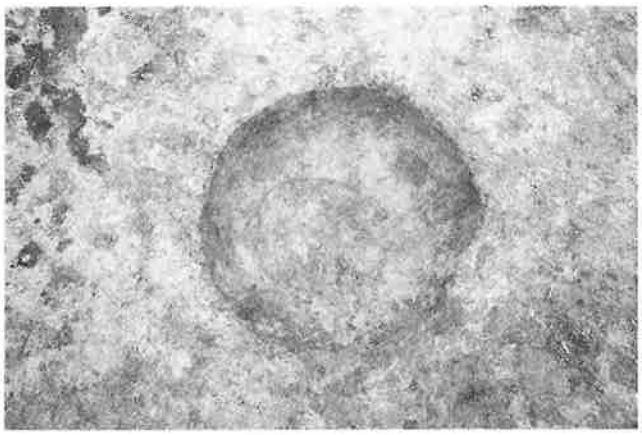
縄文183号土坑

縄文186号土坑遺物出土状況



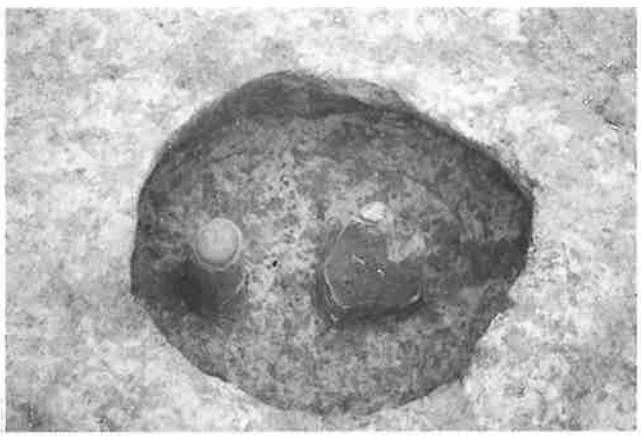
縄文186号土坑

縄文191号土坑

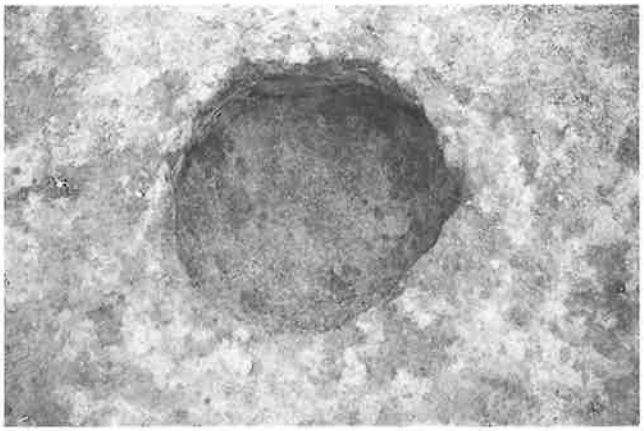


縄文192号土坑

縄文193号土坑



縄文195号土坑

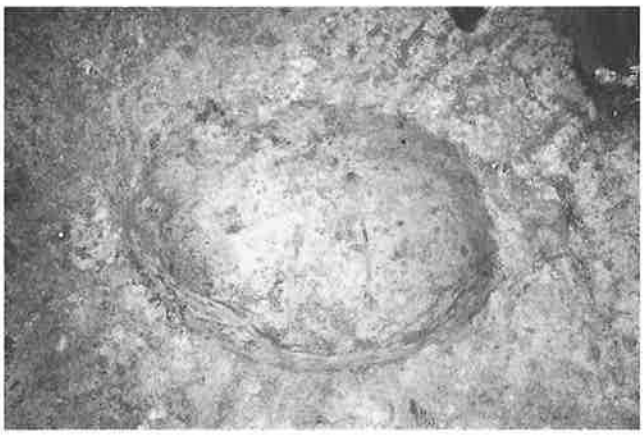


縄文197号土坑

縄文203号土坑

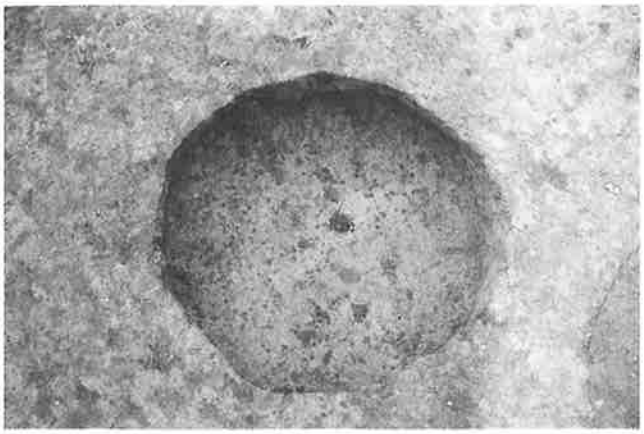
縄文204号土坑

縄文208号土坑

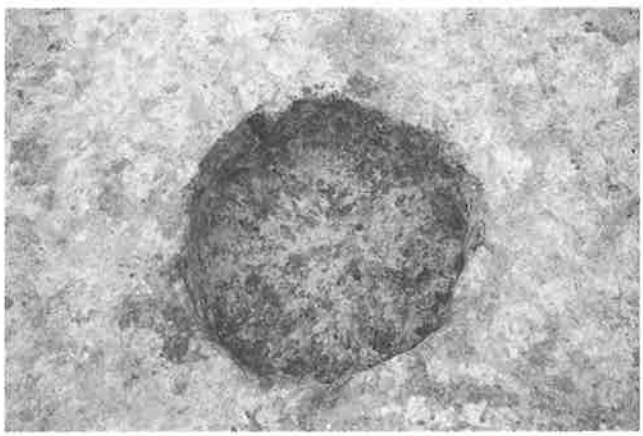


縄文215号土坑

縄文216号土坑

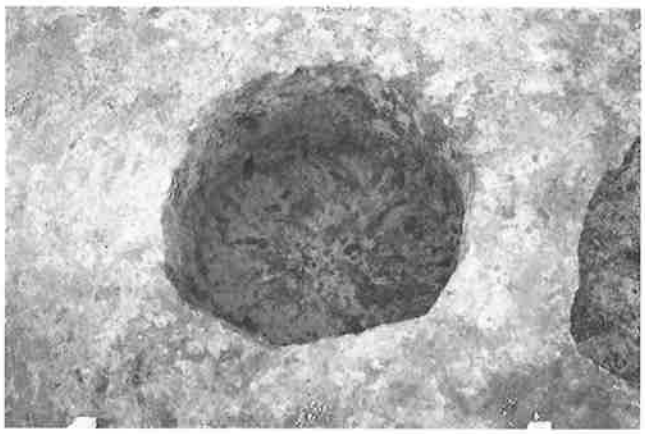


縄文217号土坑



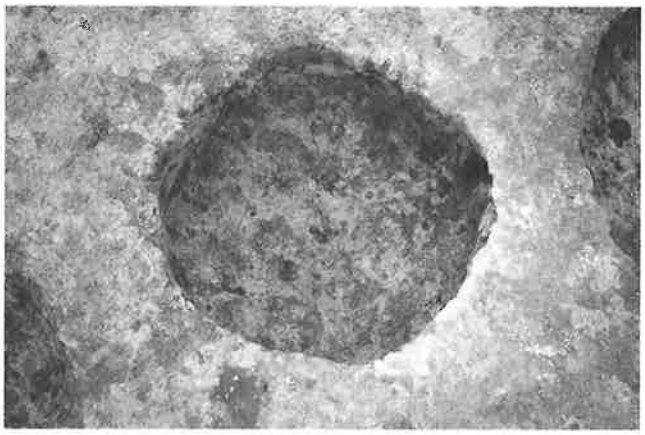
縄文218号土坑

縄文226号土坑遺物出土状況

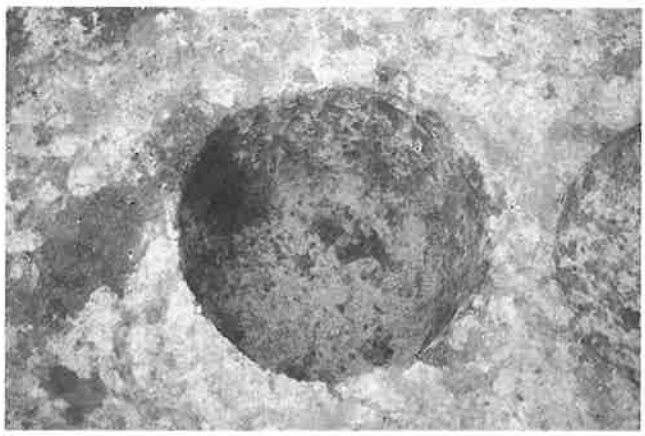


縄文226号土坑

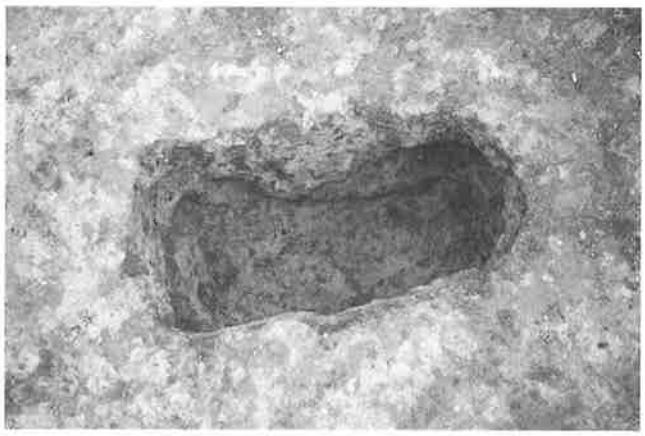
縄文227·228号土坑



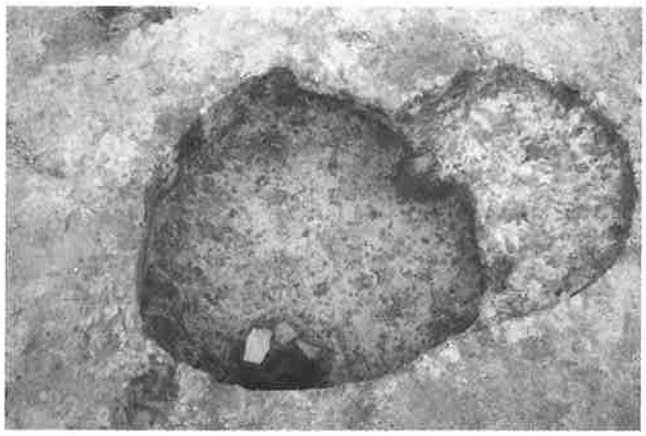
縄文229号土坑



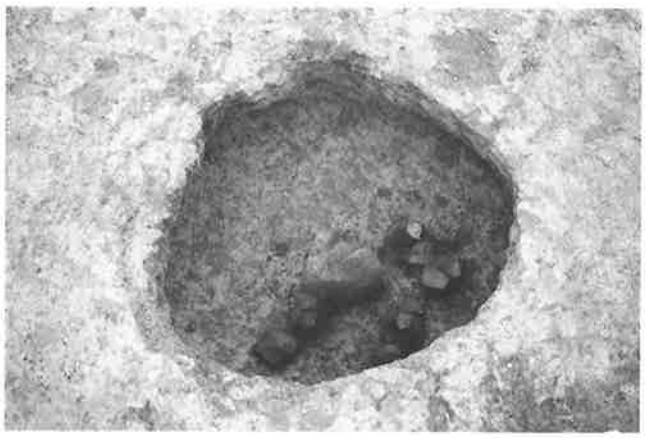
縄文236号土坑



縄文237号土坑



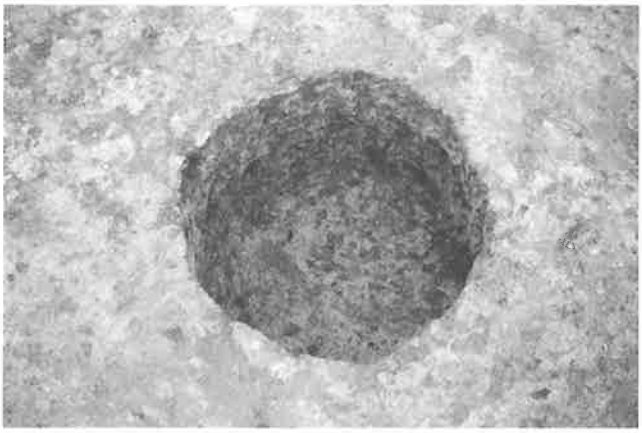
縄文239・240号土坑



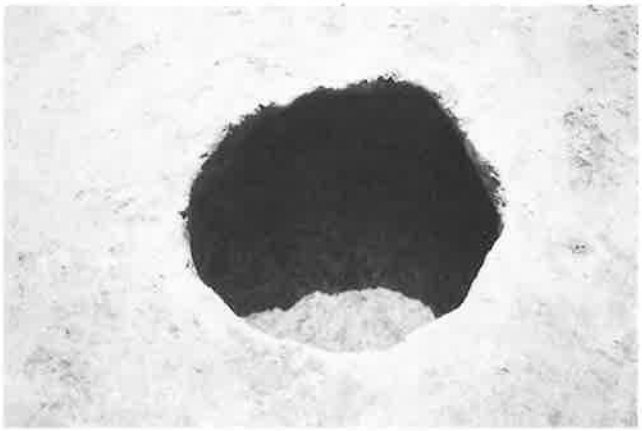
縄文242号土坑

縄文243号土坑

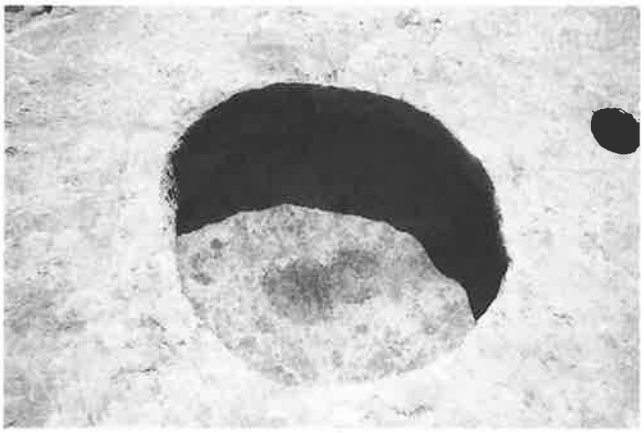
縄文244号土坑



縄文247号土坑



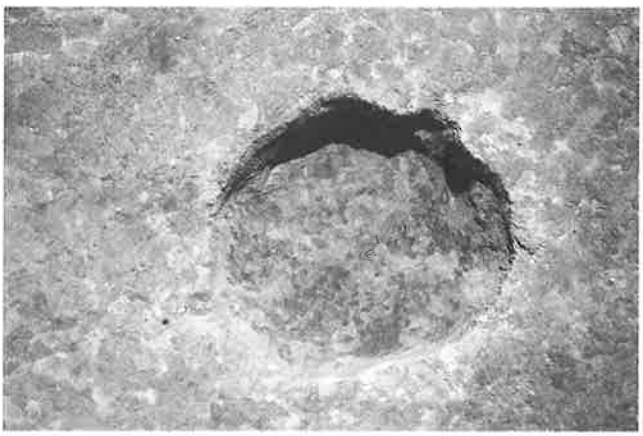
縄文251号土坑



縄文252号土坑

縄文253・254号土坑

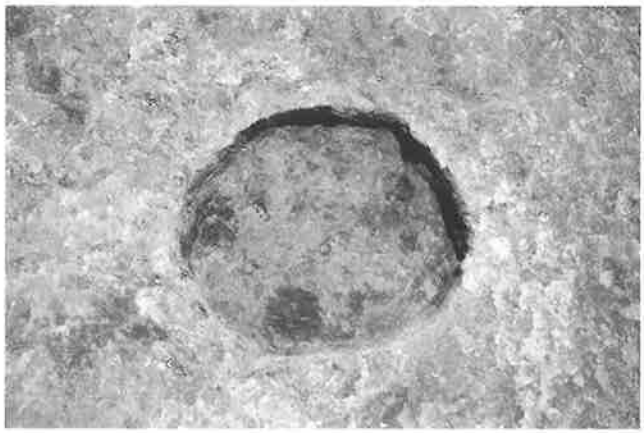
縄文254号土坑



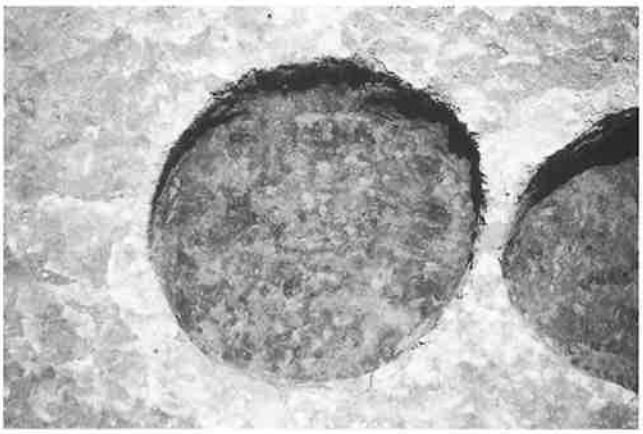
縄文255号土坑

縄文258号土坑

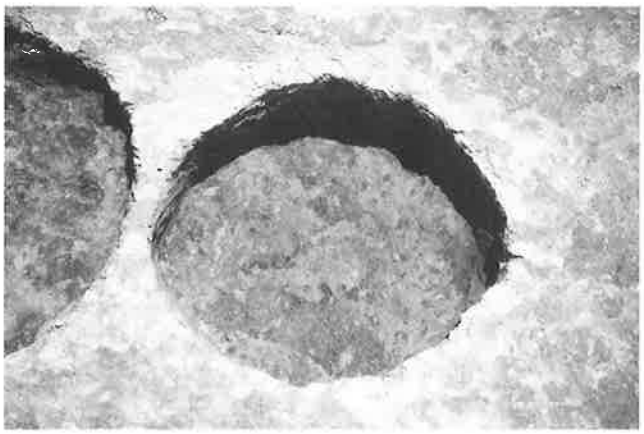
縄文258号土坑出土遺物近景



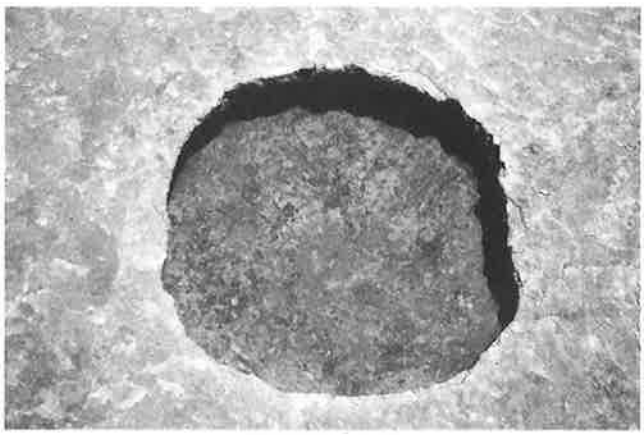
縄文263号土坑



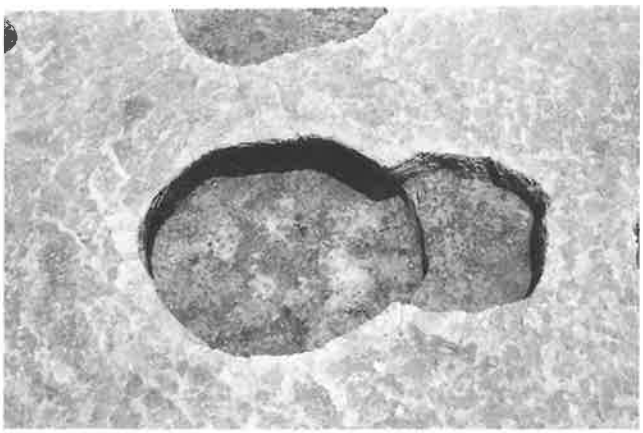
縄文265号土坑



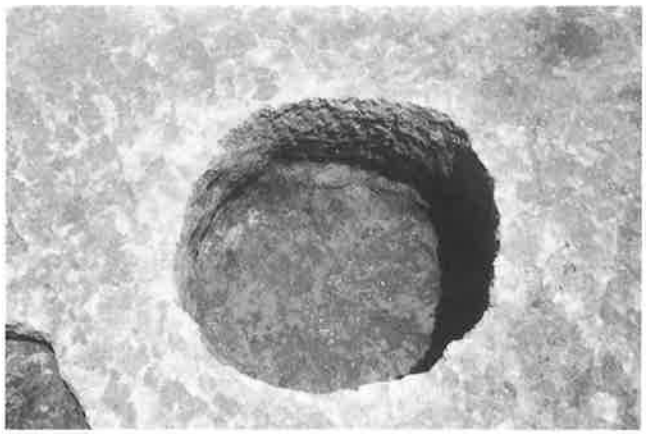
縄文266号土坑



縄文271号土坑



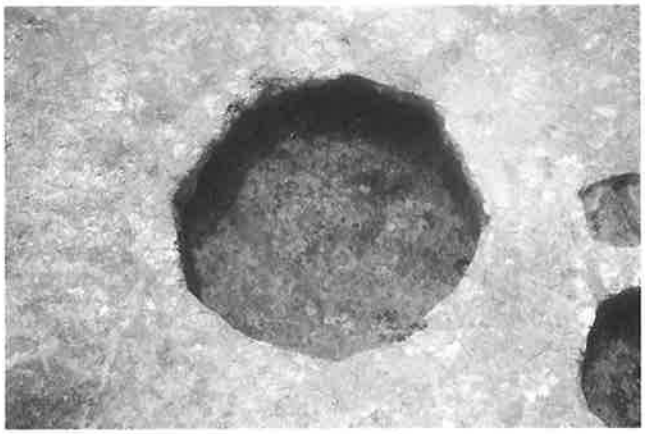
縄文272・273号土坑



縄文274号土坑

縄文276号土坑

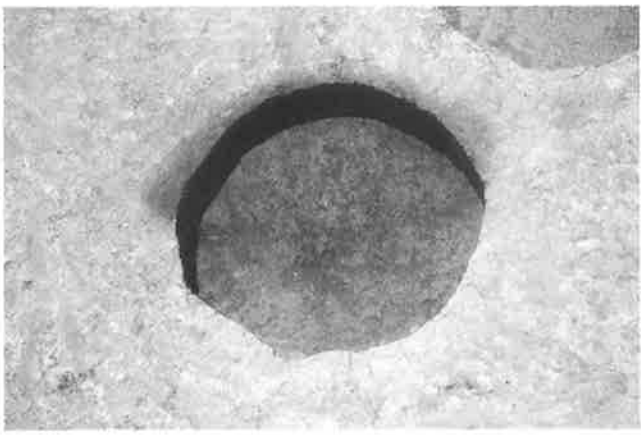
縄文283号土坑



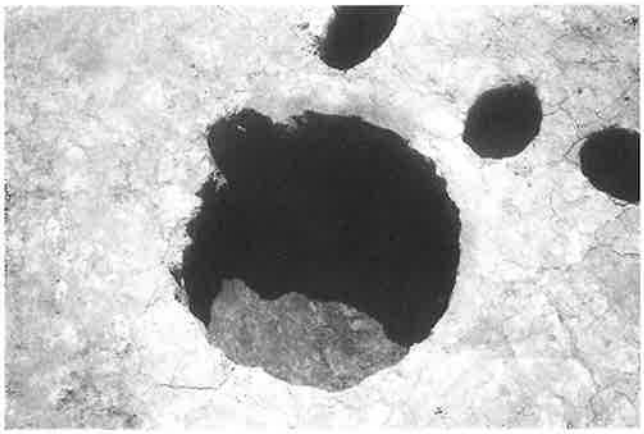
縄文285号土坑

縄文287号土坑

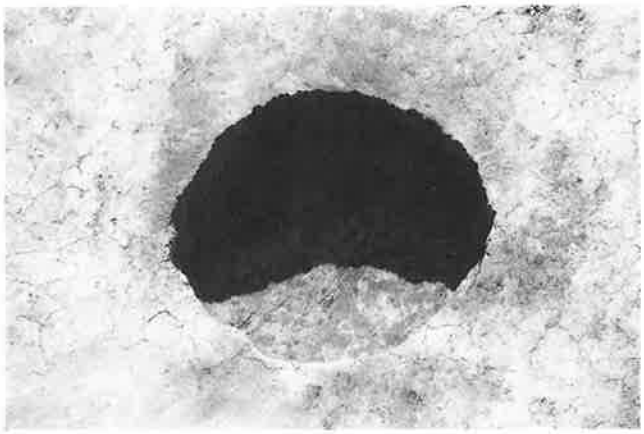
縄文288号土坑



縄文291号土坑



縄文293号土坑



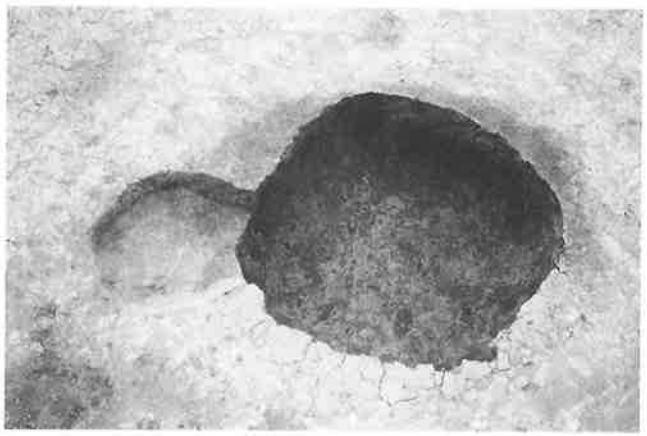
縄文297号土坑

縄文300号土坑

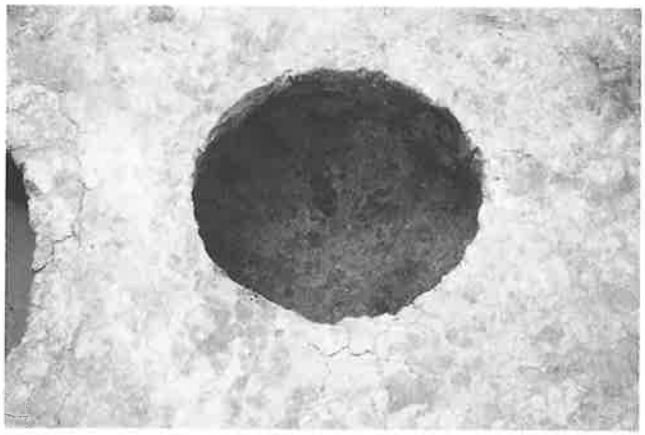
縄文301号土坑

縄文302号土坑

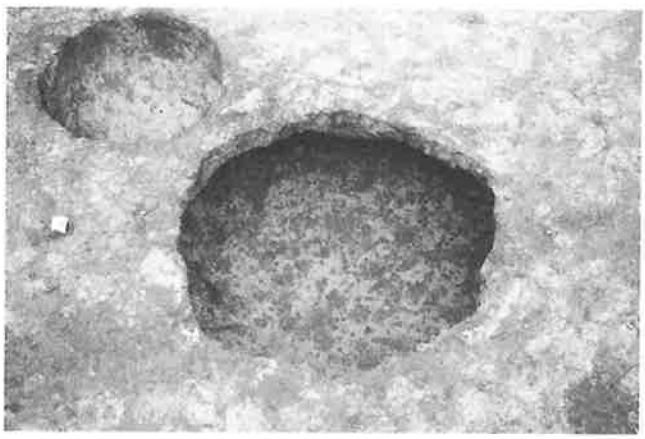
縄文308号土坑



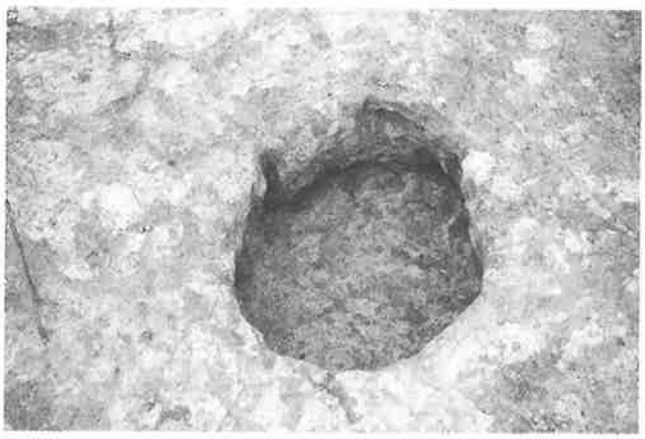
縄文311·312号土坑



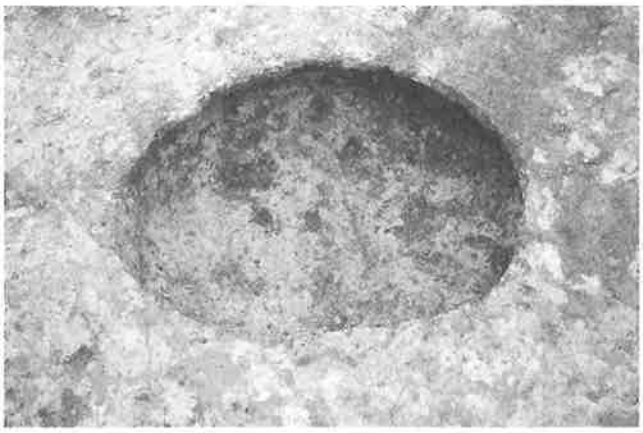
縄文313号土坑



縄文315号土坑

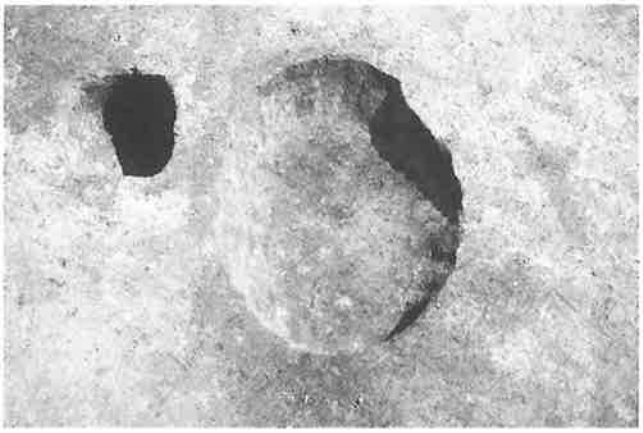


縄文317号土坑

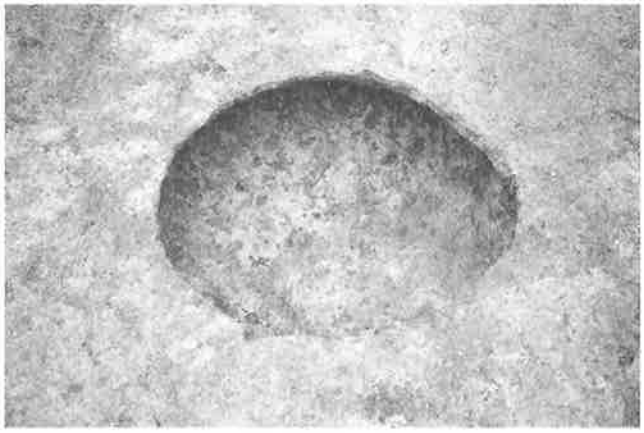


縄文323号土坑

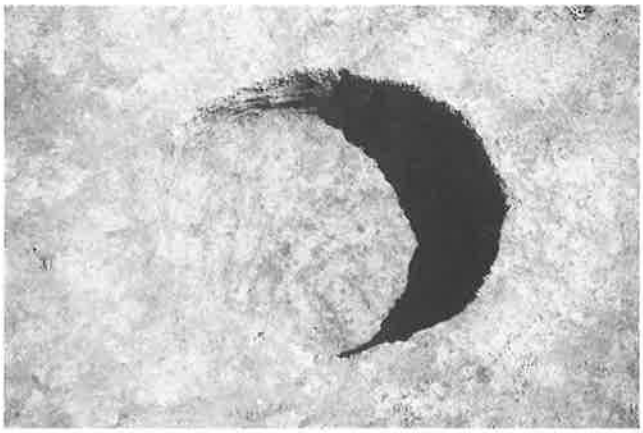
縄文328号土坑



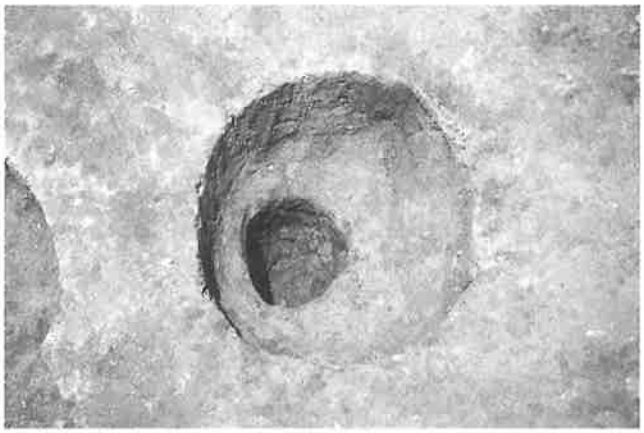
縄文331号土坑



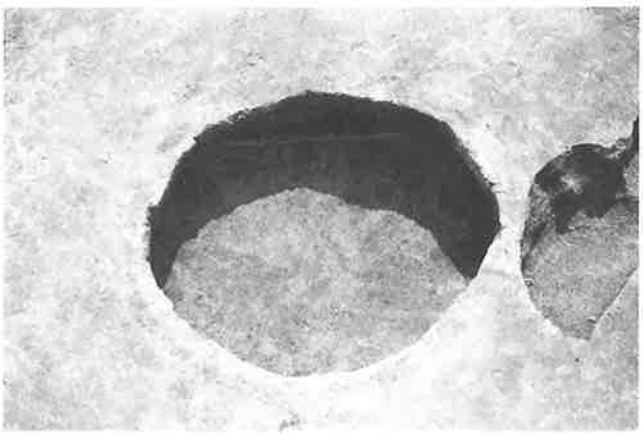
縄文332号土坑



縄文334号土坑



縄文336号土坑



縄文338号土坑

縄文340号土坑

縄文345号土坑

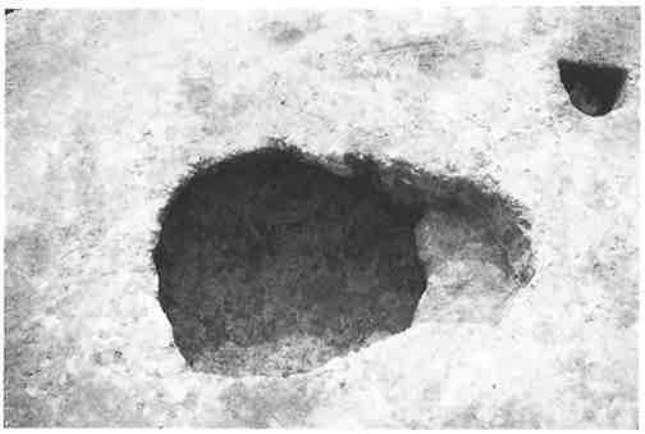
縄文349号土坑

縄文350号土坑

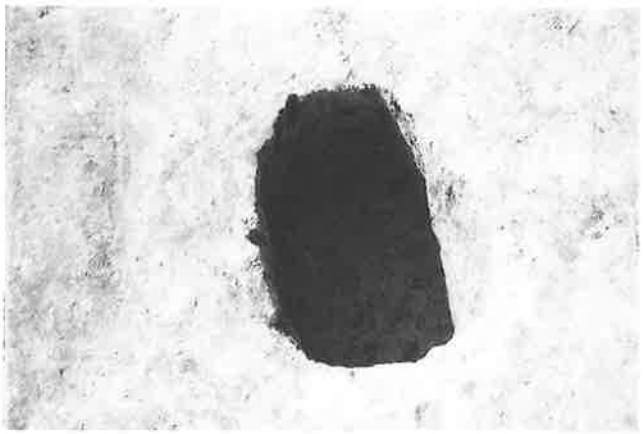
縄文352号土坑

縄文354号土坑

縄文357号土坑



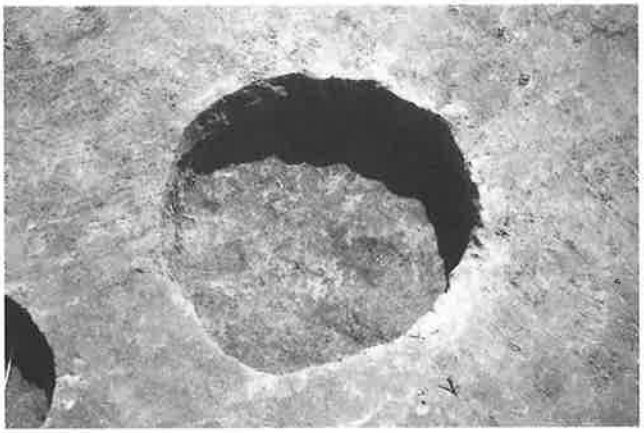
縄文356･357号土坑



縄文363号土坑

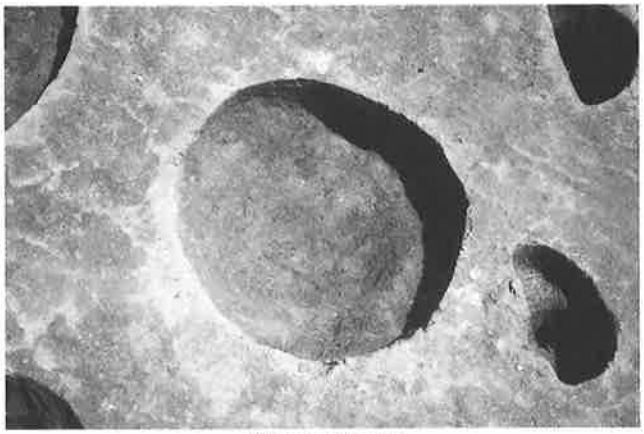
縄文367号土坑遺物出土状況

縄文367号土坑



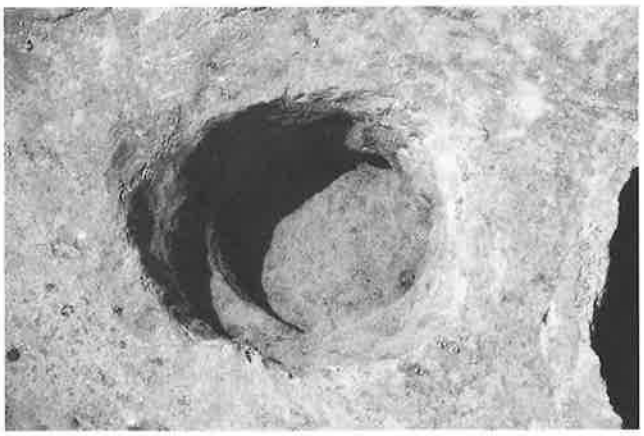
縄文372号土坑

縄文376号土坑



縄文380号土坑

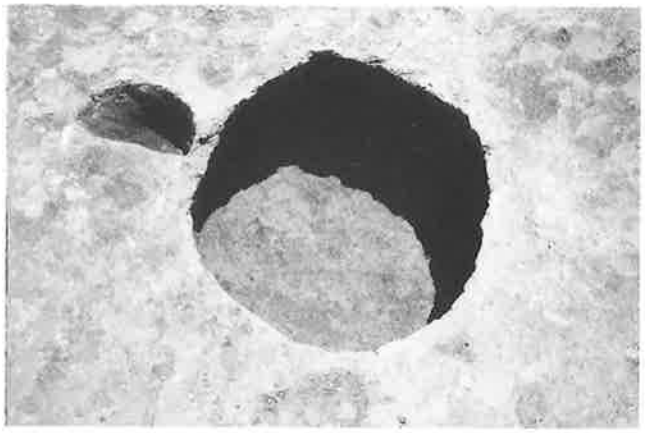
縄文381号土坑



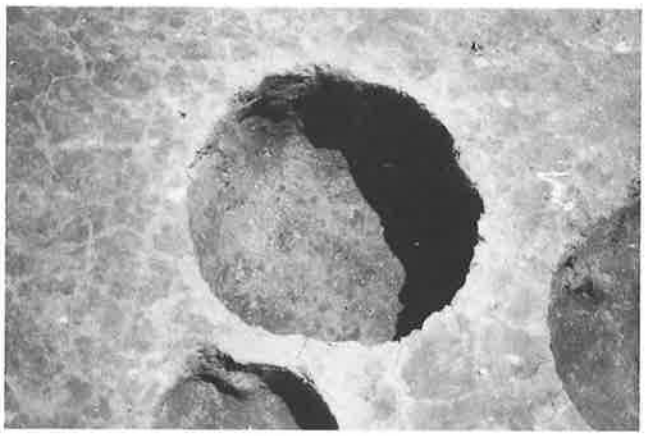
縄文382号土坑

縄文383・384号土坑

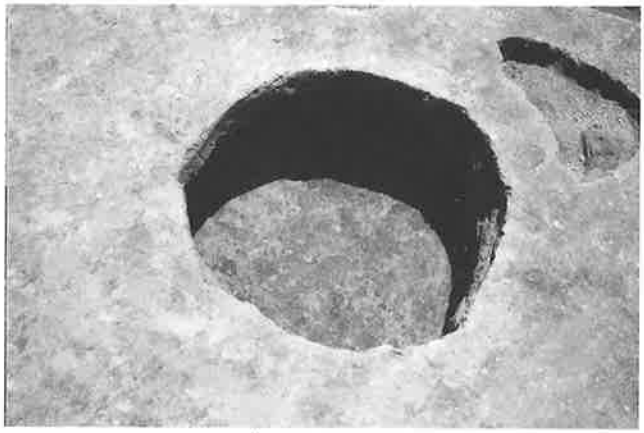
縄文384号土坑



縄文391号土坑



縄文392号土坑

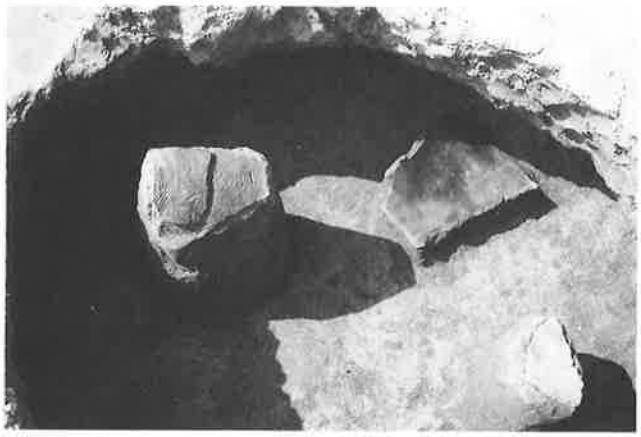


縄文395号土坑

縄文396号土坑

縄文402号土坑

縄文405号土坑



縄文405号土坑出土遺物近景

縄文406号土坑

縄文408号土坑

縄文409号土坑

縄文414号土坑

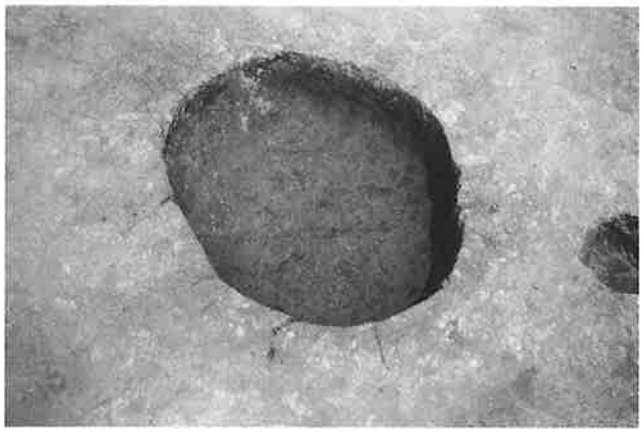
縄文416号土坑

縄文417号土坑

縄文419·420号土坑

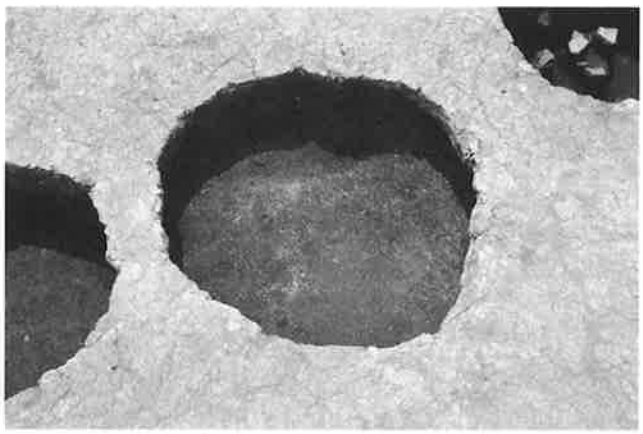
縄文422号土坑

縄文424号土坑

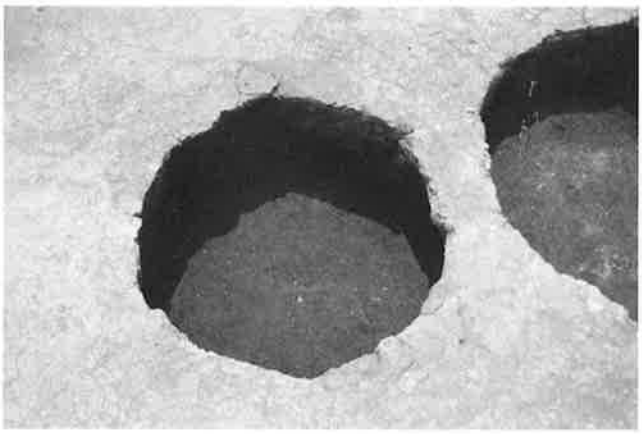


縄文426号土坑

縄文427号土坑

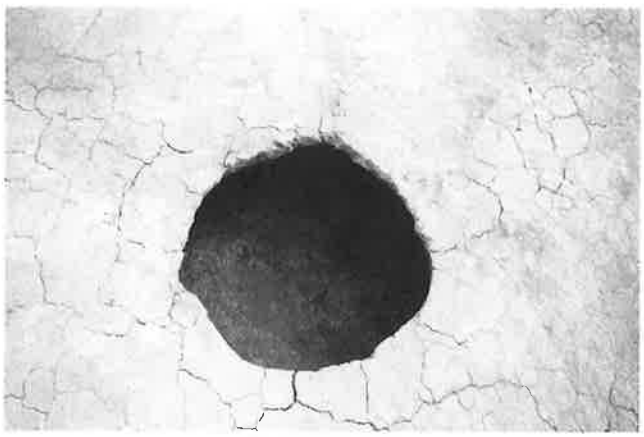


縄文428号土坑



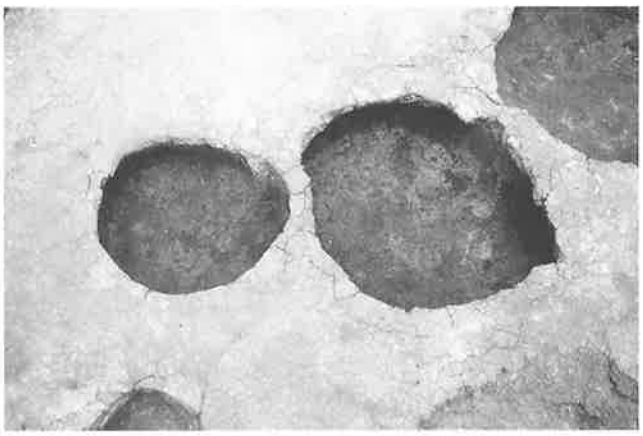
縄文429号土坑

縄文432号土坑

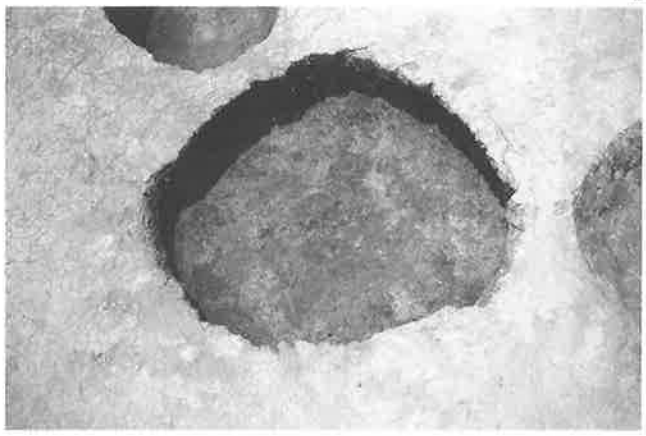


縄文435号土坑

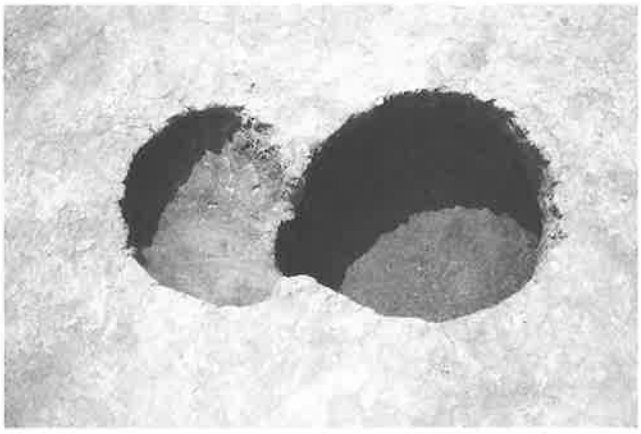
縄文437号土坑



縄文438・524号土坑



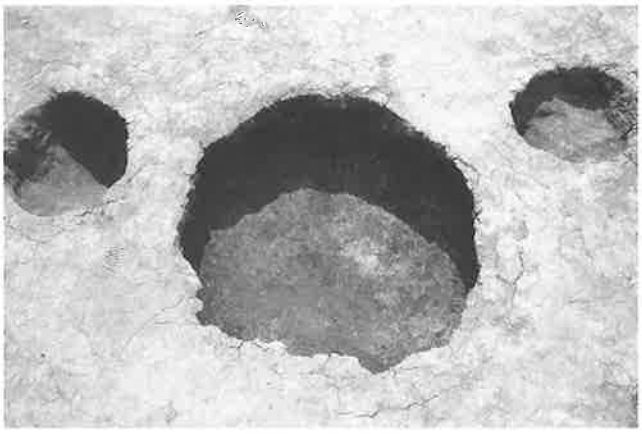
縄文443号土坑



縄文445・446号土坑

縄文447号土坑遺物出土状況

縄文449号土坑



縄文450号土坑

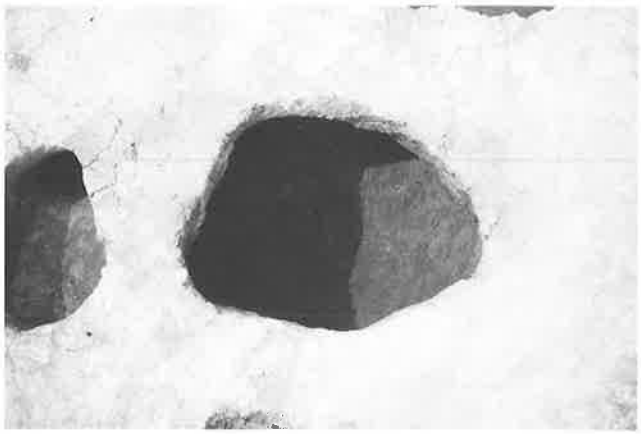
縄文455号土坑遺物出土状況

縄文455・456号土坑

縄文457号土坑

縄文457号土坑出土遺物近景

縄文458号土坑



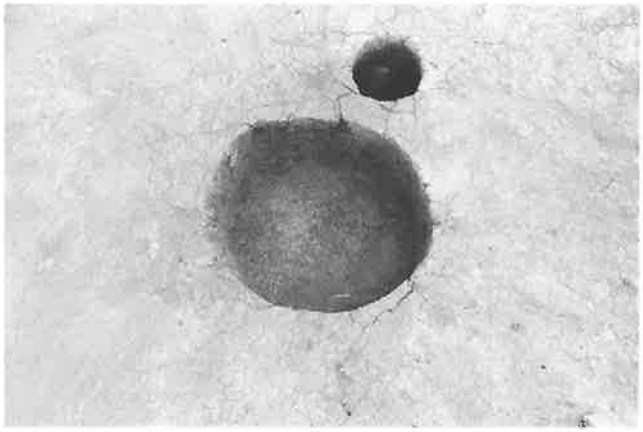
縄文463号土坑

縄文464号土坑

縄文468号土坑

縄文470号土坑

縄文474号土坑



縄文478号土坑

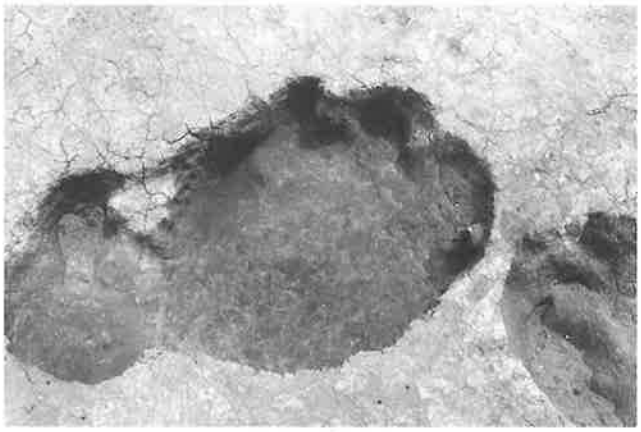
縄文479・480号土坑

縄文481号土坑

縄文481・482号土坑

縄文483号土坑

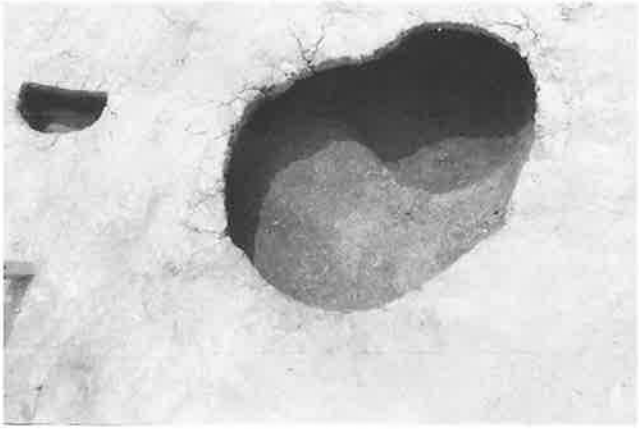
縄文483号土坑出土遺物近景



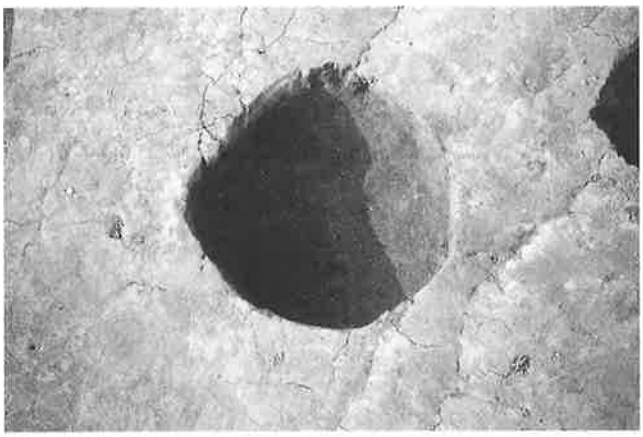
縄文484号土坑

縄文486号土坑

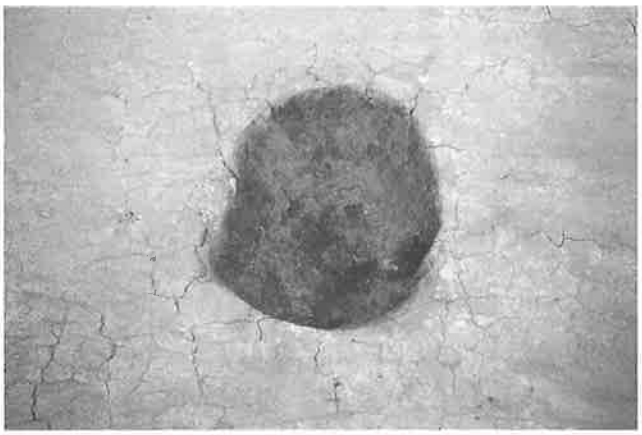
縄文488·489号土坑



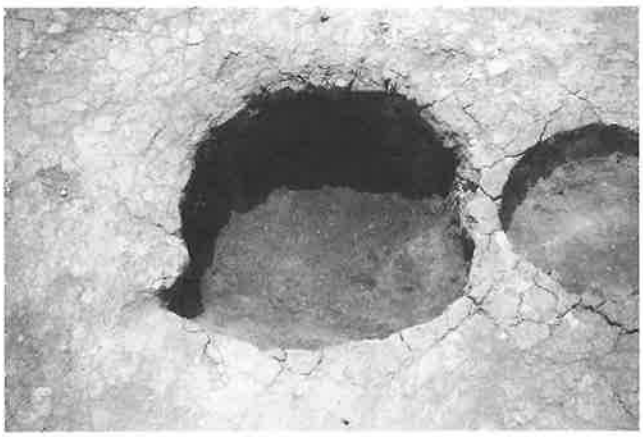
縄文490号土坑



縄文497号土坑

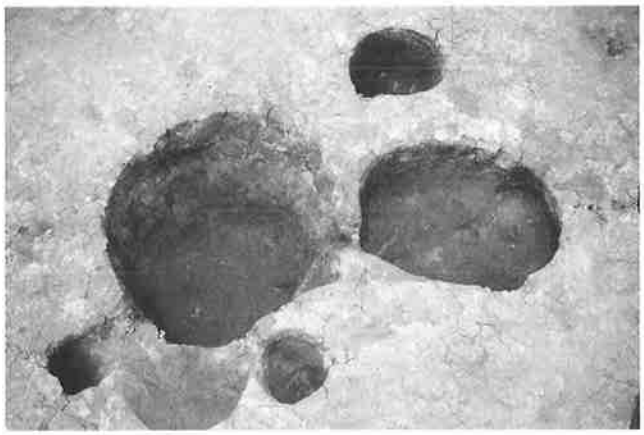


縄文498号土坑



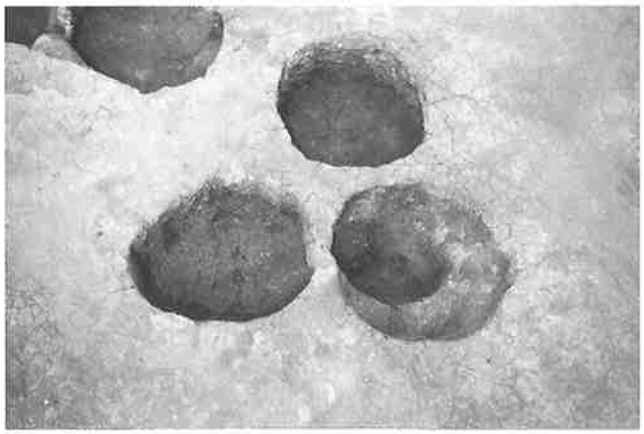
縄文499号土坑

縄文500号土坑



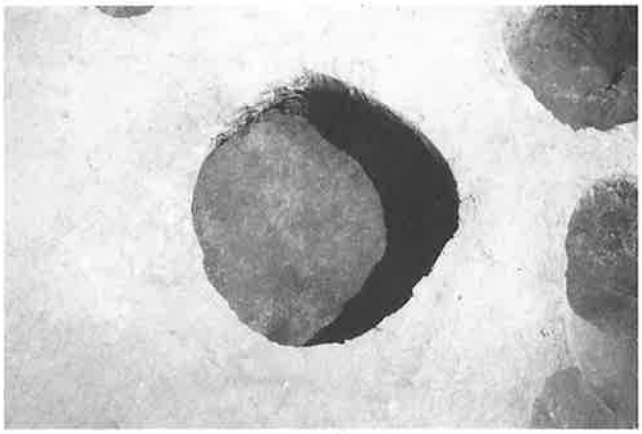
縄文502·503号土坑

縄文504号土坑



縄文504・505・506号土坑

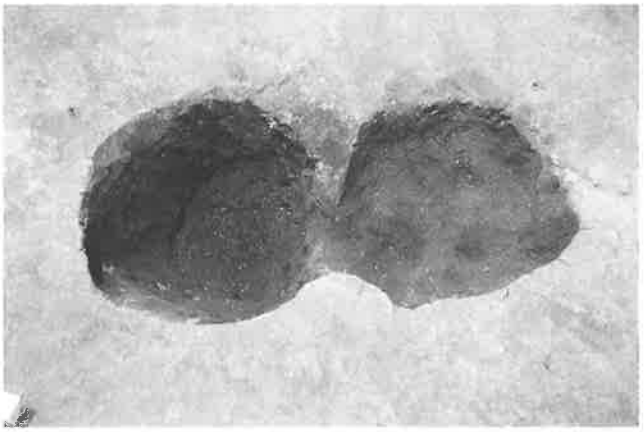
縄文507号土坑



縄文509号土坑

縄文512号土坑

縄文513号土坑



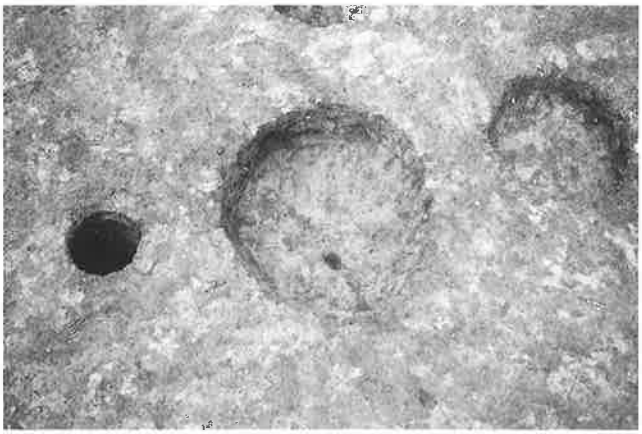
縄文515・516号土坑

縄文518号土坑

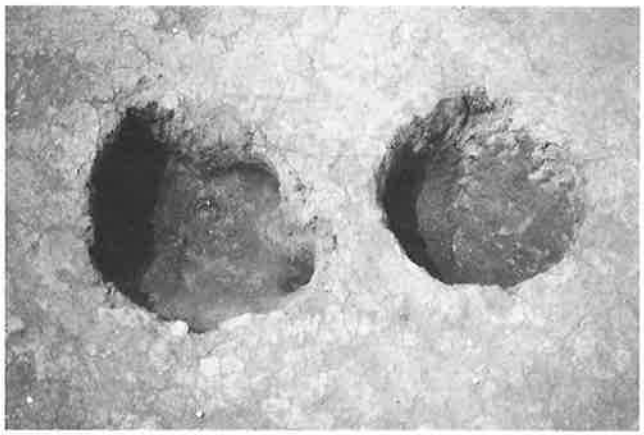
縄文521号土坑

縄文522号土坑

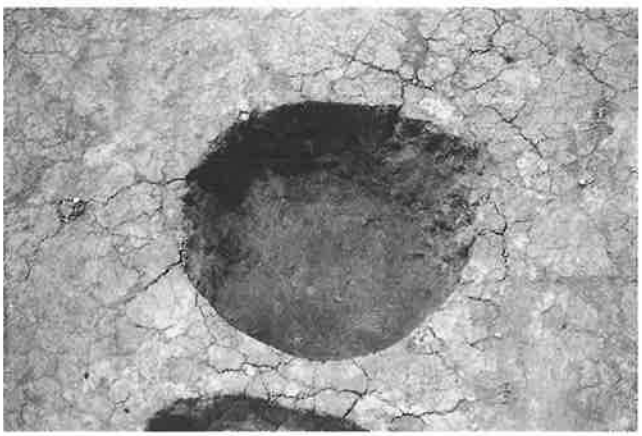
縄文524号土坑



縄文525号土坑



縄文532・533号土坑



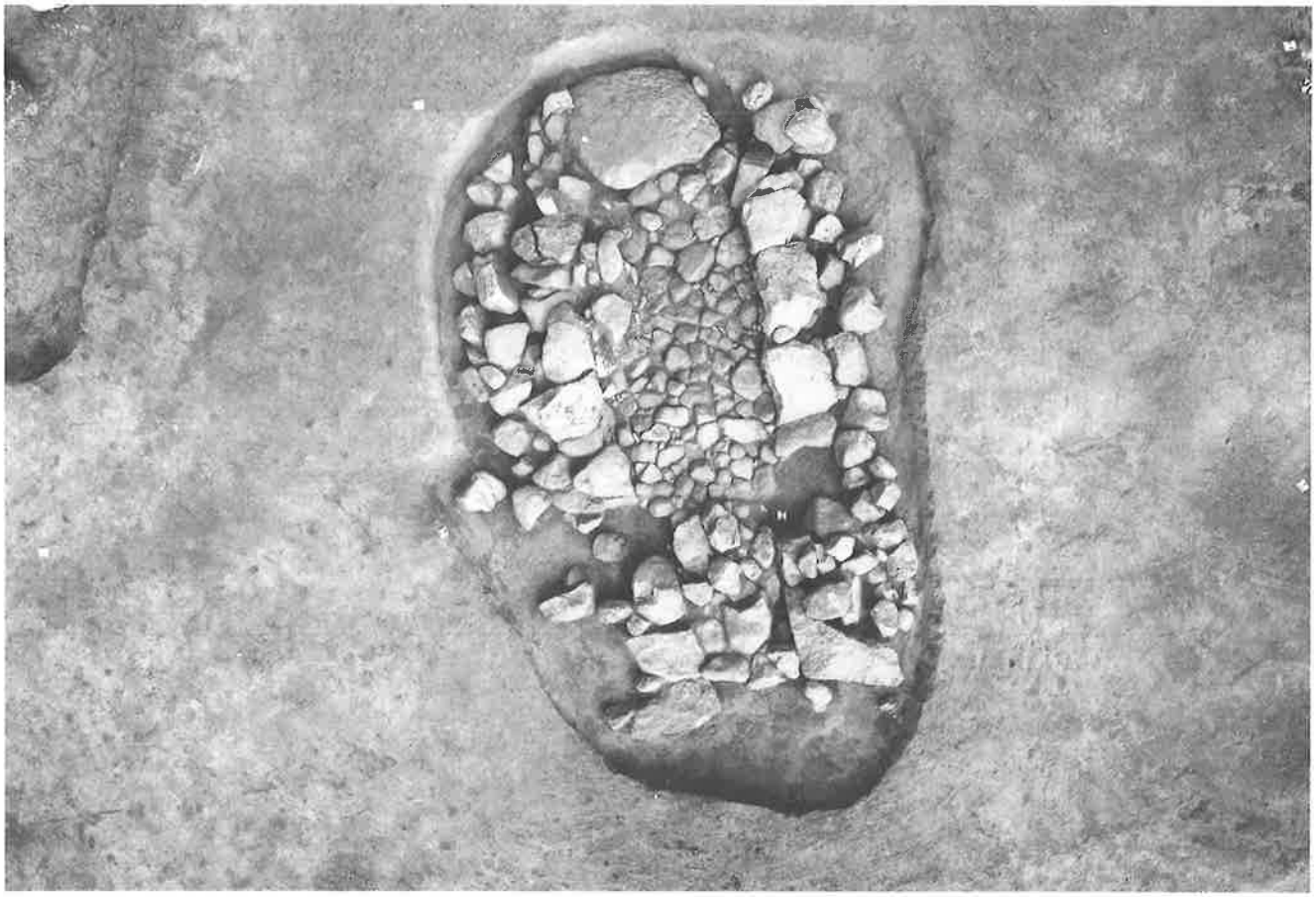
縄文534号土坑

縄文535号土坑

縄文541号土坑

縄文545号土坑

調査区北東部全景



1号古墳石室

1号古墳石室

1号古墳石室

1号古墳石室正面

1号古墳石室掘り方

2号古墳全景

2号古墳

2号古墳

3号古墳全景

3号古墳埋土状況

3号古墳石室

4号古墳

4号古墳

4号古墳

4号古墳

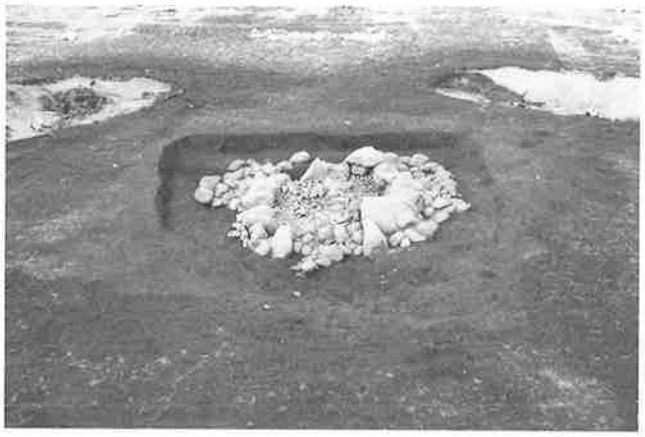
4号古墳

4号古墳

4号古墳

4号古墳

5号古墳石室埋土状況



5号古墳

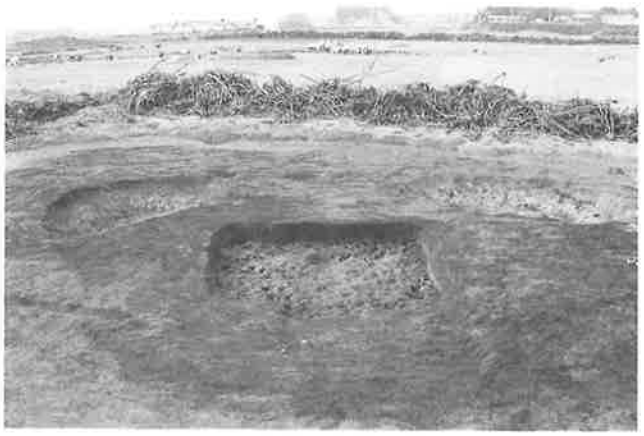
5号古墳

5号古墳石室直刀出土状況

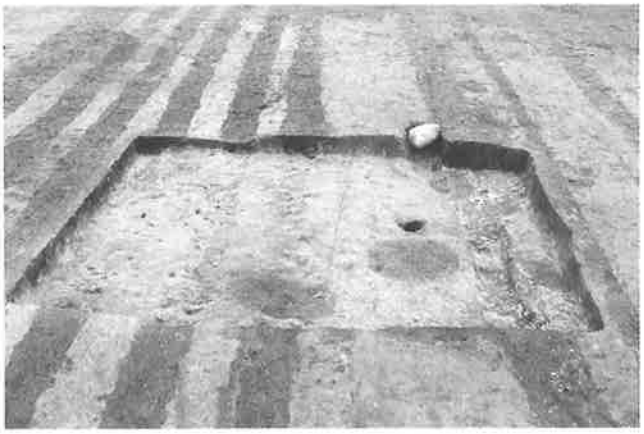
5号古墳

5号古墳

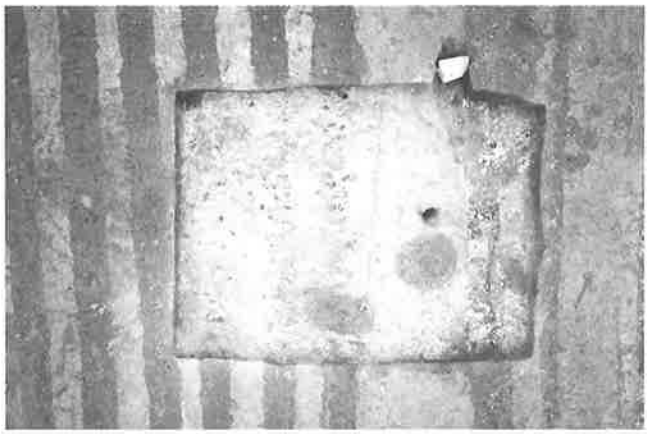
5号古墳



5号古墳石室掘り方



1号住居跡



1号住居跡

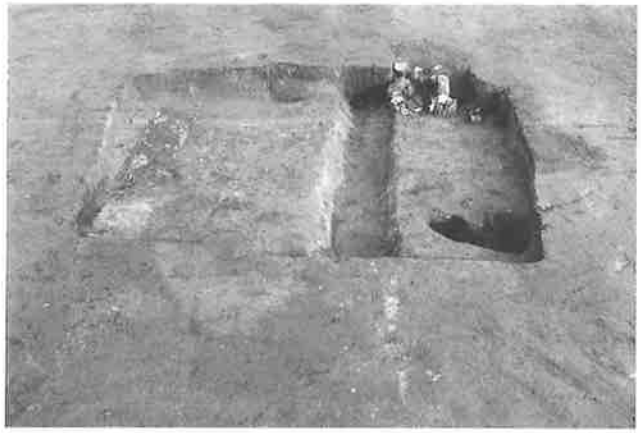
2号住居跡

2号住居跡かまど近景

4号住居跡

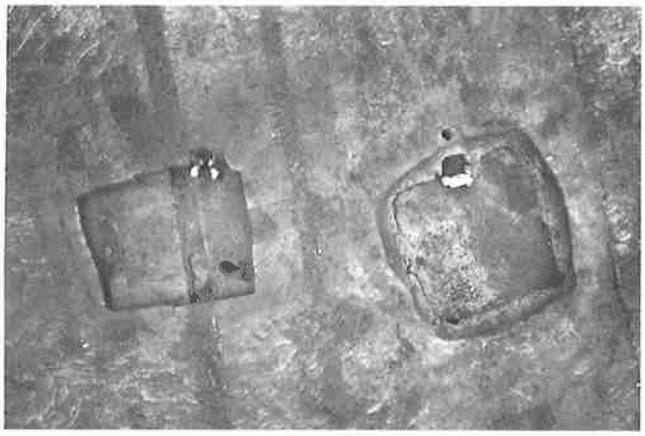
3号住居跡遺物出土状況

4号住居跡貯蔵穴遺物出土状況



5号住居跡

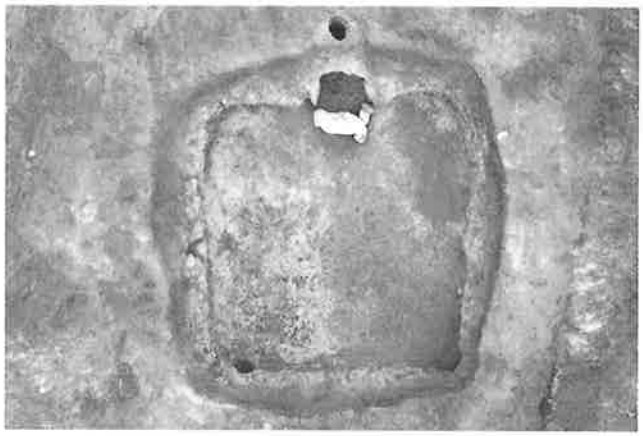
5号住居跡かまど遺物出土状況



5･6号住居跡

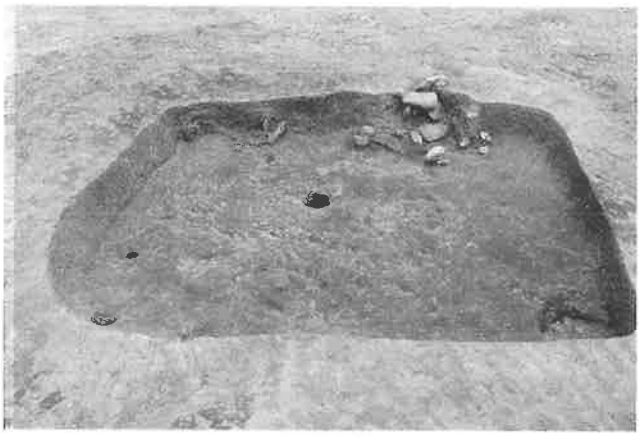
6号住居跡かまど遺物出土状況

6号住居跡



6号住居跡

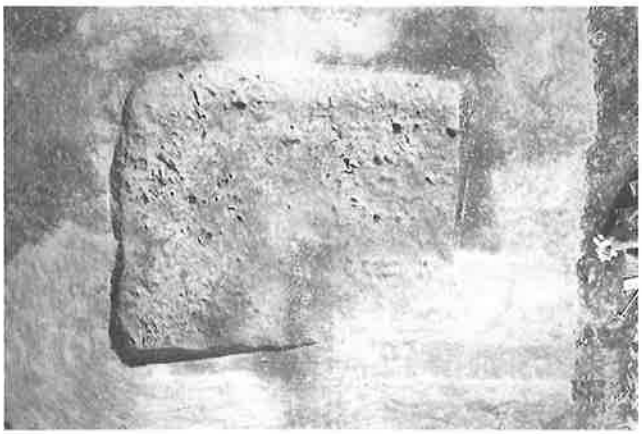
8号住居跡遺物出土状況



8号住居跡

8号住居跡かまど

8号住居跡かまど掘り方



9号住居跡

10号住居跡

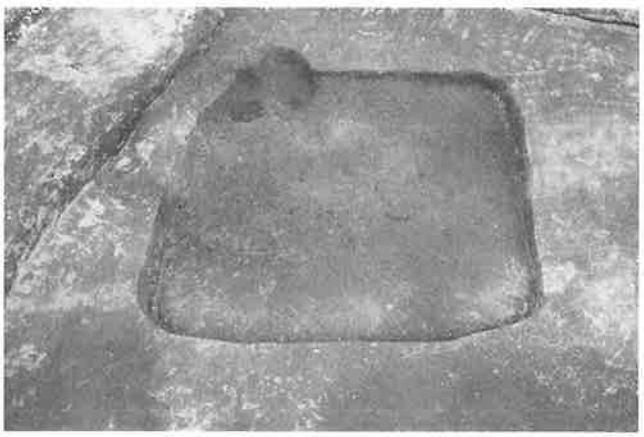
10号住居跡かまど

10号住居跡掘り方

11号住居跡

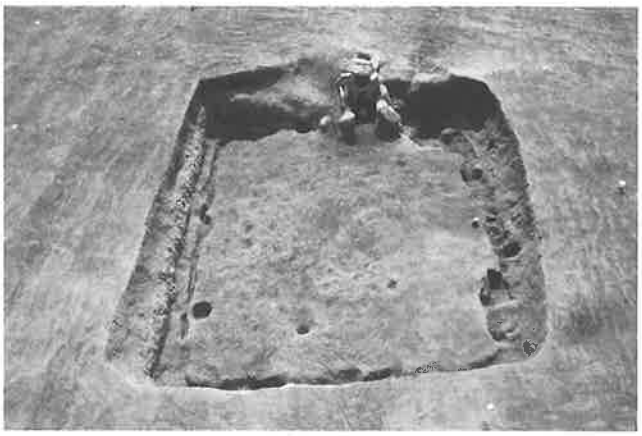
11号住居跡かまど構築状況

12号住居跡



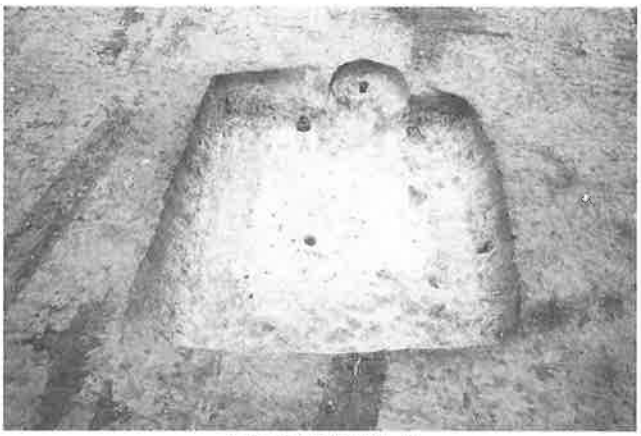
12号住居跡

13号住居跡遺物出土状況



13号住居跡

13号住居跡かまど

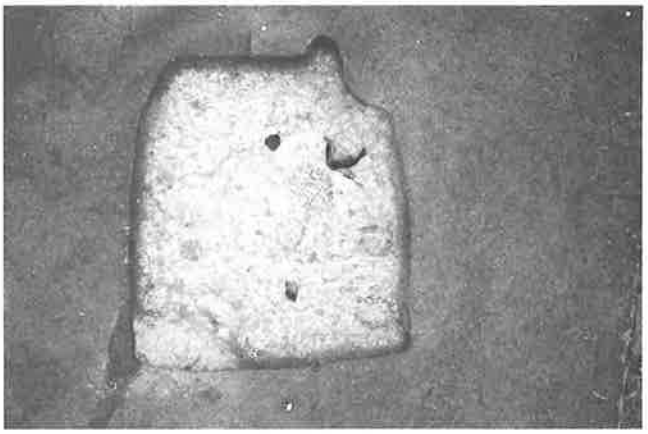


13号住居跡掘り方

14号住居跡遺物出土状況

14号住居跡

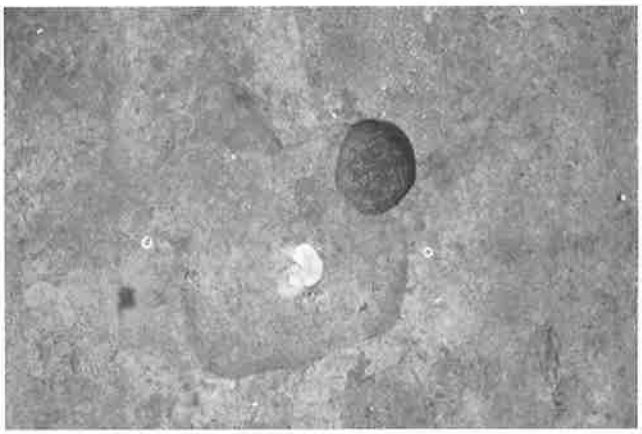
14号住居跡かまど



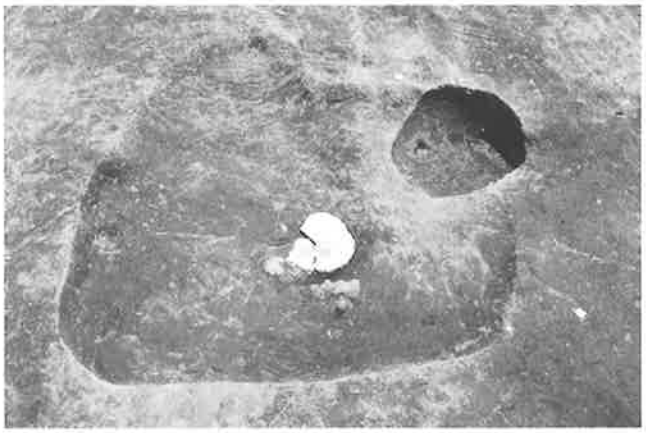
14号住居跡

1号小鍛冶遺物出土状況

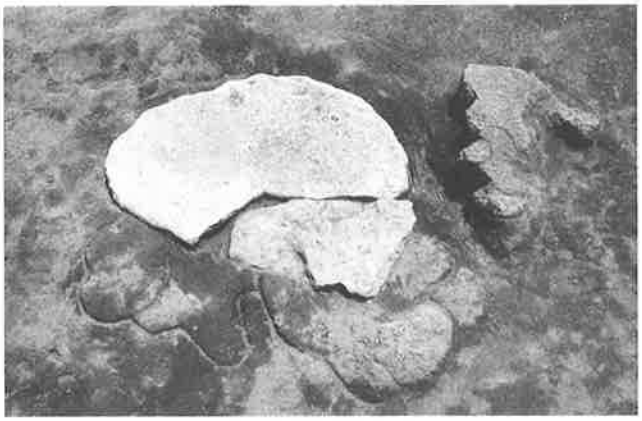
1号小鍛冶



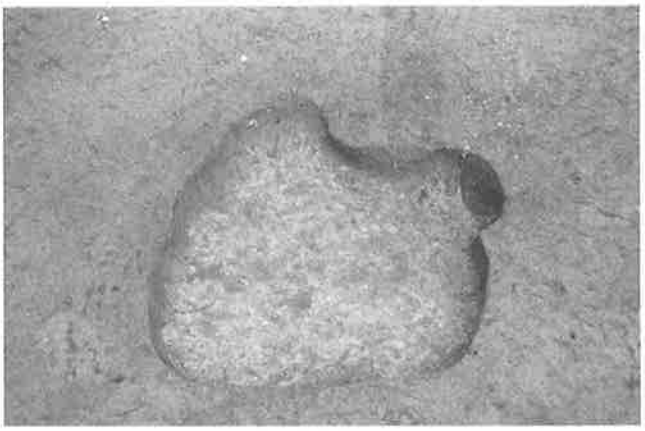
1号小鍛冶



1号小鍛冶



1号小鍛冶金床石



1号小鍛冶掘り方

1号土坑

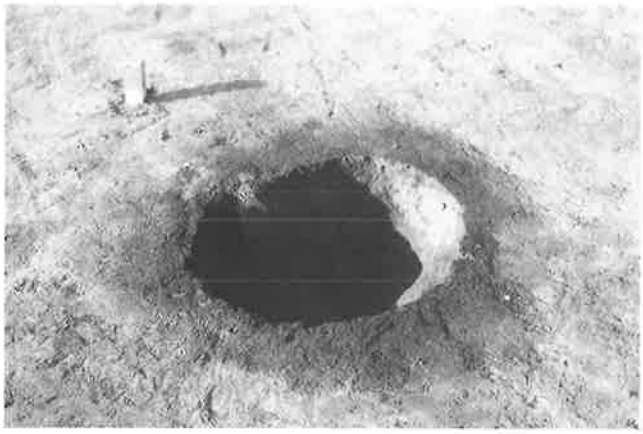
6号土坑

16号土坑

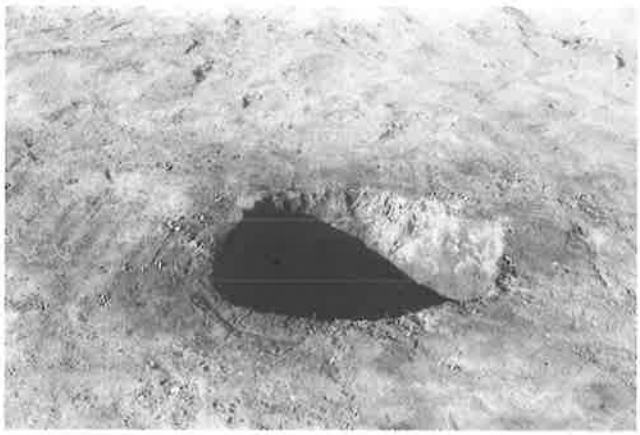
17号土坑

18号土坑

19号土坑



20号土坑



21号土坑

28号土坑

29号土坑

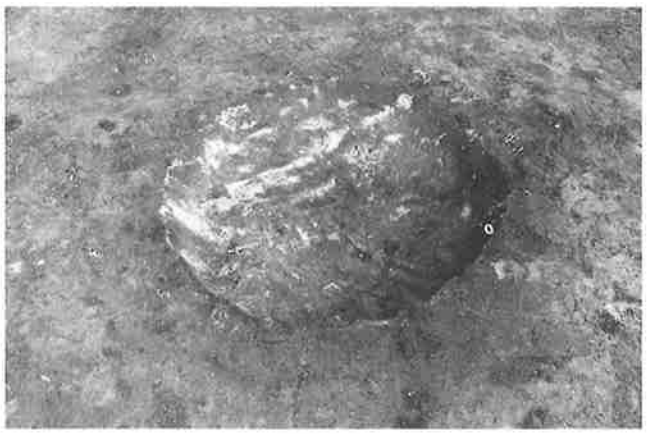
30号土坑

31号土坑

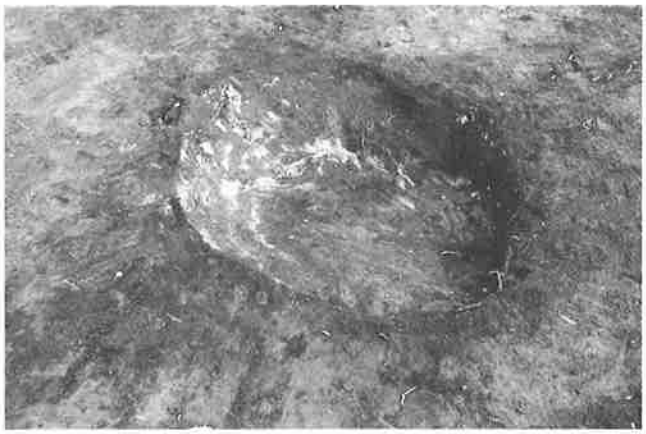
32号土坑

35号土坑

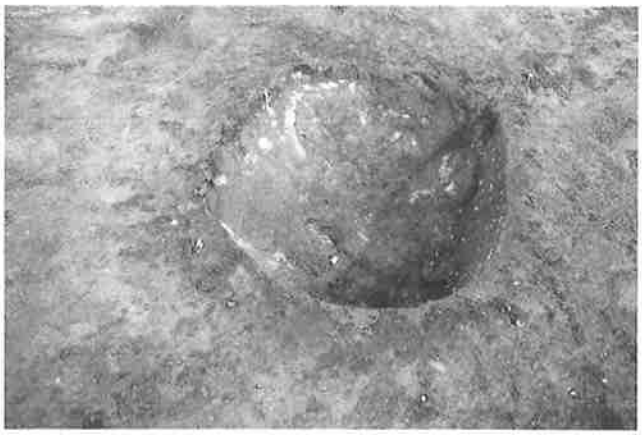
37号土坑



41号土坑



42号土坑



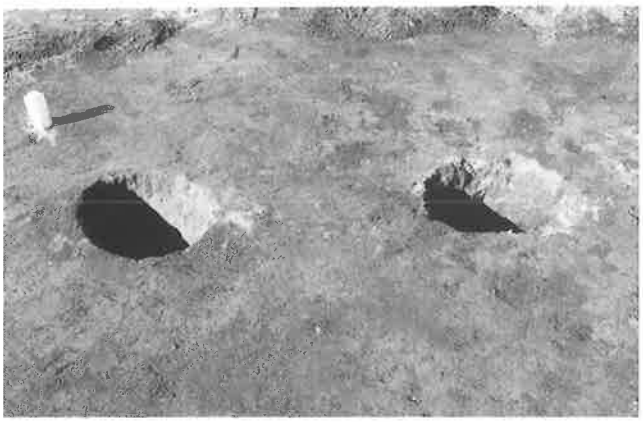
43号土坑

49号土坑

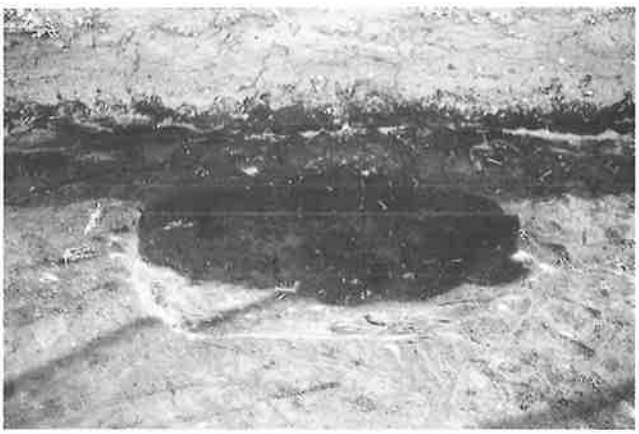
51·52号土坑

54号土坑

56·57号土坑



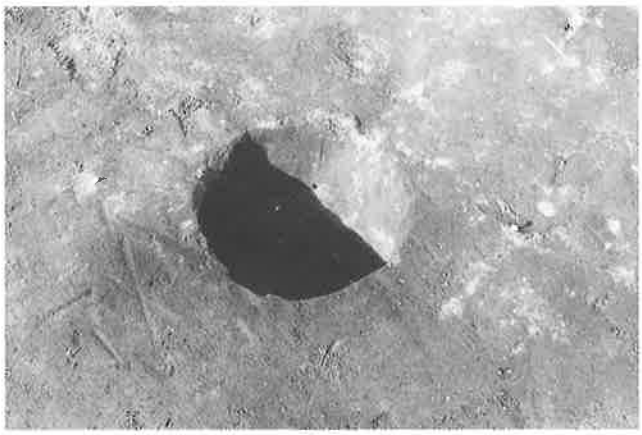
58・59号土坑



62号土坑

64・65号土坑

68号土坑



69号土坑

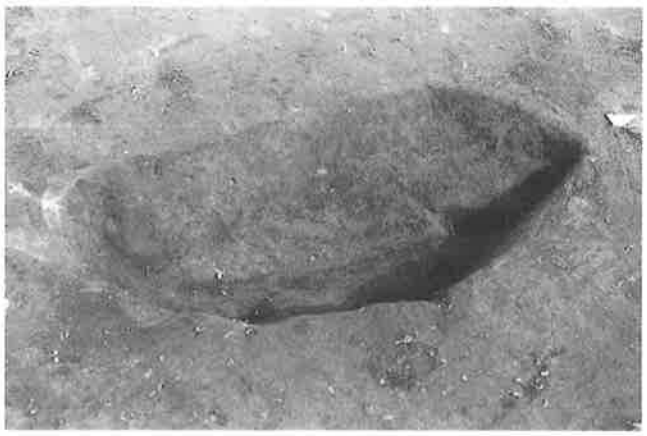
70号土坑

72号土坑

74号土坑

80号土坑

83号土坑



86号土坑

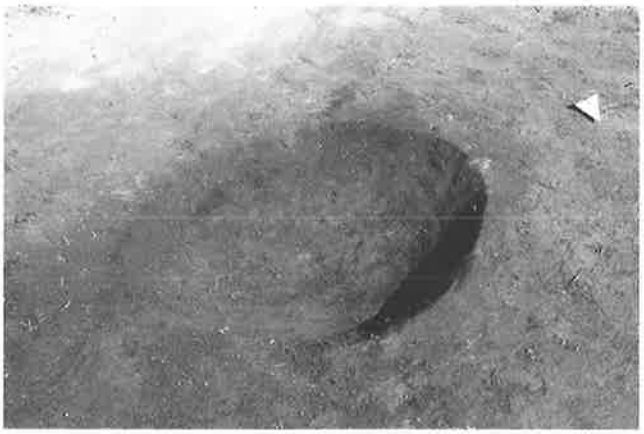
87号土坑

88号土坑

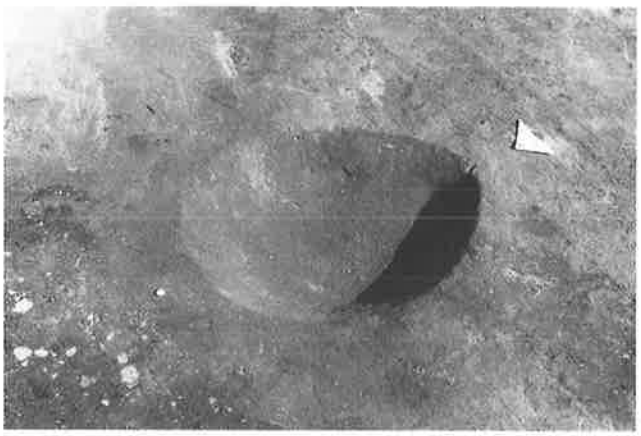
89号土坑

90号土坑

91号土坑



93号土坑



94号土坑

97号土坑

98号土坑

100号土坑

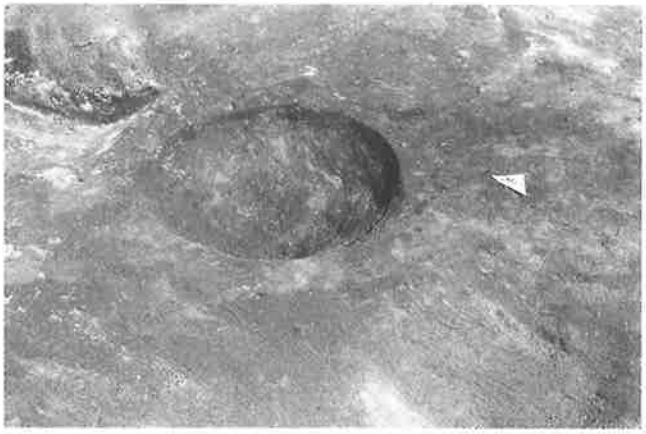
101号土坑

103号土坑

104号土坑

106号土坑

110号土坑



111号土坑

113号土坑

114号土坑

115号土坑

116号土坑

117号土坑

119号土坑

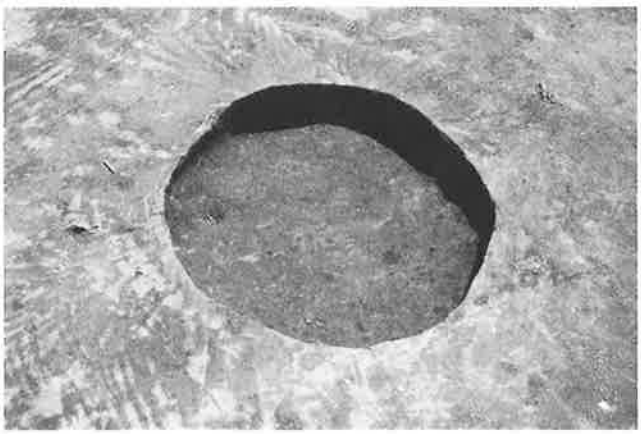
120号土坑

121号土坑

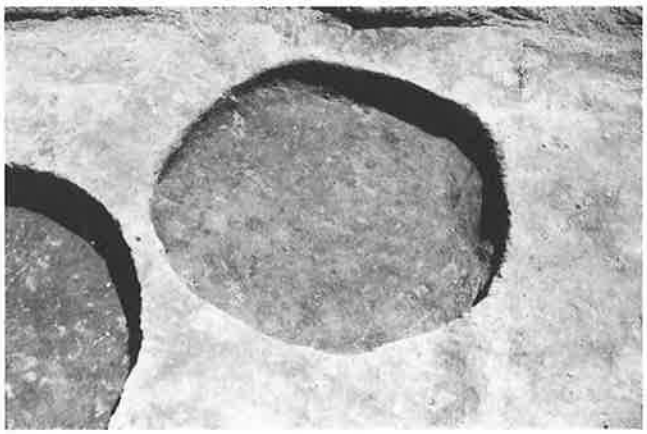
124号土坑

126号土坑

140～143号土坑



140号土坑



142号土坑

143号土坑

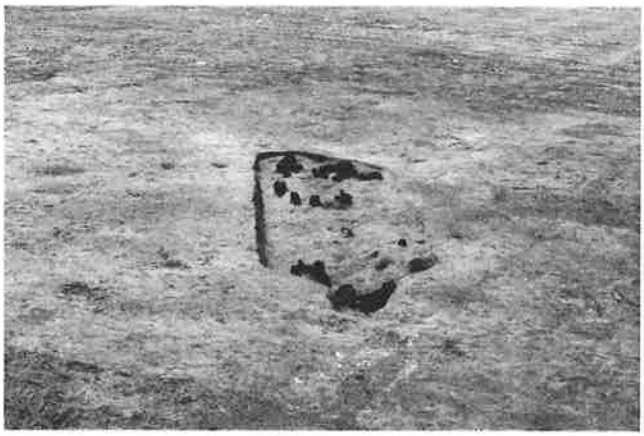
1号井戸跡

1号炭窯

3·4·5号炭窯遺物出土状況

3·4·5号炭窯

3·4·5号炭窯



6号炭窯遺物出土状況

6号炭窯遺物出土状況近景

7号炭窯遺物出土状況

7号炭窯

8号炭窯遺物出土状況

8号炭窯

9号炭窯

9号炭窯

9号炭窯煙道部

9号炭窯間仕切り

10号炭窯

10号炭窯煙道部

1号溝跡

1号溝跡

1号溝跡

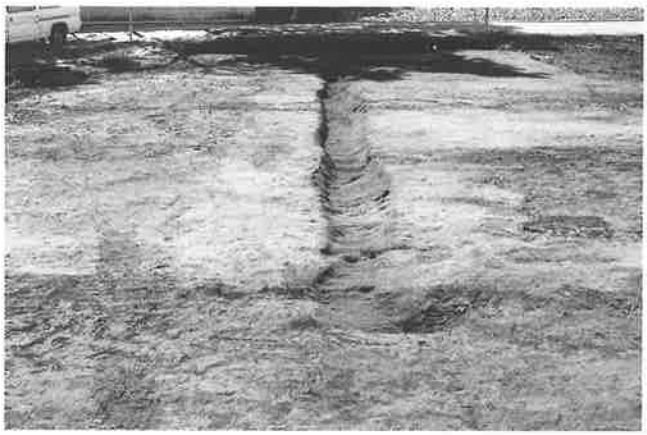
1号溝跡遺物出土状況

3号溝跡

3号溝跡坏出土状況

6号溝跡

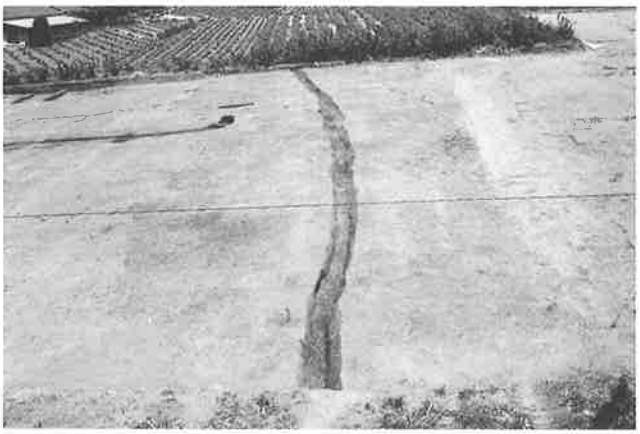
7号溝跡



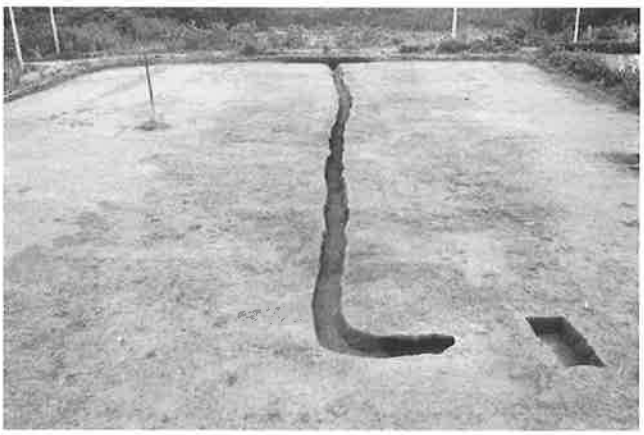
13号溝跡

15号溝跡

17号溝跡



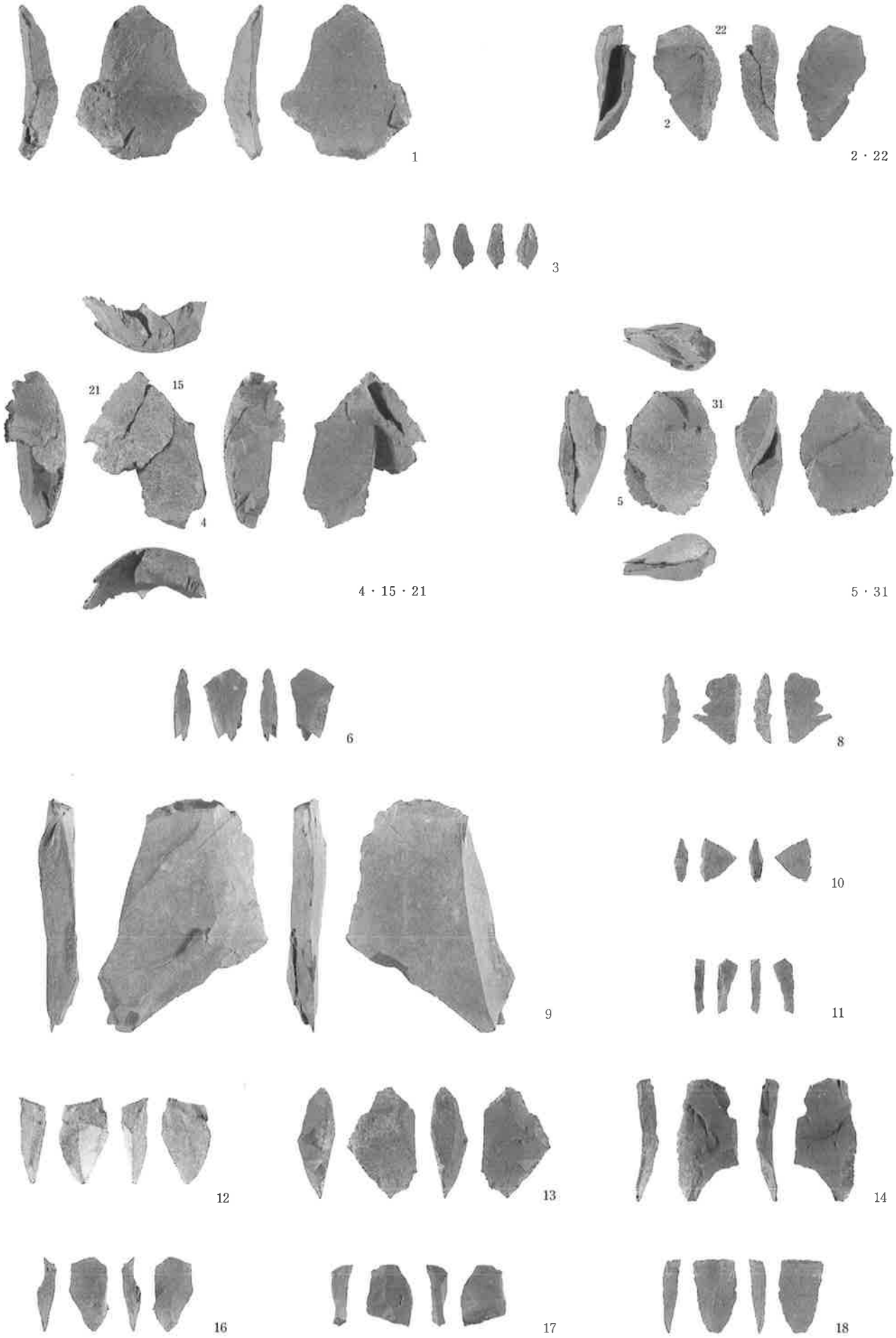
18号溝跡



19号溝跡

冬の赤城山遠景

「からっ風」の中での発掘作業



S=1/3

旧石器(1)

19

20

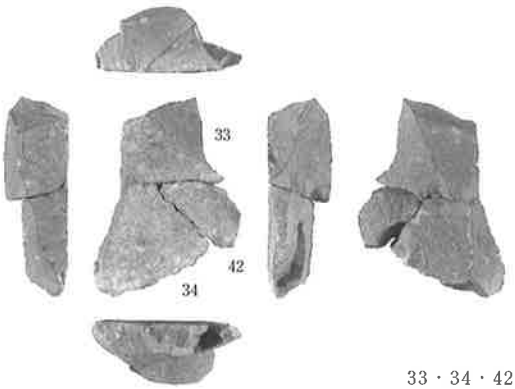
23

24

27

28

30



33・34・42

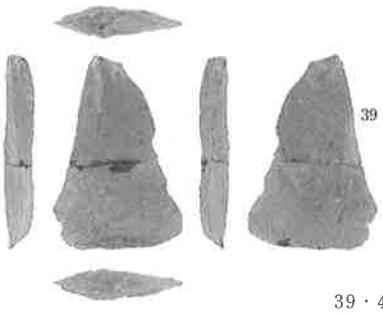
32

35

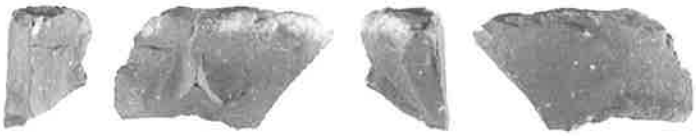
36

37

38



39・40


41

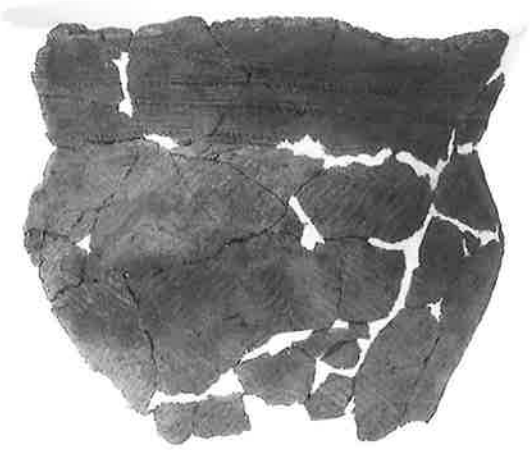
43

44

旧石器(2)

S=1/3

J2住1



J4住2

J5住1

J5住8

J5住2

J5住4

J5住9

J6住4

J6住6

J6住7

J6住5

J6住12

J6住13

S=1/5

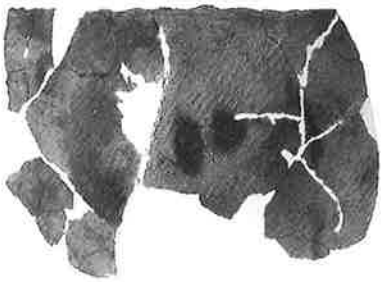
縄文2·4·5·6号住居跡出土土器

J6住14

J6住15

J6住16

J6住17



J6住19

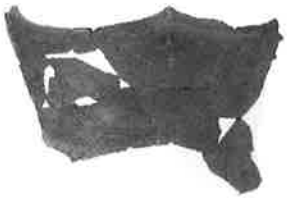
J6住18

J6住20

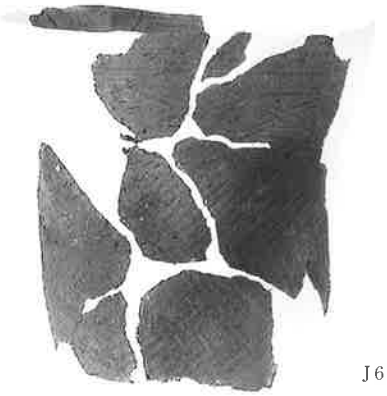
J6住21

J6住24

J6住27



J6住25



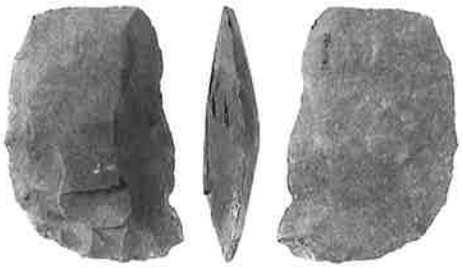
J6住26

J6住31

縄文6号住居跡出土土器

S=1/5

J2住1



J3住2

J3住3

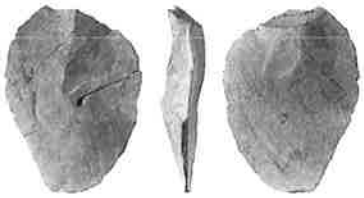
J3住4

J3住5

J4住1

J4住2

J4住3



J4住4

J4住6

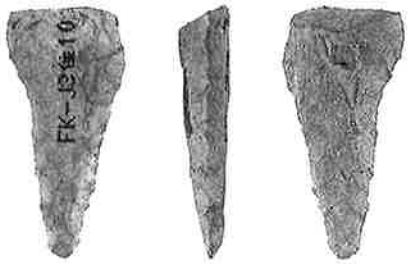
J4住7

J4住8

J4住9

S=1/3

縄文2·3·4号住居跡出土石器



J3住1（1/1）

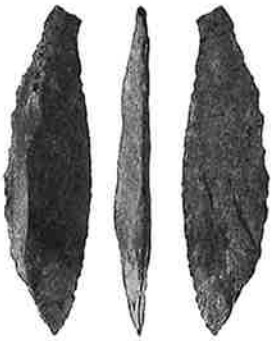
J5住1（1/1）

J5住2

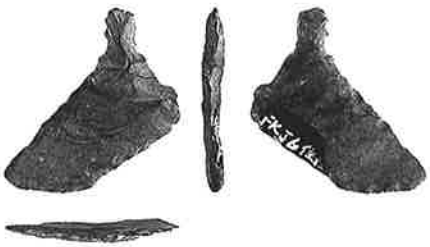
J5住3

J6住1（1/1）

J6住2



J6住3



J6住4

J6住6

J6住7

縄文3·5·6号住居跡出土石器

S=1/2

J5住4

J5住5

J5住7

J5住6

J5住8

J5住10

J5住11

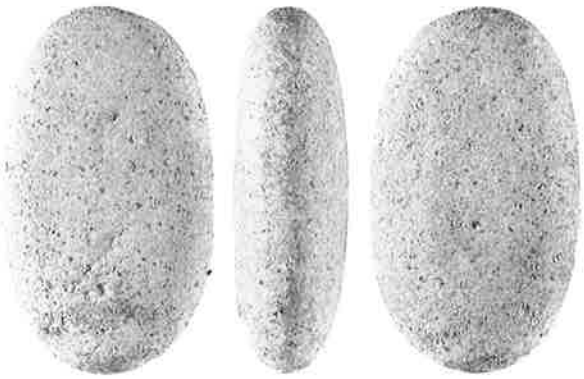
J5住12

J5住13

J5住17

J5住15

J5住16



J5住18

S=1/3

縄文5号住居跡出土石器

J5住20

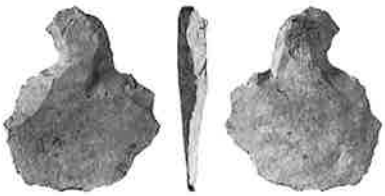
J5住21

J5住22

J5住24

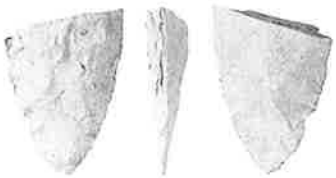
J5住25

J5住27



J6住5

J6住8



J6住9

J6住11

J6住13

J6住15

J6住17

縄文5·6号住居跡出土石器

S=1/3

J1土1

J7土1

J7土2

J7土3

J8土4

J10十1

J8土1

J10土2

J10土3

J10土4

J10土6

J11土1

J11土2

J11土4

J10土5

J11土3

J20土1

J20土2

J20土3

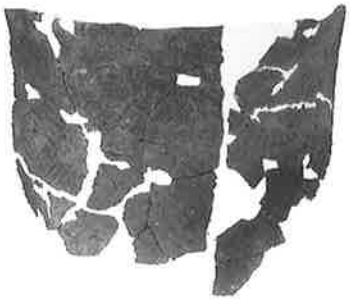
J26土2

J26土1

S=1/3

縄文1·7·8·10·11·20·26号土坑出土土器

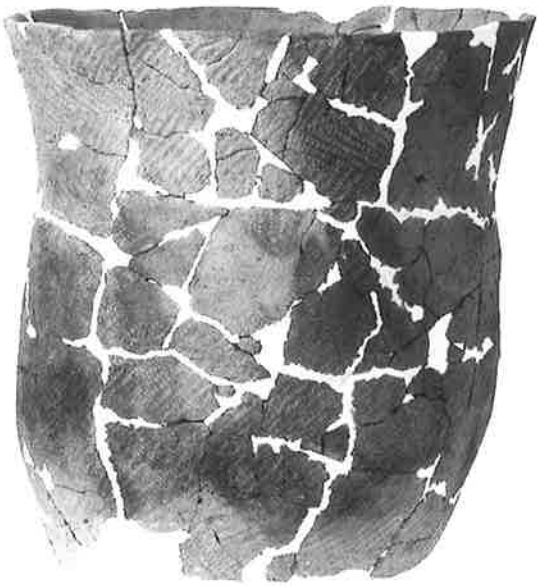
J7土4



J8土2

J8土3

J13土1



J15土1

J15土2

J15土4

J15土3

J20土5

J26土3

J26土4

縄文7·8·13·15·20·26号土坑出土土器

S=1/5

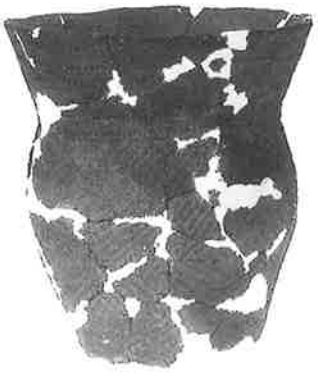
J49土1

J63土1

J100土1

J173土1

J186土1



J203土1

J226土1

J242土1

J258土1

S=1/5

縄文49·63·100·173·186·203·226·242·258号土坑出土土器

J405土1

J437土1

J455土1

J480土1

J483土1

J483土2

J524土2

縄文405·437·455·480·483·524号土坑出土土器

S=1/5

J1土2

J138土1

J138土2

J138土3

J138土4

J195土1

J207土1

J315土1

J437土1

J480土1

J487土1

S=1/3

縄文1·138·195·207·315·437·480·487号土坑出土石器

外1

外2

外4

外6

外7

外8

外9

外10

外12

外13

外14

外15

外17

外22

外23

外25

外31

外33

外35

外36

外39

外40

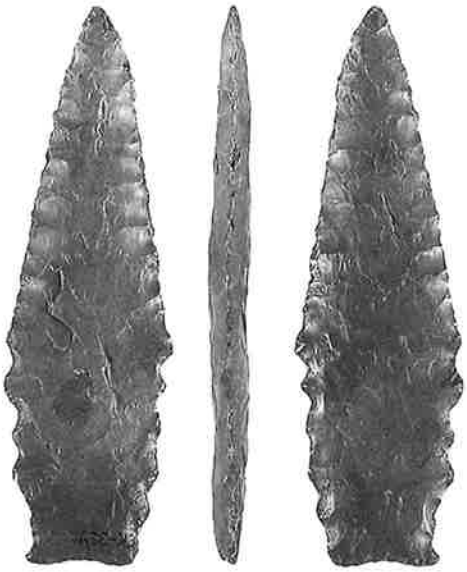
外41

外42

遺構外出土縄文土器

S=1/3

外1


外2（2/3）

外3

外4

外5

外6

外7

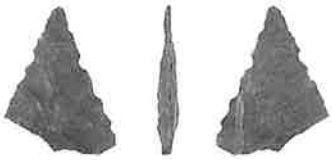
外8

外10

外11

外13

外17


外18

外19

外20

外21

外22

外24

外26

外27

外28

S=1/1

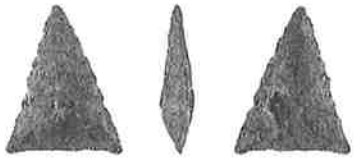
遺構外出土縄文石器(1)

外29

外30

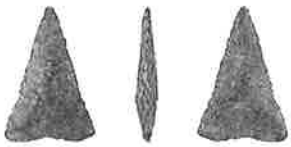
外31

外34


外35

外36

外37

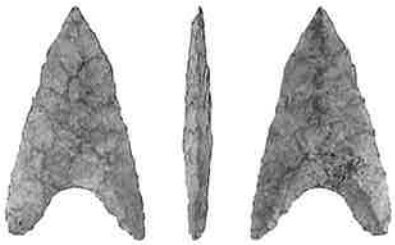

外38

外39

外40

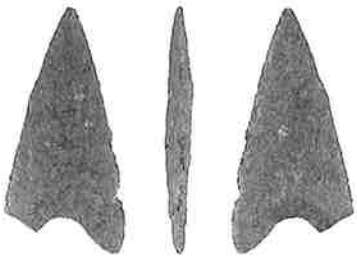
外41

外42

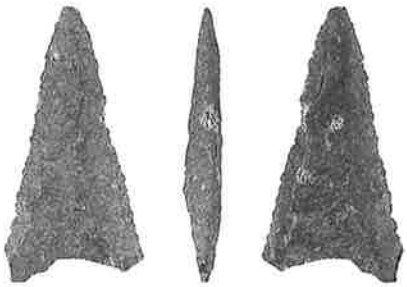

外45

外46

外47


外48

外49


外51

外55

外58

外60

遺構外出土縄文石器(2)

S=1/1

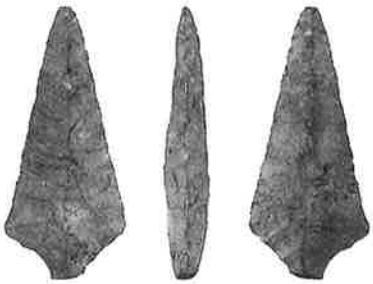
外61

外62

外64

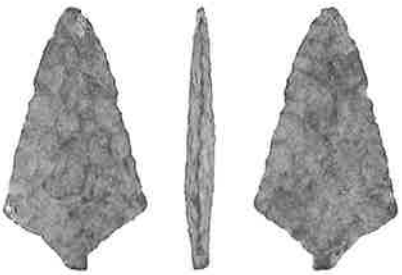
外65

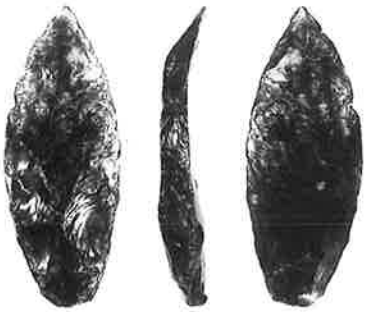
外66


外67

外68

外69


外71


外72

外73

外74

外75（1/3）

外76

外78

外77（1/3）

外81（1/3）

外82（1/3）

S=1/1

遺構外出土縄文石器(3)

外124

外125

外126

外129

外127

外128

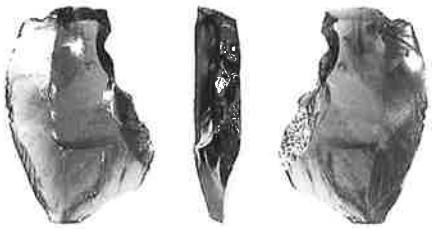
外130

外148

外147

外150

外151


外152

外153

外154

外155

外156

外157

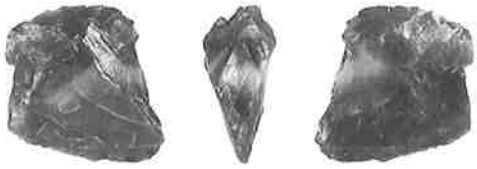
外158

外160

遺構外出土縄文石器(4)

S=1/1

外 161



外 162

外 163

外 164

外 165

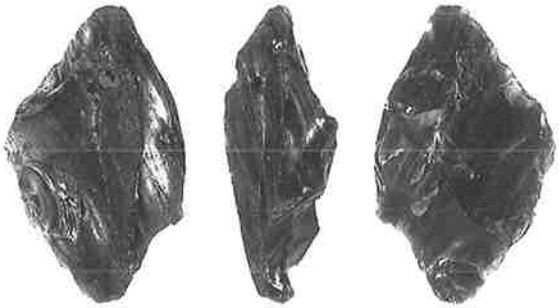
外 166

外 167

外 170

外 171

外 172



外 174

外 185

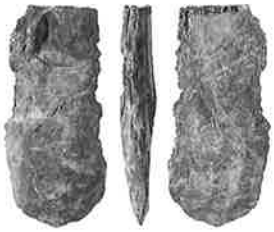
外 199

S=1/1

遺構外出土縄文石器(5)

外86

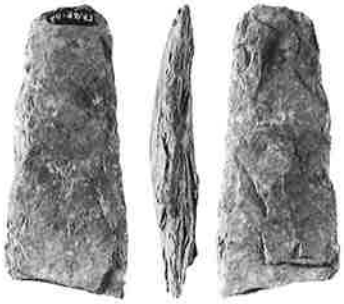
外89

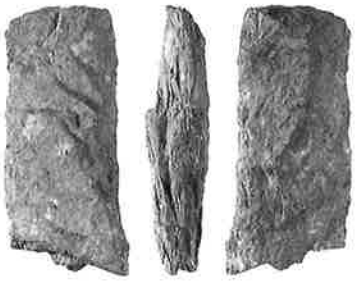

外91

外92

外93

外94


外95

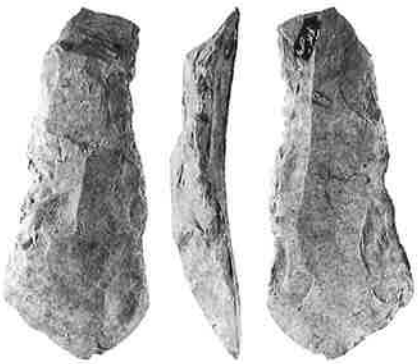

外96

外97

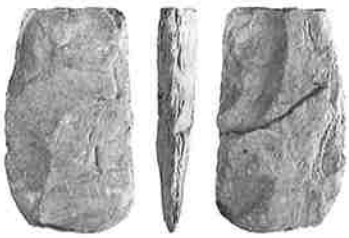
外100

外101

外104


外102

外105


外109

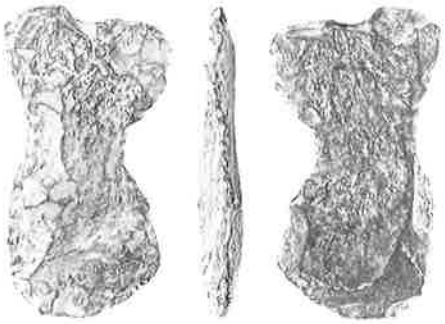
外112

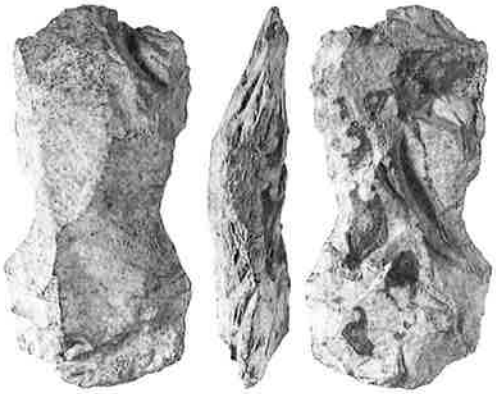
遺構外出土縄文石器(6)

S=1/3

外113

外114


外115


外116

外118

外120

外121

外122

外123

外133

外134

外135

外137

外142

外143

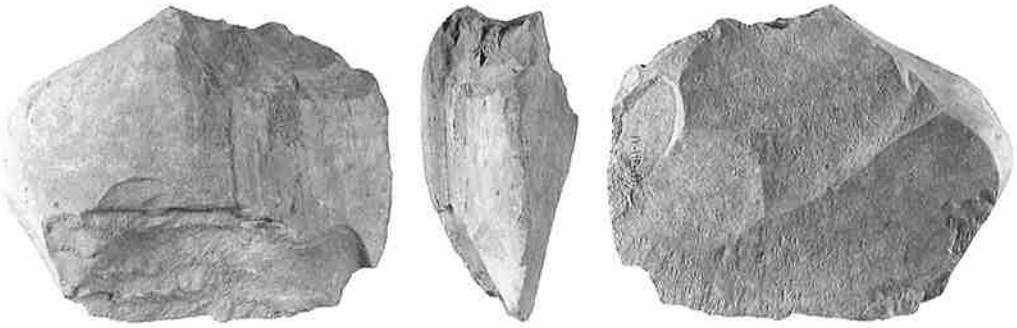
外145

S=1/3

遺構外出土縄文石器(7)

外180

外181



外184

外186

外189

外190

外191

外193

外194

外197（1/6）

外198（1/6）

遺構外出土縄文石器(8)

S=1/3

2墳1（1/4）

5墳2

5墳3

5墳4

5墳5

5墳6

5墳15

5墳1（縮尺任意）

S=1/2

2号古墳出土土器、5号古墳出土鉄製品

1住1

1住2

1住5

3住1

3住3

4住1

4住2

4住4

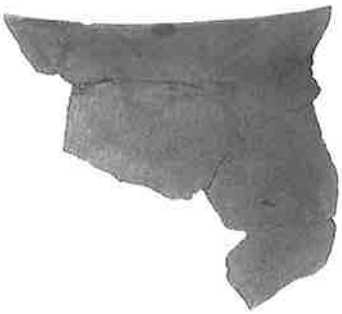
4住5

4住6

5住1

5住2

5住3


5住4

5住8

6住3

6住1

8住1

8住2

8住3

1·3～6·8号住居跡出土土器

S=1/4

8住4

10住1

10住11

10住13

10住15

10住16

10住17

10住18

10住24

11住1

11住3

11住10

11住4

S=1/4

8·10·11号住居跡出土土器

12住1

13住1

13住2

13住3

13住4

13住5

13住6

13住7

13住8

13住9

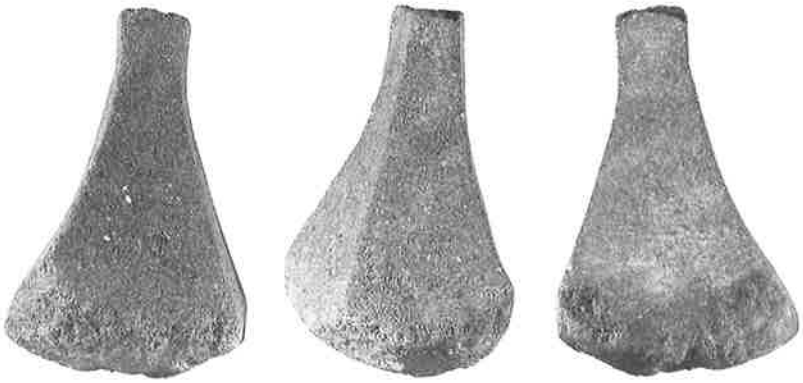
8住6（1/3）

13住16（1/2）

13住19（1/2）

13住20（1/3）

13住11（1/3）


13住22（1/3）

12·13号住居跡出土土器、8·13号住居跡出土鉄製品、13号住居跡出土石製品　S=1/4

1鍛1

1鍛2

1鍛3

S=1/4

1鍛7

1鍛8

1鍛9

1鍛10

S=1/7

1鍛12

1鍛13

1鍛15

1鍛18

S=1/3

1鍛24

S=1/6

1号小鍛冶出土遺物

7炭1

7炭2

7炭3

7炭4

10炭1

10炭2

10炭3

10炭4（1/2）

S=1/4

1溝1

1溝2

1溝5

1溝6

1溝3

1溝7

1溝10

S=1/9

7号炭窯出土土器、10号炭窯出土遺物、1号溝跡出土石製品

3溝1

3溝2

3溝3

3溝4

3溝6

3溝7

3溝8

3溝9

3溝12

3溝13

3溝14

3溝15

3溝16

3溝17

3溝18

12溝1

外4

外5

外17（1/2）

外18（1/2）

外19（1/2）

外20（1/2）

外21（1/2）

外22（1/2）

外23（1/2）

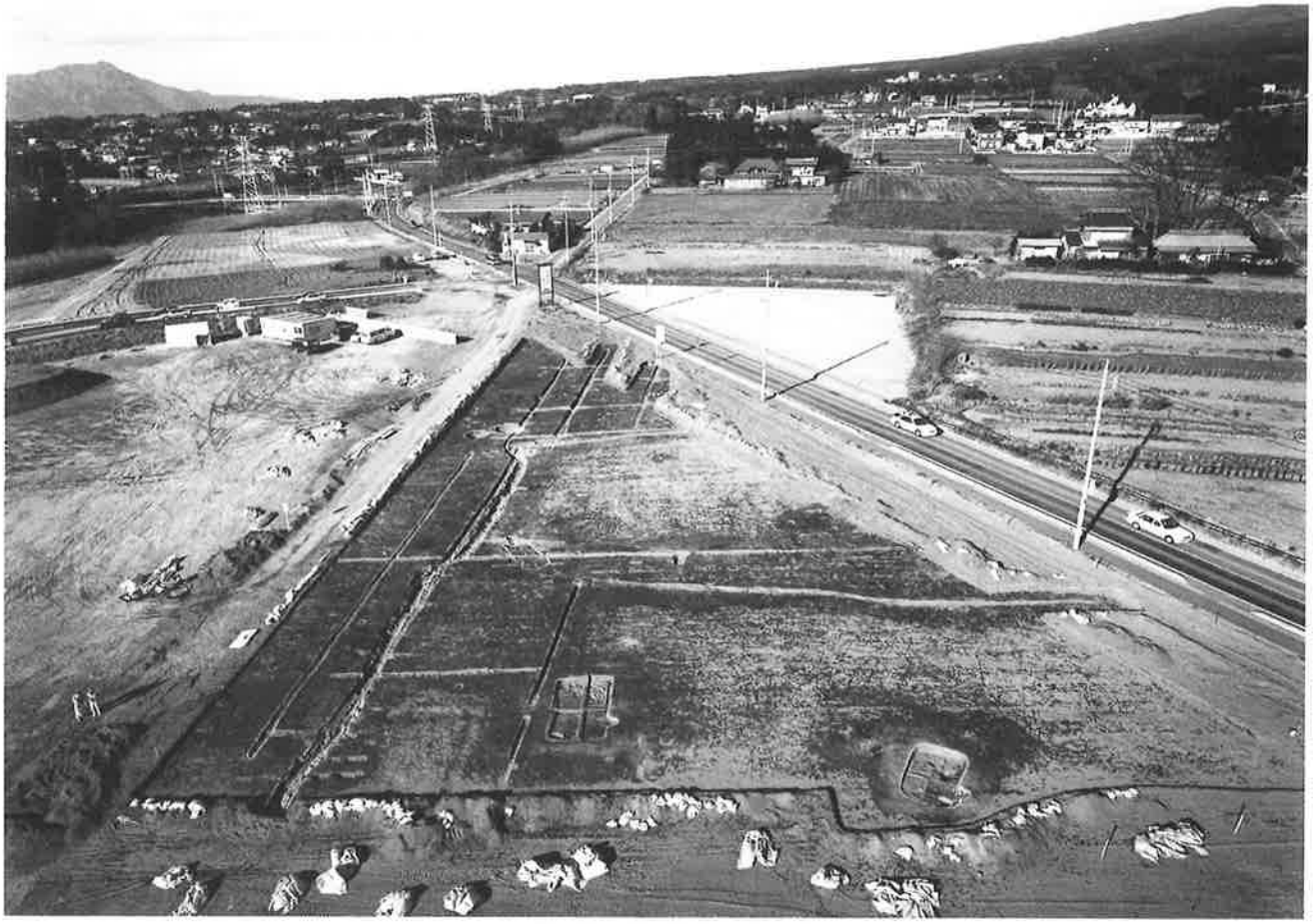
外24（1/2）

外25（1/2）

S=1/4

3·12号遺跡出土土器、遺構外の出土遺物

二次調査
写真図版



1. 第二次調査区全景(南から)

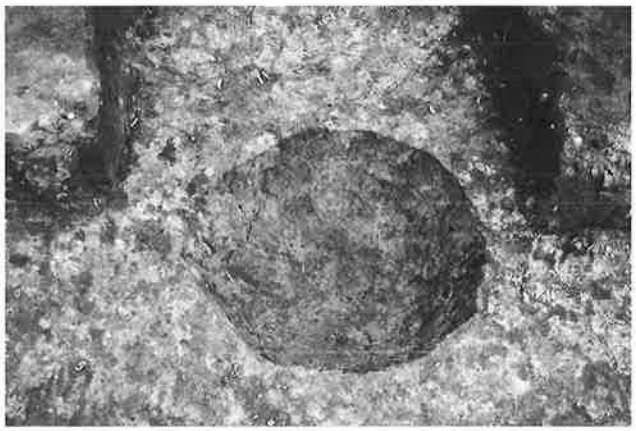
2. 第二次調査区全景(北から)

1. 2号トレンチ遺構検出状況(南から)

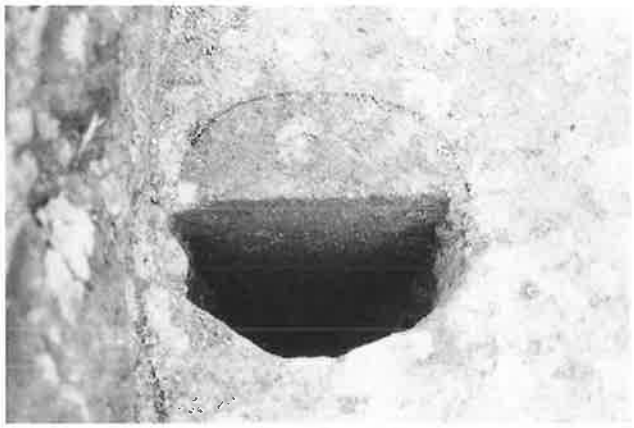
2. 5号トレンチAセクション

3. 1号土坑(西から)

4. 3号土坑セクション(西から)

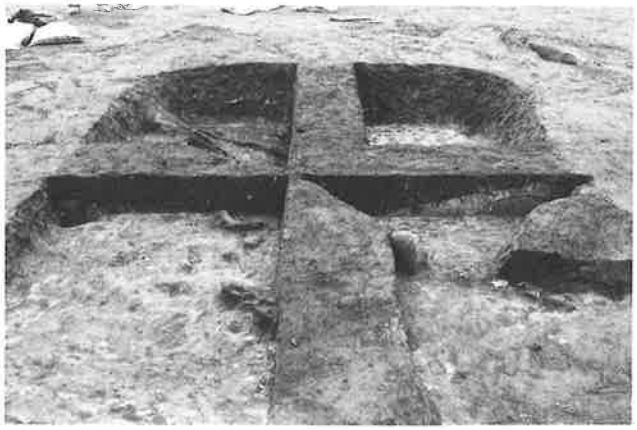


5. 3号土坑(西から)

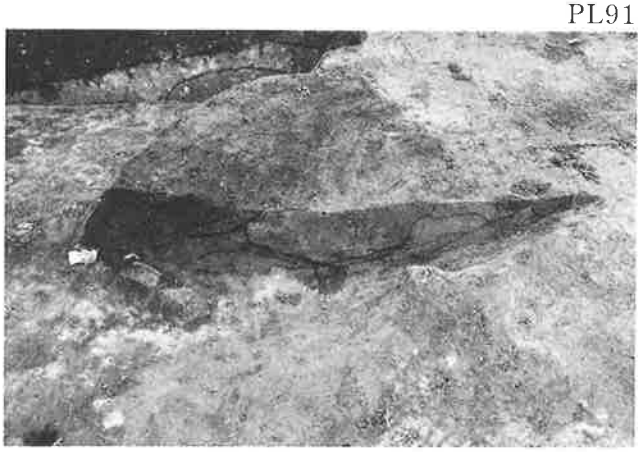


6. 32号ピットセクション

7. 32号ピット(南から)



1．1号住居跡セクション(南から)



2．1号住居跡カマドセクション

3．1号住居跡遺物出土状況(西から)

4．1号住居跡(西から)

5．1号住居跡カマド(南から)

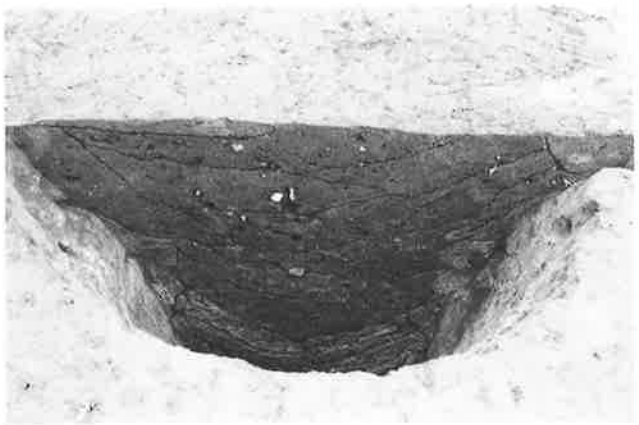
6．1号住居跡貯蔵穴(西から)

7．1号住居跡鍛冶施設(西から)

8．1号住居跡鍛冶施設(西から)

1．2号住居跡カマド遺物出土状況(西から)

2．2号住居跡(西から)



3．1号井戸跡セクション(西から)

4．1号井戸跡セクション(西から)

5．1号井戸跡(西から)

6．2号井戸跡セクション(南から)

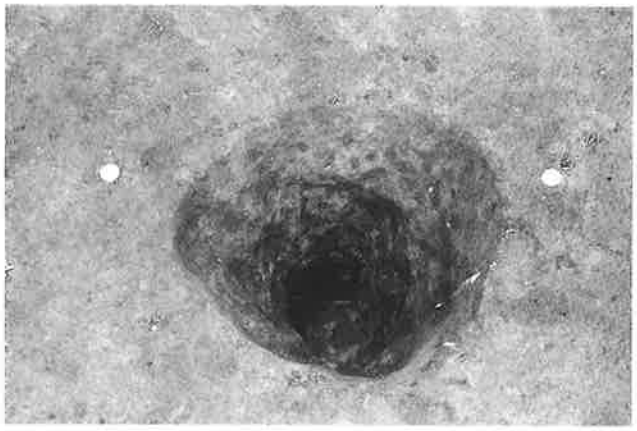
7．2号井戸跡(南から)

1. 1号炭窯(南から)

2. 2·4·8·9·11号溝跡(南から)

3. 1·2·3号溝跡(北から)

4. 6号ピットセクション(南から)



5. 6号ピット(南から)

6. 15号ピット(南から)

7. 25号ピット(南から)

1. 作業風景(トレンチ精査)

2. 作業風景(雪かき)

3. 作業風景(1号住居)

4. 作業風景(1·2号井戸)

5. 作業風景(セクション計測)

6. 作業風景(遺構計測)

1住1

1住2

1住3

1住4

1住5

1住6

1住7

1住8

1住9

1住10

1住11

1住12

1住13

1住16

1住14

1住15

1住17

1号住居跡出土土器

S=1/3

2住1

2住2

2住3

2住4

2住5

2住6

2住7

2住8

2住9

2住10

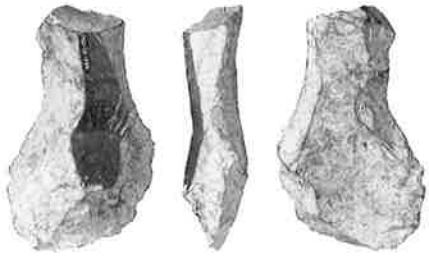
2住11

2住12（1/1）

2住13（1/1）

S=1/3

2号住居跡出土遺物



1井

2井2

2井3

2井4

2井5

2井6

2井7

2井8

2井9

2井10

2井11

2井12

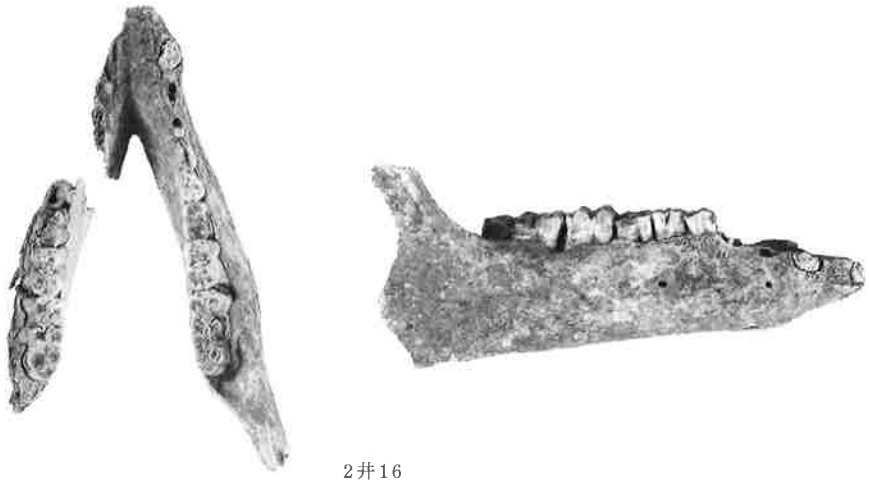
2井13

1号井戸跡出土石器、2号井戸跡出土土器

S=1/3

2井14

2井15



2井16

9溝

13溝

外1

外3

外4

外2

外5

外6

外7

外8

外9

S=1/3

2号井戸跡出土遺物、9・13号溝跡出土土器、遺構外の出土遺物

小原目遺跡正誤表

頁　行	訂正箇所及び内容	正
P15.11行目	縄文時代以前を①調査区～⑤調査区	縄文時代以前を縄文①調査区～⑤調査区
P41.12行目	縄文5号住居跡2号床下土坑	土層説明3をトル
P41.21行目	縄文6号住居跡1号床下土坑	土層説明4をトル
P145	第74図 炉跡土層断面a～a'	1.橙褐色土 焼土粒を疎に、ロームブロックを含む。 2.淡褐色土 焼土粒・焼土ブロックを含む。
P220	7号溝跡土層説明	2.暗褐色土 ローム粒を含む。 3.暗褐色土 ローム粒・ロームブロックをやや密、FAを含む。
P231.左上	LH=308.700	LH=306.700
〃	本文8行目 As-FA	Hr-FA
P236	1住A・Bｾｸｼｮﾝ第4層中 FA粒	Hr-FA
P238.16の網掛け部分は被熱を表す。		
P243.最下行	不明（中近世？）。	不明（平安末～中世？）。

報告書抄録

フリガナ	オバラメイセキ
書名	小原目遺跡(一次·二次調査)
副書名	富士見研修団地造成工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書
編・著者名	平田貴正·笠原仁史
編集機関	㈱シン技術コンサル
所在地	群馬県佐波郡玉村町大字板井311-1
発行年月日	1998年9月30日

フリガナ 所収遺跡名	フリガナ 所在地	市町村 コード	位置 北緯	位置 東経	調査 期間	調査 面積	調査 原因
オバラメイセキ 小原目遺跡 イチジチョウサ 一次調査	フジミムラオオアザウルクボアザ 富士見村大字漆窪字 キタオバラメ　オオアザイシイ 北小原目、大字石井	10303	36°27′59″	139°04′48″	1993.09.16 ～1994.11.07	97,883 ㎡	研修団地造成
オバラメイセキ 小原目遺跡 ニジチョウサ 二次調査	アザナカオバラメ　オオアザイチ 字中小原目、大字市 ノキバアザシモオバラメ 之木場字下小原目	10303	36°28′04″	139°05′20″	1997.11.10 ～1997.12.26	2,517 ㎡	

所収遺跡名	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
小原目遺跡 一次調査	旧石器時代	旧石器40点	剥片	
	縄文時代	竪穴住居跡7軒、土坑556基、ピット多数	縄文土器、石器	
	古墳時代	竪穴住居跡1軒、古墳5基	土師器、須恵器、鉄製品	
	歴史時代	竪穴住居跡13軒、小鍛冶2基、土坑140基、井戸跡3基、炭窯13基、溝跡33条、ピット多数	土師器、須恵器、灰釉陶器、鉄製品、石製品	炭窯・溝跡一部帰属時期不明（近世？）
	近世	石垣1	陶磁器、古銭	
小原目遺跡 二次調査	縄文時代	土坑3基、ピット6基	縄文土器	
	歴史時代	竪穴住居跡2軒	土師器、須恵器、灰釉陶器、羽口	1号住居跡に小鍛冶併設
	中・近世	炭窯1基、井戸跡2基、溝跡14条、ピット27基	陶磁器	

小原目遺跡

富士見研修団地造成工事に伴う
埋蔵文化財調査報告書

1998年9月30日発行

編　集　㈱シン技術コンサル

発　行　群馬県勢多郡富士見村教育委員会
〒371-0014　群馬県勢多郡富士見村大字田島866-1
電話　027-288-6111

印刷製本　細谷印刷有限会社
〒372-0031　群馬県伊勢崎市今泉町二丁目939-5